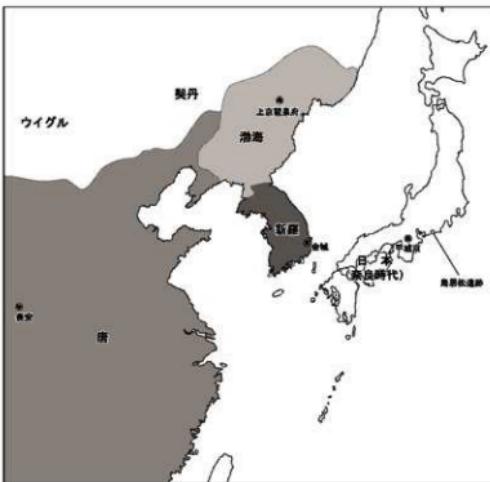


鳥居松遺跡5次

伊場大溝編

2009年12月

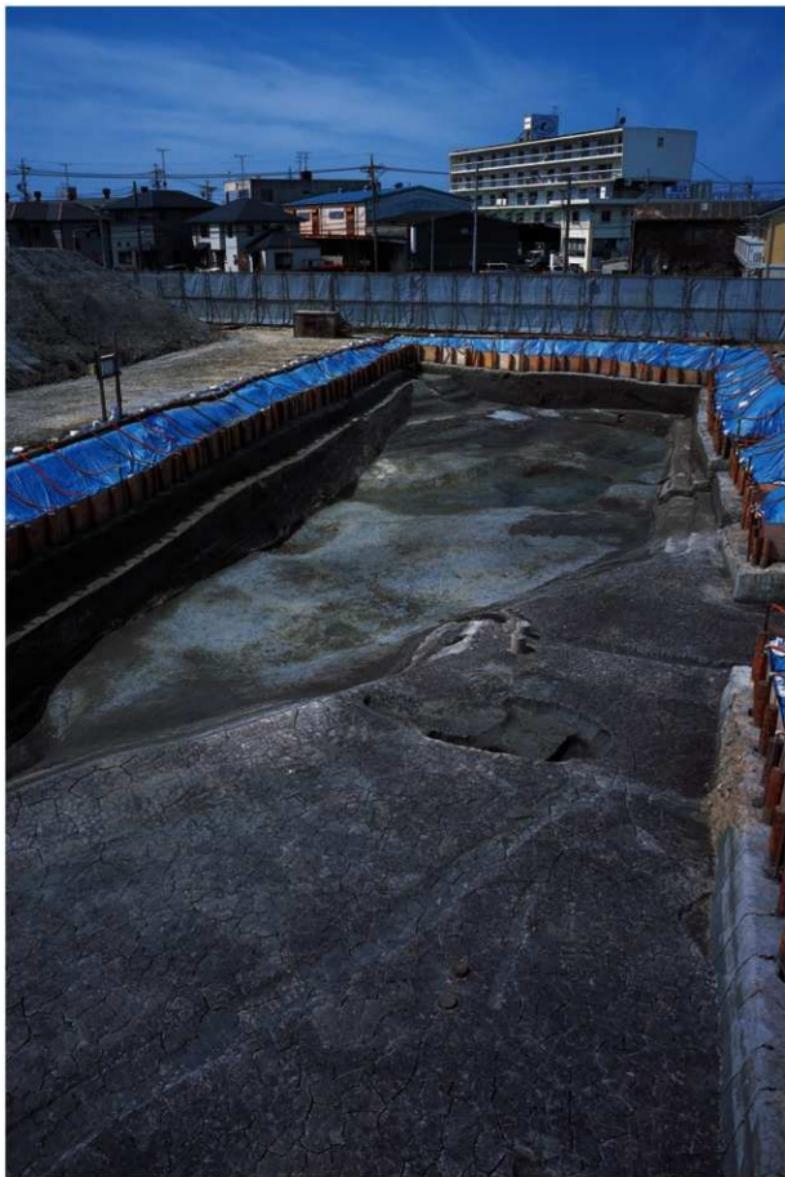
(財)浜松市文化振興財団



8世紀の東アジア



伊場大溝出土祭祀遺物



伊場大溝完掘状況（東から）



1 IVb層 SX01 遺物出土状態（北東から）



2 IVb層 SX03 遺物出土状態（北西から）



例　　言

- 1 本書は浜松市中区森田町133他において実施した鳥居松遺跡（5次調査）の発掘調査にかかる報告である。当発掘調査の報告書は、弥生時代編（第1分冊）、伊場大溝編（第2分冊）、円頭大刀編（第3分冊）の3部で構成される。本書は第2分冊に相当する伊場大溝編であり、古墳時代から平安時代の自然河川である伊場大溝と、南側に広がる古墳時代以降の集落の調査成果を扱う。なお、調査にいたる経緯および調査経過については、第1分冊である弥生時代編に一括して掲載している。
- 2 当発掘調査は集合住宅建設および宅地造成に先立つ事前調査として実施した。調査は、株式会社マルハンおよびセキスイハイム東海株式会社の委託により、浜松市教育委員会の指導（浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当が補助執行）のもと、財団法人浜松市文化振興財團が行った。
なお、当初、集合住宅の建設が計画されていた対象地北側については、発掘調査終了後に開発計画が変更されたため、別途に発掘調査を実施した部分がある（財団法人浜松市文化振興財團2009『鳥居松遺跡・6次』）。
- 3 当発掘調査にかかる契約期間は平成19年11月9日から平成21年12月25日までである。このうち現地発掘調査は、平成20年1月4日から6月16日の間に実施した。調査面積は1200m²である。
- 4 発掘調査は、安藤　憲、小粥良和、鈴木一有（浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当）が担当し、原田和子、鈴井けい子、藤森紀子（浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当非常勤職員）が補助した。
- 5 本書の編集、事実記載などの執筆は鈴木一有が行った。第3章1～5にかかる執筆者は以下の通りである。第3章1：パリノサーヴェイ株式会社、第3章2：松原彰子（慶應義塾大学）、第3章3：金原正明（奈良教育大学）、古環境研究所、菊地大樹（京都大学）、古山真波（奈良教育大学）、第3章4：渡辺晃宏（奈良文化財研究所）、第3章5：山本　崇（奈良文化財研究所）。
- 6 本書に掲載した写真は調査担当者が撮影したが、巻頭図版4、図版44～46については奈良文化財研究所が撮影した。
- 7 調査の記録、出土遺物は浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当が保管している。

凡　　例

1 本書で用いる座標値は、世界測地系に基づく。方位（北）は座標北、標高は海拔高である。

2 遺構の略記号は以下の通りである。

SD：溝 SP：小穴 SK：土坑 SE：井戸 SB：竪穴建物 SX：遺物集積

3 遺物番号は、遺物の種別にかかわりなく、調査層位ごとに連番を付した。

4 本書で報告する土器の断面と種別の関係は以下の通りとする。

弥生土器・土師器

須恵器

灰釉陶器・山茶碗

5 本文中の引用文献等の表記については、以下のように略す。

浜松市博物館→浜市博

（財）浜松市文化協会→浜文協

（財）浜松市文化振興財団→浜文振

（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所→静文研

教育委員会→教委

6 本書で扱う須恵器を中心とした出土土器の編年的位置づけについては、主に遠江編年を用いるが、部分的に陶邑編年および飛鳥編年を併用している箇所がある。これらの編年については、以下の文献を参考にした。

遠江編年

山村宏・向坂鋼二・平野和男 1966 「出土須恵器の編年」『大沢・川尻古窯調査報告書』湖西文化研究会

川江秀孝 1979 「静岡県下の須恵器について」『須恵器—古代陶質土器—の編年』静岡県考古学会

鈴木敏則 2004 「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会

鈴木敏則 2005 「出土須恵器について」『東若林遺跡』（財）浜松市文化振興財団

陶邑編年

田辺昭三 1966 「陶邑古窯址群Ⅰ」平安学園考古クラブ

田辺昭三 1981 「須恵器大成」角川書店

飛鳥編年

西 弘海 1978 「土器の時期区分と型式変化」『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』奈良国立文化財研究所

西 弘海 1982 「土器様式の成立とその背景」『考古学論考』

古代の土器研究会 1997 「古代の土器 5-1」7世紀の土器

鳥居松遺跡 5 次 伊場大溝編

目 次

卷頭図版

例言・凡例

第1章 序 論 1

- 1 伊場大溝の概要 1
- 2 伊場大溝の層位と調査の方法 3

第2章 調査成果 9

- 1 VII層の調査 9
- 2 VII b 層の調査 11
- 3 VII a 層の調査 51
- 4 V 層の調査 79
- 5 IV b 層の調査 97
- 6 IV a 層・III層の調査 117
- 7 B 区の調査 123
- 8 D 区の調査 130

第3章 後 論 131

- 1 鳥居松遺跡における堆積層の年代 131
- 2 鳥居松遺跡の立地環境 136
- 3 鳥居松遺跡における環境考古学的検討 141
- 4 鳥居松遺跡出土木簡の概要 165
- 5 鳥居松遺跡出土墨書土器の概要 169
- 6 鳥居松遺跡における伊場大溝調査の意義 173

第4章 総 括 193

出土遺物観察表 197

図 版

図 版 目 次

卷頭図版

- 1 伊場大溝出土祭祀遺物
- 2 伊場大溝完掘状況（東から）
- 3 1 IV b 層 SX01 遺物出土状態（北東から）
2 IV b 層 SX03 遺物出土状態（北西から）
- 4 木 簡

図 版

- 1 VII層 完掘状況（西から）
- 2 VII b 層 SX05 遺物出土状態（北東から）
- 3 VII b 層 SX05 遺物出土状態（北西から）
- 4 1 VII b 層 SX05 遺物出土状態（東から）
2 VII b 層 遺物出土状態（C2 区、南西から）
- 5 1 VII b 層 円頭大刀出土状態（南東から）
2 VII b 層 円頭大刀出土状態（東から）
- 6 VII a 層 完掘状況（東から）
- 7 V層 貝塚 SS01・02（北東から）
- 8 1 V層 馬頭骨（B11）出土状態（南西から）
2 V層 馬骨（B8・B9）出土状態（北から）
3 V層 3号木簡出土状態（北東から）
- 9 1 V層 貝塚 SS04（南から）
2 V層 貝塚 SS02（東から）
3 V層 貝塚 SS02 断面（西から）
- 10 IV b 層 SX01 遺物出土状態（南東から）
- 11 1 IV b 層 SE 01（南から）
2 IV b 層 B区 SE102（西から）
- 12 1 IV b 層 SX03 遺物出土状態（北西から）
2 IV b 層 SX03 遺物出土状態（南東から）
3 IV b 層 SX03 遺物出土状態（南東から）
4 IV b 層 章串（201）出土状態（南西から）
- 13 III層 完掘状況（西から）
- 14 B区最上層遺構（東から）
- 15 VII b 層出土主要遺物
- 16 VII b 層 SX05 出土遺物

- 17 VII b 層 出土遺物（1）
18 VII b 層 出土遺物（2）
19 VII b 層 出土遺物（3）
20 VII b 層 出土遺物（4）
21 VII b 層 出土遺物（5）
22 VII b 層 出土遺物（6）
23 VII b 層 出土遺物（7）
24 VII a 層 出土主要遺物
25 VII a 層 出土遺物（1）
26 VII a 層 出土遺物（2）
27 VII a 層 出土遺物（3）
28 VII a 層 出土遺物（4）
29 VII a 層 出土遺物（5）
30 V 層 出土主要遺物
31 1 V 層 SS02 出土製塙土器
2 V 層 出土祭祀遺物
32 V 層 出土遺物（1）
33 V 層 出土遺物（2）
34 V 層 出土遺物（3）
35 IV b 層 出土主要遺物
36 1 IV b 層 SX01 出土遺物
2 IV b 層 SX02 出土遺物
37 IV b 層 出土「稻萬呂」墨書土器
38 IV b 層 SX03 出土遺物
39 1 IV b 層 SX04 出土遺物
2 IV b 層 出土軸用硯
40 IV b 層 出土遺物（1）
41 IV b 層 出土遺物（2）
42 IV b 層 出土遺物（3）
43 IV a 層・III 層 出土遺物
44 木 簡（赤外線照射写真、斜光写真）
45 墨書土器（1）（赤外線照射写真）
46 墨書土器（2）（赤外線照射写真）

挿 図 目 次

Fig.1	鳥居松遺跡の位置	1
Fig.2	伊場大溝の流路	2
Fig.3	伊場大溝土層断面図	5
Fig.4	伊場大溝の埋没過程	6
Fig.5	伊場大溝断面土層の調査	7
Fig.6	土器集積の調査	7
Fig.7	グリッド配置図	8
Fig.8	伊場大溝Ⅶ層	9
Fig.9	Ⅷ層出土遺物	10
Fig.10	伊場大溝Ⅶb層	11
Fig.11	Ⅶb層における遺物出土位置	12
Fig.12	銅鏡	14
Fig.13	伊場大溝形成以前の遺物（1）	15
Fig.14	伊場大溝形成以前の遺物（2）	16
Fig.15	SX05の位置	17
Fig.16	SX05遺物出土状態	18
Fig.17	SX05出土遺物対照図	19
Fig.18	円頭大刀実測図	20
Fig.19	SX05出土遺物（1）	21
Fig.20	SX05出土遺物（2）	22
Fig.21	SX05出土遺物（3）	23
Fig.22	SX05出土遺物（4）	24
Fig.23	Ⅷb層出土遺物（1）	29
Fig.24	Ⅷb層出土遺物（2）	30
Fig.25	Ⅷb層出土遺物（3）	31
Fig.26	Ⅷb層出土遺物（4）	32
Fig.27	Ⅷb層出土遺物（5）	33
Fig.28	Ⅷb層出土遺物（6）	34
Fig.29	Ⅷb層出土遺物（7）	35
Fig.30	Ⅷb層出土遺物（8）	36
Fig.31	Ⅷb層出土遺物（9）	37
Fig.32	Ⅷb層出土遺物（10）	38
Fig.33	Ⅷb層出土遺物（11）	39
Fig.34	Ⅷb層出土遺物（12）	40
Fig.35	Ⅷb層出土遺物（13）	41
Fig.36	Ⅷb層出土遺物（14）	42
Fig.37	Ⅷb層出土遺物（15）	43
Fig.38	Ⅷb層出土遺物（16）	44
Fig.39	Ⅷb層出土遺物（17）	45
Fig.40	Ⅷb層出土遺物（18）	46
Fig.41	Ⅷb層出土遺物（19）	47
Fig.42	Ⅷb層出土遺物（20）	48
Fig.43	Ⅷb層出土遺物（21）	49
Fig.44	Ⅷb層出土遺物（22）	50
Fig.45	伊場大溝Ⅷa層	51
Fig.46	Ⅷa層における遺物出土位置	52
Fig.47	Ⅷa層出土遺物（1）	56
Fig.48	Ⅷa層出土遺物（2）	57
Fig.49	Ⅷa層出土遺物（3）	58
Fig.50	Ⅷa層出土遺物（4）	59
Fig.51	Ⅷa層出土遺物（5）	60
Fig.52	Ⅷa層出土遺物（6）	61
Fig.53	Ⅷa層出土遺物（7）	62
Fig.54	Ⅷa層出土遺物（8）	63
Fig.55	Ⅷa層出土遺物（9）	64
Fig.56	Ⅷa層出土遺物（10）	65
Fig.57	Ⅷa層出土遺物（11）	66
Fig.58	Ⅷa層出土遺物（12）	67
Fig.59	Ⅷa層出土遺物（13）	68
Fig.60	Ⅷa層出土遺物（14）	69
Fig.61	Ⅷa層出土遺物（15）	70
Fig.62	Ⅷa層出土遺物（16）	71
Fig.63	Ⅷa層出土遺物（17）	72
Fig.64	Ⅷa層出土遺物（18）	73
Fig.65	Ⅷa層出土遺物（19）	74
Fig.66	Ⅷa層出土遺物（20）	75
Fig.67	Ⅷa層出土遺物（21）	76
Fig.68	Ⅷa層出土遺物（22）	77

Fig.69	VII a 層出土遺物 (23)	78
Fig.70	伊場大溝V層	79
Fig.71	V層における遺物出土位置	80
Fig.72	馬骨・馬歯出土状況	81
Fig.73	SS01・02 実測図	82
Fig.74	SS01・02 出土遺物	83
Fig.75	SS04 出土遺物 (1)	84
Fig.76	SS04 出土遺物 (2)	85
Fig.77	V層出土遺物 (1)	89
Fig.78	V層出土遺物 (2)	90
Fig.79	V層出土遺物 (3)	91
Fig.80	V層出土遺物 (4)	92
Fig.81	V層出土遺物 (5)	93
Fig.82	V層出土遺物 (6)	94
Fig.83	V層出土遺物 (7)	95
Fig.84	V層出土遺物 (8)	96
Fig.85	伊場大溝IV b層	97
Fig.86	IV b層における遺物出土位置	98
Fig.87	SE01 実測図	99
Fig.88	SE01 出土遺物	100
Fig.89	SX01・02 遺物出土状態	103
Fig.90	SX01・02 出土遺物	104
Fig.91	SX03 遺物出土状態	105
Fig.92	SX03 出土遺物 (1)	106
Fig.93	SX03 出土遺物 (2)	107
Fig.94	SX03 出土遺物 (3)	108
Fig.95	SX04 出土遺物 (1)	109
Fig.96	SX04 出土遺物 (2)	110
Fig.97	IV b層出土遺物 (1)	112
Fig.98	IV b層出土遺物 (2)	113
Fig.99	IV b層出土遺物 (3)	114
Fig.100	IV b層出土遺物 (4)	115
Fig.101	IV b層出土遺物 (5)	116
Fig.102	伊場大溝III層	117
Fig.103	IV a 層における遺物出土位置	118
Fig.104	IV a 層出土遺物	121
Fig.105	III層出土遺物	122
Fig.106	調査区と遺構の位置関係	123
Fig.107	B区検出遺構	124
Fig.108	SX111・112 出土遺物	125
Fig.109	SE102 実測図	126
Fig.110	SE102 出土遺物 (1)	127
Fig.111	SE102 出土遺物 (2)	128
Fig.112	SE101 実測図	129
Fig.113	SE101 出土遺物	129
Fig.114	D区検出遺構	130
Fig.115	D区出土遺物	130
Fig.116	試料採取位置	131
Fig.117	試料⑦中の火山ガラスの屈折率	133
Fig.118	火山灰写真	134
Fig.119	浜松低地の地形と遺跡分布地質	136
Fig.120	地質層序確認部分位置図	138
Fig.121	地質層序の観察 (1)	139
Fig.122	地質層序の観察 (2)	139
Fig.123	貝類の計測点	141
Fig.124	鳥居松遺跡の貝類 (1)	146
Fig.125	鳥居松遺跡の貝類 (2)	147
Fig.126	貝塚における貝類の組成	148
Fig.127	貝塚出土貝類の形態分布	149
Fig.128	鳥居松遺跡の動物遺存体	151
Fig.129	鳥居松遺跡の貝塚における 花粉ダイアグラム	153
Fig.130	鳥居松遺跡の断面における 花粉ダイアグラム (1)	154
Fig.131	鳥居松遺跡の断面における 花粉ダイアグラム (2)	155
Fig.132	鳥居松遺跡の花粉・胞子・寄生虫卵	156
Fig.133	鳥居松遺跡の貝塚における 主要珪藻ダイアグラム	158
Fig.134	鳥居松遺跡の断面における 主要珪藻ダイアグラム (1)	160

Fig.135 鳥居松遺跡の断面における 主要珪藻ダイアグラム（2）	161	Fig.147 鳥居松遺跡出土祭祀具の変遷	180
Fig.136 鳥居松遺跡の珪藻	162	Fig.148 伊場遺跡群出土人形	181
Fig.137 鳥居松遺跡 5 次調査出土木簡	167	Fig.149 伊場遺跡群出土馬形	182
Fig.138 「福万呂」墨書き土器の分類	171	Fig.150 伊場遺跡群出土舟形	183
Fig.139 伊場大溝堆積状況模式図	173	Fig.151 伊場遺跡群出土人面墨書き人形	184
Fig.140 伊場大溝の土層断面比較	174	Fig.152 伊場遺跡群出土人面墨書き土器	185
Fig.141 伊場大溝堆積状況の変遷	175	Fig.153 伊場遺跡群出土紀年銘木簡	186
Fig.142 伊場大溝Ⅶ層出土生産用具	176	Fig.154 鳥居松遺跡における 古代文字資料出土位置	187
Fig.143 伊場大溝出土耳環	177	Fig.155 伊場遺跡群における 「福万呂」墨書き土器の分布	188
Fig.144 銅製有孔円盤と円形飾金具	177	Fig.156 敷智郡家の機能想定図	189
Fig.145 製塙土器出土量の比較	178	Fig.157 敷智郡家の立地環境	190
Fig.146 鳥居松遺跡における 祭祀具の出土位置	179		

挿 表 目 次

Tab.1 伊場大溝の層位比較	4	Tab.6 鳥居松遺跡出土動物骨分析一覧	150
Tab.2 放射性炭素年代測定結果	133	Tab.7 鳥居松遺跡 5 次調査出土墨書き土器	169
Tab.3 曆年較正結果	134	Tab.8 「福万呂」墨書き土器一覧	171
Tab.4 貝類同定結果（1）	144	Tab.9 製塙土器口縁点数	178
Tab.5 貝類同定結果（2）	145	Tab.10 伊場遺跡群出土紀年銘木簡	185

第1章 序論

1 伊場大溝の概要

伊場大溝の流路 伊場大溝は、静岡県浜松市中区にある伊場遺跡の発掘調査で確認された自然河川である。1969年にその存在が確認されてから、2008年の鳥居松遺跡5次調査に至るまで広域に発掘調査が実施され、総延長1.5kmほどの流路が確認されている。古代敷智郡家と推定される伊場遺跡群を貫いていることから、木簡をはじめとした文字資料が豊富に出土する。

伊場遺跡の調査 伊場遺跡における伊場大溝の発掘調査は、1969年の第3次調査から1978年の第12次調査までの10年間に及び、飛鳥時代から平安時代にいたる紀年銘木簡13点を含む合計108点の木簡が出土した。伊場遺跡から木簡のほかにも、400点を超える墨書き土器が出土し、古代出土文字資料の宝庫と評された。古代敷智郡家の様相を具体的に伝えるこれら古代文字資料の大部分が伊場大溝からの出土品であることからも、その重要性は充分理解できるだろう。

伊場遺跡で確認された大溝は、幅約20m、深さ2.5mの規模をもつ。底部の標高は-2.0mほどになり、底部まで掘削すると湧水が激しい。木製品の保存環境としては最適であるが、排水機器が用意されていない1970年代においては、完全な調査が実施できない部分が残った。

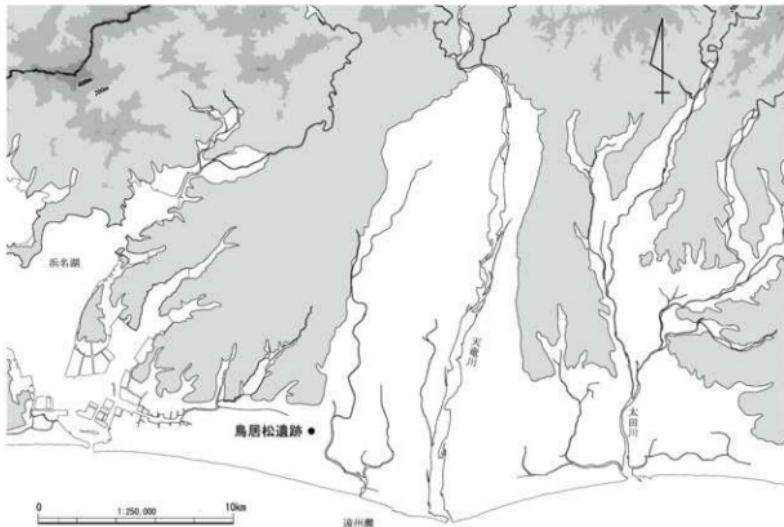


Fig.1 鳥居松遺跡の位置

1 伊場大溝の概要

梶子遺跡9次調査 1992年に行われた梶子遺跡9次調査によって、伊場大溝の上流部分が調査された。調査地点は伊場遺跡から北東250mほどに位置し、延長部分約30m分を確認した。梶子遺跡9次調査における伊場大溝の規模は、幅約20m、深さ2.5mほどで、伊場遺跡で確認できた規模とはほぼ同様である。梶子遺跡9次調査では排水装置が整い、15点の木筒をはじめとする古代文字資料が出土し、伊場大溝の重要性を再認識させた。なお、梶子遺跡9次調査では、伊場大溝が4世紀代に人工的に掘削された可能性が指摘されたが、その当否はなお不明瞭と言わざるをえない。

城山遺跡6次調査 1995年の城山遺跡6次調査によって、部分的ながら伊場遺跡の上流部分が検出された。城山遺跡6次調査地点が、現在までのところ、伊場大溝が確認できた最も上流部分である。この調査では枝溝と呼ばれる支流も確認できた。

九反田遺跡の調査 1996年に実施した九反田遺跡の調査では、伊場遺跡調査地点よりも400mほどの下流部分を確認している。とくに試掘調査によって、伊場大溝の両岸が明確になり、軒丸瓦や平瓦などの古代瓦が数多く出土した。古代瓦の出土量としては伊場遺跡群の中でも突出しており、近辺に瓦葺建物の存在が想定できる。

鳥居松遺跡2・4次調査 伊場大溝の下流部分の調査は2000年以降、鳥居松遺跡で相次いでいる。2000年に実施した鳥居松遺跡2次調査では、伊場大溝の最下流部を検出し、貝塚を確認するとともに、墨書き土器が出土した。今までのところ、この調査地点が、伊場大溝が確認できた最も下流部分である。この調査によって、鳥居松遺跡に郡家の一部が及んでいることが明らかになったが、九反田遺跡と若干の距離があることもあり、伊場大溝の正確な流路は未確定であった。

2003年に実施した鳥居松遺跡4次調査によって、伊場大溝の両岸が確認され、伊場大溝は鳥居松遺跡内において流れの方向を、東から南西へ大きく変えていることが判明した。鳥居松遺跡4次調査地点からは、伊場遺跡から複数例の出土が知られていた「稻万呂」と記した墨書き土器が出土し、鳥居松遺跡と伊場遺跡は一連の遺跡空間にあることを印象づけた。

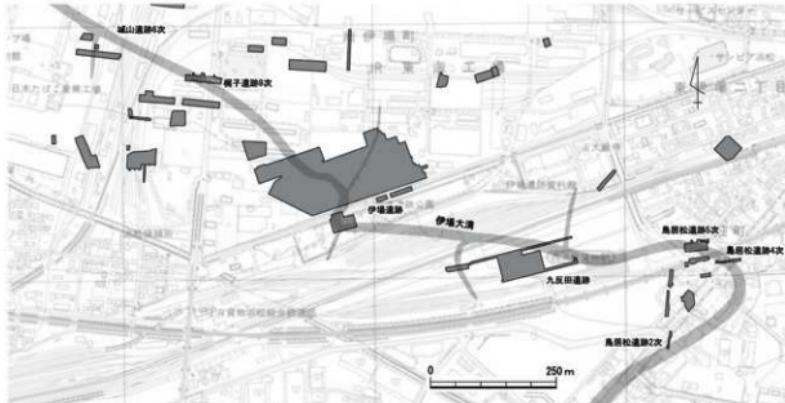


Fig.2 伊場大溝の流路

2 伊場大溝の層位と調査の方法

(1) 伊場大溝の層位

層位名称の概要 伊場大溝内の層位の名称は、伊場遺跡の調査時に用いられたものがその後の調査においても継続的に使用されている。今回の調査においても、伊場遺跡の調査時に用いられた層位名称に従ったが、細部にかんしては必ずしも一致しない部分がある。とくに、ローマ数字の後にアルファベットで示した層位の細分（VII a層、VII b層、IV a層、IV b層）は本調査独自の理解であり、伊場遺跡や梶子遺跡9次調査時で用いられた層位名と一致するものではない。

今回の調査では、伊場大溝の層位をVII層、VII a層、VII b層、V層、IV a層、IV b層、III層の7層に識別した。今回の調査では、VI層は確認できていない。伊場遺跡の調査においては、VI層はVII層とV層の間に挟まる薄い砂層とされ、V層とVII層を分離する鍵層として認識されている。ただし、梶子遺跡9次調査でもVI層は確認できておらず、伊場遺跡内において部分的に堆積した層位と理解できる。梶子遺跡9次調査の所見どおり、VI層はVII層の最上部に相当すると捉えておきたい。

VII層については、梶子遺跡9次調査のVII層と伊場遺跡におけるVII層は異なる層位と理解されている。ただし、両者はともに青灰色微砂層を基本とし、5世紀後半の遺物を主体的に包含する。大局的には、今回の調査で確認したVII層を含め、同一層位として捉えることができると判断する。

なお、IX層（伊場遺跡のIX層と梶子遺跡9次調査でのIX層は異なる）に相当する層位は今回の調査では認められなかった。

VII層 VII層は、調査区の南西側において確認できた古墳時代中期後葉（5世紀後葉）を中心とする堆積層である。灰色や緑灰色を呈するシルト層を主体に、炭化物や未分解の有機物を多く含む地層が交互に堆積している。地層は厚く、底面から上位までの比高は2.2mほどである。VII層に含まれる遺物は上位の地層と比べると少ないが、古墳時代中期後葉の遺物が出土する。

VII層の堆積がいつ始まったかは不明瞭である。VII層はVII層によって切り込まれており、流路を若干変えた6世紀の伊場大溝によってVII層の大部分が破壊されている。VII b層には、本来VII層に含まれていたとみられる5世紀以前の遺物も出土する。この中には僅かであるが4世紀代の遺物も含まれる。これら4世紀代の遺物の評価は難しいが、いずれも小破片であることをふまえると、周辺の遺構や包含層から流れ込んだものとみることが妥当であろう。伊場大溝内から安定的に出土するのは、古墳時代中期後葉からであり、この時期をもって伊場大溝の形成が始まると捉えておきたい。

VII b層 VII b層は、青灰色砂と灰色粘土の互層で、古墳時代後期後半（6世紀後半）を中心とする堆積層である。VII層の堆積が進み、部分的に厚さ2m以上の地層が形成された後、伊場大溝は新たな流路を形成する。新しい流路の底部に堆積した層位がVII b層である。VII b層の底面には川底溝があり、所どころに澁みのような深い部分が認められる。川底溝やその上面からは弥生時代後期から6世紀後半にいたるまでの土器が混在して出土した。とくに川底溝が埋没した段階で含まれる土器の量は極めて多く、人為的な営為が活発化していることがうかがえる。VII b層中からは円頭大刀が出土したほか、円頭大刀出土地点に隣接して、大規模な土器集積SX05も形成されている。

Tab.1 伊場大溝の層位比較

層位	伊場遺跡	層位			鳥居松5次		
		層位名	層位名	年代	層位名	層位名	年代
I層	黄土層	I層	表土	—	I層	黒灰色粘土層	—
II層	水田底土	II層	底土	—	II層	黄褐色粘土層	—
III層	黒色有機粘土層	III層	茶～灰色泥炭層	10～13世紀	III層	茶褐色有機物層	11～13世紀
IV層	暗灰色粘土層	IV層	灰茶色粘土層	9～10世紀	IVa層	褐色粘土	10世紀
V層	暗灰色～褐色粘土層	V層	灰茶色有機質粘土層	8世紀	IVb層	灰～茶褐色粘土	8世紀後葉～9世紀前葉
VI層	灰色砂層（厚さ2～5cm）	VI層	（未検出）	—	V層	灰～褐色粘土、砂	8世紀前葉～8世紀中葉
VII層	灰～暗灰色砂、粘土層	VII層	砂と粘土の互層	7世紀	VIIa層	褐色粘土、砂	7世紀前葉～7世紀後葉
VIII層	青灰～暗灰色微砂、粘土層	VIII層	青～灰色微砂層	5～6世紀前半	VIII層	青灰～灰色砂、粘土	6世紀後半～7世紀初頭
IX層	灰黑色粘土層	IX層	灰色粗砂層	(4世紀)	—	（未検出）	5世紀後葉～6世紀前半

VII a 層 VII a 層は、灰色粘土層と砂層が交互に堆積した地層で、飛鳥時代（7世紀）の土器を包含する。VII b 層の堆積後、再度、伊場大溝の流路が更新され、VII a 層の堆積が始まっている。ただし、VII b 層からVII a 層への流路変更は僅かで、VII 層にみられるような大規模な不整合はみられない。VII a 層中には砂の堆積が顕著にみられるが、面をなして広がっている状況は確認できない。なお、伊場遺跡で確認されたVI層（灰色砂層）とは、VII a 層中に多くみられる砂層の一部を指したものとみられる。VII a 層中の砂層の堆積は複雑であり、明確な基準層位として把握することは困難であることから、VI層の認定は控えざるを得ない。VII a 層の最深部は、北側に偏っているため、斜面の角度は北側が急で、南側は比較的緩やかである。この傾斜の違いは、伊場大溝の流路の方向と関係があるとみてよいだろう。

V層 V層は、灰色ないしは褐色の粘土層を基本に所どころに砂層が混ざる層位で、奈良時代（8世紀前葉から中葉）を中心とした時期の堆積層である。V層より上位の層は、伊場大溝が埋まっていく過程で堆積した層位である。V層中においては貝塚（SS01～04）が形成されている。出土遺物には木簡が含まれるほか、木製祭祀具も多くみられる。

IV b 層 IV b 層は、暗茶灰色を呈する層位で、砂層は全く混ざらない。奈良時代後葉～平安時代前葉（8世紀後葉～9世紀前葉）を中心とした時期の堆積層である。砂層が混入しないことからうかがえるように、IV b 層が堆積した時期には伊場大溝の水量は減少し、當時は湿地帯のような環境にあったと推定できる。

IV a 層 IV a 層は、褐色粘土で形成される非常に薄い層で、大溝の北岸にわずかに堆積している。調査区の北東側において部分的に確認できたのみである。IV a 層の堆積年代は、平安時代中葉（10世紀）である。伊場大溝全体にわたる基準層位とはいいくらいが、灰釉陶器が出土する地層はこの部分だけであることから、IV a 層として分離して捉えた。

III層 III層は茶褐色有機物層であり、未分解の植物片を大量に含んでいる。出土遺物はないが、伊場遺跡や梶子遺跡の調査成果から、平安時代中葉から鎌倉時代前半（11～13世紀）頃の堆積と推定できる。なお、III層の堆積途上において、伊場大溝の南岸の高まりを畦畔として利用し、水田として用いていた可能性が考えられる。

II・I層 II層は、青灰色粘土層、I層は黒灰色粘土層とともに現代の盛土施工前まで使用されていた水田耕作にかかる地層である。

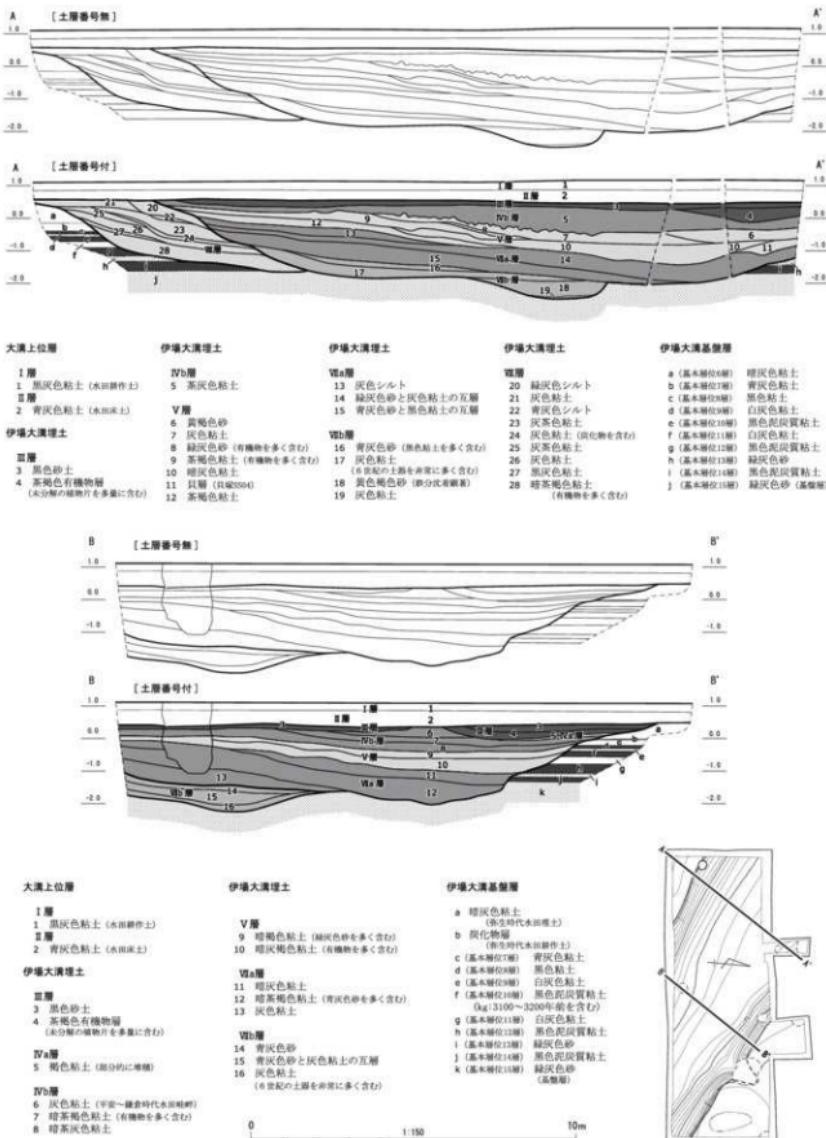


Fig.3 伊場大溝土層断面図

2 伊場大溝の層位と調査の方法

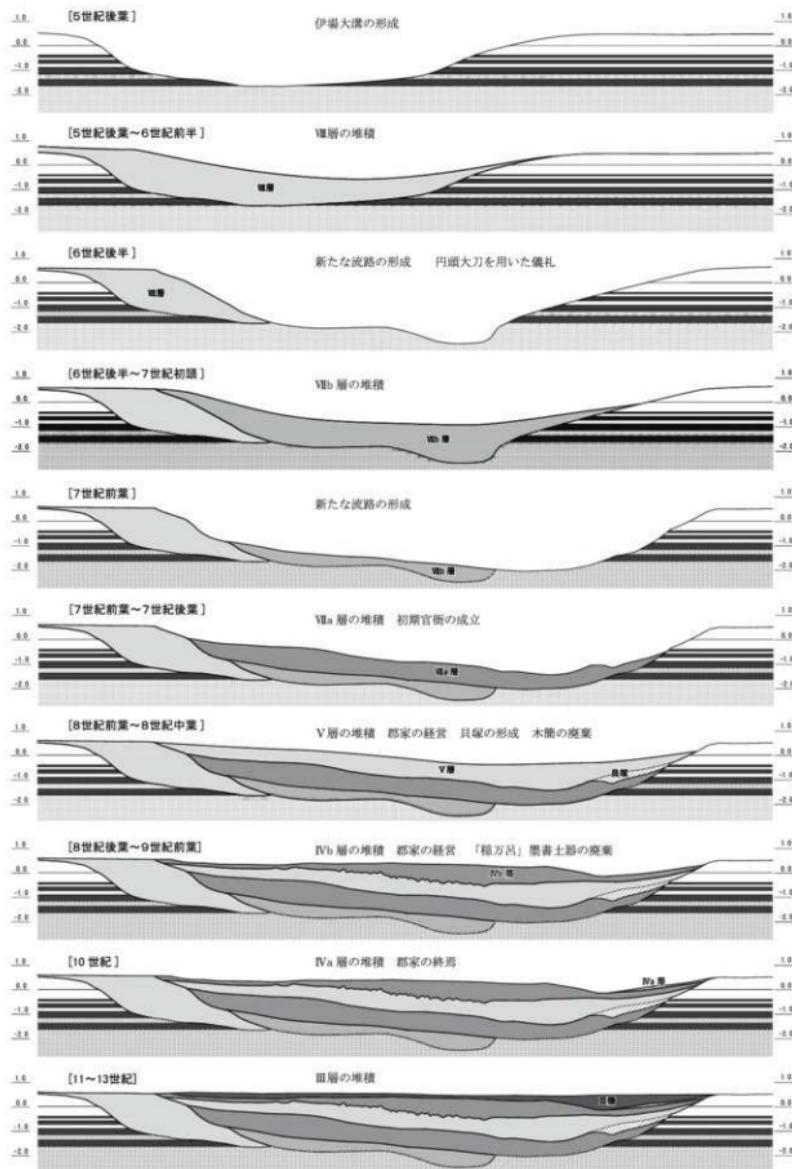


Fig.4 伊場大溝の埋没過程

(2) 伊場大溝の調査方法と経過

調査区とグリッドの設定 発掘調査に用いたグリッドは、弥生時代の調査のものと同一である。調査区の方眼は、調査対象地に国家座標軸（世界測地系）に合わせ、10m 間隔に設定した（Fig.7）。各グリッドの名称は、北西の基準点に従って命名している。

表土掘削と排水工事 伊場大溝の表土掘削は、現代の盛土施工前の水田関連層であるⅠ層およびⅡ層を対象に、バックホーを用いて行った。Ⅲ層以下は人力による精査を実施したが、一部、既設建物の解体工事に伴う基礎の撤去のために調査区内に大穴が空けられており、この部分にかんしてはバックホーによる埋土除去を行った。

今回の調査は伊場大溝の底面まで精査する予定であったことから、排水施設（ウェルポイント）を設置し湧水に備えた。排水装置の先端は伊場大溝の底面と想定された-2m の位置に設定したが、最終的には最深で-2.4m 以下まで掘削した。-2.2m を超えると湧水がみられるようになり、最深部は浸水状態で調査せざるをえなかった。

層位の認識 伊場大溝の層位は、伊場遺跡および梶子遺跡9次調査での層位名、認識にあわせるように努めた。伊場大溝埋土の精査をはじめると前に発掘区の西側（Aセクション）と中央部（Bセクション）に土層観察用アゼを設定し、トレチを掘削した。双方の土層観察によって、おおむね伊場大溝の基本層位が把握でき、層位の特徴と高さを確認しながら、埋土を撤去した。ただし、層位の境界は漸移的であることも多く、各層位に含まれる遺物を判然と分離できたわけではない。

遺物取り上げの方法 大溝内から出土する遺物は、比較的まばらであったことから、とくに遺物が集中する部分を除いては出土状態についての情報は取得していない。遺物は、10m グリッドを4分割した範囲でまとめて取り上げたが、木器や金属器などの特殊な遺物および遺存部分が大きい土器については、トータルステーションによって出土位置を記録した。

遺物帰属層位の認定 室内における整理作業によって、層位ごとにとりあげた遺物相互の検討を行った。土器については、上下の層位を跨いで接合するものは極めて少ないとから、上下層相互の擾乱はほとんどなかったものと捉えられる。しかし、各層位の境界付近においては、確実に層位の境界が把握できない場合があったため、土器の年代観から帰属層位を改めたものがある。



Fig.5 伊場大溝断面土層の調査



Fig.6 土器集積の調査

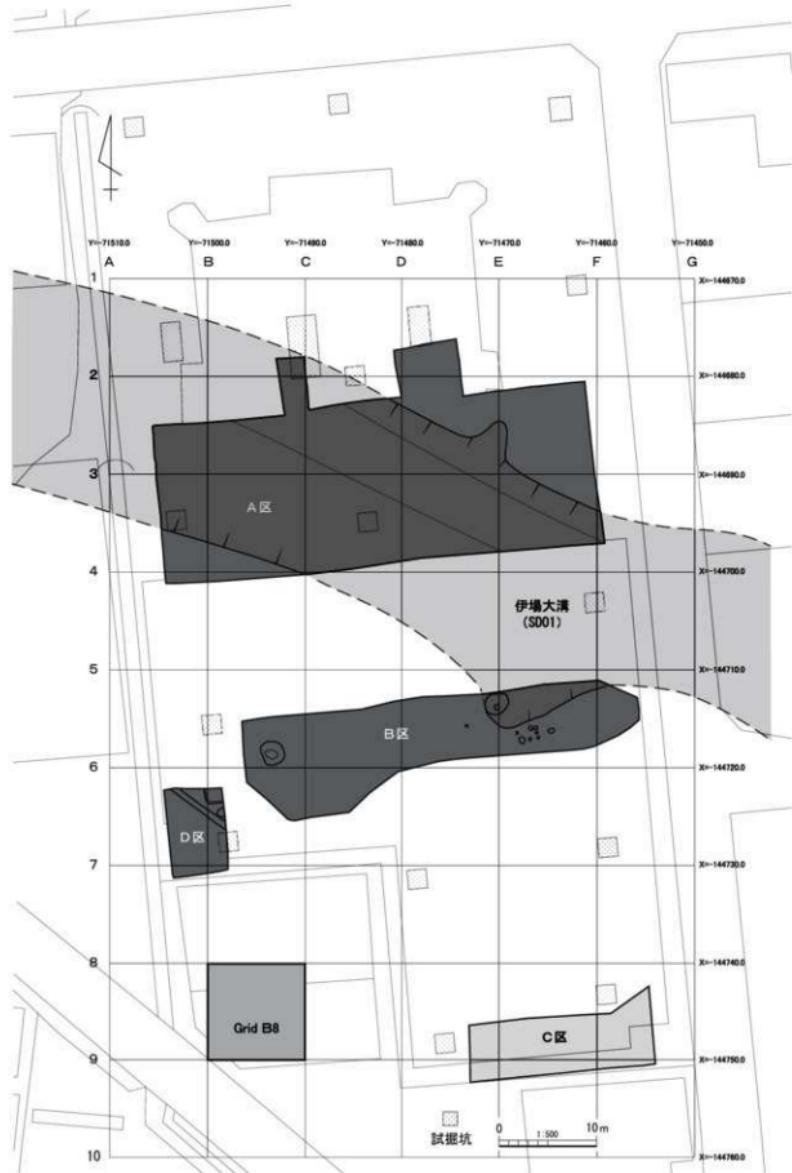


Fig.7 グリッド配置図

第2章 調査成果

1 VII層の調査

(1) VII層の概要

VII層は、伊場大溝の最下層の層位で、灰色や緑灰色を呈するシルト層を主体に、炭化物や未分解の有機物を多く含む地層が交互に堆積している。VII層は、伊場大溝の南側に部分的に遺存しているが、調査区の設定位置の関係から、僅かな面積を調査したにすぎない。調査面積が限られることから、VII層から得られた遺物は少なかった。また、本来はVII層中に含まれていた土器が、新しい流路の形成によって掘り出され、VIIb層中に混入したものが多いと想定できる。その多くは次節で解説するが、弥生時代後期から終末期の遺物で、古墳時代前期の土器も僅かにみられる。

(2) 伊場大溝の形状と遺物の出土状態

形 状 VII層は伊場大溝の南側の岸、幅5m程度しか遺存していない。北側斜面は後世の流路(VIIb層以上の堆積層)によって破壊されているため、形状をうかがうことができないが、VIIb層以上

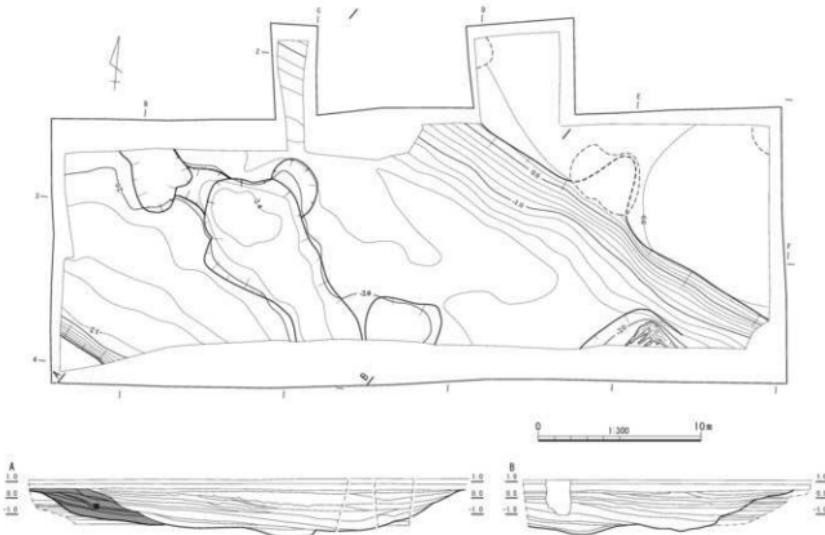


Fig.8 伊場大溝VII層

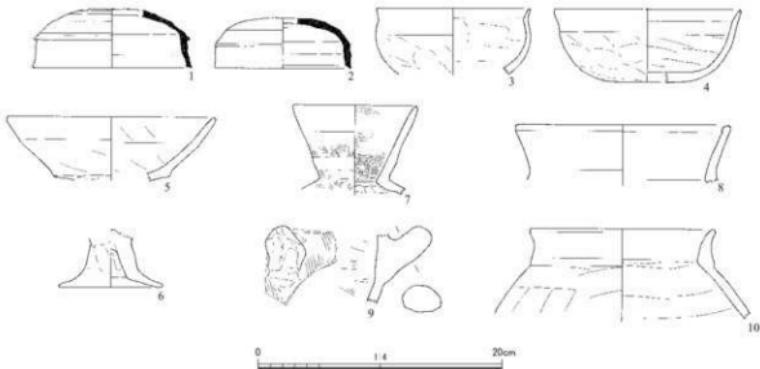


Fig.9 VII層出土遺物

の各層と比べると斜面の傾斜が急であることが留意される。VII層の南側斜面は攻撃面であったとみられる。VII層が堆積する流路の方向は、VIIb層以上の層位が堆積する流路のそれと異なっていたと捉えられよう。遺存部分におけるVII層の最深部は-1.6m程度である。

遺物出土状態 VII層中における遺物の出土状況は、極めてまばらであった。VII層に本来伴っていた土器は、VII層の底面付近に集中していたとみられるが、大部分は後世の流路によって掘り出され、VIIb層中に再堆積したと考えられる。

(3) 出土遺物

須恵器 (Fig.9) 1・2は須恵器の壺蓋である。1は稜の突出が顕著で中期後葉の中でも古相の特徴を残す。TK208型式期に比定できるだろう。2は1と比べると新相の形態である。

土師器 (Fig.9) 3～10は土師器である。3・4は鉢、5・6は高杯、7は直口壺、8・10は甕、9は瓶などの把手である。8の甕は胎土に白色の粒子を多く含むことから、駿河地域からの搬入品であるとみられる。

年代 VII層から出土する遺物は少ないながら、いずれも5世紀後半代に位置づけられる。VII層の堆積年代を明確に示すものと捉えられよう。

(4) 小結

調査区の関係で、VII層は部分的な調査にとどまった。出土遺物も少ないが、伊場大溝VII層は、5世紀後葉に堆積したことを裏付ける資料が得られている。土層の堆積状況や含まれる土器の年代観などは伊場遺跡や梶子遺跡9次の調査成果とほぼ同じであるといえる。伊場大溝は、弥生時代や古墳時代前期の遺構を破壊しているため、古い時期に属する遺物が下層に含まれる。本来は最下層のVII層中に多くの混入品が含まれていたとみられるが、底面が後世の流路で破壊されたことによって、後述するVIIb層に再堆積したとみられよう。

2 VII b層の調査

(1) VII b層の概要

VII b層は、青灰色砂と灰色粘土の互層で、古墳時代後期後半（6世紀後半）を中心とする堆積層である。南側斜面から底面にかけては、VII b層堆積直前の形状を示しているが、北側斜面については、VII a層によって大きく切り込まれており、本来の形状をうかがうことができない。最下層には川底溝があり、最深の標高は-2.4mを超える。川底溝は一定の形状をなしておらず、所どころに流れの水がよどんで深くなったり淵状の穴が認められる。川底溝が堆積した後に大規模な土器集積（SX05）が形成されている。また、SX05に隣接して円頭大刀が出土した。円頭大刀については、別冊の「円頭大刀編」において詳述する。VII b層から出土する遺物量は極めて多い。とくにSX05が形成される川底溝の埋没直後に形成された砂層からは、6世紀後半を中心とした須恵器・土師器が折り重なるように堆積していた。出土状態を図示したのはSX05の範囲のみであるが、その周りにおいても相当量の土器が出土している。

出土遺物は、大量の土器のほかに、円頭大刀が特筆される。また、玉類や輪羽口、鉄滓などの特徴的な遺物も含まれる。出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代後期までの年代幅があるが古墳時代後期前半以前の土器は、下層にあたるⅧ層もしくは周囲の遺跡からの混入品と捉えられる。

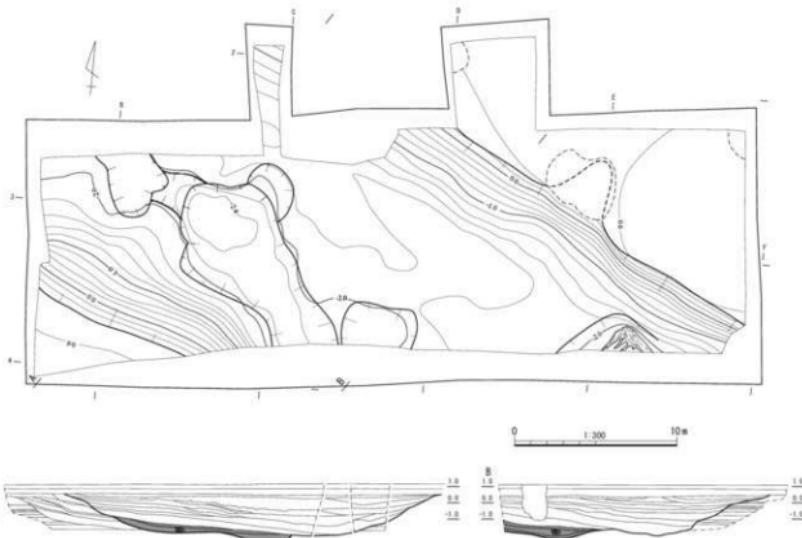


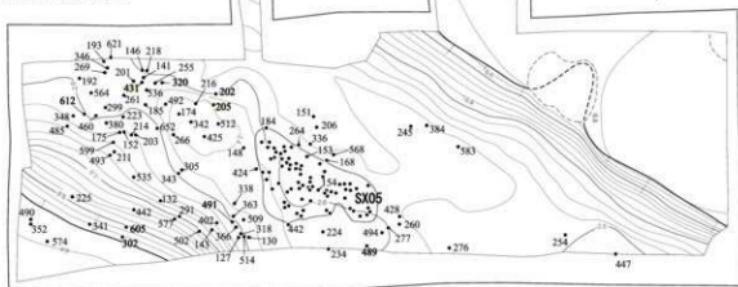
Fig.10 伊場大溝VII b層

2 VIIb層の調査

遺物出土位置（挿図番号無）



土器出土位置（挿図番号有）



番号のないものはSX05出土遺物

0 1 300 10m

石製品・木器等出土位置（挿図番号有）

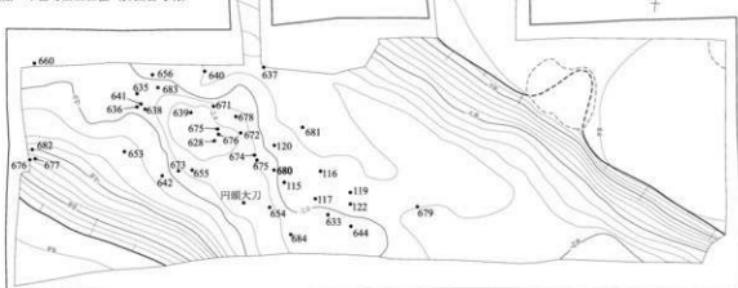


Fig.11 VIIb層における遺物出土位置

(2) 伊場大溝の形状

VII b 層が堆積した伊場大溝の本来の形状がうかがえる部分は、南側斜面の -1.0m 以下の部分と、川底を挟んで北側斜面の標高 -1.8m 以下の部分である。これより上の部分は上層の堆積層（VII a 層以上）によって切られている。伊場大溝の底面には、-2.0m 以下の川底溝があり、最深部分の標高は -2.4m を超えている。川底溝の最深部は形状が定まらず、所どころに流れの水がよどんで深くなった淵状の穴が認められる。川底溝が形成されることは、水の流れが比較的激しかったことをうかがわせる。川底溝の中に堆積した土層は基盤層と同様の砂を主体とするため、識別が比較的困難であるが、砂の堆積中に部分的に粘土層が挟まっている状況が認められたことから、再堆積した砂層であると判明した。

川底溝の堆積は比較的短期間に進んだとみられる。川底溝の最深部からも 6 世紀後半の遺物が出土することから、VII b 層の堆積は 6 世紀後半に始まったことが知られる。ただし、川底溝から出土する遺物の量は比較的少なく、SX05 に典型的にあらわれているように面をなして出土することもなかった。

川底溝が埋没した後、標高 -1.9 m ~ -2.0 m 程度で伊場大溝の底面形状が平坦になる段階が認められる。激しい水流が一段落し、比較的穏やかな流れに変わったことをうかがわせる。川底溝が埋没した段階において、伊場大溝の底面に極めて大量の遺物が堆積している。円頭大刀が出土したものこの段階の層位であり、円頭大刀の埋没とほぼ同時期に SX05 といった土器集積も形成されている。

(3) 遺物の出土状態

出土位置の傾向 VII b 層の出土遺物は、底面に集中する傾向が強い。SX05 の出土状態に典型的に示されるように、伊場大溝の底部に張り付く状態で多くの土器が出土したことが分かる。Fig.11 には、発掘調査中に VII b 層から出土したと認識した遺物のうち、出土位置を記録したものの平面分布を示した。この図において、底面から離れた位置から出土している遺物は、下層（VIII 層）もしくは上層（VII a 層）に含まれていたものであった可能性を考慮してもよいだろう。南側に偏って出土した遺物（225、302、341、352、490、574 など）は VII 層、北側に偏って出土した遺物（245、254、384、447、583 など）は VII a 層から出土したものとして捉える方が妥当かもしれない。

土 器 Fig.11 に示されているように、VII b 層中の遺物の多くは伊場大溝の底面に集中して出土した。最下部の川底溝から出土する遺物量は比較的少ないが、出土位置を明確に記録した資料がある。

Fig.11 に示した出土位置を記録した土器のうち、川底溝から出土したものは、148 (-2.2m)、174 (-2.2m)、205 (-2.2m)、424 (-2.1m)、493 (-2.4m)、509 (-2.2m) である（バーレン内の数値は出土地点の標高）。148、174、205 といった 6 世紀後半の須恵器がみられることから、川底溝の埋没時期は 6 世紀後半であることが確実である。

川底溝が埋没した後、伊場大溝の底面が平坦になり、大量の土器が堆積する。その時期は古墳

時代後期後半（6世紀後半）であるが、この中には弥生時代後期から古墳時代前期の土器が混入している（Fig.13・14）。これら伊場大溝形成以前の土器は、周囲の集落から流れ込んだものと捉えられよう。また、VII b層の形成によってVII層が大きく破壊されており、VII層中に含まれる遺物も数多く混入している。VII b層中に含まれる古墳時代中期後葉（5世紀後葉）から後期前半（6世紀前半）の土器は、VII層中に含まれる土器が混入したものと捉えられよう。

伊場大溝底面から出土する土器には、完形もしくは完形に近い状態のものが多々みられる。人為的に伊場大溝内に土器を沈めたものも含まれているとみられるが、土器を並べたような出土状況は認められない。比較的土器がまとまって出土した SX05においても、土製支脚が混在する状況が認められ、特別な祭祀行為を土器の出土状態から復原することは難しい。

その他の遺物 VII b層から出土する土器以外の出土遺物には、別冊で詳述する円頭大刀のほかに、玉類や土製品、輪羽口、鉄滓、砥石、木製品などがある。これらの遺物は、大量に出土する土器の中に混ざって出土しており、特定の種類のものが集中しているような傾向は認められない。なお、玉類については、目視できるものについて採集したのち、周辺の埋土を取り上げ、篩いがけをした。しかし、篩いがけによって得られた玉類はごく僅かである。玉類の分布は散漫であるが、伊場大溝底面から満遍なく出土していることを指摘できるにすぎない。

（4）伊場大溝形成以前の遺物

概要 Fig.13・14にVII b層に含まれる、弥生時代後期から古墳時代前期の遺物を示す。多くは、弥生時代後期（山中様式期）から終末期（欠山様式期）にかけての遺物で、伊場大溝によって破壊された弥生時代の集落に伴うものである。また僅かながら、古墳時代前期に降る土器（S字壺）も知られる。

出土遺物 1～13は壺である。在来の特徴をもつもののほかに、菊川式土器（9・10）、および、南関東系土器（11）が知られる。11は壺の肩部に相当する。円形浮文に比較的大きな工具によって刺突文が施されている。



Fig.12 銅纈

15～22は高杯である。山中式系統のもの（15・16）と欠山式系統のもの（17）の双方が認められる。14は大型の鉢、23・24は小型の壺、25・27は小型直口鉢である。26は壺の蓋で、摘みと比べて円形部が小さい。

28～48は壺である。口縁形態には多様性があり、く字壺（28）、受口壺（31～34）、S字壺（35～48）が認められる。S字壺には製作時期の差があり、A類（35）、B類（36～38）、C類（39～47）の各種が知られる。S字壺C類は古墳時代前期に降るものであり、この時期の遺物が出土する意義については後述したい。

49は扁平片刃石斧である。いわゆる赤チャートを用いたもので、ほぼ完形である。石材の特徴から駿河地域から

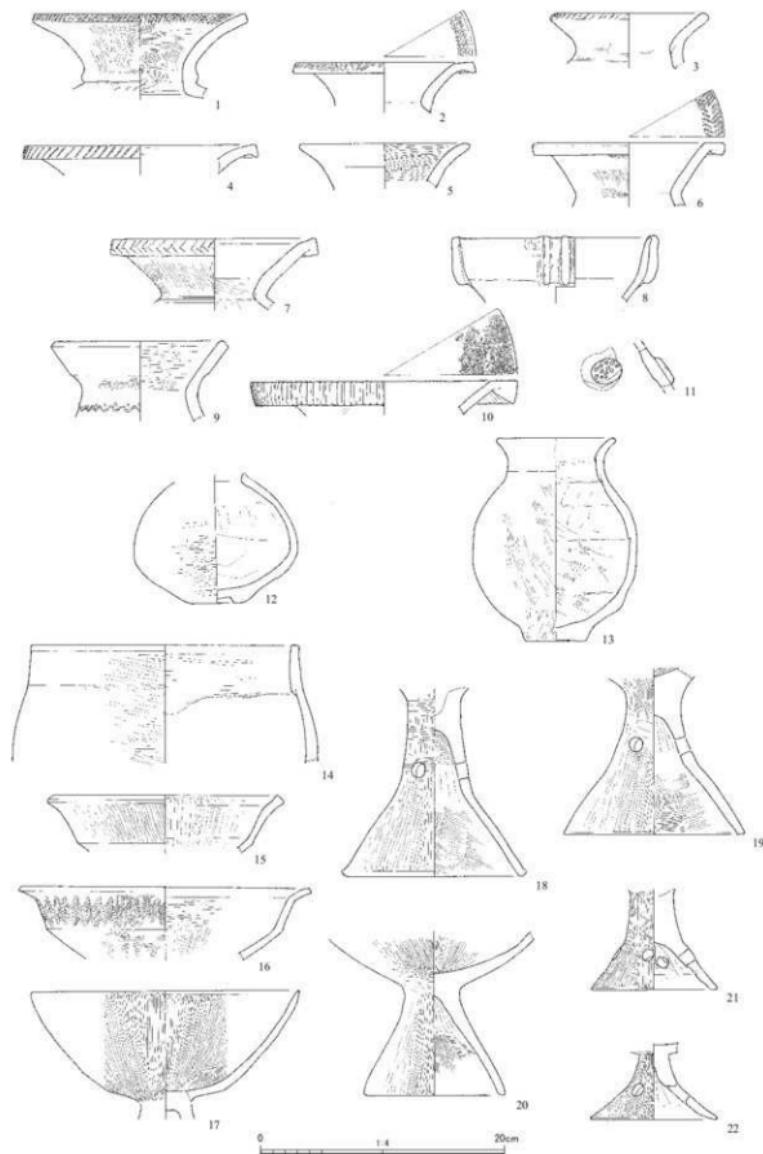


Fig.13 伊場大溝形成以前の遺物（1）

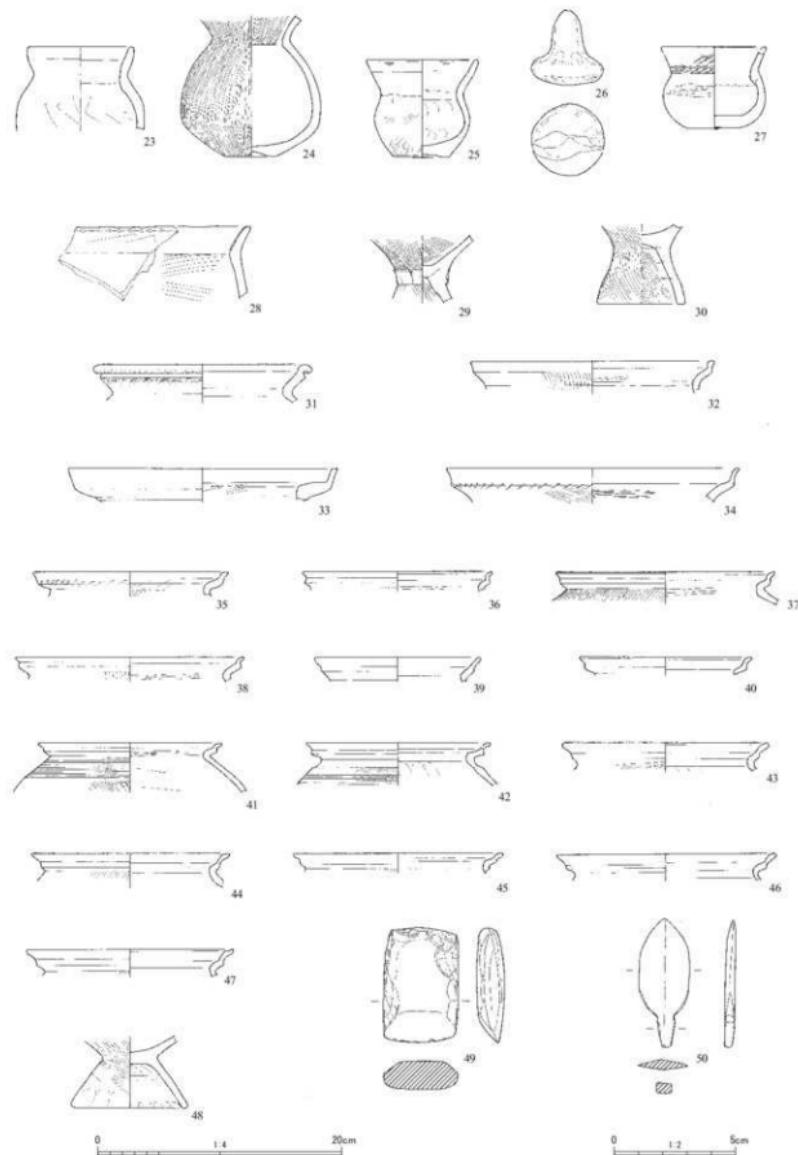


Fig.14 伊場大溝形成以前の遺物 (2)

の搬入品とみられる。50は銅鏡である。鏡身部は柳葉形を呈しており、主軸方向に縞がみられる。茎は短く、断面は長方形を呈している。茎の表面は鍛造されたような変形の痕跡が認められる。

小 結 古墳時代前期の遺物が伊場大溝から出土することに対しては、伊場大溝の形成時期を示す遺物として捉える見方と、伊場大溝によって破壊された遺構や包含層に伴う土器として捉える見方がある。今回の調査の状況では、古墳時代前期に属する遺物は全体量から比べてごく僅かであること、出土状態にまとまった状況がみとめられないことから、伊場大溝によって破壊された遺構や包含層に伴っていた遺物と解釈することが妥当だといえる。別冊で紹介した弥生時代の集落の状況でも、集落の衰退後に、僅かながら古墳時代前期に降る遺物が出土している。

(5) 土器集積 SX05

遺物出土状態 (Fig.16) SX05は伊場大溝VII b層の底面に形成された土器集積である。土器がまとまって出土しているのは-1.7m～-1.9mの高さであり、その広がりは東西6m、南北4mほどである。土器の集積度は非常に高く、隙間無く遺物が広がっている状況である。土器の出土状態は破片も多いが、須恵器の坏蓋・坏身を中心完形のものも目立つ。また、出土量は僅かであるが、輪羽口や鉄滓が出土している。小破片の土器や輪羽口、鉄滓などは混入品である可能性があるため、すべての出土遺物をSX05本来の帰属物として捉えないほうがよい。また、時期が異なる遺物も若干ながら出土している。完形の土器が多いこと、出土品の主体的な帰属時期がほぼ限定できることなどを積極的に評価すれば、土器集積SX05出土遺物は、なんらかの儀礼に伴い川底に沈めた土器群と捉えることもできる。

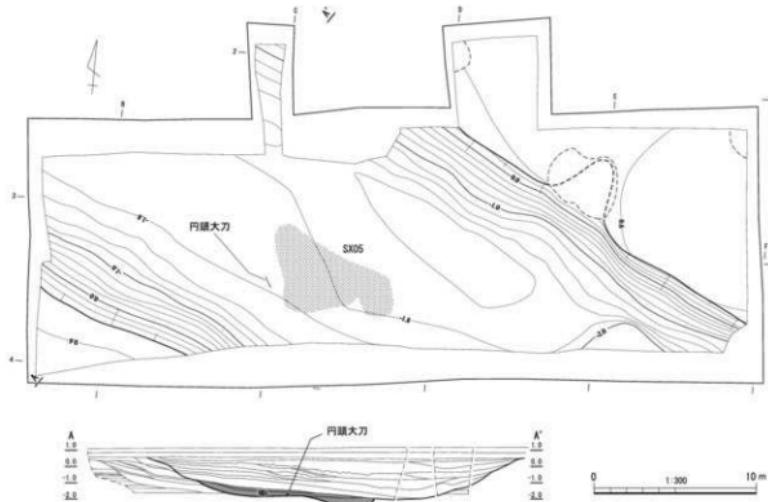


Fig.15 SX05 の位置

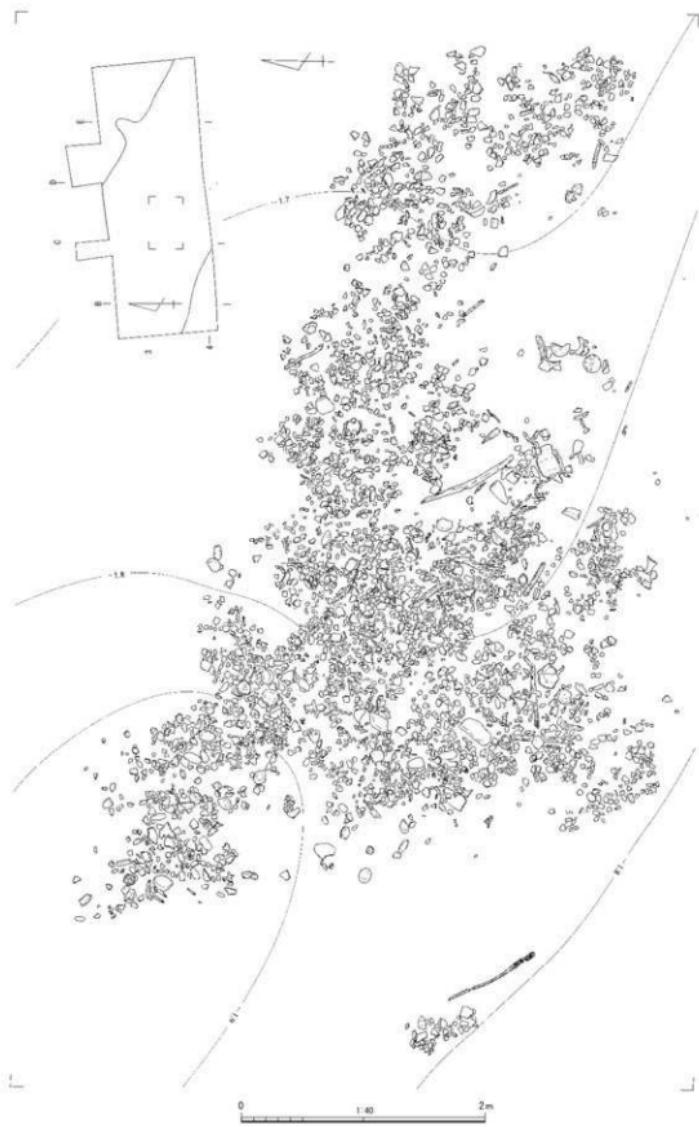


Fig.16 SX05 遺物出土状態

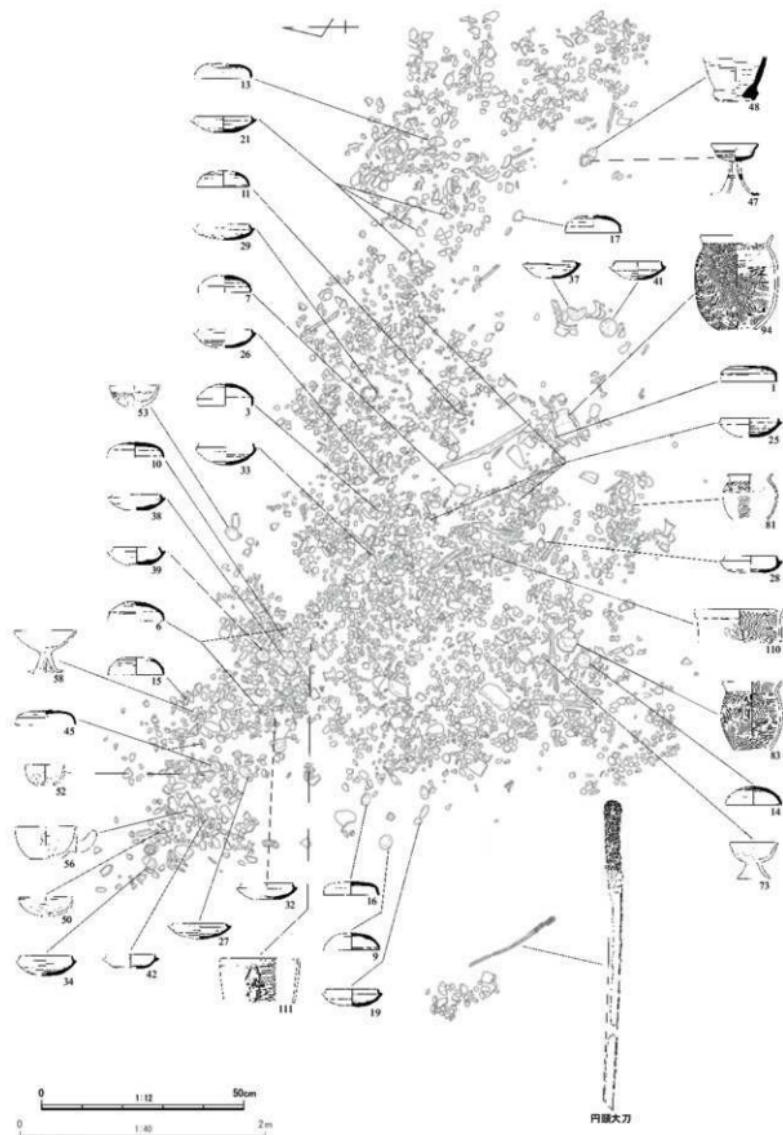


Fig.17 SX05 出土遺物対照図

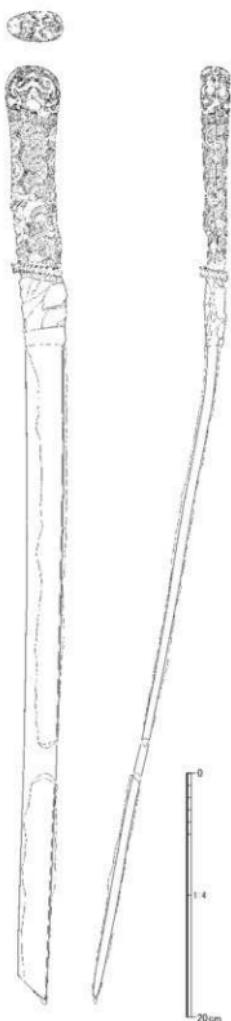


Fig.18 圓頭大刀実測図

円頭大刀 (Fig.18) 詳細は別冊『圓頭大刀編』において紹介する。SX05 の西側約 1m の地点で出土した。完形の大刀を鞘から抜いた状態で川底に沈めたものである。SX05 との共伴関係は厳密でないが、出土位置や層位から考えると、遺物を廃棄した同時代性は認めてよいだろう。

金銀装圓頭大刀は、全長 76.5cm で、刀身の鉄部分の破損が著しい。柄頭と柄間は木芯金銀張りで、柄頭には龍文、柄間に連続波頭文が彫りだされている。柄頭には金板、柄間に銀板が遺存しているが、柄頭には補修の痕跡が認められる。

SX05 出土遺物 (Fig.19 ~ 22) 1 ~ 49 は須恵器である。SX05 出土遺物の図示した須恵器のうち、およそ 9 割が壺蓋・壺身であり、その組成が特異なものであることが理解できる。45 は高壺の蓋、46・47 は無蓋高壺、48 は鉢、49 は甕である。壺蓋・壺身の 1 や 18 など、古墳時代中期に遡るようなものが若干、認められるが、大部分は時期的なまとまりがあるといえよう。古い時期の須恵器は埴輪からの混入品として捉えることも可能である。SX05 から出土した須恵器の中心的な時期は陶邑編年の TK43 型式期、実年代でいうなら 6 世紀後半とみられる。

50 ~ 114 は土師器である。土師器も 51 や 81 など、若干古い時期に遡るものがあるが、主体的な時期は TK43 型式期としてみて矛盾はない。

115・116 は輪羽口、117 ~ 119 は鉄滓である。いずれも小破片であり、SX05 に本来伴うものかは不明である。120・121 は凝灰岩製の砥石、122 は先端を加工した棒状品である。

小 結 SX05 は VII b 層のある時期の底面に形成された土器集積である。完形の土器が多いことから何らかの儀礼に伴って川底に沈められたとみることもできるが、土器集積中に混入したとみられる遺物も多い。出土遺物の時期は比較的まとまっている。その時期は、陶邑編年における TK43 型式期とみられる。実年代では 6 世紀後半に相当するだろう。この土器集積の 1m ほど西からは圓頭大刀が出土している。圓頭大刀と土器集積は一連のものと捉える保障は無いが、出土位置が近いことから同時代性は認めてよいだろう。SX05 の年代観によって、圓頭大刀の廃棄年代を TK43 型式期とすることができる。また、SX05 を儀礼に伴う土器集積と解釈するなら、圓頭大刀を川底に沈めた行為との関連を認めることもできる。

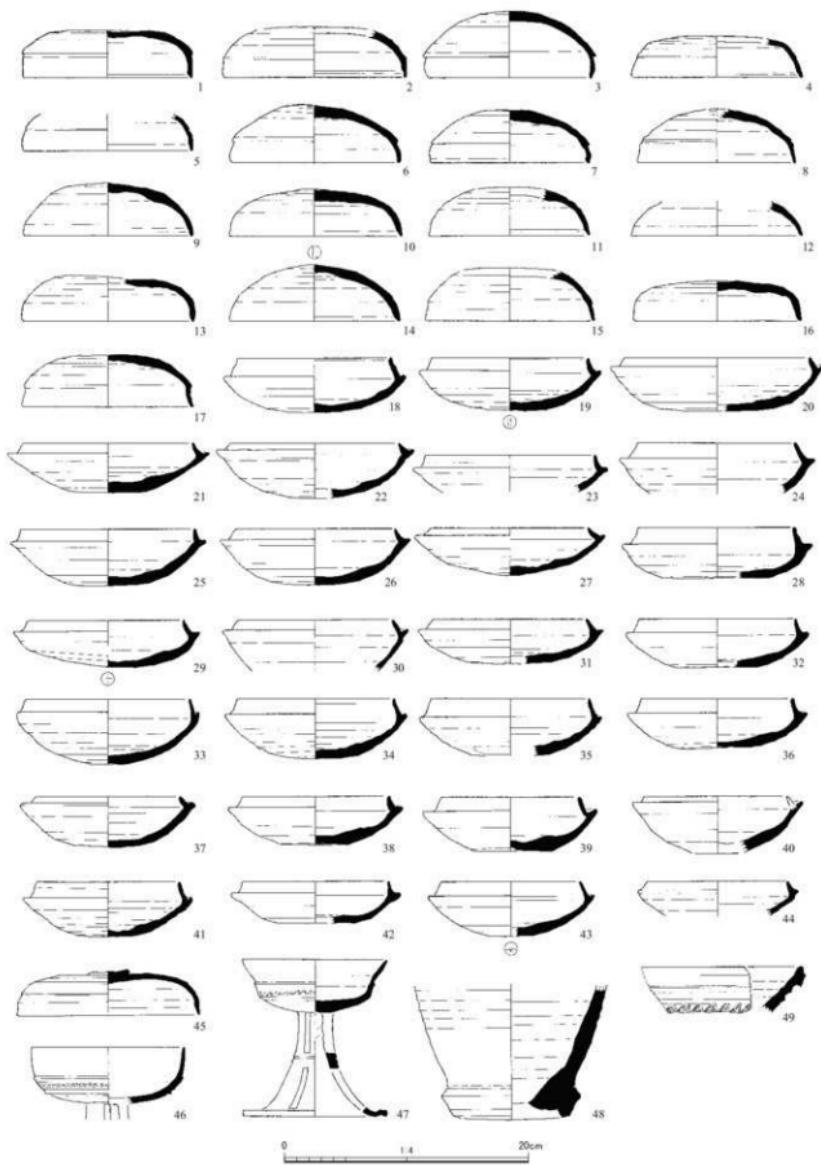


Fig.19 SX05 出土遺物 (1)

2 VIIb層の調査

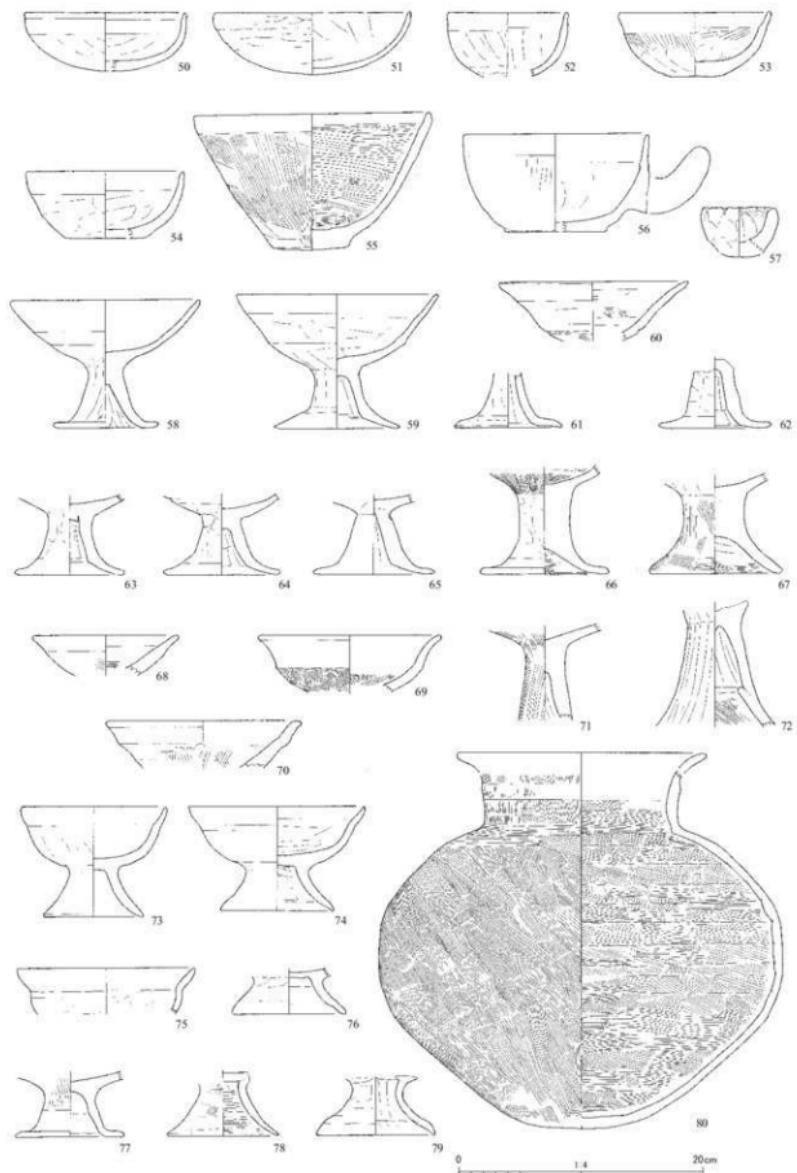


Fig.20 SX05 出土遺物 (2)

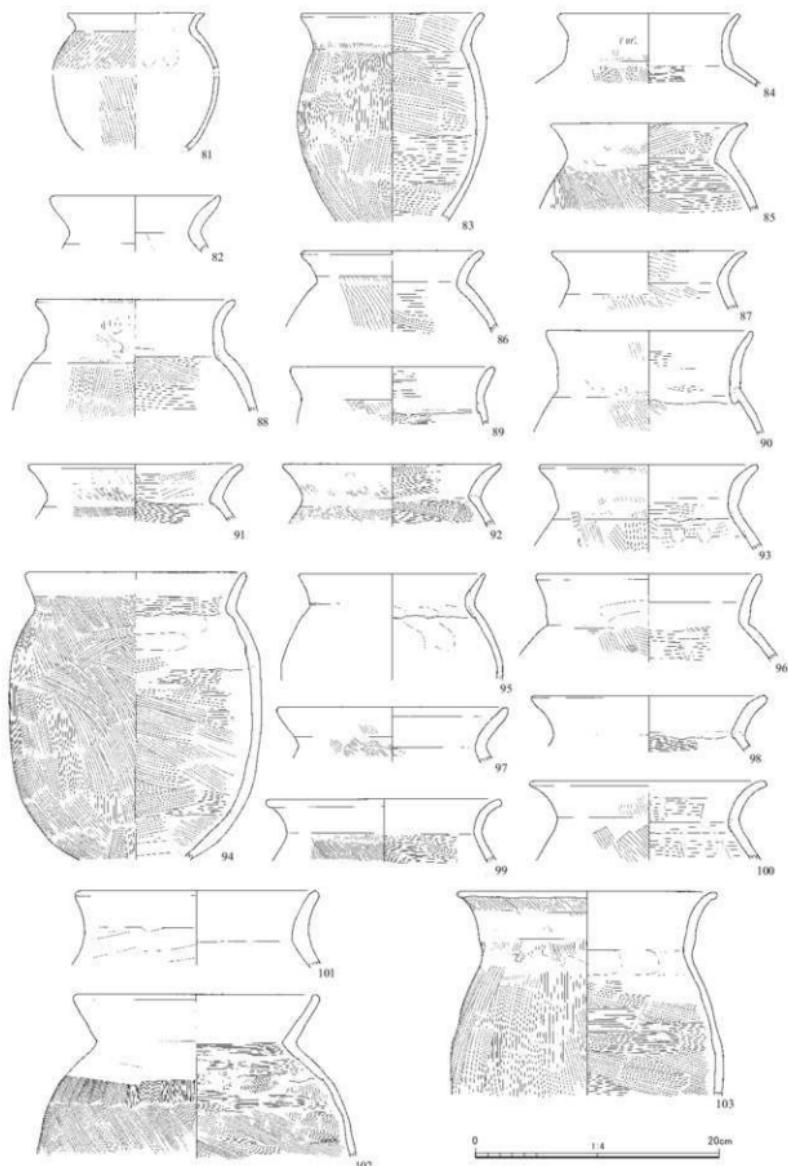


Fig.21 SX05 出土遺物 (3)

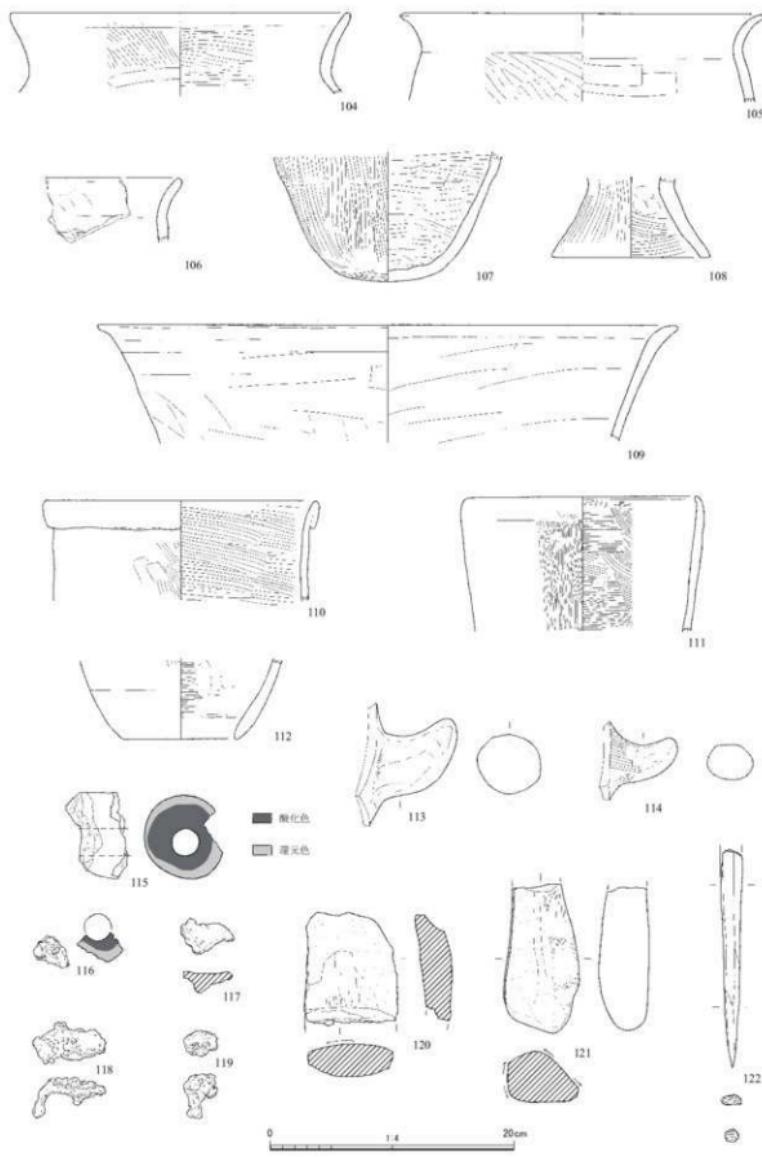


Fig.22 SX05 出土遺物 (4)

(6) VII b層出土遺物

概要 Fig.23～44にVII b層から出土した遺物を示す。VII b層から出土した遺物のうち、図示したものは563点(SX05出土遺物を含むと685点、弥生時代の混入品まで含めると735点)である。以下、須恵器(123～293)、土師器(294～627)、土製支脚(628～632)、玉類(633～642)、土製品(643～651)、漆が付着する土器(652)、輪羽口・鉄滓(653～657)、砥石・叩石(658～670)、木製品(671～685)の項目に分けて紹介する。

須恵器 (Fig.23～27) 123～293はVII b層から出土した須恵器である。坏蓋・坏身(123～222)の比率が多いが、高坏(223～246)、広口壺(247～254)、長頸壺(255～263)、短頸壺(264～268)、甌(269～274)、提瓶(275～276)、横瓶(277)、甕(281～293)などの器種が認められる。帰属時期が明瞭な坏蓋・坏身(123～222)に注目すると、123～138、175～189といった古墳時代中期後葉～後期前半に遡る形態が一定量含まれることが分かる。これらの遺物は、下層にあるVII層からの混入品であると評価できる。VII b層から出土する坏蓋・坏身の中心的年代は、陶邑編年におけるTK43型式期(遠江Ⅲ期中葉)にあると評価できる。坏蓋・坏身以外の土器においても、この年代観から大きく矛盾するものはない。以下、特徴的な事柄について触れておきたい。

古墳時代中期に遡る坏蓋・坏身の時期については、123や175はTK208型式期に、124～127や176～179はTK23～47型式期にそれぞれ位置づけることができる。後述する無蓋高坏225もTK208型式期に位置づけられ、伊場大溝出土須恵器の時期はTK208型式期を大きく遡らないことが明確になった。これら古墳時代中期の遺物は本来、最下層のVII層に含まれることから判断すると、伊場大溝の形成期は、TK208型式期、実年代では5世紀後葉頃と捉えられる可能性が指摘できる。

古墳時代中期に遡る須恵器はほとんどが大阪府陶邑産とみられるが、製作時期が若干降ると東海地方産の須恵器がみられるようになる。尾張系といえる坏蓋・坏身には、132、138、186などが知られる。また、遠江産の須恵器で生産地が比較的明瞭なものとして、132(湖西市峰場窯産)、180(袋井市衛門坂窯産)などがあげられる。

高坏(223～246)は、無蓋高坏(225・226)や有蓋高坏(224)などVII層からの混入とみられる製品が多い。また、半球形状の坏部をもつ個体(243、244)には、若干新しい傾向を認めることがあるだろう。なお、246は、同時期の土師器高坏に似た形態をなしているやや特殊な形態である。

広口壺(247～254)にも、VII層からの混入品を多く認めてよい。254は短い口縁部に球形の胴部をもつ特異な形態である。器壁は絶じて厚いが、全体の厚みは不揃いである。外面はタキによつて調整されているが、内面はナデの痕跡が明瞭である。現地調査の地点ではVII b層に帰属する遺物と判断したが、出土位置からは、VII a層(飛鳥時代)に伴っていた可能性もある。

278は、小型の壺の蓋と考えられ、上面に細かな刺突がみられる。279は把手付の碗とみられるが、把手の大部分と口縁、底部を欠損しており、全般的な形状が不明確である。280は器台状の脚部であるが、上端部が外側に彎曲している。脚付の壺の脚部である可能性もあるだろう。

土師器 (Fig.28～41) 294～627はVII b層から出土した土師器である。内輪坏(294～315)、台形鉢(316～320)、模倣坏(321～340)、有稜坏部高坏(341～405、409～416)、長脚高坏(406

～408、417～432)、鉢形坏部高坏(433～466)、二重口縁壺(467～474)、折返口縁壺(475～482)、長頸壺(485～491)、鉢(494～512)、瓶(513～532)、壺(533～627)などの器種が認められる。土師器についてもVII層から流れ込んだ古墳時代中期後葉から後期前半の遺物が混入しているが、概ね古墳時代後期前半頃に時期的な中心があるとみてよい。以下、特徴的な事項について記す。

306の内縁坏には外面に丁寧なミガキ調整がなされている。駿河からの搬入品の可能性がある。模倣坏は蓋模倣(321～329)と身模倣(330～340)の双方が認められる。321の模倣坏は精良な胎土を用い焼成も良好である。遠方地域からの搬入品の可能性がある。

有稜坏部高坏には341・342など中期に遡る形態のものが含まれるが、大多数が後期的形態といえる。脚部内面を中空にするもの(363～402)と、中実にするもの(409～416)があり、後者には長脚化の傾向が認められる。長脚高坏は完形のものが知られないが、外反する坏部をもつ406～408が相当するだろう。鉢形坏部高坏には、口縁端部がく字形に明確に屈曲するもの(433～443)と屈曲が不明瞭なもの(444～449)が知られる。後者の坏部には、446など模倣坏状の形態をなす個体がみられる。

二重口縁壺(467～474)や折返口縁壺(475～482)、長頸壺(485～491)などは古墳時代中期から後期前半の形態であり、VII層からの混入品と捉えることができる。485の長頸壺や、鉢(494～512)の中に底部に籠目を残すもの(496・502・504)がある。籠目を残す製作技法も古墳時代中期的な特徴である。

瓶(513～532)は胴部が短く、底部の開口部はすべて単純である。また、口縁端部を折り返すものが多い。形態的特長からは、VIIb層の埋没時期である後期前半に中心があることを示している。

壺(533～627)の中には宇田型壺(533・534)が認められ、後期前半以前の個体が少なからず混入していることを示している。

535は完形の台付壺であるが、厚い造りの脚台部をもち、イタナデもしくはナデ調整されている点で特異である。関東地域などからの搬入品の可能性があるが、その故地は明確にできない。VIIb層からは608～625に示すように、台付壺の脚台部が一定量出土している。一般的に後期には台付壺が消滅するとみられているが、在来形態の台付壺がある時期まで残存している可能性が考えられる。

626や627は、高い温度を受けて変形した壺の口縁である。土器の器壁は発泡し、表面がひび割れている。

土製支脚 (Fig.41) 628～632は土製支脚である。土製支脚には、横断面が正方形のもの(628～630)と、円形のもの(631・632)の2種が認められる。628は遺存状態が良好で、表面には稻穂の圧痕が大量にみられる。土製支脚の製作時に、稻穂を混ぜ合わせたものと考えられよう。

玉類 (Fig.42) 633～642は玉類である。633～635、639はガラス製、636・638は滑石製、637は蛇紋岩製の小玉である。ガラス玉の色調は、635が水色、633、639が紺色、634が緑色である。640は蛇紋岩製、641・642は碧玉製の管玉である。640は両面穿孔、641・642は片面穿孔である。玉類には滑石製品が含まれることから、VII層中からの混入品が含まれる可能性が高い。伊場大溝の埋土の量が膨大であることに対して玉類の出土状態が散漫であるため、玉類の検出作業は粗くならざ

るをえなかった。本来はさらに多くの玉類が伊場大溝中に含まれているとみられよう。

土製品 (Fig.42) 643～651は土製品である。土製品には、紡錘車 (643・644)、土錘 (645～651) がある。土製紡錘車のうち、643は直径3.5cm、644は直径4.3cmと若干の大きさの違いがある。

645は水滴形を呈した土製品で、頂点に偏った部分に穿孔がみられる。孔は紐ずれによる摩滅が顕著で、頂点の側面にも紐ずれの痕跡が残る。これらの使用痕跡から、孔に紐を通して使用していくことが判明する。想定できる使用方法から、645は土錘であった可能性が高いだろう。

646～651は円筒形の土錘である。646は直径1.4cm程度の小型の土錘で、647～651は直径3～4cm程度の中型の土錘である。651の表面には稲穂の圧痕が顕著である。

漆付着土器 (Fig.42) 652は漆が付着した須恵器の坏である。須恵器の坏を漆塗りの容器として使用したもので、数層にわたり漆が付着している。破片の断面にも漆が付着しており、土器が破損してから使用していたことが分かる。今回の調査では、上層のⅦa層においても、漆付着の須恵器 (Fig.65-569・570) が出土している。

輪羽口・鉄滓 (Fig.42) 653は輪羽口が付着する鉄滓、654～656は輪羽口、657は鉄滓である。653は輪羽口が僅かに遺存しており、その延長上に鉄滓が付着している。輪羽口はいずれも暗灰色を呈する還元域と赤褐色を呈する酸化域が明確に観察できる。輪羽口・鉄滓は同じⅦb層のSX05からも出土しており、伊場大溝中ではこの層が最も出土量が多い。

砥石・叩石 (Fig.42) 658～669は砥石である。いずれも凝灰岩を使用したもので、側面形態が面的に整えられたもの (658・659・664) と自然石の状態を残すもの (660～663、665～669) の2者が認められる。658は一箇所の穿孔がみられるもので、提砥として使用されたものである。

670は輝緑岩製の叩石である。片側に使用痕が認められる。

木製品 (Fig.43-44) 671～685は木製品である。Ⅶb層から出土した木製品には、鉢 (671～674)、木錘 (675～677)、櫛 (678)、アカ取り (推定、679)、底板 (682)、槽 (684)、横櫛 (685)などがあり、このほかにも不明品を3点 (680、681、683) 図示する。

671・672・674は、曲柄平鉢である。前二者はコナラ属アカガシ亜属を用いており、鉄製鉢先を装着していた痕跡が認められる。673は曲柄又鉢の一種とみられる。木材は曲柄平鉢と同様、コナラ属アカガシ亜属を用いている。実測図の復原線に示すように、本来は先端が3方向に分かれていたとみられるが、現状では中央の一本しか遺存していない。先端は角が切断されていて多角形状を呈している。

675～677は木錘である。675・677はアスナロ属、676はモミ属を用いている。いずれも柱状の素材に抉りを彫り込んで成形しているが、形態や大きさは多様である。676の端面の一端は切断したままの状態で小口面が明確である。

678は櫛である。遺存長54.3cmであり、柄は欠損している。木材は、コナラ属アカガシ亜属を用いている。679はアカ取りの可能性が高いが、遺存状態が悪く形態の詳細は不明である。アカ取りと捉えた場合、把手から底面の先端まで遺存しているが、側面の殆どが欠損しているとみられる。

680は先端が加工された棒状品である。681は両端に三角形の切り欠きがみられる板状の製品で、両端は欠損している。682は円形の底板である。側板をあてるための溝や段がなく、曲物の底板と

は断定できない。むしろ剣物桶などの底板である可能性も考慮してよいだろう。底板側面が直接側面の部材に接合される構造である。底板側面には釘が打ち込まれた痕跡が7箇所みられる。また、底板表面には刃物があてられた痕跡が無数に残っている。683は先端に突起がみられる棒状品である。片側が欠損しており、種別の特定はできない。684は把手付の槽である。木材はアスナロ属を用いている。両側の短辺に把手が取り付くとみられるが、片方の把手は欠損している。

685は横櫛である。歯の大部分と本体の3分の2ほどを欠損している。木材は、ツゲ属ツゲを用いている。いわゆる刻歎式横櫛に分類できる形態である。本体部と歯部には僅かな段が彫りだされている。

年代 以上、VIIb層から出土した遺物を紹介してきた。弥生時代後期から古墳時代前期の遺物(Fig.13・14)は明らかに周囲の集落からの混入品と認定できるが、VII層から混入したとみられる古墳時代中期後葉から後期前半の土器にかんしては、それ以後の時期との連続性が高く、VIIb層本来に含まれる遺物との分離は難しい。VIIb層から出土する遺物の主体的な時期は古墳時代後期後半(6世紀後半)ということができるが、若干の時期幅をもって捉えておく方が妥当である。

よって、土器以外の土製品や石製品、木製品についても古墳時代中期後葉まで遡る可能性は否定できない。いっぽうで、VIIb層出土遺物には飛鳥時代に降るもののがみられないで、年代の下限は古墳時代後期後半と捉えてよいだろう。

(7) 小結

鳥居松遺跡5次調査で確認できた伊場大溝各層出土遺物のなかでも、VIIb層から出土した遺物が最も数が多く、種類も豊富である。弥生時代の遺物や下層のVII層に伴う遺物が混入していることもあるが、VIIb層の埋没時期を示す古墳時代後期後半(6世紀後半)に属する遺物が極めて多いことにはかわりない。さらに、VIIb層出土遺物の時期を絞り込むと、後期後半の中でも比較的古い時期、TK43型式期にその中心があるとみられる。

VIIb層の最下層に刻まれた川底溝から出土する遺物は少ないが、148、174、205といった6世紀後半の須恵器がみられることから、川底溝の埋没時期は6世紀後半代であることが確実である。川底溝の埋没年代にかんしては、梶子遺跡9次調査時の所見と同様であり、1kmほど離れた上流部と下流部において、ほぼ変わらない状況を示す調査結果が得られたといえる。

伊場大溝は、古墳時代後期後半(6世紀後半)の比較的古い時期に、膨大な水量が流れ込み新たな流路が形成されたとみられる。川底溝の存在は、その水流の激しさを物語るものといえよう。その後、川底溝は急速に埋没し、水流が安定した段階で大量の土器が川底に埋まった。円頭大刀や土器集積SX05をはじめ、VIIb層出土遺物の大多数がこの段階で埋没したものである。

短期間のうちに極めて大量の土器が埋没した理由は何か。伊場大溝の新たな流路が同時期の集落を破壊し、遺物が伊場大溝内に堆積したことも考慮できるが、円頭大刀の出土にみるように、伊場大溝に対してなんらかの儀礼行為がなされたことは確実である。VIIb層から出土する土器についても儀礼に伴って川底に沈められたものが含まれる可能性を指摘しておきたい。とくにSX05の主体的な遺物はその可能性が高いものとして評価できるだろう。

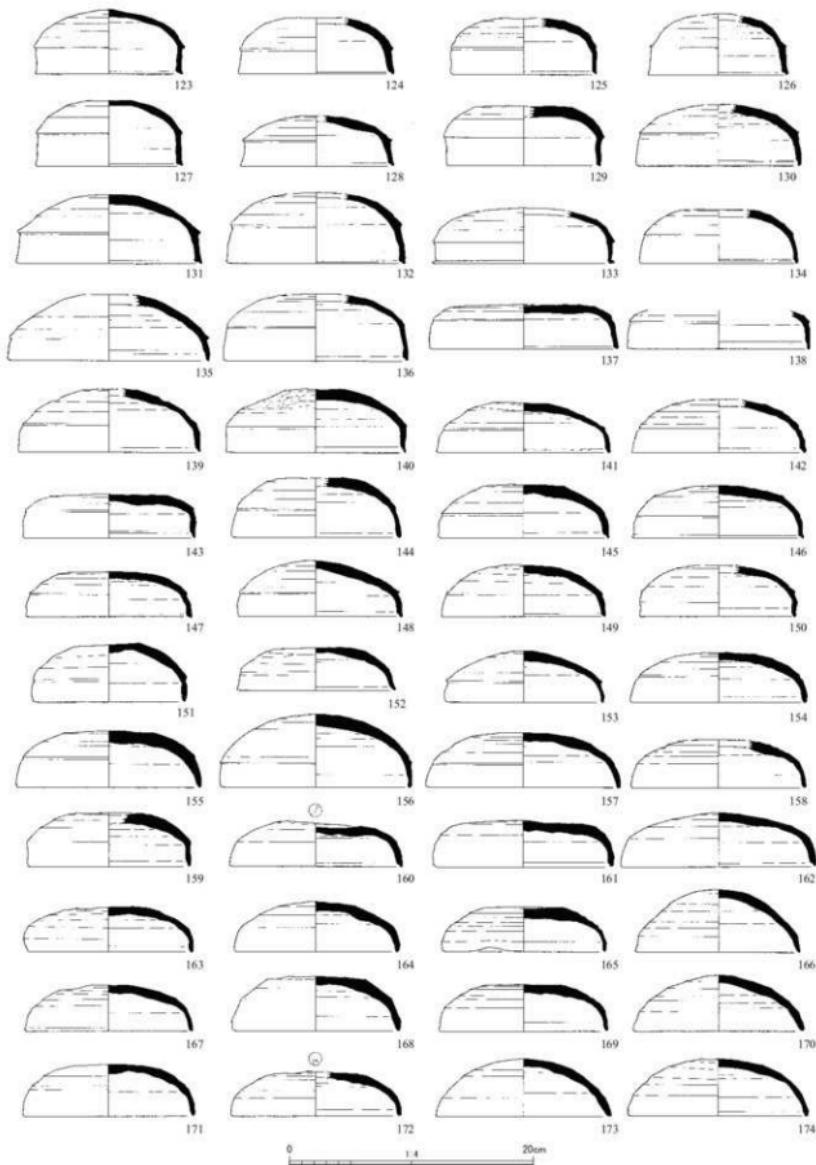


Fig.23 VII b 層出土遺物 (1)

2 VIIb層の調査

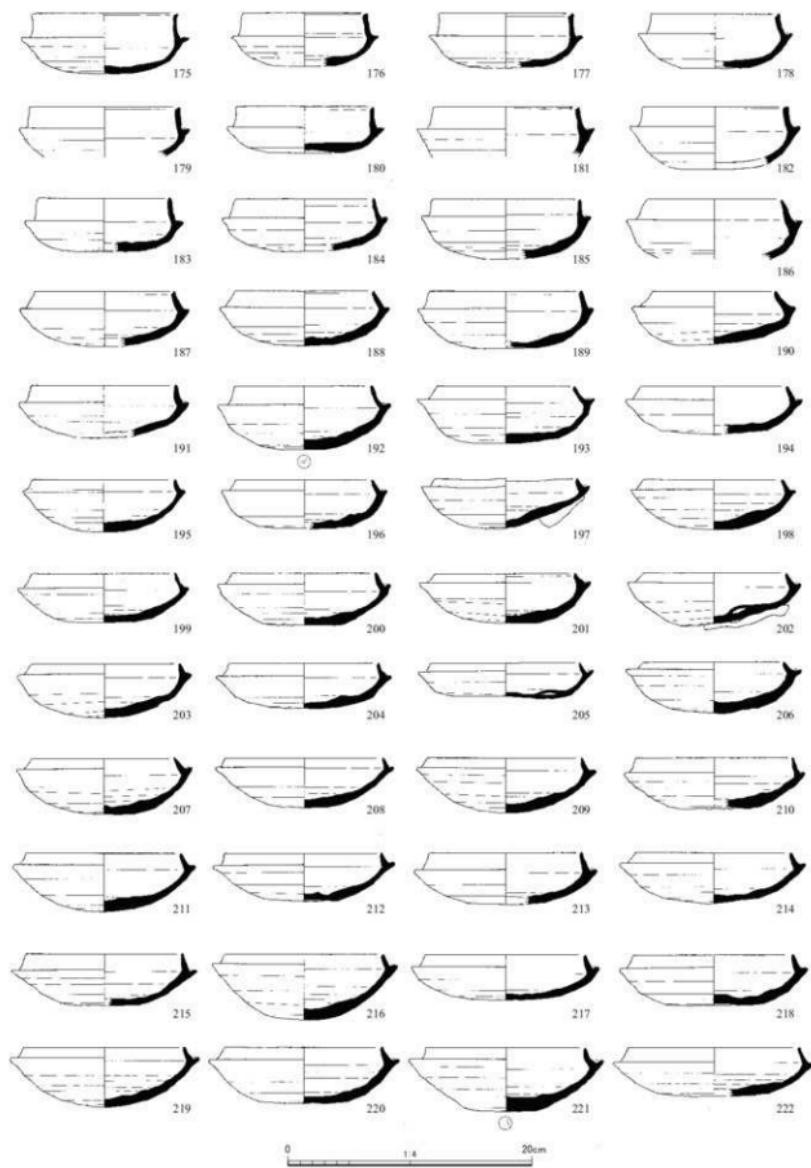


Fig.24 VIIb層出土遺物 (2)

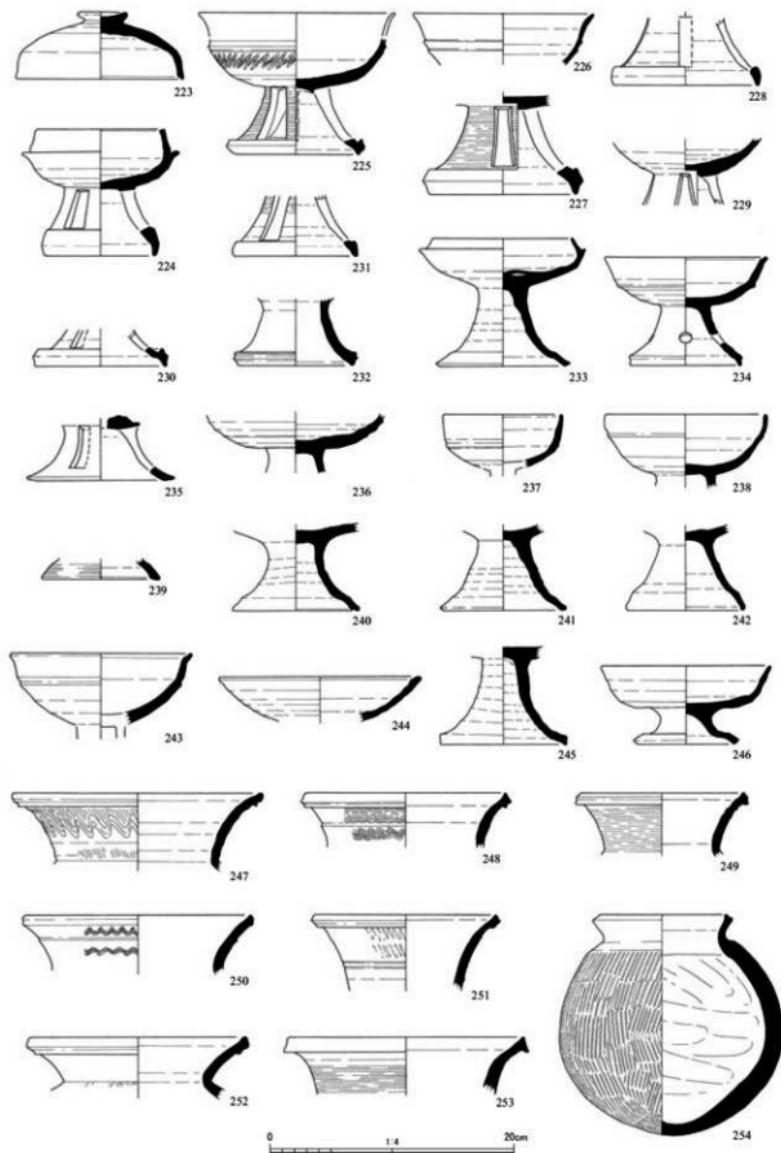


Fig.25 VII b層出土遺物(3)

2 VII b層の調査

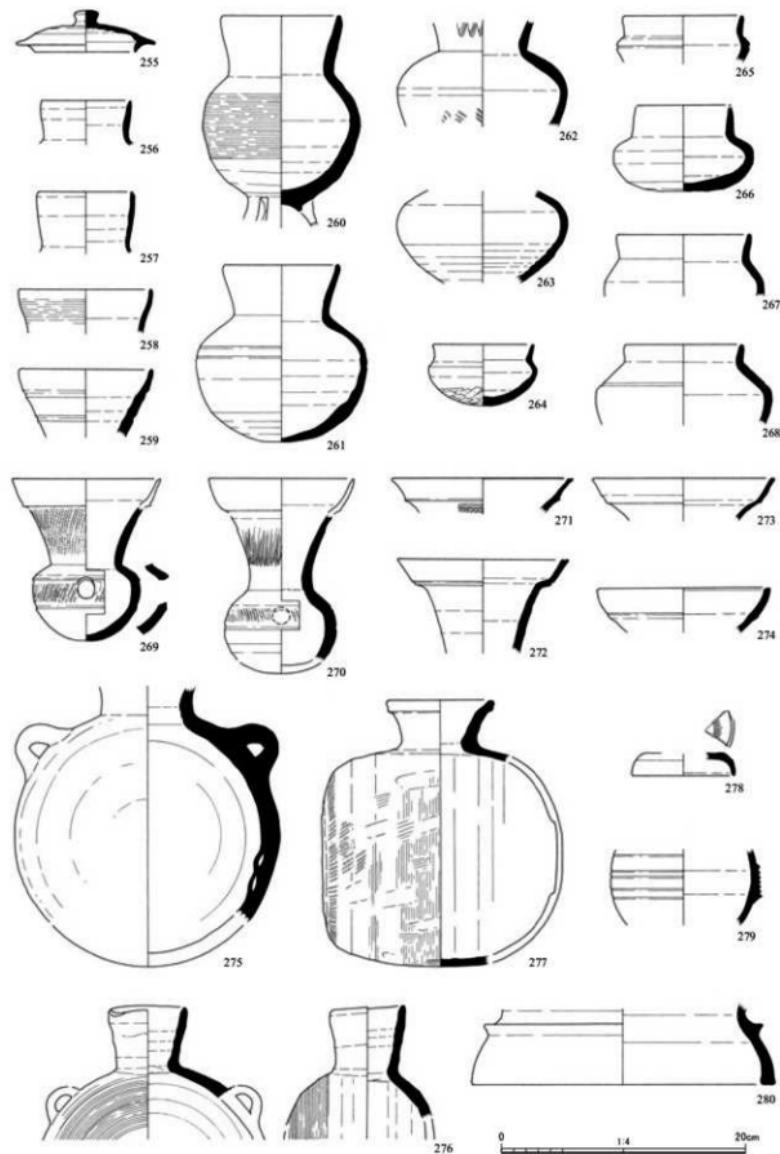


Fig.26 VII b層出土遺物 (4)

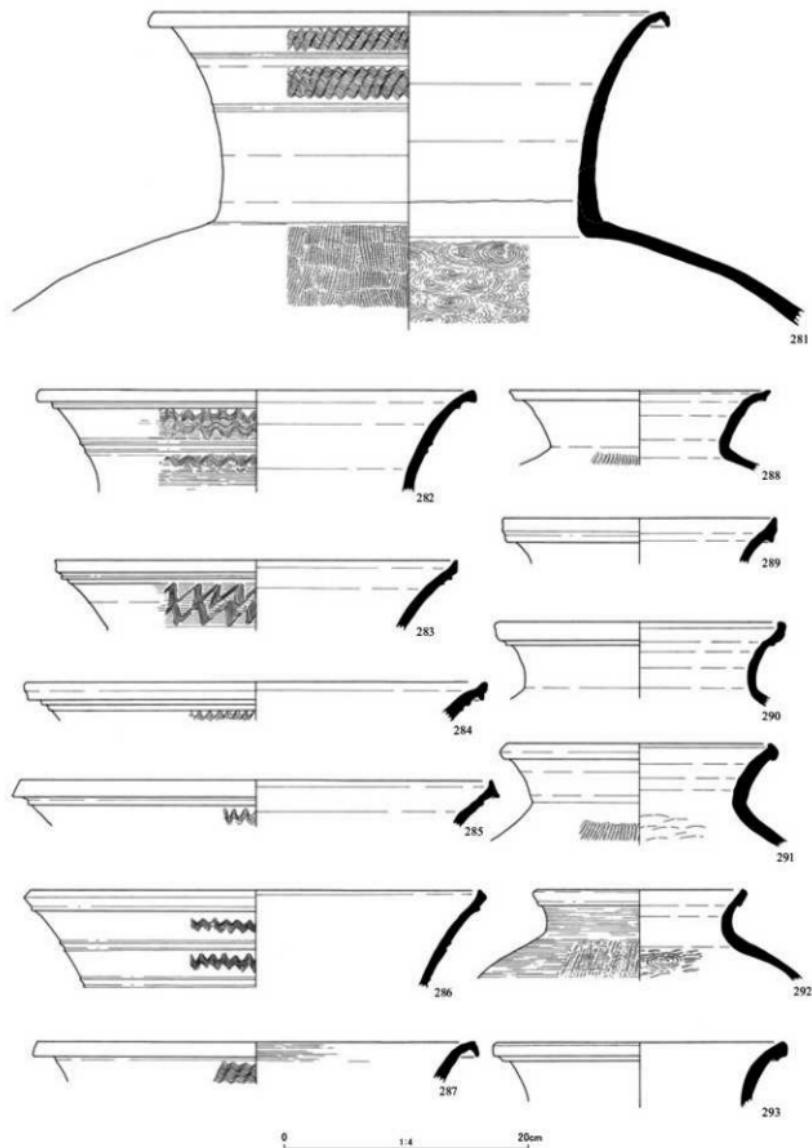


Fig.27 VII b層出土遺物 (5)

2 VIIb層の調査

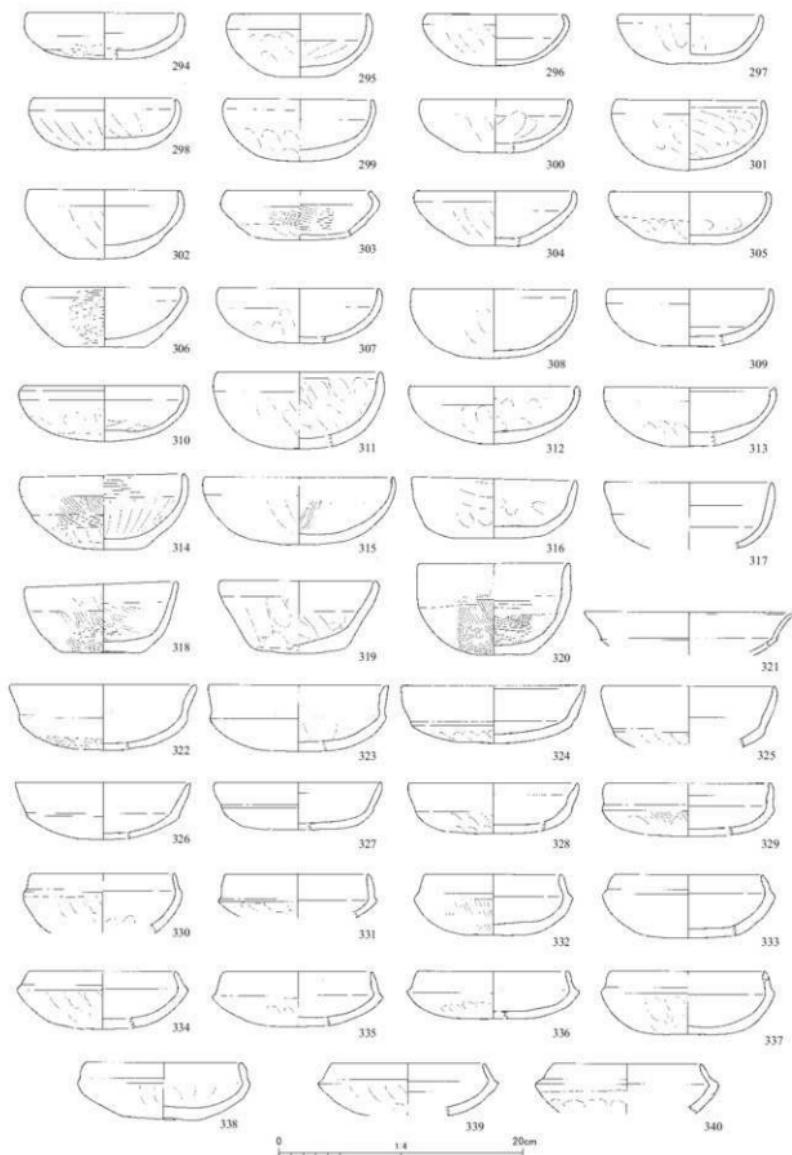


Fig.28 VIIb層出土遺物 (6)

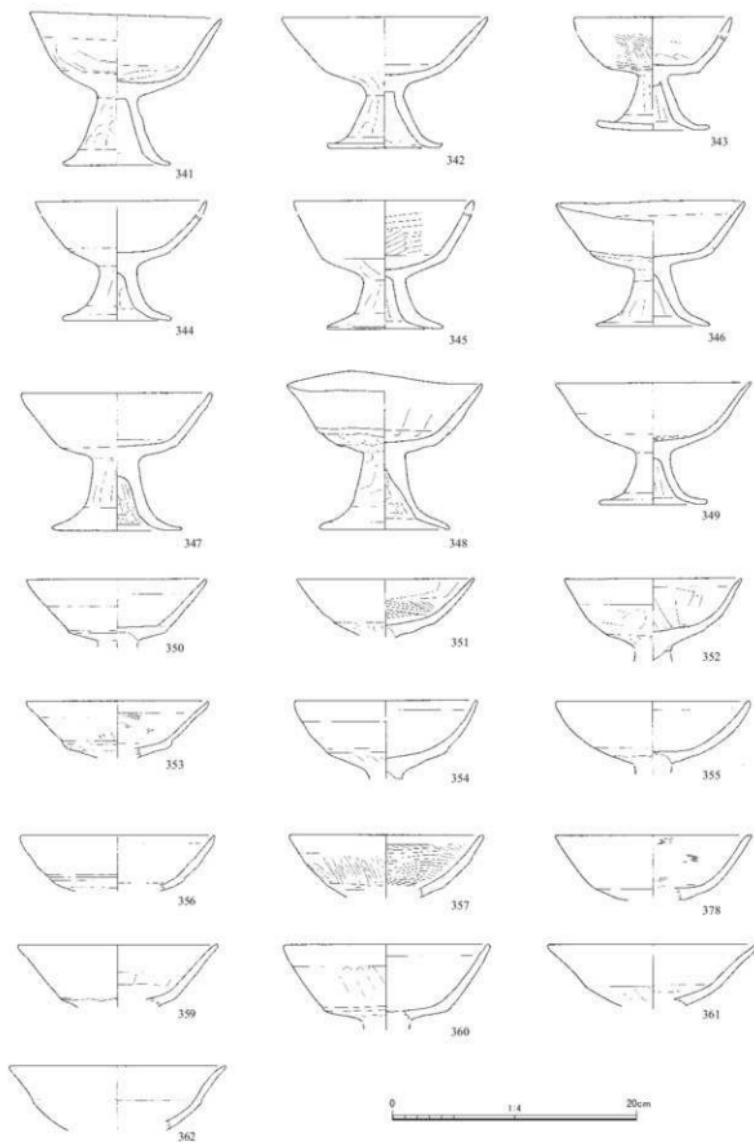


Fig.29 VII b 層出土遺物 (7)

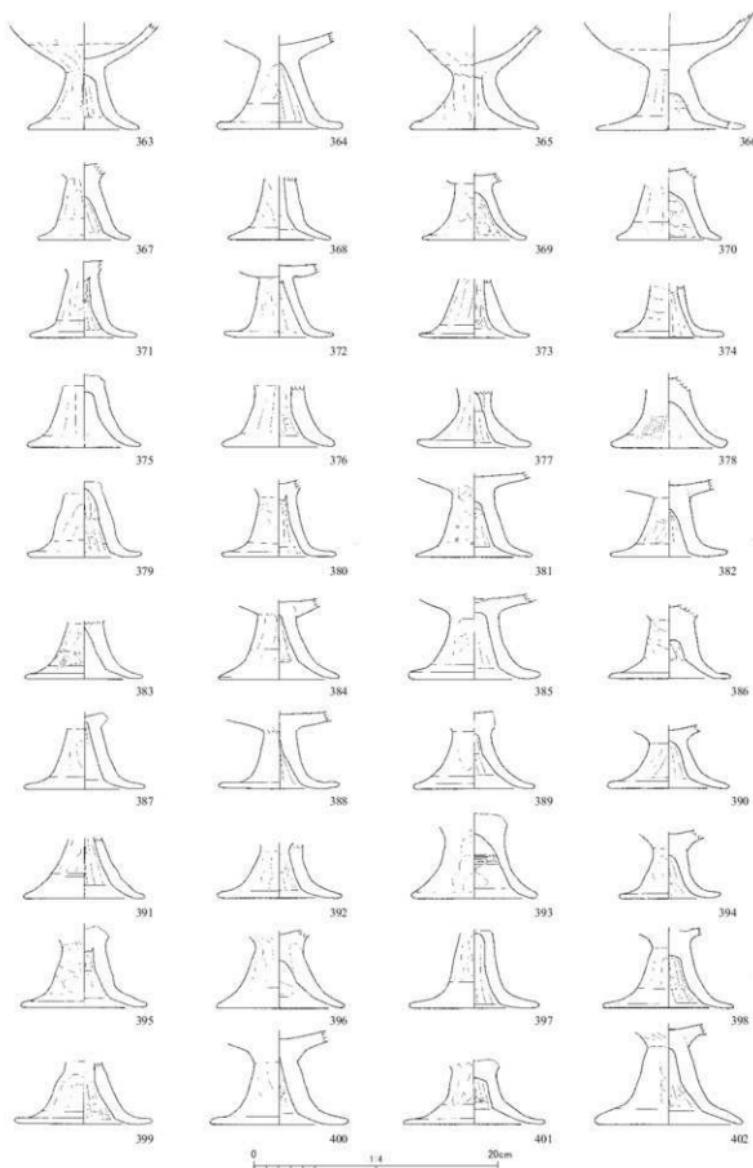


Fig.30 VIIb層出土遺物 (8)

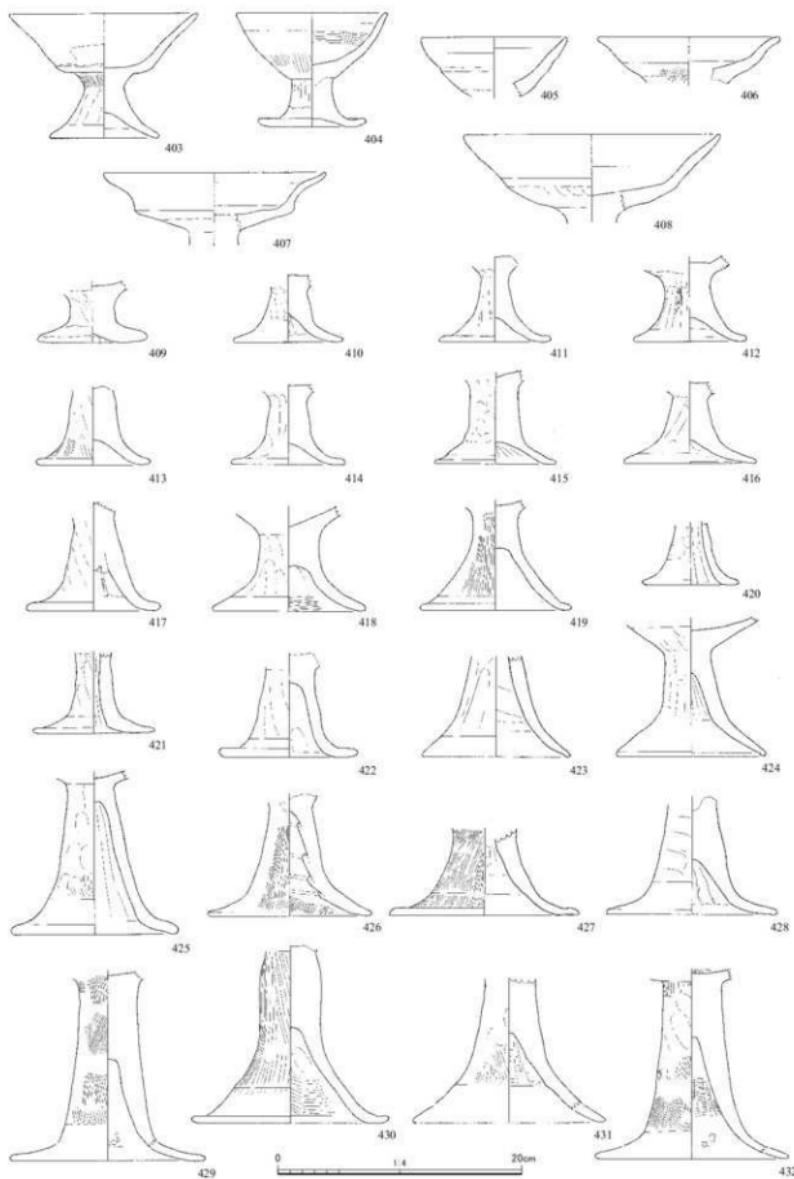


Fig.31 VII b層出土遺物(9)

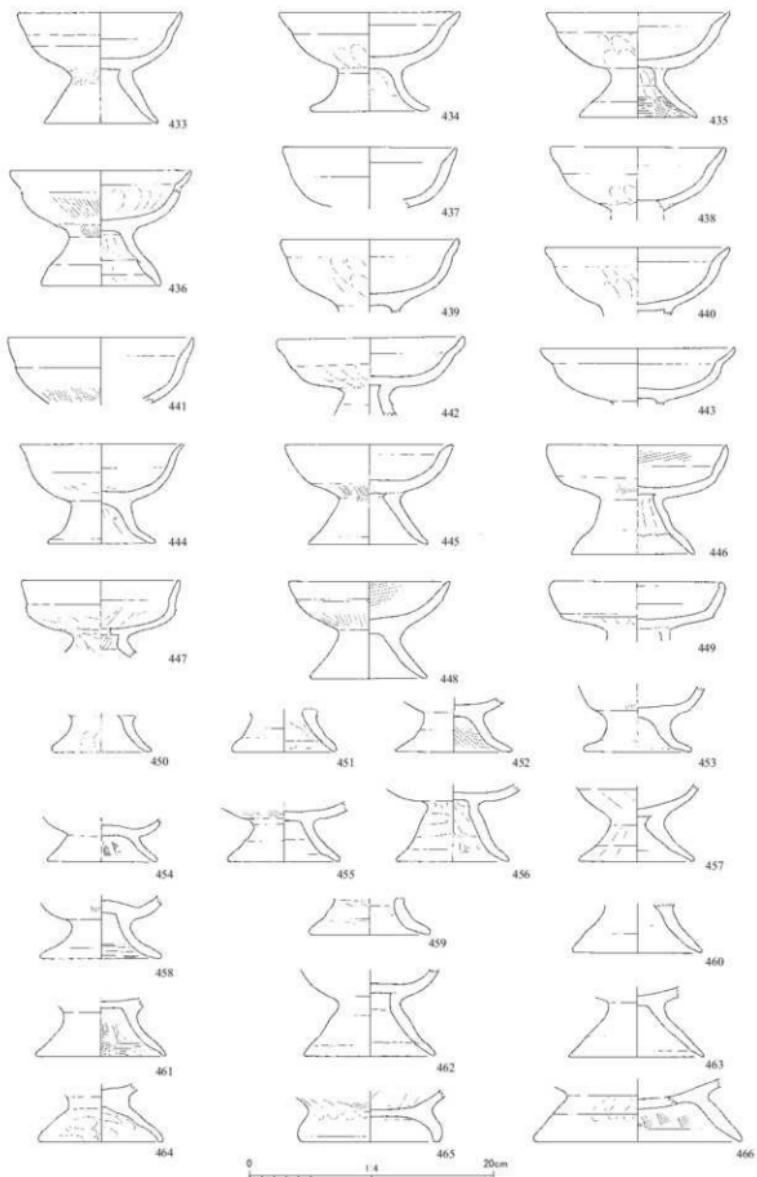


Fig.32 VII b 層出土遺物 (10)

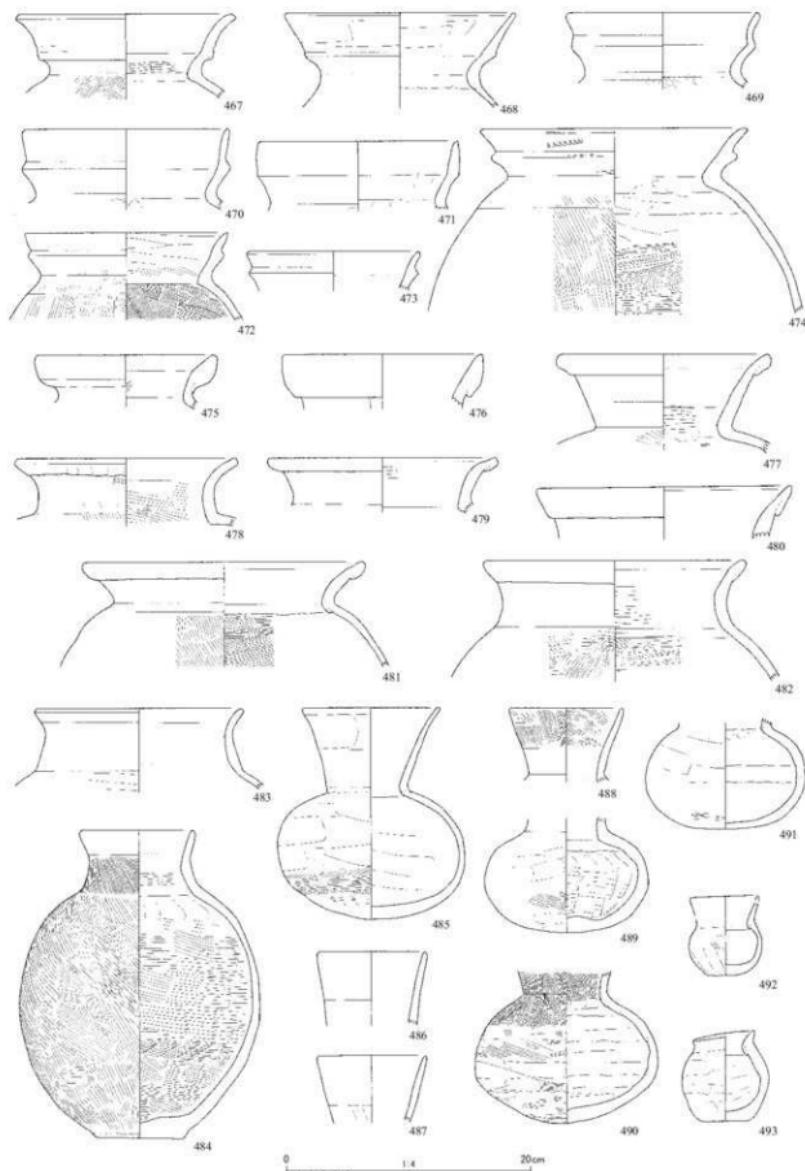


Fig.33 VII b 層出土遺物 (11)

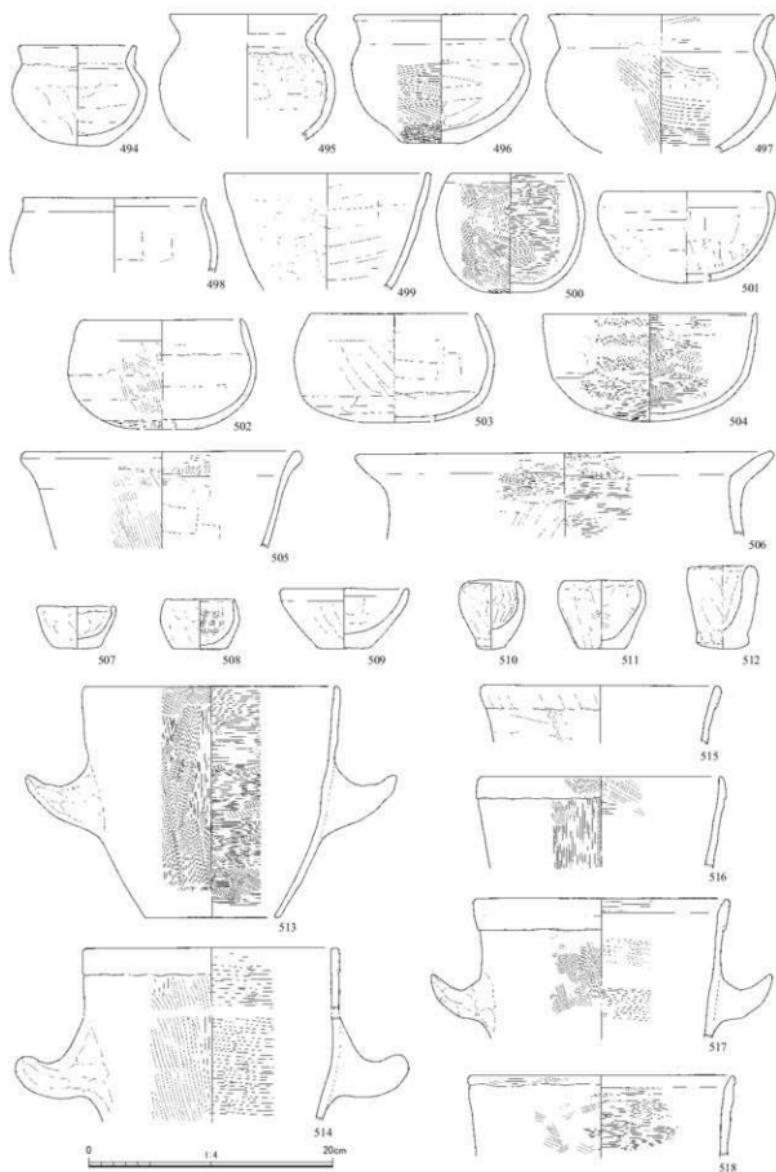


Fig.34 VII b 層出土物 (12)



Fig.35 VII b 層出土遺物 (13)

2 VIIb層の調査

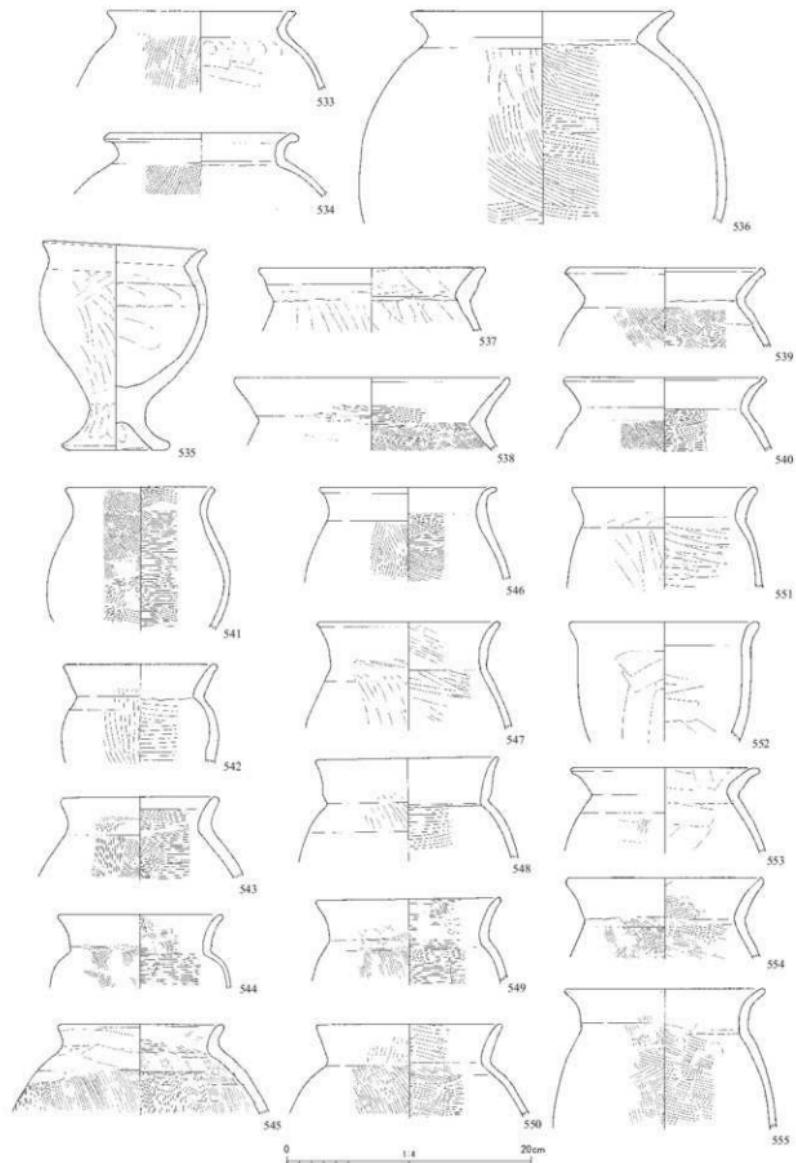


Fig.36 VII b 層出土遺物 (14)

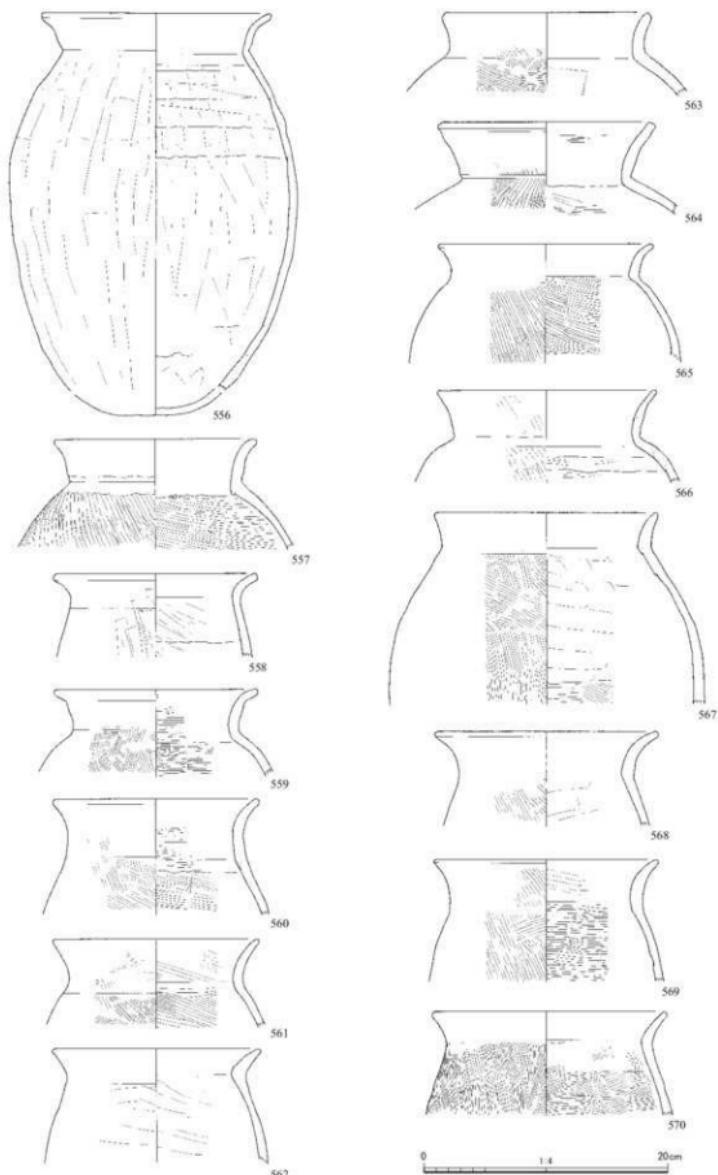


Fig.37 VII b層出土遺物（15）

2 VIIb層の調査

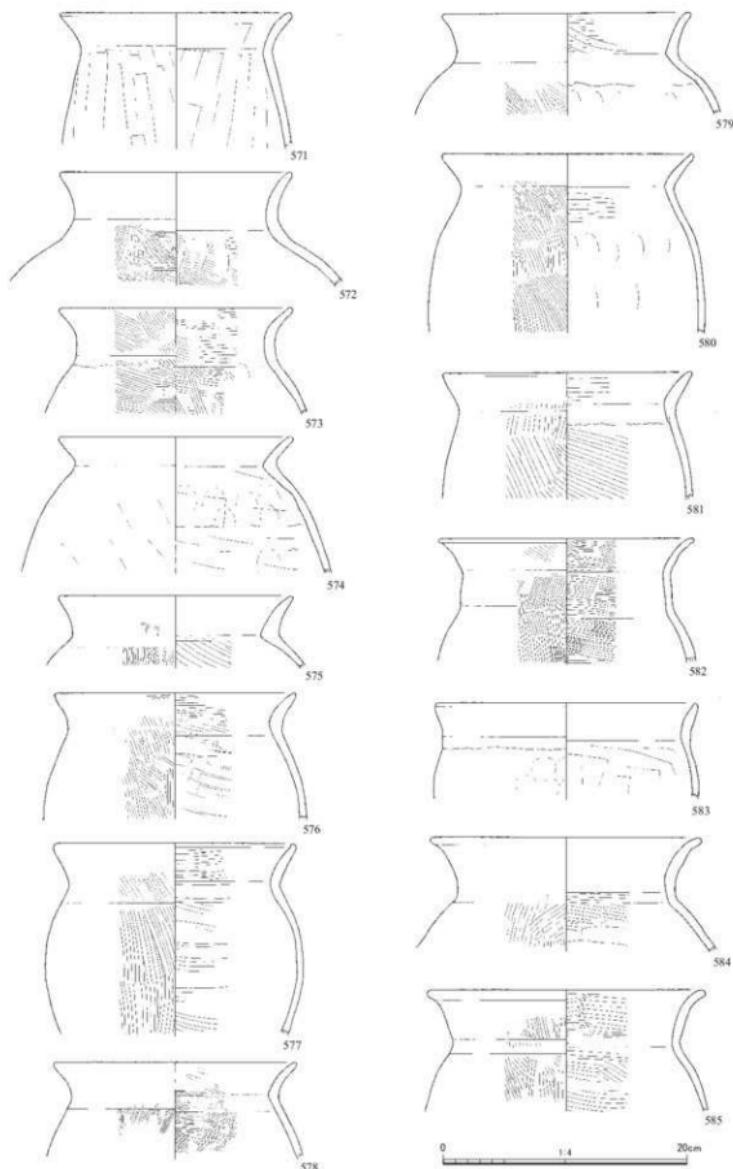


Fig.38 VII b 層出土遺物 (16)

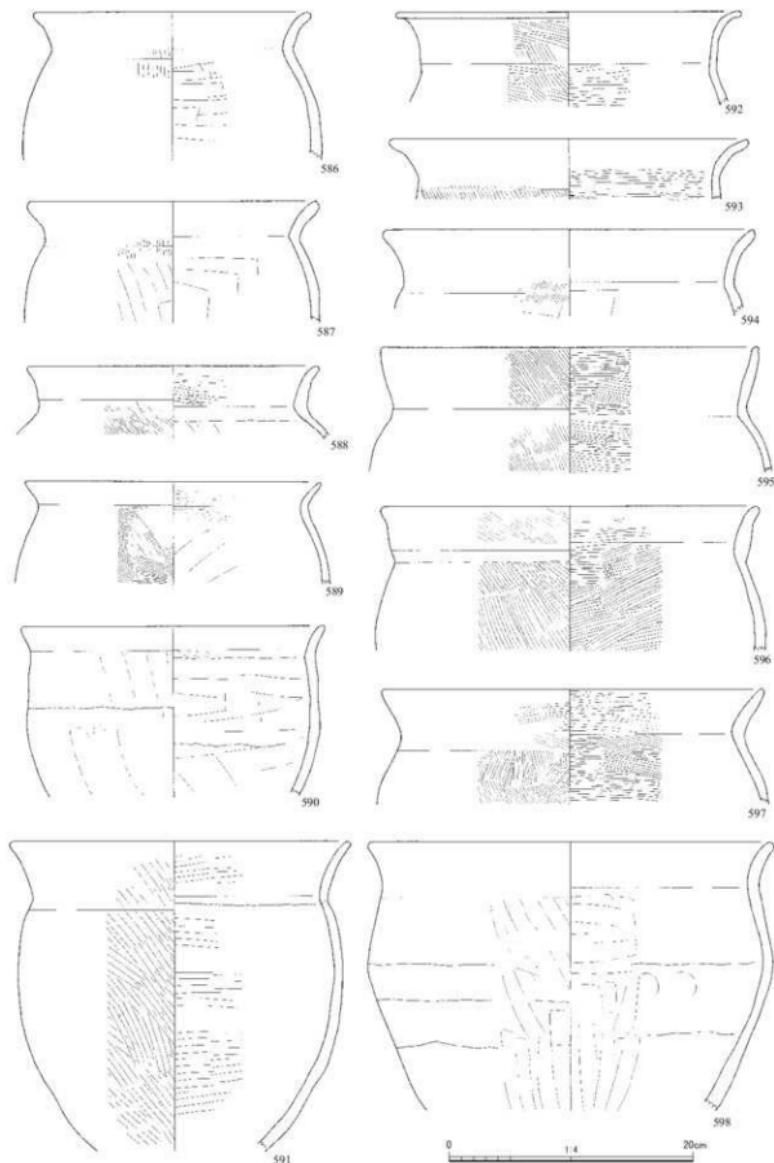


Fig.39 VII b 層出土遺物 (17)

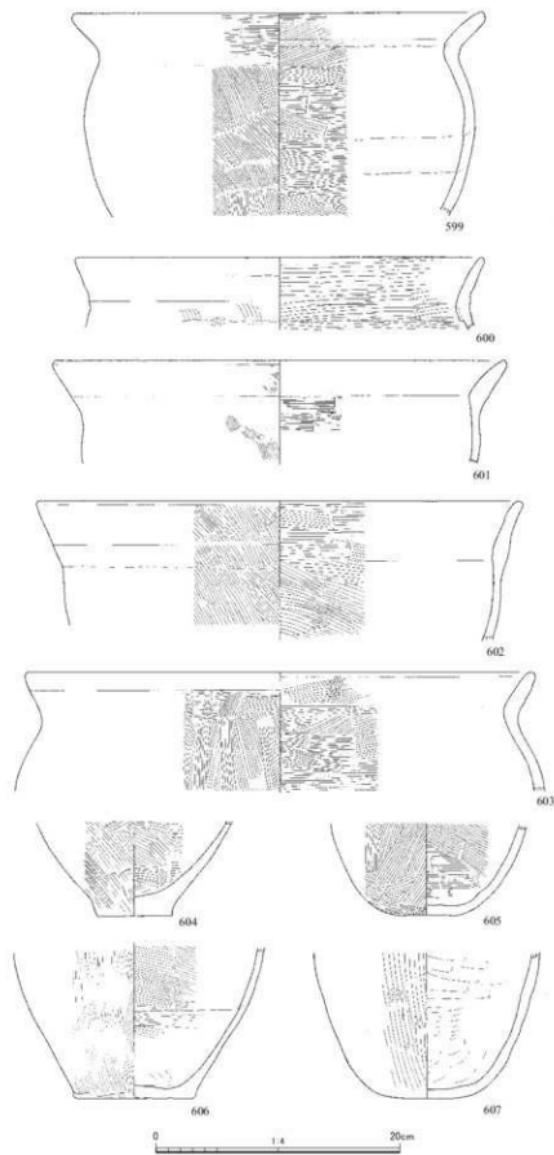


Fig.40 VIIb層出土遺物 (18)

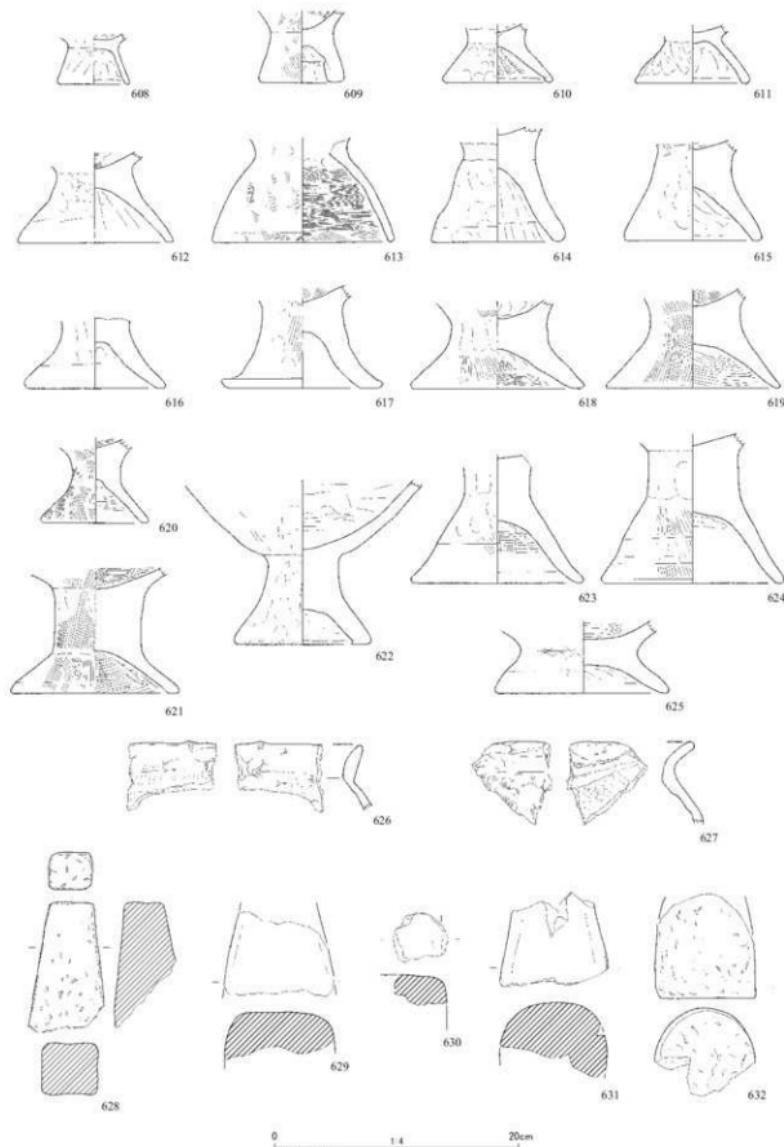


Fig.41 VII b 層出土遺物 (19)

2 VII b層の調査

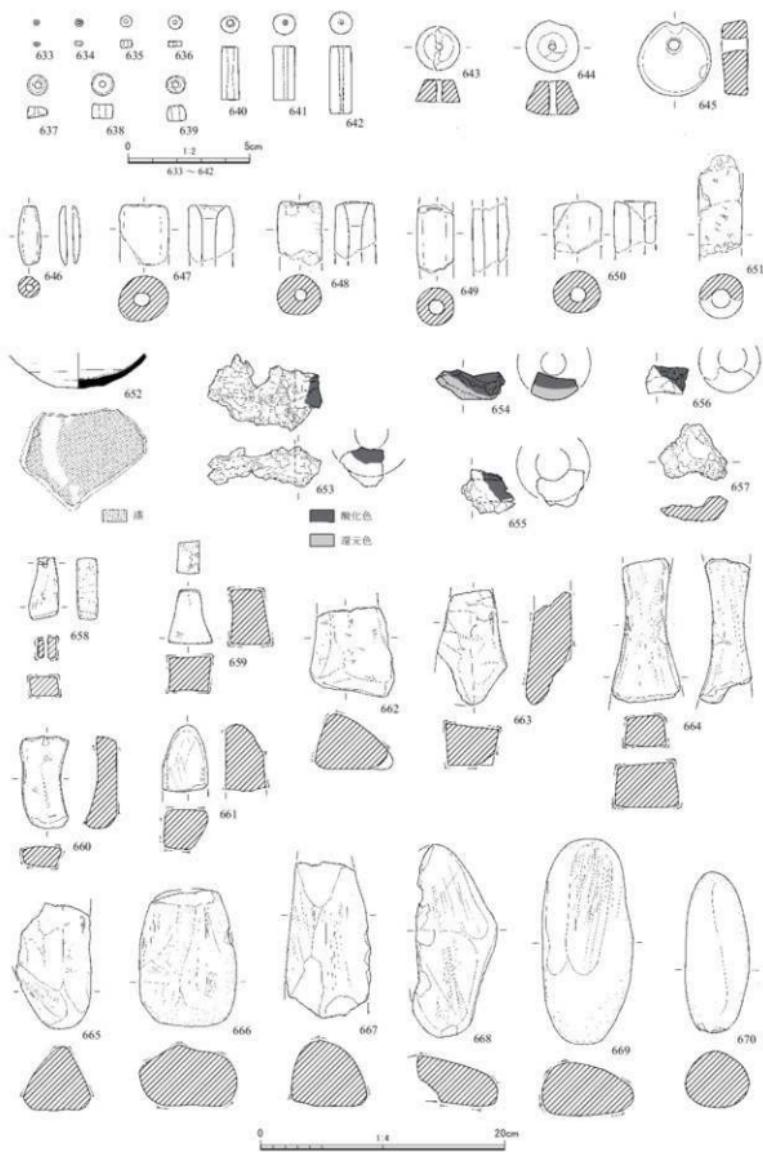


Fig.42 VII b層出土遺物 (20)

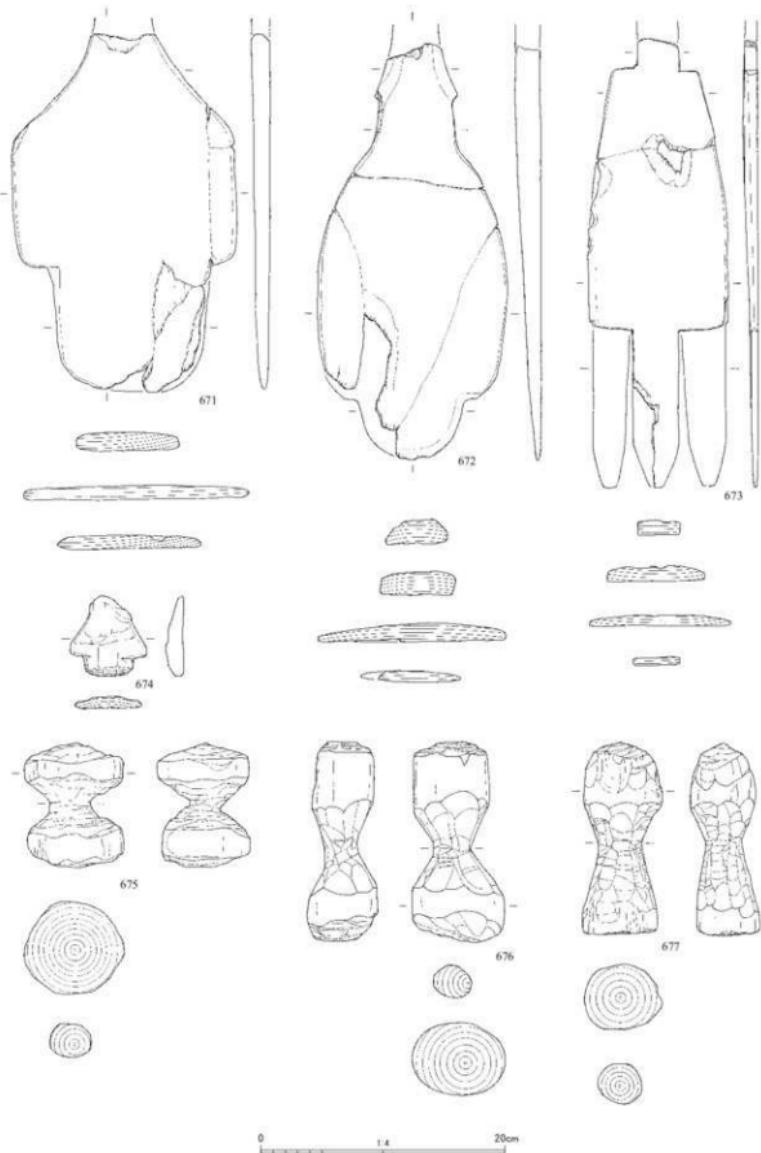


Fig.43 VII b 層出土遺物 (21)

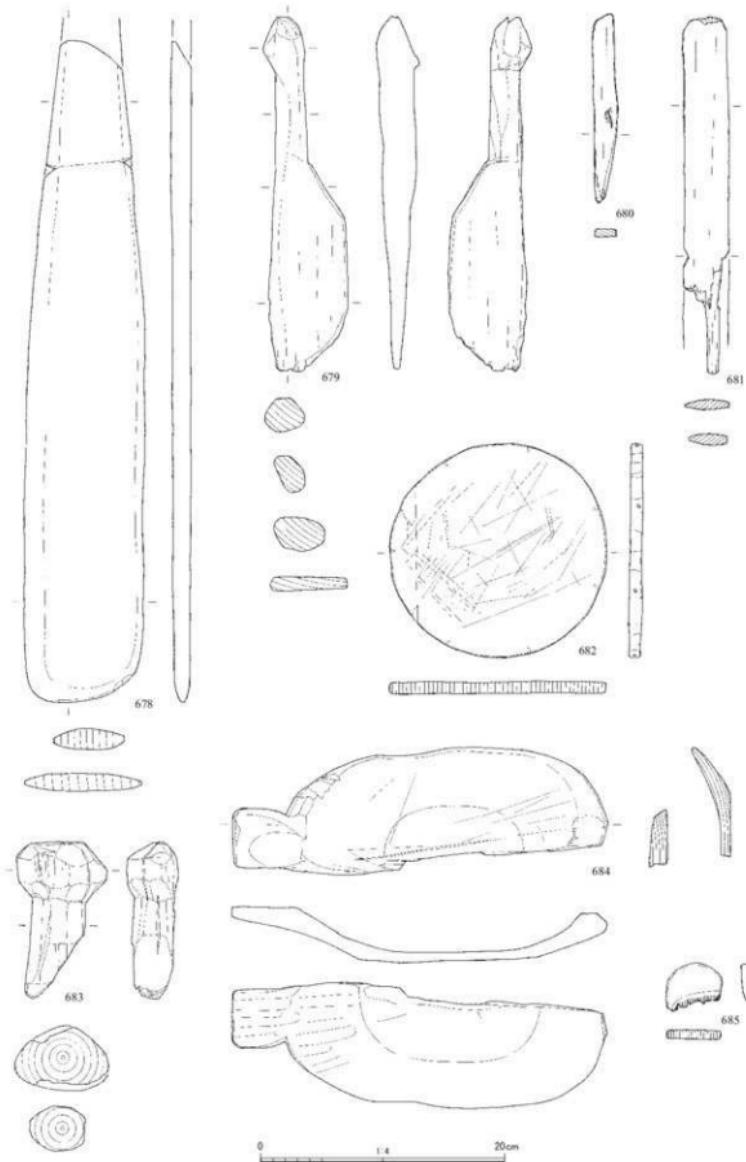


Fig.44 VII b 層出土遺物 (22)

3 VII a層の調査

(1) VII a層の概要

VII a層は、灰色粘土層と砂層が交互に堆積した地層で、飛鳥時代（7世紀）に堆積した。VII b層の堆積後、再度、伊場大溝の流路が更新され、VII a層の堆積が始まっている。調査区では北側に流路を移しており、伊場大溝の北側斜面から底面にかけての形状は、飛鳥時代になって新たに掘り込まれたものである。この段階の流路変更は大規模なものではなく、僅かな移動である。

出土遺物は、大量の土器のほかに、耳環や円形銅板などの金属製品や、木製品が含まれる。木製品には斎車や馬形などの祭祀具が含まれ、伊場遺跡群における初期官衙の形成を物語っている。

(2) 伊場大溝の形状

VII a層が堆積した伊場大溝の本来の形状がうかがえる部分は、北側斜面の-1.0m以下の部分から川底を挟んで南側斜面の0.0m以下の部分である。底面の標高は-1.8m～-2.0mで若干の起伏がある。VII a層中の砂層は水平堆積ではなく、南側斜面に貼り付くように北に向かって下がる傾斜をもって堆積している。伊場大溝の最深部は北側斜面に偏っており、斜面の傾斜も北側が急で南側は比較的緩やかである。北側が攻撃斜面にあたり流れが激しく、これに対して南側の流れは比較的穏やかであったとみられよう。

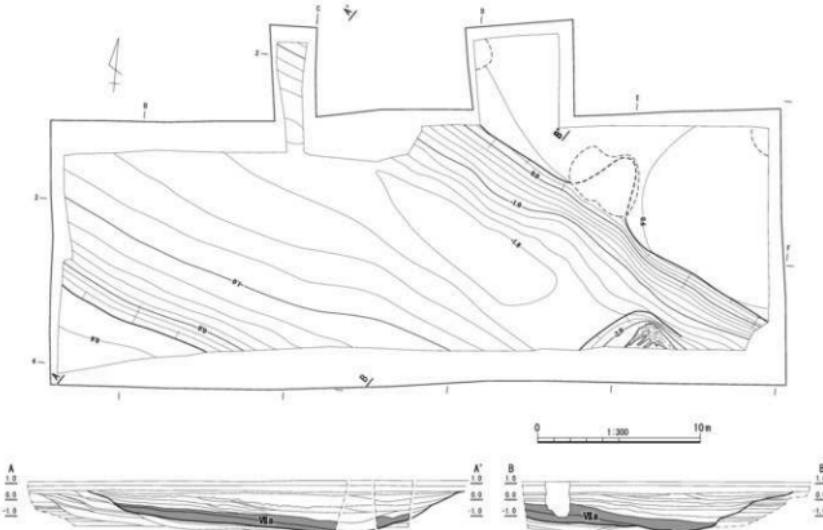
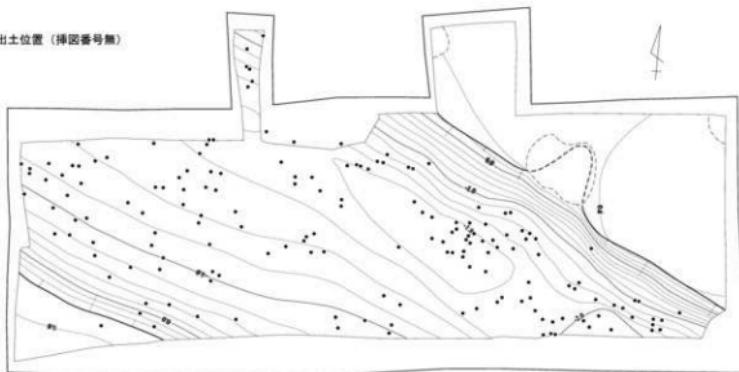


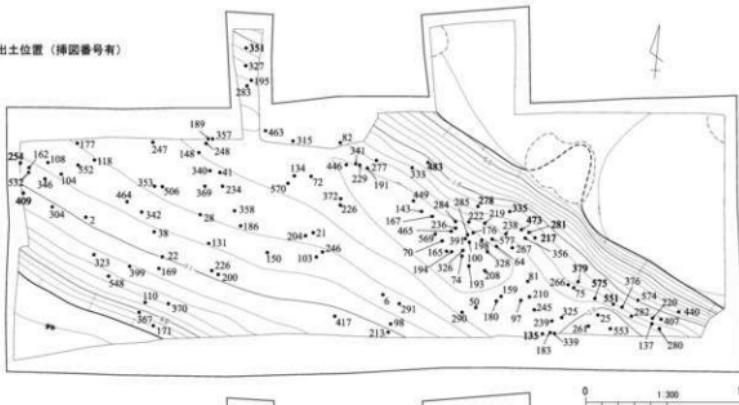
Fig.45 伊場大溝VII a層

3 VIIa層の調査

遺物出土位置（拠図番号無）



土器出土位置（拠図番号有）



石製品・木器等出土位置（拠図番号有）

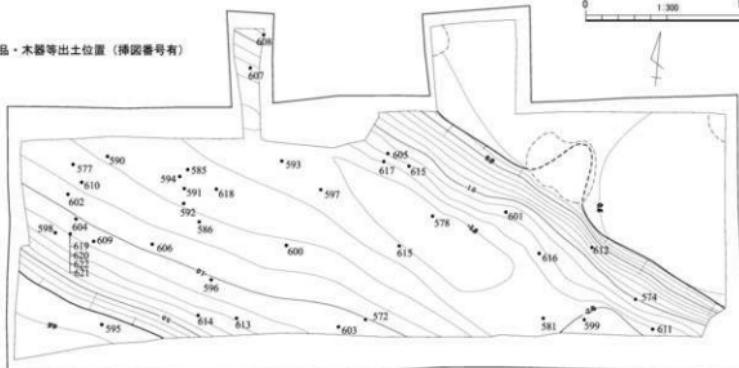


Fig.46 VIIa層における遺物出土位置

調査区の南東端において、枝を残す大きな流木が底面に埋没している。流木の周りの水流が激しかったのか、この部分だけは非常に深くなってしまっており、底面は標高-2.2m以下までに至っている。流木の出土位置が深く、かつ流木そのものが大きかったため撤去できず、正確な底面の標高は確認できていない。なお、この周囲では遺物は全く出土しなかった。

VII a 層の堆積は南北の両岸に跨るので、伊場大溝の規模が想定できる。VII a の堆積が認められる部分の幅は 16m、復元的に両岸を結んだ幅は 20 ~ 22m であったとみられる。地表から底面までの深さは 2.5m である。

(3) 遺物の出土状態

出土位置の傾向 VII a 層から出土する遺物は、比較的分布が散漫である。下層の VII b 層のように、折り重なるように一箇所に集中して遺物が出土することもなく、出土遺物のまとまりを認識することができなかった。調査区の北東側で土器が底面に集中する傾向が若干みられるが、調査区の西側においては底面から南の岸に近い位置まで満遍なく遺物が出土している。

土 器 上述のとおり、VII a 層から出土する土器の分布状況は比較的散漫で、斜面部分や底面部分から分散して出土している。北東側底面において若干多く出土する傾向がみられるが、とくに目立つて集中するような状態はない。土器の多くは岸の上から投棄されたものとみられるが、伊場大溝の南側、北側に偏った傾向も認められない。

その他の遺物 VII a 層から出土する土器以外の出土遺物には、耳環や銅製有孔円盤などの金属製品、土製品、輪羽口、砥石、木製品などがある。これら土器以外の出土遺物についても、土器と同様、伊場大溝内から分散して出土している。

(4) VII a 層出土遺物

概 要 Fig.47 ~ 69 に VII a 層から出土した遺物を示す。VII a 層から出土した遺物のうち、図示したものは 622 点である。出土遺物量では VII b 層の状況と近い。以下、須恵器 (1 ~ 394)、土師器 (395 ~ 568)、漆付着土器 (569 ~ 570)、金属器 (571 ~ 573)、土製品 (574 ~ 576)、輪羽口 (577 ~ 578)、砥石 (579 ~ 591)、木製品 (592 ~ 622) の項目に分けて紹介する。

須恵器 (Fig.47 ~ 57) 1 ~ 394 は VII a 層から出土した須恵器である。坏蓋・坏身 (1 ~ 287) の比率が多いが、高盤 (288 ~ 290)、高坏 (291 ~ 319)、広口壺 (320 ~ 327)、壺蓋 (328)、長頸壺 (329 ~ 338)、鉢 (339 ~ 353, 360 ~ 376)、短頸壺 (354 ~ 359)、甌 (377 ~ 379)、プラスコ形瓶 (380 ~ 381)、横瓶 (382)、甕 (383 ~ 384, 387 ~ 394) などの器種が認められる。

帰属時期が明瞭な坏蓋・坏身 (1 ~ 394) に注目すると、古墳時代的ないわゆる「坏H」(1 ~ 209) が主体を占め、返り蓋を伴う「坏G」もしくはその系統に連なる台形の無台坏身 (210 ~ 229)、碗形の無台坏身 (無台碗、230 ~ 275)、返りをもたない摘蓋と有台坏身 (276 ~ 287) の各種がみられる。坏Hは、VII b 層出土品で主体を占めた遠江Ⅲ期後葉 (TK43型式併行) の製品を含みながら、遠江Ⅳ期後葉に位置づけられる口径が 9cm 台のものまでみられる。時期的に途切れることなく連続と続いていることが坏の多様性からうかがえる。返り蓋を伴う「坏G」としたもの中

には、壺の蓋を含んでいる可能性がある。ただし、いずれも直径が10～11cm台で、大型化したものは知らない。遠江IV期後葉に中心があるとみられる。碗形の無台坏身としたものには、遠江IV期後葉の坏Hの蓋が含まれる可能性がある。また、直径が11cmを超える250～275については、遠江IV期末葉に降るとみられよう。とくに、270～275は蓋を伴わない無台碗として奈良時代に連続する系統とみられる。摘蓋と有台坏身の組み合わせは、遠江IV期末葉に出現する形態で、その初源的形態をなしている。

以上、坏蓋・坏身の様相からうかがえるVIIa層の堆積年代は、遠江III期後葉（TK209型式期）を境界にして、遠江III期末葉から遠江IV期末葉の飛鳥時代（7世紀）全般にわたることが明らかである。遠江III期中葉（TK43型式期）以前の製品は、VIIb層からの混入品と解釈できるだろう。

土師器 (Fig.58～65) 395～568はVIIa層から出土した土師器である。Fig.58に示した坏（395～405）や高坏（406～424）、壺（425・426）などは古墳時代後期以前の形態的特長を示しており、多くはVIIb層からの混入品と捉えられる。VIIa層が堆積した飛鳥時代の土師器坏類は、Fig.60に示すものである。大型の外反口縁壺（429～436）や箱形や碗形を呈する鉢（437～458）、く字鉢（459～462）などが遠江III期末葉から遠江IV期後葉の代表的な土師器の組成といえるだろう。土製品的形態の壺形（463・464）や、瓶形（465・466）、および革袋形土製品（467）なども遠江IV期の中で出現していることが分かる。

Fig.60には暗文を施す坏（468～482）や高盤（483～485）をあげた。468・469は畿内産土師器で、飛鳥IV期（680年～690年代）に相当する。473～485は在来産の土師器で、いずれも精緻な胎土を用い、赤彩が施されているものが多い。これら暗文土師器の時期は遠江IV期末葉に中心がある。

486～557は、壺である。487・488の口縁端部は摘みあげた独特の形態をもつ。伊勢から尾張に特徴的な技法で、搬入品の可能性がある。489は胎土に白色粒子を多く含み、駿河産の特徴を示している。545～550といった大型の口縁は台付壺になるとみられる。脚台部には肉厚のもの（552・553）と薄いもの（554～557）が認められる。

558～565は瓶である。いずれも口縁端部の折返しの痕跡は残さず、VIIb層出土品と比べて新しい様相をみせている。566～568は把手である。567には穿孔がみられる。

漆付着土器 (Fig.65) 569・570は漆が付着した須恵器である。569は高坏の坏部の破片、570は坏身が用いられている。漆が付着した須恵器はVIIb層にも認められるので、古墳時代後期後半から鳥居松遺跡で漆を使った製品が生産されていた可能性がある。その下限の時期は、570が示す遠江IV期後葉頃とみられる。

金属器 (Fig.65) 571・572は耳環である。ともに幅3.2cmほどの大きさである。571は表面の金属板が剥がれ銅芯のみが遺存する。572には金銅板が残っている。

573は銅製の有孔円盤である。変形が著しいが、本来は直径6cmほどの円形をなし、中央にやや膨らみがある形態とみられる。4方向に2個一組の穿孔があり、中央に方形の孔がある。銅板の厚さは1mm以下である。詳しい用途は不明であるが、法隆寺や東大寺正倉院に伝わる円形飾金具が形態的に似ている。これらの円形飾金具は金銅製で、布幡に糸で取り付けたものである。本例には金銅の痕跡はみられないが、幡をはじめとした布に装着した飾金具である可能性が高いだろう。

土製品 (Fig.65) 574は土製紡錘車、575・576は土錐である。いずれもⅦ b層から出土したものの中に類例が認められる。

輪羽口 (Fig.65) 577・578は輪羽口である。いずれも小破片であることから、輪羽口がまとまって出土したⅦ b層から混入した可能性が考えられる。

砥 石 (Fig.66) 579～591は砥石である。凝灰岩もしくは砂岩を用いている。583はよく使い込まれているが、Ⅶ b層出土品のように形態が整ったものはない。

木製品 (Fig.67～69) 592～622は木製品である。Ⅶ a層から出土した木製品には、木鍤(592・593)、堅杵(594)、有孔棒(595～598)、簀串(606～608)、馬形(610・611)、横櫛(612)、琴柱(613)、曲物(615～622)などがあり、このほかにも不明品がある(599～605、614)。

592・593は木鍤である。いずれもⅦ b層出土品と似た形態で、592はヒノキ属、593はトウヒ属を用いている。594は小型の堅杵とみられるが両端を欠損している。木材はアカガシ亜属を用いている。595～598は用途不明の有孔棒(595は木柄の可能性がある)、599～605も不明品である。

606～608は簀串である。606は上下とも遺存しており、ヒノキ属を用いている。607は下端を欠損するもので、アスナロ属を用いる。610・611は馬形である。610は独立した頭部を表現したもので、蛇にも似る。611はやや単純な形態であるが、頭部と尾の造り分けがみられる。木材はともにアスナロ属を用いている。

612は横櫛である。炭化が顕著で樹種の同定はできなかった。613は琴柱である。上端に糸をはじめ込む沈線が入れられている。木材はアスナロ属を用いている。614はN字形をした用途不明品である。木材はマツ属を用い、表面は丁寧に加工されている。

615～622は曲物である。曲物底板(615～618)はいずれも端面に段を掘り込んで側板をあてる構造である。616と617はヒノキ属を用いている。619～622は曲物側板であり、すべて同じ地点から出土した。

年 代 須恵器の坏蓋・坏身の特徴から明確なように、Ⅶ a層は遠江III期末葉から遠江IV期末葉までの飛鳥時代(7世紀)全般にかけて堆積したものと捉えられる。Ⅶ a層が堆積する最終段階(7世紀末)には、鳥居松遺跡にも評にかかる施設が広がり、律令時代的な土器様式が出現している。

(5) 小 結

Ⅶ a層の堆積は、遠江III期後葉を境界として、遠江III期末葉から遠江IV期末葉まで続いている。その堆積年代は、おおよそ飛鳥時代(7世紀)の100年間が相当するが、伊場大溝内の堆積状況や遺物の出土状況からは、飛鳥時代の中を分離することができなかった。ただし、出土遺物の傾向からは飛鳥時代における遺跡の変化を明確にあとづけることができる。7世紀の前半に属するとみられる遺物の様相は、一般的な土器の様相に加え、漆付着土器、耳環、土製紡錘車、土錐の存在など、Ⅶ b層との共通性が高い。いっぽうで、飛鳥時代の末期にあたる段階(遠江IV期末葉頃)の出土遺物には、畿内産土師器や銅製有孔円盤、簀串、馬形など、次第に官衙的性格を強めていく様相が認められる。鳥居松遺跡においても7世紀代から官衙の一部が広がっていたと判明した意義は大きいといえるだろう。

3 VIIa層の調査

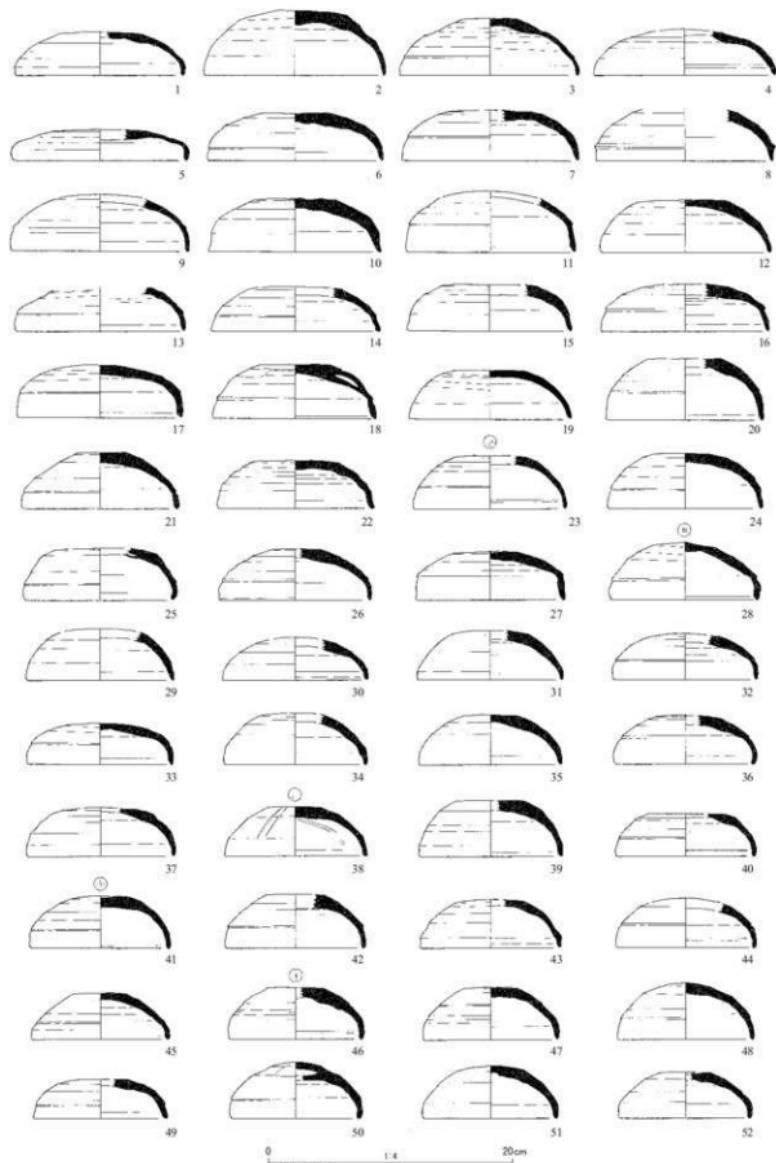


Fig.47 VIIa層出土遺物 (1)

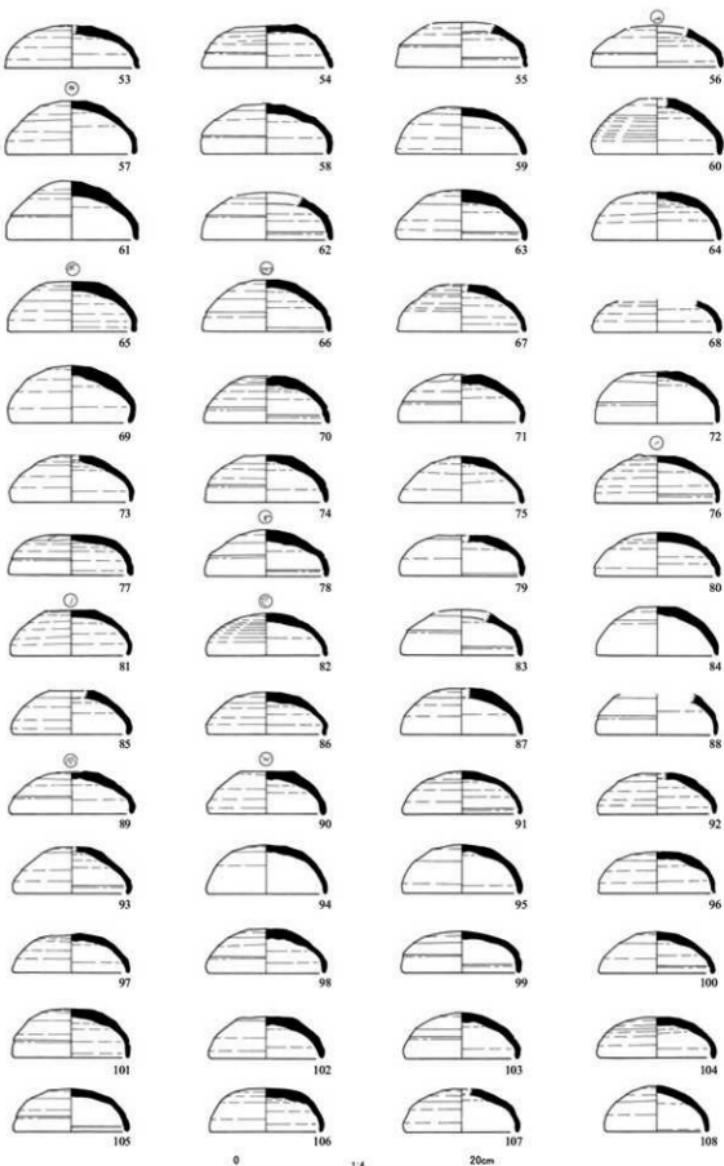


Fig.48 VII a層出土遺物 (2)

3 VIIa層の調査

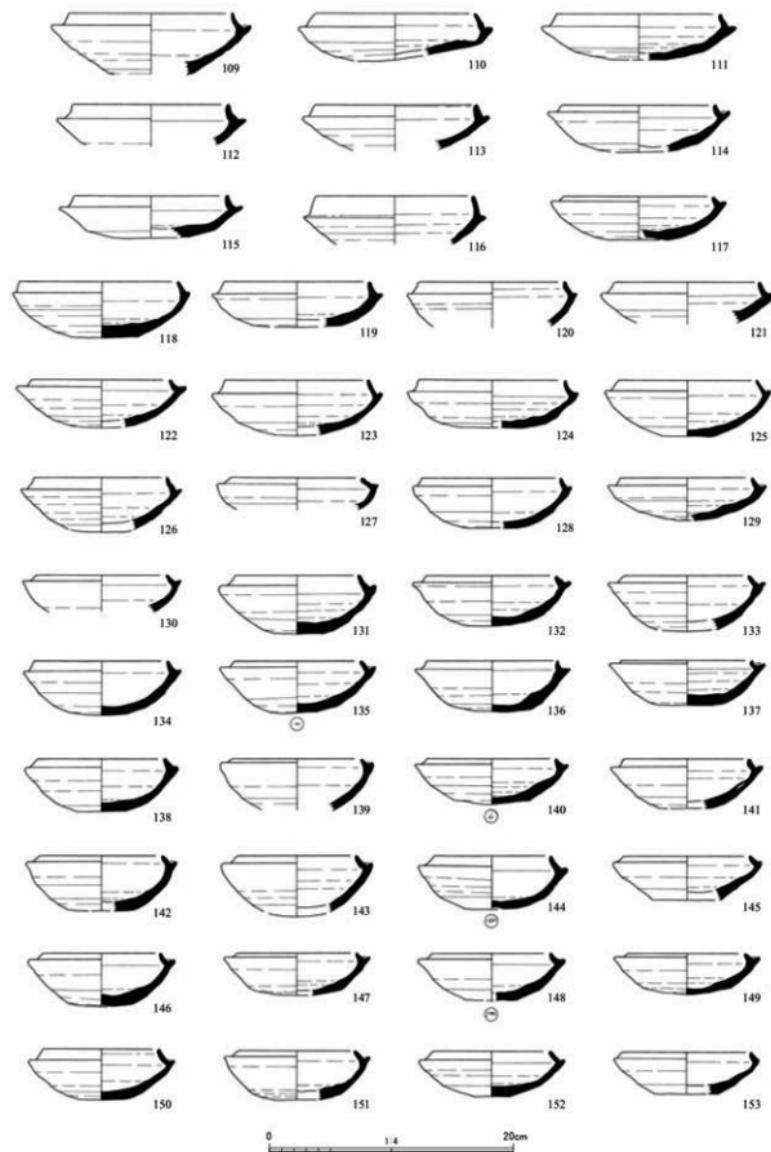


Fig.49 VIIa層出土遺物(3)

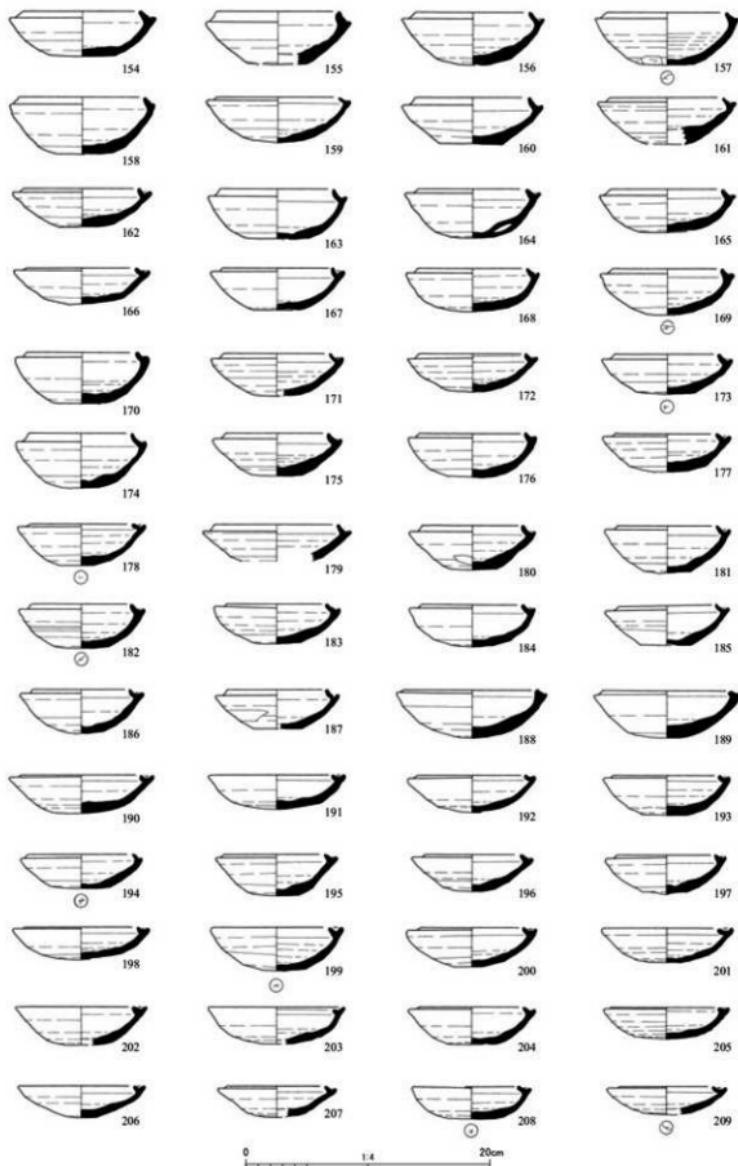


Fig.50 VIIa層出土遺物(4)

3 VIIa層の調査

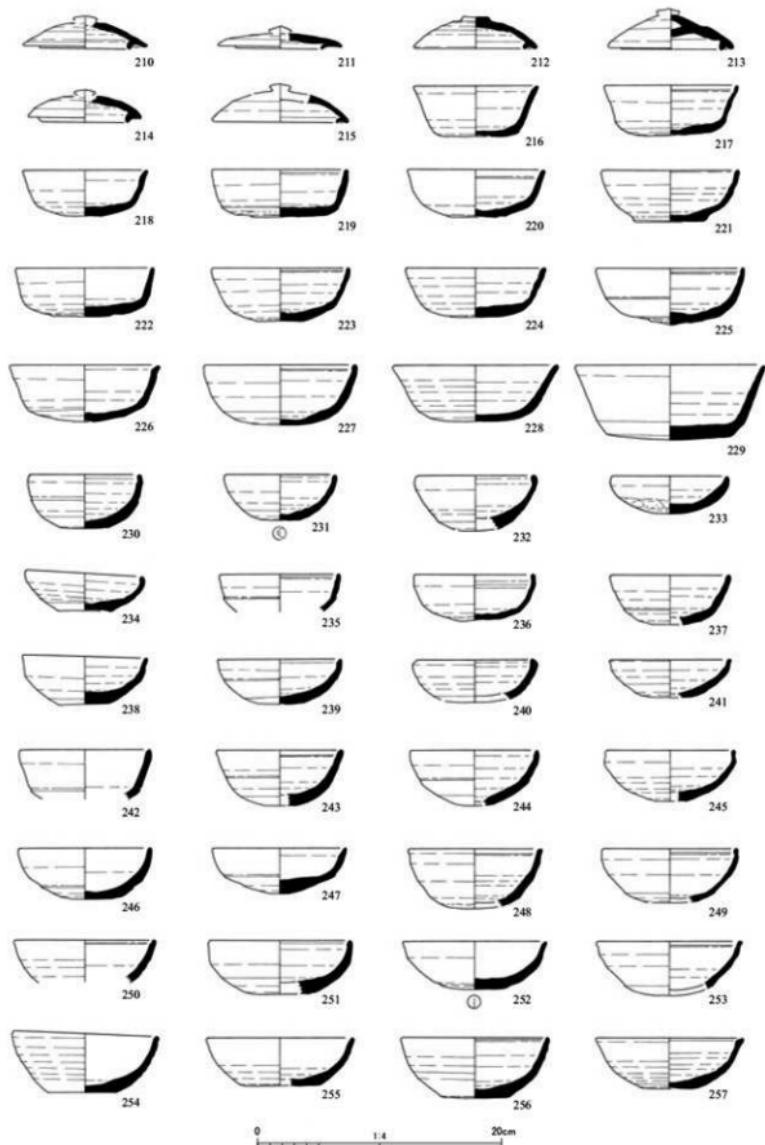


Fig.51 VIIa層出土遺物(5)

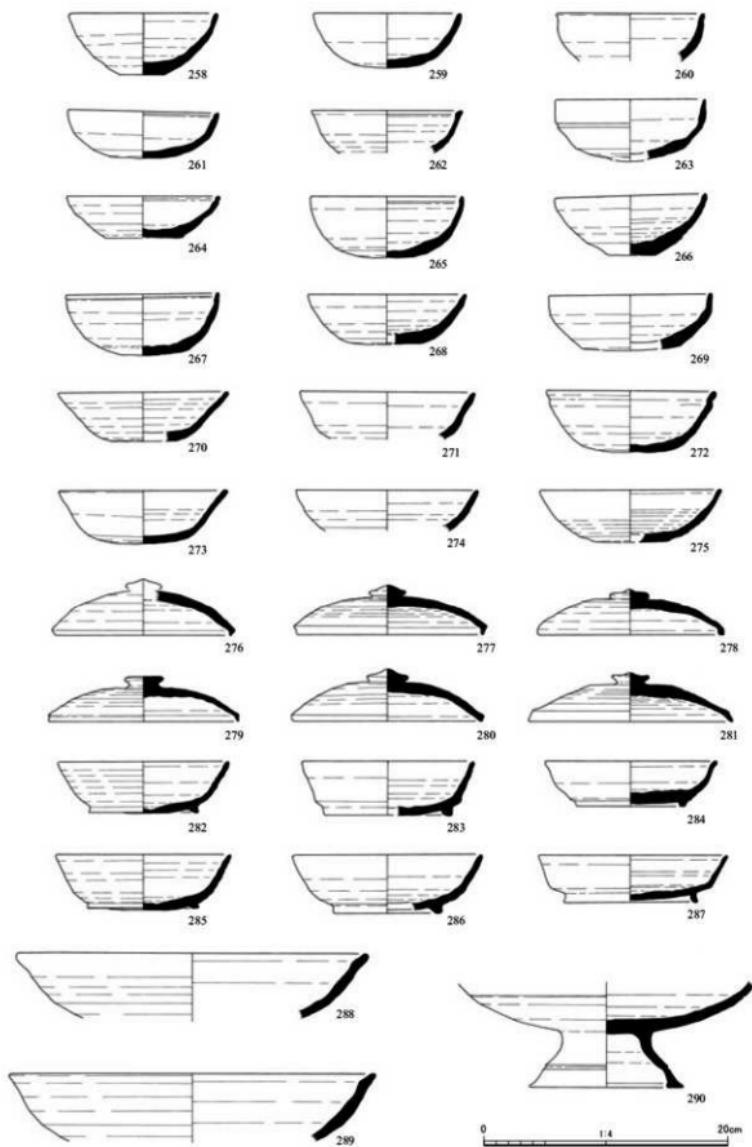


Fig.52 VIIa層出土遺物（6）

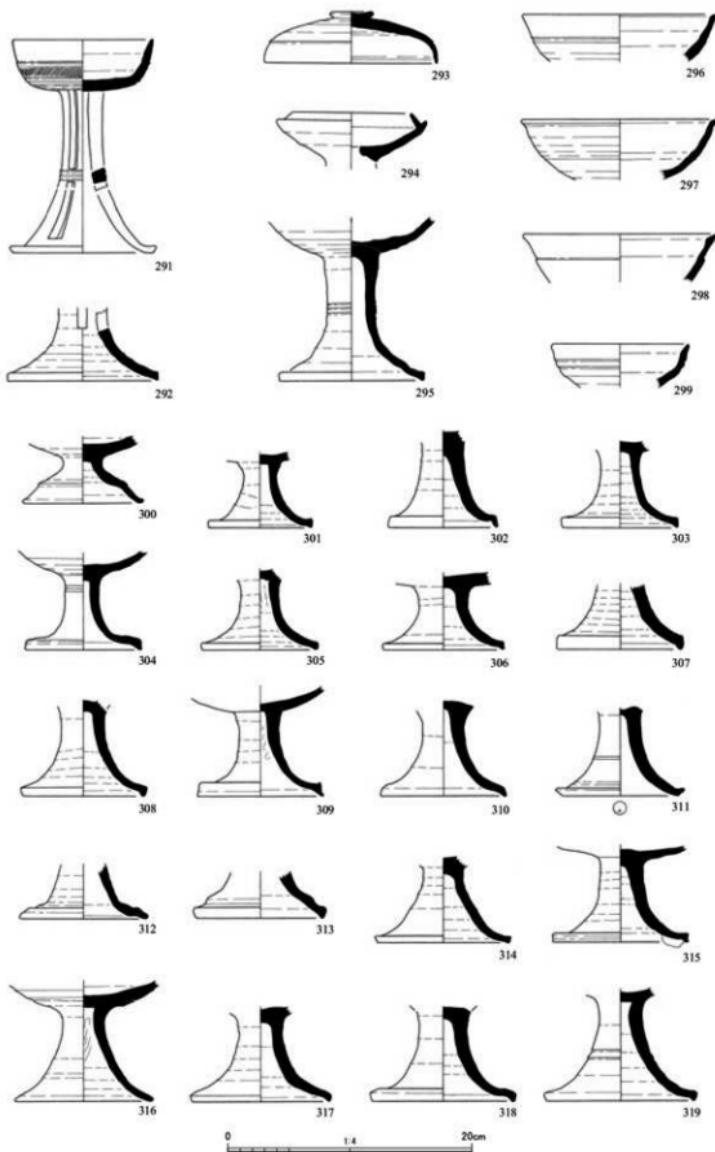


Fig.53 VIIa層出土遺物(7)

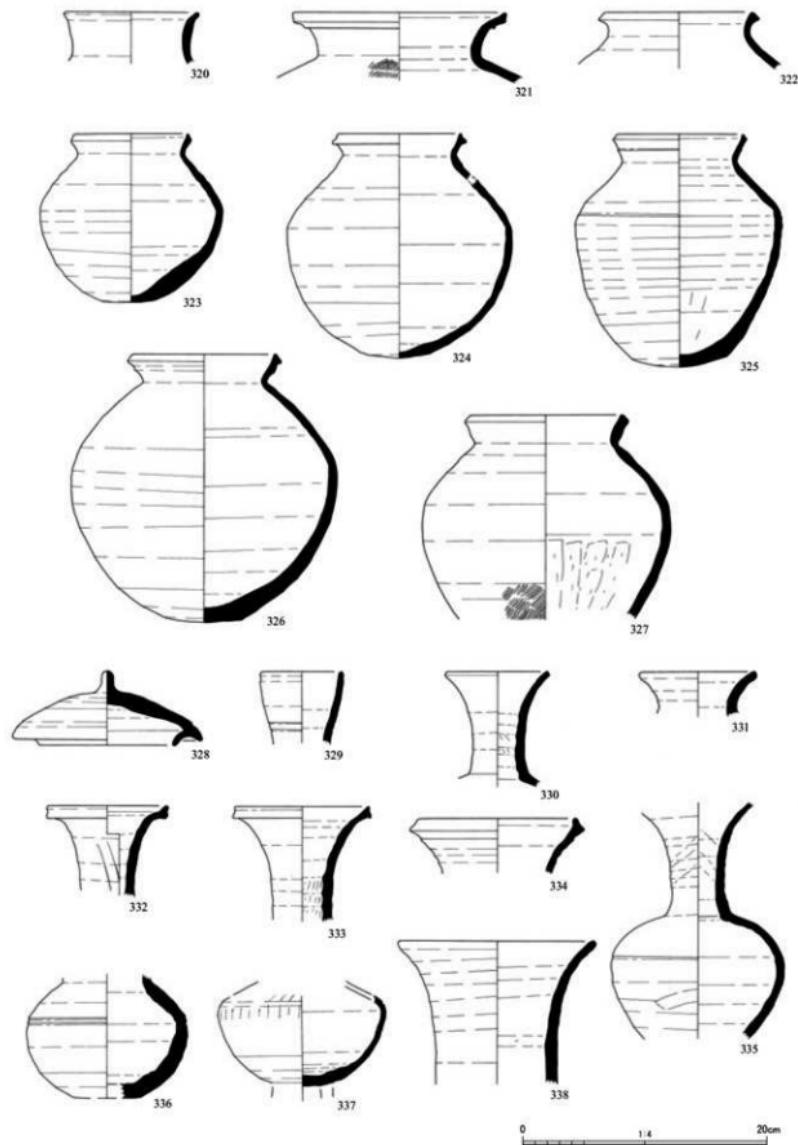


Fig.54 VIIa層出土遺物(8)

3 VIIa層の調査

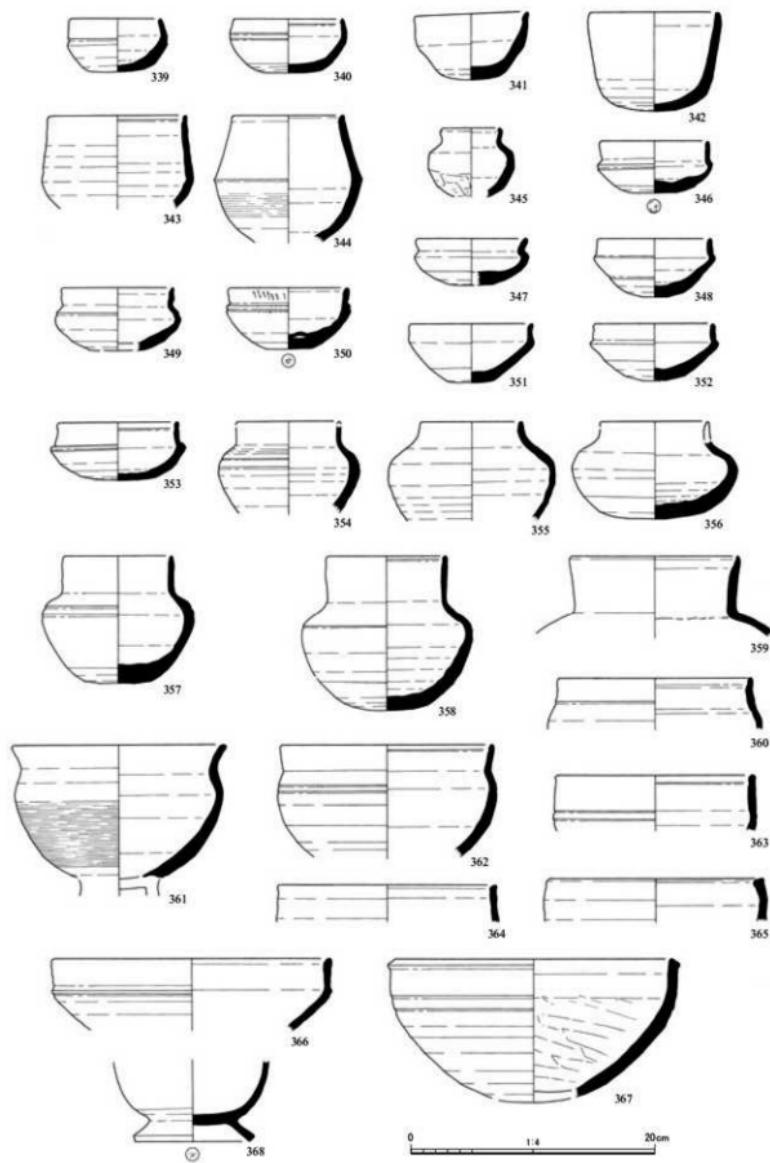


Fig.55 VIIa層出土遺物 (9)

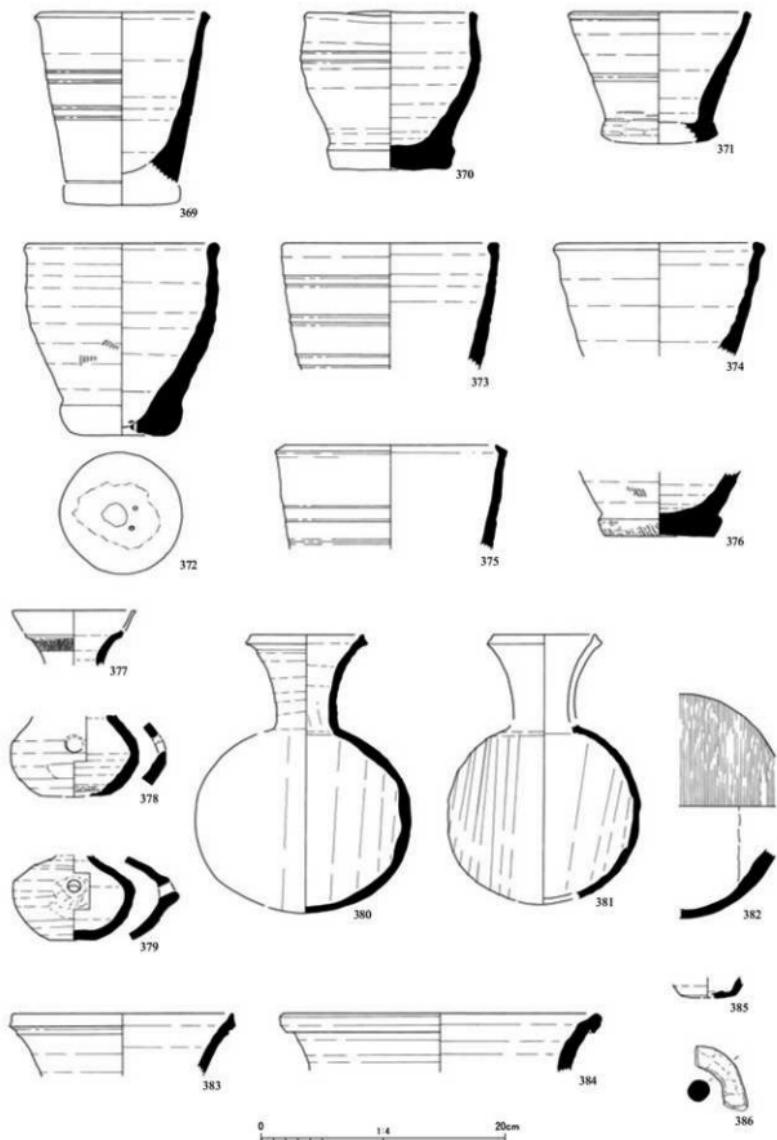


Fig.56 VII a層出土遺物 (10)

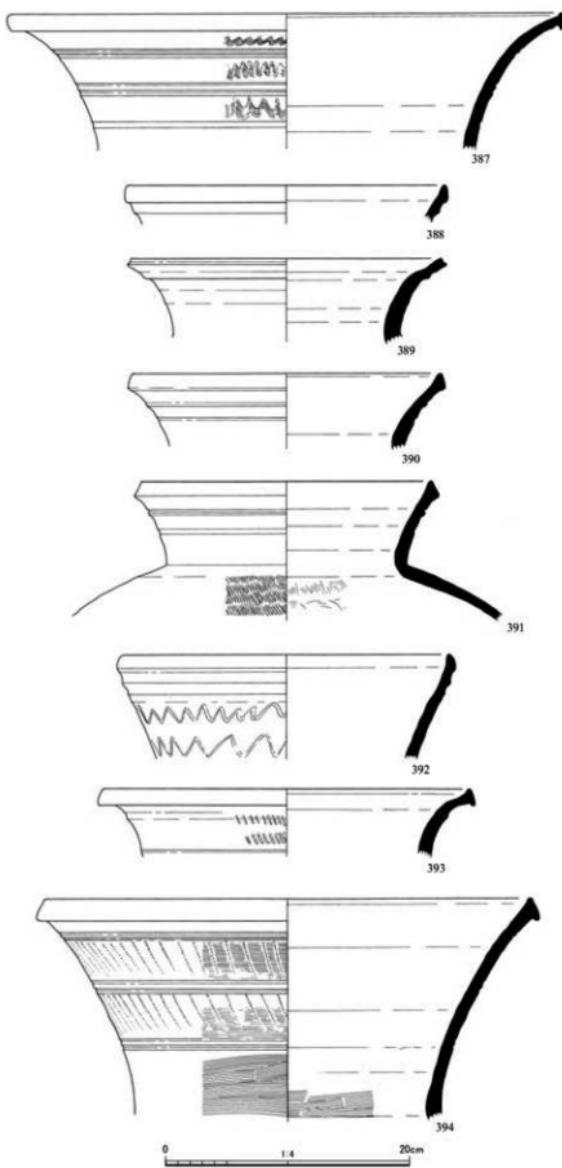


Fig.57 VIIa層出土遺物 (11)

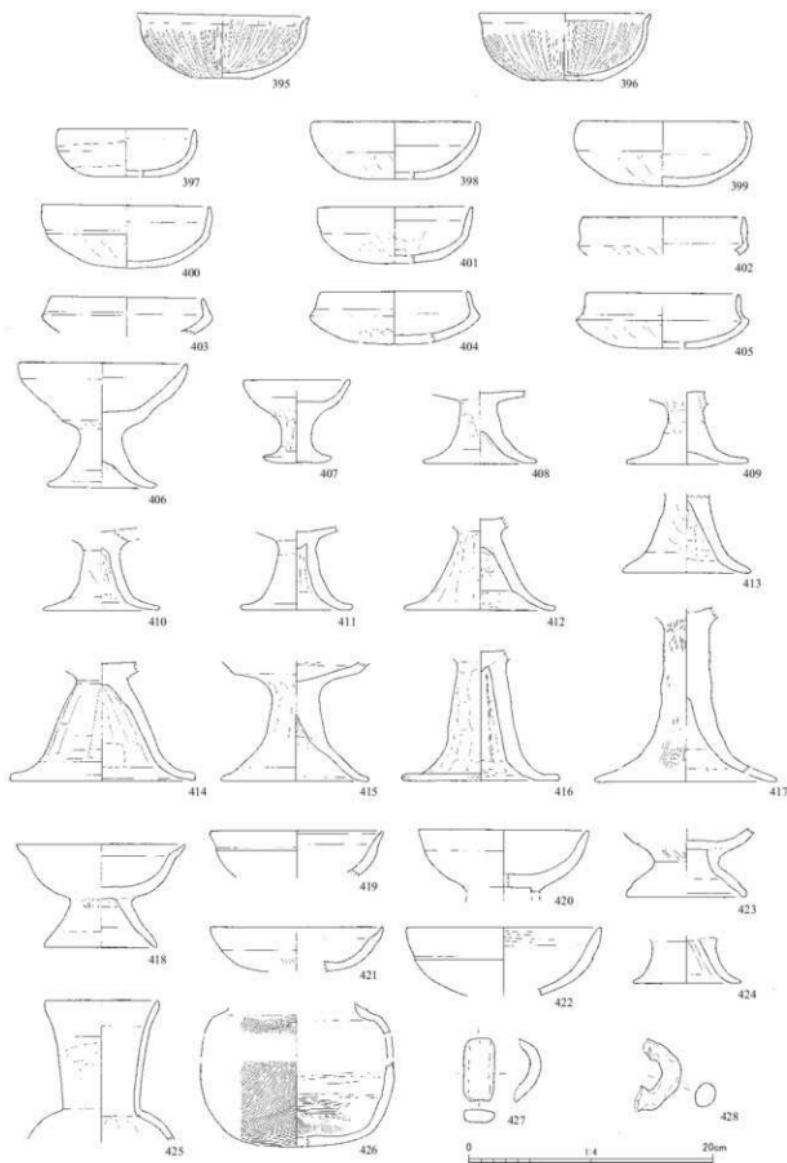


Fig.58 VII a層出土遺物 (12)

3 VIIa層の調査

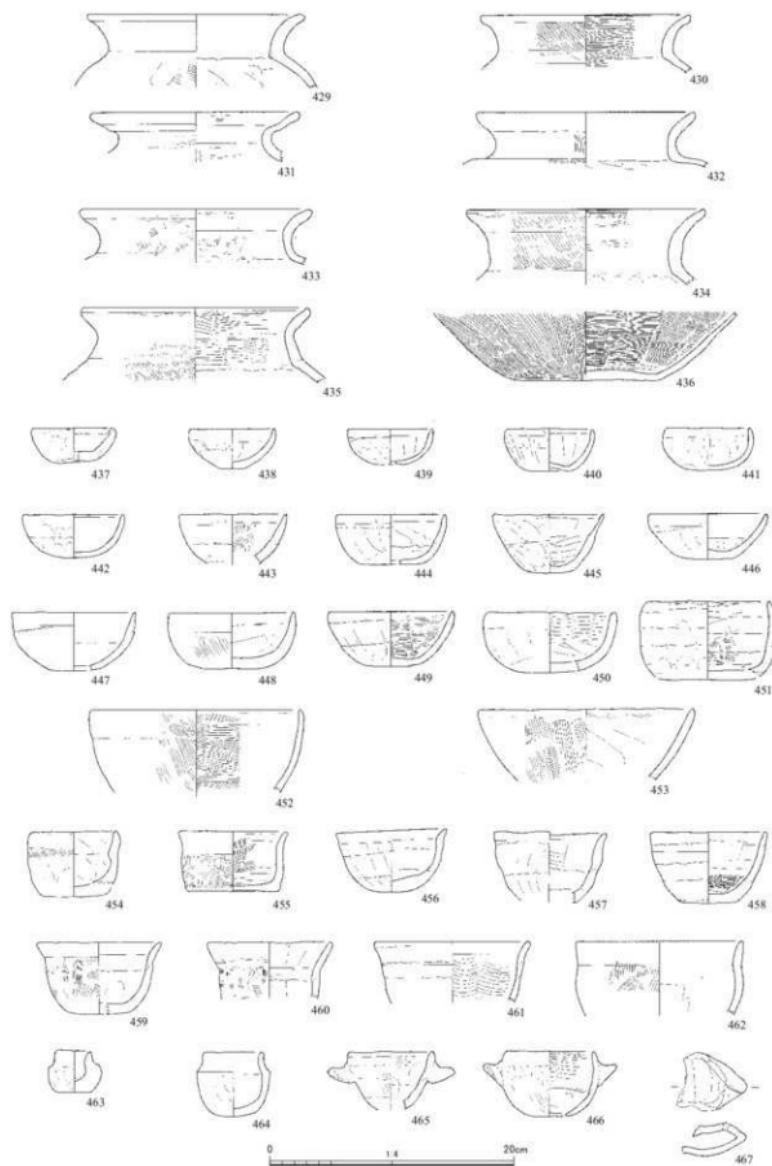


Fig.59 VIIa層出土遺物 (13)

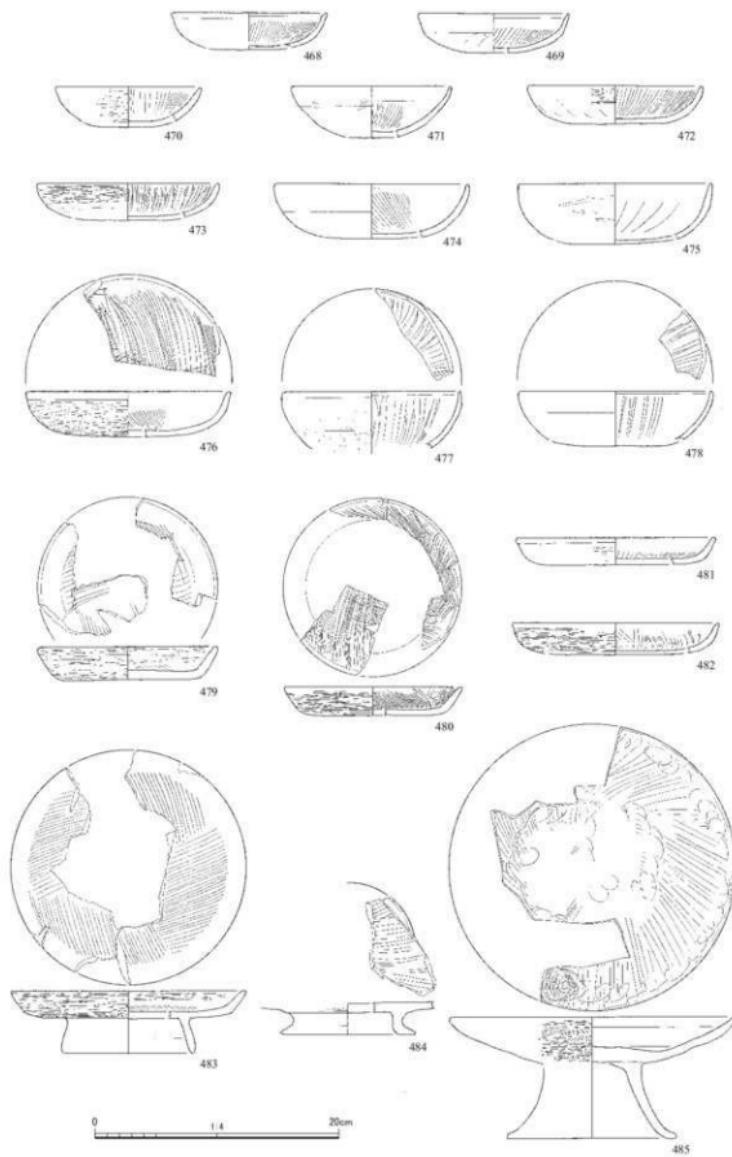


Fig.60 VII a層出土遺物 (14)

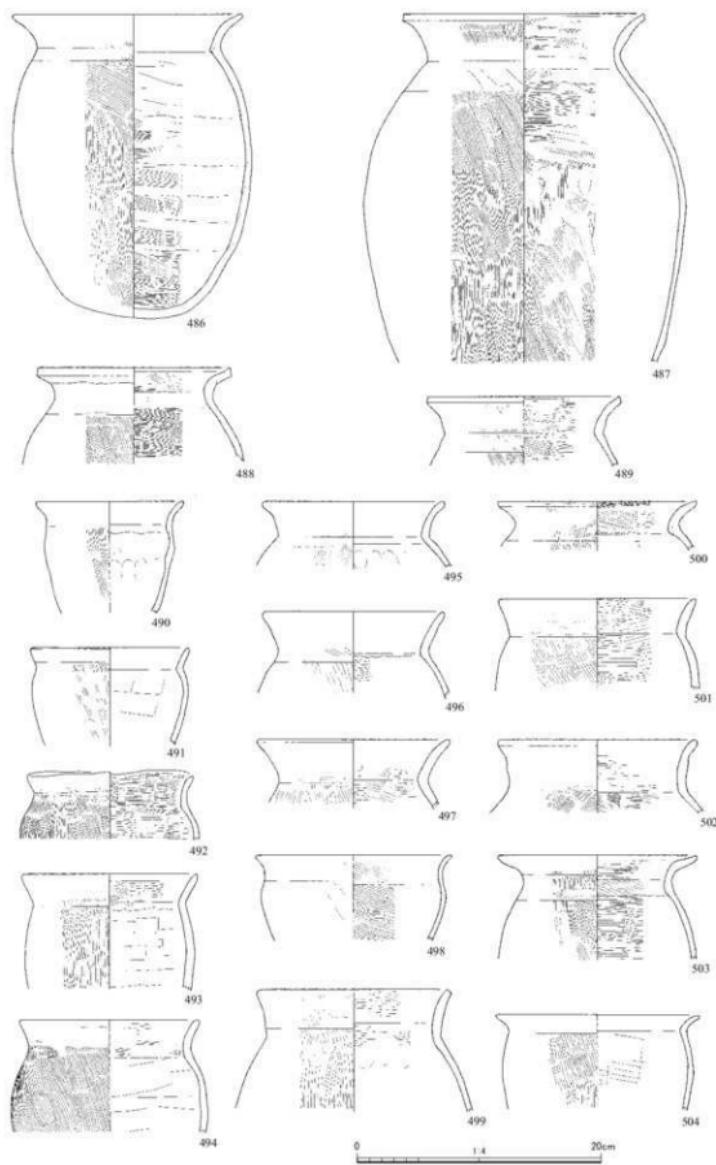


Fig.61 VIIa層出土遺物 (15)

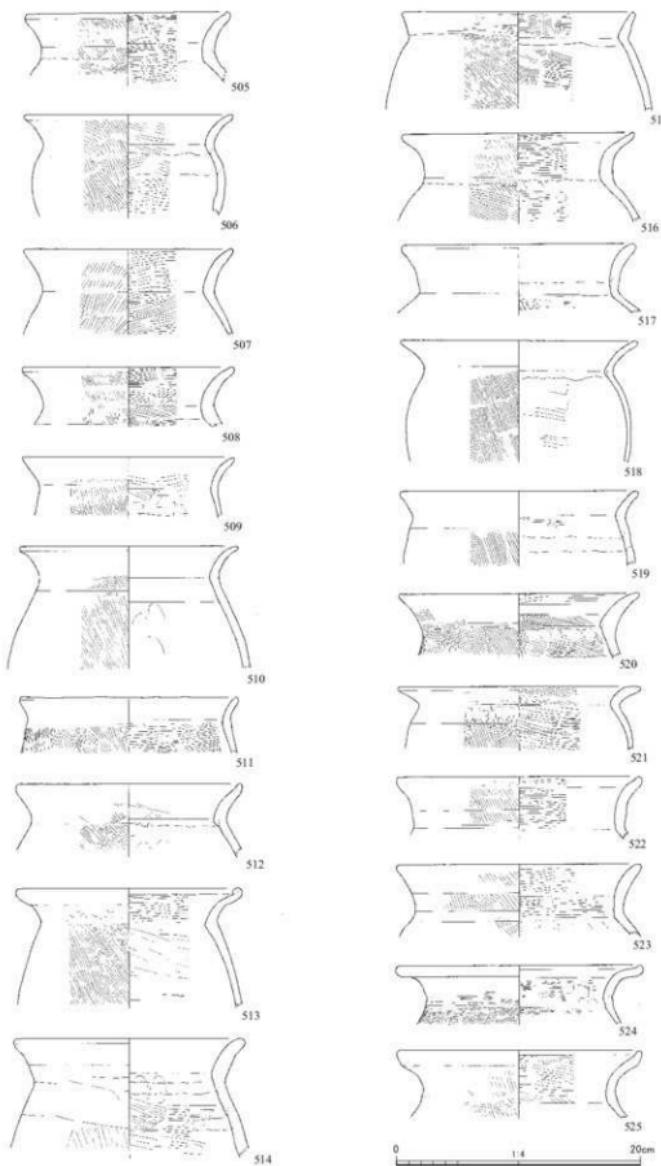


Fig.62 VII a層出土遺物 (16)

3 VIIa層の調査

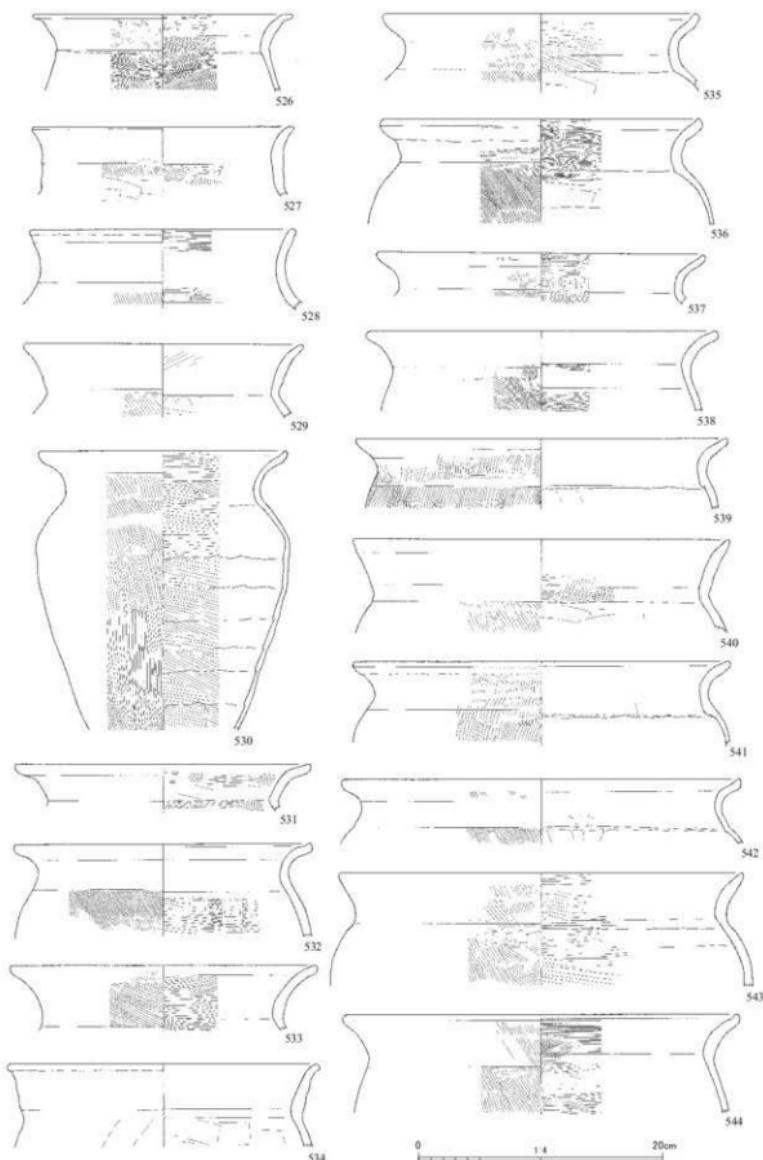


Fig.63 VIIa層出土遺物 (17)

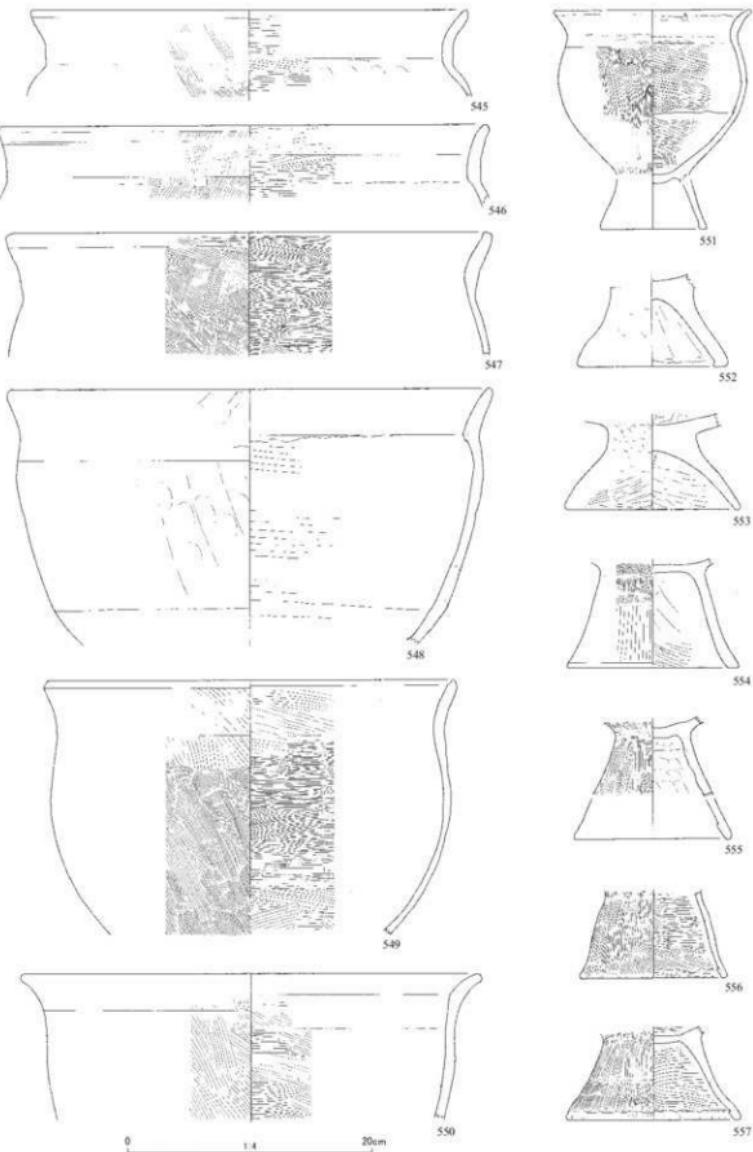


Fig.64 VII a層出土遺物 (18)

3 VIIa層の調査

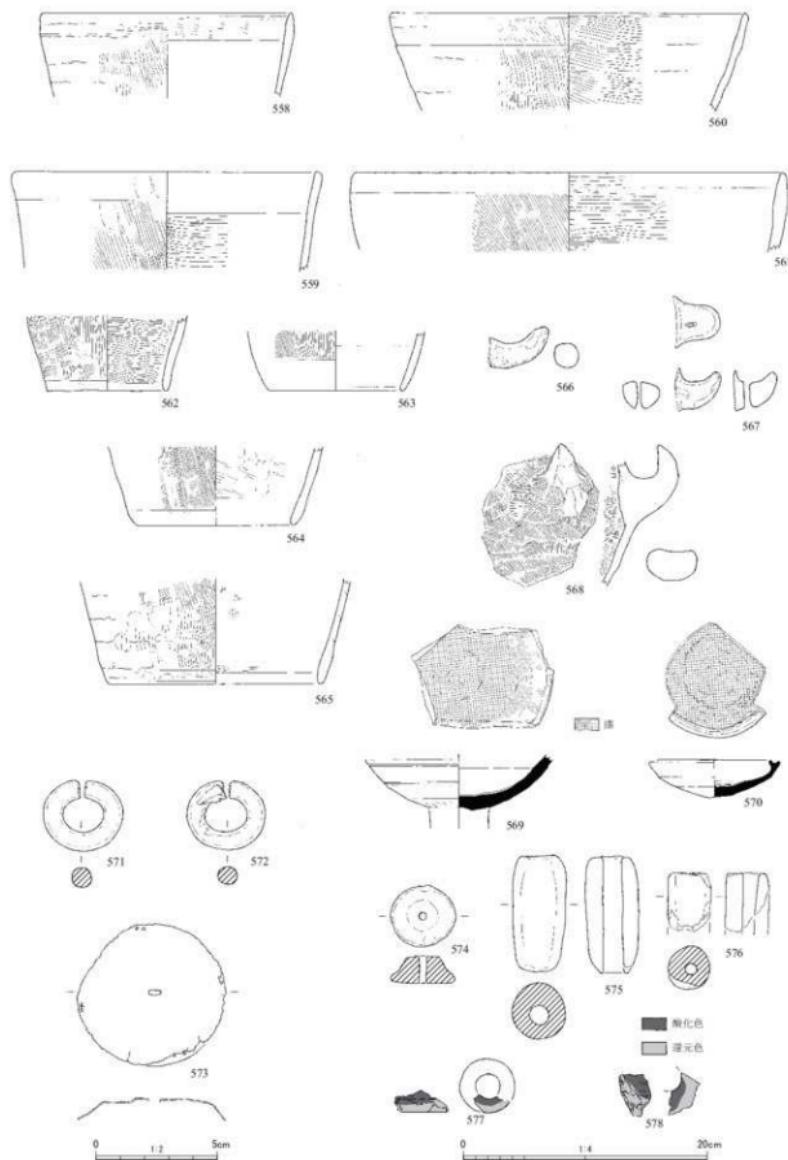


Fig.65 VIIa層出土遺物 (19)

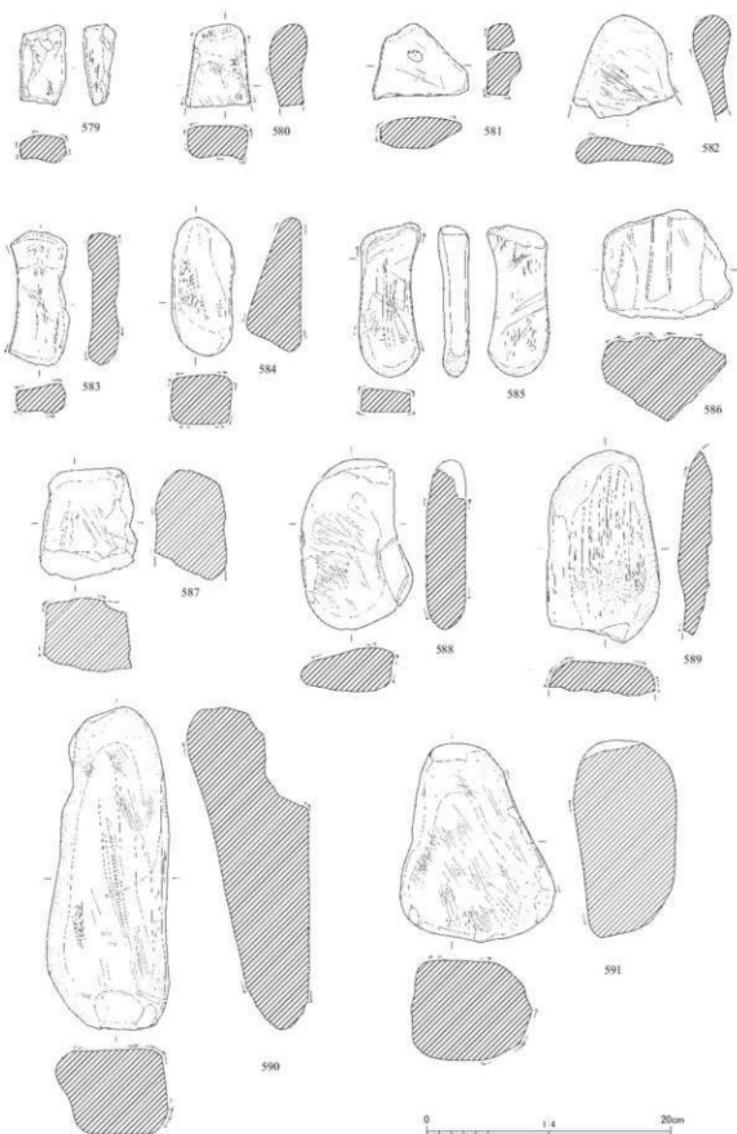


Fig.66 VII a層出土遺物 (20)

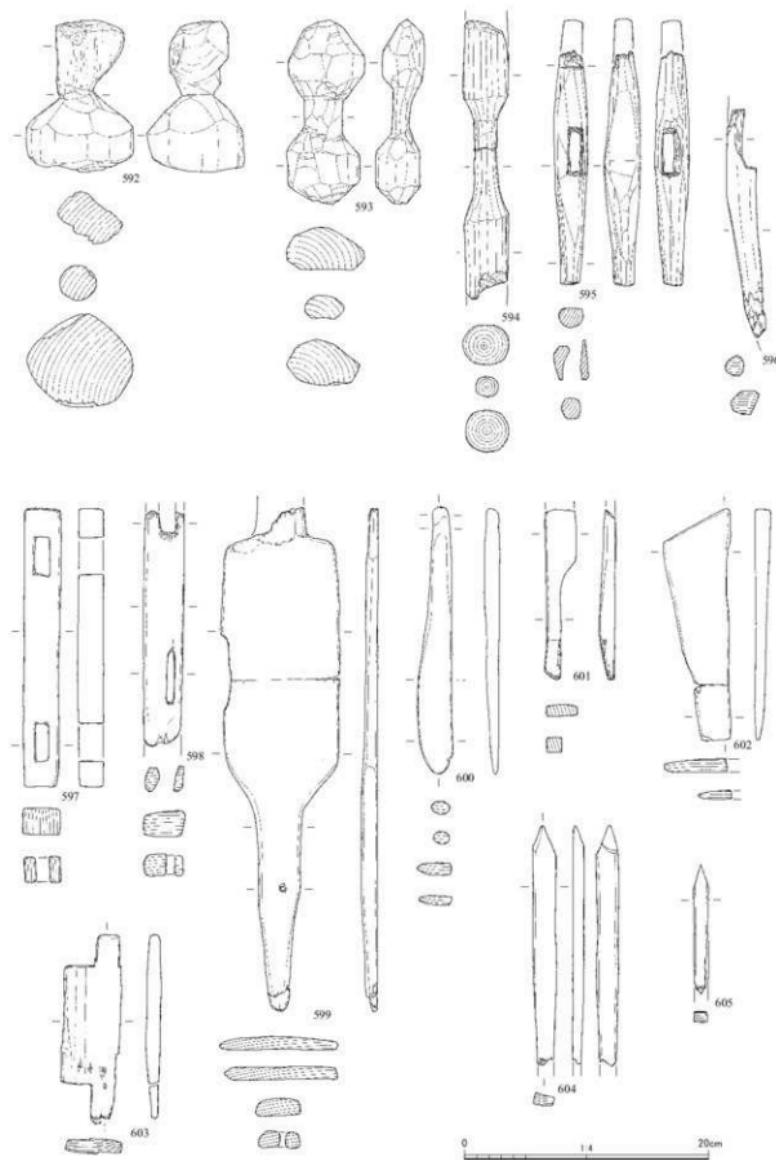


Fig.67 VIIa層出土遺物 (21)

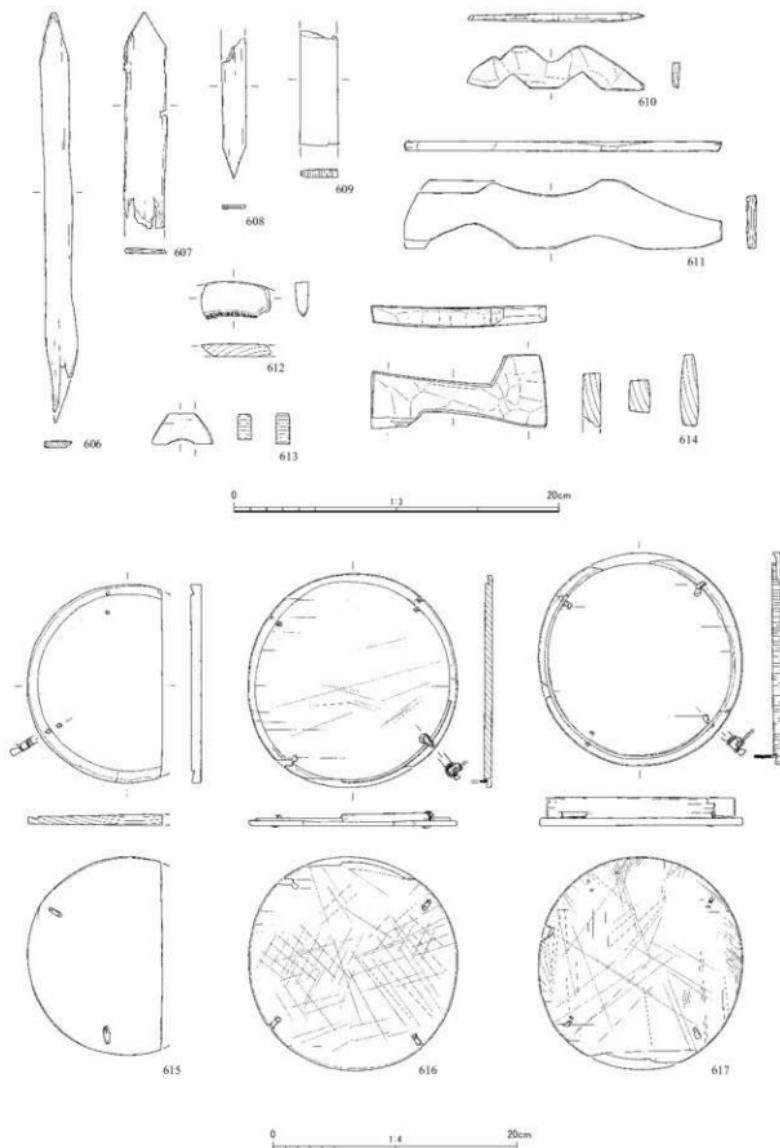


Fig.68 VII a層出土遺物 (22)

3 VIIa層の調査

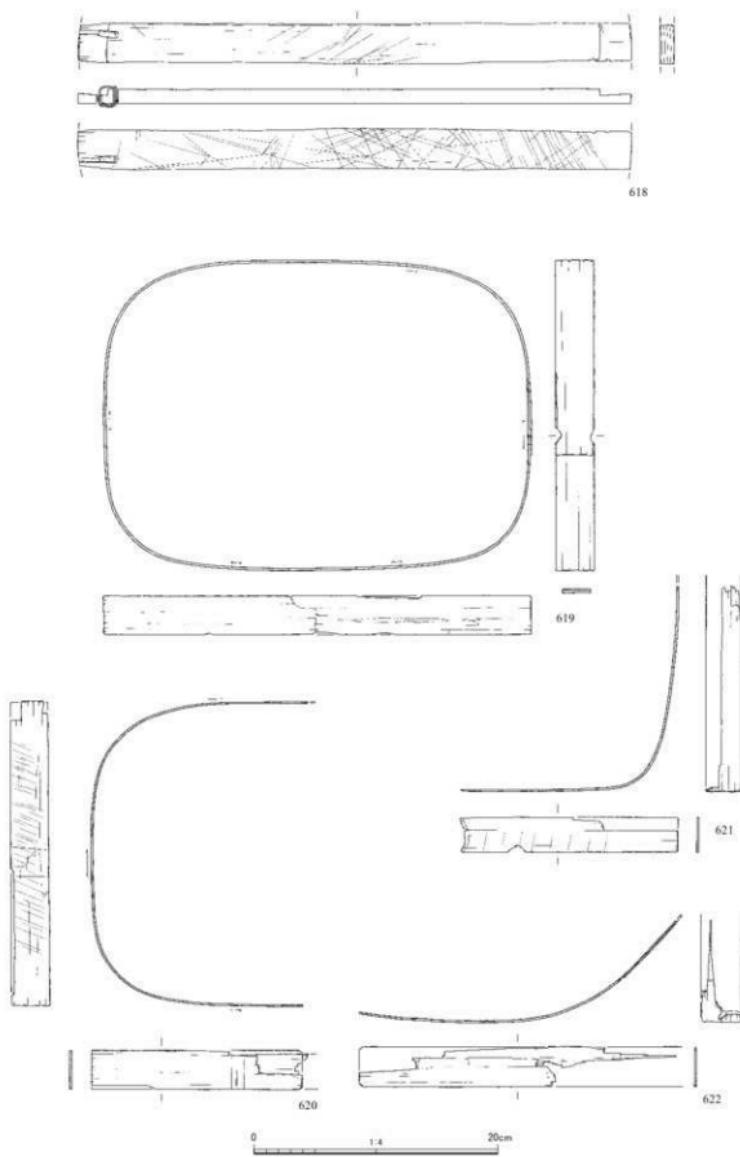


Fig.69 VIIa層出土遺物 (23)

4 V層の調査

(1) V層の概要

V層は、灰色ないしは褐色の粘土層を基本にして部分的に砂層が混ざる層位で、奈良時代（8世紀前葉から中葉）に堆積した。底面の標高は-0.8mほどであり、伊場大溝内の水量は少なくなっていたとみられる。北岸においては貝塚（SS01～04）が形成され、その近辺には杭を伴う階段状の護岸施設がつくられている。貝塚SS02・SS04からは製塙土器がまとまって出土している。

V層から出土する土器の量はⅦ層と比べると少ないが、敷智郡家関連の遺物が目立つ。その筆頭が6点の木簡であり、己酉年（709）や神龜元年（724）の年号が記されたものが含まれる。このほかにも、簀串、人形、馬形、舟形といった木製祭祀具がまとまって出土している。

(2) 伊場大溝の形状

V層が堆積した伊場大溝の本来の形状がうかがえる部分は、北側斜面の0.0m以下の部分から川底を挟んで南側斜面の0.5m以下の部分である。底面の標高は-0.8mほどで、目立った凹凸はない。V層中の堆積も、Ⅶa層と同じく南側斜面に貼り付くような傾斜をもつ。V層中には砂の堆積がみられるが、その量は少ない。V層の堆積時は、Ⅶ層の堆積時と比べて、伊場大溝の水量が少なく

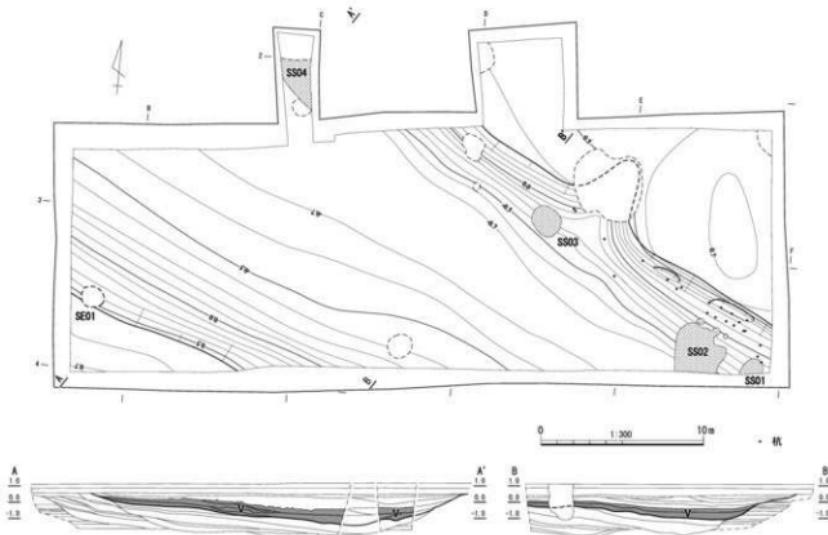
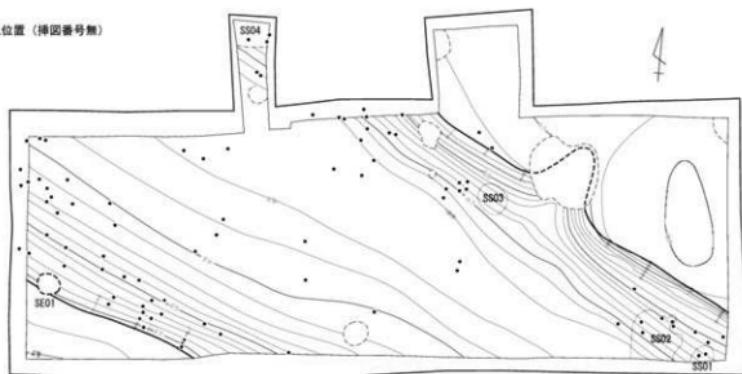


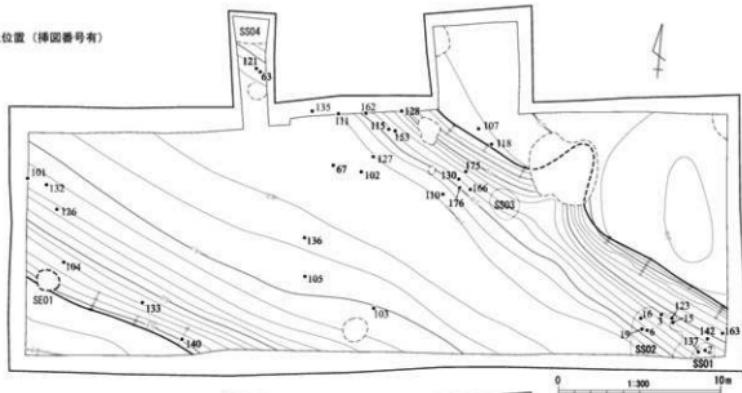
Fig.70 伊場大溝V層

4 V層の調査

遺物出土位置（挿図番号無）



土器出土位置（挿図番号有）



石製品・木器等出土位置（挿図番号有）

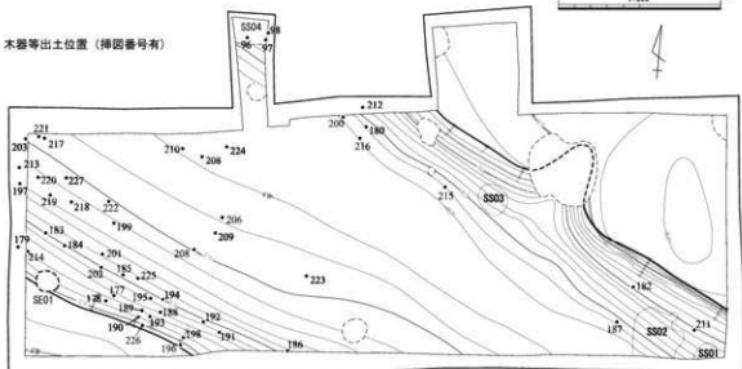


Fig.71 V層における遺物出土位置

ななったとみられるだろう。V層の堆積が認められる部分の幅は20m、復元的に両岸を結んだ幅は22m程度である。また、地表から底面までの深さは約1.5mである。

(3) 遺物の出土状態

出土位置の傾向 V層に含まれる遺物の出土位置は、伊場大溝の両岸に偏る傾向がみられる。大溝の底面から遺物が出土することが少なく、V層b層やV層a層の遺物の出土状態と大きく異なる。V層b層やV層a層は伊場大溝内の水流が激しかったため、岸から川底に遺物が集まることが多かったとみられるが、V層の堆積時には伊場大溝内の水量が減り、両岸から投棄される遺物は大きく移動することなく埋没したと捉えられよう。

土器 上述の出土位置の傾向どおり、V層から出土する土器は南北の両岸に集中する。北岸には貝塚が形成されるが、貝塚（SS02・SS04）からは製塙土器がまとまって出土している。このほか、特殊な土器として、中空把手付円面鏡（140）が南岸から出土している。

木簡 木簡は南岸から4点（鳥居松2～5号木簡、183～186）、北岸から2点（鳥居松1号木簡、182、6号木簡、187）出土している。己酉年（709）銘をもつ5号木簡（186）は単独で出土し、共伴すると判断できるような遺物には恵まれなかった。いっぽう、神亀元年（724）銘をもつ3号木簡（184）と近い位置から出土した土器として、108、126、132、165をあげることができる。いずれも、同時代の資料として矛盾はない。なお、3号木簡は、中央で半分に折り曲げられ破壊した状態で出土している。

その他の遺物 竿串や馬形などの木製祭祀具は、伊場大溝の南北両岸からほぼ均等にみられる。2点の土馬（177・178）、卜骨（179）はいずれも南岸から出土している。とくに、2点の土馬は互いに似た造りで、出土位置も近接する。二個一組で用いられていた可能性が指摘できるだろう。

馬骨・馬歯 (Fig.72) V層とIVb層を中心に、伊場大溝内から馬骨・馬歯が出土している。馬骨・馬歯は出土時において脆弱であることが多く、取り上げられないものがあった。こうした中でV層の南岸に近い位置において、馬の頭骨がほぼ完全な状態で出土した（PL.8-1）。首から下の骨格は検出できなかつたので、馬の頭のみを切り取って伊場大溝内に沈めたものと考えられる。

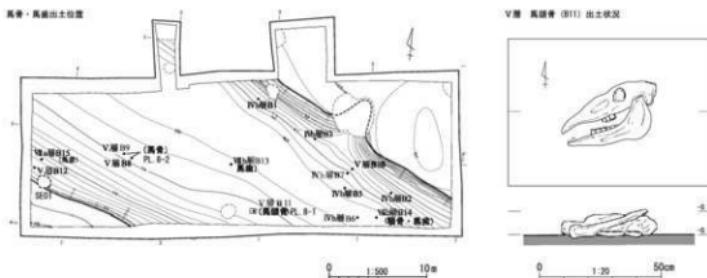


Fig.72 馬骨・馬歯出土状況

(4) 貝塚

概要 伊場大溝の北岸において貝塚を4箇所 (SS01～04) 検出した。このうち、SS03は貝層が非常に薄く、共伴する土器を明確に抽出することができなかった。SS01・02・04については貝塚内の動植物遺体のサンプルを採取し、分析を試みた(第3章3)。SS01・02・04ともダンペイキサゴとヤマトシジミが半数以上を占め、よく似た組成を示している。SS02やSS04から出土した土器は比較的豊富で、三河湾沿岸地域から搬入されたとみられる製塙土器が含まれる点でも注目できる。

また、SS02の北側や北西側において、伊場大溝の岸を階段状に成形した痕跡がみられた。階段状施設の周りには岸に沿って打ち込まれた杭列も確認できている。杭列は伊場大溝の岸に設けられた護岸施設に使われていたものと捉えられよう。

SS01 (Fig.73) 調査区の南東隅において検出した貝塚である。 $-0.2m \sim -0.4m$ ほどの緩やかな斜面に、貝層が東西 1.3m、南北 1.5m ほどにわたり広がっている。発掘区外の南側にも貝塚が連続するので、その正確な規模は不明であるが、全体の半分ほどは調査したとみられる。貝層の厚さは最も厚い部分で 20cm ほどあり、貝塚の西側は SS02 に接する。

SS01 出土遺物 (Fig.74) 1～4はSS01から出土した遺物である。すべて須恵器の壺蓋もしくは無台碗である。遠江V期に位置づけられ、8世紀前半の資料群としてよいだろう。

SS02 (Fig.73) SS01の西側において検出した貝塚である。 $-0.2m \sim -0.5m$ ほどの緩やかな斜面に築かれており、東西 3.5m、南北 4.0m ほどにわたり貝層がみられる。発掘区外の南側に貝塚が広がっているが、ほぼ全容をうかがうことができるだろう。貝層の厚さは最も厚い部分で 30cm ほどある。大量の貝に混じて土器(5～62)が出土している。墨書き土器(6)や大量の製塙土器(29～62)を含むことが注目できる。

SS02 出土遺物 (Fig.74) 5～62はSS02から出土した遺物である。5～18が須恵器、19～28が土師器、29～62が製塙土器である。須恵器壺身(6)には、墨書き「逆」が確認できる。土師器の碗もしくは皿の破片(21)にも墨痕がみられるが、文字であるか不明確である。11は須恵器壺身を転用した硯である。SS02から出土した須恵器は概ね遠江V期に相当しよう。

第3章3 貝類分析サンプル位置図

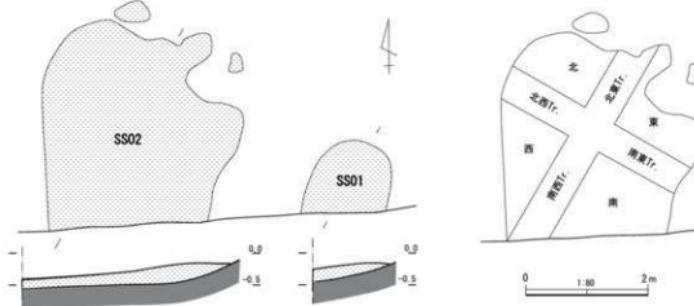


Fig.73 SS01・02 実測図

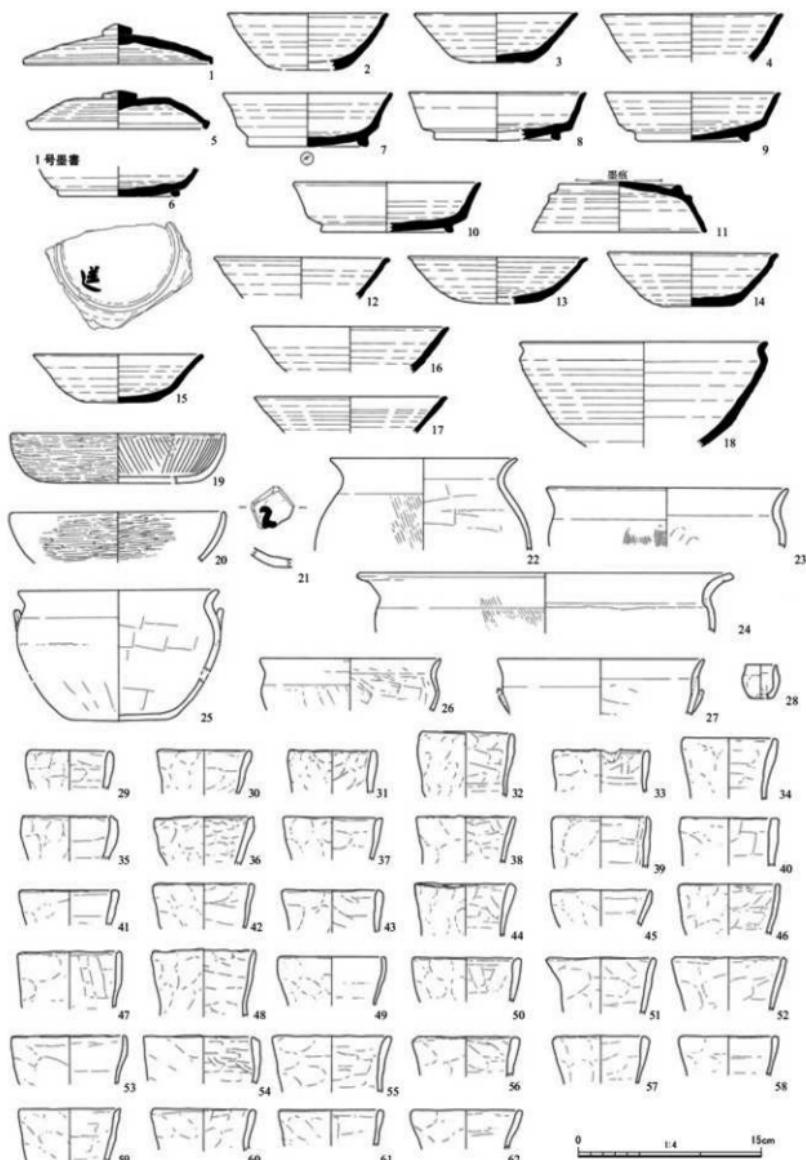


Fig.74 SS01・02 出土遺物

1～4：SS01 5～62：SS02

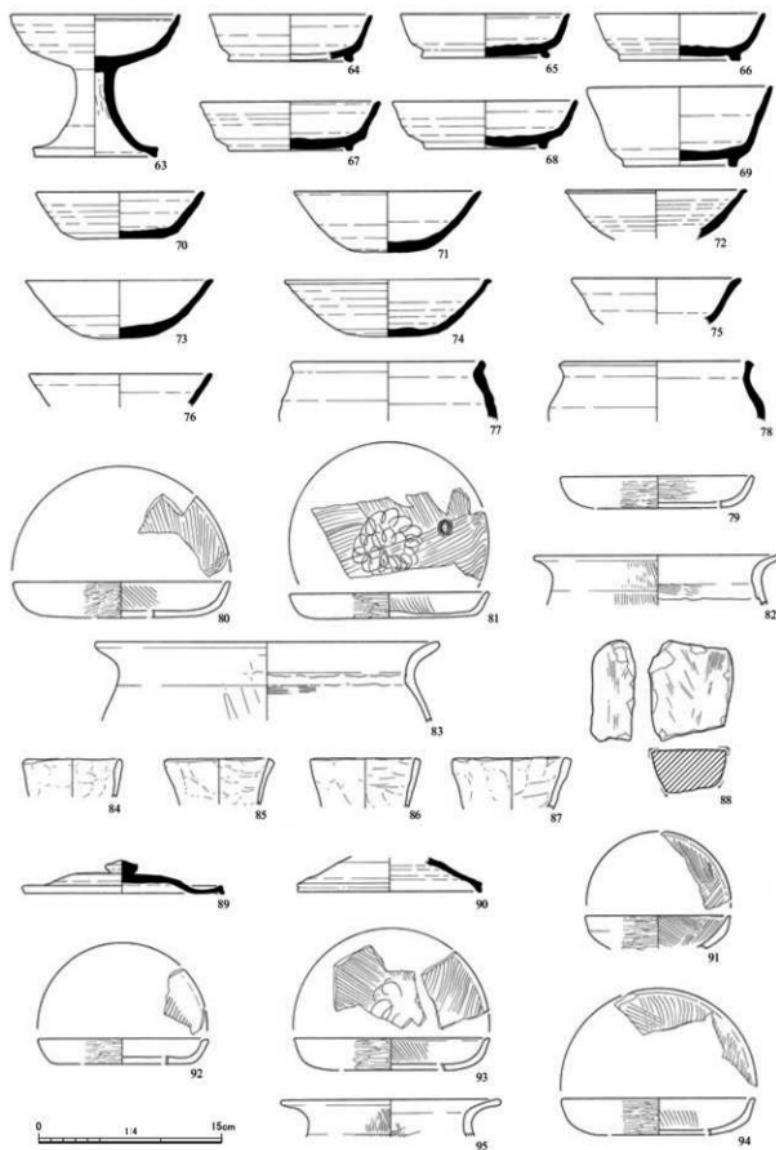


Fig.75 SS04 出土遺物 (1)

63 ~ 88 : SS04 89 ~ 95 : SS04 上層

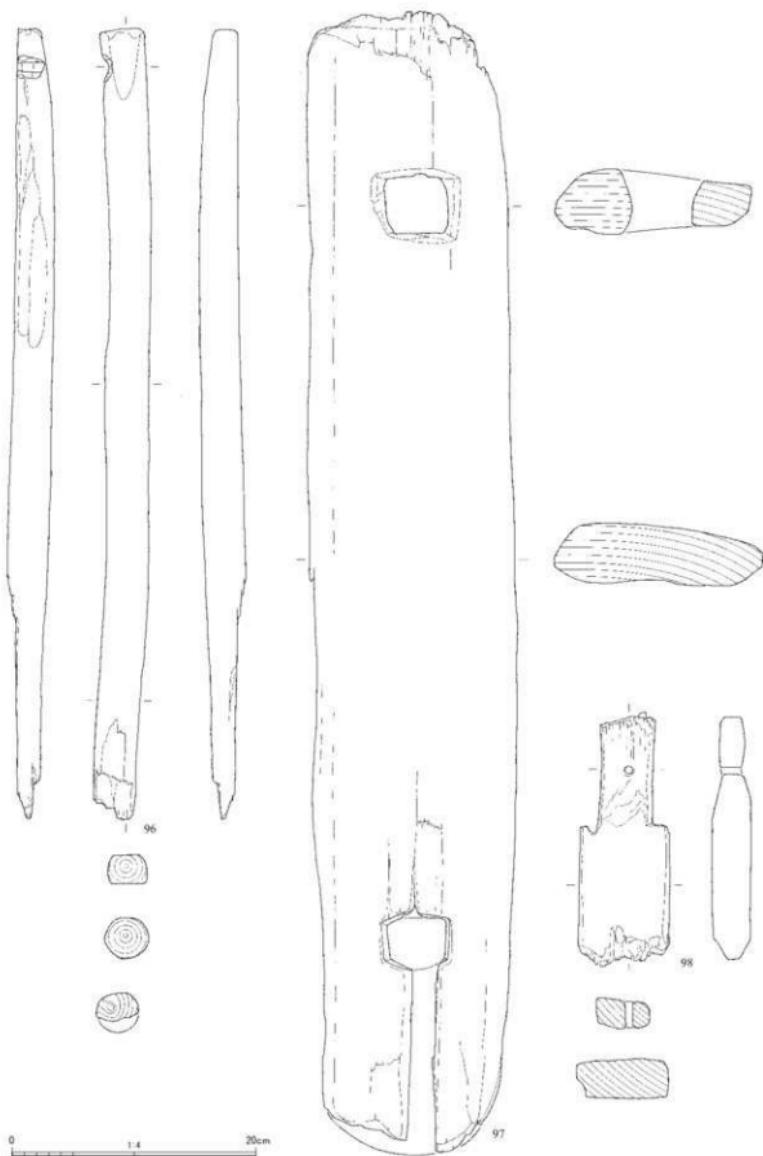


Fig.76 SS04 出土遺物 (2)

29～62は製塙土器である。34点分図化したが、図示しなかった小破片も多い。口縁部の破片数では114点を数える。焼成や胎土から、精良な胎土で焼成が良いもの（A群、29～56）と、砂粒が目立つ粗い胎土で焼成が比較的のあまりのもの（B群、57～62）の2者に分けることができる。前者には、須恵器のように硬質に焼きあがるもの（30）もみられる。いずれも口縁部のみが遺存し、底部・脚部は破片を含め全くみられない。口縁端部は尖るもの（45・59など）が若干あるが、多くは厚くなるもの（29・30など）が多く、端部に幅が広い面をもつもの（33・40など）も含まれる。ただし、口縁部の造りは粗雑で同一個でも形状の違いが大きく、厳密に形態差を分離することは難しい。

SS03 SS02の北西約10mの地点にみられた小規模な貝塚である。ヤマトシジミがまばらに分布するのみで、貝層の厚さはほとんど確認できない。貝塚に共伴するような土器もみられなかった。

SS04 (Fig.70) 発掘区の北西側に突出した拡張調査区の中において、トレント状に調査した貝塚である。伊場大溝の土層図(Fig.3-上図11層)にその断面を示す。貝塚の規模は不明であるが、貝層の厚さが30cmを超えており、今回調査した中でも最も規模が大きいものであった可能性が高い。SS04からは63～88、96～98の遺物が出土した。なお、89～95はSS04の直上出土遺物である。

SS04出土遺物 (Fig.75・76) 63～88、96～98はSS04中から出土した遺物である。63～78は須恵器である。概ね遠江V期に位置づけられる遺物群とみてよい。やや深めの有台坏身（69）は遠江V-3期を代表する器種である。SS04の形成時期は8世紀中葉頃といえよう。84～87は製塙土器である。焼成、胎土は比較的良好で、SS02出土遺物において分類したA群に相当する。SS04から出土した製塙土器においても、遺存しているのは口縁部のみで、底部・脚部は全く確認できない。96の木製品は用途不明で、先端に抉りがみられる。97の木製品は建築部材と考えられ、貝塚中に構築された階段状施設に使用されていた可能性がある。98も不明品である。

89～95はSS04の直上から出土した遺物である。89の坏蓋は平坦化の傾向がうかがえ、新しい様相をもつものと認識できる。

(5) V層出土遺物

概要 Fig.77～84にV層から出土した遺物を示す。V層から出土した遺物のうち、図示したものは129点（貝塚出土遺物を含むと227点）である。土器の量は比較的少ないものの、木製品の出土量が多い点が注目できる。以下、須恵器（99～140）、土師器（141～176）、土馬（177・178）、卜骨（179）、砥石（180・181）、木筒（182～187）、木製品（188～227）の項目に分けて紹介する。

須恵器 (Fig.77) 99～140はV層から出土した須恵器である。坏蓋・坏身（99～121）の比率が多く、他の器種は希少である。帰属時期が明確な坏蓋・坏身に注目しておこう。遠江IV期に位置づけられる「坏H」や「坏G」の系統に連なるものが少数ながらみられる（99～106）。これらの遺物は下層のⅦa層からの混入品とみるとできようが、V層の堆積開始期が遠江IV期末葉に一部かかることを示している可能性も否定できないだろう。古相を示す有台坏身（113）の存在も示唆的である。ただし、V層出土須恵器の主体は、摘蓋（107～112）、有台坏身（114～121）、無台碗（122～131）が組み合う遠江V期であることには変わりない。

137～139は須恵器の壺蓋・壺身を転用した硯、140は中空把手付円面硯である。今回の調査で出土した専用硯は、140の1点のみで残りは転用硯であった。

土師器 (Fig.78) 141～176はV層から出土した土師器である。壺(141～148)、甕(149～155)、碗(156～170)などの器種がみられる。壺には暗文が施されるものがある(142・148)が、無文のものも多い。甕は良好に遺存するものが少ない。149といった混入品とみられる個体や150・152のような壺とみられる個体を除くと、その量は極めて少ないといえよう。甕が少ない傾向は、上層のIV b層においても同様であり、VII b層・VII a層との組成比の違いが明瞭である。

171～174は、瓶もしくは把手付鉢の雛形である。いずれも粘土を添付した把手の表現がみられる。175・176は高盤形の雛形である。

土馬 (Fig.78) 177・178は土馬(土製馬形)である。双方ともに弓形の体部に琴柱形の脚部が前後に接合されて形づくられている。製作技法が似るだけでなく、出土位置も近接していることから、両者は二個一組で用いられた可能性が高い。177の頭部には、小さい粘土の添付がみられ、目もしくは耳を表現したものと考えられる。178の頭部とみられる部分には粘土が剥離した痕跡がみられる。

ト骨 (Fig.78) 179はト骨である。片方を欠損するが、全体形はほぼうかがうことができる。鹿骨を薄くしたものを用い、表面には入れ違いに長方形の窪み(鑽)が入れられている。いずれの窪みにも先端が十字形をした焼火箸をあてた痕跡が確認できる。

砥石 (Fig.78) 180・181は砥石である。180は凝灰岩製、181は軽石製である。180には垂下用の穿孔がみられ、提砥であったことが分かる。

木簡 (Fig.79) V層から、総数6点の木簡(182～187)が出土し、発見順に鳥居松1号～6号木簡と名付けた。詳細は別項(第3章4)で触れるので、概略のみ記したい。3号木簡は、糸を貸与した証文の木簡であり、郡家が織維製品の生産管理に関与していたことを示す。4号木簡はイネの出挙に関わるとみられる「サト名+人名」の木簡、5号木簡は何らかの貸借関係の発生に際して発行された木簡とみられる。紀年銘木簡が2点(3号、5号)含まれている。

木製品 (Fig.80～84) 188～227はV層から出土した木製品である。V層から出土した木製品には、人形(188)、斎串(189～199)、馬形(200～202)、舟形(203)、曲物(204～208)、背負子(209～211)、鉢(212・213)、堅杵(214)、田下駄(215)、木鍤(216)、不明品(217～227)がある。

188は人形である。頭部は5角形に成形され、両手の表現がみられる。木材はアスナロ属を用いている。189～199は斎串である。上下ともに完存するもの(196・197)、上部が遺存するもの(189～194)、下端部が遺存するもの(195・199)がある。なお、切り込みがみられないもの(192・198)は、斎串でない可能性も考えられる。木材は、大多数がヒノキ属もしくはアスナロ属で、199の1点のみコウヤマキを用いている。

200～202は馬形である。いずれもM字形をしているが、200は頭部に比べ尾が長い形態である。3個体とも、腹部に切り込みがみられ、201には支柱が残存している。木材は200・202がヒノキ属を、201がアスナロ属を用いている。203は舟形である。大振りなつくりであるが、上面には一条の沈

線が入れられている。木材はアスナロ属を用いている。

曲物は円形のもの（204～206）と楕円形のもの（207・208）の2種がみられる。204の曲物底板と205の曲物側板は組み合って出土している。206は別の製品に転用されており、側辺に穿孔列がみられる。207は両端に突起がある大型の楕円形曲物底板である。木材は、アスナロ属を用いている。

209～211はY字形をした木製品で、伊場遺跡の報告書の分類に合わせ「背負子」とした。伊場遺跡群では類例が数多く知られているもので、背負子としての復原案が示せないことから、「Y字形木製品」と呼称した上で、機織具の一部や、舟の櫂受けもしくは帆立柱の部材といった可能性も示されている。Y字形の又の部分と、その反対側に顕著な擦痕が認められ、又の部分と直交する基部には2箇所の抉りが入れられている。木材はいずれもマツ属（二葉松類）を用いている。

212・213は曲柄平鍬である。213の先端には鉄製鍬先が装着されていた痕跡が残る。木材はともにコナラ属アカガシ亜属を用いている。214は堅枠である。抜き部と握り部への移行部分が遺存している。抜き部端は使用痕が著しい。木材はクヌギを使用している。215は田下駄（大足）である。枠型田下駄の継枠で、両端が完存する。両端には手綱を縛った痕跡がみられる。紐擦れが顕著な側を下として使用されたとみられよう。11箇所あけられた方形の孔には、横桟の一部や楔の木材が残存している箇所がある。木材は、アスナロ属を用いている。216は木錘である。三角柱形の本体の側辺中央に抉りが入れられている。木材はアスナロ属を用いている。

217～227は不明品である。221は先端に突起が形成され、本体中ほどの側辺に弧状の抉りが入れられている。223は板状の側辺に2箇所に刻みがみられる。編台の可能性があるだろう。224は棒状の先端を扁平に加工している製品である。棒状部も底面が扁平に加工されており、板状を呈する端部には穿孔が3箇所みられる。穿孔された孔には別部材の木釘が遺存している。木材はヒノキ属を用いている。225～227は先端が銳利に加工された棒状品である。

年代 V層から出土した木簡の紀年が己酉年（709）と神亀元年（724）であることが注目できる。須恵器も遠江V期に主体があり、概ね8世紀前半に中心をおいてよい。V層からの若干の混入は認められるが、V層出土品は、時期的にまとまりがある遺物群と捉えられる。

（6）小 結

V層の堆積年代は、遠江V期にはほぼ併行する。2点の紀年銘木簡が示す実年代は709年と724年であり、8世紀前葉と捉えられている土器の年代観とも整合する。出土遺物の組成は、V層と比べると変化が著しい。V層中から出土する土器の量が比較的少ない点は、遺跡の性格が転換したこと示唆しているだろう。とくに、日常の煮沸具である土師器壺の出土量が、V層と比べて極めて少ない点は象徴的である。土器の様相の変化と呼応するように、V層出土遺物には官衙的性格をもつ出土品が数多くみられる。6点を数える木簡をはじめ、木製祭祀具といった遺物の存在は、鳥居松遺跡が敷智郡家の一角にあることを明確に示している。

伊場大溝内における貝塚のあり方は、伊場遺跡や梶子遺跡と共に通する。貝塚SS02・04から出土した製塩土器は、いざれも渥美半島を中心とした三河湾沿岸地域から搬入されたものとみられる。とくにSS02における製塩土器の出土量が伊場遺跡群の他の出土地の中でも突出している点は注目

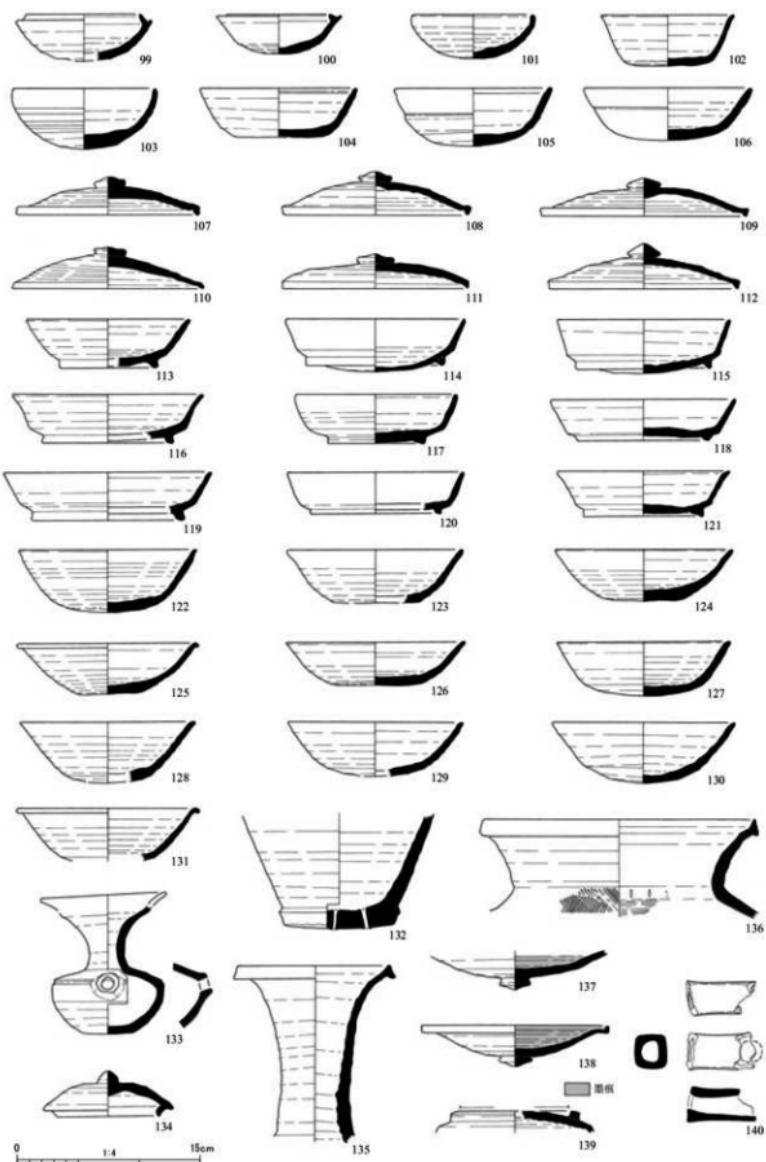


Fig.77 V層出土遺物（1）

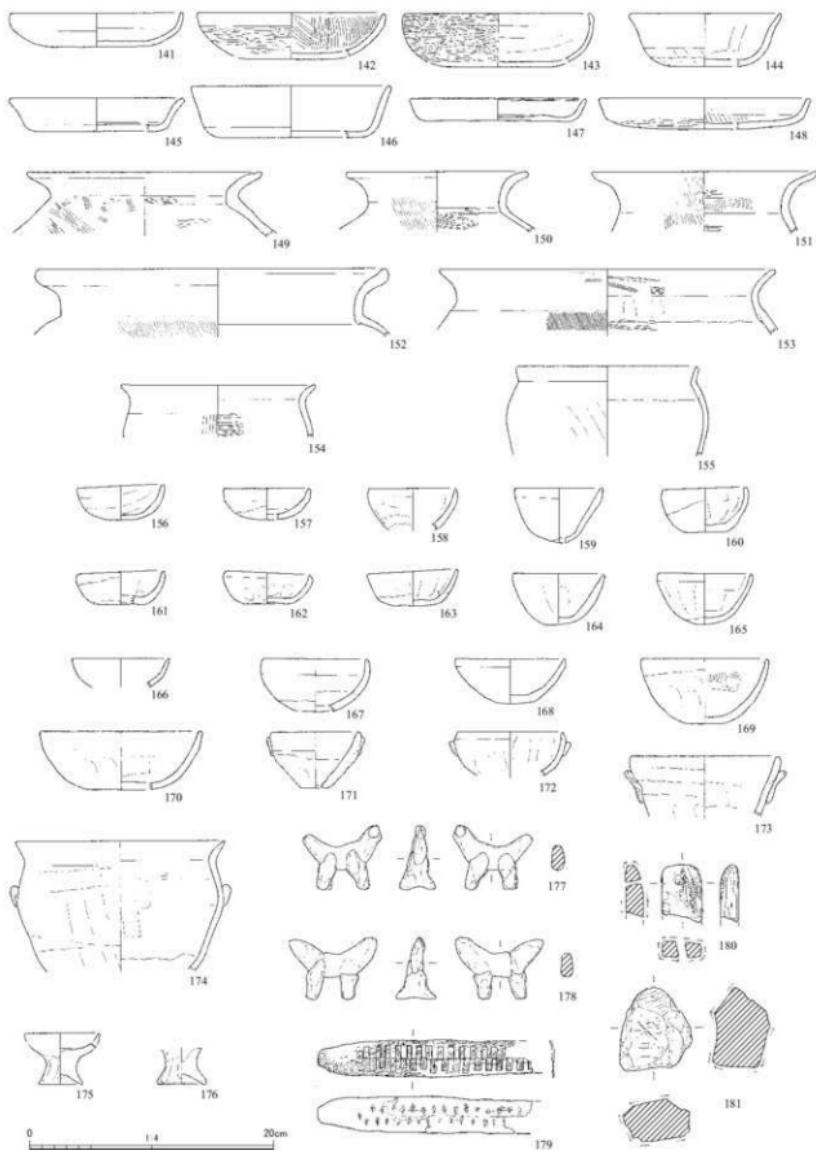


Fig.78 V層出土遺物（2）

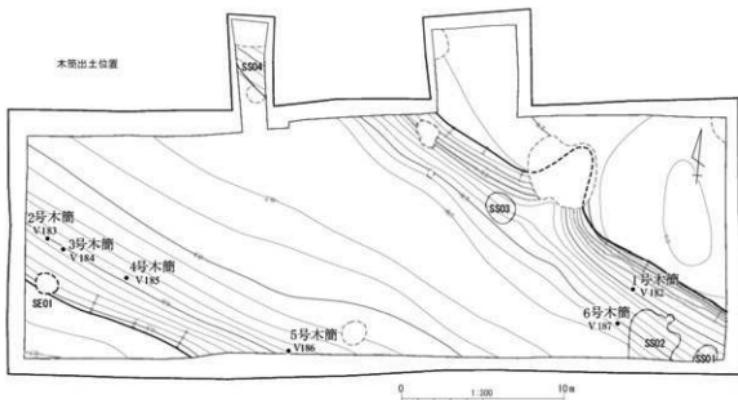
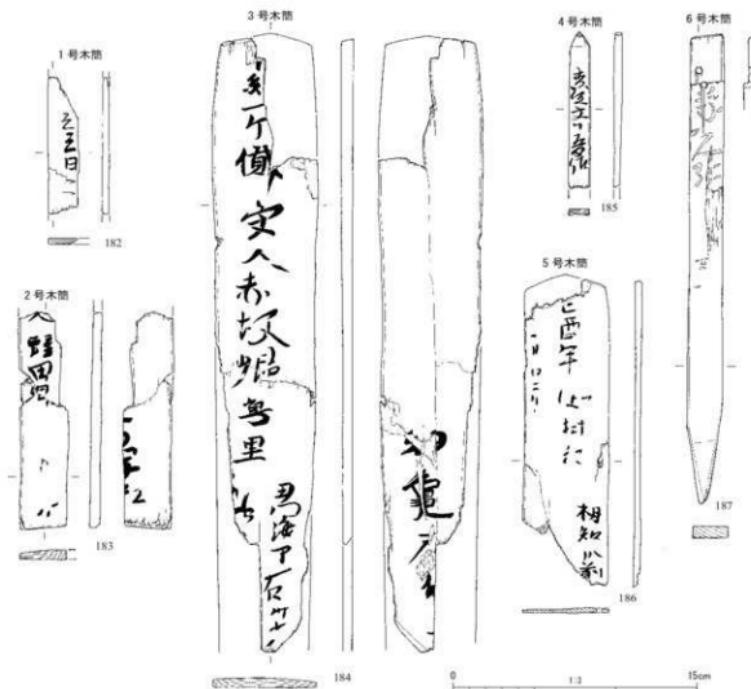


Fig.79 V層出土遺物（3）

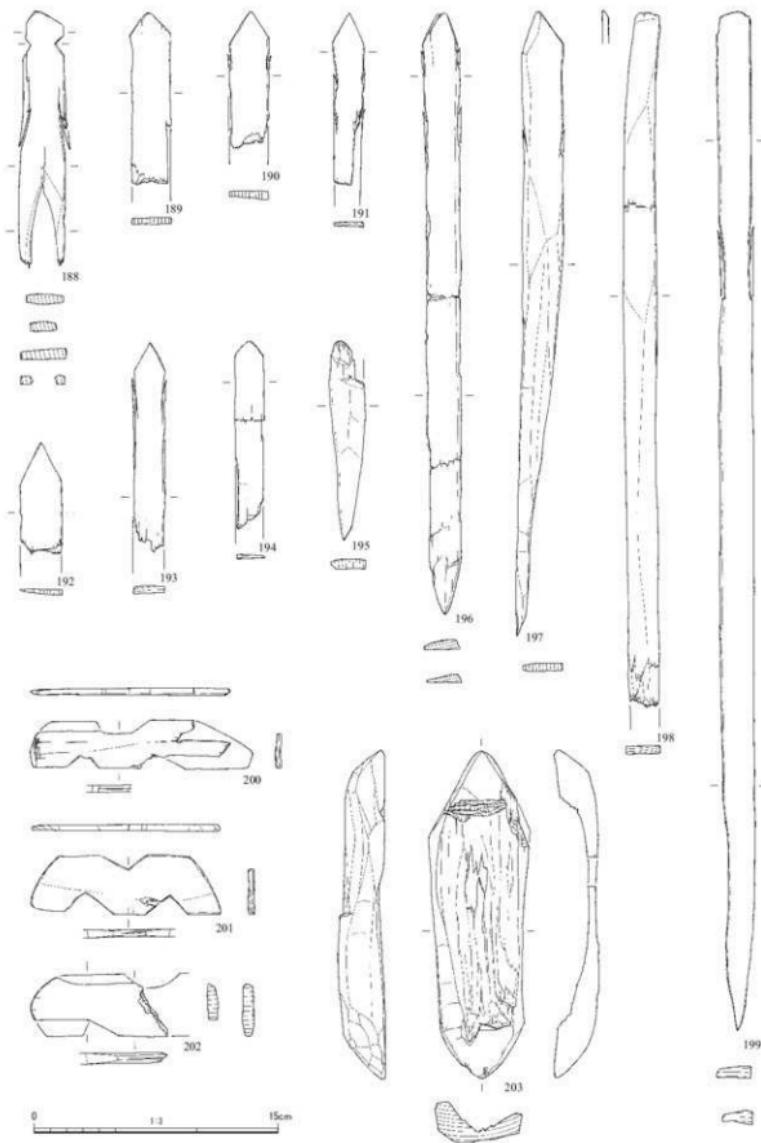


Fig.80 V層出土遺物 (4)

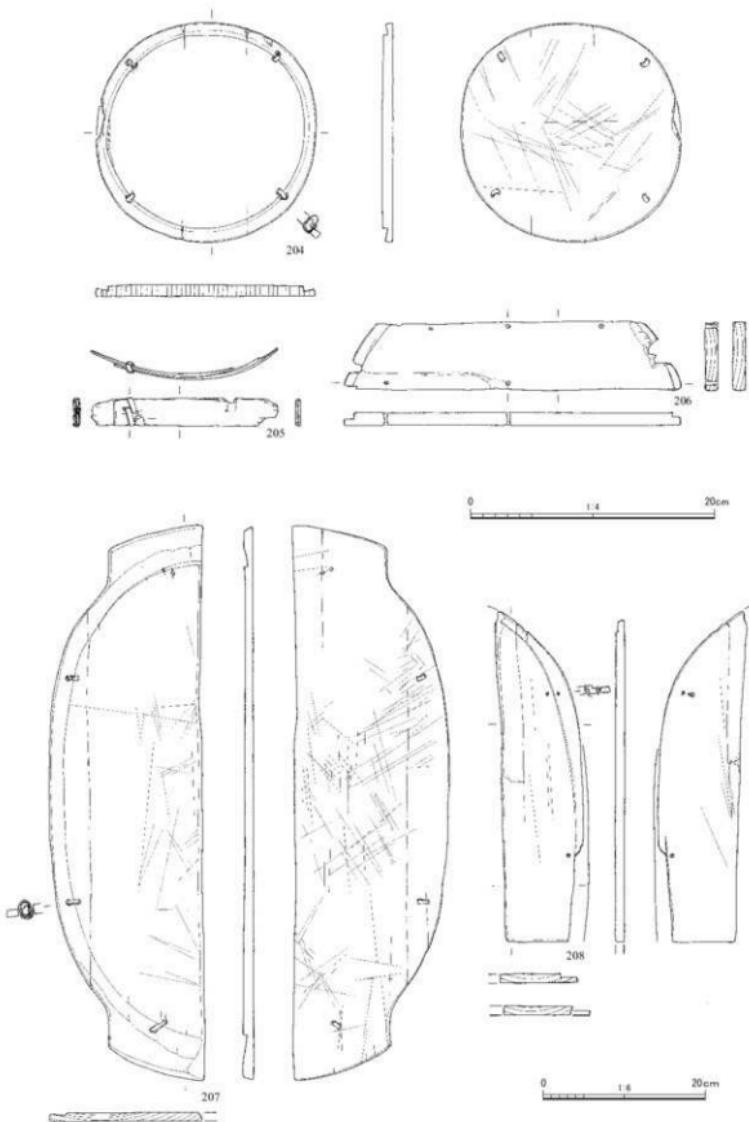


Fig.81 V層出土遺物 (5)

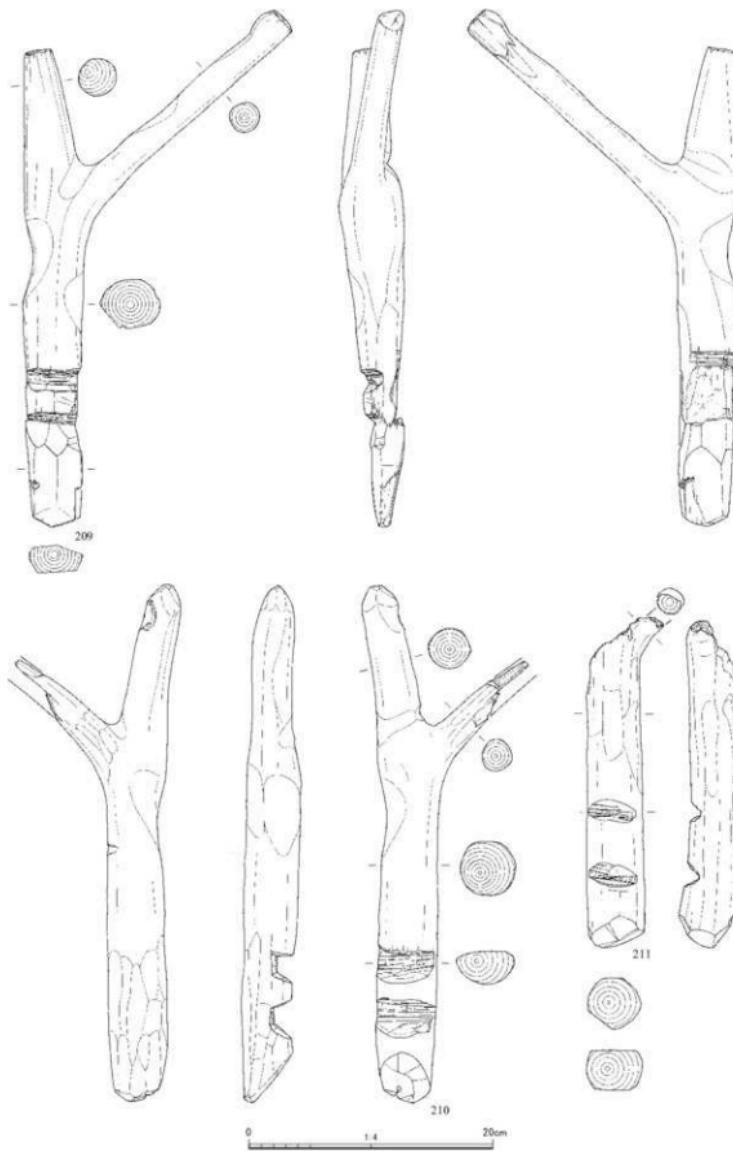


Fig.82 V層出土遺物 (6)

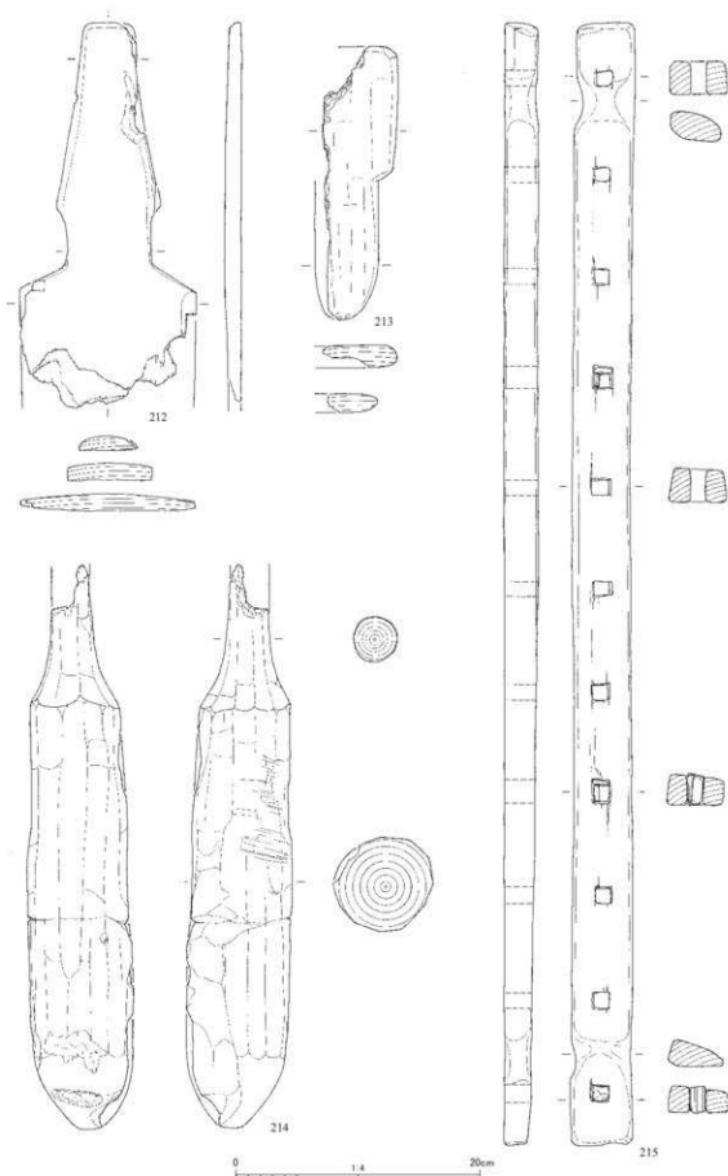


Fig.83 V層出土遺物 (7)

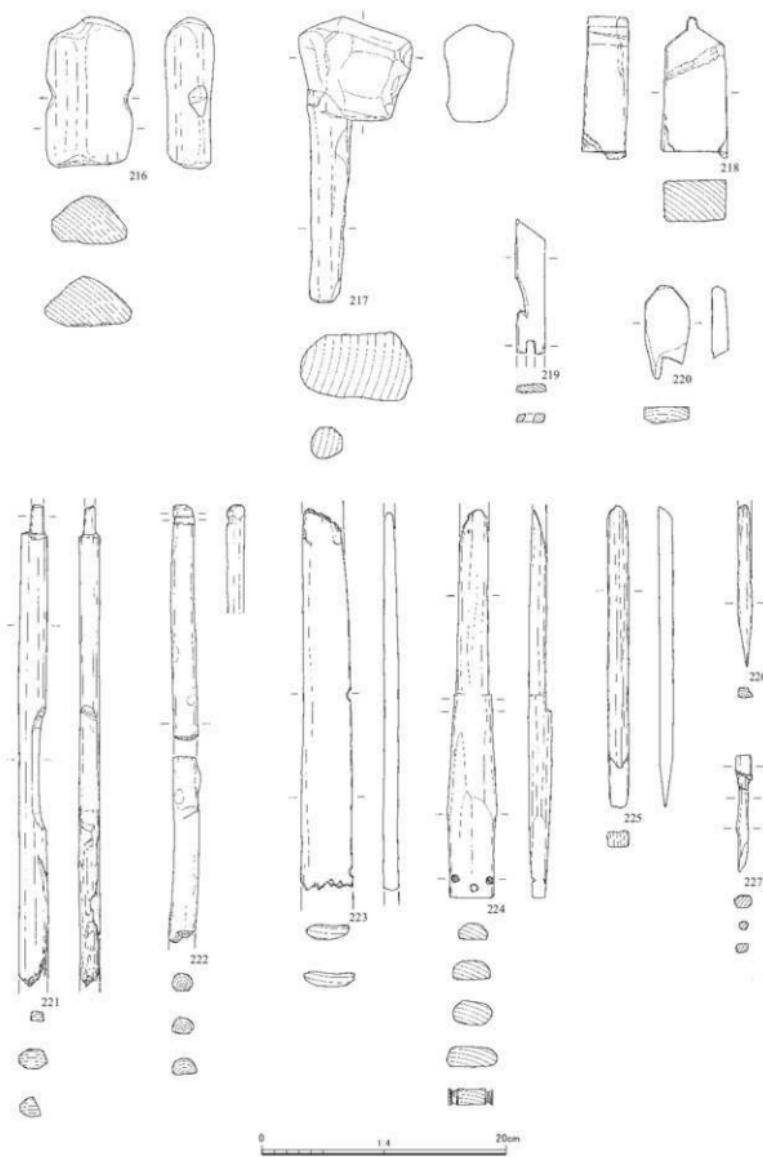


Fig.84 V層出土遺物 (8)

5 IV b層の調査

(1) IV b層の概要

IV b層は、暗茶灰色を呈する層位で、砂層は全く混ざらない。奈良時代後葉～平安時代前葉（8世紀後葉～9世紀前葉）を中心とした時期の堆積層である。砂層が混入しないことからうかがえるように、IV b層が堆積した時期には伊場大溝の水量は減少し、當時は湿地帯のような環境にあったと推定できる。IV b層の南岸には井戸状施設（SE01）が築かれている。また、北岸の貝塚上層には、土器や木製祭祀具の集積がみられた。これらの遺物の集積はSX01～04とし、その他のIV b層出土遺物とは個別に取り扱う。

IV b層から出土した遺物の中では、11点の「輪万呂」墨書き土器、人面墨書きの人形・土器などが注目できる。V層で出土した木簡とともに、敷智郡家に関連する遺物といえるだろう。

(2) 伊場大溝の形状

IV b層が堆積した伊場大溝の本来の形状は、Fig.85に示すものである。底面の標高は-0.4mほどで、V層と同様に目立った凹凸はない。北側の斜面の傾斜が南側の斜面の傾斜と比べ急角度である。IV b層堆積時の伊場大溝の水量は相当少なかったとみられるが、水が流れる部分は北側斜面に偏つ

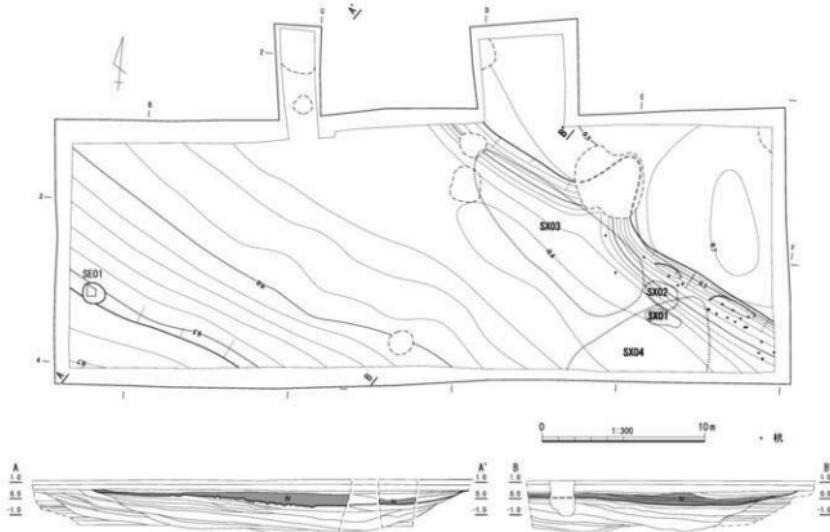
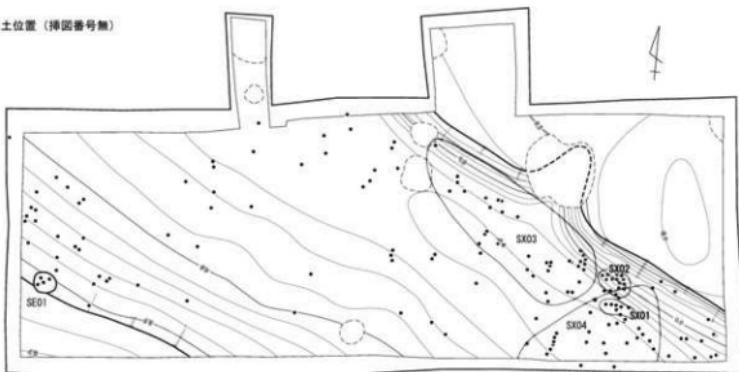


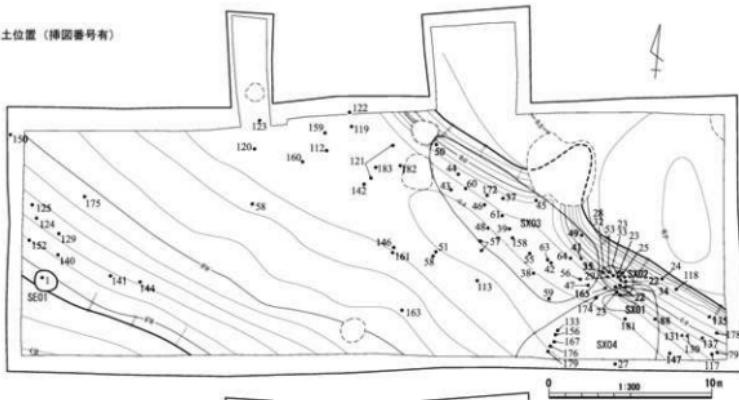
Fig.85 伊場大溝IV b層

5 IVb層の調査

遺物出土位置（挿図番号無）



土器出土位置（挿図番号有）



石製品・木器等出土位置（挿図番号有）

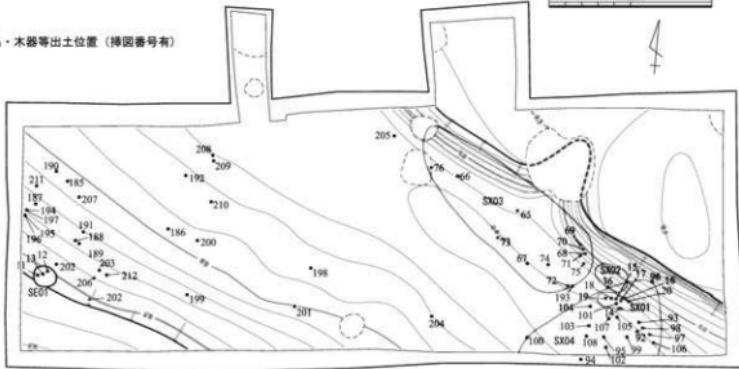


Fig.86 IV b 層における遺物出土位置

ていたと考えられる。IV b 層の堆積が認められる部分の幅は 22m 程度であり、伊場大溝の幅に相当する。また、地表から底面までの深さは約 1.1m である。

伊場大溝の北岸には V 層にみられた階段状施設や杭列が存続しているとみられる。水際に近寄りやすい階段状施設や護岸施設の存在は、遺物集積 SX01 ~ 04 の形成ともかかわると捉えられよう。

(3) 遺物の出土状態

出土位置の傾向 IV b 層に含まれる遺物の出土位置は、V 層同様に伊場大溝の両岸に偏る傾向がみられる。南北両岸から伊場大溝中にもたらされた遺物は比較的明瞭に分離することができる。遺物が比較的集中するのが、発掘区の東側 SX04 とした範囲と、発掘区の西側 SE01 の近辺である。

土器 上述の出土位置の傾向どおり、V 層から出土する土器は南北の両岸に集中する。とくに北岸は SX02 といった土器集積を典型にして、遺物の集中度が高い。SX01 ~ 04 とした遺物の集積がみられ、この中には墨書き土器が高い密度で含まれる。11 点におよぶ「稻万呂」墨書き土器は、土器集積 SX03 を中心に東西 20m ほどの間のほぼ同一層位から出土している。この中には、「上殿」、「福刀自」、「廣」と書かれた墨書き土器も含まれる。

南岸の井戸 SE01 近辺から出土した土器群（124 ~ 127・129・132・134・140・148・152 など）についても、ある程度のまとまりを認めてよい。また、須恵器の広口壺 141・144 はとともに完形に近く、出土位置も近接している。二個一組で扱われ、伊場大溝内にもたらされた可能性が指摘できるだろう。

土師器壺を用いた人面墨書き土器（64）は、北岸の遺物集積 SX03 から、土師器碗を用いた人面墨書き土器（182・183）は SX03 に近接する北岸から 2 個体がまとまって出土している。

その他の遺物 斎串や人形、舟形などの木製祭祀具は、伊場大溝の南北両岸から出土しているが北岸の出土量が多い。北岸にある SX01 では人面の墨書きがある人形と斎串が集中していた。使用状況を示す出土状態といえる。また斎串は、SX03・04 とした北岸の遺物集積中からもまとめて出土している。

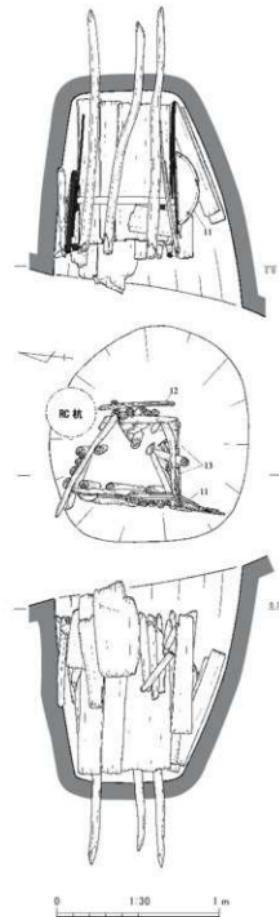


Fig. 87 SE01 実測図

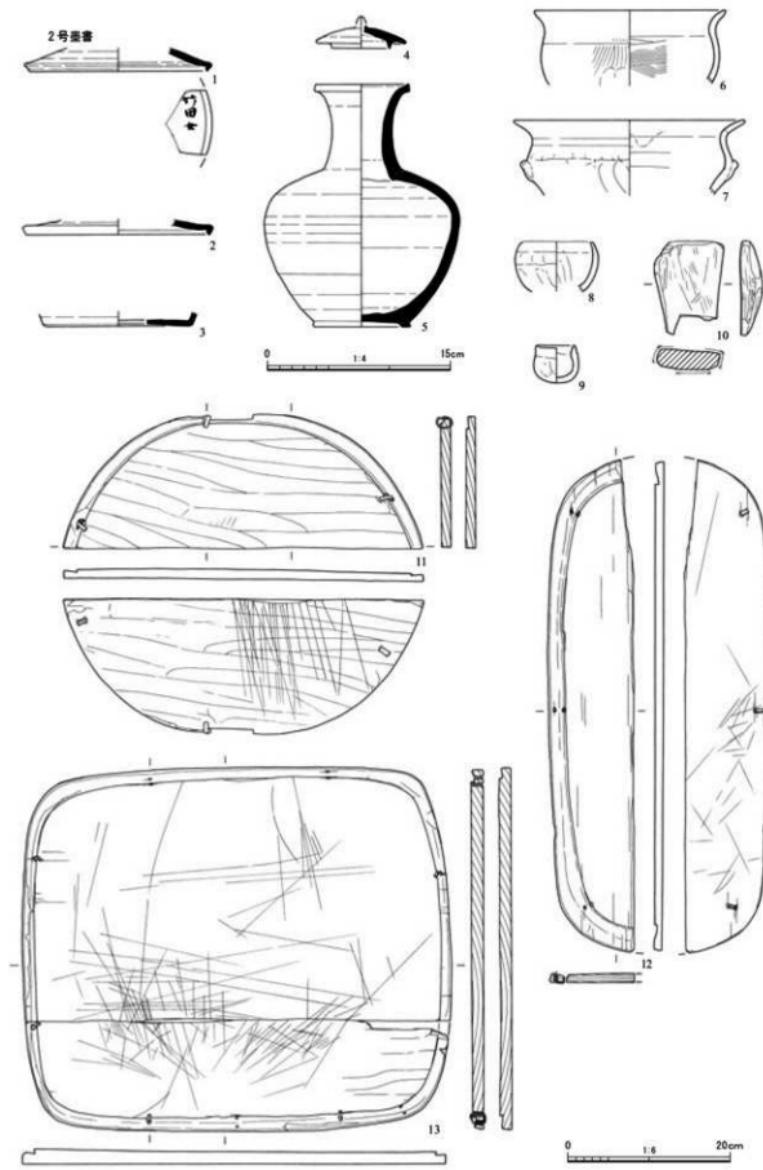


Fig.88 SE01 出土遺物

(4) 井 戸

SE01 (Fig.87) 伊場大溝の南岸の斜面において井戸状の施設を検出した。現代のコンクリートの建物基礎杭によって変形しているが、ほぼ全体形をうかがうことができる。方形に枠板を並べ、内側に杭を打ち込んで枠板を固定していた。井戸枠としては粗雑な造りで、水溜め程度の施設であったとみられる。用途は明確ではないが、ここでは、便宜的に「井戸」という表現を用いる。枠板の規模にあわせ、長径 1.3m ほどの平面円形の土坑が掘削されている。土坑の深さは、検出面からおよそ 1.2m ほどである。枠板は比較的丁寧に加工された材を用いていたが、中には曲物底板 (12・13) を転用している部分があった。また、枠木の外側にも曲物底板 (11) が落ち込んでいた。出土遺物は多くないが、1～10 の遺物が主に枠板の外側において確認できた。

SE01 出土遺物 (Fig.88) 1～13 は SE01 から出土した遺物である。1 は須恵器坏蓋で、内面に「竹田女」の墨書がみられる。7 は土師器の把手付鉢の雛形、8 は土師器小碗、9 は鉢形である。10 は粘板岩製の砥石であり、4 側面に使用面がみられる。11～13 は曲物底板である。11 は円形、12・13 は隅丸方形を呈する。12 は 2 片に分かれて転用されていたが、接合してほぼ完形になった。木材はアスナロ属を用いている。箱坏 (3) を含むことから、SE01 出土遺物は遠江 V 期から遠江 VI 期の移行期頃に中心が求められよう。

(5) 遺物集積

概 要 伊場大溝の北岸には、木製祭祀具や土器が集中して出土する区域が認められた。これら遺物集積を SX01～04 とし、一部、遺物の出土状態図を作成した。このうち、SX01・02 は遺物どうしの近接度が高く、廃棄時の一括性が高い出土状態が確認できた。いっぽう、SX03・04 は遺物相互の間隔が比較的離れており、集積が形成されるまでにある程度の時間幅を認めてよいような出土状態であった。

SX01 (Fig.89) 伊場大溝北岸の -0.1m ほどの緩やかな斜面上で検出できた木製祭祀具の集積遺構である。検出した位置は、IV b 層の最上層にあたるため、IV b 層の中でも比較的新しい時期（平安時代前葉）に形成されたものとみられる。人面墨書がある人形 2 点 (14・15) と、斎串 5 点 (16～20) で構成されている。これら木製祭祀具の出土位置は互いに近接しており、祭儀を実施した状態を保ったまま埋没したものと推定できる。

人形は全長 22cm ほどのもの (14) と、11cm ほどのもの (15) があり、ともに近接した位置で頭部を上に向けて出土した。とくに 15 は、頭部が立った状態で埋没しており、人形が立てられていた可能性が指摘できる。斎串も 17 の出土状態に表れているように、斜面に差し込まれて立てられていたとみてよいだろう。

SX01 出土遺物 (Fig.90) 14～20 は SX01 から出土した遺物である。14・15 は人面の墨書がある人形である。ともに手を表現した切り込みはみられない。両者ともに頭部は冠が表現されているとみることもできる。14・15 ともに、首から体にかけて外形に沿った 2 条の線が書き込まれている。衣服とは異なる表現とも解釈できるが、何を表したものか明確でない。

16～20は斎串である。16・17は上下とも完存する。側辺の上下2方向に切り込みがみられる形態で共通性が高い。木材は14、16～18、20がアスナロ属、15がヒノキ属を用いている。

SX02 (Fig.89) SX02は、伊場大溝の北岸斜面、SX01の北側に近接して検出できた土器集積である。伊場大溝V層やIV b層中では、土器がまとまって出土することが稀であり、SX02がほとんど唯一の土器集中箇所といえる。須恵器の壺と長頸壺に加え、土師器の小碗がまとまって出土しており、何らかの儀礼を行った痕跡とも解釈できる。なお、SX02を確認した位置は、IV b層の中では比較的深いこと、出土遺物が示す時期も古いことから、SX02はV層に帰属させるほうが妥当かもしれないことを付記しておく。

SX02出土遺物 (Fig.90) 21～36はSX02から出土した遺物である。須恵器には摘蓋(21)、無台碗(22)、長頸壺(23・24)がみられる。なお、23は形態や色調の特徴から、狼投産の可能性がある。27～35は土師器の小碗である。口縁部が整うものと、比較的粗雑で波打つものが認められる。SX02出土遺物は、遠江V期から遠江VI期への移行期頃に中心が求められよう。

SX03 (Fig.91) SX02より西側の斜面から「稲万呂」と墨書した土器が集中的に出土した。「稲万呂」墨書き土器が出土する範囲をSX03とし、遺物の出土状態を図化した。今回出土が確認できた「稲万呂」墨書き土器のすべてが、SX03の範囲から出土している。

SX03からは37～78の遺物が出土した。14点の墨書き土器(37～50)が集中している点が最も注目できるだろう。このほか、人面墨書き土器(64)や斎串の集中(67～72)も同時代に執行された儀礼の痕跡を示すものといえよう。

SX03出土遺物 (Fig.92～94) 37～78はSX03から出土した遺物である。「稲万呂」墨書き土器(推定分を含む)は総数11点が出土した。稲穂を象ったような独特の記号の中に人物名「稲万呂」が墨書きされている。「稲万呂」と墨書きされているのは摘蓋の内側である場合(37～42)が多いが、坏身の底(43・44)、皿の底部(47)、高盤の上面(48)、土師器の皿もしくは壺(50)の底部などにもみられる。独特的の記号を伴う「稲万呂」の墨書きは特徴的である。37～40は筆跡も酷似し、同一人物の手による墨書きの可能性が高く44・47なども比較的似た筆致といえるだろう。これに対し42は「万呂」の部分を省略して記し、明らかに筆跡が異なる。遺存状態が悪いが43も同様の表記がなされている可能性がある。省略して記された墨書きをもつ土器は型式的にも新しく(遠江VII-2期、9世紀前葉)、「稲万呂」墨書き土器がある程度の存続期間を有していることが知られる。

このほか、SX03からは「上」・「上殿」と記された箱壺(45)、「福刀自」と記された双耳箱壺(46)、「廣」と記された短頸壺蓋(49)なども知られる。これら墨書き土器は遠江VI期に中心があるが、平頂蓋(42)や箱壺(43～46)、高盤(48)などは遠江VII-1期まで降るとみることができる。「稲万呂」墨書き土器の存続年代は、遠江VI-2期頃からVII-1期にかけてといえよう。実年代では西暦800年を境に前後数十年頃にあたるとみられる。

墨書き土器以外の出土遺物としては、須恵器(51～60)、土師器(61～64)、鹿角(65)、鐵形木製品(66)、斎串(67～72)、曲物(73～78)がある。須恵器には51・52・57などの古相を示す遺物が含まれるが、概ね遠江V期後半の遺物群とみてよいだろう。箱壺を転用した硯(56)には朱墨痕が残る。人面墨書き土器(64)は土師器の小型甕に人面を墨書きしたものである。

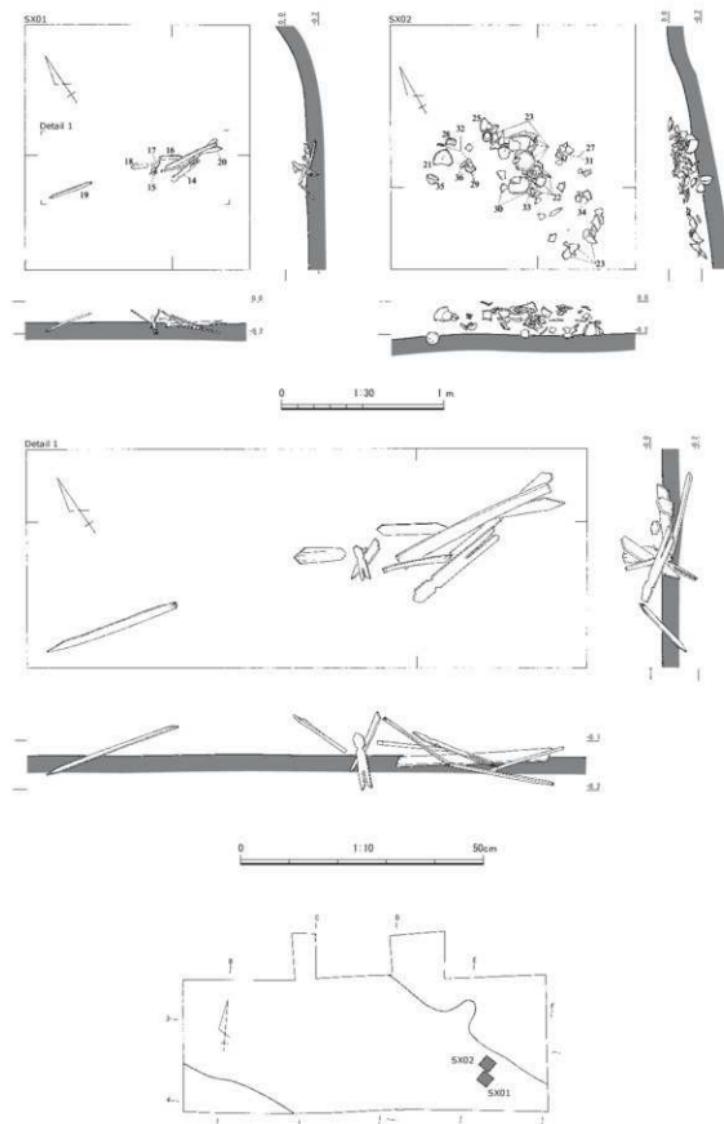


Fig.89 SX01・02 遺物出土状態

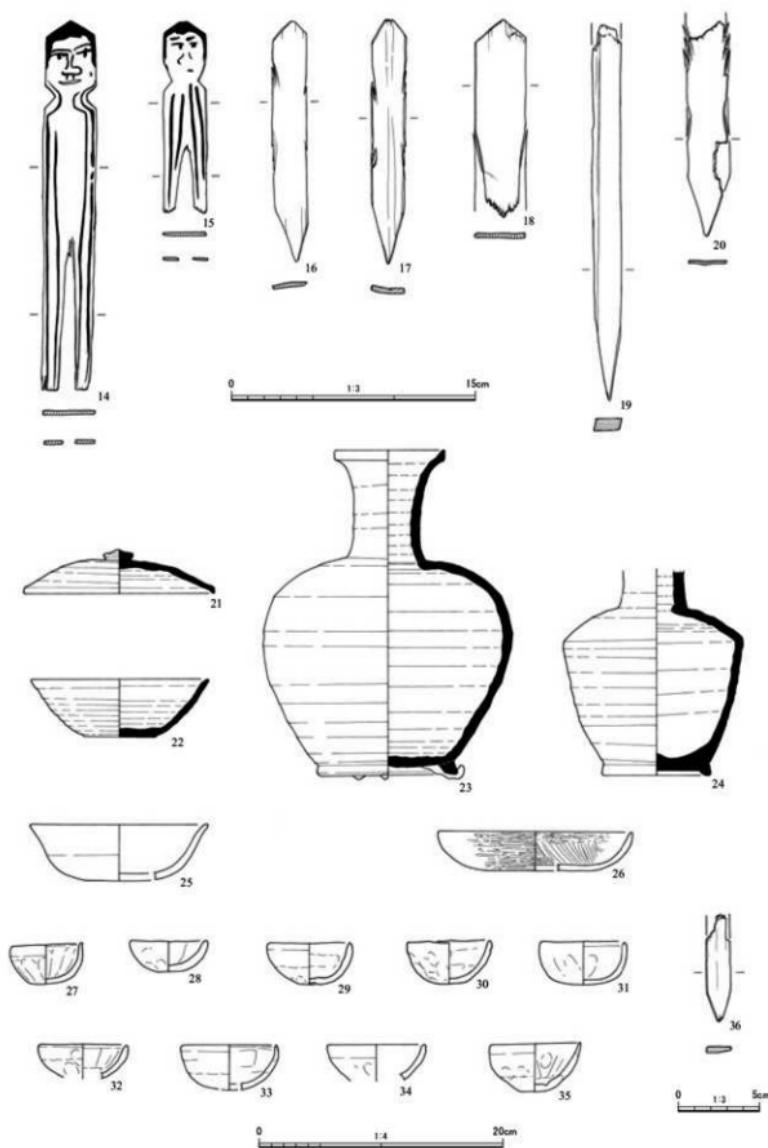
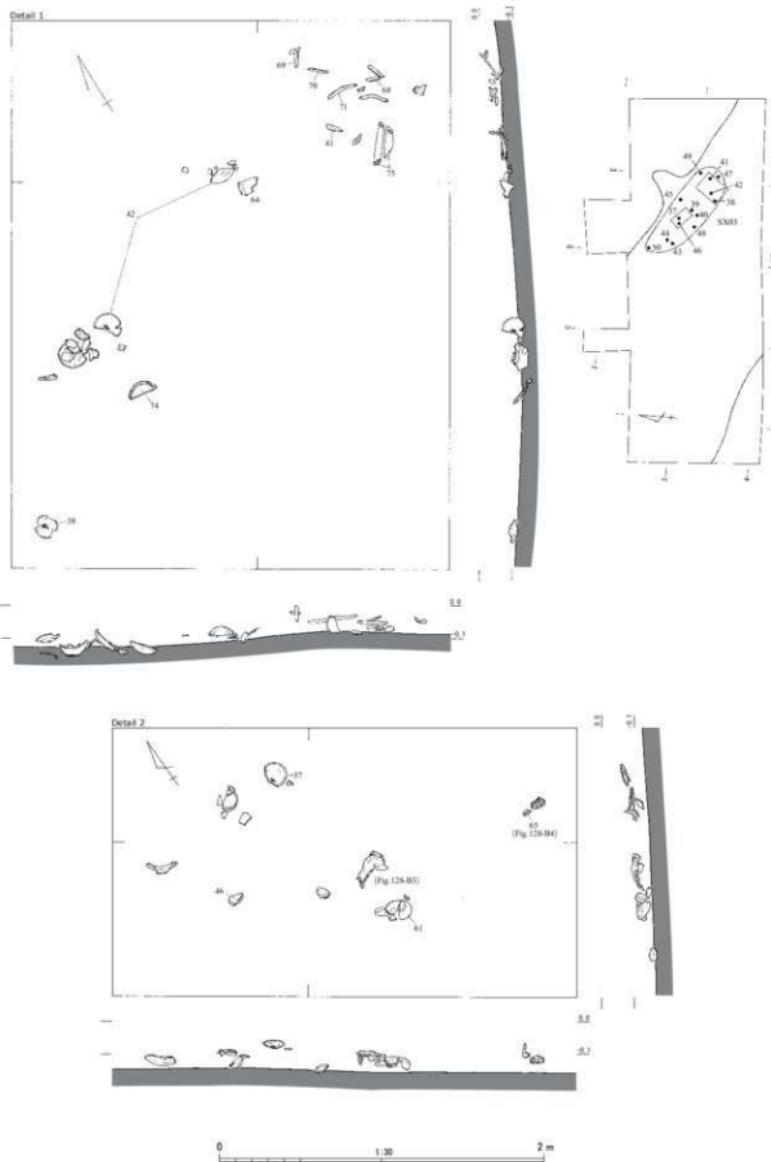


Fig.90 SX01・02 出土遺物

14～20 : SX01 21～36 : SX02



5 IVb層の調査

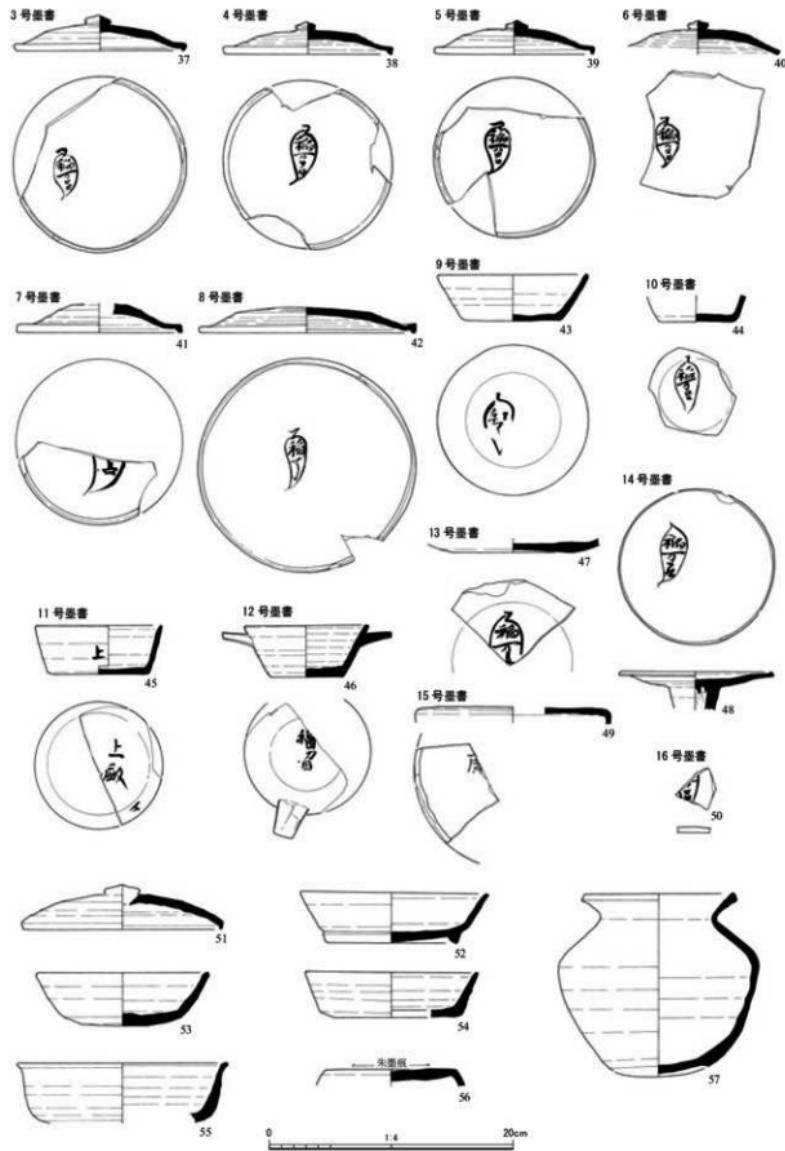


Fig.92 SX03 出土遺物 (1)

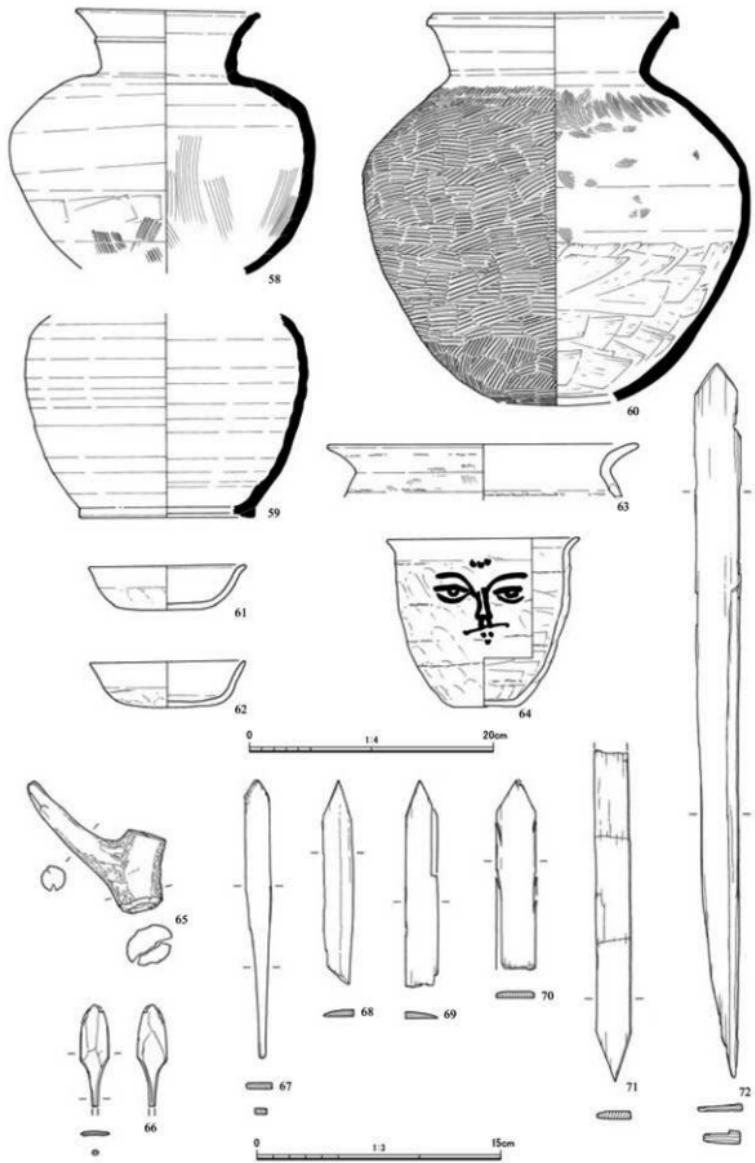


Fig.93 SX03 出土遺物 (2)

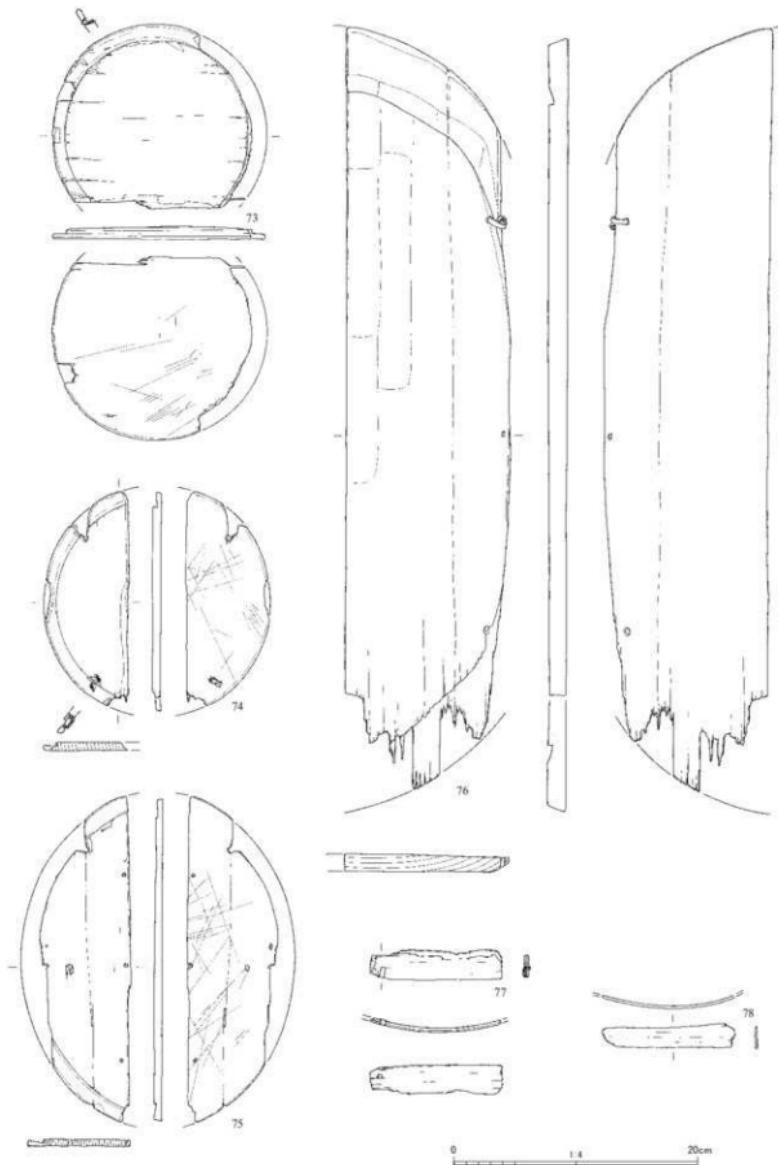


Fig.94 SX03 出土遺物 (3)

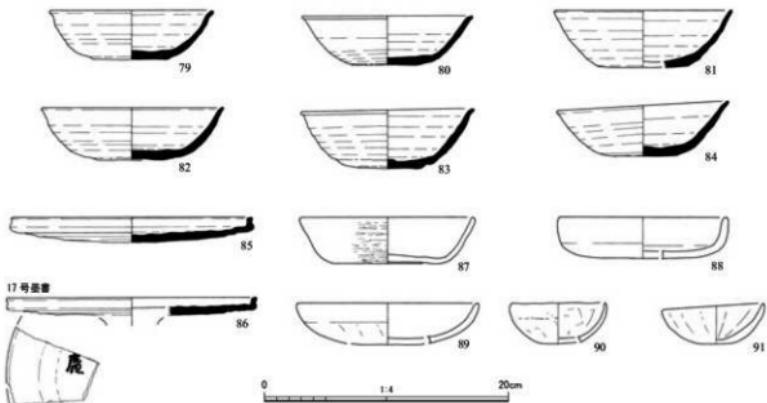


Fig.95 SX04 出土遺物（1）

鹿角（65）は両端が切断され、短い枝角部分が残されている。何らかの未成品ともみられるが、素材を切り出した残滓の可能性もある。鐵形木製品（66）は柳葉形を象ったもので、アスナロ属を用いている。67～72は斎串である。67は小型品で下部は棒状に加工されている。72は比較的大型の製品であるが、下部は欠損しており全長は不明である。木材は、アスナロ属もしくはヒノキ属を用いている。73～78は曲物である。底板は円形のもの（73～75）と楕円形のもの（76）が知られる。

SX04 (Fig.86) SX03 と同一層位において出土した遺物のうち、SX02 よりも東に位置するものを SX04 とする。遺物の出土位置はまばらであるが、木製祭祀具が集中している点が注目できる。

SX04 出土遺物 (Fig.95・96) 79～108は SX04 から出土した遺物である。79～86が須恵器、87～91が土師器、92～108が木製品である。

須恵器には、無台碗（79～84）、盤（85）、高盤（86）がある。85や86といった器種を含むことから、SX04出土遺物は遠江VI期に位置づけられる。なお、86の高盤の上部下面には「廣」の墨書がみられる。87～91は土師器である。环身（87～89）と小碗（90・91）がみられ、須恵器の年代観とも矛盾しない。

木製品には、人形（92）、斎串（93～101）、舟形（102）、横桟状木製品（103）、摺り節状木製品（104）、曲物（105・106）、不明品（107・108）がみられる。92の人形は、手の切り込み部分が欠損している。木材は、アスナロ属を用いている。斎串（93～101）は側辺の切り込みがみられないものが多い。木材は、アスナロ属もしくはヒノキ属を用いている。102の舟形は、内側を削り貫いただけの比較的簡易なつくりである。木材は、ヒノキ属を用いている。103は両側に柄が作り出された横桟状の木製品で、田下駄の部材であった可能性がある。104は摺り節状の木製品である。先端は欠損しており、全体形は不明である。側辺には漆の塗布が認められる。木材はヒノキ属を用いている。105・106は曲物底板、107は楔形を呈する不明品、108は両端が鋭利に加工された不明品である。

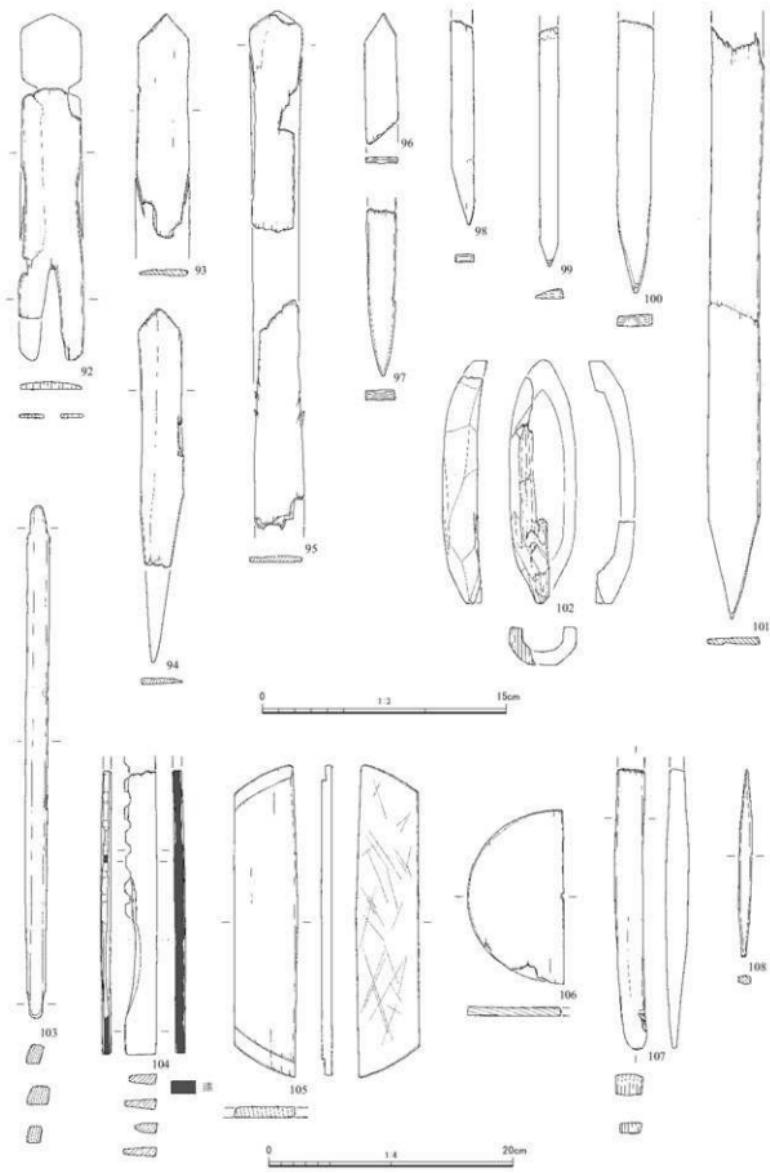


Fig.96 SX04 出土遺物 (2)

(6) IV b層出土遺物

概要 Fig.97～101にIV b層から出土した遺物を示す。IV b層から出土した遺物のうち、図示したものは105点(遺構出土遺物を含むと213点)である。以下、須恵器(109～152)、土師器(153～184)、木製品(185～213)の項目に分けて紹介する。

須恵器 (Fig.97・98) 109～152はIV b層から出土した須恵器である。坏蓋・坏身(109～129、136～139)のほかに、無台碗(130～135)、盤(140)、広口壺(141～145)、鉢(146)、壺蓋(147)、長頸壺(148・149)、横瓶(150)、甕(151・152)などの器種が認められる。

帰属時期が明瞭な坏蓋・坏身(109～129)に注目すると、109のような古相を示す摘蓋や、有台坏身(115～123)を含むものの、直径が縮小した摘蓋(114)や一定量の箱坏(124～129)がみられる。ここに紹介するIV b層出土遺物は、遠江V期を含む可能性を示すが、その主体的な時期は遠江VI期に位置づけてよいだろう。IV b層出土遺物の中には、転用硯が4点(136～139)含まれる。このうち、139は直径27cmを超える大型品である。このほか、IV b層出土須恵器には、広口壺(141～145)が比較的目立つ。広口壺は、遠江VI期になると数が少なくなることをふまえると、先述のように、IV b層の堆積時期が遠江V期を含んでいる可能性が高いとみられよう。

土師器 (Fig.99) 153～184はIV b層から出土した土師器である。無台の坏身(153～158)のほかに、有台坏身(159・160)、皿(161～163)、高盤(164・165)、鉢(166～169、173)、壺(170～172、174・175)、把手付鉢形や瓶形・壺形の雑形(176・177・180・181)、小碗(178・179)、碗(182～184)などの器種が認められる。碗には人面墨書き土器(182・183)が含まれる。2点の人面墨書き土器(182・183)は、器形が若干異なるが、左に傾いた人面の表現が互いによく似ている。なお、184の碗にも墨痕がみられ、人面が墨書きされている可能性が考えられる。

木製品 (Fig.100・101) 185～213はIV b層から出土した木製品である。木製品には、鎌柄(185)、曲物(186～190)、高台付盤(191)、不明品(192～198)、人形(199・200)、斎串(201～206)、摺り籠状木製品(207)、不明加工板(208・209)、馬形(210)、舟形(211・212)、加工棒頭(213)がある。

鎌柄(185)は、鉄刃を装着した柄穴部分が遺存している。木材は、アカガシ亜属を用いている。186～190は曲物底板である。190は梢円形とみられるが、そのほかは円形である。186・190は有段、187～189は無段である。191は大型の高台付盤である。遺存状態が極めて悪いが、わずかに高台と側辺の一部が遺存している。192はヘラ状を呈する不明品、193は先端が加工された棒状品である。194～197は先端が山形に加工された角材で、4点がまとまって出土した。198は曲物底板を再加工したような形態をもつが、用途は不明である。

人形(199・200)や斎串(201～206)はV層出土品と共通性が高い。208・209は不明加工板である。両者は厳密には接合関係はないが、同一個体と考えられる。複雑な外形を描くが、何を象ったものか明確でない。表面には墨による縁取りや朱彩が認められる。210は馬形である。幅が2cm近い厚い板を加工している。直線的な下面には棒状の足を挿入したとみられる4箇所の孔と、中央に支柱を挿入したとみられるやや大きめの孔があげられている。211・212は舟形である。ともに、中

5 IVb層の調査

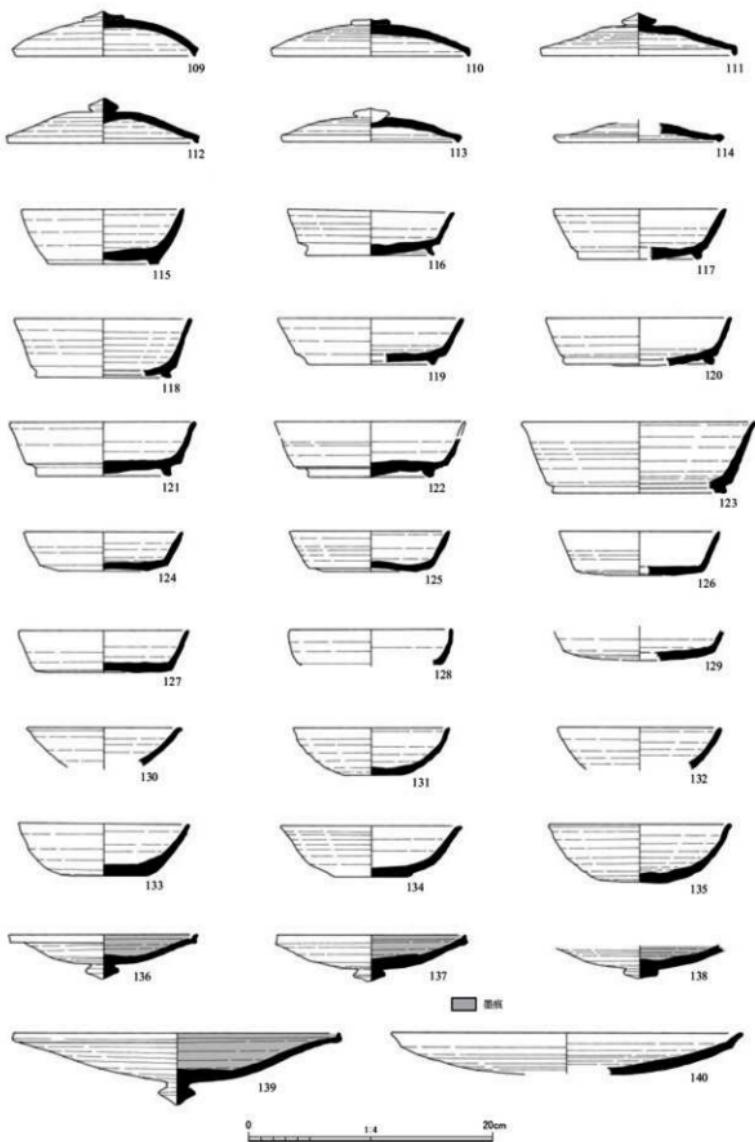


Fig.97 IV b 層出土遺物 (1)

央の抉りは少ない。213は翼状の突起を作り出したもので、一端には棒状の部位が連続している。
Fig.101の木製品のうち、樹種同定をしたもののはすべてヒノキ属もしくはアスナロ属を用いている。

年代 IV b層から出土した遺物の年代は、遠江V期を一部含むとみられるものの、遠江VI期を中心とするとみられる。実年代では8世紀後半から9世紀初頭頃に相当する。また、SX03出土遺物は、遠江VII-1期（9世紀前葉）まで降るとみられる。

（7）小結

IV b層の堆積時期は、8世紀後半から9世紀前葉におよぶとみられる。豊富な墨書き土器や木製祭祀具、人面墨書き土器の存在が示すように、この時期にも敷智郡家関連の施設が鳥居松遺跡にも展開していたとみられる。「稻万呂」墨書き土器は、従来、伊場遺跡群からの出土が知られていたが、その数を凌駕する量が集中して出土した。敷智郡家に強い影響力をもっていたとみられる稻万呂の本拠地が、鳥居松遺跡にあった可能性を示唆するものといえるだろう。

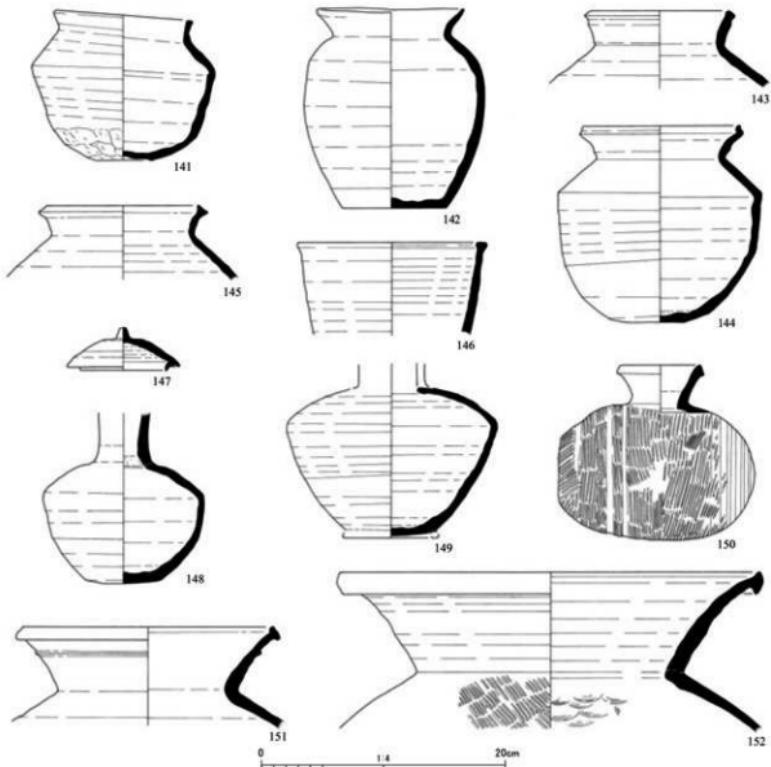


Fig.98 IV b層出土遺物（2）

5 IVb層の調査

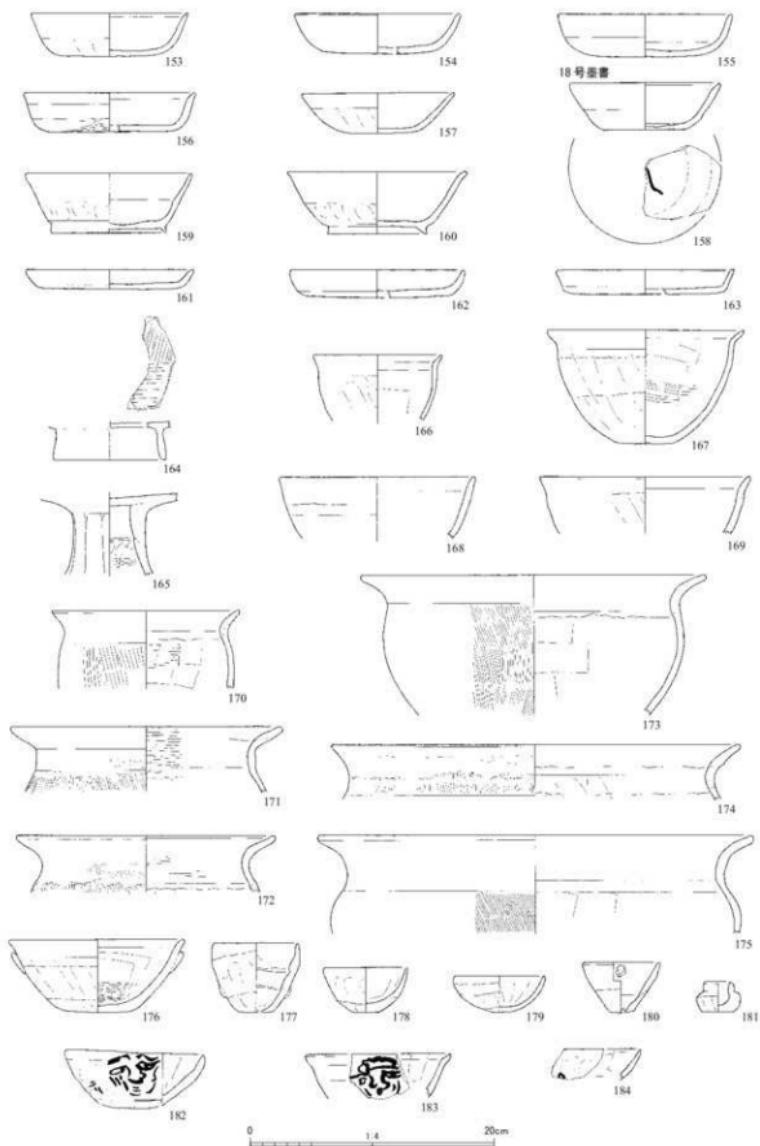


Fig.99 IV b 層出土遺物 (3)

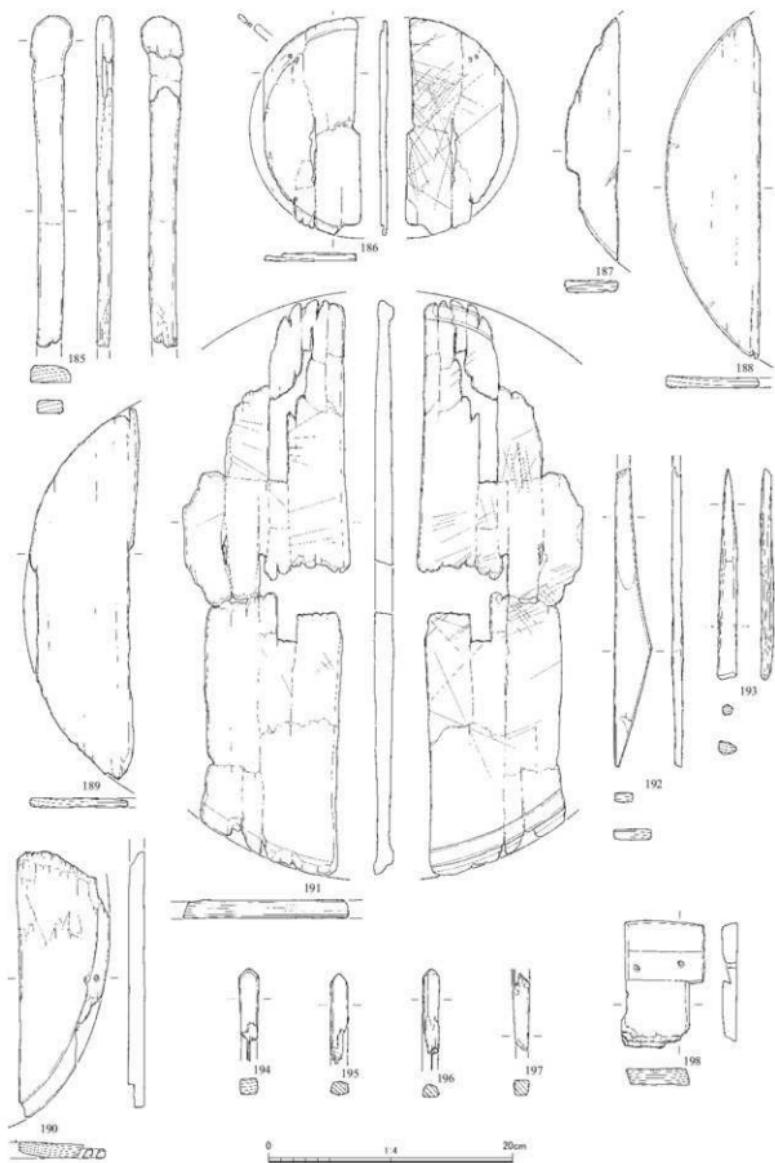


Fig.100 IV b 層出土遺物 (4)

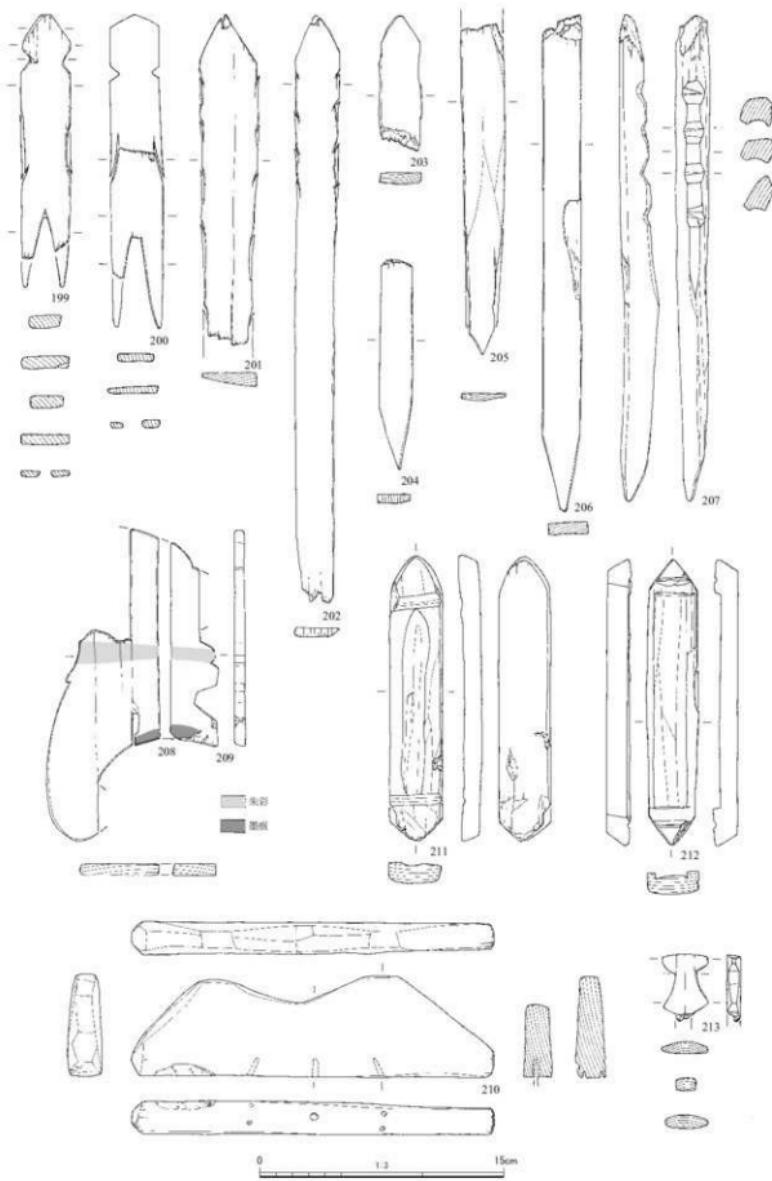


Fig.101 IV b 層出土遺物 (5)

6 IV a層・III層の調査

(1) IV a層・III層の概要

IV a層 IV a層は、褐色粘土で形成される非常に薄い層である。大溝の北岸にわずかに堆積しているにすぎず、調査区の北東側において部分的に確認できたのみである。IV a層の中心的な堆積年代は、平安時代中葉（10世紀）である。伊場大溝全体にわたる基準層位とはいいくらいが、灰釉陶器が出土する地層はこの部分だけであることから、IV b層から分離して捉えた。なお、同様の堆積層は、B区で検出したSD102においても確認できている。SD102は伊場大溝の南岸であることから、IV a層は伊場大溝の南北両岸にわたって堆積しているとみられる。

III層 III層は茶褐色有機物層であり、未分解の植物片を大量に含んでいる。III層が堆積した伊場大溝の本流は北側に偏り、著しく幅を減じている。また、本流部分の南岸には堤防上の高まりがあり、その南側にもIII層の堆積がみられる。今回の調査ではIII層から出土した遺物はないが、伊場遺跡や梶子遺跡の調査成果から、平安時代中葉から鎌倉時代前半（11～13世紀）頃の堆積層と推定できる。この段階になると伊場大溝は急速に規模を縮小し、水流もほとんどなかったとみられる。

泥炭質の強い堆積土の状態から、湿地性の植物が大量に繁茂していたことが想定できる。III層の堆積後、室町時代（14～16世紀）になると伊場大溝は完全に埋没し、地上にその姿を留めなくなる。

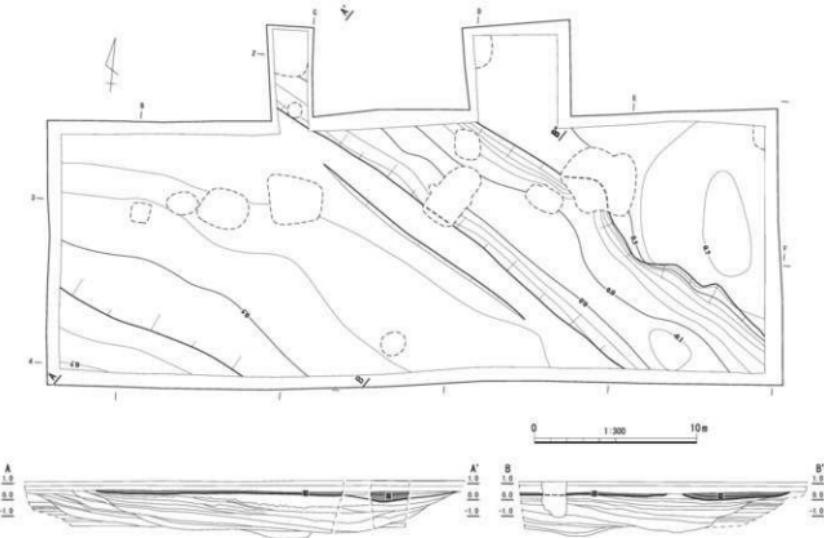


Fig.102 伊場大溝III層

6 IVa層・Ⅲ層の調査

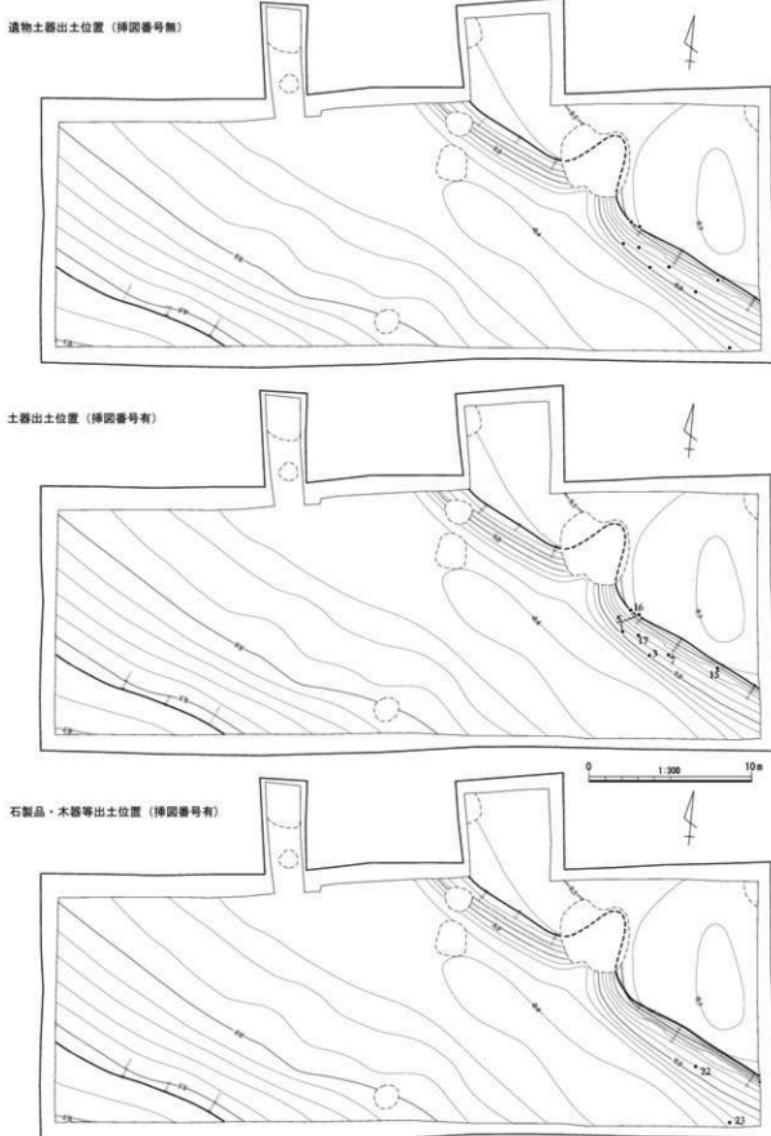


Fig.103 IVa層における遺物出土位置

(2) 伊場大溝の形状

IV a層 IV a層が堆積した時点の伊場大溝の形状は、IV b層のそれと大きな違いはなかったとみられる。IV a層の厚みは10cmに満たず、非常に薄い。B区で確認した南岸(SD102)の状況も同様である。平安時代前葉から平安時代中葉にかけて(9世紀前葉～10世紀)、伊場大溝は緩やかに埋没し、その深さと幅を減じていったとみられよう。

III層 III層が堆積した時点の伊場大溝の形状は、北側に偏り著しく幅が狭くなっている。伊場大溝本流の南岸には堤防状に盛り上がりになっている状況が確認できた。この盛り上がりは自然に形成されたものか、人工的に作り上げたものが、明確でない。この堤防状の盛り上がりによって伊場大溝の流路が狭くなっている。III層が堆積する伊場大溝本流の規模は、幅7m、地表から底面の深さは0.8m程度であったとみられる。なお、III層はこの本流以南の地域の広い範囲にも堆積している。本流以南のIII層が堆積する区域は、広い湿地状の環境であったとみられ、水田などに利用していた可能性が考えられる。

(3) 遺物の出土状態

IV a層から出土する遺物は比較的少ない。その出土位置も伊場大溝の北岸に限られる。こうした遺物の出土状態は、IV b層の堆積が限定的であったことを示している。IV a層から出土する遺物の殆どは灰釉陶器である。灰釉陶器は伊場大溝の岸に沿って、比較的まばらに出土した。出土した標高が地表面に近いが、故意に埋置したというより、伊場大溝の岸に向かって投棄したと解釈できる出土状態である。

大型の隅丸方形の曲物底板(22)および盤(23)は、IV a層の灰釉陶器が集中する地域より南側に離れて出土した。出土層位は他の木製品の出土位置より高く、発掘調査時においてはIII層から出土したものと認識した。III層の堆積年代は11～13世紀と捉えられる。ただし、今回の調査ではIII層から22・23以外に遺物が出土していないことを考えると、22・23の帰属時期は、IV a層が堆積した平安時代中葉頃に近い可能性が高いだろう。

(4) IV a層・III層出土遺物

概要 Fig.104・105にIV a層およびIII層から出土した遺物を示す。IV a層から出土した遺物のうち、図示したものは21点(1～21)、III層から出土した遺物は2点(22・23)である。以下、灰釉陶器(1～17)、土師器(18)、石製品(19～21)、木製品(22・23)の項目に分けて紹介する。

灰釉陶器 (Fig.104) 1～17はIV a層から出土した灰釉陶器である。灰釉陶器には、碗(1～15)、深碗(16)、平瓶(17)がある。

灰釉陶器の碗(1～15)は、三日月高台もしくは三角高台をもち、底部はすべて糸切未調整である。1は須恵器的な焼成であるが、2～15は灰白色系統の色調を呈する。また、7などを典型例に、焼成状況が悪く、風化が進んでいるものもみられる。施釉は2～5、9にみられるが、いずれも漬け掛けをしたもので発色は悪い。

16は深碗である。高い高台に、直線的な口縁が連続する。口縁端部には輪花がみられる。17は平瓶である。把手と口縁端部は欠損するが、全体形は充分にうかがえる。底部はナデ仕上げであるが、僅かに糸切の痕跡を残す。上面に施釉されており、発色は良好である。

以上、IVa層出土の灰釉陶器は概ねOS3窯式からH72窯式を中心とした資料群といえ、10世紀頃の所産とみてよいだろう。

18は土師器の壺（鍋）である。鉢形に聞く体部に外側に直線的に聞く口縁部が取り付く。体部外面は板ナデによる調整がみられる。形態的特長から、平安時代の所産とみてよい。

19～21は石製品である。19・20は砥石であり、ともに凝灰岩を用いている。21は円柱状の叩石で、この個体も凝灰岩を用いている。叩き痕は両端部に認められるが、円柱状をなす側辺に打ち欠いて成形された2条の窪みがみられる。この窪みを用いて錘として使用した可能性がある。

22は曲物底板である。Ⅲ層から大きく二つに分かれて出土した。隅丸長方形を呈する大型品である。側面には側板をはめ込む段が作り出され、長辺に3箇所、短辺に1箇所の側板緊縛用の孔があけられている。表裏とも、刃物による切り傷が顕著にみられる。木材は、ヒノキ科アスナロ属が用いられている。伊場遺跡群では、長方形曲物底板の出土例が少ないが、今回の発掘調査では本例と、SE01から出土したもの(IVb層-13)の2点が知られている。23は同じくⅢ層から出土した盤である。側辺の一部が遺存しており、僅かな立ち上がり部分が確認できる。この個体も、表裏ともに刃物による切り傷が顕著にみられる。

年代 IVb層が堆積した年代は、出土した灰釉陶器がOS3窯式からH72窯式を中心としていることから、平安時代中葉（10世紀頃）頃とみられる。Ⅲ層から出土した22・23についても、Ⅲ層から出土する遺物がこの他に全く見られることを考えると、灰釉陶器が示す年代に帰属時期を求めておくほうが妥当であろう。

(5) 小結

IVa層の堆積時期は、平安時代中葉（10世紀）を中心とすることが、出土した灰釉陶器の年代観から明らかになった。IVa層の堆積は極めて薄いため、出土する遺物量が少ないが、伊場大溝内への土器等の投棄が10世紀まで継続していることが明確になった。この段階の遺跡の性格をうかがうだけの資料に恵まれないが、伊場大溝の南岸であるB区SD102からは「本」と書かれた灰釉陶器(Fig.111-30)が出土している。平安時代も中頃になると、鳥居松遺跡に展開していた郡家施設は急速に衰退していったとみられる。

Ⅲ層からは曲物底板（22）や木製の盤（23）が出土したが、先述のとおり下層のIVa層から混入した可能性がある。これ以外にⅢ層から出土する遺物はなく、今回の調査ではⅢ層の堆積年代をうかがう手立ては得られなかった。伊場遺跡や梶子遺跡の調査結果からはⅢ層の中心的な堆積年代は平安時代末から鎌倉時代前葉（11～13世紀）と推定されている。この時期の鳥居松遺跡の様相は不明瞭であるが、南のB区からはこの時代の素掘りの井戸(SE101)が確認されている。

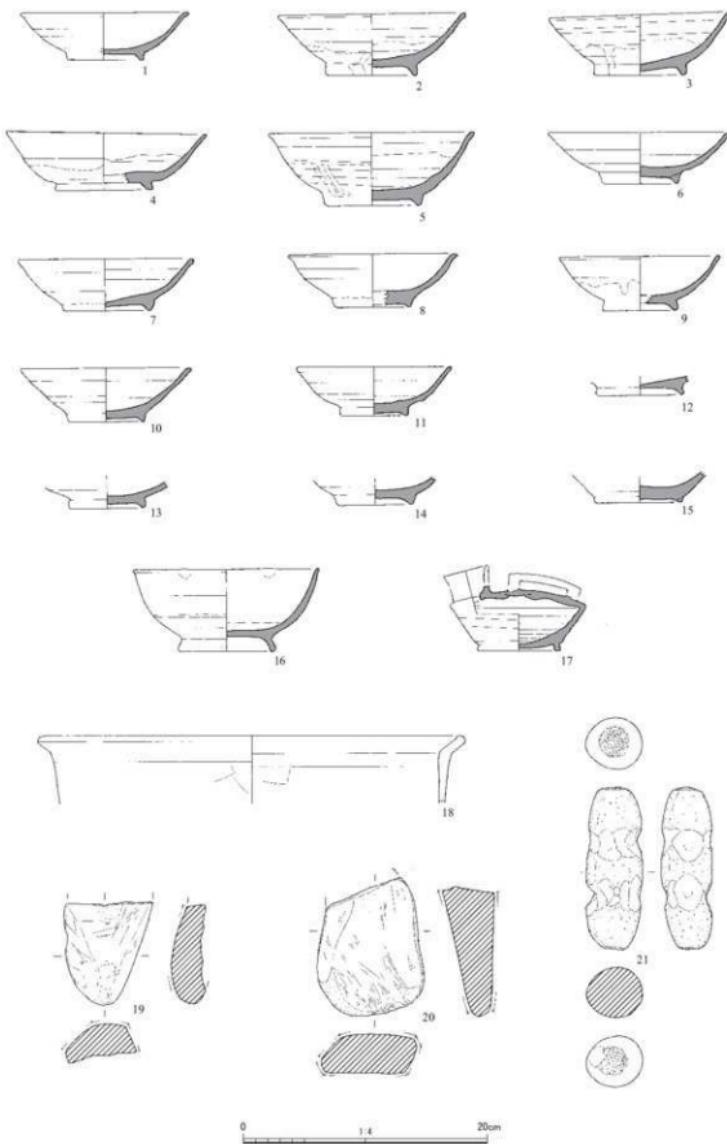


Fig.104 IV a 層出土遺物

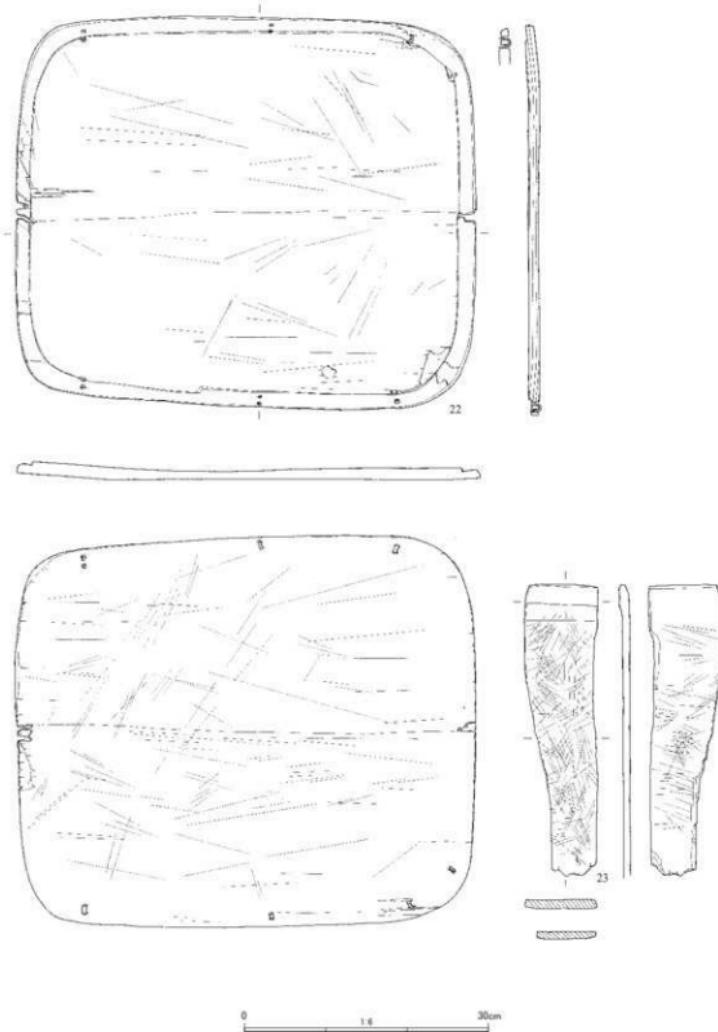


Fig.105 Ⅲ層出土遺物

7 B区の調査

(1) B区の概要

B区は下層において弥生時代の遺構を濃密に検出したが、上層においても古墳時代から鎌倉時代に至る遺構群を確認した。古墳時代中期の土器集積（SX111・112）を2箇所確認したが、この時期の明確な遺構は検出できていない。調査区の北東部では奈良時代から平安時代の伊場大溝の南岸を検出した。伊場大溝南岸では、奈良時代の井戸状遺構（SE102）が築かれている。このほか、調査区の西側では鎌倉時代の井戸（SE101）も確認されている。B区は伊場大溝のすぐ南側にあることから、敷智郡家関連の遺構群の検出が期待されたが、当該期の建物などは確認できていない。

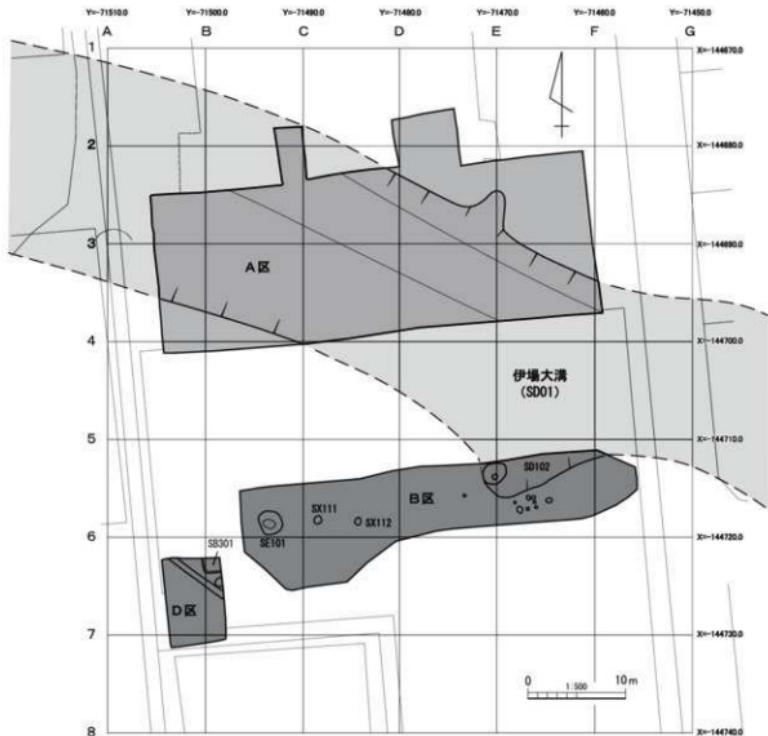


Fig.106 調査区と遺構の位置関係

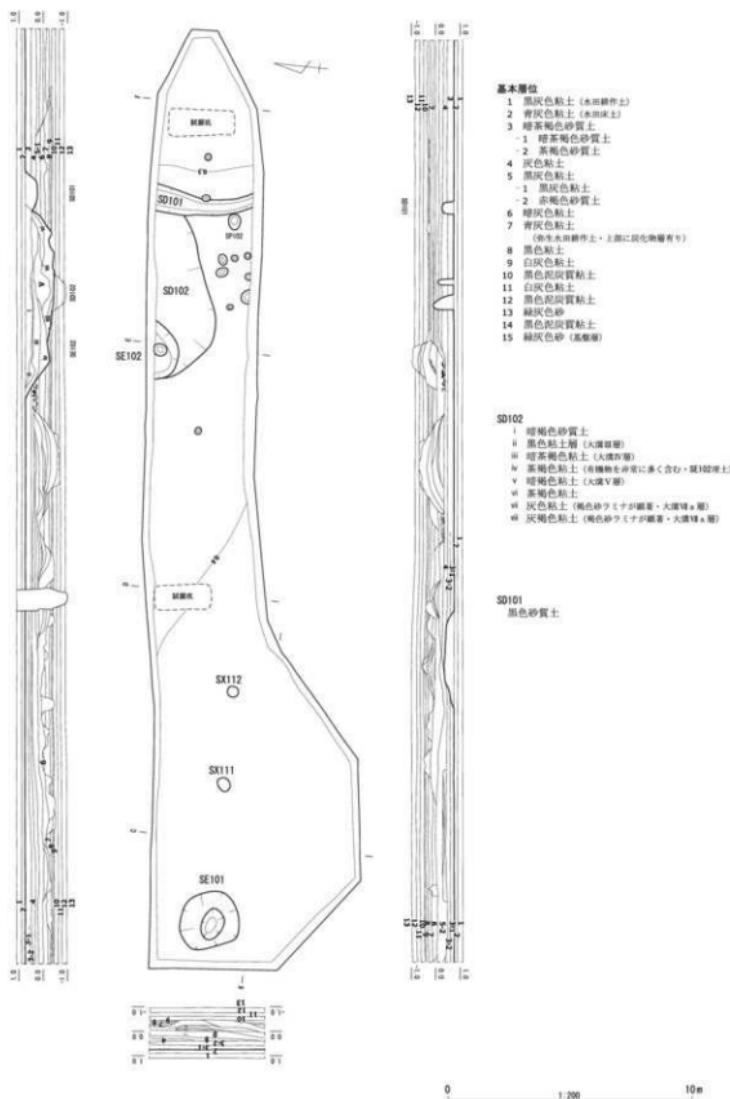


Fig.107 B区検出遺構

(2) 検出遺構と出土遺物

SX111・112 調査区の西側において古墳時代中期の土器集積を2箇所 (SX111・112) 確認した。いずれも炭化物や焼土に混じり、良好な遺存状態を保つ土師器 (Fig.108-1・2・4・6) がまとまって出土した。炭化物や焼土の存在から、住居跡などが埋没している可能性が考えられたが、堅穴建物の掘り方や柱穴など、明確な遺構は確認できなかった。また、これら土器がまとまって出土した周囲の同一層位からも古墳時代中期の遺物が僅かに出土している。ここでは、これらの出土遺物をまとめて紹介する。

SX111・112 出土遺物 (Fig.108) 1・2・4はSX111から、6はSX112から出土した土師器である。このほか3・5もこれら遺物集積の周辺で出土した。1は二重口縁の壺で、二重口縁が形骸化した厚いつくりの口縁をもつ。2・3は内彎口縁の碗であり、ともに似たつくりである。4・5は高坏である。4は屈曲が明確な高坏の坏部で、坏端部は直線的に仕上げられる。5は高坏の脚部で、端部は曲線的に屈折している。6は平底の壺である。やや長胴化した体部に緩やかにく字形に屈曲する口縁が連接する。6は歪みが著しい。以上の遺物群は、古墳時代中期後葉（5世紀後葉）の遺物群として時期的にまとまりがある。SX111・112に伴う明確な柱穴などの遺構は確認できなかったが、建物に付随する炉などに伴う遺物とみてよいだろう。

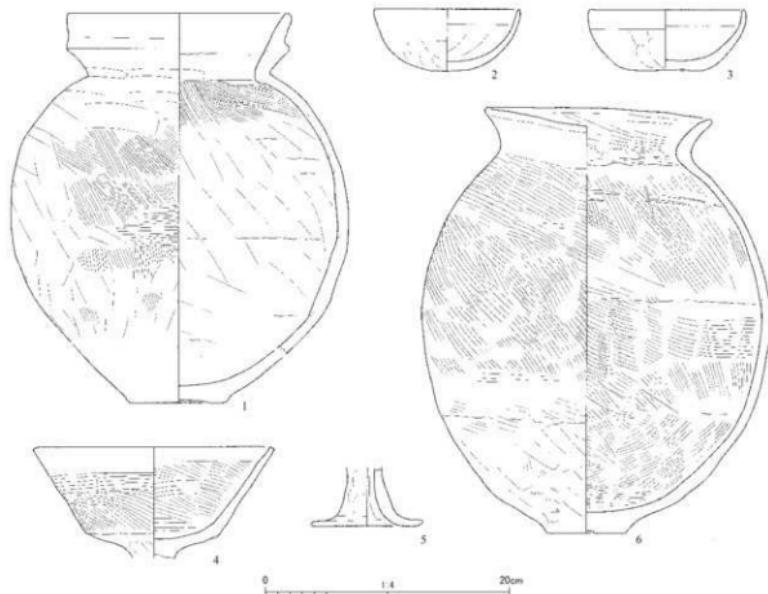


Fig.108 SX111・112 出土遺物

1・2・4 : SX111 6 : SX112 3・5 : 包含層

SE102 (Fig.109) 調査区の東側、伊場大溝の南岸に面して検出した井戸状の遺構である。井戸である確証はないが、便宜的に以下の記述では井戸として表現する。

SE102は弥生時代の遺構 SX101と重なって検出された。発掘区の制約から、掘り方の全体は確認できていない。直径2.5mほどの浅い皿状の土坑内のほぼ中央に、割り貫き式の臼(18)を転用した枠材が置かれている。枠材は直径50~55cmほどで、底が抜かれている。また、補強として何本かの杭が打ち込まれている。

枠材の周囲からはFig.110-1~17, 19~20の遺物が出土した。土師器小碗がまとまっており、何らかの儀式が執り行われた可能性もある。出土遺物から、遠江V期から遠江VI期の移行期頃(8世紀中葉)の遺構と捉えられる。伊場大溝の層位でいえばIV b層に相当する。

SE102出土遺物 (Fig.110) 1~20はSE102から出土した遺物である。須恵器(1~8)には、摘蓋(1・2)、有台坏身(3)、箱坏(4)、無台碗(5~8)などがみられる。これらの遺物は遠江V期から遠江VI期に相当するとみられる。9~10は土師器の鉢、11~16は土師器の小碗である。

18は枠材に用いられた臼である。一つの木材を割り貫いたもので、端部には面を持つ。側面の一部は破損しているが、出土時の遺存状態は比較的良好であった。19~20は肅串である。いずれも切り込みがない小型品である。

SD102 B区で確認した伊場大溝本体をSD102とする。伊場大溝の南岸にあたるが、岸の境界は直線的でなく、南側にやや張り出した状態であった。SD102の断面の観察では、伊場大溝のV層からⅢ層に併行する層位が確認でき、21~39に示す遺物が出土した。出土遺物の年代観も層位の併行関係の理解とほぼ整合する。

SD102出土遺物 (Fig.111) 21~39はSD102から出土した遺物である。21~27は須恵器、28~32は灰釉陶器、33~39は土師器である。

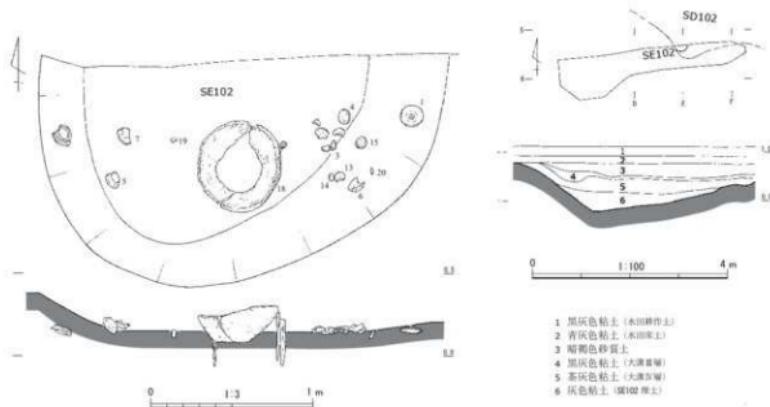


Fig.109 SE102 実測図

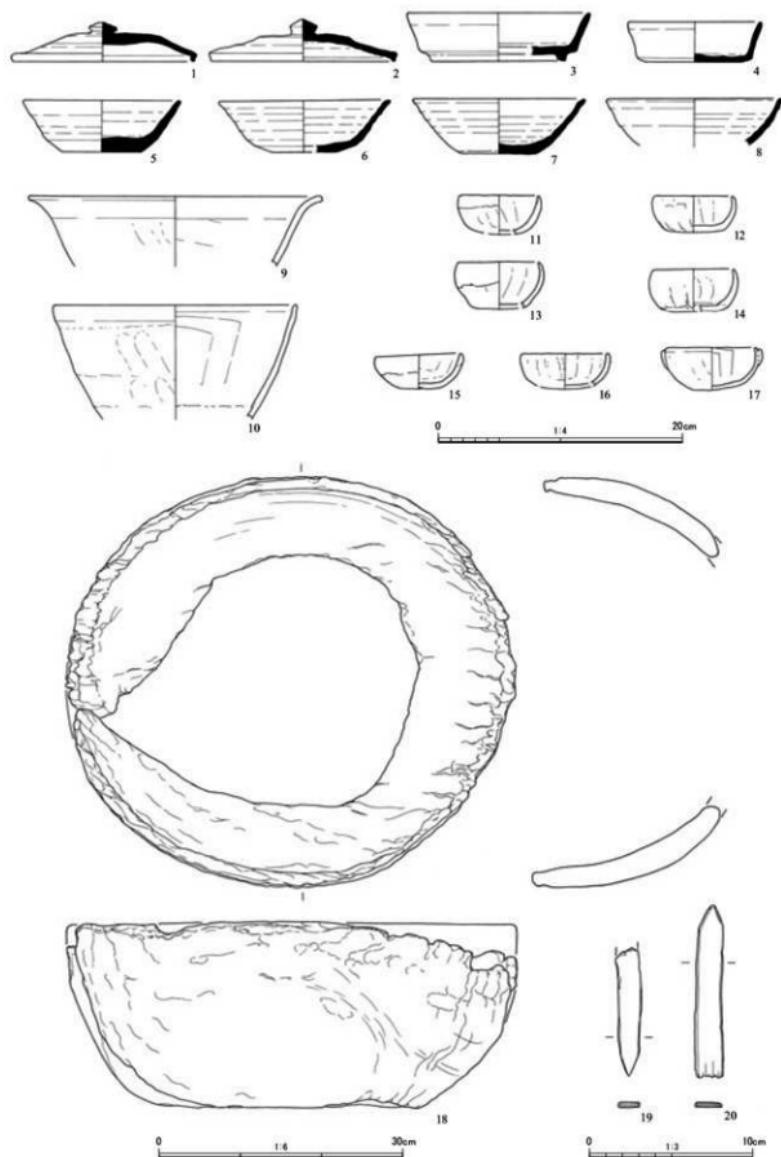


Fig.110 SE102 出土遺物 (1)

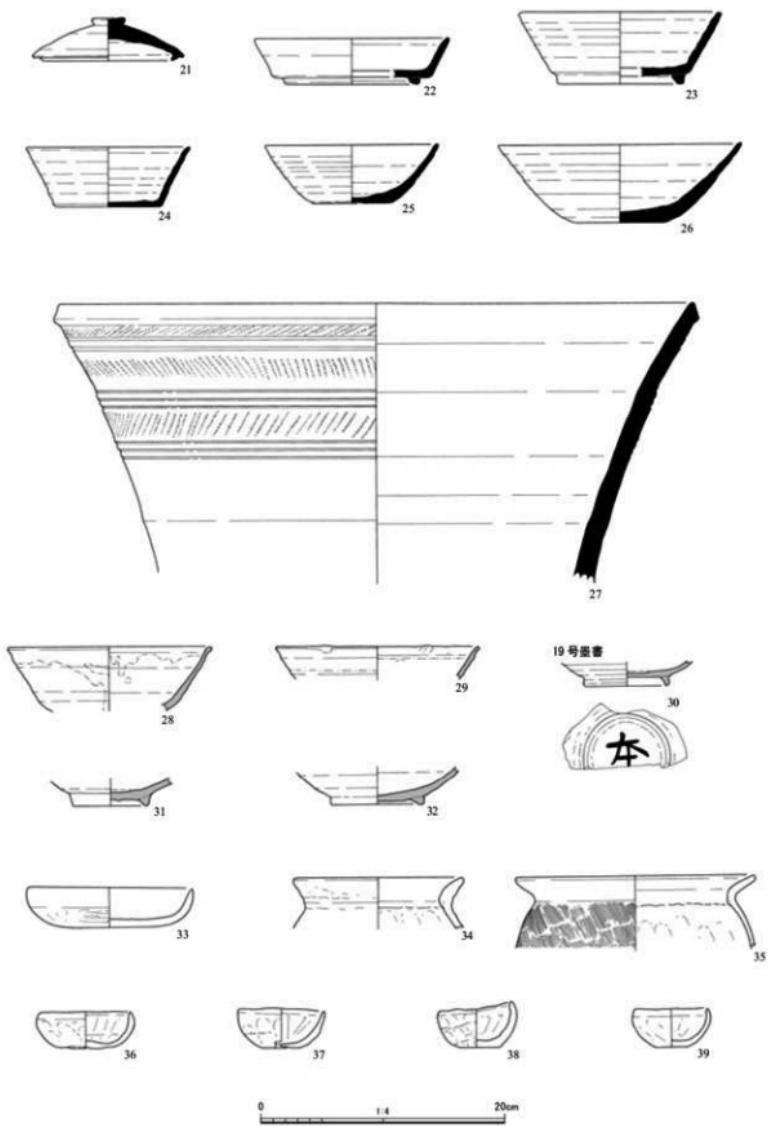


Fig.111 SD102 出土遺物 (2)

21は返り付の壺蓋、22・23は有台壺身である。23は壺部が深いつくりで遼江V-3期に位置づけられる器形である。24は箱壺、25・26は無台碗、27は壺である。

28～32は灰釉陶器である。30の底部には「本」の墨書がある。これらの資料は、潰け掛けの施釉や底部ヘラケズリ調整がみられるもので、K90窯式（9世紀後半）に位置づけられる。

33は土師器皿で内面に赤彩がみられる。34・35は土師器壺で、前者は古墳時代中期の、後者は奈良時代前葉を中心とする形態である。36～39は土師器小碗である。口縁が丁寧に調整されるもの（36・37・39）と、調整されないもの（38）がある。

SE101 調査区の西端において検出した井戸である。井戸枠などを有しない、いわゆる素掘りの状態で、中央に深い窪みがある。掘り方はやや楕円形を呈しており、長軸2.8m、短軸2.5mほどで、検出面から底面までの深さは1.1mほどである。SE101が掘削されている面は、基本層位11層の白灰色粘土層までである。この層は湧水層とはいえないが、その上位の基本層位10層である黒色泥炭質粘土層から湧き出た水を集められたものと捉えられよう。出土遺物から、SE101は鎌倉時代後半（13世紀後半）頃の造構と判断できる。

SE101出土遺物 (Fig.113) 1～5は、SE101から出土した山茶碗である。1～3は茶碗、4は皿、5は壺である。茶碗1～3はいずれも粗雑なつくりで、底部には痕跡程度の高台が付けられている。皿（4）には高台がみられず、糸切りの痕跡を明瞭に残す。これらの遺物は鎌倉時代後半（13世紀後半）に位置づけられるだろう。

(3) 小 結

B区では、奈良時代から平安時代にかけての伊場大溝の南岸を確認したほか、古墳時代中期の土器集積、鎌倉時代の井戸などを検出した。伊場大溝からは9世紀後半のまとまった資料がみられ、A区の調査成果を補完している点が注目できる。

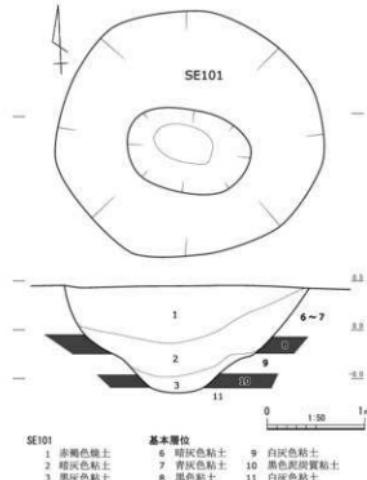


Fig.112 SE101 実測図

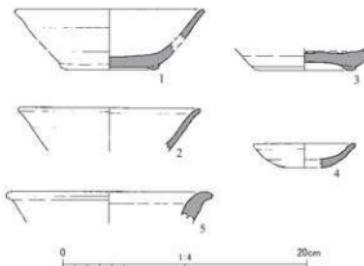


Fig.113 SE101 出土遺物

8 D区の調査

(1) D区の概要

D区はB区の南西において設定した調査区である。汚染土壤入れ替え工事の関係で、遺構の保存が図れない上層部分のみを発掘調査した。調査面積はわずかであったが、古墳時代中期の堅穴建物（SB301）を検出した。

(2) 検出遺構等

SB301 (Fig.114) 調査区の北東隅において、堅穴建物（SB301）を検出した。方形の堅穴建物で、壁溝を伴う南西隅の掘り方が確認できた。柱穴は検出できていない。SB301からは、Fig.115-1・2の遺物が出土した。出土遺物から、SB301は古墳時代中期後葉頃の遺構と考えられる。

D区出土遺物 (Fig.115) D区出土遺物として、古墳時代中期後葉から後期前葉頃の土師器を4点ほど図示する。1・2はSB301から出土した壺、3・4は遺構検出面において確認した壺および高環である。

(3) 小結

D区では、古墳時代中期後葉の堅穴建物1軒を確認した。B区においても、同時代の土器集積が確認できていることから、この段階の集落が展開しているとみられる。なお、調査の制約から、D区においては、上面遺構の調査のみを実施している。下層には弥生時代の遺構が展開しているとみられるが、本発掘調査はしていない。

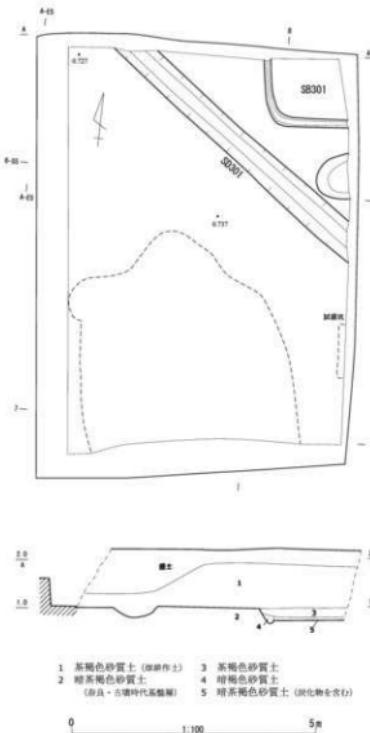


Fig.114 D区検出遺構

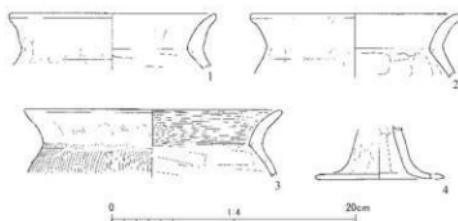


Fig.115 D区出土遺物

第3章 後論

1 烏居松遺跡における堆積層の年代

パリノ・サーヴェイ株式会社

(1)はじめに

浜松市に所在する烏居松遺跡は、浜名湖東南方で三方原台地東南縁部崖下の低地に立地する。周囲の地形分類図（町田ほか編 2006）によれば、遺跡の立地する低地の北側には台地南縁部崖下に形成された砂丘が東西方向に広がり、西南側には第2列目の海岸砂丘の東端部があり、東南側には馬込川の右岸に形成された自然堤防が分布する。烏居松遺跡はこれらの微高地に囲まれた低地の中に立地する。

発掘調査では、古墳時代中期から鎌倉時代の自然河川とされる伊場大溝が検出され、幅25m、深さ2.5mにおよぶ規模が確認されている。大溝からは多量の遺物が出土しており、中でも古墳時代後期の金装円頭大刀、奈良～平安時代とされる木簡や墨書き器、木製形代などが注目されている。これら出土物のうち、古代の遺物群は敷智郡衙に関わるものとされ、烏居松遺跡は隣接する伊場遺跡と一連であると考えられている。

本報告では、伊場大溝内の堆積層および伊場大溝によって削削されているいわゆる基盤を構成す

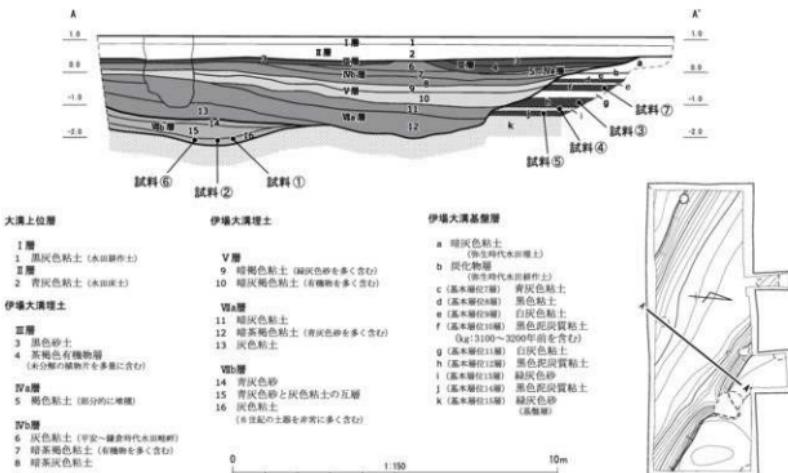


Fig.116 試料採取位置

1 烏居松遺跡における堆積層の年代

る堆積層について、その堆積年代に関する資料を得ることを目的として、堆積層中に包含される材や腐植質土壌等を対象として放射性炭素年代測定を行う。また、基盤を構成する堆積層には、テフラと考えられる碎屑物が認められていることから、その碎屑物がテフラの本質物質であるか否かを明らかにし、テフラであればその特徴から、指標テフラとの対比を行い、これも堆積層の年代資料とする。

(2) 試 料

試料は、伊場大溝の検出された調査区北部で作製された土層断面より採取された試料①～試料⑦までの7点である。これらのうち、試料①～試料⑥までの6点は、放射性炭素年代測定対象試料であり、試料⑦の1点はテフラ分析（屈折率測定含む）の対象試料である。

試料①、②、⑥は、伊場大溝の堆積層最下部のⅧ b 層より採取された試料である。試料①、②は枝材と思われる材片で、保存状態も不良であったことから組織観察は不能なため樹種は不明である。試料⑥は、包含される炭化材（組織観察より広葉樹材とされる）を測定試料とした。

試料③、④、⑤は、伊場大溝の側壁を構成する堆積層の下部に相当する12層、13層、14層の各層より採取された試料である。12層および14層は黒色を呈する植物遺体を含む腐植質土壌であり、13層はその間層をなす緑灰色砂層である。試料③および⑤は腐植質土壌を測定試料とし、試料④は包含される植物纖維を測定試料とした。

試料⑦は、伊場大溝側壁の中部付近を構成する堆積層である黒褐色を呈する腐植質土壌の10層から採取された。テフラと考えられている碎屑物で、粗砂～中砂径の灰色砂が比較的多く含まれる。

(3) 分析方法

放射性炭素年代測定 試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N、水酸化ナトリウム1N、塩酸1.2N）により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma; 68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。暦年較正については、北半球の大気中炭素由来する較正曲線を用いる。暦年代は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

Tab.2 放射線炭素年代測定結果

試料名	層位	試料の質	補正年代 BP	813C (%)	測定年代 BP	Code No.
試料①	VIIb層	木材(樹種不明)	1,530±25	-29.30±0.22	1,605±25	10102-1
試料②	VIIb層	木材(樹種不明)	1,570±20	-31.56±0.23	1,680±20	10102-2
試料③	12層(中層ピート)	腐植質土壌	4,290±30	-27.80±0.17	4,335±30	10102-3
試料④	13層	植物繊維	4,120±30	-31.97±0.23	4,235±30	10102-4
試料⑤	14層(下層ピート)	腐植質土壌	4,915±25	-25.21±0.22	4,920±25	10102-5
試料⑥	VIIb層	炭化材(広葉樹)	1,685±20	-30.47±0.12	1,775±20	10102-6

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。

2)BP年代値は、1,950年を基点として何年前であるかを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

テフラ分析・屈折率測定 試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤明の MAIOT を使用した温度変化法（古澤 1995）を用いた。

(4) 結果

放射性炭素年代測定 同位体効果による補正を行った測定結果を表1に示す。6点の試料の年代は、大きく試料①、試料②および試料⑥の年代と試料③～⑤の年代とに分けられる。前者のグループは、試料①の年代が $1,530 \pm 25$ BP、試料②は $1,570 \pm 20$ BP、試料⑥は $1,685 \pm 20$ BPであり、後者のグループは、試料③の年代が $4,290 \pm 30$ BP、試料④は $4,120 \pm 30$ BP、試料⑤は $4,915 \pm 25$ BPを示す。

暦年較正結果をTab.3に示す。測定誤差を σ として計算させた結果、上記前者グループの試料①は calAD 442-573、試料②は calAD435-536、試料⑥は calAD342-402 であり、上記後者グループの試料③は calBC 2,913-2、891、試料④は calBC2、857-2、625、試料⑤は calBC3、701-3、695 である。

テフラ分析・屈折率測定 処理後に得られた砂分は、多量のスコリアから構成され、微量の軽石と混じて微量の火山ガラスも認められた。スコリアは、最大径約0.5mm、粒径の淘汰は良好である。灰黒色で発泡の不良なスコリアと暗灰色で発泡の不良なスコリアが多く、少量の灰色で発泡の不良なスコリアと微量の赤色で発泡の不良なスコリアも混在する。

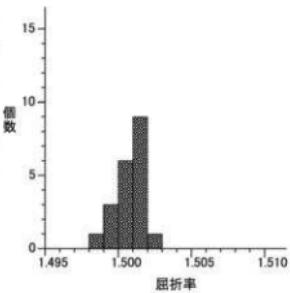


Fig.117 試料⑦中の火山ガラスの屈折率

Tab.3 历年較正結果

試料名	層位	補正年代(BP)	历年較正年代(cal)										相対比	Code No.
試料①	VIIb層	1,532±23	σ	cal AD 442	-	cal AD 452	cal BP 1,508	-	1,498	0.078				
			cal AD 461	-	cal AD 483	cal BP 1,489	-	1,467	0.224					
			cal AD 533	-	cal AD 573	cal BP 1,417	-	1,377	0.698					10102-1
			2σ	cal AD 433	-	cal AD 494	cal BP 1,517	-	1,456	0.350				
			cal AD 505	-	cal AD 522	cal BP 1,445	-	1,428	0.047					
			cal AD 526	-	cal AD 597	cal BP 1,424	-	1,353	0.603					
試料②	VIIb層	1,572±22	σ	cal AD 435	-	cal AD 492	cal BP 1,515	-	1,458	0.725				
			cal AD 507	-	cal AD 519	cal BP 1,443	-	1,431	0.157					10102-2
			cal AD 527	-	cal AD 536	cal BP 1,423	-	1,414	0.118					
			2σ	cal AD 427	-	cal AD 542	cal BP 1,523	-	1,408	1.000				
試料③	12層 (中層ピート)	4,291±29	σ	cal BC 2,913	-	cal BC 2,891	cal BP 4,863	-	4,841	1.000				
			2σ	cal BC 3,009	-	cal BC 2,982	cal BP 4,959	-	4,932	0.046				10102-3
			cal BC 2,936	-	cal BC 2,877	cal BP 4,886	-	4,827	0.954					
			cal BC 2,857	-	cal BC 2,828	cal BP 4,807	-	4,778	0.207					
試料④	13層	4,122±28	σ	cal BC 2,824	-	cal BC 2,811	cal BP 4,774	-	4,761	0.086				
			cal BC 2,748	-	cal BC 2,724	cal BP 4,698	-	4,674	0.160					
			cal BC 2,698	-	cal BC 2,625	cal BP 4,648	-	4,575	0.546					10102-4
			2σ	cal BC 2,866	-	cal BC 2,804	cal BP 4,816	-	4,754	0.267				
			cal BC 2,776	-	cal BC 2,769	cal BP 4,726	-	4,719	0.011					
			cal BC 2,763	-	cal BC 2,580	cal BP 4,713	-	4,530	0.721					
試料⑤	14層 (下層ピート)	4,915±26	σ	cal BC 3,701	-	cal BC 3,695	cal BP 5,651	-	5,645	1.000				
			2σ	cal BC 3,761	-	cal BC 3,740	cal BP 5,711	-	5,690	0.054				10102-5
			cal BC 3,735	-	cal BC 3,725	cal BP 5,685	-	5,675	0.021					
試料⑥	VIIb層	1,683±22	σ	cal BC 3,715	-	cal BC 3,645	cal BP 5,665	-	5,595	0.926				
			2σ	cal AD 342	-	cal AD 402	cal BP 1,608	-	1,548	1.000				
			cal AD 260	-	cal AD 283	cal BP 1,690	-	1,667	0.096					10102-6
5) 相対比は、 σ , 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。														

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、历年較正曲線や历年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

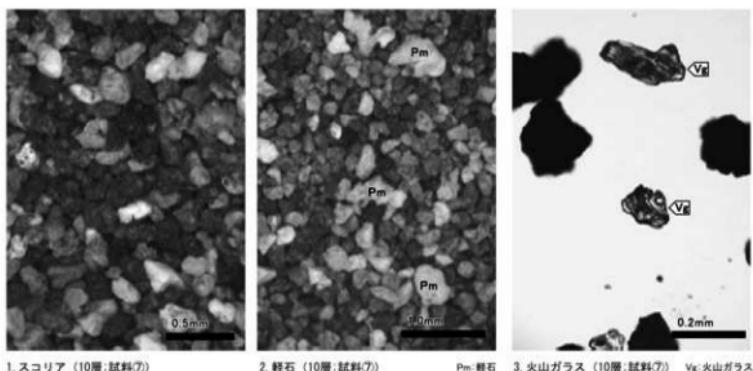
4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。5) 相対比は、 σ , 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

Fig.118 火山灰写真

軽石は、最大径約0.8mmであり、白色を呈し、発泡は良好である。火山ガラスは、無色透明の軽石型（スponジ状および纖維束状含む）である。火山ガラスの屈折率は、n1.498-1.503のレンジを示し、モードはn1.500-1.501であった（Fig.117）。

上述の碎屑物のうち、軽石および火山ガラスは、その色調や形態および屈折率の値、さらに鳥居松遺跡の地理的位置とこれまでのテフラ分布（町田・新井2003）から、天城カワゴ平テフラ（Kg：町田ほか1984）に由来すると考えられる。Kgは、伊豆半島天城山カワゴ平火口を源とし、西方に広く分布が認められており、鳥居松遺跡に隣接する伊場遺跡での確認も報告されている。これまでのところ、琵琶湖岸や福井県三方町まで分布が確認されている（西田ほか1993）。また、その噴出年代は、曆年で約3,100BP頃とされている（町田・新井2003）。

スコリアについては、富士山の完新世テフラに由来すると考えられるが、Kgが混在するすなわちKgと噴出年代がほぼ同時であることと富士山より西方に分布するテフラであることが特徴となる。これらの特徴を有する富士山の完新世のテフラは、宮地直道の記載から（宮地1988）、大沢スコリア（Os）であると判断される。

（5）考察

試料①、②、⑥より得られた放射性炭素年代は、その採取層位より伊場大溝の埋積開始頃の年代を示唆している可能性がある。したがって、これらの試料の放射性炭素年代の曆年から推定すれば、伊場大溝の埋積は、4世紀後半～6世紀頃には始まっていたことが推定される。

基盤の構成層では、側壁中部付近を構成する腐植質土壌層は、KgおよびOsのテフラを包含することから、曆年で約3,000年前頃の堆積年代が推定される。それよりも下位の、側壁下部を構成する2枚の腐植質土壌層とその間層の年代は、曆年で約5,600年前から4,800年前までの間に堆積したことが推定される。

以上述べた伊場大溝の埋積開始年代および基盤層の堆積年代は、発掘調査所見による推定堆積年代と大きく異なることはなく、今回の分析結果は、発掘調査所見をほぼ支持する結果であったと言いうことが出来る。

【参考文献】

- 古澤明 1995「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌』101 pp.123-133
- 町田洋・新井房夫 2003『新編 火山灰アトラス』東京大学出版会 p.336
- 町田洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦 1984「テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－」渡辺直経（編）『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』同朋舎 pp.865-928
- 町田洋・松田時彦・海津正倫・小泉武崇（編） 2006『日本の地形5 中部』東京大学出版会 p.385
- 宮地直道 1988「新富士火山の活動史」『地質学雑誌』94 pp.433-452
- 西田史郎・高橋 義・竹村恵二・石田志朗・前田保夫 1993「近畿地方へ東から飛んできた純文後・晚期火山灰層」『第四紀研究』32 pp.129-138

2 烏居松遺跡の立地環境

松原彰子（慶應義塾大学）

（1）浜松低地における遺跡分布

1) 浜松低地の地形

浜松低地は、浜名湖東側の三方原台地の南に広がり、6列の砂州地形（内陸側から順に砂州I～VI）が分布することで特徴づけられる。砂州地形は、低地の東部では6列が明瞭に区別できるが、西部では砂州IIの連続性が見られなくなり、さらに砂州IIIから砂州Vまでの境界が不明瞭になる。また、浜名湖の湖口付近では3列の砂州地形に収斂する（Fig.119）。

低地西部の砂州Iと砂州IIIの間には水域が広がり、周辺には養魚場が密集している。また低地全体では、砂州Vと現在の海岸沿いに発達する砂州VIとの間の堤間湿地にも養魚場が分布する。

浜松低地の地質は、全体に砂質堆積物（砂ないし砂礫）が主体であり、これらは砂州地形の構成層と考えられる。ただし、表層付近（標高約-5m以浅）では、堤間湿地を中心にして泥炭質のシルト・粘土層が分布する（松原2001）。

浜名湖およびその沿岸では、湖口部の湖底を中心に縄文時代の遺跡が発見されている。また、湖口西側の砂州上には、古墳時代と歴史時代の遺跡が多く分布する。一方、浜松低地においては、縄

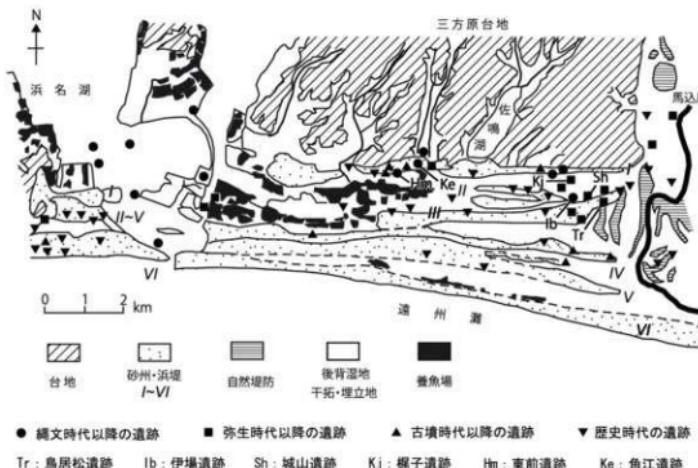


Fig.119 浜松低地の地形と遺跡分布

文時代の遺跡分布は、砂州 I および砂州 I - 砂州 II 間の低湿地に限定される。また弥生時代の遺跡は、砂州 I, III およびこれらの堤間湿地に分布する。さらに古墳時代と歴史時代の遺跡は、砂州 I から V の上に分布している。

2) 低地の微地形と遺跡立地との関係

浜松低地に発達する砂州列および堤間湿地と遺跡の分布との関係は、次のようにまとめることができる（松原 2008b）。

① 砂州上に立地する遺跡

角江遺跡 角江遺跡は、三方原台地を刻む東神田川の谷の出口付近を塞ぐ形で発達する砂州（砂州 I）上に立地している（Fig.119）。この遺跡で確認されている遺物・遺構は、縄文時代後期から中世までのものである（静文研 1996 など）。この砂州の形成時期に関する地質学的な証拠は得られていないが、ここでの遺跡の時代と、浜松低地の西方の浜名湖における砂州の発達過程に基づけば（松原 2000, 2001）、6,000 yr BP頃にはすでに砂州の一部が離水して背後の閉塞が始まっていたと推定される。

梶子北遺跡 梶子北遺跡は、三方原台地東部の南縁に発達する砂州（砂州 I）の海側の縁辺部に立地する遺跡である。この遺跡で確認されている遺物・遺構は、縄文時代前期から平安時代までのものである（浜文協 1997）。

梶子北遺跡において 1999 ~ 2000 年度に行われた発掘調査の際に、表層の地質を確認したところ、盛土を除いた表層 1 m ほどは泥炭質堆積物に覆われ、その平均堆積速度はおよそ $0.7 \text{ mm} / \text{yr}$ と推定され、泥炭層下部の ^{14}C 年代測定値は 3,200 yr BP であった（松原 2004）。その下位には、粘土質の砂が堆積しており、湿地において河川が流入するような環境であったことが推定された。泥炭層下部の年代値 3,200 yr BP は、この付近がより海側に形成された砂州によって完全に閉塞された時期を示すものといえる。また、砂州上に縄文時代前期の遺跡が立地していることから判断して、砂州の形成時期は、6,000 yr BP 以前であったと考えられる。

② 埋没砂州上に立地する遺跡

梶子遺跡 梶子遺跡は、梶子北遺跡の南西に位置し、砂州（砂州 I）の海側に分布する後背湿地に立地する弥生時代中期から平安時代までの遺跡である（Fig.119）。地質資料を解析した結果、後背湿地の地下に砂州が埋没していること、およびその下位の海拔高度 $-10 \sim -15 \text{ m}$ に埋没海食台が分布して砂州の基盤になっていることが明らかになった（松原 2004）。なお、この埋没砂州は、現在の微地形として確認される砂州 II の北東への延長部にあたる可能性も考えられる（Fig.119）。

埋没砂州堆積物を覆う後背湿地堆積物の最下部の ^{14}C 年代値として $6,090 \pm 10 \text{ yr BP}$ が得られていることから（古環境研究所 1994）、最も内陸側の砂州およびその海側の埋没砂州の形成年代は、6,000 yr BP 以前にさかのほると推定できる。

東前遺跡 東前遺跡は、梶子遺跡の西方約 5km に位置し、三方原台地南縁に発達する砂州（砂州 I）の縁辺部にあたり（Fig.119）、地点 Hm-1 と Hm-2 の 2 箇所での遺跡発掘調査時に、現在の微地形および表層の地質調査を行った。本遺跡からは、縄文時代後期以降の遺物が確認されている。

2001 年 2 月に行った地点 Hm-1 における調査では、表層の地質は下位から順に I ~ VI の 6 層

に区分される。I層は青灰色の砂層であり、地点Hm-1のトレチ床面において北東-南西方向に帯状に分布し、その上面は南東側に傾斜していることが確認されている。また、地点Hm-1の西方約300mの地底における試掘では、本層に対比される暗灰色-青灰色砂層が、少なくとも1mの厚さで堆積していることが確かめられた（松原2004、2008a・b）。

一方、地点Hm-2は、地点Hm-1の南東約100mに位置する。2006年12月に行った本地点での調査では、表層の地質は下位から順にI～VI層の6層に区分された。層相の特徴などから判断して、ここでのI～VI層は、それぞれ地点Hm-1のI～VI層に対比される。

地点Hm-2では、I層の上面高度が北側の砂州（雄踏街道沿いに発達する砂州I）との間で低くなる場所がある。同様のことは、地点Hm-1の北方でも確認されている（浜文協2002）。これらのことから、東前遺跡で確認されたI層は、砂州（砂州I）の南側に分布する埋没砂州の堆積物である可能性が考えられる。ただし、地点Hm-2においてI層を覆う後背湿地堆積物の最下部の¹⁴C年代値が4,035±25yrBPであることから、本層を梶子遺跡における埋没砂州構成層と対比することは現時点ではできない。

（2）鳥居松遺跡周辺の地形と地質

遺跡周辺の微地形 鳥居松遺跡は、砂州Ⅲの東縁部に位置すると同時に、馬込川沿いに南北方向に分布する自然堤防の北端部にもあたる（Fig.119）。したがって、本遺跡周辺の地形形成においては、海成および河成の両方の作用が及んでいたものと考えられる。

鳥居松遺跡の周辺には、伊場遺跡・城山遺跡などの一連の遺跡群が分布する。現在の微地形では、伊場遺跡・城山遺跡は、共に砂州Ⅲの内陸側の縁辺部に位置している（Fig.119）。

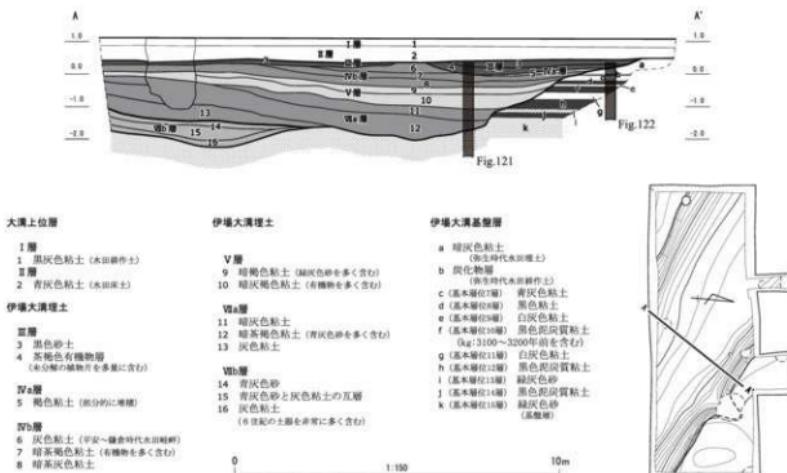


Fig.120 地質層序確認部分位置図

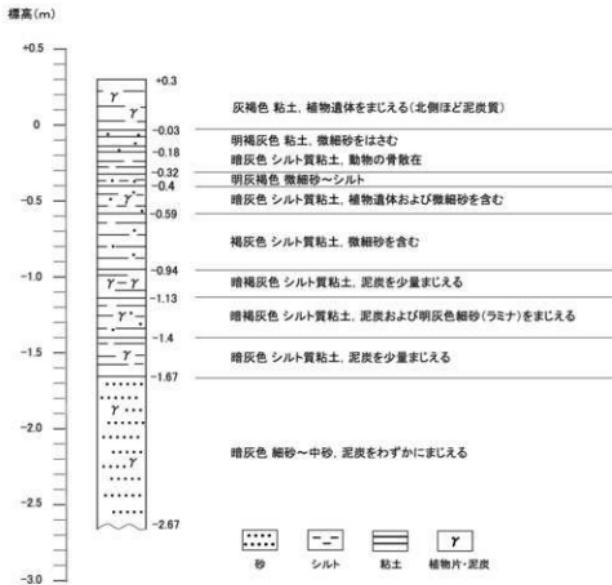


Fig.121 地質層序の観察 (1)

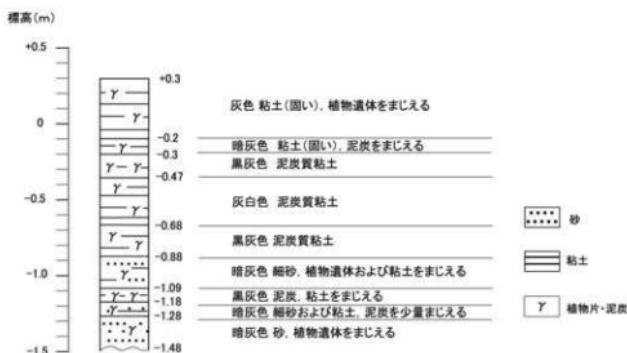


Fig.122 地質層序の観察 (2)

地質層序 2008年3月7日に現地調査を行い、発掘範囲の西側の壁面(34°41' 36" N, 137°43' 10" E、地表面標高+0.3 m)の2箇所で詳細な層相を記載した(Fig.120~122)。Fig.121はトレンチの南側で、伊場大溝の中の堆積物、Fig.122はトレンチの北側で、伊場大溝の外側の堆積物に、それぞれ相当する。

伊場大溝の基盤は標高-1.67 m以深の暗灰色砂層で(Fig.121)、これはFig.122の-1.28 m以深で確認された暗灰色砂層に対比される。これらの砂層は、砂州Ⅲの堆積物の上部にあたるものと推定される。パリノ・サーヴェイ(本書、第3章1)によれば、この砂層の上位に堆積する腐植質土壌(遺跡現場の層位で14層に相当)から $4,915 \pm 25$ yr BPの年代測定値が得られている。したがって、砂州Ⅲの形成時期は、5000年前以前にさかのほるものと考えられる。このことは、鳥居松遺跡の北西に位置する梶子遺跡で、砂州Ⅰの形成年代が6000年前以前であると推定されたものと調和的である。

【参考文献】

- 古環境研究所 1994「梶子遺跡9次調査基盤層の自然科学分析」「梶子遺跡IX本文編」(財)浜松市文化協会 pp.117-134
 静岡県埋蔵文化財研究所 1996「角江遺跡II遺構編」p.155
 (財)浜松市文化協会 2002「東前遺跡」p.32
 (財)浜松市文化協会 1997「梶子北遺跡 遺構編」
 松原彰子 2000「日本における完新世の砂州地形発達」「地理学評論」73A pp.409-434
 松原彰子 2001「浜名湖および浜松低地の砂州地形」「慶應義塾大学日吉紀要・社会科学」11号 pp.20-32
 松原彰子 2004「浜松低地に分布する遺跡の立地環境」「慶應義塾大学日吉紀要・社会科学」14号 pp.36-52
 松原彰子 2008a「東前遺跡周辺の地形・地質」「東前遺跡II」(財)浜松市文化振興財团 pp.55~61
 松原彰子 2008b「海岸低地における砂州・浜堤の形成と遺跡立地－浜松低地および桜原低地を例にして－」「慶應義塾大学日吉紀要・社会科学」18号 pp.1-13

3 烏居松遺跡における環境考古学的検討

金原正明（奈良教育大学）、古環境研究所、
菊地大樹（京都大学）、古山真波（奈良教育大学）

（1）はじめに

烏居松遺跡は、浜松市南区森田町に所在し、2008年に実施した5次調査によって、埋没河川である伊場大溝が検出された。伊場大溝は幅20m、深さ2.5mにおよぶ大規模なもので、5世紀から13世紀にわたる堆積土が確認されている。伊場大溝からは7世紀から10世紀に至る古代の郡役所（敷智郡家）の存在を示す豊富な考古遺物（木簡、墨書き器、木製祭祀具）が出土しており、烏居松遺跡は、周辺遺跡を含めた「伊場遺跡群」の一角を占めていることが明らかになった。

同定・分析対象は、伊場大溝において出土、採集した貝類、動物骨および堆積土である。本報告は主に、貝類は古山、動物骨を菊池、花粉と珪藻を古環境研究所が同定分析行ったものを金原がまとめた。貝類は奈良時代貝塚SS02とSS04から出土し水洗されたもので、計25試料に区分され、計74708個体を数えた。他に植物遺体が含まれていた。動物骨は同様なものが31試料であった。花粉分析および珪藻分析用の堆積土は、貝塚から採取された7試料、中央断面から採取した55試料の計62試料であり、環境の検討を行った。

SS02とSS04のそれぞれの貝塚の中から、いくつかのトレンチを選び、主要貝類であるヤマトシジミとダンベイキサゴを各50個前後抽出し、計測した。

計測対象とするトレンチを選ぶ際には、同定・計数結果を参考にヤマトシジミとダンベイキサゴの2種を比べ、ヤマトシジミが優占するトレンチ、ダンベイキサゴが優占するトレンチ、差があまりないトレンチの3つにおおまかにわけ、その中から無作為に計10トレンチを抽出した。

（2）貝類

1) 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比及び参考文献によって同定を行い、分類計数した。同定が可能で半形以上のものを1個と計数した。計数は二枚貝、巻貝共に基本的に殻頂部が残っているものを一つとして計数した。巻貝の中にはカワニナなどのように、成長の過程で殻頂部が欠損するものもあるので、カワニナ類、ウミニナ類などは内唇部を計数した。また、二枚貝は左右殻に分類してその数を数え、多い方を最小個体数とした。ヤマトシジミとした分類群は、殻頂部が良く発達し、セタシ

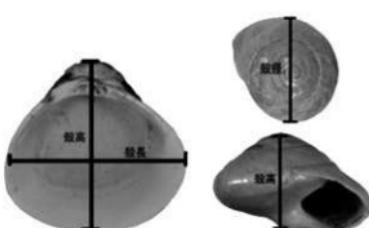


Fig.123 貝類の計測点

ジミの特徴に偏じるがここではヤマトシジミとした。

主要貝類であるヤマトシジミとダンペイキサゴは、それぞれの貝塚の中からいくつかの試料から各50個前後抽出し計測した。ヤマトシジミが多い試料、ダンペイキサゴが多い試料、差があまりない試料にわけ、その中から無作為に10試料を抽出した。ダンペイキサゴについては、完形または完形に近いものを全て取り出し、四分法により50個前後を抽出した。ヤマトシジミについては、同一個体を計測してしまう可能性を排除するために、左の完形貝のみを取り出し同様に四分法により50個前後を抽出した。ノギスを用いて、ヤマトシジミは殻長と殻高、ダンペイキサゴは殻径と殻高を計測した(Fig.123)。

2) 同定結果

① 分類群同定

された分類群は24であった。結果はTab.4・5に示し、以下に学名を記す。

以下の分類群が主要に同定された。

・巻貝綱

ダンペイキサゴ	<i>Umbonium giganteum</i>	ニシキウズガイ科
イシマキガイ	<i>Clithon retropictus</i>	アマオブネガイ科
ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>	ウミニナ科
イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>	ウミニナ科
フトヘナタリ	<i>Cerithidea rhizoporarum</i>	ウミニナ科
ヘナタリ	<i>Cerithidea cingulata</i>	ウミニナ科
ツメタガイ	<i>Glossaulax didyma</i>	タマガイ科
シゲトウボラ	<i>Cymatium cutaceum</i>	フジツガイ科
レイシガイ	<i>Thais bronni</i>	アッキガイ科
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>	アクキガイ科
マルタニシ	<i>Bellamya chinensis malleata</i>	タニシ科
ヒメタニシ	<i>Bellamya quadrata histrica</i>	タニシ科
カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	カワニナ科
チリメンカワニナ	<i>Semisulcospira reiniana</i>	カワニナ科

・二枚貝綱

ハイガイ	<i>Tegillarca granosa</i>	フネガイ科
ヒメアカガイ	<i>Scapharca troscheli</i>	フメガイ科
マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	イタボガキ科
ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	シジミ科
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	マルスダレガイ科
オキアサリ	<i>Gomphinaaequilatera</i>	マルスダレガイ科
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	マルスダレガイ科
オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>	マルスダレガイ科

イシガイ	<i>Unio douglasiae</i>	イシガイ科
植物遺体は以下の2分類群である。		
スモモ	<i>Prunus salicina Lindley</i> 桜	バラ科
モモ	<i>Prunus persica Batsch</i> 桜	バラ科

②貝類群集の特徴

個体数ではヤマトシジミとダンベイキサゴが圧倒的に多く、この2種で80%以上を占める。その他の種では、ハマグリ・アサリ・フトヘナタリ科・ウミニナ科などがやや多く、オキシジミ・オキアサリ・タニシなども、全ての試料から出土している。その他にも少数であるが、カキ・ヒメアカガイ・イシガイ・アカニシ・レイシガイなども出土している。沿岸の砂底に生息するものから、淡水に生息するものまで、広範囲に分類され、採貝活動が広範囲に渡っていたことがうかがえる。しかし、どちらの貝塚の組成も、ヤマトシジミとダンベイキサゴが80%以上を占めており、この2種が最も主要な貝類であったことがわかる。また、主要貝類であるヤマトシジミとダンベイキサゴを比べると、SS02ではヤマトシジミが多く、SS04ではダンベイキサゴが多い。ヤマトシジミが多いSS02では、フトヘナタリを主にウミニナなどの海産の巻貝がやや多い。ダンベイキサゴが多いSS04では、ハマグリやアサリなど海産の二枚貝がやや多い。

SS02は各試料ともヤマトシジミが多いが、試料によっては次の特徴がある。SS02北では、ヤマトシジミが特に多い。SS02北西はダンベイキサゴとオキアサリがやや多い。SS02北東SS02南西はアサリが多く巻貝が極端に少ない。SS02西がややフトヘナタリ多い。SS02南はダンベイキサゴが少なく比較的ハマグリ、ヘナタリが多い。SS02東はダンベイキサゴが極端に少なくフトヘナタリが多く二枚貝が占める割合も多い。

SS04は各試料ともダンベイキサゴが多いが試料によっては次の特徴がある。SS04南東ではカワニナが多い。SS04北はシゲトウボラやイシマキガイなどこの試料でしか出土しなかったものもある。SS04東北はハマグリが比較的多い。SS04東側南ではヤマトシジミがやや多い。SS04東側はハマグリが比較的多くカワニナが多い。SS04北側南、SS04北側東、SS04北側西ではダンベイキサゴが特に多い。

③計測結果

ヤマトシジミは殻長1.5cm～3.2cm、殻高1.5cm～3.5cmの間に収まり、平均は殻長2.4cm前後、殻高2.3cm前後である。ダンベイキサゴは、殻径1.6cm～3.7cm、殻高1.0cm～2.4cmの間に収まり、平均は殻径2.6cm前後、殻高1.6cm前後である。ヤマトシジミでも2つの貝塚であり差がなく、SS04で小さい個体が多少増える。ダンベイキサゴでは、SS02では小さなものが少ない傾向が認められた。小さな貝を意識的に採集していない可能性がある。SS04では大きい個体が多少増えるが傾向がみられた(Fig.127)。

3) 考察

SS02では、ヤマトシジミが圧倒的に多く、約60%を占めている。次に多いのはダンベイキサゴで約20%、次いでフトヘナタリで約10%となっており、この3種でほとんどを占めている。ヤマトシジミやフトヘナタリに加え、ハマグリやアサリ、オキシジミなどは砂泥質の干潟から内湾部に

Tab.4 貝類同定結果（1）

綱	分類群	形状	SS01	SS02 東 (1)	SS02 東 (2)	SS02 東 (3)	SS02 南 (1)	SS02 南 (2)	SS02 南 (3)	SS02 南西 Tr.	SS02 西	SS02 北西 Tr.
巻貝綱	ダンペイキサゴ	小	622			39			225	585	956	
			14								1	
	カワニナ		16			10			61	9	150	8
	チリメンカワニナ		29			7			56	14	117	14
	ウミニナ					4			3	3	10	1
	イボウミニナ								3			
	ヘナタリ					4			7		45	1
	フトヘナタリ		1			58			303	65	540	82
	ヒメタニシ	破片	20			3			16	8	71	7
	マルタニシ											
	アカニシ						1				2	
	ツメタガイ											
	レイシガイ											
	シゲトウボラ											
	イシマキガイ											
	未同定巻貝					6			5			
	小計		702	0	0	131	1	0	679	684	1892	113
二枚貝綱	ハマグリ	L	192	1	1	40	1	92	92	22	50	16
		R	247	1	1	51	5	77	77	22	47	17
	アサリ	L	31			14		12	12	4	4	
		R	28			17		11	11	4	6	
	オキシジミ	L	6	3	1	5	3	12	11		4	14
		R	7			10	4	18	7		5	8
	オキアサリ	L	4	2	2			3		1	12	17
		R	5	1	1			1		4	9	22
	ヤマトシジミ	L	498			750		61	2372	947	2621	804
		R	558			754		83	1935	833	2565	780
	イシガイ	L						2			2	
		R										
	ヒメアカガイ	L				2				1	1	1
		R				1				4		
	ハイガイ								7			
	カキ	破片	1			2						
	二枚貝	L				6			7			
		R										
	未同定小計		1577	8	6	1652	15	372	4531	1842	5326	1679
	不明											
	合計個体数		2279	8	6	1783	16	372	5210	2526	7218	1792
他の遺体	モモ	核	20									
		半形				26			7	4	9	4
	スマモ	破片				7			11	9	30	5
		核							5		2	1
		破片										
	骨片											
	その他（土器片）											

Tab.5 貝類同定結果 (2)

SS02 北	SS02 北東 Tr.	SS04 東側 (1)	SS04 東側 南寄り (1)	SS04 東側 南寄り (2)	SS04 東側 北側 (3)	SS04 北側 (1)	SS04 北側 (2)	SS04 北側 (3)	SS04 北側 (4)	SS04 北側 東寄り (1)	SS04 北側 東寄り (2)	SS04 北側 東寄り (3)	SS04 北側 南寄り (1)	SS04 北側 西寄り (2)
91	3	1036	1200	1449	28	1367		1532	1625	1415	1364	720		1454
9	1	41	31	8	15	21	37	67	36	3	6	37		
15	1	38	28	47	7	27	108	64	42	8	8	34	58	14
		70	11			8	41	41	20	2	2	17	9	2
		4	8		2	32	26	19	12			61		2
90	4	63	40	29	16	58	107	112	99	9	2	70	8	5
6	1	146	49	44	4	24	66	40	49	11	12	79		16
		+										1		
							2	2						
			1						2					
									1					
					1				1					
211	10	1398	1368	1577	73	1537	389	1878	1885	1448	1394	1019	75	1493
39	12	350	112	87	18	167	231	192	178	29	50	234	51	28
56	2	350	124	84	18	161	270	227	168	30	33	260	21	29
3	14	32	15	10	3	30	37	33	26	9	10	19	12	7
1	13	34	12	9	6	19	27	29	26	7	12	21	11	8
5	7	17	7	7	6	6	16	12	11	4	5	9	7	18
8	4	24	6	7	5	10	23	7	11	9	2	10	7	4
3	5			1	2			1				3		
1	4	6			5			1			1	2		
1118	192	2708	1582	1091	422	933	1735	1650	1230	164	358	2005	381	155
901	177	2278	1381	983	446	997	1936	1829	1242	164	402	2036	335	138
		4			1	6	14	7		1	2	13		
							7							
	2								1					
			2			2						2	1	
				6		5		9				2		
2134	428	5810	3239	2285	934	2341	4291	3998	2892	417	875	4616	826	387
			1											
2345	438	7208	4608	3862	1007	3878	4680	5876	4777	1865	2269	5635	901	1880
6	28	5		5	21	21	38		44	9		12		18
2	3	1		1	10	8	7		12	1		2		1
1				1				2	1					
					2		4							
					113	167	126	99		16				

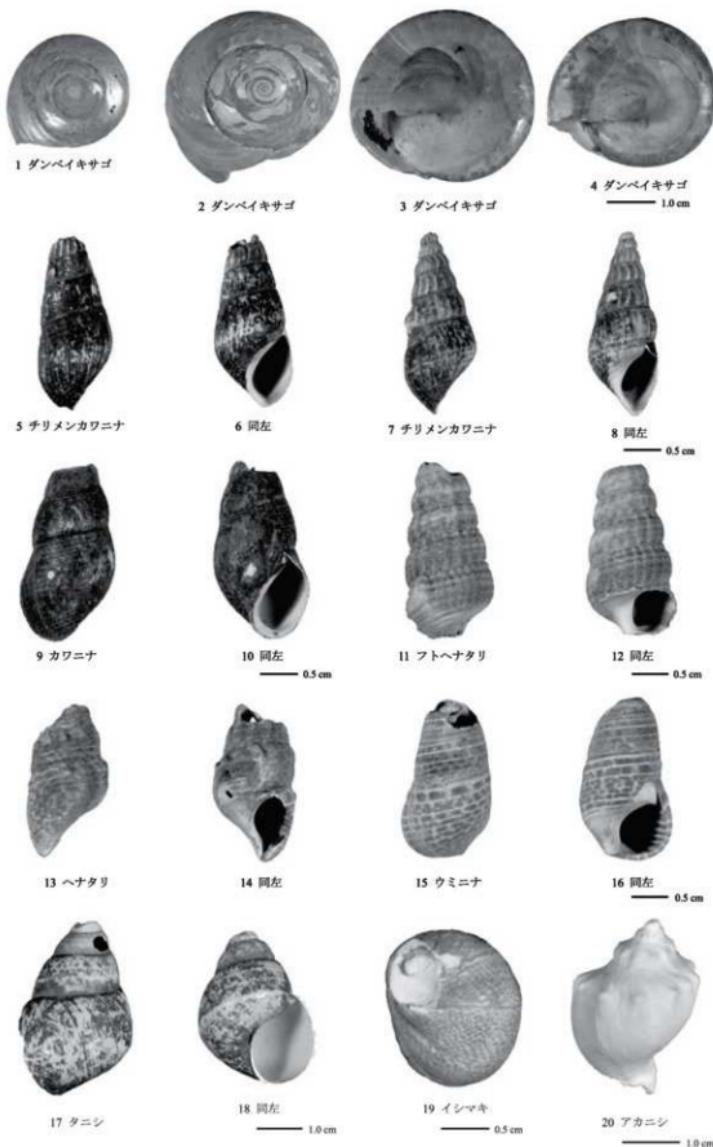


Fig.124 烏居松遺跡の貝類 (1)

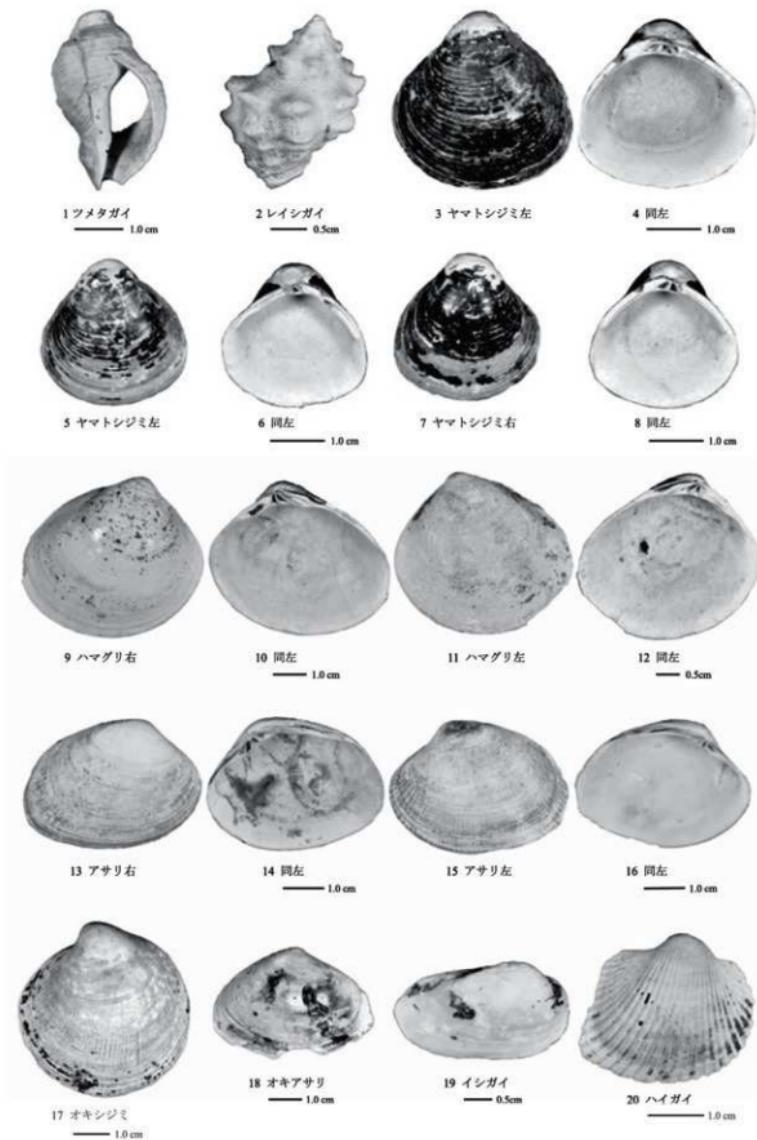


Fig.125 烏居松遺跡の貝類 (2)

生息するため、現在の潮干狩りなどでも普通に収穫ができる貝である。フトヘナタリの出土量が多いことも特徴であり、あまり冠水しない高潮位にいることが多いため、比較的収穫しやすかった可能性が考えられる（Fig.126）。

SS04では、ダンペイキサゴが多く、約50%を占めている。次に多いのはヤマトシジミで約35%、次いでハマグリで約5%となっており、この3種でほとんどを占めている（Fig.126）。ダンペイキサゴは水深5～30mの砂底に生息し、全身が砂に隠れる程深く潜っていることが多い。ダンペイキサゴは外洋に面した砂底に生息する。そのため、収穫する場所も違っていたとみなされる。出土量が多く、特に好んで食べられていた可能性が高い。ヤマトシジミの占める割合が小さくなり、ハマグリが増えている。ハマグリやアサリなど、他の二枚貝を多く収穫していた可能性がある。ヤマトシジミの旬は春～夏、ダンペイキサゴの旬は冬～春と、旬の季節が少しずれるため、収穫量の変化もそれに伴うものと考えられる。

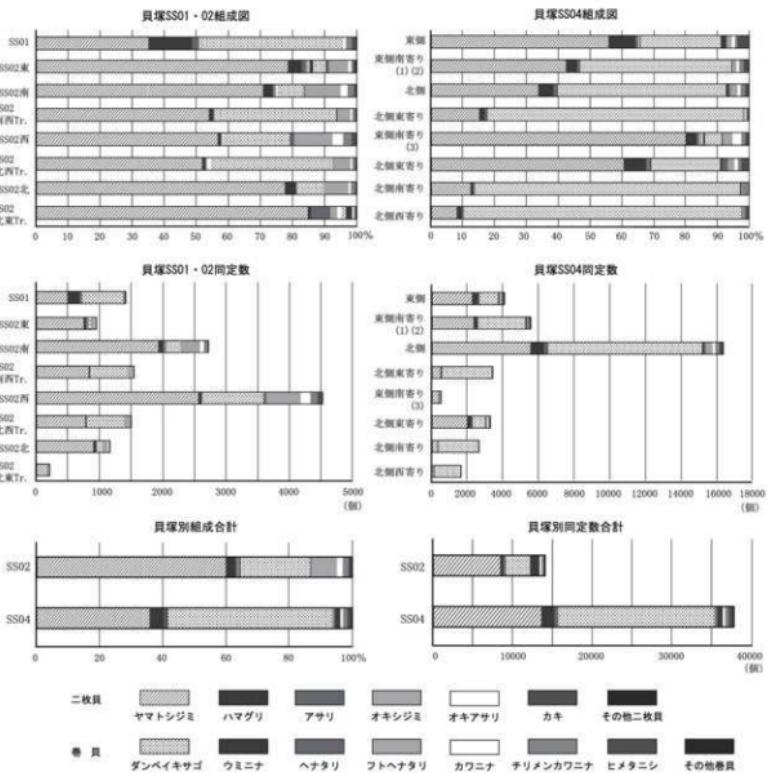


Fig.126 貝塚における貝類の組成

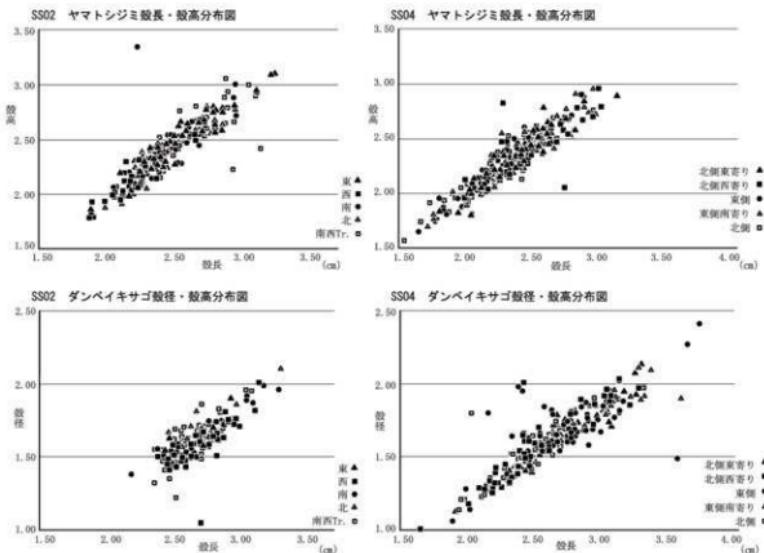


Fig.127 貝塚出土貝類の形態分布

大きさでは、SS02はヤマトシジミ、ダンベイキサゴ共にばらつきが少なく、特に2cm以下の小形の個体の出現率が低く、貝採集に際して2cm以上の大さきのものを選択していた可能性が高い。ダンベイキサゴについてはその傾向がさらに強く、2cmないし3cmより小さい個体は極端に少なく、明らかな選択性が認められる。SS04は大きさに多少のばらつきがみられる。ヤマトシジミでは小さい個体が、ダンベイキサゴでは大きい個体が増える傾向にある。SS04は貝の大きさの選択性が低い。ヤマトシジミでは、大きな個体が減少していることから、採貝活動の場がヤマトシジミの成育に適さなくなつた可能性や、乱獲の結果、個体群が小形化した可能性が考えられる。ダンベイキサゴでは、大きな個体も小さな個体も増えているため、成育環境の変化よりは、収穫量の増加に伴い、選択性も弱くなつた可能性の方が強いと考えられる。

(3) 動物骨

1) 資料と方法

資料は、伊場大溝のIV b層からVII b層における、およそ6世紀後半から9世紀の堆積層から出土した動物遺存体計30点である。一部の資料については、骨の表面や内部の劣化が著しい。同定は、資料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生骨格標本との対比によって行った。なお、発掘調査時の出土位置が明確な動物骨はB-No.を付している。出土位置についてはFig.72に示している。

Tab.6 烏居松遺跡出土動物骨分析一覧

個体No	区	層/遺構	B-No.	分類	部位	部分	左右	齿列	備考
1	D2	IVb SX03	B-3	イノシシ/ブタ	下顎骨		L	P2-M3	
2	D2	IVb SX03	B-3	ウシ	前頭骨	角芯	L		
3	D2	IVb SX03	B-4	ニホンジカ	鹿角	第一枝	L		加工痕あり 破片
4	D3	IV	B-6	不明	不明		-		
5	A3	IVb SE01周辺	B-17	ウマ	遊離歯	下顎臼歯	L		
6	A3	IVb SE01周辺	B-17	ウマ	遊離歯	下顎臼歯	R		
7	B3	V	B-8	不明	不明		-		破片
8	D3	V	B-10	不明	不明		-		破片
9	A3	V	B-12	ウシ	上顎骨		L	P2-P3	
10	E3	V	B-19	不明	不明		-		破片複数
11	B2	V SS04	B-23	キジ科	大腿骨		L		
12	B2	V SS04	B-23	カモ科	胫足根骨		L		
13	B2	V SS04	B-23	マグロ属	鰓棘		-		
14	B2	V SS04	B-23	マグロ属	後頭骨		L		
15	B2	V SS04	B-23	マグロ属	方骨		R		
16	B2	V SS04	B-24	不明	肋骨		-		
17	B2	V SS04	B-24	不明	不明		-		
18	C2	VIIa	B-12	ウシ	遊離歯	上顎臼歯	-		破損顯著
19	C2	VIIa	B-13	ウマ	遊離歯	上顎第二前臼歯	L	P2	破損顯著
20	E3	VIIa	B-14	ウマ	遊離歯	下顎第三前臼歯	R	P3	破損顯著
21	E3	VIIa	B-14	ウマ	遊離歯	下顎第四前臼歯	R	P4	破損顯著
22	E3	VIIa	B-14	ウマ	遊離歯	下顎第一前臼歯	R	M1	破損顯著
23	E3	VIIa	B-14	ウマ	遊離歯	下顎第二前臼歯	R	M2	破損顯著
24	E3	VIIa	B-14	ウマ	遊離歯	下顎第三前臼歯	R	M3	破損顯著
25	D2	VIIa	B-25	ウマ	遊離歯	上顎臼歯	-		破損顯著
26	D2	VIIa	B-26	ウシ	遊離歯	下顎第二後臼歯	R	P2	
27	A3	VIIb	B-15	ウマ	遊離歯	下顎切歯	L	H	
28	B2	VIIb	B-20	不明	遊離歯		-		破片
29	C3	VIIb	B-22	ウマ	遊離歯	不明	-		破片
30	C3	VIIb SX05	B-27	不明	不明		-		
31	A3	V	B-16	ウマ	上顎骨・下顎骨		L		

2) 結果

①分類群

同定結果は学名、和名および部位を表に示し、以下に分類群を記す。

硬骨魚綱 OSTEICHTHYES

スズキ目 Perciformes

マグロ属の一種 Thunnus sp.

サバ科 Scombridae

鳥綱 AVES

カモ目 Anseriformes

カモ科の一種 Anatidae, gen. et sp. indet.

カモ科 Anatidae

キジ目 Galliformes

キジ科の一種 Phasianus, gen. et sp. indet.

キジ科 Phasianidae

哺乳綱 MAMMALIA

奇蹄目 Perissodactyl

ウマ

Equus caballus

ウマ科 Equidae

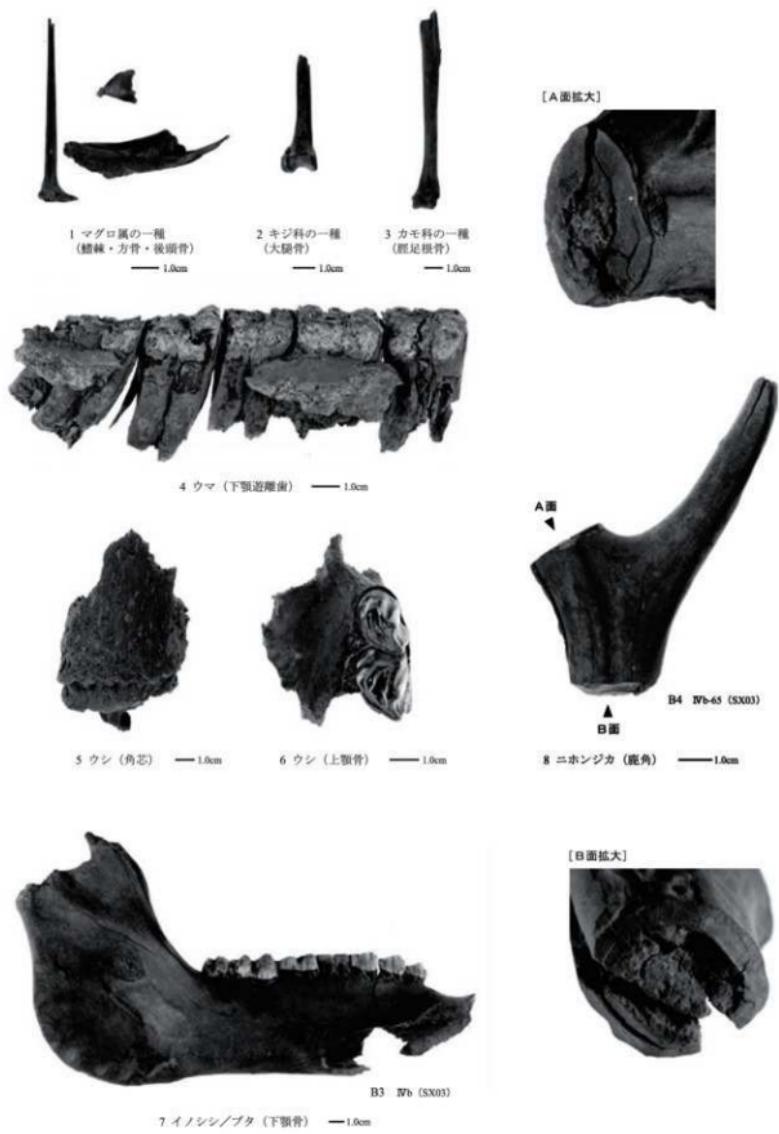


Fig.128 烏居松遺跡の動物遺存体

偶蹄目 Artiodactyla

ウシ	<i>Bos Taurus</i>	ウシ科 Bovidae
ニホンジカ	<i>Cervus Nippon</i>	シカ科 Cervidae
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ科 Suidae

②動物遺存体の特徴

マグロ属の一種：V層 SS04より後頭骨（左）、方骨（右）、鱗棘が各1点出土している。

キジ科の一種：V層 SS04より大腿骨（左）が1点出土している。

カモ科の一種：V層 SS04より脛足根骨（左）が1点出土している。

ウマ：VII b層より遊離歯（左1不明1）が2点、VII a層より遊離歯（左1右5左右不明1）が7点、IV～V層 SE01周辺より遊離歯（左1右1）が2点出土している。ほとんどが骨の主成分であるリンと地下水の鉄イオンとが結合した藍鉄鋼（ビビアナイト）を析出させて劣化しており、破損が著しくかろうじて原形を保ってはいるが、計測等は困難であった。頭骨1があるが保存が悪く、保存処理中である。

ウシ：VII a層より遊離歯（右1不明1）が2点、V層より上顎骨（左）が1点、IV b層 SX03より角芯（左）が1点出土している。観察により解体痕等は認められなかった。

ニホンジカ：IV b層 SX03より鹿角の第一枝部分（左）が1点出土している。切断面を観察すると、金属器をもじいて切断された痕跡が認められる。

イノシシ／ブタ：IV b層 SX03より第二前臼歯から第三後臼歯が残存した下顎骨（左）が1点出土している。第三後臼歯が完全に萌出していることから成獣であることがわかる。第三後臼歯の最後縁の咬頭を観察すると咬耗が進んでいることから、年齢が高い個体であることが推察される。観察により解体痕等は認められなかった。

(4) 花粉分析・珪藻分析

1) 方法

①花粉分析

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村純の方法（中村 1973）を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレバラートを作製する。以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレバラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、所有の現生標本との対比を行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。なお、科・亜

科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。なお、伴つて寄生虫卵の観察・同定・計数を行った。以下に、検出された主要な分類群を示す。

②珪藻分析

試料には以下の物理化学処理を施し、プレパラートを作成した。試料から 1cm^3 を秤量する。10%過酸化水素水を加え、加温し反応させながら、1晩放置する。上澄みを捨て、細粒のコロイドおよび薬品の水洗を行う。水を加え、1.5時間静置後、上澄みを捨てる。この操作を5、6回繰り返す。残渣をマイクロビットでカバーガラスに滴下し乾燥させる。マウントメディアによって封入しプレパラートを作成する。プレパラートは生物顕微鏡で600～1500倍で検鏡し、直線視野法により計数を行う。計数は、同定・計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。珪藻ダイアグラムと解析は、生態性はLowe (Lowe 1974) や渡辺仁治 (渡辺 2005) 等の記載、陸生珪藻および、環境指標種群の海水生種と汽水生種は小杉正人 (小杉 1986、1988)、淡水生種は安藤一男 (安藤 1990) の分類を用いた。以下に検出された主要珪藻を示す。

2) 分析結果

①花粉分析

分類群 出現した分類群は、樹木花粉44、樹木花粉と草本花粉を含むもの6、草本花粉41、シダ植物胞子3形態の計94である。これらの学名と和名および粒数を表に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基準とする花粉ダイアグラムを図に示す。なお、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみると参考に図示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても同定した結果、3分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

樹木花粉：マキ属、モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管束亞属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、ヤマモモ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、イスブナ、コナラ属コナラ亞属、コナラ属アカガシ亞属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、シキミ属、アカメガシワ、サンショウ

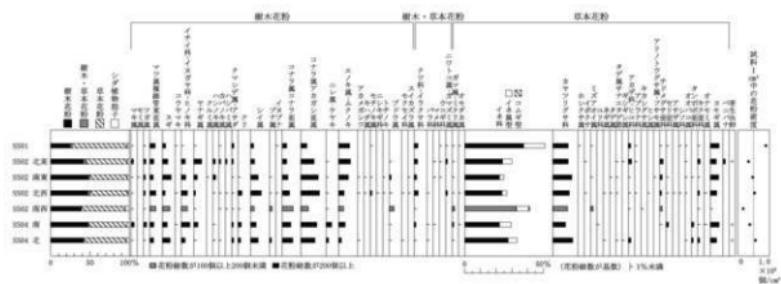


Fig.129 鳥居松遺跡の貝塚における花粉ダイアグラム

3 烏居松遺跡における環境考古学的検討

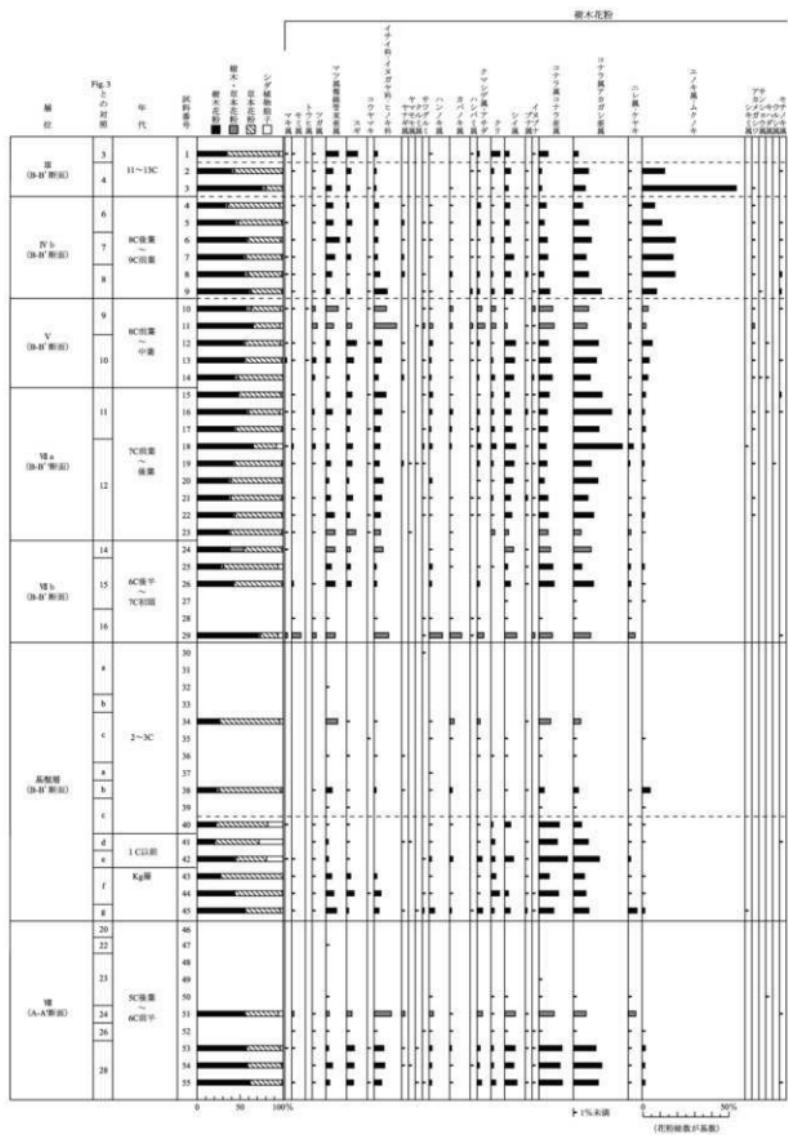


Fig. 130 鳥居松遺跡の断面における花粉ダイアグラム (1)

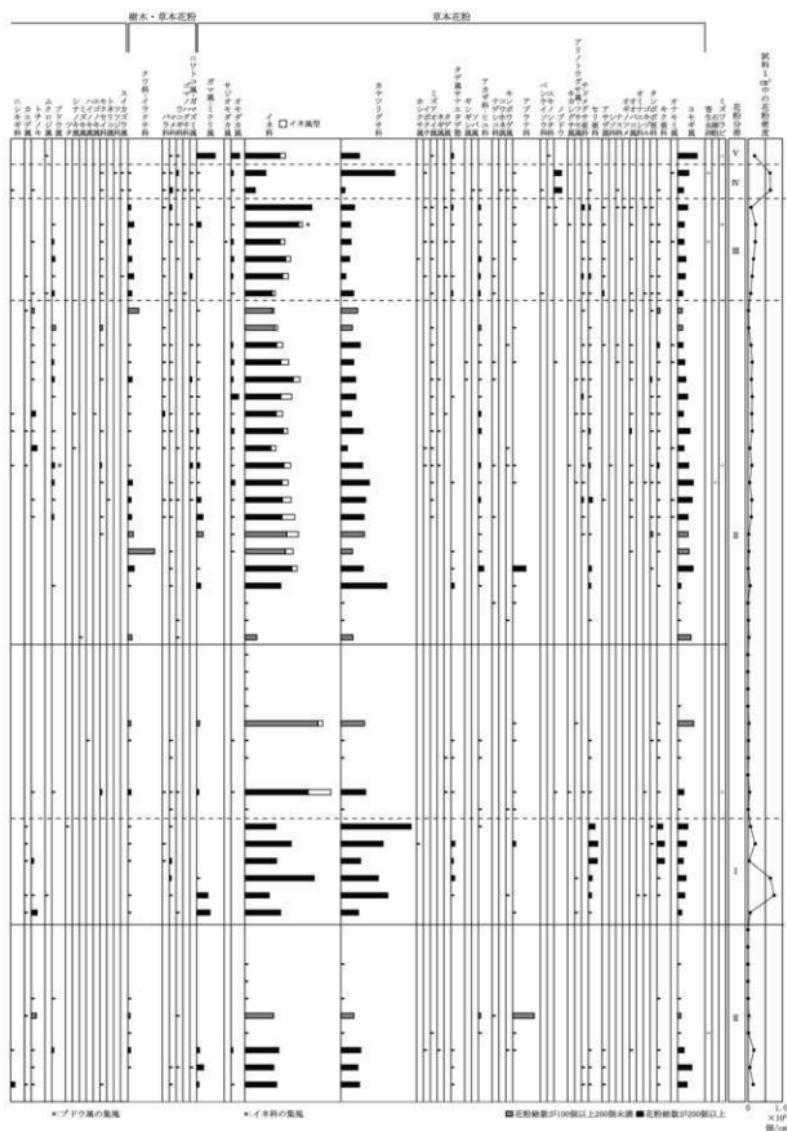


Fig.131 鳥居松遺跡の断面における花粉ダイアグラム（2）

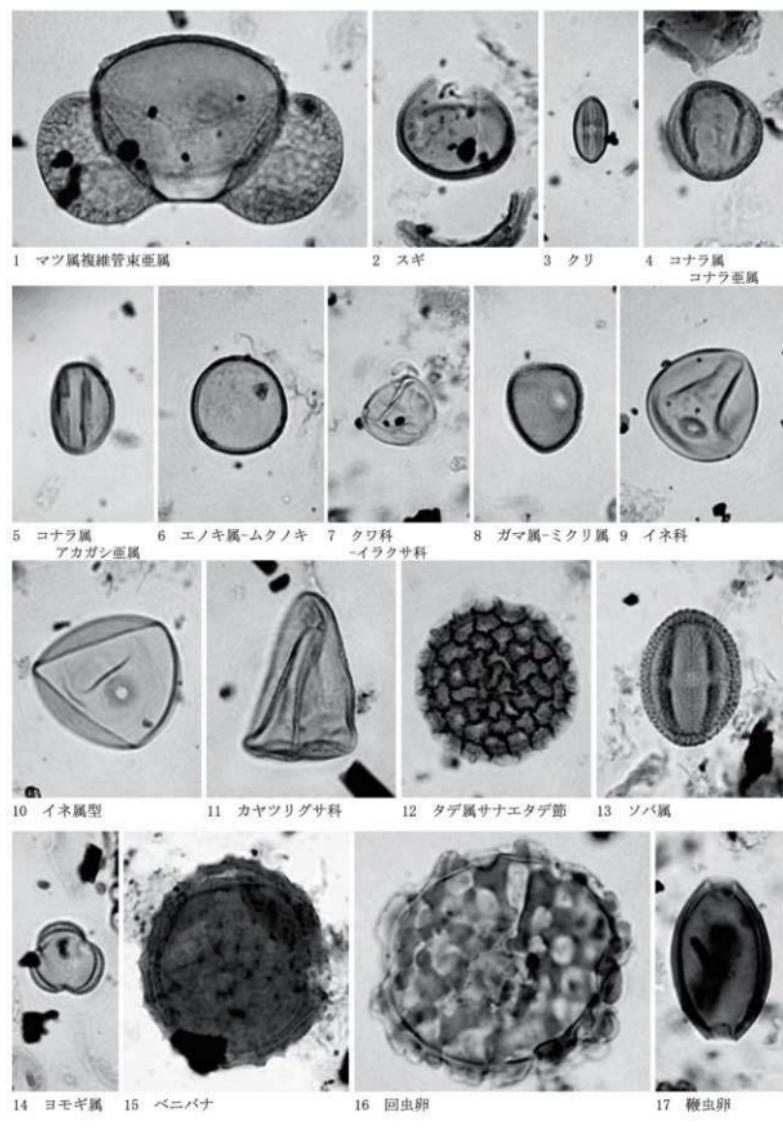


Fig.132 烏居松遺跡の花粉・胞子・寄生虫卵

ウ属、キハダ属、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ムクロジ属、ブドウ属、ツタ、シナノキ属、ミズキ属、ハイノキ属、エゴノキ属、モクセイ科、トネリコ属、ツツジ科、スイカズラ属

樹木花粉と草本花粉を含むもの：クワ科—イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ゴマノハグサ科、ニワトコ属—ガマズミ属

草本花粉：ガマ属—ミクリ属、サジョモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、コムギ型、カヤツリグサ科、ホシクサ属、イボクサ、ミズアオイ属、ユリ科、ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、コウホネ属、キンポウゲ属、アブラナ科、ベンケイソウ科、ユキノシタ科、ノブドウ、キカシグサ属、ヒシ属、アリノトウグサ属—フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、アササ属、シソ科、ナス科、オギノツメ、オオバコ属、オミナエシ科、ゴキヅル、タンボボ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属、ベニバナ

シダ植物胞子：單条溝胞子、ミズワラビ、三条溝胞子

寄生虫卵：回虫卵、鞭虫卵、不明虫卵

花粉群集の特徴 貝塚 SS01・SS02・SS04 の花粉組成は類似する。イネ属型を含むイネ科が優占し、カヤツリグサ科、ヨモギ属が比較的多く、草本花粉が樹木花粉より多い。樹木花粉では大きく優占する分類群はないが、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属—ムクノキ、コナラ属コナラ亜属、シイ属、スギなどの針葉樹が出現する。

断面では、下部より P I 带から P V 带の 5 区分した。

P I 帯（試料 40 ~ 45、7 層下部から Kg 含有層以下まで）では、草本花粉の占める割合がやや高く、イネ科、カヤツリグサ科が優占する。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属が多い。下部ではガマ属—ミクリ属がやや多い。

P II 帯（試料 10 ~ 39、46 ~ 55）では、イネ属型が出現しイネ科が優占しカヤツリグサ科がやや減少する。樹木花粉はコナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属が多く、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科の針葉樹がやや多くなる。試料 38 (7-1 層) と試料 34 (7-2 層) では特にイネ属型を含むイネ科が優占する。

P III 帯（試料 4 ~ 9）では、エノキ属—ムクノキが増加する。

P IV 帯（試料 2~3）ではイネ属型を含むイネ科が低率になり、エノキ属—ムクノキやカヤツリグサ科が増加する。

P V 帯（試料 1）ではエノキ属—ムクノキがなくなり、草本花粉ではイネ属型を含むイネ科、ガマ属—ミクリ属、樹木花粉ではマツ属複維管束亜属、スギが増加する。

②珪藻分析

分類群 出現した主要珪藻を以下に示す。貧塩性種（淡水生種）が主要となる。

貧塩性種：*Amphora copulata*, *Aulacoseira ambigua*, *Aulacoseira canadensis*, *Aulacoseira granulata*, *Aulacoseira spp.*, *Caloneis silicula*, *Cocconeis placentula*, *Cyclotella spp.*, *Cymbella silesiaca*, *Cymbella turugidula*, *Cymbella sinuata*, *Eunotia bilunaris*, *Eunotia minor*, *Eunotia soleirolii*, *Fragilaria construens*, *Gomphonema acuminatum*, *Gomphonema gracile*, *Gomphonema*

parvulum, *Gomphonema truncatum*, *Hantzschia amphioxys*, *Navicula confervacea*, *Navicula elginensis*, *Navicula pupula*, *Neidium ampliatum*, *Pinnularia microstauron*, *Tabellaria fenestrata-flocculosa*

貧・中塩性種 : *Navicula peregrina*, *Rhopalodia gibberula*

珪藻群集の特徴 貝塚 SS01・SS02 は、*Gomphonema parvulum*, *Cocconeis placentula* の真・好流水性種がやや多いが、真・好止水性種、流水性種、陸生珪藻と多様に出現する。SS04 では *Aulacoseira granulata* の湖沼浮遊生種がやや優占し真・好止水性種が優占する。

断面では、D I 帯から D VI 帶の 6 分帯を設定した。

D I 帯（試料 30 ~ 45）は珪藻が少ない。

D II 帯（試料 27 ~ 28）は *Cymbella turugidula*, *Cymbella sinuata* の中～下流性河川指標種群、*Cocconeis placentula* の沼澤湿地付着生種が優占するが、珪藻密度が低い。

D III 帯（試料 10 ~ 26）では湖沼浮遊生種の *Aulacoseira granulata* を主に湖沼沼澤湿地環境指標種群の *Aulacoseira ambigua* が優占する。

D IV 帯（試料 4 ~ 9）では *Aulacoseira granulata*, *Aulacoseira ambigua* が減少するものの多く、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotia minor*、陸生珪藻の *Navicula confervacea* などが出現する。

D V 帯（試料 2・3）では貧・中塩性種 : *Navicula peregrina* が優占する。

D VI 帯（試料 1）では湖沼浮遊生種の *Aulacoseira ambigua* が優占する。

3) 推定される植生と環境

①貝塚

貝塚 SS01・SS02・SS04 の周辺はイネ科が多く、カヤツリグサ科、ヨモギ属も多く、周囲は草本が多い。周辺は樹木が少ないが、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属ムクノキ、コナラ属コナラ亜属、シイ属、スギなどの針葉樹が生育する。SS01・SS02 では真・好流水性種が多く、比較的水が

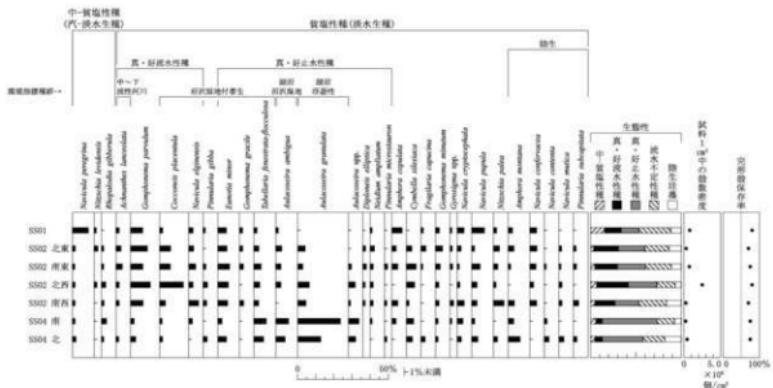


Fig.133 烏居松遺跡の貝塚における主要珪藻ダイアグラム

流れる環境が示唆される。SS04 では湖沼浮遊生種が多く、滞水する環境が示唆され、環境が異なる。SS01・SS02・SS04 のいずれの貝塚も大溝の水域中に形成された貝塚である。

②周辺および大溝

弥生時代後期前半 7 層下部から Kg 含有層以下まで (P I 帯) では、イネ科、カヤツリグサ科が生育する湿地の環境であり、特に下部ではガマ属・ミクリ属が多い。森林ではコナラ属アカガシ亜属の照葉樹林、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林が主に分布する。コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林は周辺の台地上等の乾燥したところに分布していたと考えられる。珪藻では D I 帯にあたり、珪藻が少なく乾燥した環境や不安定な環境が推定される。

2 ~ 3 世紀以降から 8 世紀 (P II 帯) は、イネ属型を含むイネ科が増加し、周辺の低地で水田が営まれるようになった。森林植生は大きく変わらず、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属が多く、イチイ科・イスガヤ科・ヒノキ科が主要要素で、本地域における低地と台地との地形が明白な環境に起因すると考えられる。試料 38 (7-1 層) と試料 34 (7-2 層) では特にイネ属型を含むイネ科が優占し、弥生時代後期前半の水田の分布が示唆される。下部は珪藻の D I 帯で乾燥した環境が推定される。上部は大溝内で、D II 帯と D III 帯では湖沼浮遊生種を主に湖沼沼澤湿地環境指標種群が優占し、滞水し水草の生育する状況が示唆され、下部で中～下流水性河川指標種群が多く流れる環境の時期もある。

9 ~ 10 世紀 (P III 帯) は二次林と考えられるエノキ属・ムクノキが増加し、遺跡の縮小が考えられる。大溝 (D IV 帯) 暗昧な水域になる。

12 ~ 13 世紀の下部では (P IV 帯) はイネ属型を含むイネ科が低率になり、周囲の低地の水田が衰退する。エノキ属・ムクノキやカヤツリグサ科が増加し、二次林化も進む。珪藻では D V 帯で貧 - 中塩性種の珪藻であるが多く優占し、このことから一時的な海水準の上昇があり、低地で水田が衰退したと考えられる。

12 ~ 13 世紀の上部では (P V 帯) では再び水田化しガマ属・ミクリ属も多く低湿地となる。珪藻からは湖沼浮遊生種が多く (D VI 帯)、水域が示唆される。

(5) まとめ

貝類 鳥居松遺跡の人々が食料として積極的に採集したと推定される貝類は、ヤマトシジミとダンベイキサゴであり、この 2 種で全体の 80% 程を占めている。ほとんどの貝が河口、干潟、内湾の貝であり、遺跡近隣に貝類採集に適した場が広がっていた。ダンベイキサゴは、外洋に面した砂底に生息しているため、周辺の遠州灘からわざわざ採取され、鳥居松遺跡の人々に特に好んで食べられていたと考えられる。

動物骨 6 世紀後半の VII b 層からはウマ、7 世紀の VII a 層からはウシとウマ、8 世紀の V 層からはウシと SS04 からはマグロ属の一種、キジ科の一種、カモ科の一種、8 ~ 9 世紀の IV ~ V 層 SE01 周辺からはウマ、9 世紀の IV 層 SS03 からはウシ、ニホンジカ、イノシシ / ブタを同定した。

同定できた資料のなかで特に注目すべきは鹿角の未製品であろう。古代における鹿角の未製品は出土例が少なく、当時の加工技術を解明するうえで貴重な資料となる。また、8 世紀の V 層 SS04

3 烏居松遺跡における環境考古学的検討

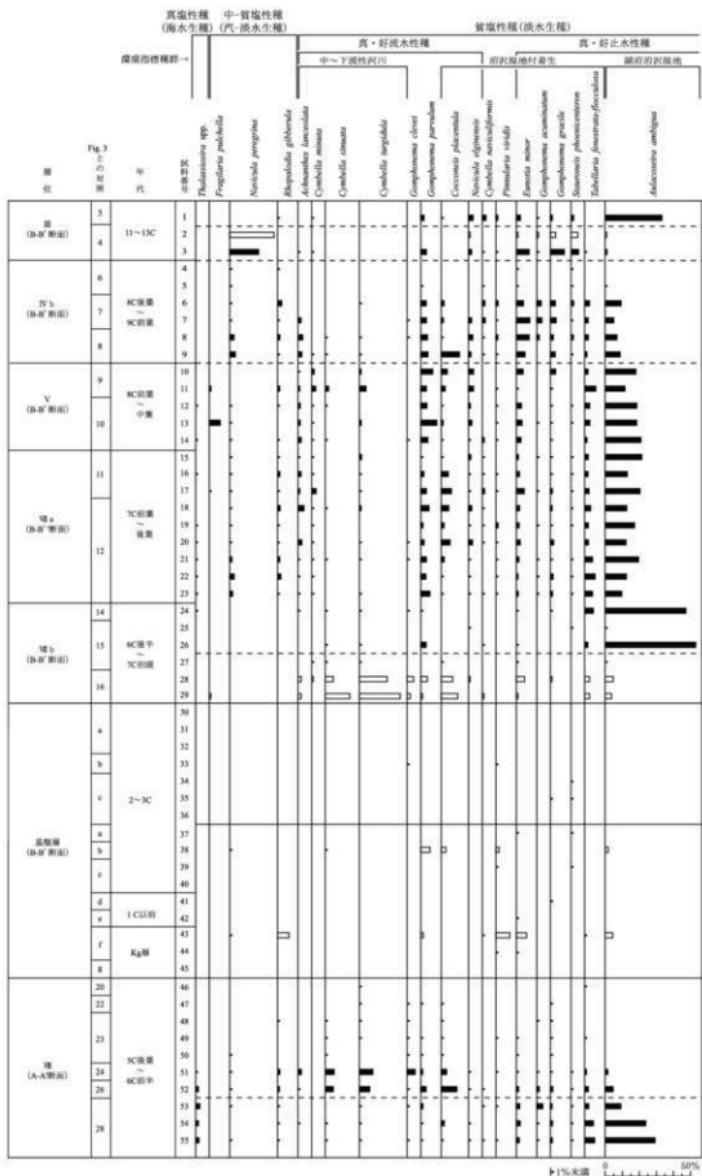


Fig.134 烏居松遺跡の断面における主要珪藻ダイアグラム (1)

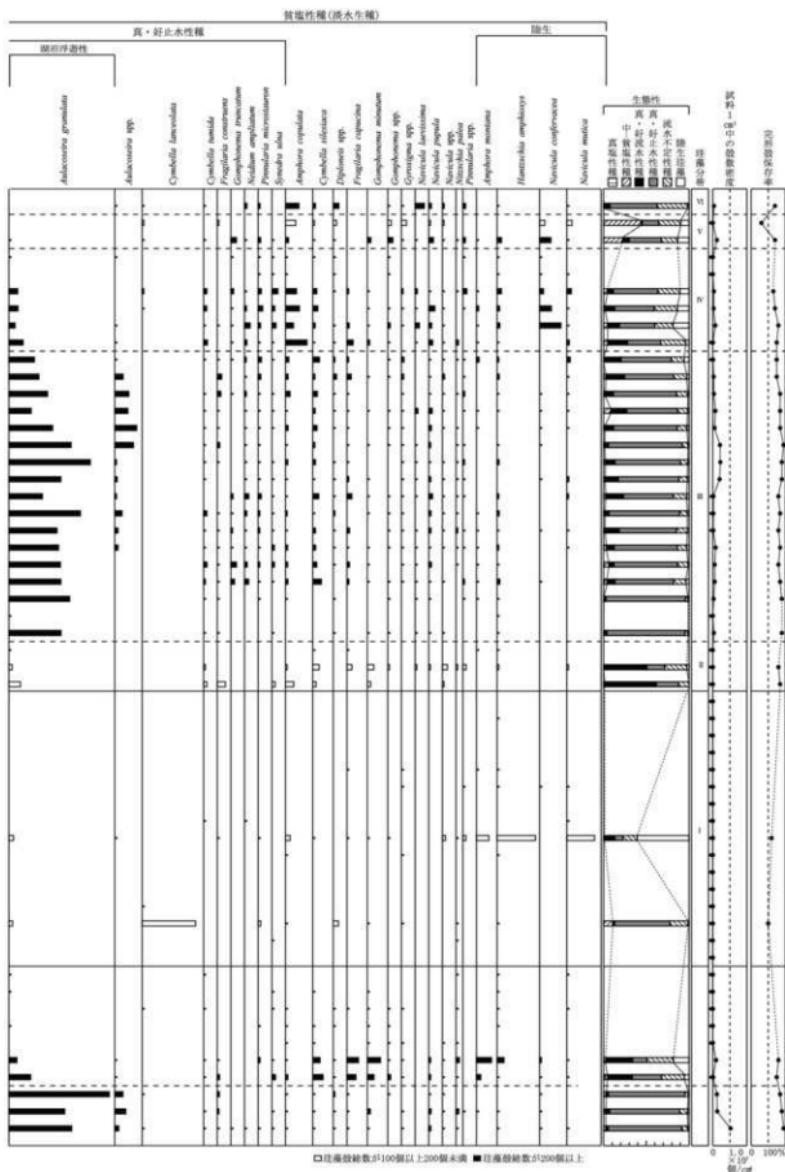


Fig.135 烏居松遺跡の断面における主要珪藻ダイアグラム (2)

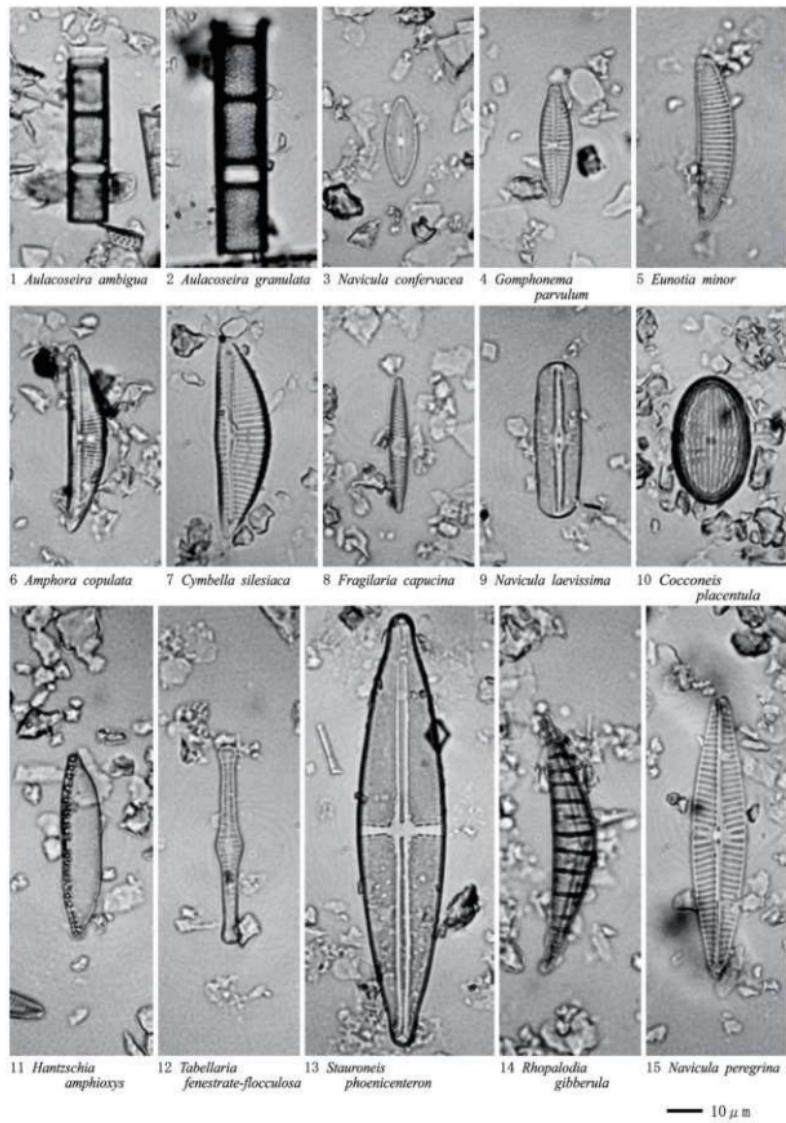


Fig.136 烏居松遺跡の珪藻

からはマグロ属が出土しており、付近の伊場遺跡においてもマグロ属が確認されている。マグロ属は外洋魚であることから、当時この地域において外洋魚が利用されていたことを窺わせる。古代の動物利用の解明も動物考古学の課題の一つであり、本資料は古代の東海地域における重要な資料となる。

貝塚の環境 貝塚 SS01・SS02 は比較的水が流れる環境に捨てられ形成され、SS04 では湖沼浮遊生種は滞水した環境に捨てられ、形成された環境が異なる。

周辺の植生と環境 本地域では森林植生は下部の Kg 含有層以下から 8 世紀まで大きく変化せず、コナラ属アカガシ亜属の照葉樹林、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林が主に分布する。低地にはイネ科、カヤツリグサ科が分布する。2 ~ 3 世紀以降はイネ属型を含むイネ科が増加し、周辺の低地で水田が営まれるようになる。試料 38（基本層位 6 層相当）と試料 34（基本層位 7 層相当）では特にイネ属型を含むイネ科が優占し、弥生時代後期前半の水田の分布が示唆された。

伊場大溝の植生と環境 5 ~ 6 世紀の大溝の時期になども大きく植生は変化しない。大溝は概ね滞水し水草の生育する状況であった。9 ~ 10 世紀に二次林と考えられるエノキ属 - ムクノキが増加し、遺跡の縮小が推定され、12 ~ 13 世紀の下部では周囲の低地の水田が衰退し、エノキ属 - ムクノキやカヤツリグサ科が増加し、二次植生化が進む。一時的な海水準の上昇があり、低地で水田が衰退したと考えられる。12 ~ 13 世紀の上部では再び水田化しがマ属 - ミクリ属も多く低湿地化する。

【参考文献】

- 安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『東北地理』42 pp.73-88.
- 伊藤良永・堀内誠志 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6 pp.23-45.
- 窟田彦左衛門 1962 「福井市立郷土博物館所蔵貝類標本目録」福井市立郷土博物館。
- 小杉正人 1986 「陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—」『植生史研究』第 1 号・植生史研究会 pp.29-44.
- 小杉正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27 pp.1-20.
- 滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会 1984 「栗津貝塚湖底遺跡」 pp.141-142.
- 中坊徹次(編) 2000 「日本産魚類検索 全種の同定 第二版」東海大学出版会。
- 中村純 1967 「花粉分析」古今書院 pp.82-110.
- 中村純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(Oryza sativa)を中心として」『第四紀研究』13 pp.187-193.
- 中村純 1977 「福作とイネ花粉」「考古学と自然科学」第 10 号 pp.21-30.
- 波部忠重 1967 「標準原色図鑑全集」第 3 卷 保育社。
- 納屋内高史・松井章 2007 「第 2 節 浜松市伊場遺跡出土の動物遺存体」『伊場遺跡補遺編(第 8 ~ 13 次調査遺構・自然遺物)』浜松市教育委員会 pp.83-105.
- 浜松市教育委員会 2007 「伊場遺跡補遺編(第 8 次 ~ 13 次調査遺構・自然遺物)」
- (財) 浜松市文化振興財團 2009 「鳥居松遺跡 6 次」
- 林良博・西田隆雄・望月公子・瀬田季茂 1977 「日本産イノシシの歯牙による年令と性の判定」『日本獣醫學雑誌』第 39 卷第 2 号 pp.165-174.
- 藤井昭二・高山茂樹 1979 「軟体動物」『鳥浜貝塚—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 I—I』福井県教育委員会 pp.167-169.
- 渡辺仁治 2005 「淡水珪藻生態図鑑」内田老舗編 p.666

3 烏居松遺跡における環境考古学的検討

- Hustedt,F. 1937-1938 Systematische und ologische Untersuchungen über die DiatomaceenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,pp.131-506.
- Lowc,R.L. 1974 Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. 333p.National Environmental Reserch. Center.
- K. Krammer · H.Lange-Bertalot 1986-1991 Bacillariophyceae · 1-4.
- Asai,K.& Watanabe,T. 1995 Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,pp.35-47.

4 烏居松遺跡出土木簡の概要

渡辺晃宏

(1) はじめに

烏居松遺跡の5次調査では自然流路「伊場大溝」から合計6点の木簡が出土している。以下、各木簡の解説を行い、これら史料群の特徴と意義について触れる。

(2) 木簡の解説

1号木簡 (Fig.137-182) 上下両端折れ。左辺削り。右辺割れ。一文字目と三文字目が細い筆致で書かれているのに対し、三文字目の「三」は太めの画で記されている。上書きされている可能性もある。四文字目は辛うじて残る程度で判読できない。「三日」は日付とみられるが、その直上の文字は「月」にはならず、この部分は二文字以上の可能性もある。また、一文字目と四文字目は「三日」の部分に比べると、文字の中心がやや左にずれるようであり、一連の記載でない可能性も残る。

2号木簡 (Fig.137-183) 二片接続。上端折れ。下端と左辺削り。右辺割れ。裏面の文字は左半を欠き、その状況からみると、原形は現状の二倍以上あった可能性がある。したがって、表面の文字は二行割書の左行にあたるとみられる。蛭田郷は『和名類聚抄』にみえる遠江国敷智郡蛭田郷にあたり、「郷」の下に続く墨痕はコサトの可能性がある。但し、上に続く文字は「人」であり「郡」ではない。裏面は比較的大振りな一行書きの文字とみられる。

こうした形状、文字の割付、内容から判断すると、比較的大型の文書木簡の断片の可能性が高いとみられる。「蛭田郷」も文書木簡の文章の一部に登場する地名ということになり、敷智郡内の行政事務の一端を窺わせる郡家に相応しい木簡ということができよう。大型の木簡という点を重視すれば、伊場遺跡群でも類例のある郡符などに多い二尺クラスの規格の大型木簡の断片である可能性が高い。このことは、後述のように、3号木簡と同材とみられることからも裏付けられよう。

3号木簡 (Fig.137-184) 五片接続。上端は山形に整形していたとみられるが、右辺上部は割れ。下端は裏面から斜めに刃物を入れて切断しているが、先端部分は折れている。左右両辺は削り。本来は二尺程度の長さをもつ大型の木簡であったとみられる。表面一文字目は縦画が一本残るだけだが、「糸」の上に続く文字としては、字配りや残画の状況からみて、「耳」の可能性が強い。「赤坂郷」は『和名類聚抄』にみえる遠江国敷智郡赤坂郷にあたる。「鳴里」は赤坂郷のコサトで初見。耳糸(織物の耳を織るときにたて糸として用いる太めの糸)を赤坂郷鳴里の忍海マ某に貸したことが記される。二行割書の左行は二人目の人名か(一行目の「石□」までで人名として完結し、末尾の文字が二人目の最初の文字となる可能性もある)。裏面上部に墨痕はなく、内容は表面のみで完結していたとみてよい。

裏面は年月日の記載のみが書かれていたとみられる。神龜元年は七二四年。末尾の文字は「月」に続く数字に相当する残画であろうが、神龜元年は二月に改元が行われており、月の特定は困難。

なお、3号木簡は2号木簡と同材の可能性が強い。直接の接点はもたないが、2号木簡が数cmの間隔を置いて左下に連続するとみられる。その場合、2号木簡表面の「蛭田郷〔 〕」は割書左行の人名の註記、同裏面の「□□□」は日付の下に続く人名の末尾と考えることができる。但し、左行の人名を「貸受人」の列記とみるべきか、「貸受人」とは別の性格の人名とみるべきかは俄には決定したい。

いずれにしても糸の貸与の証文の木簡であり、糸の出拳というよりは、原材料を貸し与えて織物を生産させたことが背景にあるとみられ、材料の調達を含めた織維製品の生産管理に郡家が深く関与したことを見出す重要な資料となろう。なお、木簡にみえる八世紀の耳糸の類例としては、平城宮跡出土の事例がある（「供御□〔耳カ〕糸十鉢」、奈文研 1987）。

4号木簡 (Fig.137-185) 上端は山形に削り尖らせる。下端折れ。左右両刃削り。伊場遺跡群の木簡に多数類例のあるイネの出拳に関わるとみられる「サト名+人名」の木簡の一例。烏居松遺跡が伊場遺跡群と同一の遺跡空間に存在することを明確に示す木簡である。「赤坂」は『和名類聚抄』にみえる遠江国敷智郡赤坂郷にあたる。「五」の最後の横画と、「百」の最初の横画は共用している。また、「依」とした文字は、旁に最初の点画がなく、「佐」のようにもみえるが、他の筆画は「依」とみて矛盾がなく、名前としても自然であることから、「五百依」と判断した。

なお、「サト名+人名」の赤坂郷の木簡としては、伊場遺跡 50号木簡「赤坂郷（以下欠損）」((100) × 31 × 6)、伊場遺跡 54号木簡「赤坂□〔郷カ〕戸主刑部□〔歳カ〕□□〔呂カ〕」(337 × 12 × 9)、梶子遺跡 6号木簡「赤坂〔 〕マ〔 〕五斗」(198 × 25 × 5)、梶子北遺跡 5号木簡「赤坂郷忍海部古□（以下欠損）」((101) × 17 × 5)、中村遺跡 5号木簡「□□〔赤坂カ〕若倭マ益万呂」(155 × 23 × 2)、中村遺跡 7号木簡「赤坂□（以下欠損）」((159) × 23 × 6) の 6 点がある。4号木簡は同類の木簡の中ではもっと幅が狭く小振りの様相を呈するが、下端が折れており、梶子北遺跡 2号木簡のように文字のない部分が長大な例もあるので、長さの判断は難しい。上端を尖らせる例は他にもある（梶子北遺跡 2号木簡、梶子遺跡 6号木簡など）。但し、大きさや形状の違いに有意な意義を認めるのは難しそうである。

5号木簡 (Fig.137-186) 上端は山形に削り出していたとみられるが、左上部は欠損。下端折れ。左右両刃削り。「己酉年」は、649年の可能性も全くないことはないが、出土層位の年代観や在地支配の拠点としての木簡使用という観点からみて、干支年使用としてはかなり遅い部類に属することにはなるが、709年（和銅2）であろう。

「相知」は、保証人の意で、木簡では平城宮跡出土木簡（770年代初頭の月借錢解の連帯保証人、奈文研 2009）や新潟県延命寺遺跡出土木簡（天平7年（735）の口分田の売買の証人、（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団ほか 2008）に類例がある。下に続く三文字は「某月記」とあるのが自然であるが、残画からはそのように読み取りがたく、またそのように考えた場合に「相知」の内容が全く見えなくなることもやや不審。「川□〔前カ〕」は姓であろう。なお、釈文を立てた墨痕以外にも、削り残りとみられる墨痕が左上部に残る。

いずれにしても、何らかの貸借関係の発生に際して作成された木簡であることは明らかで、それに郡家が関与していたことを示す木簡といってよいだろう。「相知」の文言が確認できる最古の事

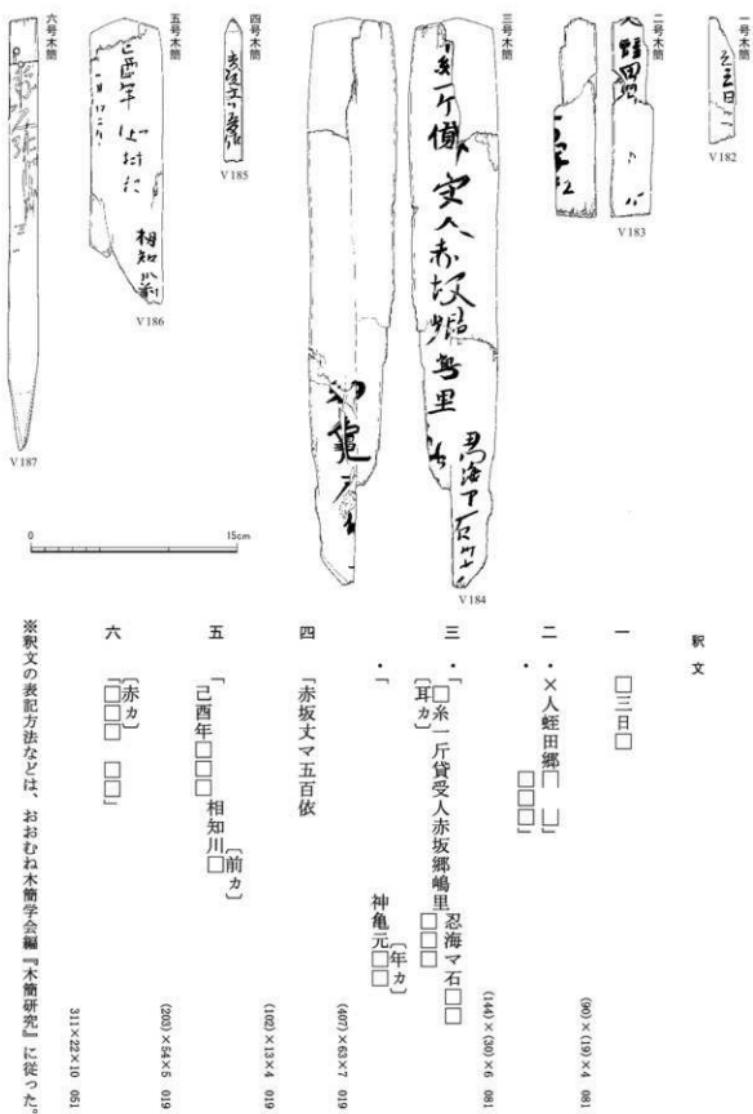


Fig.137 烏居松遺跡 5 次調査出土木簡

例とみられることも注目される。

6号木簡 (Fig.137-187) 曲物を転用した木簡であり、上端は長方形、下端は尖らせている。左右両刃削り。墨痕は全く残らず、墨痕があった部分が浮き出て文字が確認できる。形状としては、「サト名+人名」の木簡の典型的な様相を呈しており、4号木簡と同様に「赤坂」と記されている可能性があるが、明確でない。

(3) 烏居松遺跡出土木簡の特徴と意義

以上、個別に木簡の形状と内容について簡単に整理した。注目すべきは、伊場遺跡群に多数みられる「サト名+人名」の木簡（4号木簡）、及びそう考えて矛盾のない形状の木簡（6号木簡）が含まれていることである。烏居松遺跡が、伊場大溝を介して伊場遺跡群と同一の空間に立地していることを如実に示す遺物といえよう。

第二に注目すべきは糸の貸借を示す木簡（3号木簡）であろう。調庸布の生産を郡家が管理運営していたことは既に指摘されて久しい。この木簡からは具体的に何を生産するためのものはわからないが、郡家が織維製品の生産管理に深く関与していたことを物語る遺物として重要な発見といえよう。伊場遺跡40号木簡に類例のない布の荷札があることとも関連するかも知れない。この木簡は神亀元年（724）の紀年銘木簡としても貴重である。伊場遺跡85号木簡の神亀4年について、伊場遺跡群としては2例めの神亀の紀年銘木簡となる（城山遺跡27号木簡は神亀6年の暦だが、直接の年紀は書かれていない）。

第三に郡家の貸借関係への関与を示す5号木簡に注目したい。「相知」の記載のある最古の例であるだけでなく、その文言を記す木簡を作成しているということは、それに郡家が公式に関与することを示すとみられる。現存部分に具体的な記載がみえないことからすれば、欠損部分にかなり長大な事実関係記載が書かれていた可能性があり、新潟県延命寺遺跡出土木簡に通じるような内容であった可能性もある。干支年の使用としてかなり遅い事例であることにも注意すべきだが、ここでは郡家の貸借関係の成立への関与が和銅2年（709）という八世紀初頭の事実であることに注目したい。和銅の紀年銘木簡としては、伊場遺跡群としては中村遺跡1号木簡の和銅8年について2例めとなり、評制下に引き続き、伊場遺跡群の地が敷智郡中枢の在地支配拠点として活動していることを明確に示す遺物である。

このようにわずか6点はあるが、今回の烏居松遺跡出土木簡は、墨書き器とともに、伊場遺跡群の遺跡としての広がりと在地支配拠点としての活動の広がりを明確に示す、重要な発見と位置付けることができよう。

[参考文献]

- 奈良国立文化財研究所 1987『平城宮発掘調査出土木簡概報（19）』
- 奈良文化財研究所 2009『平城宮発掘調査出土木簡概報（39）』
- （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育委員会 2008『延命寺遺跡』

5 烏居松遺跡出土墨書土器の概要

山本 崇

(1) はじめに

今回の調査から、墨書土器は19点出土した。烏居松遺跡全体では、2次調査で2点、4次調査で1点の墨書土器が出土しており、あわせて22点となった。今回報告する19点のうち、過半を占める11点が「穂万呂(記号)」墨書ないしその断片と推定されるものである。以下、まず「穂万呂(記号)」墨書以外の墨書土器について、その概要を述べる。

(2) 墨書土器の概要

1は、「〔逆〕」(須恵器有台坏身底部、V期。SS02出土)。人名の可能性があるが不詳。2の「竹田女」(須恵器摘蓋内面、V期。SE01出土)と、12の「福刀自」(須恵器双耳箱坏底部外面、VI-1期。SX03出土)は、ともに女性名を記したものである。伊場遺跡群では、女性名を記した可能性のある墨書土器は比較的認められ、竹田知刀自女(城山3次17)、千刀自女(梶子北113)、刀自女(伊場405)、淨成女(城山3次18)、□田女(城山3次19)、長女(伊場63、76)、成女(城山3次20)などがある。11は、「上殿/上」(須恵器箱坏底部外面・側面正位、VI期。SX03出土)。「殿」は敬称であろう。側面の「上」は底部外面の「上殿」を略したものか。土器を正位に置いた状態で記された文字であるが、底部の文字とは方向があわない。15「廣」(須恵器蓋内面、VI-VII期。SX03出土)、17「廣」(須恵器高盤外面、VI期。SX04出土)はいずれも断片でこれ以外の文字が記されていた否か不詳。人名の一部となる可能性もある。19の「本」(灰釉陶器碗底部外面、VI-2期(K90))は、灰釉陶器底部外面に比較的大きめの文字を記すことなど、伊場遺跡群のVI期以降の過半を占める一文字墨書の特徴を示している。ただし、これまでの出土例では、「本」の一文字墨書は類例が少ない。なお、18は、

Tab.7 烏居松遺跡5次調査出土墨書土器

墨書番号	層位	辨認番号	取上番号	遺構名	種別	器種	墨書部位	契文	年代範囲	実年代	発地	備考
1	V	6	1535	SS02	須恵器	有台坏身 底	「逆」	V	8世紀前葉～8世紀中葉	湖西産		
2	IVb	1	216	SE01	須恵器	摘蓋 内	「竹田女」	V	8世紀前葉～8世紀中葉	湖西産		
3	IVb	37	155	SX03	須恵器	摘蓋 内	「穂万呂」+記号 VI	V	8世紀後葉～9世紀初頭	湖西産		
4	IVb	38	179	SX03	須恵器	摘蓋 内	「穂万呂」+記号 VI	V	8世紀後葉～9世紀初頭	湖西産		
5	IVb	39	142	SX03	須恵器	摘蓋 内	「穂万呂」+記号 VI	V	8世紀後葉～9世紀初頭	湖西産		
6	IVb	40	133	SX03	須恵器	摘蓋 内	「穂万呂」+記号 VI	V	8世紀後葉～9世紀初頭	湖西産		
7	IVb	41	189	SX03	須恵器	摘蓋 内	「昌」+記号 VI	V	8世紀後葉～9世紀初頭	湖西産		
8	IVb	42	177	SX03	須恵器	平頂蓋 内	「穂万呂」+記号 VI	V	9世紀前葉	湖西産	穂万呂と推定される	
9	IVb	43	1051	SX03	須恵器	箱坏 底	「穂万呂」+記号 VI	V	9世紀前葉	湖西産		
10	IVb	44	1057	SX03	須恵器	箱坏 底	「穂万呂」+記号 VI	V	9世紀末～9世紀初頭	湖西産	穂万呂と推定される	
11	IVb	45	130	SX03	須恵器	箱坏 底・側	「上殿」、「上」	VI	8世紀後葉～9世紀初頭	湖西産		
12	IVb	46	160	SX03	須恵器	双耳箱坏 底	「福刀自」	VI	9世紀前葉	湖西産		
13	IVb	47	25	SX03	須恵器	互 底	「穂万呂」+記号 VI	VI～VII	8世紀後葉～9世紀前葉	湖西産		
14	IVb	48	171	SX03	須恵器	高盤 上	「穂万呂」+記号 VI	VI	9世紀前葉	湖西産		
15	IVb	49	188	SX03	須恵器	蓋 内	「廣」	VI	8世紀後葉～9世紀前葉	湖西産		
16	IVb	50	43	SX03	土師器	皿/坏 底	「万呂」+記号 VI	VI～VII	8世紀後葉～9世紀前葉	在来產	穂万呂と推定される	
17	IVb	86	315	SX04	須恵器	高盤 外	「廣」	VI	8世紀後葉～9世紀初頭	湖西産		
18	IVb	158	133	IVb層	土師器	坏 底	「昌」	VI	8世紀後葉～9世紀前葉	在来產		
19	IVa	30	1987	SD102	灰釉陶器	碗 底	「本」	VI	9世紀後半	二川産		

判読不能（土師器坏底部、VI～VII期）。

3～10、13、14、16 の 11 点は、「稻万呂」墨書ないしその断片と推測されるものであり、いずれも SX03 出土。釁文と土器の器種、墨書位置、土器の時期は次の通りである。3「稻万呂（記号）」（須恵器摘蓋内面、VI期）、4「稻万呂（記号）」（須恵器摘蓋内面、VI期）、5「稻万呂（記号）」（須恵器摘蓋内面、VI期）、6「稻万呂（記号）」（須恵器摘蓋内面、VI期）、7「呂（記号）」（須恵器摘蓋内面、VI期）、8「稻万呂（記号）」（須恵器平頂蓋内面、VII-1期）、9「稻万□（記号）」（須恵器箱坏底部外面、VII-1期）、10「稻万呂（記号）」（須恵器箱坏底部外面、VI-2期）、13「稻万呂（記号）」（須恵器皿底部外面、VI～VII期）、14「稻万呂（記号）」（須恵器高盤上面、VII-1期）、16「万呂（記号）」（土師器皿もしくは坏底部外面、VI～VII期）。

（3）「稻万呂」墨書の検討

今回の調査で新たに 11 点の「稻万呂（記号）」墨書が出土し、伊場遺跡群全体での出土点数は 19 点となった。なお、「伊場遺跡総括編」（浜松市教委 2008）の段階では、確実に初記号のある墨書土器は 12 点出土しており、そこに記された人名は、「稻万呂」8 点、「安万呂」3 点、「里麻呂」1 点であった。この段階で、初記号墨書土器の特徴は、①すべて VI 期（VI 期 1 段階を含む。奈良時代後半～平安時代初頭）に属すること、②すべて湖西産の須恵器であること、③器種および墨書部位には共通性が認められないこと、以上 3 点を指摘したが、①については、VI～VII 期、VII-1 期のものも確認され初記号の墨書土器の時代幅が広がり、②土師器 1 点が新出したことなど、その特徴は修正せねばならない。また、器種の共通性はなお認めがたいが、摘蓋・平頂蓋がおよそ半数にあたる 9 点であることからすれば、本来は土器の蓋と身にそれぞれ「稻万呂（記号）」墨書が記された可能性が考えられる。

また前書では、同筆異筆関係の認定は困難であるが、いずれも類似した筆致であるとの指摘に留めたが、類例の増えた 19 点の「稻万呂」墨書を眺めてみると、いくつかの類型に分類することができる。以下、墨書の分類を試みたい。

A 類に分類される墨書は、3～6、「稻」字のうち旁のくずし方の度合いが大きい。「万」字は横画をしっかりと引くが縦画は左払え、縦棒とも短くおさめる。また初記号の左開みの書き出しは右開みの左上からはじまる。なお、「万」字の縦画により注目すれば、縦画が横画に接する 3 と 5、横画に接しない 4 と 6 に細分することができる。伊場 43・城山 221 も A 類に近いと考えられる。土器の年代は、すべて VI 期に属する。

B 類に分類される墨書は、10・13・14。「稻」字の「日」を比較的の筆画をくずさず転折も明瞭に記すこと、「万」字の縦画を明瞭に記すことが特徴である。14 は「稻」の字体からすれば A 類の特徴をもつが、「万」字は B 類に近い。初記号は、書き出しの鈎部の認められないもの（14）、はつきりしないもの（10）が認められるほか、左開みが右開みから枝分かれするように記され、書き出しの位置がやや下がる傾向が現れはじめめる（10・14）。文字の残りは悪いものの、「呂」の字体からすれば 16 もこの分類に含まれる可能性がある。

C 類に分類される墨書は、今回出土したものでは断片の 7 のみである。「呂」の字体が特徴的で

Tab.8 「稻万呂」墨書土器一覧

通番	類別	遺跡名	墨書き番号	挿図番号	種別	器種	備考
1	A	鳥居松5次	3	37	須恵器	壺蓋	「稻」字のうち旁のくずし方の度合いが大きい
2	A	鳥居松5次	4	38	須恵器	壺蓋	"
3	A	鳥居松5次	5	39	須恵器	壺蓋	"
4	A	鳥居松5次	6	40	須恵器	壺蓋	"
5	B	鳥居松5次	10	44	須恵器	箱坏	「日」をくずさず転折も明瞭、「万」字の縱面を明瞭に記す
6	B	鳥居松5次	13	47	須恵器	盤か	"
7	B	鳥居松5次	14	48	須恵器	高盤	「稻」の字体からするとA類。「万」字はB類に近い
8	B	鳥居松5次	16	50	土師器	皿/坏	
9	C	伊場	41	—	須恵器	有台灰身	「呂」の字体が特徴的、「日」をくずさず転折も明瞭。「ツ」を三面で示す
10	C	伊場	42	—	須恵器	壺蓋	"
11	C	鳥居松4次	3	—	須恵器	箱坏	"
12	C	梶子9次	22	—	須恵器	壺蓋	"
13	C	鳥居松5次	7	41	須恵器	壺蓋	「呂」の字体からすると、C類
14	D	鳥居松5次	8	42	須恵器	平頂盤	「稻」はくずさず、「万呂」は合わせ字で記す
15	D	鳥居松5次	9	43	須恵器	箱坏	"
16	その他	城山6次	221	—	須恵器	壺身	A類に近い
17	その他	伊場	43	—	須恵器	箱坏	A類に近い
18	その他	伊場	44	—	須恵器	壺蓋	「呂」の字体からするとC類。「稻」字はA類に近い
19	その他	梶子7次	13	—	須恵器	箱坏	

参考 その他 稲記号がみられる墨書き土器

文字	遺跡名	挿図番号	種別	器種	備考
里麻呂	伊場	50	—	須恵器	皿
安万呂	城山3次	22	—	須恵器	皿
安万	城山3次	23	—	須恵器	高盤
【安】	城山3次	25	—	須恵器	箱坏
□【須】 □ 城山3次		32	—	須恵器	箱坏

鳥居松5次以外の資料の挿図番号：浜松市教委 2008『伊場遺跡総括編』

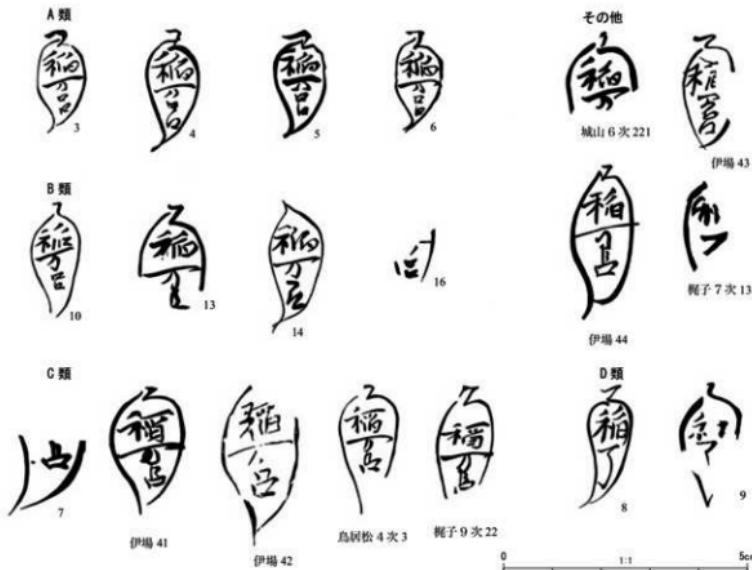


Fig.138 「稻万呂」墨書きの分類

ある。「呂」の同様の字体は伊場 42、烏居松 4 次 3 にみえ、伊場 41、梶子 22 もこれに類似する。類例による限り、「稲」字の「日」の部分を筆画をくずさず転折もかなり明瞭に記す点のほか、「ツ」の部分も三画で記すなど、概して筆画をくずし方の度合いが小さい傾向が認められる。なお、伊場 44 は、「呂」の字体からすれば C 類に含めるべき特徴をもつが、「稲」字の特徴は A 類に近く、A 類とも C 類とも判断したい。

D 類に分類される墨書は、8 に典型的である。これに加え、墨痕が薄く判然としないものの、9 も同様の字体を記した可能性がある。「稲」字は筆画をくずし方の度合いが極めて小さいにもかかわらず、「万呂」は合わせ字で記す点が特徴といえる。加えて、初記号の左開みの書き出しが、右開みより下に下がる。土器の年代はⅦ-Ⅰ期で、「稲万呂」墨書のうち最も新しい年代を示す。

「稲」字、「万」字の変化に注目するとき、概して、筆画のくずし方が大きく流暢な書体の文字から、撥ね、払え、転折などが明瞭で筆画のくずし方の小さい文字へという変化が認められる。この傾向を土器の年代の先後関係とあわせ考えるならば、A 類→B 類→D 類の変化が推定できる。この順序は、初記号の変化、すなわち、左開みの書き出し位置が鉤部の下へと下がる傾向とも一致している。一方、C 類の位置は判然としないが、伊場 44 の墨書は、A 類と C 類との特徴を持つもので、両者の過渡的な状況を示していると理解される。仮に文字のくずし方の度合いが小さい C 類を先行するものと理解すれば、「稲万呂」墨書の変遷は、C 類→A 類→B 類→D 類とみる理解が成り立つ。この試案は、今後の資料の増加とともにさらなる検証を深めるべきではあるが、現段階での知見として提示しておきたい。

(4) 「稲万呂」墨書の意義

都合 19 点となった「稲万呂」墨書の出土位置は、上流の城山遺跡から下流の烏居松遺跡までおよそ 1.5km におよび、墨書の年代は、概ね 8 世紀後半ないし 8 世紀末（VI 期）から 9 世紀前半（Ⅶ-Ⅰ 期）までにあたる。地理的にも年代的にも、確実に広がりをみせつつあるといえる。ここでは、「稲万呂」墨書を上記のごとき 4 つの類型に分類し、書体の相違が土器の時期と概ね対応することを示した。一方で、今回出土した 11 点の「稲万呂」墨書が、すべて大溝内の同一の遺構 SX03 から出土した一括性の高い資料であることからすれば、ここで提示した墨書の変遷が即時期差として理解できるか否か、この特徴的な墨書を残した人物が一人であるか、あるいは複数の手にかかるものかなど、なお残された問題も多い。今後の資料の増加に俟ちたい。

ともあれ、「稲万呂」墨書は、伊場遺跡群出土の墨書土器のなかでも注目すべき一群といえるが、これらの出土位置、すなわち分布は、古代人の行動範囲が窺われる点で極めて貴重といえる。とともに、まとまった出土をみた烏居松遺跡付近が、稲万呂の本拠地である可能性は高く、彼自身が、城山遺跡か梶子北遺跡付近に推定される敷智郡の中心施設との間を行き来する郡司ないし郡雜任クラスの有力者とする理解は、さらに確かなものになったといえる。

[参考文献]

浜松市教育委員会 2008 「伊場遺跡総括編」

6 烏居松遺跡における伊場大溝調査の意義

(1)はじめに

今回の調査では、伊場大溝を総延長 25 m にわたり調査し、膨大な量の出土遺物を得た。ここでは、前節までに明らかになった内容をふまえ、検出構造の検討と出土品の位置づけを行い、伊場遺跡群における烏居松遺跡の性格について触れておきたい。

(2)伊場大溝の層位と年代

上流部との関係 伊場大溝の形状や深さについて、烏居松遺跡の検出状況と、伊場遺跡および梶子遺跡 9 次調査（以下、「梶子遺跡」とする）で確認した状況を比較しておこう。3 地点で確認できた伊場大溝の規模は、幅 20 ~ 25m、深さ 2.5m 程度で、互いに近似している。伊場遺跡では伊場大溝が屈曲し、幅が広い部分がみられるものの、伊場遺跡群内における規模の違いはほとんどないといってよいだろう。

底面の標高も、3 地点における差異は僅かである。VII 層底面の比較では、梶子遺跡が -1.9m 前後、伊場遺跡が -2.0m 前後、烏居松遺跡が川底溝埋没後の状況で -2.0m 前後である。烏居松遺跡では 6 世紀後半に形成された川底溝が深く刻まれており、ごく短い期間、水流が激しかったとみられるが、その後は 3 地点において川底の高さの違いがほとんどみられない。伊場大溝における水流は緩やかで、當時は葦などの植物が繁茂する湿地状の景観であったとみられる。

埋没層位の年代観 今回の調査で確認できた埋没層位や各層位の年代観も、伊場遺跡や梶子遺跡で確認されたものとほとんど変わらない。その詳細は Fig.139 に示すとおりである。伊場遺跡における IX 層や、梶子遺跡における IX 層（両者の IX 層は違う地層である）との対応関係では課題が残ったものの、VII 層、VIII 層、V 層、IV 層、III 層といった層位は伊場大溝にはほぼ普遍的にみられる堆積層と判断できる。

今回の調査で確認した最古の堆積層は VII 層である。同層中から出土する須恵器は TK208 型式期以降のものがほとんどであり、VII 層の堆積開始期もほぼこの段階と捉えられる。梶子遺跡 9 次調査

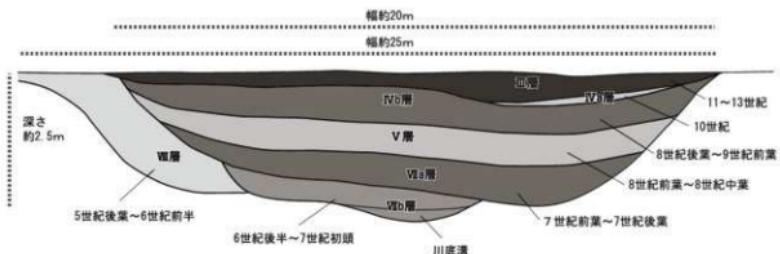


Fig.139 伊場大溝堆積状況模式図

6 烏居松遺跡における伊場大溝調査の意義

における調査所見では、伊場大溝の形成時期が4世紀代に遡る可能性が示された。しかし、今回の調査結果からは、4世紀代の遺物は他所からの混入品と捉える方が妥当と考えられる。伊場大溝の形成時期は、VII層の堆積が始まる時期、すなわち古墳時代中期後葉（TK208型式期、5世紀後葉）と捉えておきたい。

VII層にかんしては、今回の調査において上下2層に分け、古い時期の堆積をVIIb層、新しい時期の堆積をVIIa層と呼んだ。出土遺物から、VIIb層の堆積開始は、遠江III期中葉（TK43型式期、6世紀後半）。VIIa層の堆積開始時期は、遠江III期末葉（飛鳥I期後半、7世紀前葉）と想定できる。

V層の堆積期間は、遠江V期にはほぼ併行する。8世紀前葉の2点の紀年銘木簡（烏居松5号木簡：己酉年〈709〉、烏居松3号木簡：神龜元年〈724〉）が共伴していることも整合的である。

続くIV層への移行時期については、遠江V期後葉頃と捉えられる。IV層も今回の調査において、IVb層とIVa層の上下2層に分けた。ただし、IVa層は伊場大溝の岸沿いに薄く堆積しているのみで、IV層のほとんどはIVb層に相当する。IVb層の堆積は遠江V期に始まっているとみられるが、その中心的な時期は、遠江VI期、実年代では800年前後の数十年に相当する。「稻万呂」墨書き土器が集中して出土したSX03の出土遺物が堆積年代を決める資料として重要である。「稻万呂」墨書き土器は、遠江VI期とVII期にまたがり、墨書きの筆跡にも新旧の違いが認められた。ただし、SX03から出土する遺物には高低差がなく、ほぼ同一層位面からの出土と判断できる。「稻万呂」墨書き土器の時期差は、長期に見積もることはできないことを明記しておきたい。

伊場大溝の沿岸にわずかにみられるIVa層の堆積時期は、平安時代中葉（10世紀）頃を中心とする。さらに上層のIII層からは年代の決め手となる出土遺物が全く出土せず、今回の調査結果からではその堆積年代を知ることができない。伊場遺跡や梶子遺跡の調査結果から、III層の中心的な堆積年代は平安時代後葉から鎌倉時代前葉（11～13世紀）と想定しておく。

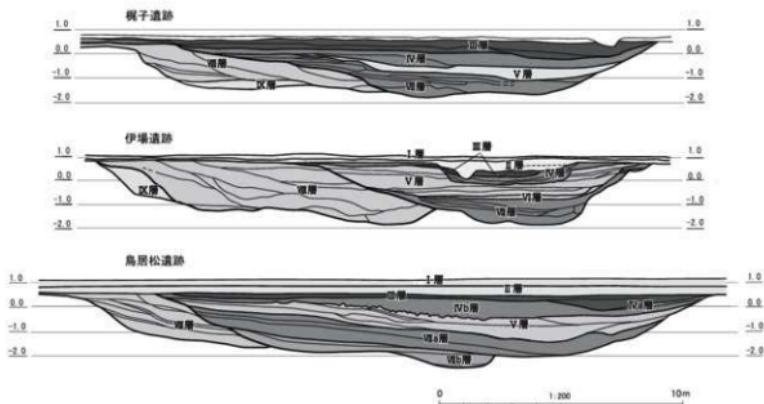


Fig.140 伊場大溝の土層断面比較

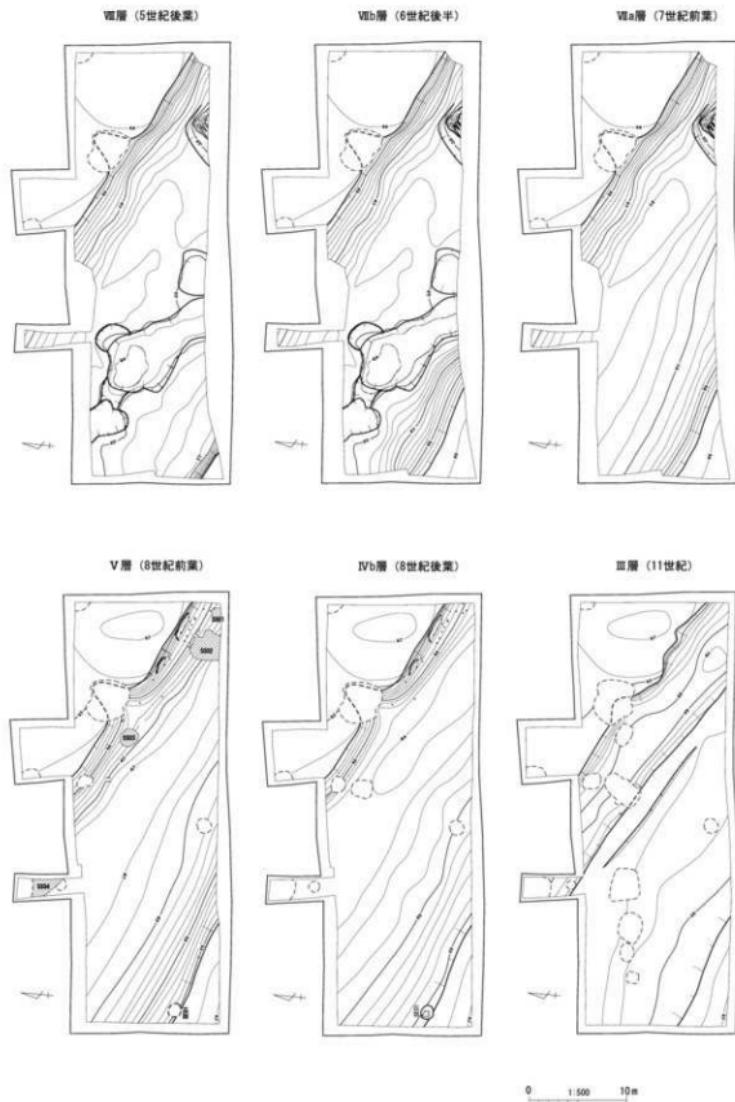


Fig.141 伊場大溝堆積状況の変遷

(3) 6・7世紀の烏居松遺跡

生産用具 今回の調査ではFig.142に紹介するような手工業生産にかかわる遺物が出土している。これら生産用具は、主にVIIa層もしくはVIIb層から出土しており、6世紀後半から7世紀にわたり、近隣地域に手工業生産を行った工房があった可能性を示唆するものである。輪羽口や鉄滓は鍛冶工房の存在をうかがわせるものとして注目できるだろう。また、漆が付着する土器も、漆を必要とする工房が並存していた可能性を示す遺物である。

ただし、こうした手工業生産工房の存在をうかがわせる遺物の出土量は限定的である。共伴する他の生産用具には、土製紡錘車や木錘といった一般集落で用いられるものも認められ、手工業生産に特化した様相を見出すことは難しい。同一層位からは、木製農具や土錘なども出土していることも留意しなければならない。6世紀後半から7世紀にわたり烏居松遺跡には、小規模な鍛冶を行いながら、農業や漁業を営んだ集落が展開していたことがうかがえる。

特殊遺物 出土遺物の多くから一般的な集落の存在をうかがえるといっぽうで、6・7世紀の埋没層からは、金銀装円頭大刀をはじめ、玉類や耳環などの装身具、銅製有孔円盤といった特殊な遺物が出土しており、その特異性も指摘できる。装飾大刀をはじめ玉類や耳環といった装身具は、古墳副

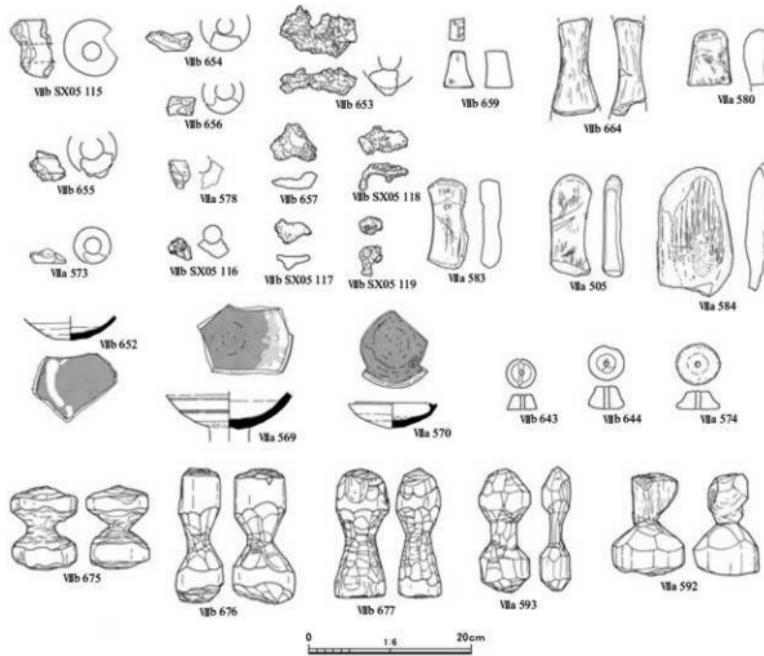


Fig.142 伊場大溝VII層出土生産用具

葬品と共通する。何らかの儀礼に伴い、古墳副葬品と共に品目を伊場大溝に沈めたものと評価できる。耳環は梶子遺跡から3点、伊場遺跡からも3点出土しており、今回の調査で出土した2点を合わせて合計8点分を数えることになった(Fig.143)。東西1kmほど離れた地点で出土が確認できることから、伊場大溝に埋没する耳環の総数は相当数にのぼると推定できる。装飾大刀や耳環の出土は、6世紀後半から7世紀にかけて、鳥居松遺跡を含む伊場遺跡群が西遠江における中心地域のひとつになっていたことを雄弁に物語る。

VIIa層から出土した銅製有孔円盤(Fig.144-1)も類例が少ない遺物として注目できる。直径6cmほどの円形をなし、4方向に2個一組の小円孔と中央に方形の孔がある。詳しい用途は不明であるが、法隆寺や東大寺正倉院に伝わる円形飾金具が形態的に類似している。これらの円形飾金具は金銅製で、布幡に糸を取り付けて飾ったものである。本例には金銅の痕跡はみられないが、幡などの装饰的な布に装着した飾金具である可能性が高い。銅製有孔円盤は出土層位から7世紀後半以降のものとみられ、初期官衙の形成に伴い、当地にもたらされた遺物と評価しておきたい。

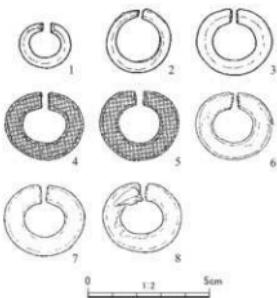


Fig.143 伊場大溝出土耳環

1～3：梶子9次 4～6：伊場 7・8：鳥居松5次

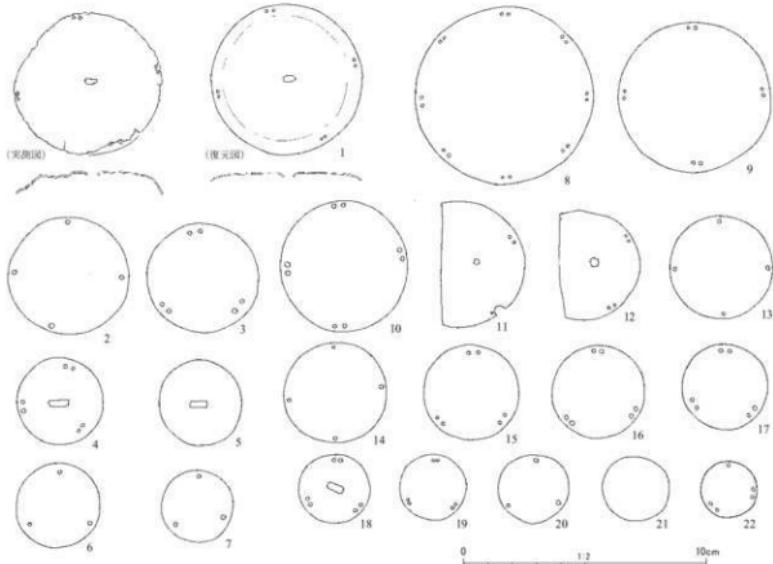


Fig.144 銅製有孔円盤と円形飾金具

1：鳥居松 2～7：正倉院 8～22：法隆寺

(4) 敷智郡家における鳥居松遺跡の性格

伊場遺跡群に敷智郡家が本格的に展開する奈良時代の様相は、鳥居松遺跡の調査によって、より具体的に示せるようになった。ここでは、製塩土器、祭祀具、文字資料を取り上げ、比較検討しておきたい。

製塩土器 V層中で検出できた貝塚には製塩土器が含まれていた。とくに、SS02は製塩土器の集中が顕著で、報告では34点の口縁を図示した(Fig.74)。図示した個体以外にも口縁の破片数は数多く、未図化の破片数(80点)を含めると、口縁破片は114点を数える。製塩土器は、SS02のほかSS04からも出土している。このほか、出土位置が特定できない小破片(V層出土品)を含めると、今回の調査で出土した製塩土器の口縁破片数は145点にのぼる(Tab.9)。

製塩土器は、いずれも直徑8cm程度の小型品で、形態や胎土の特徴から渥美半島から搬入されたものとみられる。精製された固形塩が製塩土器に入れられて渥美半島から運ばれたものと解釈できるだろう。今回の調査で出土した製塩土器は、口縁を中心とした坏部の破片のみで、棒状の脚部は全く確認できない。また、棒状脚を伴わないような底部の破片も見当たらなかった。鳥居松遺跡で廃棄された製塩土器は坏部のみで、脚部は別の地域で取り外されていたとみられる。こうした製塩土器の遺存状態から、脚部を外した製塩土器に入ったまま、渥美半島から固形塩が運ばれたとい

Tab.9 製塩土器口縁点数

出土 地点	図化 点数	未図化 点数	総数
SS02	34	80	114
SS04	4	19	23
V層	0	8	8
合計	38	107	145

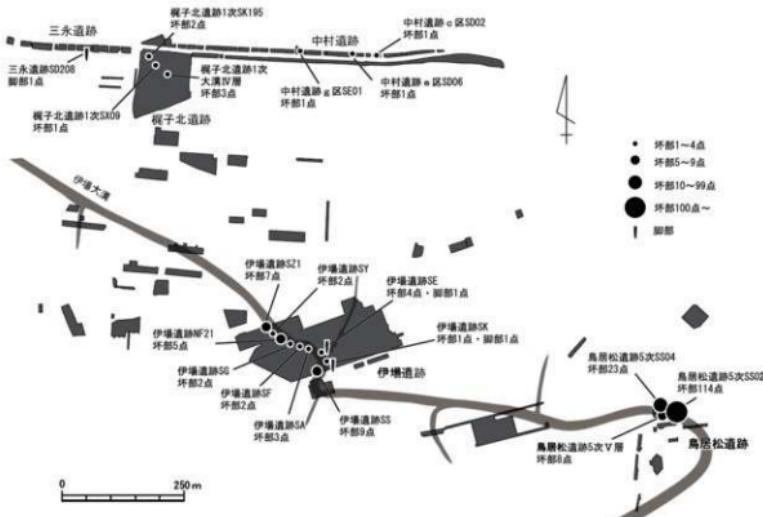


Fig.145 製塩土器出土量の比較

う運搬形態が復原できるだろう（森 1997、鈴木敏 2010）。

従来、伊場遺跡群から出土した製塩土器は、小さな破片を含めて公表され、検討が加えられてきたが（鈴木敏 2007、大林 2008）、図示された資料の総数は 50 点に満たない。同一基準による数量の比較は難しいが、鳥居松遺跡 SS02 における製塩土器の集中度は伊場遺跡群の中でも圧倒的に多い。鳥居松遺跡は推定される古代東海道に近接するだけでなく、後述するように、伊場大溝から潟湖、遠州灘へと繋がる海上交通の利便性もよい立地環境にある。伊場大溝の下流部にあたる鳥居松遺跡で大量の製塩土器が出土したことを考えると、渥美半島から固形塩が供給された運搬経路には、遠州灘を介した海上経路を想定することが妥当である。製塩土器の様相から、鳥居松遺跡には、陸上交通と海上交通の結節点として、港湾施設に程近い物資の集散拠点といった性格を読み取ることができるだろう。

祭祀具出土状態 伊場大溝からは、斎串、人形、馬形、舟形といった木製祭祀具に加え、人面墨書き土器、土師器の雑形品、土馬、ト骨といった多岐にわたる祭祀具が出土した。また、伊場大溝から出土した馬骨も、祭祀に用いられたものが多かったと想定できる。これらの祭祀具の出土位置は VII a 層、V 層、IV b 層の各層にまたがり、形態的な変遷がうかがえる点で注目できる。

Fig.146 に各層位から出土した祭祀具の出土位置を示した。斎串をはじめとした祭祀具の多くが伊場大溝の岸沿いから出土している。祭祀具は北岸と南岸の双方に分布しており、伊場大溝の両岸が祭祀空間として満遍なく使用されていたことがうかがえる。また、伊場大溝の中央部は祭祀具の分布が希薄であることから、水際において祭祀が執り行われ、使用された祭祀用具はそのまま埋設していった経緯が読み取れるだろう。

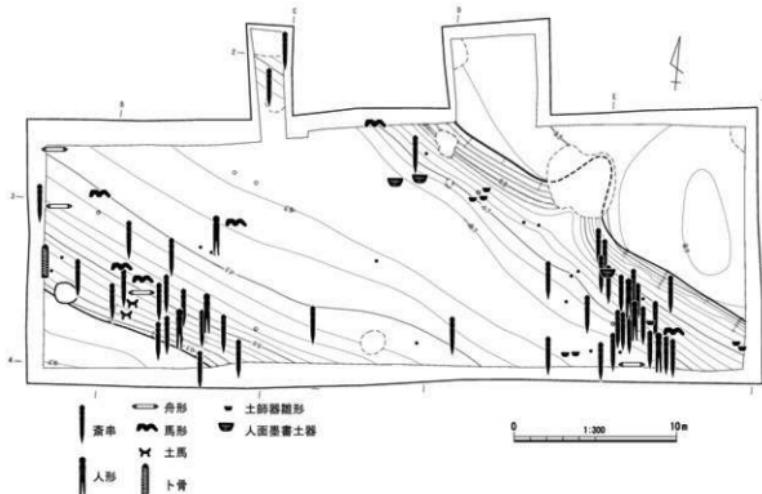
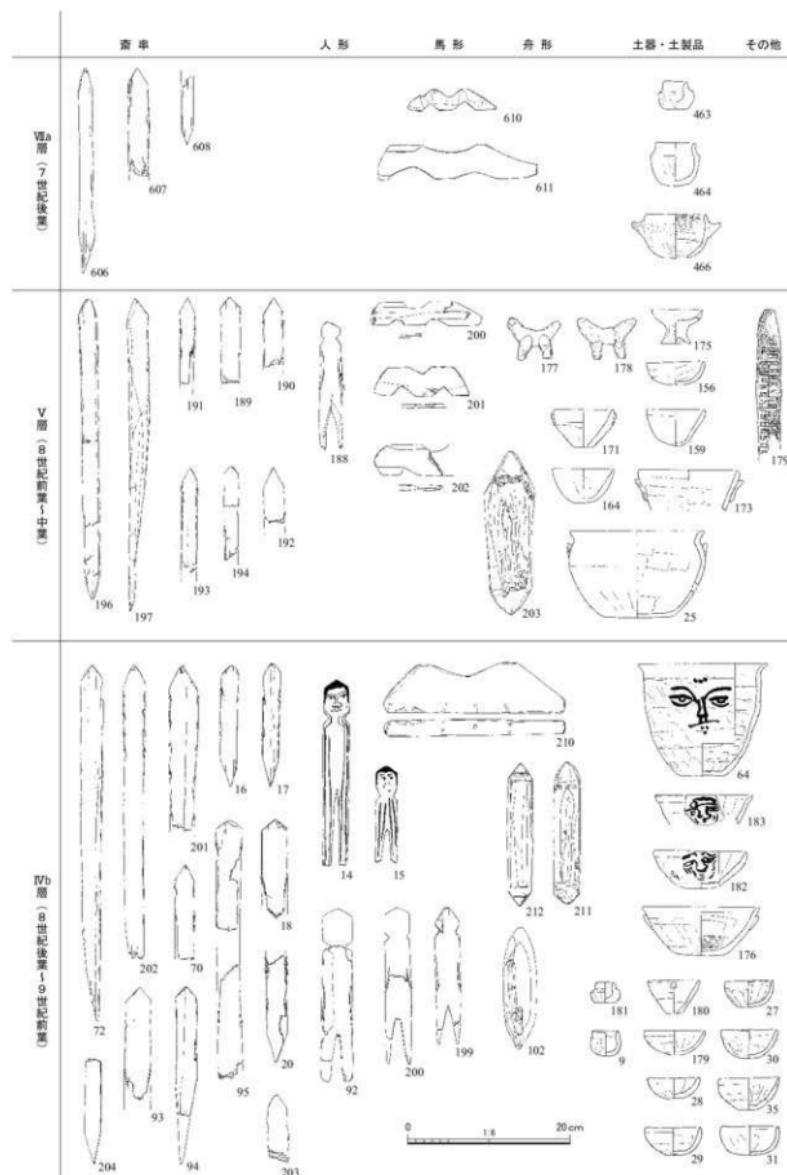


Fig.146 鳥居松遺跡における祭祀具の出土位置



木製祭祀具の変遷 伊場遺跡群における木製祭祀具の基本組成は、斎串、人形、馬形、舟形である。このうち、形態の差異が大きい人形、馬形、舟形といった形代について、今回の調査で出土した資料を含めて形態分類を行い、その変遷について素描しておこう。

人形は頭部の形態と手足の有無による違いが認められる。Fig.148に伊場遺跡群から出土した主要な人形を示す。伊場遺跡群から出土する人形は、I類) 手の切り込みがあるもの、II類) 手の切り込みがないもの、III類) 足の表現がなく斎串状に尖るもの、といった3形態に分類できる。III類は斎串と形態的に共通するので、人頭状の形態的表現もしくは、人面墨書きによって人形と認定できるものである。なお、I類は頭部の形態差に着目して、Ia類) 頭部上端が山形であるもの、Ib類) 頭部上端が直線的であるものといった細分が可能である(浜松市教委2002、p28)。

人形は、形態的に丁寧なつくりとみられるIa類が基本形態で、手の切り込みがみられないII類には後出の要素を認めてよい。鳥居松遺跡SX01で出土した人面墨書きがある人形はいずれもII類であり、出土層位(IVb層)から、8世紀後葉から9世紀前葉に位置づけられる。II類には大型品も認められるが、いずれも9世紀に降るものでII類が新しい時期に出現したと捉える根拠になりうる。

伊場遺跡群から出土する馬形は、いずれも裸馬を表現したもので、鞍などの表現がみられないこと

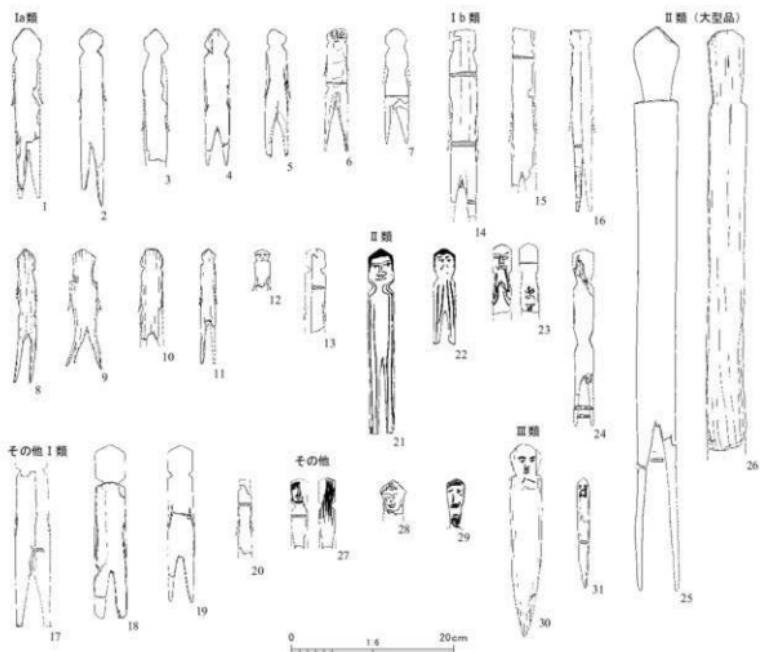


Fig.148 伊場遺跡群出土人形

1-6・17-20・23-26・27-29・31：伊場 2-3-24-25-28：稚子9次 4-5-18-19-21-22：鳥居松5次

といった特徴がある。これら馬形は、I類) 背部に一箇所、腹部に二箇所の切り欠きがあり、尾を上げたもの(M字形)、II類) 背部に一箇所、腹部に二箇所の切り欠きがあり、尾を上げたもの、III類) 背部に一箇所、腹部に一箇所の切り欠きがあり、尾を上げたもの(N字形)に分類ができる。このうち、I類は、Ia類) 尾が長く左右非対称のもの、Ib類) 尾が短く左右対称形のもの、といった細分ができる。烏居松遺跡で出土したIa類の2点は、いずれも7世紀後葉のⅦb層から出土したものである。小型の1点は後頭部に切り込みをもつ蛇のような形態をもつ。馬形は、Ia類が古相を示し、全長が短く対称形のIb類が新出の形態と見なしうる。II類、III類についてはいずれも全長が短いものが主体であることから、Ib類に併行する時期のものと捉えてよいだろう。Ib類、II類、III類には腹部に孔もしくは切り込みを入れて支柱を挿入したものが多い。

鳥居松遺跡からは腹部に切り込みがなく、背部を二つの山形に表現した大型の馬形が出土した(Fig.149-22)。腹部には棒状の4本足を挿入した痕跡と、支柱を立てた孔がみられる。Ib類の腹部の切り欠きが無くなったものと捉えられるだろう。この個体は出土層位(Ⅳb層)から、8世紀後葉から9世紀前葉に位置づけられ、形態の省略傾向を読み取ることができる。

伊場遺跡群から出土する舟形は、形態差が顕著で從来から分類案が示されてきた(浜松市教委2002)。ここでは、船倉と船首・船尾との間にみられる造作に注目し、I類) 船倉と船首・船尾の

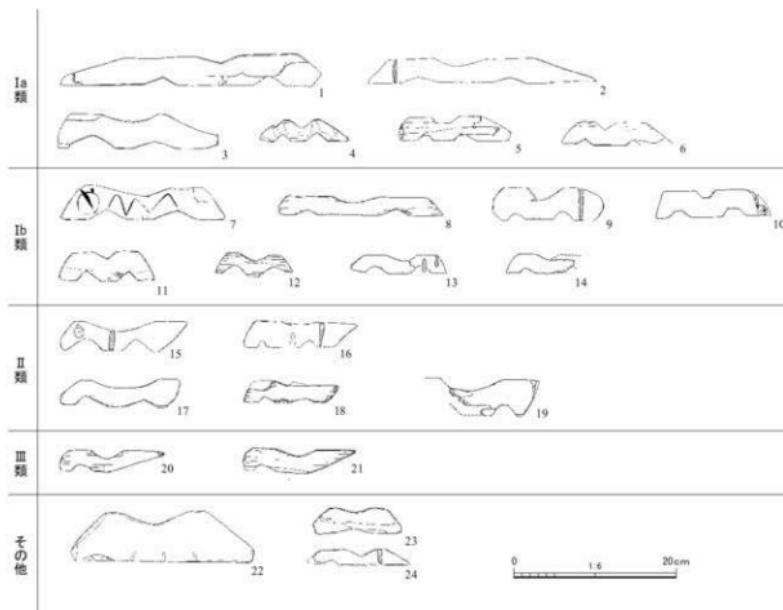


Fig.149 伊場遺跡群出土馬形

1-17-19-23: 梓子9次 2-7～9-12-15-16-18-20-21-24: 伊場 3～5-11-22: 烏居松5次 6: 梓子11次 10-13-14: 梓子北1次

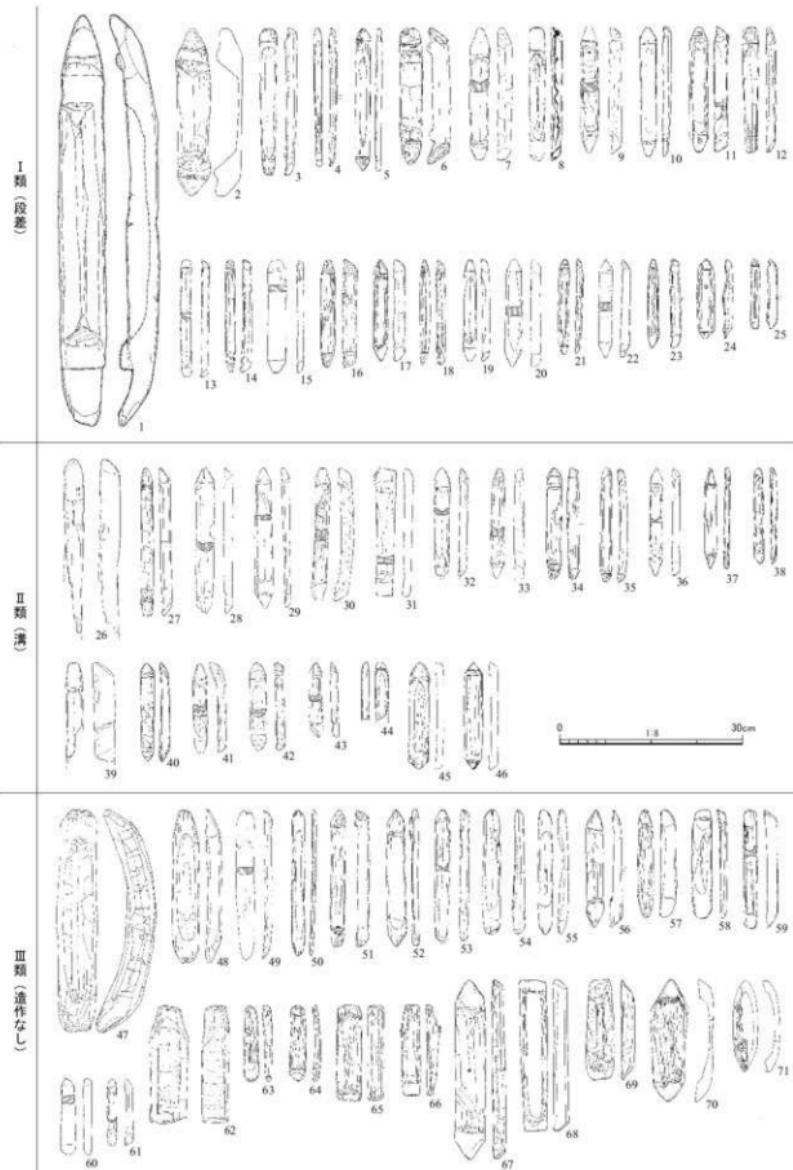


Fig.150 伊場遺跡群出土舟形
1-67: 梶子 9 次 2 ~ 44, 47 ~ 66: 伊場 45, 46, 70, 71: 鳥居松 5 次 68, 69: 梶子北 1 次

間に段差が認められるもの、II類) 船倉と船首・船尾の間を溝で区画するもの、III類) 船倉と船首・船尾の間に特別な表現がみられないもの、の3種に分類しておきたい。I・II類とIII類は、象った舟(船)の構造が異なっていた可能性があり、必ずしも同一系譜に捉える必要はない。造形の省略傾向を認めるなら、I類を古相、II類を新相と評価しうる。烏居松遺跡の調査では省略傾向が認められるII類が、8世紀後葉から9世紀前葉に位置づけられるIV b層から出土している。いっぽう、III類については、I・II類から派生する形態を考慮する必要があるが、別系譜と捉えれば、I・II類と並存するとみて問題はない。今回の調査ではIII類の舟形が8世紀に位置づけられるV層から出土している。

以上、木製祭祀具の変遷の傾向として、次の二点をあげることができる。一点目は形態の簡略化である。人形は手の切り込みがないものが8世紀後葉～9世紀前葉に多くみられる。馬形も頭部と尾部の区別がつけられないような左右対称化したものが新相を示し、全体形も新しい時期になるものほど短小化したが多い。二点目は新しい時期にみられる大型品の存在である。形態上の簡略化は著しいものの、8世紀後葉～9世紀には人形や馬形に大型化したもののがみられるようになる。

人面墨書遺物 今回の調査では人面墨書が施された人形が2点、人面墨書土器が3点出土した。いずれもIV b層(8世紀後葉から9世紀前葉の堆積層)からの出土である。人面墨書の資料が集中して出土したこと、鳥居松遺跡の特長といえる。木製祭祀具の出土量も、調査面積と比較して多いことから、今回調査した位置は、伊場大溝の中でも比較的盛んに祭祀が行われた地点と評価できるだろう。

伊場遺跡群では、人面墨書がみられる人形が従来までに8点知られていた。今回の出土例によって、合計10点を数えることになった。今回出土した人面墨書付の人形は、斎串と組み合わせた使用状態がうかがえ(SX01)、遺存状態も良好な点で注目できる。

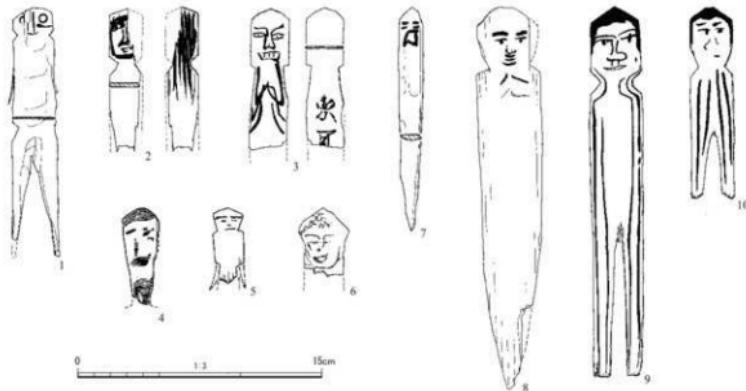


Fig.151 伊場遺跡群出土人面墨書人形
1～5・7・8：伊場 6：櫛子9次 9・10：鳥居松5次

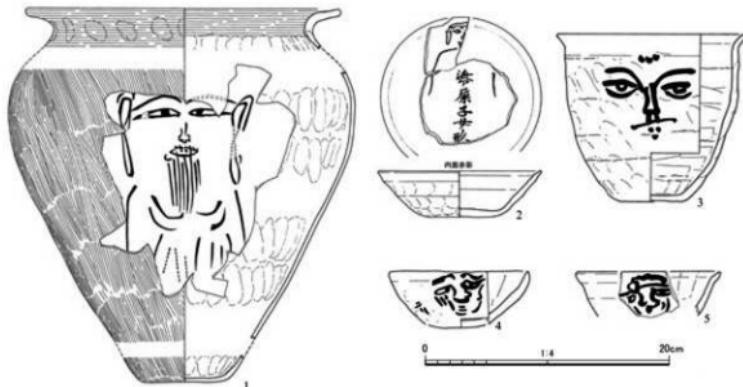


Fig.152 伊場遺跡群出土人面墨書き土器

1: 桶子9次 2: 伊場 3~5: 鳥居松5次

いっぽう、伊場遺跡群における人面墨書き土器は、從来までに2点知られており、今回の出土例で合計5点になった。土師器の小甕（Fig.152-3）は、「稻萬呂」墨書き土器が集中的に出土したSX03に含まれ、4点の斎串（Fig.93-68～71）と近接して出土した。これらの斎串と関連して用いられた可能性が考えられる資料である。

文字資料 鳥居松遺跡から出土した古代の文字関係資料は6点の木簡と19点の墨書き土器がある。木簡はいずれもV層から出土したもので、8世紀前半に位置づけられる。

従来、伊場遺跡群における木簡は177点（古代に限定）が知られていた（渡辺2008）。鳥居松遺跡出土品を合わせて、伊場遺跡群の古代木簡は183点を数えることになった。

鳥居松遺跡から出土した木簡には2点の紀年銘木簡が含まれる点でも注目できる（Tab.10）。伊場遺跡群では今までに18点の紀年銘木簡が確認されていたが、今回の2点を加え、合計20点になった。20点の紀年銘木簡のうち、干支表記がなされたものが9点あるが、己酉年（709）が記された鳥居松5号木簡は干支表記の中で最も遅い事例である。

いっぽう、伊場遺跡群の墨書き土器は、從来までに1024点が知られていた（山本2008）。今回出土した19点を合わせ、伊場遺跡群の墨書き土器は1043点になった。

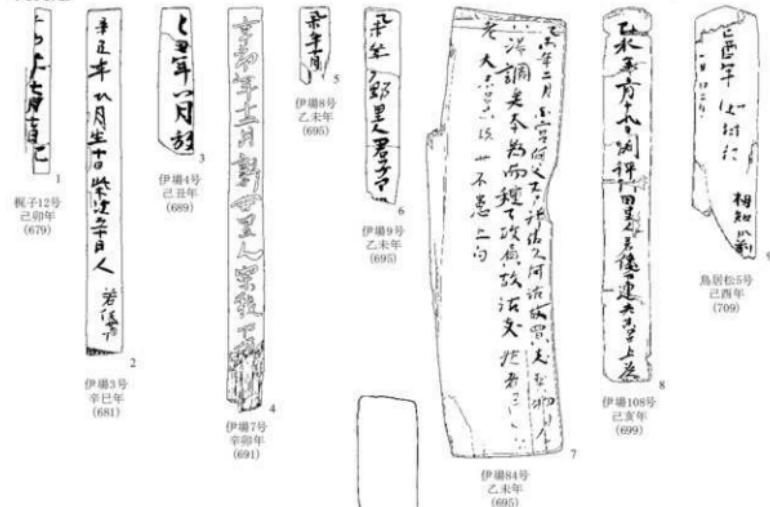
Tab.10 伊場遺跡群出土紀年銘木簡

番号	資料名	年紀	西暦	備考
1	桶子12号	(己卯年)	679	
2	伊場3号	辛巳年	681	頭箱数量 放生開通
3	伊場4号	己丑年	689	
4	伊場7号	辛卯年	691	
5	伊場8号	乙未年	695	
6	伊場9号	乙未年	695	
7	伊場84号	乙未年	695	
8	伊場108号	己亥年	699	
9	鳥居松5号	己酉年	709	貸借記事
10	中村1号	和銅八年	715	出掌闇通
11	伊場37号	(養老五年)	721	
12	鳥居松3号	神亀元年	724	米貸与証文
13	伊場85号	神亀四年	727	人夫日歛／召文か 具注解卷1
14	城山27号	(神亀六年)	729	
15	城山10号	(天平四年)	732	
16	伊場30号	天平五年	733	
17	伊場31号	天平七年	735	
18	伊場32号	天平七年	735	
19	伊場33号	(天平七年)	735	
20	伊場77号	延長二年	925	題筆

（バーレン内で示した年紀は不確実な要素があることを示す）

※1 神亀六年の暦が記されており、年紀の記載はない。

干支表記



年号表記

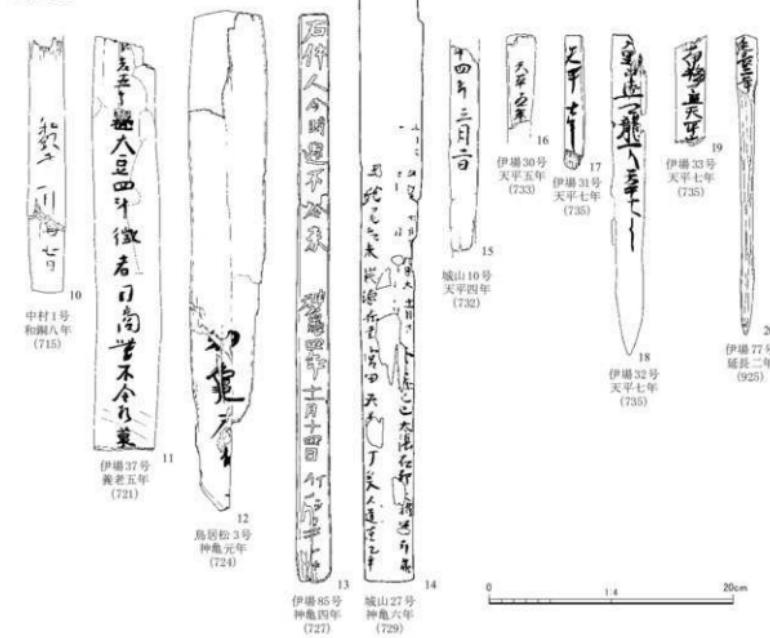


Fig.153 伊場遺跡群出土紀年銘木簡

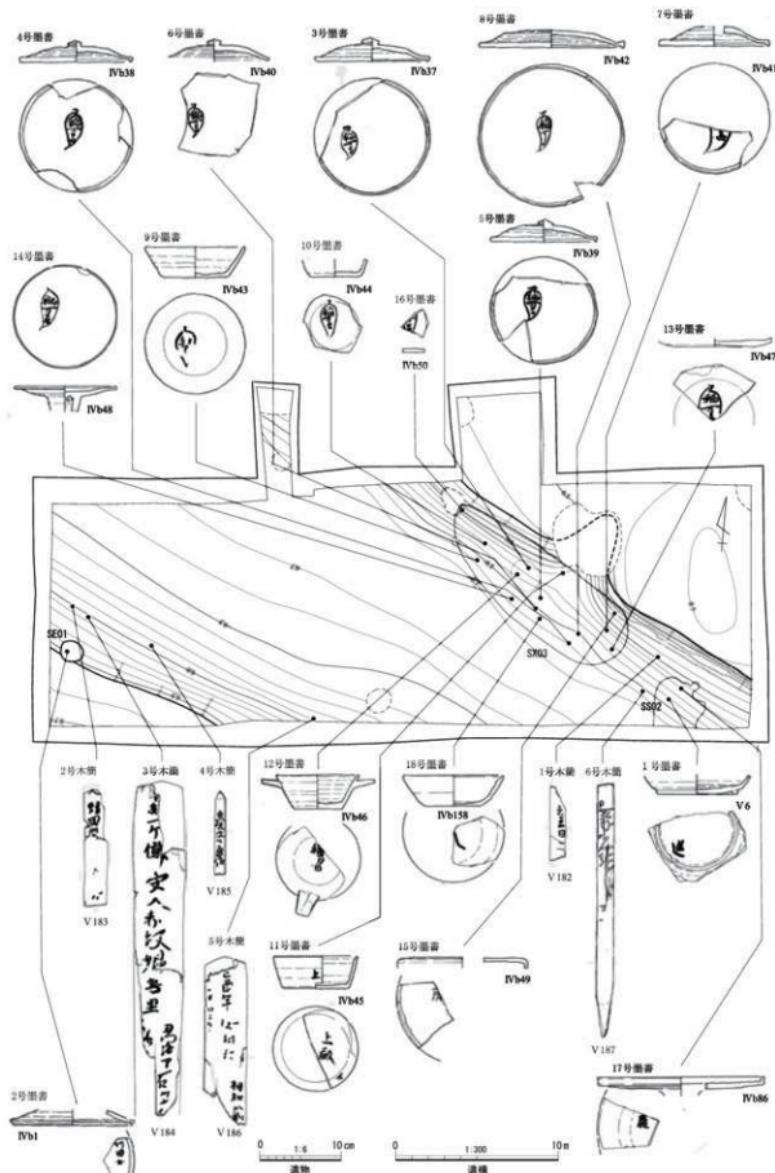


Fig.154 烏居遺跡における古代文字資料出土位置

今回の調査では「稲万呂」墨書き土器（その断片と推定できるものを含む）が11点集中して出土していることが注目できる（第3章5）。「稲万呂」墨書き土器は過去の伊場遺跡群の調査で8点が知られていたが、その量を凌駕する出土量である。「稲万呂」墨書き土器は、独特の枠記号を伴う点でも、伊場遺跡群出土墨書き土器の中では異彩を放っている。なお、枠記号をもつ墨書き土器は、19点の「稲万呂」のほか、「安万呂」が3点、「里麻呂」が1点、「□須□」が1点ある。

従来知られていた「稻万呂」墨書土器の出土地は、伊場遺跡群の広域に分散する傾向が認められ、稻万呂は敷智郡家の広範囲にわたり影響力をもった人物と評価されていた。今回の調査で出土した「稻万呂」墨書は、従来認められていた遠江VI期の須恵器に加え、平頂蓋や双耳箱坏など遠江VII期に位置づけられる須恵器にもみられた。9世紀前葉とみられる遠江VIII期まで「稻万呂」墨書土器が残存していることが明確である。また、今回出土した11点の「稻万呂」墨書土器は、すべて伊場大溝の同一遺構 SX03からの出土であり、従来の分散的な出土傾向とは大きく異なる。まとまった量の墨書土器が出土したことから、8世紀後葉から9世紀前葉にかけて敷智郡家の中で勢力を誇った「稻万呂」の本拠地が鳥居松遺跡にある可能性が高いといえる。

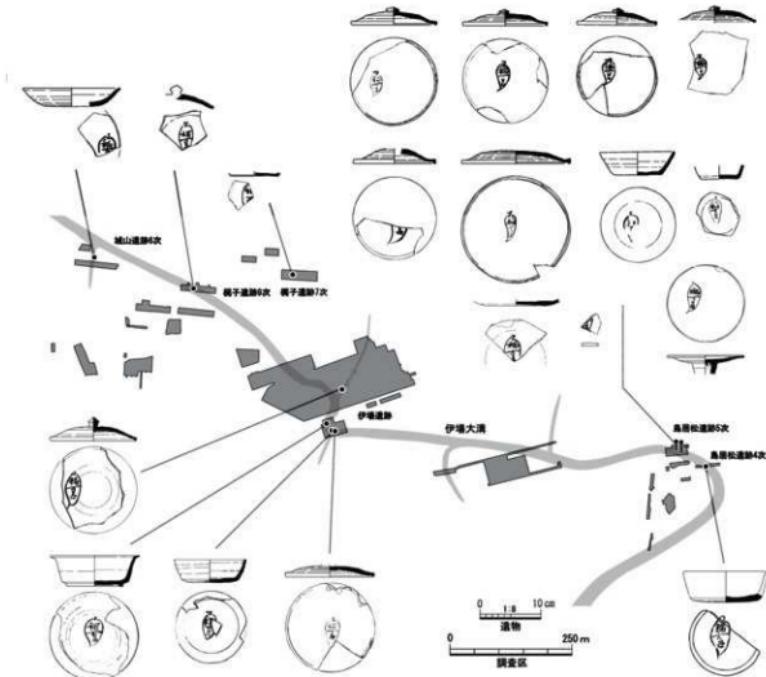


Fig.155 伊場遺跡群における「稻万呂」墨書き土器の分布

(5) 結語

伊場遺跡群の面的な発掘調査が進むにあたり、敷智郡家にかかる諸施設の位置についても、具体的な復原案が示せるようになっている（浜松市教委 2008）。奈良時代の政庁は、唐三彩や具注管木簡などの希少品の集中と地形的な安定度から城山遺跡近辺に想定され、梶子北遺跡で検出された掘立柱建物群も平安時代の政庁もしくは館と捉える見方が有力である。これら郡家の中枢施設は伊場大溝の上流域に展開しており、伊場大溝の流路からはやや離れている傾向がある。いっぽう、伊場大溝を中心建物群が展開している伊場遺跡は、郡家関連の雜舎群とみられ、豊富な文字資料から厨や栗原駅関連施設が置かれていた可能性が高いと判断できる。また、伊場遺跡の下流域にあたる九反田遺跡では、白鳳様式の軒丸瓦を含む古代瓦が比較的豊富に出土した。礎石を伴う瓦葺建物の存在が想定でき、郡寺が存在した可能性が示唆されている。

伊場大溝は鳥居松遺跡において、流れの方向を東から南西に変えている。下流の延長方向約1kmには、近世以降「沼田池」と呼ばれた沼地があり、伊場大溝が接続していた蓋然性が高い。沼田池は浜松南部に広がっていた潟湖の名残とみられ、この潟湖は馬込川（かつては天竜川の流路の一つ）を伝って遠州灘に繋がっている。

古代における潟湖の広がりは不明確であるが、鳥居松遺跡の近辺まで船が通行できたとみられる。伊場大溝は水量や規模から考えると、大型船が通行することは困難である。大型船が停泊する港湾

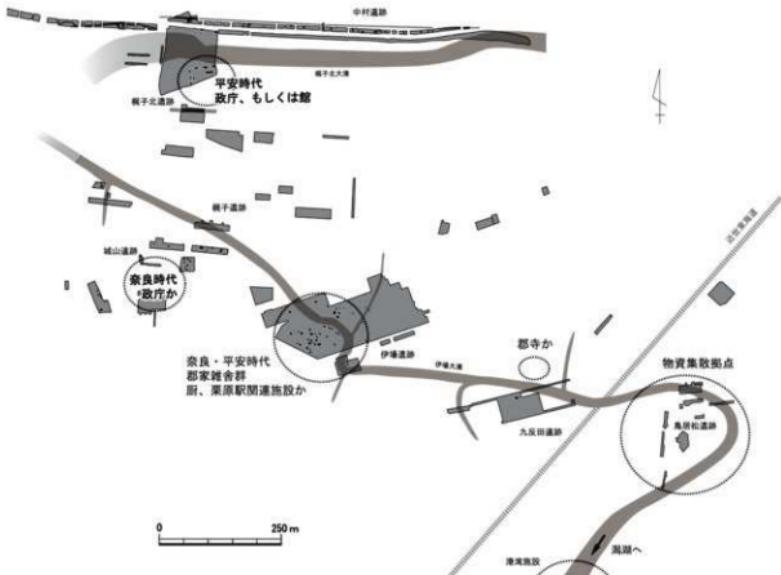


Fig.156 敷智郡家の機能想定図

6 烏居松遺跡における伊場大溝調査の意義

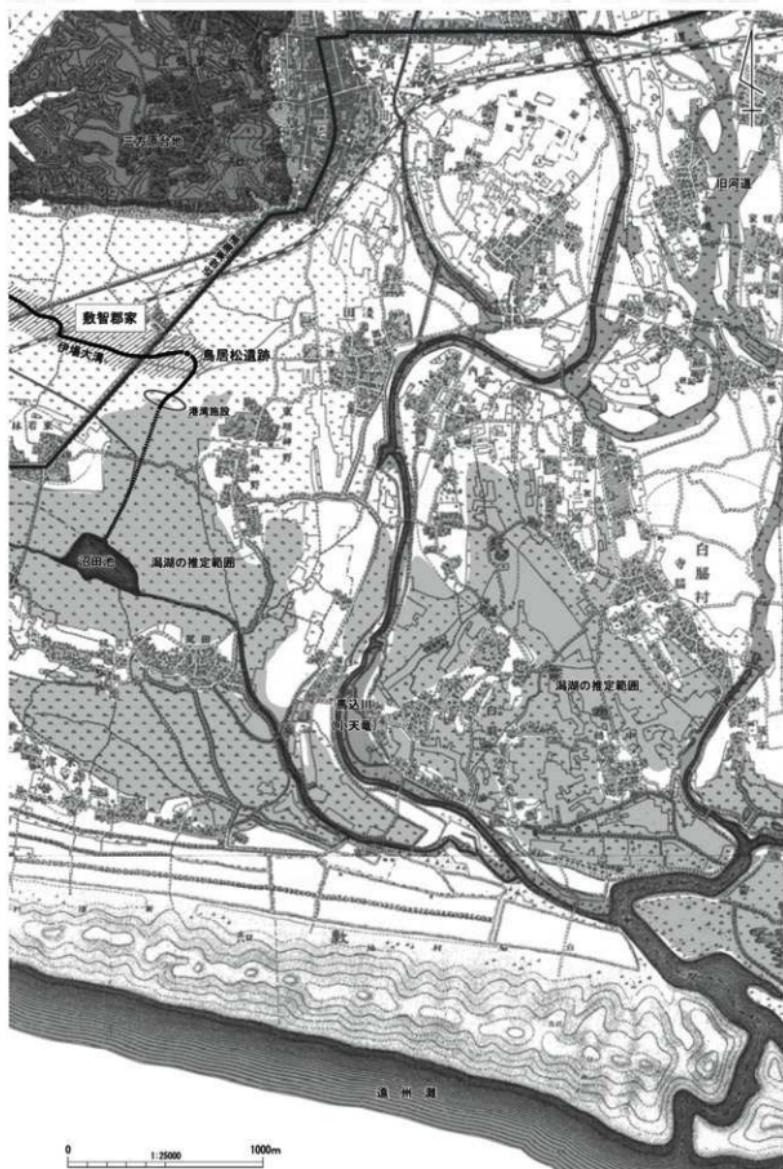


Fig.157 敷智郡家の立地環境

施設は、鳥居松遺跡の南側にある潟湖の湖畔に存在すると考えてよい。外洋を行きかう物資は大型船から小舟に積み替え、伊場大溝を週って敷智郡家の中枢部に運ばれたと想定できよう。

いっぽう、陸上交通の動脈である古代東海道との位置関係についても、伊場遺跡群の中では鳥居松遺跡が比較的近い位置にあったと推定できる。伊場遺跡群近辺における古代東海道の位置は必ずしも明確になっていないが、近世東海道は鳥居松遺跡の西脇をかすめている。陸上交通と海上交通の結節点という鳥居松遺跡の立地環境は、敷智郡家における物資の集散拠点として捉える視点を補強している。敷智郡家における有力者「福万呂」がこの地に拠点を構えたのも、郡家にかかる流通機能の掌握に主眼があったとみられよう。

【参考文献】

- 鈴木敏則 2007 「伊場遺跡の貝塚と出土した考古遺物」『浜松市博物館報』第20号 浜松市博物館
 鈴木敏則 2010 「静岡県内の製塙土器」「東海土器製塙研究」考古学フォーラム
 浜松市教育委員会 2008 「伊場遺跡総括編」
 大林 元 2008 「静岡県西部出土の古代製塙土器について」『静岡県考古学研究』No.450 静岡県考古学会
 向坂鋼二 1996 「解説 伊場・城山遺跡の古代文字資料」「遠江」19号
 藤 泰通 1997 「東海地方における消費地出土の製塙土器一特に固形塙の問題をめぐってー」「製塙土器の諸問題—古代における塙の生産と流通—」塙の会シンポジウム実行委員会
 渡辺晃宏 2008 「伊場遺跡群出土土簡の再検討」「伊場遺跡総括編」浜松市教育委員会
 山本 崇 2008 「伊場遺跡群出土墨書き土器の再検討」「伊場遺跡総括編」浜松市教育委員会

【伊場遺跡群主要発掘調査報告書】

- 可美村教育委員会 1978 「浜名郡可美村城山遺跡範囲確認調査概報」(城山遺跡2次調査)
 可美村教育委員会 1981 「城山遺跡発掘調査報告書」(城山遺跡3・4次調査)
 (財)浜松市文化協会 1991a 「梶子遺跡Ⅳ」(梶子遺跡8次調査)
 (財)浜松市文化協会 1991b 「梶子遺跡Ⅴ」(梶子遺跡9次調査)
 (財)浜松市文化協会 1993 「城山遺跡V」(城山遺跡5次調査)
 (財)浜松市文化協会 1997a 「鳥居松遺跡」(鳥居松遺跡1次調査)
 (財)浜松市文化協会 1997b 「城山遺跡VI」(城山遺跡6次調査)
 (財)浜松市文化協会 1997c 「梶子北遺跡(遺構編)」(梶子北遺跡1次調査)
 (財)浜松市文化協会 1997d 「梶子北遺跡(遺物編)」(梶子北遺跡1次調査)
 (財)浜松市文化協会 1997e 「九反田遺跡」(九反田遺跡1次調査)
 (財)浜松市文化協会 2000a 「鳥居松遺跡2」(鳥居松遺跡2次調査)
 (財)浜松市文化協会 2000b 「城山遺跡VII」(城山遺跡7次調査)
 (財)浜松市文化協会 2002 「鳥居松遺跡—3次調査—」
 (財)浜松市文化協会 2003a 「鳥居松遺跡—4次調査—」
 (財)浜松市文化協会 2003b 「駿東遺跡—2次調査—」
 (財)浜松市文化協会 2004 「梶子遺跡X」(梶子遺跡10次調査)
 (財)浜松市文化協会 2005 「梶子北(三水)・中村遺跡—弥生時代編—」
 (財)浜松市文化振興財团 2006a 「梶子北遺跡(三水地区)・古墳・奈良時代編—」(三水遺跡1次調査)
 (財)浜松市文化振興財团 2006b 「中村遺跡—古墳・奈良時代編—」(中村遺跡1次調査)
 (財)浜松市文化振興財团 2008 「梶子遺跡12次」
 (財)浜松市文化振興財团 2009a 「鳥居松遺跡5次」(本書)
 (財)浜松市文化振興財团 2009b 「鳥居松遺跡6次」
 浜松市遺跡調査会 1980 「国鉄浜松工場内遺跡発掘調査報告書V」(梶子遺跡5次調査)

6 烏居松遺跡における伊場大溝調査の意義

- 浜松市遺跡調査会 1983a 「国鉄浜松工場内（梶子）遺跡第VI次発掘調査概報」（梶子遺跡6次調査）
浜松市遺跡調査会 1983b 「国鉄浜松工場内遺跡第VII次発掘調査概報」（梶子遺跡7次調査）
浜松市教育委員会 1976a 「伊場木簡」伊場遺跡発掘調査報告書 第1冊
浜松市教育委員会 1976b 「国鉄浜松工場内発掘調査略報」（梶子遺跡1次調査、非公式刊行物）
浜松市教育委員会 1977a 「伊場遺跡道構編」伊場遺跡発掘調査報告書 第2冊
浜松市教育委員会 1977b 「国鉄浜松工場内遺跡発掘調査概報Ⅱ」（梶子遺跡2次調査）
浜松市教育委員会 1978a 「国鉄浜松工場内遺跡発掘調査概報Ⅲ」（梶子遺跡3次調査）
浜松市教育委員会 1978b 「伊場遺跡遺物編Ⅰ」伊場遺跡発掘調査報告書 第3冊
浜松市教育委員会 1979 「国鉄浜松工場内遺跡発掘調査概報Ⅳ」（梶子遺跡4次調査）
浜松市教育委員会 1980 「伊場遺跡遺物編Ⅱ」伊場遺跡発掘調査報告書 第4冊
浜松市教育委員会 1982 「伊場遺跡遺物編Ⅲ」伊場遺跡発掘調査報告書 第5冊
浜松市教育委員会 1987 「伊場遺跡遺物編Ⅳ」伊場遺跡発掘調査報告書 第6冊
浜松市教育委員会 1990 「伊場遺跡遺物編Ⅴ」伊場遺跡発掘調査報告書 第7冊
浜松市教育委員会 1994 「伊場遺跡遺物編Ⅵ」伊場遺跡発掘調査報告書 第8冊
浜松市教育委員会 1997 「伊場遺跡遺物編Ⅶ」伊場遺跡発掘調査報告書 第9冊
浜松市教育委員会 2002 「伊場遺跡遺物編Ⅷ」伊場遺跡発掘調査報告書 第10冊
浜松市教育委員会 2007 「伊場遺跡補遺編」伊場遺跡発掘調査報告書 第11冊
浜松市教育委員会 2008 「伊場遺跡總括編」伊場遺跡発掘調査報告書 第12冊

【図出典】

Fig.144 2～7：正倉院事務所 1997『正倉院寶物』9南倉Ⅲ 毎日新聞社、8～22：法隆寺昭和賀財帳編集委員会 1993『法隆寺の至宝』第12巻 小学館 より写真トレース
上記以外は各報告書より引用

第4章 総括

本書で報告した伊場大溝の調査結果は、古代敷智郡家とその前身にかかる豊富な情報をもたらした。発掘調査と検出遺構や出土遺物の分析を通じて得られた成果は多岐にわたるが、さいごに報告の内容を要約するとともに、後論で明らかにされた内容を総合し、今後の展望を示したい。

1 発掘調査の成果

検出遺構 発掘調査で検出した伊場大溝は、幅20m、深さ2.5m以上におよぶ。総延長25mを底面まで確認した。伊場大溝は5世紀後葉に形成されたとみられる自然河川で、6世紀から9世紀にかけての遺物を大量に含んでいる。伊場大溝の埋没層位を数段階に分けて調査し、各時代の様相を明確にした。なお、伊場大溝は13世紀頃には、水流を殆ど失い、土中に埋没したとみられる。

伊場大溝の各層からは、注目できる遺構がみられる。6世紀後半の堆積層であるⅦ b層の底面では、大量の土器を伴う土器集積SX05を検出した。この土器集積の近隣には金銀装円頭大刀が出土している。8世紀の堆積層であるV層中では、大溝の岸に貝塚を検出した。貝塚は北岸に4箇所(SS01～04)確認できた。とくにSS02とSS04は貝層が厚く、出土遺物も豊富である。8世紀後葉～9世紀前葉の堆積層であるIV b層中からは、「稻万呂」墨書き土器が集中する土器集積SX03や、人面墨書きがある人形が出土した祭祀遺構SX01などが検出された。

出土遺物 伊場大溝の各層から大量の遺物が出土した。土師器や須恵器とともに木器がまとまって出土しており、6～9世紀に亘る充実した資料が得られた。

特筆できる出土遺物として、Ⅶ b層(6世紀後半)から出土した金銀装円頭大刀、V層(8世紀)から出土した6点の木筒、V層、IV b層、IV a層の各層位(8世紀～10世紀)から出土した19点の墨書き土器などがあげられる。

Ⅶ b層およびⅦ a層(6世紀後半～7世紀)からは鉄滓や繩羽口、漆が付着する土器片といった手工業生産にかかる遺物や、玉類や耳環などの装身具、幡などの装飾的な布に装着したとみられる銅製有孔円盤が出土した。

V層(8世紀)中で検出できた貝塚SS02からは口縁破片で114点を数える大量の製塙土器が出土した。一つの遺構からの出土数としては周辺地域では群を抜いている。

Ⅶ a層(上層)、V層、IV b層(7世紀後葉～9世紀初頭)からは祭祀用具が大量に出土した。この中には、人面墨書きがある人形2点、人面墨書き土器3点が含まれる。童串、人形、馬形、舟形といった木製祭祀具は各層から出土し、形態の変遷がうかがえる貴重な事例を提供した。

動植物遺体等 伊場大溝の各層から豊富な動植物遺体が出土した。堆積土中に含まれる花粉や珪藻に加え、V層(8世紀)の貝塚からは大量の貝類が出土したほか、馬骨や鹿角などの獸骨類もみられる。また、伊場大溝埋没時の環境を検討するため、堆積土中に含まれる花粉や珪藻を検出した。

2 特筆すべきことがら

年代 伊場大溝の形成時期については、5世紀後葉と想定した。伊場大溝の堆積層中に含まれる木材の放射性炭素年代とも矛盾はない。ただし、放射性炭素年代を測定した資料はすべてⅦb層からの出土品である。厳密に伊場大溝の形成開始期を捉えるとすると、最下層の堆積層であるⅧ層中に含まれる試料で測定すべきであろう。また、伊場大溝の基盤層（基本層位10層）からは天城カワゴ平テフラ（Kg）および大沢スコリア（Os）が検出できた。おおよそ3100～3200年前の堆積年代が想定できる。また、土壤の放射性炭素年代測定では、基盤砂層の上部に泥炭質土壤（基本層位14層）が堆積し始める年代は、約5600～4800年前という分析結果を得た〔第3章1〕。この分析結果は、第3砂洲の形成が5000年前以前に遡ることを示すもので、柵子遺跡で確認できた第1砂洲の形成年代（6000年前以前）とも矛盾しない〔第3章2〕。

古環境分析 鳥居松遺跡にかかる古環境の情報を得るために、貝類、動物骨、堆積土を対象に、同定・分析を行った。堆積土については、花粉および珪藻の分析を実施した。

貝類は奈良時代の貝塚（SS01・02・04）から出土したもので、全体の80%がヤマトシジミとダンペイキサゴで占められていた。ダンペイキサゴが遠州灘から運ばれたとみられるほか、その他多くの貝類は遺跡近隣で採集されたものと判断される。また、堆積土中に含まれる花粉・珪藻の分析からは、貝塚SS01・SS02は比較的水が流れる環境に、SS04は滞水した環境に形成されたことが明らかにされた。

伊場大溝の堆積土からは、比較的豊富な動物骨が確認できた。動物骨はウマが多く、頭骨のみが出土する場合も認められた。伊場大溝近辺でウマを屠殺する儀礼が頻繁に行われたことが判明する。

伊場大溝の堆積土中に含まれる花粉・珪藻分析によって、Kgが降下した3100～3200年前から13世紀に至る鳥居松遺跡の古環境が復元された。分析結果からは、鳥居松遺跡は湿地性の環境が続いていると判断できるが、時代の変化による微妙な植生の変化が指摘できる〔第3章3〕。

木簡 伊場大溝から6点の木簡が出土した。この中には2点の紀年銘木簡（3号木簡：神亀元年〈724年〉、5号木簡：己酉年〈709年〉）が含まれる。伊場遺跡群で多数みられる「サト名+人名」の木簡（4号木簡、6号木簡も可能性あり）が含まれ、鳥居松遺跡が伊場遺跡群と同一空間に立地していることが明確になった。また、糸の貸借を示す3号木簡の内容から、郡家が織維製品の生産管理に関与していたことが読み取れた。さらに、5号木簡の内容から、8世紀初頭に郡家が貸借関係に関与していた可能性が示された〔第3章4〕。

墨書き土器 伊場大溝から19点の墨書き土器が出土した。このうち11点が「稻万呂」墨書き土器（その断片と推定できるものを含む）であり、従来、伊場遺跡群から出土が知られていた数量（8点）を上回った。合計19点となった「稻万呂」墨書き土器の出土範囲は、上流の城山遺跡から、下流の鳥居松遺跡まで1.5kmにわたり、墨書きの年代は8世紀後葉から9世紀前葉におよぶ。11点というまとまった出土量から、鳥居松遺跡が、郡司もしくは郡雜任級の有力者とみられる稻万呂の本拠地である可能性が高くなつた〔第3章5〕。

円頭大刀 6世紀後半の堆積層から出土した金銀装円頭大刀は国内で類例を求めることが難しい希少品である。自然河川に鞘から抜いた装飾大刀を沈めるという儀礼行為が明らかにされた意義は大きい。また、柄頭と柄間の特徴から、この大刀は朝鮮半島で製作された可能性が高いことが指摘できた。装飾大刀を入手し、自然河川に沈める儀礼を行った人物には、相当の有力者が想定できる。この大刀の出土によって、從来その様相が不明瞭であった6世紀後半段階の当地に、有力者が権勢を誇っていたといえるようになった。6世紀後半における有力者の存在は、後に敷智郡家が置かれることと関連づけることもできる〔第3分冊、円頭大刀編〕。

製塙土器 伊場大溝内の8世紀前葉～中葉SS02からは、当地では希少な製塙土器がまとまって出土した。坏部口縁破片数では、114点を数え、伊場遺跡群における出土量としては圧倒的に多い。製塙土器はいずれも渥美半島から搬入されたものと考えられる。出土した製塙土器は坏部ばかりで脚部が全くみられないことから、製塙土器を運搬容器として、固形塙が供給されたと捉えてよい。製塙土器の圧倒的な出土量からは、鳥居松遺跡が物資の集散拠点であったことを読み取ることができる〔第3章6〕。

祭祀具 伊場大溝内のⅦ b層（7世紀後葉）、V層（8世紀前葉～中葉）、IV b層（8世紀後葉～9世紀前葉）の各層から祭祀具がまとまって出土した。とくに、8世紀後葉～9世紀前葉の資料が充実しており、人面墨書がある人形が2点、人面墨書土器が3点含まれる。伊場遺跡群出土品のうち、人面墨書がみられる資料は、人形が10点、土器が5点を数えることになった。上下3層にわたる祭祀具の資料は、從来曖昧であった木製祭祀具（人形、馬形、舟形）の形態変遷を探る上でも貴重である〔第3章6〕。

鳥居松遺跡の性格 鳥居松遺跡は推定される古代東海道に近接するだけでなく、伊場大溝から湯湖を介して遠州灘へと繋がる海上交通の利便性もよい立地環境にある。製塙土器の大量出土が伝えるように、鳥居松遺跡には、陸上交通と海上交通の結節点として、港湾施設に程近い物資の集散拠点といった性格を読み取ることができる。敷智郡家における有力者「稻万呂」がこの地に拠点を構えたのも、敷智郡家にかかる流通機能の掌握に主眼があったとみられる〔第3章6〕。

3 今後の展望

鳥居松遺跡の調査では、伊場大溝の下流部分を全面調査し、この地まで敷智郡家の施設が広がっていることが明らかになった。郡家関連施設は上流の城山、梶子、梶子北遺跡から中間の伊場遺跡を挟んで、下流の鳥居松遺跡に至る東西1.5kmの広範囲におよぶことが確実になった。

郡家関連の諸施設の性格についても、伊場大溝の流路を中心に、具体性を帯びるようになっている。奈良時代の政府は、唐三彩などの希少品の集中と地形的な安定度から城山遺跡近辺に想定され、梶子北遺跡で検出された掘立柱建物群も平安時代の政府もしくは館と捉える見方が有力である。これら郡家の中枢施設は伊場大溝の上流域に展開しており、伊場大溝の流路からはやや離れている傾向がある。

いっぽう、伊場大溝を中心に建物群が展開している伊場遺跡は、郡家関連の雑舎群とみられ、豊

3 今後の展望

富な文字資料から厨や栗原駅関連施設が置かれていた可能性が高いと評価されている。さらに、今回調査した鳥居松遺跡は、建物群などの遺構が確認できなかったものの、出土遺物と立地環境から、港湾施設に程近い物資の集散拠点という性格が導き出せた。墨書き土器にその存在が確認できる稻万呂は、奈良時代の終り頃から平安時代のはじめ頃にかけて鳥居松遺跡に本拠をおき、敷智郡家内の物資流通にも深くかかわった有力人物とみなせるようになった。

今後は、継続的な調査によって、上述したような郡家諸施設の役割の違いを高い精度で把握していく作業が求められる。また、敷智郡家の近隣にあったと想定されている古代東海道の位置についても検討する必要がある。伊場遺跡に関連が見出せる栗原駅も、正確な所在地が不明確であり、古代交通路にかかる課題が多い。

伊場大溝は鳥居松遺跡を南北に貫き、さらに下流に至っている。現在までのところ、鳥居松遺跡2次調査によって確認された地点が伊場大溝の最も下流の部分である。この調査地点においても、古代の貝塚や墨書き土器が確認されており、敷智郡家関連施設が展開していることが明らかである。

今後の調査によって、伊場大溝の流路を正確に位置づけると共に、伊場大溝の下流域のどの程度の範囲まで古代の遺構群が展開しているか把握する必要がある。同時に、本書でその存在を強調した湯湖畔における港湾施設の検出にも期待したい。

【謝 辞】

本書の作成にあたり、以下の方々のご協力、ご教示を得た。その名を記して謝意を表したい。

井鍋聰之、大谷宏治、川江秀孝、田村隆太郎、鶴間正昭、早野浩二、土生田純之、平野吾郎、広瀬和雄、松井一明、丸杉俊一郎、向坂剛二、森泰通

出土遺物観察表

凡 例

出土遺物のうち、木製品以外の遺物は種別にかかわりなく pp.198 ~ 218 に示す
木製品については、pp.219 ~ 220 に示す
残存率：% 表示、10% 単位での切り上げ
反転：「反」は反転して図化したもの
大きさの単位はcm
回転体以外の大きさ表示 器径：長さ 器高：幅 口径：厚み
ケズリ方向は、砂粒の移動方向を示す 右：右回転、左：左回転
色調：『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠
「SD01」は伊場大溝内の各堆積層からの出土であることを示す
木製品処理 含浸：高級アルコール含浸 乾燥：自然乾燥

出土遺物観察表

Fig.	部位	番号	取扱番号	遺構	グリット	種別	縦幅	反転	側面	高さ	口径	色調	備考	
9	竪	1	1807	S001	A3	直孔器	片垂	20	反	12.8	13	灰	TK208, サ"方向右	
9	竪	2	1807	S001	A3	直孔器	片垂	30	反	11.2	灰	TK223, 外面自然釉		
9	竪	3	1807	S001	A3	直孔器	横	30	反	12.8	12.6	棕		
9	竪	4	1807	S001	A3	直孔器	横	40	反	15.4	6.0	浅黄褐		
9	竪	5	1807	S001	A3	直孔器	高坪	20	反	17.2		にぶい棕		
9	竪	6	1807	S001	A3	直孔器	高坪	5	反			棕	脚径2.3, 高径3.6	
9	竪	7	1807	S001	A3	直孔器	直口垂	10	反		10.2	にぶい棕	脚径5.7	
9	竪	8	1070	S001	B2	直孔器	<字型	5			17.7	棕	脚底	
9	竪	9	1807	S001	A3	直孔器	直	5	反			黄褐		
9	竪	10	1807	S001	A3	直孔器	直	10	反	15.2		にぶい棕		
13	竪b	1	1818	S001	A2	外反孔器	外反口縫査	10	反		17.6	灰白	頭頂9.2	
13	竪b	2	1857	S001	A2	外反孔器	外反口縫査	10	反		15.0	にぶい黄褐		
13	竪b	3	1046	S001	B2	外反孔器	外反口縫査	10	反		13.0	浅黄褐	頭頂8.8	
13	竪b	4	1415	S005	C3	外反孔器	外反口縫査	10	反		19.0	にぶい黄		
13	竪b	5	1338	S005	C3	外反孔器	外反口縫査	10	反		14.0	にぶい黄棕		
13	竪b	6	1039	S001	B3	外反孔器	新返口縫査	10	反		15.8	浅黄褐	脚径8.6	
13	竪b	7	1643	S001	B3	外反孔器	新返口縫査	10	反		17.0	にぶい黄棕	脚底7.7	
13	竪b	8	1858	S001	A2	外反孔器	複合口縫査	10	反		15.8	灰白	棒状文2×方向不明	
13	竪b	9	45	S001	E3	外反孔器	外反口縫査	20	反		14.5	にぶい黄棕	脚底5.5, 物語筋断, 葉川式	
13	竪b	10	1686	S001	C2	外反孔器	新返口縫査	10	反		21.8	にぶい黄	結節斜文, 筒式	
13	竪b	11	1147	S001	C2	外反孔器	新返口縫査	5	反			浅黄褐	円筒浮文・棒状工具による刻文, 南関東系	
13	竪b	12	493	S001	B3	外反孔器	直	95		13.4	10.7	5.5	にぶい黄	
13	竪b	13	745	S001	E3	外反孔器	外反口縫査	70	13.4	16.7	9.7		にぶい黄棕	
13	竪b	14	1818	S001	A2	外反孔器	直	10	反	25.0	22.0	棕		
13	竪b	15	1841	S001	D0	外反孔器	高坪	10	反		19.4	浅黄褐		
13	竪b	16	1855	S001	A2	外反孔器	高坪	10	反		24.0	棕		
13	竪b	17	691	S001	C2	外反孔器	高坪	50			22.0	棕		
13	竪b	18	1564	S001	C3	外反孔器	高坪	40				淡黄褐	脚径4.3, 脚径15.1, 28.3方向	
13	竪b	19	1254	S001	C3	外反孔器	高坪	30				淡黄褐	脚径4.4, 脚径14.8, 28.3方向	
13	竪b	20	1048	S001	B3	外反孔器	高坪	60				浅黄褐	脚径4.5, 脚径11.6	
13	竪b	21	1928	S001	D0	外反孔器	高坪	20				にぶい赤	脚径10.4, 28.4方向	
13	竪b	22	1950	S001	A2	外反孔器	高坪	10	反			棕	脚径2.4, 脚径10.4, 28.3方向	
14	竪b	23	624	S001	B2	外反孔器	小型直	20	反	10.6	8.8	赤棕	脚底6	
14	竪b	24	663	S001	B3	外反孔器	小型直	80	11.4			棕	脚底6.3, 高径4.2	
14	竪b	25	1699	S001	E3	外反孔器	小型直口縫	80	反	9.2	8.0	浅黄褐	脚底6.8, 高径4.6	
14	竪b	26	1604	S001	D0	外反孔器	直	60	5.9	8.2		灰白		
14	竪b	27	1330	S005	C3	外反孔器	直	70	8.3			脚底7.2, 高径8.0		
14	竪b	28	1342	S005	C3	外反孔器	<字型	5	反			にぶい黄	口縫査斜文	
14	竪b	29	1241	S005	C3	外反孔器	直	10	反			反斜文		
14	竪b	30	1562	S005	G3	外反孔器	直	20	反			脚底4.2		
14	竪b	31	849	S001	B3	外反孔器	受口垂	10			18.0	浅黄褐	脚底6.8, 高径7.2	
14	竪b	32	991	S001	B3	外反孔器	受口垂	10			20.0	浅黄褐	脚底15.6, 口縫斜尖・変形裏面	
14	竪b	33	1006	S001	B3	外反孔器	受口垂	10	反		22.0	灰白	口縫斜尖・32°	
14	竪b	34	1116	S001	C3	外反孔器	受口垂	10	反		24.0	にぶい棕	口縫斜尖・32°	
14	竪b	35	991	S001	B3	外反孔器	S字型	10	反		16.0	浅黄	S字型A端, 持引き	
14	竪b	36	584	S001	B2	外反孔器	S字型	10	反		15.6	淡黄	S字型B端	
14	竪b	37	1261	S001	D2	外反孔器	S字型	10	反		18.0	にぶい黄, S字型B端		
14	竪b	38	1563	S001	C3	外反孔器	S字型	10	反		18.7	灰白	S字型B端	
14	竪b	39	1946	S001	C3	外反孔器	S字型	10	反		13.6	淡黄褐	S字型C端	
14	竪b	40	114	S001	C2	外反孔器	S字型	10	反		14.2	にぶい棕	S字型C端	
14	竪b	41	1943	S001	C3	外反孔器	S字型	10	反		15.1	にぶい黄	S字型C端	
14	竪b	42	979	S001	B3	外反孔器	S字型	10	反		14.0	明黄褐	S字型C端	
14	竪b	43	446	S001	B3	外反孔器	S字型	10	反		17.0	浅黄褐	S字型C端	
14	竪b	44	452	S001	A2	外反孔器	S字型	10	反		16.2	灰白	S字型C端	
14	竪b	45	529	S001	B3	外反孔器	S字型	10	反		17.2	浅黄褐	S字型C端	
14	竪b	46	482	S001	B3	外反孔器	S字型	10	反		18.0	橘棕	S字型C端	
14	竪b	47	585	S001	B2	外反孔器	S字型	10	反		19.0	浅黄褐	脚底4.4, 高径9.6	
14	竪b	48	980	S001	B3	外反孔器	S字型	20				灰黄		
14	竪b	49	1052	S001	B3	石製品	扁平方刃斧			6.1	9.4	2.4		238.5g, 亦十+
14	竪b	50	1857	S001	A2	青銅器	網鉗			1.0	5.3	0.4		13.6g, 基座打
19	竪b	1	1374	S005	C3	直孔器	片垂	30	14.0	3.9	14.0	反		W115, サ"方向右
19	竪b	2	1339	S005	C3	直孔器	片垂	5	反	15.0				
19	竪b	3	1359	S005	C3	直孔器	片垂	10	反	14.2	5.4	13.2	反白	
19	竪b	4	1345	S005	C3	直孔器	片垂	20	反	14.0			サ"方向左	
19	竪b	5	1222	S005	C3	直孔器	片垂	10	反	14.0				
19	竪b	6	1335	S005	C3	直孔器	片垂	40	14.0	4.7			サ"方向右	
19	竪b	7	1364	S005	C3	直孔器	片垂	80	13.2	4.3	13.0			
19	竪b	8	1498	S005	C3	直孔器	片垂	50	13.0				サ"方向左	
19	竪b	9	1448	S005	C3	直孔器	片垂	100	14.0	4.3				
19	竪b	10	1334	S005	C3	直孔器	片垂	70	14.4	3.8			サ"方向右	
19	竪b	11	1389	S005	C3	直孔器	片垂	20	反	13.2			サ"方向右	
19	竪b	12	1418	S005	C3	直孔器	片垂	10	反					
19	竪b	13	487-1408	S005	C3	直孔器	片垂	80	14.3	3.8	14.0		サ"方向左	
19	竪b	14	1351	S005	C3	直孔器	片垂	90	14.0	4.6			サ"方向左, A5記号	
19	竪b	15	1321	S005	C3	直孔器	片垂	10	14.0	4.6				
19	竪b	16	1315	S005	C3	直孔器	片垂	30	13.8	3.3			青灰	
19	竪b	17	1406	S005	C3	直孔器	片垂	30	14.0	4.2			サ"方向左	
19	竪b	18	1484	S005	C3	直孔器	片垂	70	15.0	4.6	12.6			
19	竪b	19	1316	S005	C3	直孔器	片垂	70	15.0	4.4	12.8			
19	竪b	20	1472	S005	C3	直孔器	片垂	40	17.6	4.4	15.2			
19	竪b	21	1400	S005	C3	直孔器	片垂	70	16.6	4.0	14.0		サ"方向右	
19	竪b	22	1470	S005	C3	直孔器	片垂	70	16.2		13.8			
19	竪b	23	1372	S005	C3	直孔器	片垂	10	反	16.0	14.0			
19	竪b	24	1558	S005	C3	直孔器	片垂	20	反	16.0	13.0			

Fig.	層位	番号	取上番号	遺物	グリット	種別	縦幅	反幅	厚さ	高さ	口径	色調	備考
19	層b	25	1363	S305	C3	須恵器	片身	60	反	16.0	4.6	14.6	灰白 ±2%方向左
19	層b	26	1360	S305	C3	須恵器	片身	55	15.6	4.6	13.0	灰白 ±2%方向左	
19	層b	27	1324	S305	C3	須恵器	片身	30	反	13.6	3.9	13.1	灰 ±2%方向左
19	層b	28	1372	S305	C3	須恵器	片身	30	反	15.4	4.1	13.0	灰 ±2%方向左
19	層b	29	1384	S305	C3	須恵器	片身	70		15.3	3.8	12.7	灰 ±2%方向左、±5記号
19	層b	30	1416	S305	C3	須恵器	片身	20	反	15.2		13.0	灰 ±2%方向左
19	層b	31	1493	S305	C3	須恵器	片身	30	反	15.2		12.6	灰白 ±2%方向左
19	層b	32	1416	S305	C3	須恵器	片身	40	反	15.0	4.0	13.0	灰白 ±2%方向左
19	層b	33	1340	S305	C3	須恵器	片身	10	反	15.0	5.4	13.5	灰白 ±2%方向左
19	層b	34	1310	S305	C3	須恵器	片身	60		15.0	4.9	13.0	灰 ±2%方向左
19	層b	35	1461	S305	C3	須恵器	片身	40	反	15.0	4.9	13.0	灰 ±2%方向左
19	層b	36	1491	S305	C3	須恵器	片身	40		14.8	4.1	12.6	灰白 ±2%方向左
19	層b	37	1395	S305	C3	須恵器	片身	60		14.4	4.1	11.8	灰 ±2%方向右
19	層b	38	1333	S305	C3	須恵器	片身	95		14.3	4.0	12.2	灰 ±2%方向右、自然鉢
19	層b	39	1332	S305	C3	須恵器	片身	60		14.3	3.4	11.5	灰 未調整
19	層b	40	1344	S305	C3	須恵器	片身	20	反	14.0			灰赤
19	層b	41	1397	S305	C3	須恵器	片身	100		13.9	4.5	11.6	灰 ±2%方向左、±5の痕跡
19	層b	42	1313	S305	C3	須恵器	片身	5	反	14.0	3.4	12.1	灰 ±2%方向右
19	層b	43	1493	S305	C3	須恵器	片身	40	反	13.6	4.5	11.5	灰 ±2%方向左、±5記号、 自然鉢
19	層b	44	1413	S305	C3	須恵器	片身	10	反	13.2		11.4	灰 ±2%方向右
19	層b	45	1318	S305	C3	須恵器	片身	10	反	15.0	3.6		灰 ±2%方向左、彌怪3.4
19	層b	46	1493	S305	C3	須恵器	無蓋高杯	40	反	12.6			端板 スカラ切り込み端
19	層b	47	1411	S305	C3	須恵器	無蓋高杯	40		11.9	12.8		端板 スカラ切り込み端
19	層b	48	1412	S305	C3	須恵器	鉢	30	反				端口
19	層b	49	1474	S305	C3	須恵器	鉢	5					灰
20	層b	50	1311	S305	C3	土師器	碗	80		13.3	4.8		橙
20	層b	51	1496	S305	C3	土師器	碗	80		16.2	5.1		明褐色 全面赤彩
20	層b	52	1317	S305	C3	土師器	碗	50	反	10.0			にぶい黄 未調整
20	層b	53	1357	S305	C3	土師器	碗	50	反	14.4	5.3		にぶい黄 ±5記号
20	層b	54	1471	S305	C3	土師器	碗	50		13.0	5.5		自然鉢
20	層b	55	1469	S305	C3	土師器	鉢	70		19.6	11.3		黄褐色 底径6.4
20	層b	56	1312	S305	C3	土師器	把付鉢	40	反	15.3	8.0		橙 木葉柄
20	層b	57	1502	S305	C3	土師器	破形	30		6.4			にぶい橙 にぶい物
20	層b	58	1548	S305	C3	土師器	高杯	50	反	15.6	10.5		圓錐形 脚付
20	層b	59	1503	S305	C3	土師器	高杯	50		18.6	11.0		にぶい高杯 底径20
20	層b	60	1481	S305	C3	土師器	高杯	20	反	15.6			にぶい高杯 底径20
20	層b	61	1343	S305	C3	土師器	高杯	20					にぶい高杯 底径20
20	層b	62	1484	S305	C3	土師器	高杯	50					にぶい高杯 底径20
20	層b	63	1603	S305	C3	土師器	高杯	40					にぶい高杯 底径20
20	層b	64	1494	S305	C3	土師器	高杯	40					にぶい高杯 底径20
20	層b	65	1229	S305	C3	土師器	高杯	20					にぶい高杯 底径20
20	層b	66	1501	S305	C3	土師器	高杯	40					にぶい高杯 底径20
20	層b	67	1327	S305	C3	土師器	高杯	30					にぶい高杯 底径20
20	層b	68	1391	S305	C3	土師器	高杯	10	反				にぶい高杯 底径20
20	層b	69	1499	S305	C3	土師器	高杯	10	反				にぶい高杯 底径20
20	層b	70	1494	S305	C3	土師器	高杯	10	反				にぶい高杯 底径20
20	層b	71	1371	S305	C3	土師器	高杯	30	反				にぶい高杯 底径20
20	層b	72	1356	S305	C3	土師器	長脚高杯	20					にぶい高杯 底径20
20	層b	73	1349	S305	C3	土師器	長脚高杯	50	反	12.0	9.0		にぶい高杯 底径20
20	層b	74	1494	S305	C3	土師器	長脚高杯	60	反	14.5	8.6		にぶい高杯 底径20
20	層b	75	1494	S305	C3	土師器	長脚高杯	5	反	14.6			にぶい高杯 底径20
20	層b	76	1480	S305	C3	土師器	長脚高杯	40					にぶい高杯 底径20
20	層b	77	1353	S305	C3	土師器	長脚高杯	30					にぶい高杯 底径20
20	層b	78	1350	S305	C3	土師器	長脚高杯	20					にぶい高杯 底径20
20	層b	79	1508	S305	C3	土師器	長脚高杯	50					にぶい高杯 底径20
20	層b	80	1464	S305	C3	土師器	外反口縁壺	70		33.4			真鍮 底径16.0
21	層b	81	1378	S305	C3	土師器	壺	10	反			11.3	明褐色 底径10.0、外腹付帯、宇田型
21	層b	82	1373	S305	C3	土師器	壺	10	反			14.0	灰黃 底径10.0、外腹付帯
21	層b	83	1352	S305	C3	土師器	壺	40	反	15.6		14.8	灰褐 底径13.0、外腹付帯
21	層b	84	1390	S305	C3	土師器	壺	10	反			15.0	にぶい灰 底径13.0
21	層b	85	1376	S305	C3	土師器	壺	10	反			16.2	にぶい灰 底径13.2、外腹付帯
21	層b	86	1319	S305	C3	土師器	壺	5	反			15.0	真鍮 底径12.2
21	層b	87	1379	S305	C3	土師器	壺	10	反			16.0	にぶい灰 底径12.2
21	層b	88	1394	S305	C3	土師器	壺	20	反			16.4	にぶい灰 底径16.0、外腹付帯
21	層b	89	1417	S305	C3	土師器	壺	5				16.8	にぶい灰 底径15.0
21	層b	90	1396	S305	C3	土師器	壺	20	反			17.0	にぶい灰 底径14.8、外腹付帯
21	層b	91	1354	S305	C3	土師器	壺	10	反			17.0	淡青 底径14.4、外腹付帯
21	層b	92	1348	S305	C3	土師器	壺	10	反			18.0	反黃 底径14.4
21	層b	93	1405	S305	C3	土師器	壺	10	反			18.0	にぶい灰 底径14.6
21	層b	94	1375	S305	C3	土師器	壺	50	反	21.0	18.2		淡青 底径15.4、外腹付帯
21	層b	95	1491	S305	C3	土師器	壺	10	反	18.2	15.2		橙 底径13.7
21	層b	96	1367	S305	C3	土師器	壺	5	反			18.4	反黃 底径16.4
21	層b	97	1404	S305	C3	土師器	壺	10	反			19.0	橙 底径15.3
21	層b	98	1382	S305	C3	土師器	壺	10	反			19.2	にぶい灰 底径15.6
21	層b	99	1355	S305	C3	土師器	壺	10	反			19.4	反黃 底径15.9
21	層b	100	1347	S305	C3	土師器	壺	20	反			19.4	淡青 底径14.8
21	層b	101	1393	S305	C3	土師器	壺	10	反			20.0	橙 底径16.4、外腹付帯
21	層b	102	1498	S305	C3	土師器	壺	40	反			20.2	黃褐 底径16.3、外腹付帯
21	層b	103	1516	S305	C3	土師器	壺	20	反	22.4		21.3	にぶい灰 底径17.2
22	層b	104	1383	S305	C3	土師器	壺	20	反			28.0	淡青 底径25.0
22	層b	105	1365	S305	C3	土師器	壺	10	反			30.0	淡青 底径26.3
22	層b	106	1361	S305	C3	土師器	壺	10	反				淡青 底径26.3
22	層b	107	1514	S305	C3	土師器	壺	20					にぶい灰 底径26.3
22	層b	108	1368	S305	C3	土師器	壺	10	反				にぶい灰 底径26.3

出土遺物観察表

Fig.	層位	番号	取上番号	遺物	グリット	種別	縦幅	反幅	厚さ	高さ	口径	色調	備考
22	遺 b	109	1461	S305	C3	土師器	大型鉢	30	47.6	にぶい褐	外面煤付重		
22	遺 b	110	1346	S305	C3	土師器	瓶	10	反	23.0	黄緑		
22	遺 b	111	1336	S305	C3	土師器	瓶	5	反	20.0	にぶい緑		
22	遺 b	112	1394	S305	C3	土師器	瓶	5	反		にぶい緑	底径 9.4	
22	遺 b	113	1402	S305	C3	土師器	瓶	5	反		褐		
22	遺 b	114	1414	S305	C3	土師器	瓶	5	反		にぶい黄緑		
22	遺 b	115	1492	1499	S305	C3	土師器	瓶	40	反	12.4	黄緑	外径 6.4、内径 2.20
22	遺 b	116	1486	S305	C3	土師器	瓶	40	反	12.4	黄緑		
22	遺 b	117	1507	S305	C3	土師器	瓶	40	反	12.4	灰	9.3g	
22	遺 b	118	1481	S305	C3	土師器	瓶	40	反	12.4	灰	15.5g、流動澤	
22	遺 b	119	1462	S305	C3	土師器	瓶	40	反	12.4	灰	7.0g	
22	遺 b	120	1459	S305	C3	土師器	瓶	40	反	12.4	灰	228.3g、茎灰岩	
22	遺 b	121	1489	S305	C3	土師器	瓶	40	反	12.3	6.3	4.2	
22	遺 b	122	1892	S301	A3	漆器	漆壺	40	反	12.4	5.3	12.0	灰
23	遺 b	124	1853	S301	A2	漆器	漆壺	60	反	12.8	4.6	灰	TK208、竹「方向右
23	遺 b	125	1950	S301	A2	漆器	漆壺	40	反	12.0	4.6	灰	TK47、外面自然釉
23	遺 b	126	1637	S301	B2	漆器	漆壺	30	反	11.4	灰	TK47、竹「方向右」	
23	遺 b	127	1032	S301	B3	漆器	漆壺	50	反	12.0	5.3	灰	TK47、竹「方向左」
23	遺 b	128	1685	S301	B3	漆器	漆壺	30	反	12.4	灰	黄緑	
23	遺 b	129	541	S301	A2	漆器	漆壺	40	反	13.2	4.9	12.6	灰
23	遺 b	130	1037	S301	B3	漆器	漆壺	40	反	13.6	6.6	灰	TK15、竹「方向左」
23	遺 b	131	999	S301	B3	漆器	漆壺	40	反	15.2	5.6	灰	MT15、竹「方向右」
23	遺 b	132	1043	S301	A2	漆器	漆壺	40	反	14.6	灰	MT15、湖西堆塗、竹「方向右」	
23	遺 b	133	444	S301	A2	漆器	漆壺	20	反	15.0	灰	MT15、竹「方向左」	
23	遺 b	134	1858	S301	A2	漆器	漆壺	40	反	13.0	灰	MT15、竹「方向左」	
23	遺 b	135	717	S301	B3	漆器	漆壺	30	反	16.4	灰	尾根系、竹「方向右」	
23	遺 b	136	503 - 1628	S301	A2 - E2	漆器	漆壺	40	反	15.2	灰	竹「方向左」	
23	遺 b	137	1197	S301	C3	漆器	漆壺	90	反	15.5	3.6	灰	皮拂
23	遺 b	138	1545	S301	B3	漆器	漆壺	10	反	15.0	灰白	尾根系	
23	遺 b	139	1524	S301	B3	漆器	漆壺	40	反	15.0	灰白	竹「方向右」	
23	遺 b	140	519	S301	A2	漆器	漆壺	60	反	14.8	5.2	灰	皮拂
23	遺 b	141	610	S301	B2	漆器	漆壺	90	反	14.2	4.1	灰	竹「方向右」
23	遺 b	142	1204	S301	C2	漆器	漆壺	30	反	14.3	4.3	灰	竹「方向右」
23	遺 b	143	1215	S301	C2	漆器	漆壺	40	反	14.2	3.6	14.0	反白
23	遺 b	144	663	S301	B3	漆器	漆壺	20	反	14.0	4.9	灰	竹「方向右」
23	遺 b	145	955	S301	B3	漆器	漆壺	20	反	14.0	4.4	灰	皮拂
23	遺 b	146	568	S301	B2	漆器	漆壺	50	反	14.0	4.3	灰	竹「方向右」
23	遺 b	147	468	S301	B2	漆器	漆壺	80	反	13.6	3.7	灰	竹「方向右」
23	遺 b	148	1526	S301	B2	漆器	漆壺	80	反	13.4	4.6	灰	皮拂
23	遺 b	149	485 - 1850	S301	A3 - A2	漆器	漆壺	60	反	13.4	4.3	灰	皮拂
23	遺 b	150	421	S301	D3	漆器	漆壺	30	反	13.0	4.5	12.5	灰
23	遺 b	151	1902	S301	C2	漆器	漆壺	80	反	12.4	4.7	灰	竹「方向右」
23	遺 b	152	566	S301	B2	漆器	漆壺	80	反	13.0	3.5	灰	竹「方向右」
23	遺 b	153	1212	S301	C3	漆器	漆壺	50	反	13.2	4.2	灰	明灰
23	遺 b	154	1532	S301	C3	漆器	漆壺	60	反	14.7	4.1	灰	竹「方向左」
23	遺 b	155	1006	S301	B3	漆器	漆壺	20	反	15.2	4.6	灰	竹「方向左」
23	遺 b	156	566	S301	B2	漆器	漆壺	70	反	15.6	6.0	にぶい灰	竹「方向左」
23	遺 b	157	541	S301	A2	漆器	漆壺	60	反	16.0	4.5	灰	竹「方向左」
23	遺 b	158	562	S301	A2	漆器	漆壺	40	反	14.4	4.4	灰	皮拂
23	遺 b	159	1187	S301	C3	漆器	漆壺	30	反	13.5	4.3	灰	竹「方向左」
23	遺 b	160	1950 - 819	S301	A2 - B2	漆器	漆壺	80	反	14.2	3.5	灰	皮拂、竹記号
23	遺 b	161	1546	S301	B3	漆器	漆壺	40	反	14.8	3.8	灰白	竹「方向右」
23	遺 b	162	1546	S301	B3	漆器	漆壺	30	反	16.0	4.4	灰白	竹「方向右」
23	遺 b	163	576	S301	B2	漆器	漆壺	60	反	13.2	3.7	灰	竹「方向左」
23	遺 b	164	1548	S301	B3	漆器	漆壺	80	反	13.2	4.2	灰	竹「方向左」
23	遺 b	165	431	S301	D3	漆器	漆壺	70	反	13.3	3.6	灰	竹「方向左」、ゆがみ大
23	遺 b	166	549	S301	B2	漆器	漆壺	40	反	13.5	5.1	灰	上部未調整
23	遺 b	167	518	S301	A2	漆器	漆壺	90	反	13.8	3.8	灰	竹「方向左」
23	遺 b	168	1210	S301	C3	漆器	漆壺	40	反	13.9	4.5	灰	竹「方向右」、上部未調整、供ふくれ
23	遺 b	169	619	S301	B2	漆器	漆壺	60	反	13.9	3.8	灰	竹「方向左」
23	遺 b	170	1069	S301	B2	漆器	漆壺	25	反	14.0	4.6	灰	竹「方向左」
23	遺 b	171	303	S301	B2	漆器	漆壺	20	反	14.0	4.2	灰	竹「方向左」
23	遺 b	172	542	S301	B2	漆器	漆壺	30	反	14.0	3.7	灰	竹「方向左」
23	遺 b	173	462	S301	A3	漆器	漆壺	40	反	14.4	4.7	灰白	竹「方向左」
23	遺 b	174	1699	S301	B2	漆器	漆壺	60	反	14.6	4.7	灰	竹「方向右」
24	遺 b	175	602	S301	B3	漆器	漆壺	50	反	13.8	5.0	12.0	赤灰
24	遺 b	176	1808	S301	A3	漆器	漆壺	30	反	12.0	4.4	10.4	雌灰
24	遺 b	177	665	S301	B3	漆器	漆壺	20	反	12.6	11.2	灰	TK47 - MT15、竹「方向左」
24	遺 b	178	718	S301	C3	漆器	漆壺	40	反	13.6	4.5	11.6	灰白
24	遺 b	179	735	S301	C3	漆器	漆壺	10	反	14.0	12.4	灰	TK47 - MT15、竹「方向右」
24	遺 b	180	1622	S301	B2	漆器	漆壺	30	反	13.0	3.7	11.2	黑
24	遺 b	181	592	S301	B2	漆器	漆壺	10	反	14.6	12.0	灰白	MT15、竹「方向左」
24	遺 b	182	526	S301	B3	漆器	漆壺	20	反	14.0	12.0	灰	竹「方向右」
24	遺 b	183	988	S301	B3	漆器	漆壺	20	反	13.0	4.4	11.0	灰
24	遺 b	184	1096	S301	C3	漆器	漆壺	40	反	13.6	11.5	雌灰	竹「方向右」
24	遺 b	185	1646	S301	B3	漆器	漆壺	50	反	14.0	12.2	灰白	竹「方向左」
24	遺 b	186	1263	S301	D2	漆器	漆壺	30	反	14.5	11.1	褐色	尾根系、竹「方向右」
24	遺 b	187	1633	S301	B2	漆器	漆壺	40	反	13.9	11.4	灰	竹「方向右」
24	遺 b	188	630	S301	B2	漆器	漆壺	30	反	14.0	4.5	11.4	灰
24	遺 b	189	1559	S301	C3	漆器	漆壺	40	反	14.4	4.7	12.5	竹「方向右」
24	遺 b	190	548	S301	A2	漆器	漆壺	95	反	13.4	4.5	10.2	灰
24	遺 b	191	1064	S301	B2	漆器	漆壺	30	反	14.0	11.8	灰	竹「方向右」
24	遺 b	192	1895	S301	A2	漆器	漆壺	95	反	14.2	5.2	11.2	黒灰
24	遺 b	193	498	S301	B2	漆器	漆壺	90	反	14.6	4.7	11.4	竹「方向右」

Fig.	層位	標号	取上番号	遺構	グリット	種別	縦幅	反幅	厚さ	高さ	口径	色調	備考			
													横幅	底幅		
24	遺 b	194	355	S001	B2	須恵器	片舟	50	反	14.6	3.9	12.0	灰	竹口方向左		
24	遺 b	195	505・1068	S001	B2	須恵器	片舟	60	反	13.4	4.3	11.8	灰	竹口方向右		
24	遺 b	196	1023・1029	S001	B2	須恵器	片舟	40	反	13.6	4.0	11.2	灰	竹口方向左		
24	遺 b	197	542	S001	B2	須恵器	片舟	60	反	13.8	4.0	11.8	灰	竹口方向左		
24	遺 b	198	1187	S001	C3	須恵器	片舟	60	反	13.6	4.1	11.6	褐色	竹口方向右		
24	遺 b	199	1644	S001	B3	須恵器	片舟	20	反	14.0	4.1	11.8	灰	尾張系、竹口方向左		
24	遺 b	200	1675	S001	B3	須恵器	片舟	40	反	14.2	4.3	12.0	灰褐	竹口方向左		
24	遺 b	201	466	S001	B2	須恵器	片舟	95		14.7	4.1	11.6	灰	竹口方向左		
24	遺 b	202	1221	S001	B2	須恵器	片舟	40		14.2	4.3	11.9	灰	竹口方向左		
24	遺 b	203	486	S001	B3	須恵器	片舟	90		14.6	4.4	12.6	灰	竹口方向左		
24	遺 b	204	586	S001	B2	須恵器	片舟	40	反	14.4	3.7	12.4	灰	竹口方向右		
24	遺 b	205	1530	S001	B2	須恵器	片舟	100		14.4	2.7	12.2	灰	竹口方向左		
24	遺 b	206	1093	S001	C2	須恵器	片舟	50	反	14.4	4.2	11.6	灰	竹口方向左		
24	遺 b	207	1025	S001	B2	須恵器	片舟	70		14.5	4.6	11.8	灰	竹口方向左		
24	遺 b	208	831	S001	C3	須恵器	片舟	20	反	14.7	4.0	13.1	灰褐	竹口方向左		
24	遺 b	209	1288	S001	D3	須恵器	片舟	70		14.8	4.5	12.6	灰白	竹口方向左		
24	遺 b	210	1548	S001	B3	須恵器	片舟	20	反	14.8	4.2	13.0	灰	竹口方向左		
24	遺 b	211	484	S001	B3	須恵器	片舟	60		15.0	4.8	12.8	灰白	竹口方向左		
24	遺 b	212	431	S001	D3	須恵器	片舟	50		15.0	3.9	13.8	灰	竹口方向右		
24	遺 b	213	519	S001	A2	須恵器	片舟	40	反	15.0		12.5	黄灰	竹口方向左		
24	遺 b	214	499	S001	B3	須恵器	片舟	90		15.2	4.2	13.0	灰	竹口方向右		
24	遺 b	215	1652	S001	B3	須恵器	片舟	40	反	15.2	4.3	13.0	灰	竹口方向左		
24	遺 b	216	1047	S001	B2	須恵器	片舟	100		15.2	5.4	13.0	灰	竹口方向左		
24	遺 b	217	1951	S001	B2	須恵器	片舟	40	反	15.4	3.7	13.2	灰	竹口方向左		
24	遺 b	218	569	S001	B2	須恵器	片舟	70		15.4	4.1	13.2	灰	竹口方向左		
24	遺 b	219	1555	S001	C3	須恵器	片舟	30		15.6	4.9	13.4	褐色	竹口方向左		
24	遺 b	220	1585	S001	C3	須恵器	片舟	50	反	15.6	4.6	13.0	褐色	竹口方向左		
24	遺 b	221	1149	S001	C2	須恵器	片舟	40		16.0	5.2	13.3	灰	竹口方向左		
24	遺 b	222	590	S001	B2	須恵器	片舟	20	反	16.6	4.0	14.2	灰	竹口方向左		
25	遺 b	223	1693	S001	B3	須恵器	高环	90		13.6	5.5	11.8	灰	竹口方向左		
25	遺 b	224	1275	S001	C3	須恵器	高环	70		12.9	10.4	10.7	褐色	TK22, 部位5.3, 3.3.5方向、竹口方向		
25	遺 b	225	1697	S001	A3	須恵器	高环	60					自然釉	TK208, 2.3.2方向、全面自然釉		
25	遺 b	226	1885	S001	B2	須恵器	高环	10	反			15.0	灰	自然釉		
25	遺 b	227	901	S001	B3	須恵器	高环	90					竹口5.6, 断面12.0, 竹口4方向			
25	遺 b	228	1871	S001	B3	須恵器	高环	10					断面1.2, 竹口4方向			
25	遺 b	229	1565	S001	C3	須恵器	高环	20					竹口4.0方向、全面自然釉			
25	遺 b	230	1258	S001	C3	須恵器	高环	5					明灰			
25	遺 b	231	999	S001	B3	須恵器	高环	10	反				竹口5.6, 断面1.2, 断面10.2			
25	遺 b	232	1498	S001	A3	須恵器	高环	30					断面1.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	233	1260	S001	D3	須恵器	高环	50	反	13.6	10.5	11.5	灰	竹口5.6, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	234	1855	S001	C3	須恵器	高环	70		13.4	9.9		明灰	竹口5.6, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	235	960	S001	B3	須恵器	高环	10					竹口5.6, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	236	587	S001	B2	須恵器	高环	10					竹口5.6, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	237	431	S001	D3	須恵器	高环	30					全面自然釉			
25	遺 b	238	1065	S001	B2	須恵器	高环	40					竹口4.4, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	239	956	S001	B3	須恵器	高环	10	反				自然釉			
25	遺 b	240	563	S001	A2	須恵器	高环	30					竹口4.8, 自然釉, 竹口方向右			
25	遺 b	241	1540	S001	B3	須恵器	高环	40	反				自然釉			
25	遺 b	242	1540	S001	B2	須恵器	高环	40					竹口4.5, 断面10.4, 自然釉			
25	遺 b	243	1677	S001	B3	須恵器	高环	10					竹口4.2, 断面10.4			
25	遺 b	244	1534	S001	A3	須恵器	高环	20					竹口4.4, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	245	1267	S001	C2	須恵器	高环	20					自然釉			
25	遺 b	246	1281	S001	D1	須恵器	高环	40	反	14.0	6.4		竹口4.8, 自然釉, 竹口方向右			
25	遺 b	247	1555	S001	B3	須恵器	高环	10					断面1.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	248	1552	S001	E1	須恵器	高环	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	249	1003	S001	B2	須恵器	高环	10	反				竹口4.4, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	250	547	S001	A2	須恵器	高环	5					竹口4.2, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	251	1500	S001	C3	須恵器	高环	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	252	1167	S001	B3	須恵器	高环	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	253	1644	S001	B3	須恵器	高环	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	254	795	S001	D3	須恵器	高环	100		18.3	18.1	10.4	灰	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	255	611	S001	B2	須恵器	高环	100		11.4	3.4	8.2	灰	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	256	1285	S001	D3	須恵器	長颈甕	5	反				竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	257	956	S001	B3	須恵器	長颈甕	10	反				竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	258	625	S001	B2	須恵器	長颈甕	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	259	943	S001	C3	須恵器	長颈甕	10	反				竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	260	1445・1302	S001	C3	須恵器	長颈甕	80		13.0		9.9	褐色	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	261	618	S001	B2	須恵器	長颈甕	70	反	14.0	14.5	10.6	灰白	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	262	1024	S001	B2	須恵器	長颈甕	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	263	1023	S001	B2	須恵器	長颈甕	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	264	1094	S001	C3	須恵器	長颈甕	90		9.0	5.0	8.4	褐色	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	265	1063	S001	B2	須恵器	長颈甕	10	反	10.8		10.0	灰	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	266	1694	S001	B3	須恵器	長颈甕	40	反	11.5			褐色	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	267	1173	S001	C3	須恵器	長颈甕	10	反	13.1		11.1	褐色	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	268	457	S001	A3	須恵器	長颈甕	20	反	14.5		9.9	灰白	竹口4.0, 断面1.2, 方向		
25	遺 b	269	1891	S001	B2	須恵器	長颈甕	60					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	270	629	S001	B2	須恵器	長颈甕	40					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	271	1872	S001	C3	須恵器	長颈甕	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	272	1176	S001	C3	須恵器	長颈甕	30					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	273	915	S001	B2	須恵器	長颈甕	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	274	954	S001	B3	須恵器	長颈甕	10					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	275	227	S001	A2	須恵器	櫛瓶	30					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	276	768	S001	D2	須恵器	櫛瓶	20					竹口4.0, 断面1.2, 方向			
25	遺 b	277	1223	S001	C3	須恵器	櫛瓶	60					竹口4.0, 断面1.2, 方向			

出土遺物観察表

Fig.	層位	通号	取上番号	遺構	グリット	種別	高さ	反転	器種	基部	口径	色調	備考
26	層b	276	1646	S001	B3	須恵器	壺	10	反	8.4	黄灰	小型品酒器、器物須恵器。	
26	層b	279	505	S001	B3	須恵器	把手付壺	10	反		灰	自然鉄	
26	層b	280	482	S001	B3	須恵器	把手付壺	10	反		灰	蓋台ないし斜面壺	
27	層b	281	1007	S001	B3	須恵器	壺	30			42.9	灰	縦径 30.6
27	層b	282	1865	S001	B2	須恵器	壺	10	反		36.2	灰	TK206、縦横き後底状文
27	層b	283	624	S001	B2	須恵器	壺	10	反		33.1	灰	縦横き後底状文。
27	層b	284	1002	S001	B3	須恵器	壺	10	反		40.0	灰明	
27	層b	285	1671	S001	A3	須恵器	壺	5			38.8	暗灰	
27	層b	286	508・531	S001	A2・B2	須恵器	壺	5	反		38.0	暗灰	口縁外面自然鉄、内面灰
27	層b	287	666	S001	B3	須恵器	壺	5	反		36.0	暗青灰	口縁内面3H
27	層b	288	1676	S001	B3	須恵器	壺	10	反		21.4	暗灰	
27	層b	289	457	S001	A3	須恵器	壺	5	反		22.6	灰	
27	層b	290	1024	S001	B2	須恵器	壺	10	反		24.0	灰	縦径 19.0
27	層b	291	1041	S001	B3	須恵器	壺	10	反		22.8	暗灰	縦径 17.5
27	層b	292	1652	S001	B3	須恵器	壺	10	反		17.6	暗灰	縦径 15.2、外縁付耳
27	層b	293	1960	S001	A2	須恵器	壺	5			24.2	灰	
28	層b	294	1673	S001	A3	土師器	内甕平	30	反	13.2	3.8	12.8	にぶい裡 部落静止H
28	層b	295	530	S001	A2	土師器	内甕平	40	反	12.0	5.2	11.2	裡
28	層b	296	550・544	S001	B2	土師器	内甕平	30	反	12.0	4.2	11.0	赤裡
28	層b	297	1675	S001	B3	土師器	内甕平	20		12.0	5.7		にぶい裡
28	層b	298	463	S001	B2	土師器	内甕平	30	反	12.4	4.2	11.6	浅内裡
28	層b	299	1890	S001	B2	土師器	内甕平	100		12.4	5.1	12.0	明赤裡
28	層b	300	1676	S001	B3	土師器	内甕平	30	反		12.6		裡
28	層b	301	982	S001	B3	土師器	内甕平	80		12.7	5.8	12.2	裡
28	層b	302	1696	S001	B3	土師器	内甕平	40		13.0	5.6	12.2	にぶい裡
28	層b	303	1677	S001	B3	土師器	内甕平	30	反	13.0		11.7	裡
28	層b	304	983	S001	B3	土師器	内甕平	20	反		13.4		裡
28	層b	305	1045	S001	B3	土師器	内甕平	90		13.4	4.8		裡
28	層b	306	1257	S001	C3	土師器	内甕平	20	反	13.6	4.9	13.0	淡裡
28	層b	307	642	S001	B3	土師器	内甕平	20	反		13.6		裡
28	層b	308	948	S001	B3	土師器	内甕平	20	反		13.6	5.7	口縁部保有
28	層b	309	548	S001	A2	土師器	内甕平	30	反		13.8		裡
28	層b	310	1672	S001	A2	土師器	内甕平	40	反	14.0	0	4.6	13.6
28	層b	311	1820	S001	B3	土師器	内甕平	30	反	14.0		13.6	にぶい裡
28	層b	312	1543	S001	B3	土師器	内甕平	40		14.0	4.0		裡
28	層b	313	554	S001	B2	土師器	内甕平	40	反		14.2		裡
28	層b	314	1675	S001	B3	土師器	内甕平	70	反	14.9	6.2	13.1	裡
28	層b	315	964	S001	C2	土師器	内甕平	40	反	15.8	3.5		木葉痕
28	層b	316	606	S001	B3	土師器	台形錐	60		13.6	5.0		にぶい葉模
28	層b	317	1283	S001	D3	土師器	台形錐	50		14.0			にぶい葉模 木葉痕。ひづみ大
28	層b	318	1033	S001	B3	土師器	台形錐	80		12.6	5.7		にぶい葉模
28	層b	319	1833	S001	A3	土師器	台形錐	40	反	13.2	6.0		にぶい葉模
28	層b	320	612	S001	B2	土師器	台形錐	80		12.6	7.5		にぶい葉模
28	層b	321	934	S001	B2	土師器	横斜井	10	反	17.2			にぶい裡 横斜井。精良品。預定系?
28	層b	322	1076	S001	C3	土師器	横斜井	20	反	15.4			にぶい裡 全面赤彩。底部静止H
28	層b	323	557	S001	B2	土師器	横斜井	20	反	14.8			赤裡 全面赤彩
28	層b	324	1586	S001	C3	土師器	横斜井	60		15.2	4.8		裡
28	層b	325	534	S001	A2	土師器	横斜井	5	反	14.4			裡
28	層b	326	457	S001	A2	土師器	横斜井	40	反	14.4			浅内裡
28	層b	327	546	S001	A2	土師器	横斜井	40	反	13.8	3.9		裡
28	層b	328	1679	S001	B3	土師器	横斜井	30		14.0			にぶい裡
28	層b	329	470・593	S001	B2	土師器	横斜井	30	反	14.2		13.2	浅内裡
28	層b	330	540	S001	B3	土師器	横斜井	20	反	13.0		12.0	裡
28	層b	331	1944	S001	C3	土師器	横斜井	20	反	13.0		12.0	泥裡
28	層b	332	1537	S001	B3	土師器	横斜井	30	反	13.0	5.0	11.4	裡
28	層b	333	1648	S001	B3	土師器	横斜井	20	反	14.0		12.2	裡
28	層b	334	578	S001	B2	土師器	横斜井	50	反	14.0		12.0	泥裡
28	層b	335	1541	S001	B3	土師器	横斜井	20	反	14.1		12.2	裡
28	層b	336	1211	S001	C3	土師器	横斜井	50	反	14.2	3.9	12.5	裡
28	層b	337	566	S001	B2	土師器	横斜井	40	反	14.2		12.6	泥裡
28	層b	338	1049	S001	B3	土師器	横斜井	50	反	14.2	4.8	13.0	裡
28	層b	339	457	S001	A3	土師器	横斜井	30	反	14.8		12.6	裡
28	層b	340	457	S001	A3	土師器	横斜井	20	反	15.0		12.2	裡
28	層b	341	1690	S001	B3	土師器	有施部高窓	100		15.8	12.4		にぶい高窓 5C、脚径 8.9、内面煤付箒
28	層b	342	1531	S001	B3	土師器	有施部高窓	60		17.0	10.8		にぶい高窓 5C、脚径 8.0
28	層b	343	1044	S001	B3	土師器	有施部高窓	70					にぶい高窓 5.3
28	層b	344	966	S001	B3	土師器	有施部高窓	50					脚径 3.0、脚径 8.9
28	層b	345	1013	S001	B3	土師器	有施部高窓	40					脚径 4.8、脚径 9.6
28	層b	346	661	S001	B2	土師器	有施部高窓	100		15.0	10.2		脚径 3.0、脚径 9.4
28	層b	347	944・943	S001	B3	土師器	有施部高窓	60		15.6	11.3		脚径 3.7、脚径 10.6
28	層b	348	492	S001	A3	土師器	有施部高窓	95		16.0	12.2		脚径 3.4、脚径 10.7
28	層b	349	1882	S001	B2	土師器	有施部高窓	30	反	16.2	10.0		脚径 2.8、脚径 9.0
28	層b	350	964	S001	C2	土師器	有施部高窓	20	反		14.6		裡
28	層b	351	1881	S001	B2	土師器	有施部高窓	60			14.6		裡
28	層b	352	1522	S001	A3	土師器	有施部高窓	20			14.6		にぶい裡
28	層b	353	1672	S001	A3	土師器	有施部高窓	40			14.6		にぶい裡
28	層b	354	1677	S001	B3	土師器	有施部高窓	20	反		14.6		全面煤付箒
28	層b	355	1812	S001	B3	土師器	有施部高窓	20	反		14.6		にぶい裡
28	層b	356	1672	S001	A3	土師器	有施部高窓	20	反		14.6		にぶい裡
28	層b	357	1807・1834	S001	A3	土師器	有施部高窓	30			14.6		裡
28	層b	358	1670	S001	A3	土師器	有施部高窓	30	反		16.2		裡
28	層b	359	1544	S001	C3	土師器	有施部高窓	10	反		16.4		裡
28	層b	360	1611	S001	B3	土師器	有施部高窓	20	反		17.0		にぶい裡
28	層b	361	1506	S001	C3	土師器	有施部高窓	30	反		17.4		泥裡

Fig.	層位	番号	取上番号	遺構	グリット	種別	高さ	反転	器種	基部	口径	色調	備考
29	段b	362	511	S001	A2	土師器	有縫合部窓高	5	反		17.8	灰白	
30	段b	363	1035	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	70				にぶい褐	細縫径3.2、脚径9.0
30	段b	364	616	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	30	反			明黄褐	細縫径3.2、脚径10.4
30	段b	365	607	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	50	反			浅黄褐	細縫径3.6、脚径10.6
30	段b	366	1034	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	60				にぶい黄褐	細縫径3.2
30	段b	367	1946	S001	C3	土師器	有縫合部窓高	40				淡棕	細縫径2.7、脚径7.6
30	段b	368	1832	S001	A3	土師器	有縫合部窓高	40				棕	細縫径2.6、脚径7.4
30	段b	369	1583	S001	C3	土師器	有縫合部窓高	40				棕	細縫径3.1、脚径7.6
30	段b	370	1834	S001	A3	土師器	有縫合部窓高	40				にぶい黄褐	細縫径4.0、脚径7.6
30	段b	371	1861	S001	A2	土師器	有縫合部窓高	20				にぶい褐	細縫径2.5、脚径8.8
30	段b	372	1819	S001	A2	土師器	有縫合部窓高	20				棕	細縫径2.8、脚径9.0
30	段b	373	1004	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	30				浅黄褐	細縫径0
30	段b	374	608	S001	A3	土師器	有縫合部窓高	50				浅黄褐	細縫径1
30	段b	375	607	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	30				浅黄褐	細縫径3.4、脚径9.2
30	段b	376	948	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	30				浅黄褐	細縫径4.0、脚径7.2
30	段b	377	555	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	40				にぶい褐	細縫径2.5、脚径7.4
30	段b	378	517	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	30				にぶい褐	細縫径3.6、脚径7.4
30	段b	379	1677	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	40				棕	細縫径3.2、脚径7.4
30	段b	380	637	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	40				浅黄褐	細縫径3.2、脚径7.5
30	段b	381	1825	S001	A2	土師器	有縫合部窓高	30				棕	細縫径3.4、脚径7.6
30	段b	382	944	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	20				棕	細縫径3.0、脚径6.6
30	段b	383	1807	S001	A3	土師器	有縫合部窓高	50				棕	細縫径3.2、脚径7.7
30	段b	384	1235	S001	D2	土師器	有縫合部窓高	0				にぶい黄褐	細縫径3.2、脚径9.9
30	段b	385	1020	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	30	反			にぶい褐	細縫径4.0、脚径10.6
30	段b	386	1833	S001	A3	土師器	有縫合部窓高	40				にぶい褐	細縫径3.6、脚径10.9
30	段b	387	544	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	30	反			にぶい黄	細縫径2.9、脚径10.9
30	段b	388	1871	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	40				棕	細縫径2.7、脚径10.0
30	段b	389	1070	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	30				にぶい褐	細縫径3.2、脚径10.0
30	段b	390	991	S001	E3	土師器	有縫合部窓高	10				棕	細縫径3.2、脚径10.0
30	段b	391	1625	S001	A2	土師器	有縫合部窓高	20				にぶい褐	細縫径10.5
30	段b	392	1855	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	20				にぶい黄	細縫径10.3
30	段b	393	1545	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	40				棕	細縫径4.8、脚径10.4
30	段b	394	1620	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	30				棕	細縫径2.8、脚径10.4
30	段b	395	1624	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	30				棕	細縫径5.6、脚径10.4
30	段b	396	1671	S001	A3	土師器	有縫合部窓高	30				棕	細縫径3.9、脚径10.5
30	段b	397	529	S001	A2	土師器	有縫合部窓高	20				にぶい褐	細縫径3.6、脚径8.8
30	段b	398	1590	S001	C3	土師器	有縫合部窓高	40				棕色	細縫径3.1、脚径10.7
30	段b	399	1665	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	30				黄褐	細縫径2.8、脚径11.2
30	段b	400	1029	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	20				棕	細縫径3.5、脚径11.3
30	段b	401	1182	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	30				棕	細縫径3.6、脚径11.6
30	段b	402	742	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	30				棕	細縫径3.4、脚径12.1
31	段b	403	1543	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	70	反	15.4 10.2		にぶい褐	細縫径3.4、脚径8.8
31	段b	404	590	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	40	反	12.4 9.4		にぶい褐	細縫径3.4、脚径9.0
31	段b	405	1167	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	20		12.0		棕	
31	段b	406	1565	S001	C3	土師器	長窓高基	10	反	15.0		淡棕	
31	段b	407	1281	S001	D3	土師器	長窓高基	10	反	18.2		淡棕	
31	段b	408	993	S001	B3	土師器	長窓高基	10	反	21.0		棕	
31	段b	409	1950	S001	A2	土師器	有縫合部窓高	40				にぶい褐	細縫径3.7、脚径9.0
31	段b	410	564	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	20				淡棕	細縫径2.9、脚径9.0
31	段b	411	1622	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	10	反			にぶい褐	細縫径2.3、脚径9.2
31	段b	412	462	S001	A3	土師器	有縫合部窓高	50				にぶい褐	細縫径3.7、脚径9.3
31	段b	413	471	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	20				にぶい褐	細縫径3.4、脚径9.4
31	段b	414	629	S001	B2	土師器	有縫合部窓高	20				棕	細縫径3.0、脚径9.5
31	段b	415	456	S001	A2	土師器	有縫合部窓高	20				にぶい褐	細縫径3.9、脚径10.0
31	段b	416	1658	S001	B3	土師器	有縫合部窓高	20				棕	細縫径3.8、脚径11.0
31	段b	417	460	S001	A3	土師器	長窓高基	50				棕	細縫径3.3、脚径10.9
31	段b	418	481	S001	B3	土師器	長窓高基	10				灰白	細縫径5.0、脚径12.6、外面部彩
31	段b	419	1260	S001	D3	土師器	長窓高基	30	反			黄褐	細縫径3.6、脚径12.6
31	段b	420	520	S001	A2	土師器	長窓高基	20				にぶい褐	細縫径2.6、脚径8.0
31	段b	421	1078	S001	B3	土師器	長窓高基	20				浅黄	細縫径3.8、脚径10.0、太刀共作
31	段b	422	540	S001	B3	土師器	長窓高基	20				にぶい褐	細縫径4.0、脚径11.4
31	段b	423	1546	S001	B3	土師器	長窓高基	30	反			淡棕	細縫径4.0、脚径12.2
31	段b	424	1523	S001	C3	土師器	長窓高基	50				淡棕	細縫径3.7、脚径12.3
31	段b	425	1692	S001	B2	土師器	長窓高基	40				淡棕	細縫径3.8、脚径13.8
31	段b	426	1277	S001	C3	土師器	長窓高基	40				にぶい褐	細縫径3.5、脚径13.4
31	段b	427	1282	S001	D3	土師器	長窓高基	20	反			淡棕	細縫径5.2、脚径15.6
31	段b	428	1274	S001	G3	土師器	長窓高基	30				棕	細縫径14.0
31	段b	429	1954	S001	B2	土師器	長窓高基	30	反			にぶい褐	細縫径4.8
31	段b	430	538	S001	B3	土師器	長窓高基	20	反			灰白	細縫径4.0、脚径16.0
31	段b	431	601	S001	B3	土師器	長窓高基	20				灰白	細縫径4.2
31	段b	432	624	S001	B2	土師器	長窓高基	30				棕	細縫径5.0
32	段b	433	1077	S001	C3	土師器	縫合部窓高	30		13.5 9.1		淡棕	細縫径5.0、脚径9.4
32	段b	434	938	S001	B3	土師器	縫合部窓高	60		14.6 8.1		棕	細縫径5.2、脚径9.8
32	段b	435	1552	S001	B3	土師器	縫合部窓高	70		15.0 8.6		淡棕	細縫径4.4、脚径9.8
32	段b	436	1541	S001	B3	土師器	縫合部窓高	40	反			棕	細縫径5.2、脚径9.8
32	段b	437	456	S001	A2	土師器	縫合部窓高	10	反	14.2		棕	
32	段b	438	1944	S001	C3	土師器	縫合部窓高	20	反	14.5		棕	
32	段b	439	1545	S001	B3	土師器	縫合部窓高	50		14.6		にぶい褐	細縫径5.6
32	段b	440	1633	S001	B3	土師器	縫合部窓高	40	反	15.2		黄褐	細縫径4.8
32	段b	441	1281	S001	D3	土師器	縫合部窓高	20	反	15.2		淡棕	細縫径3.8
32	段b	442	1217	S001	C3	土師器	縫合部窓高	50		15.5		黄褐	細縫径4.4、脚径9.8
32	段b	443	582 - 507	S001	B2	土師器	縫合部窓高	20	反	16.0		にぶい褐	細縫径4.2
32	段b	444	565 - 585	S001	B2	土師器	縫合部窓高	40	反	13.4 8.2		淡棕	細縫径8.8、全面赤彩(底部C)
32	段b	445	617 - 627	S001	B2	土師器	縫合部窓高	40	反	13.8 8.2		淡棕	細縫径4.9、脚径9.6

出土遺物観察表

Fig.	層位	番号	取上番号	遺物	グリット	種別	縦幅	反幅	厚さ	高さ	口径	色調	備考		
22	遺 b	446	516 - 582	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	60	14.6	9.0		浅黄緑	鉢形片 5.1, 径幅 10.2.		
22	遺 b	447	1963	S001	E2	土師器	鉢形片部高評	20	反	13.0		棕	鉢形片 4.4		
22	遺 b	448	616 - 823	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	60	反	13.2	8.0	にぶい緑	鉢形片 5.2, 径幅 9.6		
22	遺 b	449	1567	S001	C2	土師器	鉢形片部高評	10	反	14.5		棕			
22	遺 b	450	1669	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	20	反			にぶい緑	鉢形片 6.2		
22	遺 b	451	1624	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	20	反			にぶい緑	鉢形片 6.6		
22	遺 b	452	625	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	10	反			にぶい緑	鉢形片 4.8, 径幅 9.2		
22	遺 b	453	1663	S001	B3	土師器	鉢形片部高評	40				棕	鉢形片 5.2, 径幅 8.8		
22	遺 b	454	505	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	40				浅緑	鉢形片 6.0, 径幅 9.2		
22	遺 b	455	953	S001	B3	土師器	鉢形片部高評	40				棕	鉢形片 4.8, 径幅 9.2		
22	遺 b	456	546	S001	A2	土師器	鉢形片部高評	30	反			棕	鉢形片 4.2, 径幅 9.4		
22	遺 b	457	944	S001	B3	土師器	鉢形片部高評	60	反			浅黄緑	鉢形片 4.4, 径幅 9.4		
22	遺 b	458	586	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	10	反			赤褐	鉢形片 4.8, 径幅 10.0		
22	遺 b	459	585	S001	A2	土師器	鉢形片部高評	20			5.7	棕	径幅 10.0		
22	遺 b	460	636	S001	B3	土師器	鉢形片部高評	30				浅黄緑	鉢形片 10.6		
22	遺 b	461	1025	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	20	反			浅緑	鉢形片 6.0, 径幅 10.8		
22	遺 b	462	619	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	40				浅黄緑	鉢形片 5.0, 径幅 10.8		
22	遺 b	463	619	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	20	反			赤褐	鉢形片 4.6, 径幅 11.2		
22	遺 b	464	541	S001	A2	土師器	鉢形片部高評	40				にぶい黄緑	鉢形片 4.9, 径幅 10.3		
22	遺 b	465	482	S001	B3	土師器	鉢形片部高評	20				にぶい緑	鉢形片 10.2, 径幅 11.2		
22	遺 b	466	1622	S001	B2	土師器	鉢形片部高評	5	反			棕	径幅 17.2		
22	遺 b	467	975	S001	B3	土師器	二重口縁査	10	反		18.0	にぶい緑	縁幅 12.4		
22	遺 b	468	1225	S001	C2	土師器	二重口縁査	10			19.0	棕	縁幅 13.0		
22	遺 b	469	945	S001	B3	土師器	二重口縁査	10	反		16.0	にぶい緑	縁幅 12.8		
22	遺 b	470	1812	S001	B3	土師器	二重口縁査	5	反		17.0	にぶい緑	縁幅 14.6		
22	遺 b	471	1835	S001	A3	土師器	二重口縁査	5	反		16.6	浅黄緑	縁幅 14.3		
22	遺 b	472	1672	S001	A3	土師器	二重口縁査	10	反		16.6	にぶい黄緑	縁幅 13.9		
22	遺 b	473	547	S001	A2	土師器	二重口縁査	5	反		14.3	にぶい緑			
22	遺 b	474	534	S001	A2	土師器	二重口縁査	20	反		22.0	棕	縁幅 17.4		
22	遺 b	475	1015	S001	B3	土師器	折底L口縁査	10	反		15.0	にぶい黄緑	縁幅 11.6, 外面保付査		
22	遺 b	476	1823	S001	A2	土師器	折底L口縁査	5	反		16.5	にぶい緑			
22	遺 b	477	1676	S001	B3	土師器	折底L口縁査	10	反		17.6	にぶい緑	縁幅 11.0		
22	遺 b	478	470	S001	B2	土師器	折底L口縁査	10	反		18.4	にぶい黄緑	縁幅 14.4		
22	遺 b	479	1659	S001	B3	土師器	折底L口縁査	10	反		19.0	棕	縁幅 14.4		
22	遺 b	480	1661	S001	B3	土師器	折底L口縁査	5	反		21.0	棕			
22	遺 b	481	1632	S001	B2	土師器	折底L口縁査	10	反		22.0	浅緑	縁幅 18.0		
22	遺 b	482	454	S001	A2	土師器	折底L口縁査	5	反		21.6	棕	縁幅 18.3		
22	遺 b	483	550	S001	B2	土師器	折底L口縁査	10	反		17.2	にぶい黄緑	縁幅 15.3		
22	遺 b	484	1879	S001	B2	土師器	口凸査	10				にぶい緑	縁幅 5.3, 径幅 7.2		
22	遺 b	485	491	S001	A3	土師器	口凸査	90		19.8	25.2	9.2	にぶい緑	縁幅 5.3, 径幅 6.7, 逆鉢S3ノ底	
22	遺 b	486	643	S001	B3	土師器	口凸査	80		15.4	7.4	11.4	棕	縁幅 6.7, 逆鉢S3ノ底	
22	遺 b	487	539	S001	B3	土師器	口凸査	10	反		9.0	にぶい緑			
22	遺 b	488	948	S001	B3	土師器	口凸査	10	反		9.0	棕	縁幅 6.2		
22	遺 b	489	1525	S001	C3	土師器	口凸査	40	反		13.5	浅緑	縁幅 4.4		
22	遺 b	490	1666	S001	A3	土師器	口凸査	80			15.0	棕色	縁幅 6.8		
22	遺 b	491	1216	S001	B3	土師器	口凸査	70			13.1	棕	縁幅 7.7		
22	遺 b	492	1801 - 1804	S001	B2	土師器	小型査	70			6.0	黑	縁幅 6.2, 径幅 2.5		
22	遺 b	493	1894	S001	B2	土師器	小型査	100			7.2	7.4	5.2	にぶい黄緑	縁幅 4.9, 径幅 4.5
22	遺 b	494	1447	S001	C3	土師器	鉢	60		11.0	8.3	9.7	棕	縁幅 9.3	
22	遺 b	495	1671	S001	A3	土師器	鉢	40	反	14.4	12.8	にぶい黄緑	縁幅 11.0		
22	遺 b	496	992	S001	B3	土師器	鉢	50		14.6	10.5	14.4	にぶい緑	縁幅 13.5, 逆鉢保付査	
22	遺 b	497	1625	S001	B2	土師器	鉢	20	反	19.0	10.6	にぶい黄緑	縁幅 16.6, 保付査		
22	遺 b	498	1818	S001	A2	土師器	鉢	10	反	17.0	14.8	棕			
22	遺 b	499	508	S001	A2	土師器	鉢	20	反	17.0		浅黄緑			
22	遺 b	500	529	S001	A2	土師器	鉢	60		12.2	9.8	9.7	にぶい黄緑		
22	遺 b	501	1671	S001	A3	土師器	鉢	50	反	14.6	13.8	棕			
22	遺 b	502	1528	S001	B3	土師器	鉢	40	反	15.4	9.0	13.6	棕		
22	遺 b	503	695	S001	C2	土師器	鉢	40	反	16.5	13.6	棕			
22	遺 b	504	1822	S001	A2	土師器	鉢	60		17.6	8.9	棕	底鉢5.5ノ底		
22	遺 b	505	556	S001	B2	土師器	鉢	10	反	23.2		灰褐色			
22	遺 b	506	1805	S001	A2	土師器	鉢	5	反		34.4	灰褐色	縁幅 29.0		
22	遺 b	507	1486	S001	C3	土師器	鉢	60		6.5	3.5	5.7	にぶい黄緑	底鉢5.5ノ底	
22	遺 b	508	1258	S001	D3	土師器	鉢	50	反	6.5	4.1	5.7	棕	縁幅 4.2	
22	遺 b	509	1521	S001	B3	土師器	鉢	60		10.6	5.0	にぶい緑	縁幅 4.4		
22	遺 b	510	944	S001	B3	土師器	鉢	70		5.4	5.7	4.2	棕	縁幅 2.4	
22	遺 b	511	454	S001	A2	土師器	鉢	60	反	7.2	5.6	6.0	灰褐色	底鉢 4.0	
22	遺 b	512	1527	S001	B3	土師器	鉢	100		5.9	6.6	8.8	底鉢裏	底鉢 11.2	
22	遺 b	513	920	S001	D3	土師器	鉢	50	反	20.8	19.0		浅黄緑		
22	遺 b	514	1068	S001	B2	土師器	鉢	50	反	21.0			浅黄緑		
22	遺 b	515	1672	S001	A3	土師器	鉢	5	反	19.8			にぶい緑		
22	遺 b	516	512	S001	B2	土師器	鉢	10	反	10.6			にぶい緑	保付査	
22	遺 b	517	355	S001	B2	土師器	鉢	10	反	21.0			にぶい緑		
22	遺 b	518	1020	S001	B3	土師器	鉢	10	反	22.0			棕		
22	遺 b	519	1464	S001	C3	土師器	鉢	20		25.8	34.8		にぶい黄緑	外面保付査	
22	遺 b	520	1066	S001	B2	土師器	鉢	60		29.6			浅黄	底鉢 15.2	
22	遺 b	521	1556	S001	C3	土師器	鉢	10	反	23.6			棕		
22	遺 b	522	1674	S001	A3	土師器	鉢	5	反	26.0			にぶい緑		
22	遺 b	523	1822	S001	A2	土師器	鉢	30					にぶい緑	底鉢 8.6	
22	遺 b	524	1680	S001	B3	土師器	鉢	10	反				にぶい緑	底鉢 7.7	
22	遺 b	525	504	S001	B3	土師器	鉢	20					にぶい緑	底鉢 9.2, 下部保付査	
22	遺 b	526	527	S001	A2	土師器	鉢	10	反				にぶい緑	底鉢 10.6	
22	遺 b	527	506	S001	B2	土師器	鉢	10	反				にぶい緑	底鉢 11.2	
22	遺 b	528	616	S001	B2	土師器	鉢	10	反				浅黄緑	底鉢 10.6	
22	遺 b	529	458	S001	A3	土師器	鉢	5	反				にぶい緑	底鉢 15.4, 保付査	

Fig.	層位	番号	取上番号	遺構	グリット	種別	高さ	反転	側面	裏面	口径	色調	備考			
25	層b	530	545	S001	A2	土師器	板	5	反	にぶい黄緑	底径 17.6					
25	層b	531	518	S001	A2	土師器	板	5	反	黒丸	底径 17.4					
25	層b	532	1633	S001	A3	土師器	板	5		にぶい黄緑	底径 22.2					
26	層b	533	1257	S001	C3	土師器	板	10	反	灰白色	底径 14.0	中田要				
26	層b	534	1541	S001	B3	土師器	板	20	反	16.0	明黄緑	底径 13.6	中田要			
26	層b	535	683-703	S001	B3	土師器	板	70	反	13.7	16.8	13.5	にぶい黄緑	底径 4.5	底径 8.8	南関東系?
26	層b	536	1036	S001	B3	土師器	板	20	反	30.0	21.6	灰白	5C	底径 18.0	外面保付着	
26	層b	537	1832	S001	A3	土師器	板	5	反	18.6	板	底径 16.2	外面保付着			
26	層b	538	523	S001	A3	土師器	板	5	反	22.6	にぶい黄緑	底径 15.6				
26	層b	539	1492	S001	C3	土師器	板	10	反	16.5	にぶい黄緑	底径 13.2	拂子あげ口縁			
26	層b	540	1651	S001	B3	土師器	板	10	反	16.6	浅黄	底径 13.5	拂子あげ口縁			
26	層b	541	2025	S001	D5	土師器	板	50		14.8	板	底径 15.8	保付着			
26	層b	542	944	S001	B3	土師器	板	40	反	12.8	12.6	浅黄	底径 10.4	外面保付着		
26	層b	543	531	S001	B2	土師器	板	10	反		13.0	にぶい赤褐	底径 11.7			
26	層b	544	524	S001	A2	土師器	板	5	反		13.6	にぶい黄緑	底径 11.4			
26	層b	545	1671	S001	A3	土師器	板	5	反		13.6	にぶい黄緑	底径 12.7	外面保付着		
26	層b	546	1026	S001	B2	土師器	板	10			14.6	板	底径 13.0	外面保付着		
26	層b	547	541	S001	A2	土師器	板	5	反		15.0	にぶい黄緑	底径 12.7	外面保付着		
26	層b	548	481	S001	B3	土師器	板	0			15.0	浅黄	底径 13.2			
26	層b	549	454	S001	A2	土師器	板	5	反		15.2	灰黄	底径 13.1	外面保付着		
26	層b	550	534	S001	A2	土師器	板	10	反		15.2	にぶい黄緑	底径 13.4	外面保付着		
26	層b	551	614	S001	B2	土師器	板	10	反		15.2	にぶい黄緑	底径 13.3			
26	層b	552	1038	S001	B3	土師器	板	30		15.6		明灰	底径 14.1			
26	層b	553	1672	S001	A3	土師器	板	5	反		15.6	にぶい黄緑	底径 12.1	外面保付着		
26	層b	554	454	S001	A2	土師器	板	10	反		16.2	板	底径 13.2	外面保付着		
26	層b	555	1584	S001	C3	土師器	板	20			16.5	にぶい黄緑	底径 13.7	外面保付着		
37	層b	556	1879	S001	B2	土師器	板	80		23.7	33.1	18.8	地錠	底径 15.3		
37	層b	557	460	S001	A3	土師器	板	10	反		16.6	にぶい黄緑	底径 14.0			
37	層b	558	457	S001	B3	土師器	板	20	反		16.6	浅黄	底径 14.0	桜井着		
37	層b	559	634	S001	A2	土師器	板	5	反		16.8	にぶい黄緑	底径 13.5			
37	層b	560	1277	S001	C3	土師器	板	10	反		17.0	にぶい黄緑	底径 14.3			
37	層b	561	628	S001	B2	土師器	板	10	反		17.0	にぶい黄緑	底径 14.2			
37	層b	562	998	S001	B3	土師器	板	10	反		17.2	浅黄	底径 14.6			
37	層b	563	1625	S001	A2	土師器	板	5	反		17.2	にぶい黄緑	底径 15.9			
37	層b	564	1689	S001	A2	土師器	板	20			17.8	灰黄	底径 15.7			
37	層b	565	1465	S001	B3	土師器	板	20	反		17.8	灰黄	底径 14.4			
37	層b	566	961	S001	B3	土師器	板	10	反		18.0	灰黄	底径 15.6			
37	層b	567	1175	S001	C3	土師器	板	10	反		18.4	浅黄	底径 17.2	外面保付着		
37	層b	568	1209	S001	C3	土師器	板	10	反		18.4	にぶい黄緑	底径 14.4			
37	層b	569	1847	S001	C3	土師器	板	10	反		18.5	真黄	底径 16.0	外面保付着		
37	層b	570	503	S001	A3	土師器	板	10	反		19.4	板	底径 16.8	保付着		
37	層b	571	1534	S001	A3	土師器	板	10	反		19.0	地錠	底径 15.7	口部外面保付着		
37	層b	572	1025	S001	B2	土師器	板	10	反		19.0	板	底径 16.6	保付着		
37	層b	573	619	S001	B2	土師器	板	10	反		19.2	にぶい黄緑	底径 16.3			
37	層b	574	1520	S001	A3	土師器	板	20			19.2	にぶい黄緑	底径 16.4			
37	層b	575	519	S001	A2	土師器	板	10	反		19.3	灰黄	底径 16.8	保付着		
37	層b	576	534	S001	A2	土師器	板	20	反		19.8	にぶい黄緑	底径 17.5	保付着		
37	層b	577	1042	S001	B3	土師器	板	40		21.0	20.0	板	底径 17.6			
37	層b	578	520	S001	A2	土師器	板	10	反		20.0	板	底径 16.8	保付着		
37	層b	579	631	S001	B2	土師器	板	10	反		20.4	にぶい黄緑	底径 18.1			
37	層b	580	1680	S001	B3	土師器	板	10	反		20.6	にぶい黄緑	底径 17.4			
37	層b	581	589	S001	B2	土師器	板	10	反		20.6	にぶい黄緑	底径 17.7			
37	層b	582	1665	S001	B2	土師器	板	10	反		21.0	板	底径 17.0	保付着		
37	層b	583	1270	S001	D3	土師器	板	10	反		21.6	にぶい黄緑	底径 20.3			
37	層b	584	1016	S001	C3	土師器	板	10	反		22.2	浅黄	底径 17.9	外面保付着		
37	層b	585	1024	S001	B2	土師器	板	10	反		22.8	にぶい黄緑	底径 18.6			
37	層b	586	969	S001	B3	土師器	板	10	反	24.7	23.0	浅黄	底径 20.0	外面保付着		
37	層b	587	953	S001	B3	土師器	板	20	反		24.0	灰白	底径 20.6	外面保付着		
37	層b	588	511	S001	A2	土師器	板	5	反		24.0	板	底径 21.8			
37	層b	589	2024	S001	D5	土師器	板	20	反		24.2	にぶい黄緑	底径 22.1	保付着		
37	層b	590	1671	S001	A3	土師器	板	10	反	24.9		灰白	底径 23.3	外面保付着		
37	層b	591	487	S001	B3	土師器	板	40	反	28.8		灰白	底径 25.0	外面保付着		
37	層b	592	617	S001	B2	土師器	板	5	反		28.4	にぶい黄緑	底径 24.2			
37	層b	593	1672	S001	A3	土師器	板	5	反		29.6	にぶい黄緑	底径 24.7			
37	層b	594	1537	S001	B3	土師器	板	10	反		30.4	浅黄	底径 26.8			
37	層b	595	1022	S001	B2	土師器	板	10	反		31.0	にぶい黄緑	底径 29.6	保付着		
37	層b	596	1651	S001	B3	土師器	板	20	反	32.0	31.0	灰黄	底径 29.6	外面保付着		
37	層b	597	1550	S001	B3	土師器	板	20	反		31.8	浅黄	底径 28.6			
37	層b	598	1020	S001	B3	土師器	板	30	反	33.4		にぶい黄緑	底径 30.8	外面保付着		
40	層b	599	495	S001	B3	土師器	大型板	20	反	33.8		灰白	底径 29.6	外面保付着		
40	層b	600	457	S001	A3	土師器	大型板	5	反		33.6	にぶい黄緑	底径 30.1			
40	層b	601	1064	S001	B2	土師器	大型板	5	反		37.2	にぶい黄緑	底径 32.6	保付着		
40	層b	602	1073-1176	S001	C2-C3	土師器	大型板	30			40.0	にぶい黄緑	底径 35.3	外蓋一部ガ		
40	層b	603	1622	S001	B2	土師器	大型板	10	反		42.0	にぶい黄緑	底径 39.0	保付着		
40	層b	604	555	S001	B2	土師器	板	10				浅黄	底径 4.0	木蓋底、駆河系?		
40	層b	605	1691	S001	B3	土師器	板	20				にぶい黄緑	底径 6.0	木蓋		
40	層b	606	1540	S001	B3	土師器	板	20				にぶい黄緑	底径 6.0	木蓋底、外蓋保付着		
40	層b	607	1665	S001	B2	土師器	板	10	反			にぶい黄緑	底径 4.0	底付保付		
41	層b	608	640	S001	B3	土師器	板	10				灰黄	底径 5.2	底付保付		
41	層b	609	977	S001	B3	土師器	板	10				にぶい黄緑	底径 7.0	内蓋保付		
41	層b	610	540	S001	B3	土師器	板	10				板	底径 9.1	掛け旗		
41	層b	611	1563	S001	C3	土師器	板	30				にぶい黄緑	底径 4.7	底付		
41	層b	612	445	S001	A2	土師器	板	20				黄灰	底径 6.2	底付		
41	層b	613	1551	S001	B3	土師器	板	10				板	底径 7.5	底付 15.0		

出土遺物観察表

Fig.	層位	番号	取上番号	遺物	グリット	種別	縦幅	反転	側面	端高	口径	色調	備考
41	Ⅳb	614	1867	S001	B2	土師器	縦	30				灰褐色	縦隔壁 5.8, 底径 11.2
41	Ⅳb	615	519	S001	A2	土師器	縦	30				灰青	縦隔壁 6.2, 底径 11.3
41	Ⅳb	616	1675	S001	B3	土師器	縦	20				にぶい褐	縦隔壁 5.4, 底径 11.6
41	Ⅳb	617	506	S001	B2	土師器	縦	30				灰褐色	縦隔壁 6.6, 底径 13.2
41	Ⅳb	618	1905	S001	C3	土師器	縦	30				淡褐色	縦隔壁 7.8, 底径 14.2
41	Ⅳb	619	832	S001	C3	土師器	縦	30				真土	縦隔壁 7.4, 底径 14.3
41	Ⅳb	620	1632	S001	B2	土師器	縦	30				にぶい褐	縦隔壁 4.0, 底径 8.8
41	Ⅳb	621	567	S001	B2	土師器	縦	30				灰褐色	縦隔壁 7.2, 底径 13.9
41	Ⅳb	622	521	S001	A2	土師器	縦	30				灰青褐色	縦隔壁 5.7, 底径 11.2
41	Ⅳb	623	471	S001	B2	土師器	縦	30				にぶい黄褐色	縦隔壁 5.3, 底径 14.2
41	Ⅳb	624	1251	S001	C3	土師器	縦	40				にぶい黄褐色	縦隔壁 7.3, 底径 15.0
41	Ⅳb	625	1548	S001	B3	土師器	縦	20				にぶい黄褐色	縦隔壁 9.5, 底径 14.1
41	Ⅳb	626	1657	S001	B3	土師器	縦	5				暗灰	高溫成形・発泡
41	Ⅳb	627	542	S001	B2	土師器	縦	5				黄灰	経年・使用痕
41	Ⅳb	628	1695	S001	B3	土製品	支脚						
41	Ⅳb	629	1651	S001	B3	土製品	支脚						浅褐色
41	Ⅳb	630	1562	S001	C3	土製品	支脚						にぶい褐
41	Ⅳb	631	1869	S001	B2	土製品	支脚						にぶい黄褐色
41	Ⅳb	632	540	S001	B3	土製品	支脚						泥質
42	Ⅳb	633	1229	S001	C3	ガラス製品	小玉	100	0.3	0.2		紺色	0.1g 朱湯の為計測不能。縫型法
42	Ⅳb	634	561	S001	B2	ガラス製品	小玉	100	0.4	0.2		緑色	0.1g 朱湯の為計測不能。縫型法
42	Ⅳb	635	1913	S001	B2	ガラス製品	小玉	100	0.5	0.3		水色	0.1g 朱湯の為計測不能。縫型法、気泡
42	Ⅳb	636	1593	S001	B2	石製品	臼丸	100	0.6	0.2		緑灰	0.2g、津波
42	Ⅳb	637	926	S001	B2	石製品	臼丸	100	0.8	0.5		黒	0.5g、蛇紋岩
42	Ⅳb	638	1591	S001	B2	石製品	臼玉	100	0.9	0.6		緑灰	0.6g、津波
42	Ⅳb	639	1590	S001	B2	ガラス製品	臼玉	100	0.8	0.7		紺色	0.5g、縫型法、面有り
42	Ⅳb	640	923	S001	B2	石製品	菅晋	100	0.8	2.2	0.7	墨綠	1.9g、蛇紋岩
42	Ⅳb	641	1592	S001	B2	石製品	菅晋	100	0.9	2.2	0.9	墨綠	3.4g、碧玉
42	Ⅳb	642	935	S001	B2	石製品	菅晋	100	0.9	2.8	0.9	深緑	3.5g、碧玉
42	Ⅳb	643	999	S001	B3	土製品	筋縫陶	50	3.5	1.8			にぶい褐
42	Ⅳb	644	1238	S001	C3	土製品	筋縫陶	100	4.3	2.7			10.9g
42	Ⅳb	645	553	S001	B2	土製品	土罐	100	6.0	8.1	2.1		にぶい黄褐色
42	Ⅳb	646	1928	S001	B2	土製品	土罐	95	1.8	4.8			にぶい黄褐色
42	Ⅳb	647	1180	S001	C3	土製品	土罐	30	4.0	4.9			にぶい黄褐色
42	Ⅳb	648	1489	S001	C3	土製品	土罐	50	3.6	5.2			54.1g
42	Ⅳb	649	1075	S001	C3	土製品	土罐	50	3.0	5.6			灰褐色
42	Ⅳb	650	1076	S001	C3	土製品	土罐	40	3.8	4.2			にぶい黄褐色
42	Ⅳb	651	1165	S001	C2	土製品	土罐	30	3.5				褐色
42	Ⅳb	652	507	S001	B3	酒滓壺	片身	20					反
42	Ⅳb	653	515	S001	B3	鐵製品	鉄片						全面錆痕
42	Ⅳb	654	1175	S001	C3	土製品							赤色 4.0、泥質、内部・断面に津波、矢印方向右
42	Ⅳb	655	644	S001	B3	土製品							内径 2.6、厚 2.0、重 20.6g、羽口付着
42	Ⅳb	656	1874	S001	B2	土製品		10	5.0				内径 2.0
42	Ⅳb	657	1549	S001	B3	鐵製品	鐵片		4.5	5.7	1.8		内径 2.4
42	Ⅳb	658	1682	S001	B3	石製品	砾石		2.4	5.1	1.7		29.3g
42	Ⅳb	659	1030	S001	B2	石製品	砾石		3.6	4.5	3.3		25.9g、基底岩、擾乱
42	Ⅳb	660	558	S001	A2	石製品	砾石		3.9	7.6	2.2		65.1g、基底岩
42	Ⅳb	661	23	S001	C3	石製品	砾石		3.7	5.5	3.2		20.2g、基底岩
42	Ⅳb	662	1073	S001	C2	石製品	砾石		6.9	7.4	4.8		268.3g、基底岩
42	Ⅳb	663	1173	S001	C3	石製品	砾石		5.7	9.5	3.5		151.2g、基底岩
42	Ⅳb	664	13	S001	A3	石製品	砾石		5.6	11.8	3.7		207.0g、基底岩
42	Ⅳb	665	1145	S001	C2	石製品	砾石		6.1	10.3	5.2		312.2g、基底岩
42	Ⅳb	666	627	S001	B2	石製品	砾石		8.0	11.2	5.3		642g、基底岩
42	Ⅳb	667	1145	S001	C2	石製品	砾石		7.0	12.8	5.5		505.9g、基底岩
42	Ⅳb	668	1543	S001	B3	石製品	砾石		6.6	15.8	3.7		356.8g、基底岩
42	Ⅳb	669	1285	S001	B3	石製品	砾石		7.5	16.9	4.5		832g、基底岩
42	Ⅳb	670	1867	S001	B2	石製品	印叩		5.2	13.2	4.6		475.3g、薄壁
47	Ⅳa	1	600	S001	B3	漆器	片蓋	30	14.0			褐色	矢印方向左
47	Ⅳa	2	459	S001	A3	漆器	片蓋	80	14.8	5.3		褐色	矢印方向左
47	Ⅳa	3	301	S001	B3	漆器	片蓋	70	14.8	4.7		褐色	矢印方向左
47	Ⅳa	4	666	S001	B3	漆器	片蓋	20	15.0			皮	
47	Ⅳa	5	1289	S001	D3	漆器	片蓋	20	14.6			皮	
47	Ⅳa	6	1219	S001	C3	漆器	片蓋	50	14.5	3.9		皮	矢印方向左
47	Ⅳa	7	756	S001	C3	漆器	片蓋	40	14.5			皮	矢印方向左、僅くぶくれ、ゆがみ
47	Ⅳa	8	1849	S001	E3	漆器	片蓋	10	14.5			皮	矢印方向右
47	Ⅳa	9	301	S001	B2	漆器	片蓋	20	14.4			皮	矢印方向左
47	Ⅳa	10	448	S001	A2	漆器	片蓋	40	14.2	4.4		褐色	上部未調整
47	Ⅳa	11	649	S001	B3	漆器	片蓋	20	14.0			皮	矢印方向左
47	Ⅳa	12	1952	S001	D3	漆器	片蓋	60	14.0	4.3		褐色	矢印方向右
47	Ⅳa	13	792	S001	E3	漆器	片蓋	20	14.0			皮	矢印方向右
47	Ⅳa	14	1846	S001	D3	漆器	片蓋	10	13.8			皮	矢印方向右
47	Ⅳa	15	663	S001	B3	漆器	片蓋	10	13.6			皮	矢印方向右
47	Ⅳa	16	1849	S001	E3	漆器	片蓋	40	13.8			皮	矢印方向右
47	Ⅳa	17	308	S001	B2	漆器	片蓋	70	13.4	4.2		褐色	矢印方向右
47	Ⅳa	18	1837	S001	D3	漆器	片蓋	20	13.4	4.4		褐色	矢印方向左
47	Ⅳa	19	418	S001	A3	漆器	片蓋	70	13.4	5.0		褐色	矢印方向左
47	Ⅳa	20	1179	S001	C3	漆器	片蓋	30	13.0	5.0		皮	
47	Ⅳa	21	1099	S001	C3	漆器	片蓋	90	12.9	4.6		皮	
47	Ⅳa	22	634	S001	B3	漆器	片蓋	100	12.8	3.9		皮	上部未調整
47	Ⅳa	23	1263	S001	D2	漆器	片蓋	30	12.6			皮	矢印方向左
47	Ⅳa	24	717	S001	B3	漆器	片蓋	60	12.8	4.5		皮	矢印方向右
47	Ⅳa	25	707	S001	C3	漆器	片蓋	30	12.6			皮	矢印方向右
47	Ⅳa	26	756	S001	C3	漆器	片蓋	60	12.5			皮	矢印方向右
47	Ⅳa	27	663	S001	B3	漆器	片蓋	40	12.4			皮	矢印方向左

Fig.	部位	番号	取上番号	遺物	グリット	種別	縦幅	反幅	厚さ	高さ	口径	色調	備考		
47	Vn_a	28	660	S001	C3	須恵器	片面	80	12.4	4.7	灰	竹口方向右、△記号			
47	Vn_a	29	736	S001	C3	須恵器	片面	30	反	12.2	灰白				
47	Vn_a	30	1813	S001	E3	須恵器	片面	20	反	12.0	灰	竹口方向左			
47	Vn_a	31	1291	S001	D3	須恵器	片面	20	反	12.0	灰	竹口方向左			
47	Vn_a	32	1299	S001	D3	須恵器	片面	10	反	12.0	灰	竹口方向左			
47	Vn_a	33	694	S001	C2	須恵器	片面	60	11.8	3.4	灰	竹口方向右			
47	Vn_a	34	596	S001	B3	須恵器	片面	50	11.8		灰白	竹口方向左			
47	Vn_a	35	1170	S001	C2	須恵器	片面	40	反	11.8	4.1	灰白	竹口方向左、上部未調整		
47	Vn_a	36	1291	S001	D3	須恵器	片面	20	反	11.8	4.0	11.4	灰	竹口方向右、佛ぶくれ	
47	Vn_a	37	430	S001	D3	須恵器	片面	20		12.0	灰	竹口方向右、上部未調整			
47	Vn_a	38	291	S001	B3	須恵器	片面	100		11.7	4.1	灰	竹口方向右、△記号		
47	Vn_a	39	1534	S001	A3	須恵器	片面	30	反	11.8	4.6	灰黒	竹口方向右		
47	Vn_a	40	1849	S001	E3	須恵器	片面	20	反	11.6	灰	竹口方向右、内面佛ぶくれ			
47	Vn_a	41	659	S001	C2	須恵器	片面	90	11.6		灰	△記号			
47	Vn_a	42	786	S001	D3	須恵器	片面	30	反	11.6	4.4	緑灰	竹口方向右、外側自然輪		
47	Vn_a	43	453	S001	A2	須恵器	片面	30	反	11.6	灰				
47	Vn_a	44	429	S001	D3	須恵器	片面	20	反	11.6	灰				
47	Vn_a	45	463	S001	A3	須恵器	片面	40	反	11.4	3.8	灰	竹口方向左		
47	Vn_a	46	1295	S001	D3	須恵器	片面	50	反	11.2	4.3	灰	竹口方向左、△記号		
47	Vn_a	47	1170	S001	C2	須恵器	片面	40	反	11.2	4.3	灰	竹口方向右		
47	Vn_a	48	655	S001	B2	須恵器	片面	30		11.1	4.6	明褐灰	竹口方向右		
47	Vn_a	49	1293	S001	D3	須恵器	片面	20	反	11.0	3.2	灰	竹口方向右		
47	Vn_a	50	1443	S001	D3	須恵器	片面	30	反	11.0	4.6	灰	竹口方向右、自然輪		
47	Vn_a	51	1250	S001	C2	須恵器	片面	30	反	11.2	4.3	11.0 にふり模			
47	Vn_a	52	1844	S001	D3	須恵器	片面	30	反	11.0	3.7	灰白	竹口方向右		
48	Vn_a	53	1930	S001	B3	須恵器	片面	20	反	11.0	3.5	緑灰	竹口方向左		
48	Vn_a	54	802	S001	D3	須恵器	片面	90		10.8	3.5	灰白	竹口方向右		
48	Vn_a	55	1291	S001	D3	須恵器	片面	20	反	10.8	3.7	灰			
48	Vn_a	56	1641	S001	D3	須恵器	片面	20	反	10.8		灰			
48	Vn_a	57	1928	S001	D3	須恵器	片面	80		10.8	4.4	灰	竹口方向左、△記号		
48	Vn_a	58	645	S001	B3	須恵器	片面	90		10.8	4.1	灰	竹口方向左		
48	Vn_a	59	1840	S001	D3	須恵器	片面	70		10.8	3.9	黄灰	竹口方向左、佛ぶくれ		
48	Vn_a	60	1291	S001	D2	須恵器	片面	40	反	10.8	4.5	緑灰	竹口方向右		
48	Vn_a	61	645	S001	B3	須恵器	片面	30		10.8		灰	竹口方向左、佛ぶくれ		
48	Vn_a	62	1649	S001	D3	須恵器	片面	30	反	10.8		灰	佛ぶくれ		
48	Vn_a	63	1291	S001	D2	須恵器	片面	40	反	10.8	4.1	灰	竹口方向左		
48	Vn_a	64	1433	S001	D3	須恵器	片面	60		10.6	3.9	上部未調整			
48	Vn_a	65	418	S001	A3	須恵器	片面	60	反	10.6	4.1	灰	竹口方向左、△記号		
48	Vn_a	66	1813	S001	E3	須恵器	片面	40	反	10.6	4.2	灰	竹口方向右、△記号		
48	Vn_a	67	784	S001	B3	須恵器	片面	40	反	10.6		灰			
48	Vn_a	68	817	S001	D3	須恵器	片面	30	反	10.6		緑灰			
48	Vn_a	69	786	S001	D3	須恵器	片面	20	反	10.4	4.7	灰白	上部未調整、佛ぶくれ		
48	Vn_a	70	1420	S001	D3	須恵器	片面	70		10.4	3.6	灰			
48	Vn_a	71	810	S001	D3	須恵器	片面	70		10.4	3.9	灰	上部未調整、竹口向左?		
48	Vn_a	72	1095	S001	C2	須恵器	片面	70		10.2	4.2	10.0 竹口向左			
48	Vn_a	73	1925	S001	D3	須恵器	片面	40	反	10.2	3.8	灰白	竹口向左		
48	Vn_a	74	1425	S001	D3	須恵器	片面	80		10.2	3.9	緑灰	竹口向左、外側自然輪		
48	Vn_a	75	1897	S001	D3	須恵器	片面	70		10.2	3.8	灰	上部未調整		
48	Vn_a	76	816	S001	D3	須恵器	片面	50		10.2	3.8	灰	上部未調整		
48	Vn_a	77	807	S001	D2	須恵器	片面	30	反	10.2	3.3	緑灰	手持ひも穴		
48	Vn_a	78	782	S001	D3	須恵器	片面	30	反	10.2	3.8	△記号。竹口向左			
48	Vn_a	79	788	S001	E3	須恵器	片面	20	反	10.2	3.3	10.1 灰白			
48	Vn_a	80	722	S001	C2	須恵器	片面	60		10.2	3.6	10.0 灰	上部未調整		
48	Vn_a	81	1437	S001	B3	須恵器	片面	80		10.0	3.7	灰	上部未調整		
48	Vn_a	82	743	S001	C2	須恵器	片面	80		10.0	3.4	灰	上部未調整、△記号		
48	Vn_a	83	1300	S001	B2	須恵器	片面	10	反	10.0		緑灰			
48	Vn_a	84	1297	S001	C2	須恵器	片面	10	反	10.0	4.0	灰白	竹口向右		
48	Vn_a	85	1291	S001	D3	須恵器	片面	40	反	10.0	3.6	灰緑	外側自然輪		
48	Vn_a	86	1294	S001	D3	須恵器	片面	30	反	10.0	3.5	△記号。竹口向左			
48	Vn_a	87	702	S001	C2	須恵器	片面	20	反	10.0	3.8	灰	上部未調整		
48	Vn_a	88	1074	S001	C2	須恵器	片面	10	反	10.0		灰	上部未調整、△記号		
48	Vn_a	89	1297	S001	C2	須恵器	片面	40		10.4	3.3	10.0 灰	△記号。竹口向左		
48	Vn_a	90	748	S001	E3	須恵器	片面	100		9.8	3.5	灰	上部未調整、△記号		
48	Vn_a	91	765	S001	B2	須恵器	片面	50	反	9.8	3.5	灰	竹口向左		
48	Vn_a	92	812	S001	D3	須恵器	片面	40	反	9.8	3.3	緑	緑		
48	Vn_a	93	1298	S001	D3	須恵器	片面	20	反	9.8	3.8	灰白	竹口向右		
48	Vn_a	94	669	S001	C2	須恵器	片面	25	反	10.0	4.0	9.7 灰	竹口向右		
48	Vn_a	95	419	S001	B2	須恵器	片面	80		9.8	3.9	9.7 灰	上部未調整		
48	Vn_a	96	813	S001	D3	須恵器	片面	90		9.6	3.4	灰	竹口向右		
48	Vn_a	97	1442	S001	B3	須恵器	片面	100		9.6	3.2	灰	上部未調整		
48	Vn_a	98	1088	S001	C2	須恵器	片面	60		10.0	3.6	9.6 灰	外蓋匂い沈潜		
48	Vn_a	99	1535・651	S001	B2	須恵器	片面	50		9.8	3.4	9.6 灰白	竹口向右		
48	Vn_a	100	1428	S001	D3	須恵器	片面	40	反	9.6	3.4	緑灰			
48	Vn_a	101	1932	S001	E3	須恵器	片面	30	反	9.6	4.0	灰	竹口向右		
48	Vn_a	102	1438	S001	D3	須恵器	片面	20	反	9.6	3.4	灰	竹口向右		
48	Vn_a	103	1086	S001	C2	須恵器	片面	50		9.6	3.7	9.2 灰	竹口向右、上部未調整		
48	Vn_a	104	410	S001	A2	須恵器	片面	95		9.4	3.3	灰	竹口向右		
48	Vn_a	105	1910	S001	A2	須恵器	片面	80		9.5	3.5	灰	上部未調整		
48	Vn_a	106	815	S001	D3	須恵器	片面	30	反	9.4	3.5	灰	外蓋自然輪		
48	Vn_a	107	414	S001	A2	須恵器	片面	60		9.2		灰	竹口向右		
48	Vn_a	108	412	S001	D3	須恵器	片面	100		8.4	3.7	反白	竹口向右		
49	Vn_a	109	736	S001	C3	須恵器	片身	30	反	10.4		13.3 灰白	外蓋自然輪、重ね模様、△記号右		
49	Vn_a	110	666	S001	B3	須恵器	片身	30	反	10.0		13.0 灰	竹口向右		
49	Vn_a	111	1261	S001	D2	須恵器	片身	40	反	10.0		13.6 灰	竹口向右		

出土遺物観察表

Fig.	部位	番号	取上番号	遺物	グリット	種別	縦	横	厚	口幅	色調	備考	
49	Vn_a	112	597	S001	B3	須恵器	片身	10	反	15.5	12.8	灰	外面自然釉
49	Vn_a	113	446	S001	A2	須恵器	片身	20	反	15.2	13.4	灰	*ナガ方向左
49	Vn_a	114	308	S001	B2	須恵器	片身	40	反	15.0	12.6	灰	*ナガ方向左
49	Vn_a	115	1842	S001	D2	須恵器	片身	20	反	15.0	3.5	12.8	灰
49	Vn_a	116	662	S001	B3	須恵器	片身	20	反	15.0	13.0	灰	*ナガ方向左
49	Vn_a	117	1813	S001	E3	須恵器	片身	20	14.4	3.6	12.4	灰白	*ナガ方向左
49	Vn_a	118	278	S001	A2	須恵器	片身	100	14.4	4.6	12.6	灰	*ナガ方向左
49	Vn_a	119	308	S001	B2	須恵器	片身	20	反	14.0	12.2	灰白	*ナガ方向左
49	Vn_a	120	1852	S001	E3	須恵器	片身	20	反	14.0	12.2	灰	立ち上がり内面褐色
49	Vn_a	121	719	S001	C3	須恵器	片身	10	反	14.2	12.0	灰	*ナガ方向右、外面自然釉
49	Vn_a	122	784	S001	D3	須恵器	片身	30	反	14.0	11.5	灰	
49	Vn_a	123	1292	S001	D3	須恵器	片身	20	反	14.0	11.8	灰	*ナガ方向左
49	Vn_a	124	548	S001	B3	須恵器	片身	20	反	14.0	3.9	12.0	外面自然釉
49	Vn_a	125	1287	S001	D3	須恵器	片身	60	反	13.6	4.5	11.4	灰
49	Vn_a	126	787	S001	D3	須恵器	片身	20	反	13.2	11.0	灰	*ナガ方向右
49	Vn_a	127	1852	S001	E3	須恵器	片身	20	反	13.2	11.0	灰	*ナガ方向右
49	Vn_a	128	663	S001	B3	須恵器	片身	40	反	13.1	11.4	灰	*ナガ方向右
49	Vn_a	129	1917	S001	D3	須恵器	片身	20	反	13.0	3.5	10.8	灰白
49	Vn_a	130	1851	S001	E3	須恵器	片身	20	13.0	10.8	灰白		
49	Vn_a	131	635	S001	B3	須恵器	片身	90	13.0	4.8	10.2	灰	*ナガ方向左
49	Vn_a	132	704	S001	C3	須恵器	片身	70	13.0	10.9	明灰白		
49	Vn_a	133	699	S001	C3	須恵器	片身	20	12.9	10.2	反白		
49	Vn_a	134	721	S001	B2	須恵器	片身	80	12.9	4.4	11.0	灰	*ナガ方向右
49	Vn_a	135	1909	S001	D3	須恵器	片身	100	12.8	4.2	10.6	灰	*ナガ方向左、△記号
49	Vn_a	136	1906	S001	E3	須恵器	片身	100	12.7	4.2	10.8	灰	外面自然釉、内面灰くれ、受け付難
49	Vn_a	137	774-792	S001	E3	須恵器	片身	90	12.7	3.7	10.8	灰白	連続糊調整、素灰
49	Vn_a	138	698	S001	C3	須恵器	片身	40	12.6	4.3	10.5	灰白	
49	Vn_a	139	655	S001	B2	須恵器	片身	30	12.6	10.2	灰白		
49	Vn_a	140	1295	S001	D2	須恵器	片身	90	12.6	3.7	10.6	反	*ナガ方向左
49	Vn_a	141	736	S001	C3	須恵器	片身	20	12.5	10.5	反	外面自然釉、内面灰くれ	
49	Vn_a	142	1019	S001	C3	須恵器	片身	40	12.4	4.5	10.0	反	
49	Vn_a	143	1224	S001	D2	須恵器	片身	20	12.4	10.0	反	*ナガ方向左	
49	Vn_a	144	645	S001	B2	須恵器	片身	50	12.3	4.4	9.6	反	*ナガ方向右
49	Vn_a	145	1919	S001	D2	須恵器	片身	40	12.2	4.7	10.2	反	*ナガ方向左
49	Vn_a	146	261	S001	A2	須恵器	片身	20	12.1	3.9	9.8	反	*ナガ方向左
49	Vn_a	147	1148	S001	C2	須恵器	片身	60	12.0	4.4	9.8	反	連続糊調整
49	Vn_a	148	312	S001	B2	須恵器	片身	40	12.0	3.8	9.8	反	
49	Vn_a	149	1295	S001	D3	須恵器	片身	20	12.0	3.3	9.6	反	連続糊調整、△記号
49	Vn_a	150	698	S001	C3	須恵器	片身	100	12.0	4.1	9.6	反	*ナガ方向右
49	Vn_a	151	744	S001	C2	須恵器	片身	40	12.0	3.0	9.6	反	底部未調整
49	Vn_a	152	1915	S001	D3	須恵器	片身	30	12.0	3.7	9.8	反	外面自然釉
49	Vn_a	153	1852	S001	E3	須恵器	片身	30	12.0	3.4	10.8	反	*ナガ方向左
50	Vn_a	154	733	S001	C2	須恵器	片身	40	12.0	3.7	9.6	反	*ナガ方向右
50	Vn_a	155	645	S001	B3	須恵器	片身	20	11.9	3.1	10.0	反	*ナガ方向左
50	Vn_a	156	1287	S001	D3	須恵器	片身	60	11.8	4.3	8.4	反	底部未調整
50	Vn_a	157	464	S001	A3	須恵器	片身	40	11.8	4.3	9.8	反	底部手捺印△?
50	Vn_a	158	1178	S001	C3	須恵器	片身	60	11.6	4.7	10.5	反白	
50	Vn_a	159	1440	S001	D3	須恵器	片身	30	11.8	3.7	10.0	灰白	*ナガ方向左
50	Vn_a	160	597	S001	B3	須恵器	片身	50	11.6	3.6	9.4	反	*ナガ方向左
50	Vn_a	161	736	S001	C3	須恵器	片身	10	11.4	3.1	9.4	反	*ナガ方向右
50	Vn_a	162	279	S001	A2	須恵器	片身	95	11.4	3.1	9.4	反	*ナガ方向左、底部未調整
50	Vn_a	163	1019	S001	C2	須恵器	片身	50	11.4	4.1	9.4	反	*ナガ方向左
50	Vn_a	164	358	S001	B3	須恵器	片身	40	11.2	4.0	9.0	反	*ナガ方向右、拂ふくれ
50	Vn_a	165	1423	S001	D3	須恵器	片身	90	11.2	3.4	9.2	反	*ナガ方向右、外面自然釉
50	Vn_a	166	762	S001	B3	須恵器	片身	50	11.2	3.0	9.2	反	
50	Vn_a	167	1268	S001	C2	須恵器	片身	60	11.0	3.4	9.2	反	底部未調整
50	Vn_a	168	1844	S001	D3	須恵器	片身	20	11.0	3.5	9.0	反	底部未調整
50	Vn_a	169	292	S001	B3	須恵器	片身	50	11.0	3.8	9.0	反	*ナガ方向左、△記号、拂ふくれ
50	Vn_a	170	1280	S001	D2	須恵器	片身	60	11.0	4.2	9.6	反	*ナガ方向左
50	Vn_a	171	600	S001	B3	須恵器	片身	40	10.8	8.8	反	*ナガ方向左	
50	Vn_a	172	302	S001	E3	須恵器	片身	70	10.8	3.1	8.8	反	底部未調整
50	Vn_a	173	1439	S001	D3	須恵器	片身	60	10.8	3.3	8.6	反	△記号
50	Vn_a	174	1289	S001	D3	須恵器	片身	50	10.7	4.6	8.6	反	*ナガ方向左
50	Vn_a	175	1931-1944	S001	E3-C3	須恵器	片身	50	10.6	3.5	8.5	反	
50	Vn_a	176	1430	S001	D3	須恵器	片身	70	10.6	3.5	8.8	灰白	*ナガ方向右
50	Vn_a	177	409	S001	A2	須恵器	片身	100	10.6	3.1	8.8	反	*ナガ方向右
50	Vn_a	178	359	S001	B3	須恵器	片身	95	10.5	3.4	8.5	反	△記号、底
50	Vn_a	179	295	S001	B3	須恵器	片身	20	10.2	12.2	10.4	反	にじい様
50	Vn_a	180	1441	S001	D3	須恵器	片身	30	10.4	4.0	8.4	反	
50	Vn_a	181	1245	S001	D2	須恵器	片身	60	10.4	3.9	8.0	反	
50	Vn_a	182	1289	S001	D3	須恵器	片身	50	10.4	3.6	8.4	反白	
50	Vn_a	183	1908	S001	D3	須恵器	片身	100	10.4	3.3	8.4	反	
50	Vn_a	184	415	S001	A2	須恵器	片身	40	10.4	3.5	8.4	反	*ナガ方向左、底部未調整
50	Vn_a	185	1169	S001	C2	須恵器	片身	50	10.2	3.3	8.0	反	*ナガ方向右
50	Vn_a	186	1213	S001	B2	須恵器	片身	50	10.2	3.6	8.0	反	
50	Vn_a	187	1245	S001	D2	須恵器	片身	50	10.2	3.2	8.3	反	*ナガ方向右
50	Vn_a	188	706	S001	C3	須恵器	片身	70	12.4	11.0	反白		
50	Vn_a	189	354	S001	B2	須恵器	片身	70	12.0	4.3	10.6	反白	
50	Vn_a	190	792-793	S001	E3	須恵器	片身	90	11.8	3.1	10.0	反	底部未調整
50	Vn_a	191	1091	S001	C2	須恵器	片身	100	11.2	2.8	9.2	地灰	底部未調整
50	Vn_a	192	818	S001	D3	須恵器	片身	100	10.6	3.1	9.0	反	底部未調整
50	Vn_a	193	1426	S001	D3	須恵器	片身	100	10.4	3.2	8.6	反	底部未調整
50	Vn_a	194	1424	S001	D3	須恵器	片身	100	10.0	2.8	8.2	反	*ナガ方向左、△記号、外面自然釉
50	Vn_a	195	1419	S001	B2	須恵器	片身	90	10.0	3.3	8.2	反	*ナガ方向右

Fig.	部位	番号	取上番号	遺構	グリット	種別	断面	反転	傾性	高さ	口径	色調	備考	
50	遺	196	411	S001	A2	須恵器	片身	95	10.0	3.0	8.8	灰	±1°方向右	
50	遺	197	36	S001	B2	須恵器	片身	50	9.9	2.2	8.0	灰白		
50	遺	198	1432	S001	D3	須恵器	片身	70	11.2	2.7	9.4	黒灰	内部2次焼成?	
50	遺	199	770	S001	E3	須恵器	片身	80	10.9	3.6		灰	±1°方向左, ±5記号	
50	遺	200	380-702	S001	B3-C2	須恵器	片身	95	10.8	3.2	8.4	灰	須恵未調整	
50	遺	201	764	S001	E3	須恵器	片身	70	10.8	2.8		灰	須恵未調整	
50	遺	202	1202	S001	C3	須恵器	片身	30	反	10.8	8.6	灰	須恵未調整	
50	遺	203	1291	S001	D3	須恵器	片身	30	反	11.2	3.0	9.4	灰白	須恵未調整
50	遺	204	1085	S001	C2	須恵器	片身	60	反	10.5	3.0	8.6	灰	須恵未調整
50	遺	205	816	S001	D3	須恵器	片身	100	10.4	2.5	9.0	灰	須恵未調整	
50	遺	206	817	S001	D3	須恵器	片身	100	10.4	2.6	8.8	黒灰	須恵未調整	
50	遺	207	295	S001	B3	須恵器	片身	20	反	9.8	8.2	灰	須恵未調整	
50	遺	208	1436	S001	D3	須恵器	片身	80	9.8	2.6	7.8	暗灰	須恵未調整, ±5記号	
50	遺	209	420	S001	A3	須恵器	片身	20	反	9.8	7.8	灰	須恵未調整, ±5記号	
51	遺	210	1902	S001	D3	須恵器	返り口	30	10.2			灰	返り口-灰軸	
51	遺	211	694	S001	C2	須恵器	返り口	40	反	10.2	7.0	灰	自然軸	
51	遺	212	301-356	S001	B2	須恵器	返り口	30	10.2	2.6		灰	±1°方向右, 摂み径2.4	
51	遺	213	750	S001	C3	須恵器	返り口	95	10.3		8.4	灰	焼ぶくれ	
51	遺	214	1929	S001	D3	須恵器	返り口	20	反	11.0		灰		
51	遺	215	1295	S001	D3	須恵器	返り口	30	反	11.2		灰		
51	遺	216	817	S001	D3	須恵器	無台片身	60	反	10.2	4.1	灰		
51	遺	217	1435	S001	D3	須恵器	無台片身	90	11.0	4.1		灰		
51	遺	218	518	S001	A2	須恵器	無台片身	50	反	10.2	3.8	灰	須恵未調整	
51	遺	219	801	S001	D2	須恵器	無台片身	80	11.2	4.0		暗灰	須恵止付?	
51	遺	220	773	S001	E3	須恵器	無台片身	90	11.3	3.9		灰	須恵未調整	
51	遺	221	781	S001	D2	須恵器	無台片身	50	11.4	4.3		灰	須恵未調整, 内面自然軸	
51	遺	222	1269	S001	D2	須恵器	無台片身	90	11.4	4.0		灰	須恵未調整	
51	遺	223	820	S001	D3	須恵器	無台片身	70	11.4	4.2		灰白	須恵未調整, 内面自然軸	
51	遺	224	706	S001	C3	須恵器	無台片身	60	反	11.6	4.0	反白	須恵未調整, ±5こし	
51	遺	225	808	S001	D3	須恵器	無台片身	80	12.2	4.6		灰	須恵未調整	
51	遺	226	725	S001	C2	須恵器	無台片身	100	12.3	4.6		暗灰	±1°方向右	
51	遺	227	820	S001	D2	須恵器	無台片身	60	反	12.6	4.9	暗灰	須恵未調整	
51	遺	228	790	S001	E3	須恵器	無台片身	40	反	13.6	4.6	反白	黒軸	
51	遺	229	723	S001	D2	須恵器	無台片身	80	反	15.6	6.2	灰	±1°方向右	
51	遺	230	228	S001	D2	須恵器	無台片身	30	反	9.4	4.4	暗灰	±1°方向左	
51	遺	231	265	S001	B3	須恵器	無台片身	20	反	9.2	3.7	灰	±1°方向右, ±5記号	
51	遺	232	229	S001	A2	須恵器	無台片身	20	反	9.7		灰	±1°方向左	
51	遺	233	1143	S001	C2	須恵器	無台片身	40	反	9.8	3.1	9.4	暗灰	手持付?
51	遺	234	657	S001	C2	須恵器	無台片身	50	9.8	3.3		灰		
51	遺	235	1930	S001	D3	須恵器	無台片身	10	反	10.0		灰		
51	遺	236	1422	S001	D2	須恵器	無台片身	90	10.0	3.8		暗灰	須恵未調整	
51	遺	237	817	S001	D3	須恵器	無台片身	20	反	10.0	4.0	暗灰	須恵未調整	
51	遺	238	798	S001	D3	須恵器	無台片身	100	10.2	3.9		反白	反手-正軸	
51	遺	239	1903	S001	D3	須恵器	無台片身	100	10.2	3.6		灰	±1°方向右, 内面自然軸顯著	
51	遺	240	1295	S001	D3	須恵器	無台片身	50	反	10.2		灰		
51	遺	241	215	S001	A3	須恵器	無台片身	20	反	10.0	3.2	暗灰	±1°方向右	
51	遺	242	1250	S001	C2	須恵器	無台片身	20	反	10.8		灰白		
51	遺	243	810	S001	D3	須恵器	無台片身	30	反	10.4	2.5	灰		
51	遺	244	819	S001	D2	須恵器	無台片身	40	反	10.6		灰		
51	遺	245	1900	S001	D3	須恵器	無台片身	40	反	10.8	4.1	10.6	灰	須恵未調整
51	遺	246	1067	S001	C2	須恵器	無台片身	70	11.0	4.2	10.7	灰	±5記号?	
51	遺	247	474	S001	B3	須恵器	無台片身	100	11.0	3.7		灰白		
51	遺	248	1272	S001	D2	須恵器	無台片身	30	11.0			須恵未調整		
51	遺	249	1205	S001	D2	須恵器	無台片身	20	反	11.2		灰	±1°方向右, 外面自然軸	
51	遺	250	810	S001	D3	須恵器	無台片身	20	反	11.6		灰		
51	遺	251	1845	S001	D3	須恵器	無台片身	40	反	11.8	4.4	灰		
51	遺	252	1250	S001	C2	須恵器	無台片身	70	11.8	3.9		灰白	須恵未調整, ±5記号	
51	遺	253	809	S001	D3	須恵器	無台片身	10	反	12.0		灰白		
51	遺	254	280	S001	A2	須恵器	無台片身	70	12.0	5.1	12.0	灰	須恵未調整	
51	遺	255	793	S001	E3	須恵器	無台片身	40	反	12.2	3.9	灰	須恵未調整	
51	遺	256	808	S001	D3	須恵器	無台片身	70	12.2	4.9		灰白	須恵未調整, 内面自然軸	
51	遺	257	816	S001	D3	須恵器	無台片身	40	12.2	4.1		灰白	±5記号	
52	遺	258	817-818	S001	D3	須恵器	無台片身	80	12.2	5.0		灰	±5記号	
52	遺	259	1171	S001	C2	須恵器	無台片身	60	12.2	4.5		灰		
52	遺	260	1208	S001	B2	須恵器	無台片身	10	反	12.2		灰白		
52	遺	261	778-790	S001	E3	須恵器	無台片身	80	12.4	4.0		±1°方向左		
52	遺	262	811	S001	D3	須恵器	無台片身	20	反	12.4		灰白		
52	遺	263	295	S001	B3	須恵器	無台片身	20	反	12.4		灰	±1°方向左, 内面自然軸	
52	遺	264	717	S001	B3	須恵器	無台片身	50	反	12.5	3.5	灰	底部未調整	
52	遺	265	766	S001	D3	須恵器	無台片身	70	12.6	5.0		灰		
52	遺	266	1896	S001	D3	須恵器	無台片身	90	12.6	5.0		灰		
52	遺	267	803	S001	D3	須恵器	無台片身	100	12.6	5.0		灰	底部未調整	
52	遺	268	808	S001	D3	須恵器	無台片身	30	反	13.0	4.1	灰	±1°方向左	
52	遺	269	812	S001	D3	須恵器	無台片身	30	反	13.4	4.6	灰白		
52	遺	270	785	S001	D3	須恵器	無台脚	20	反	14.0	4.0	灰白	須恵未調整	
52	遺	271	706	S001	C3	須恵器	無台脚	20	反	14.4		灰	±1°方向右	
52	遺	272	701	S001	D2	須恵器	無台脚	70	14.0	5.0		灰	外蓋未だすき	
52	遺	273	701	S001	D2	須恵器	無台脚	70	14.0	4.4		暗灰	±1°方向左	
52	遺	274	1207	S001	E2	須恵器	無台脚	10	反	15.0		灰		
52	遺	275	711	S001	G2	須恵器	無台脚	20	反	15.0	4.3	褐色	底部未調整	
52	遺	276	728	S001	G2	須恵器	接縫	30	反	15.0		灰	±1°方向右	
52	遺	277	669	S001	G2	須恵器	接縫	80	15.8	4.1	15.4	灰	±1°方向左, 接縫径3.0	
52	遺	278	762	S001	E3	須恵器	接縫	90	15.4	3.8		灰	±1°方向右, 外面自然軸, 接縫径3.2	
52	遺	279	792	S001	E3	須恵器	接縫	60	15.6	3.7		灰白		

出土遺物觀察表

Fig.	部位	番号	取上番号	遺物	グリット	種別	縦幅	反幅	厚さ	高さ	口径	色調	備考	
52	頭	200	748	S001	E3	須恵器	縦蓋	60	15.8	4.3	灰白	竹刀方向右、彌部裏面、摘み径 3.1		
52	頭	281	1911	S001	D3	須恵器	縦蓋	70	16.8	4.0	灰	竹刀方向左、		
52	頭	282	775	S001	E3	須恵器	有台环身	50	14.0	4.2	灰	竹刀方向左		
52	頭	283	1222	S001	B2	須恵器	有台环身	30	14.2	4.4	灰白	竹刀方向左		
52	頭	284	767	S001	D2	須恵器	有台环身	70	14.2	3.7	灰			
52	頭	285	766	S001	D3	須恵器	有台环身	50	14.4	4.4	灰	竹刀方向右		
52	頭	286	702	S001	C2	須恵器	有台环身	30	15.6	4.8	灰	自然釉		
52	頭	287	667	S001	C2	須恵器	有台环身	40	16.0	3.8	灰白	竹刀方向左		
52	頭	288	548	S001	B3	須恵器	高蓋	10	28.8		灰			
52	頭	289	215	S001	A3	須恵器	高蓋	10	30.0		朝灰	竹刀方向右		
52	頭	290	805	S001	D3	須恵器	高蓋	30	反		灰			
53	頭	291	1444	S001	D3	須恵器	無蓋高窓	50	11.6		緑灰	3.2 及び 3.3 方向、外外面自然釉		
53	頭	292	813	S001	D3	須恵器	高窓	5	反		灰	御腰 12.4、3.2 及び 2.2 方向、外外面自然釉		
53	頭	293	464	S001	A3	須恵器	高窓	20	14.2	4.2	灰	竹刀方向左、佛造ぐれ		
53	頭	294	814	S001	D3	須恵器	高窓	10	12.4	9.9	灰	摘み径 3.6、上部佛造ぐれ		
53	頭	295	707	S001	C3	須恵器	高窓	30	反		緑灰	御腰 3.9、御径 12.0、自然釉		
53	頭	296	1289	S001	D3	須恵器	無蓋高窓	10	反	16.0				
53	頭	297	1171	S001	C2	須恵器	無蓋高窓	10	反	16.2	黄灰	竹刀方向右		
53	頭	298	1814	S001	E3	須恵器	無蓋高窓	5	16.0		灰			
53	頭	299	707	S001	C3	須恵器	無蓋高窓	10	反	11.6	灰	全面自然釉		
53	頭	300	1929	S001	D3	須恵器	高窓	30	反		緑灰	御腰 3.0、御径 10.0		
53	頭	301	793	S001	E3	須恵器	高窓	20	反		灰	御腰 2.6、御径 6.0		
53	頭	302	813	S001	D3	須恵器	高窓	30	反		緑灰	御腰 3.1、御径 6.0		
53	頭	303	817	S001	D3	須恵器	高窓	40	反		灰	御腰 2.8、御径 6.0		
53	頭	304	285	S001	A3	須恵器	高窓	30	反		灰	御腰 2.9、御径 6.0、竹刀方向右		
53	頭	305	1814	S001	E3	須恵器	高窓	30	反		緑灰	御腰 3.2、御径 6.0		
53	頭	306	1918	S001	D3	須恵器	高窓	30	反		灰	御腰 4.0、御径 10.0		
53	頭	307	1814	S001	E3	須恵器	高窓	40	反		白灰	御腰 10.4		
53	頭	308	1927	S001	D3	須恵器	高窓	30	反		反白	御腰 3.5、御径 10.4		
53	頭	309	295	S001	E3	須恵器	高窓	40	反		反白	御腰 10.5、内部一部自然釉		
53	頭	310	709	S001	C3	須恵器	高窓	20	反		灰	御腰 3.1、御径 10.6、内面記号		
53	頭	311	1535	S001	E2	須恵器	高窓	30	反		反白	透視 10.6		
53	頭	312	1280	S001	D2	須恵器	高窓	10	反		灰			
53	頭	313	1801	S001	D2	須恵器	高窓	10	反		緑灰			
53	頭	314	1652	S001	D3	須恵器	高窓	30	反		灰			
53	頭	315	699	S001	C2	須恵器	高窓	40	反		緑灰	御腰 3.2、御径 11.0		
53	頭	316	1807	S001	D2	須恵器	高窓	30	反		灰	御腰 3.5、御径 11.2、底部裏腹付		
53	頭	317	817	S001	D3	須恵器	高窓	30	反		灰	御腰 3.4、御径 11.4		
53	頭	318	812	S001	D3	須恵器	高窓	20	反		灰	御腰 3.5、御径 11.6		
53	頭	319	1905	S001	D3	須恵器	斜窓	30	反		灰	御腰 3.6、御径 12.6		
54	頭	320	720	S001	B2	須恵器	広口蓋	10	反	11.0	灰白	6C の 7 腰棒 12.2、外外面自然釉		
54	頭	321	1916	S001	D3	須恵器	広口蓋	5	反	17.6	灰	御腰 11.8		
54	頭	322	309	S001	B2	須恵器	広口蓋	10	反	13.2	灰白	御腰 8.8		
54	頭	323	425	E001	B3-B3	須恵器	広口蓋	50	15.0	13.8	9.6	灰	御腰 8.8、自然釉裏面付着、竹刀方向左	
54	頭	324	1201	S001	C3	須恵器	広口蓋	50	18.4	11.0	灰	御腰 11.1、裏面付着、竹刀方向左		
54	頭	325	1901	S001	D3	須恵器	広口蓋	80	17.0	19.1	11.0	灰	御腰 10.0、竹刀方向左	
54	頭	326	1273	S001	D3	須恵器	広口蓋	80	21.8	22.0	12.6	灰	御腰 10.2、底盤 6.4、竹刀方向左	
54	頭	327	1529	S001	B2	須恵器	広口蓋	40	反	20.6	13.4	灰白	御腰 11.5、外外面自然釉	
54	頭	328	1434	S001	D3	須恵器	垂耳	50	15.6	5.1	11.2	灰白	御腰 10.9、内面付着付	
54	頭	329	1923	S001	D3	須恵器	長颈盖	5	反		6.8	灰白	内面付着付	
54	頭	330	727	S001	C2	須恵器	長颈盖	5	反		8.4	灰		
54	頭	331	707	S001	C3	須恵器	長颈盖	5	反		9.6	灰		
54	頭	332	926	S001	D3	須恵器	長颈盖	10	反		10.0	灰	御腰 4.2、外外面自然釉	
54	頭	333	692	S001	C2	須恵器	長颈盖	5	反		10.9	灰		
54	頭	334	1293	S001	D3	須恵器	長颈盖	5	反		14.4	反白	御腰 4.8、外外面自然釉	
54	頭	335	763	S001	D2	須恵器	長颈盖	70	14.2			紅色	裏面付着付	
54	頭	336	1199+645	S001	C3-B3	須恵器	長颈盖	40	反	13.2		反白	竹刀方向右	
54	頭	337	1687+1279	S001	D2	須恵器	長颈盖	50	反	13.0		反白	肩刺突付、竹刀方向右	
54	頭	338	711+705	S001	C2-C3	須恵器	長颈盖	5				自然釉		
55	頭	339	1907	S001	D3	須恵器	縫	90	8.2	4.3	7.0	灰白	内面付着付+2 底盤、竹刀方向右	
55	頭	340	658	S001	C2	須恵器	縫	80	9.6	4.4	9.0	灰白	竹刀方向右、内面自然釉	
55	頭	341	1090	S001	C2	須恵器	縫	100	9.4	6.6	7.7	底盤	底盤付	
55	頭	342	38	S001	E3	須恵器	縫	40	反	10.0	8.1	底盤	底盤付	
55	頭	343	1931	S001	E3	須恵器	縫	5	反	11.4		底盤	底盤付	
55	頭	344	418	S001	A3	須恵器	縫	30	反	12.2	9.2	白灰	底盤付	
55	頭	345	707	S001	C3	須恵器	縫	40	反	7.0	5.1	底盤	底盤付+2.1、全面自然釉	
55	頭	346	407	S001	A2	須恵器	縫	70	9.6	4.2	9.0	底盤	竹刀方向左、記号	
55	頭	347	1535	S001	B2	須恵器	縫	40	反	9.2	3.8	底盤	竹刀方向右、自然釉	
55	頭	348	1914	S001	D3	須恵器	縫	40	反	10.0	4.8	9.4	底盤	竹刀方向右、内面付着付
55	頭	349	705	S001	C3	須恵器	縫	40	反	10.4	9.2	底盤	竹刀方向左、全面自然釉	
55	頭	350	645	S001	B3	須恵器	縫	50	反	10.2	5.1	10.0	底盤	竹刀方向左、全面自然釉
55	頭	351	1533	S001	B2	須恵器	縫	70	10.2	4.8	10.0	底盤	底盤付	
55	頭	352	1193	S001	C3	須恵器	縫	40	反	10.6	10.0	底盤	竹刀方向右、全面自然釉	
55	頭	353	633	S001	B3	須恵器	縫	80	11.0	4.7	10.0	底盤	底盤付	
55	頭	354	1931	S001	E3	須恵器	短颈蓋	20	11.6		底盤	外表面一部自然釉		
55	頭	355	811	S001	D3	須恵器	短颈蓋	20	13.7	8.4	底盤	全面自然釉、竹刀方向左		
55	頭	356	797	S001	D3	須恵器	短颈蓋	60	13.6		底盤	外表面自然釉、竹刀方向左		
55	頭	357	744	S001	C2	須恵器	短颈蓋	60	12.4	10.5	8.8	底盤	竹刀方向左、全面自然釉	
55	頭	358	665	S001	B3	須恵器	短颈蓋	60	14.0	12.7	10.0	底盤	竹刀方向左	
55	頭	359	767	S001	D3	須恵器	短颈蓋	15	反		14.0	底盤		
55	頭	360	1290	S001	D3	須恵器	縫	5	反		16.0	底盤		
55	頭	361	1199	S001	C3	須恵器	縫	40	反	17.3		底盤		
55	頭	362	916	S001	C2	須恵器	縫	20	反	18.0	17.2	底盤	竹刀方向左、自然釉	
55	頭	363	1294	S001	D3	須恵器	縫	5	反	18.8	16.4	底盤	口縁内部灰オリーブ、自然釉	

Fig.	部位	番号	取上番号	遺構	グリット	種別	高さ	反転	側面	底面	口径	色調	備考	
													縦	横
55	遺	364	1829	S001	D3	須志器	縦	5	反		16.0	灰		
55	遺	365	1849	S001	E2	須志器	縦	10	反		16.0	灰	外面自然縫	
55	遺	366	1243	S001	D2	須志器	縦	10	反	23.0	23.0	灰		
55	遺	367	599	S001	B3	須志器	縦	20	反	24.0		灰		
55	遺	368	655	S001	B2	須志器	縦	30				灰		
55	遺	369	609	S001	B2	須志器	縦	60		14.4		灰		
55	遺	370	290	S001	B3	須志器	縦	40	反	15.4	13.0	14.9	灰	
55	遺	371	1921	S001	D3	須志器	縦	20	反	15.0		灰		
55	遺	372	724	S001	C2	須志器	縦	80		16.0	15.8	灰		
55	遺	373	413	S001	A2	須志器	縦	10	反	17.8		灰		
55	遺	374	736	S001	C3	須志器	縦	20	反	17.4		灰白		
55	遺	375	1206	S001	C2	須志器	縦	5	反	17.3		灰白		
55	遺	376	1898	S001	E3	須志器	縦	30				灰		
55	遺	377	1929	S001	D3	須志器	バツ	5	反			灰		
55	遺	378	637 - 737	S001	B3 - C3	須志器	バツ	40	反			灰		
55	遺	379	769	S001	E3	須志器	バツ	90				灰		
55	遺	380	768	S001	E3	須志器	732瓶形	30			9.1	灰		
55	遺	381	793	S001	E3	須志器	732瓶形	80		15.8		灰	黒縁 0	
55	遺	382	414	S001	A2	須志器	横縫	10				灰		
55	遺	383	432	S001	D3	須志器	縦	5	反		18.6	灰		
55	遺	384	1851	S001	E3	須志器	縦	5	反		26.4	灰		
55	遺	385	424	S001	B3	須志器	不明縫	5	反			灰		
55	遺	386	461	S001	A3	須志器	把手	5				緑	小型环身状品	
55	遺	387	1842	S001	B3	須志器	要	5	反		46.0	灰		
55	遺	388	1843	S001	B3	須志器	要	5	反		26.5	灰白		
55	遺	389	1427	S001	B3	須志器	要	5	反		26.2	灰		
55	遺	390	727	S001	C2	須志器	要	5	反		25.2	灰白		
55	遺	391	1427	S001	D3	須志器	要	20			25.0	灰	縫隙 19.6	
55	遺	392	1205	S001	D2	須志器	要	5	反		27.8	灰	全面自然縫	
55	遺	393	1250	S001	C2	須志器	要	10	反		31.0	灰白	全面自然縫	
55	遺	394	1286 - 1313	S001	D2	須志器	要	20	反		41.3	灰色		
55	遺	395	421	S001	D3	土師器	坏	40	反	14.2	5.2	にぶい縫	底縫 4.7, 内外放射状モガキ縫	
55	遺	396	431	S001	D2	土師器	坏							
55	遺	397	768	S001	D3	土師器	内縫斜	40	反	11.2	3.8	にぶい縫		
55	遺	398	479	S001	B3	土師器	内縫斜	30	反	14.0	4.7	縫		
55	遺	399	664	S001	B3	土師器	内縫斜	70		14.6	5.4	縫		
55	遺	400	717 - 729	S001	B3 - C3	土師器	横縫	50		14.0	5.1	縫		
55	遺	401	1849	S001	E3	須志器	横縫	30	反	12.8	4.6	浅縫		
55	遺	402	1294	S001	D3	土師器	横縫	5	反	13.0	13.2	明縫		
55	遺	403	441	S001	A2	須志器	横縫	10	反	14.0	12.4	浅縫		
55	遺	404	662	S001	B3	土師器	横縫	10	反	14.0	12.4	縫		
55	遺	405	441	S001	A2	須志器	横縫	20		14.2	12.4	にぶい縫		
55	遺	406	294	S001	B3	土師器	有柄高窓	50		14.0	10.2	縫	縫隙 3.4, 縫隙 9.0	
55	遺	407	771	S001	E3	土師器	高窓	90		8.8	5.6	灰白	縫隙 4.6, 内面にぬい縫	
55	遺	408	464	S001	A3	土師器	高窓	40				深縫	縫隙 3.0, 縫隙 9.4	
55	遺	409	416	S001	B3	土師器	高窓	30				浅縫	縫隙 2.9, 縫隙 10.9	
55	遺	410	478	S001	B3	土師器	高窓	20				縫	縫隙 3.0, 縫隙 9.6	
55	遺	411	695	S001	C2	土師器	高窓	30				浅縫	縫隙 3.0, 縫隙 9.2	
55	遺	412	756	S001	C3	土師器	高窓	5	反			眞縫	縫隙 6	
55	遺	413	669	S001	B3	土師器	高窓	20				縫	縫隙 10	
55	遺	414	461	S001	A3	土師器	高窓	20				浅縫	縫隙 4.2, 縫隙 15.2	
55	遺	415	308	S001	B2	土師器	高窓	30				浅縫	縫隙 3.8, 縫隙 12.0	
55	遺	416	920	S001	D3	土師器	長高窓	20				縫	縫隙 5.1, 縫隙 13.0	
55	遺	417	1218	S001	C3	土師器	長高窓	20				浅縫	縫隙 3.7	
55	遺	418	1844	S001	B3	土師器	鋸形外部高窓	50		12.8	8.4	赤縫	縫隙 5.0, 縫隙 9.4	
55	遺	419	442	S001	A2	須志器	鋸形外部高窓	10	反	14.0		縫		
55	遺	420	458	S001	A3	須志器	鋸形外部高窓	20	反	14.0		にぶい縫		
55	遺	421	418	S001	A3	須志器	鋸形外部高窓	5	反	14.2		浅黄縫		
55	遺	422	441	S001	A2	須志器	鋸形外部高窓	20	反	15.8		にぶいあら縫		
55	遺	423	478	S001	E3	須志器	鋸形外部高窓	20				縫	縫隙 5.2, 縫隙 10.0	
55	遺	424	450	S001	A2	須志器	鋸形外部高窓	40				縫	縫隙 5.2, 縫隙 9.0	
55	遺	425	646	S001	B3	須志器	長圓窓	10			9.4	縫	縫隙 6.3	
55	遺	426	705	S001	C3	土師器	長圓窓	30	反	15.8		にぶい縫		
55	遺	427	680	S001	B3	土師器	把手	5				灰黄	幅 2.6	
55	遺	428	477	S001	B2	土師器	把手					浅縫		
55	遺	429	698	S001	C3	土師器	外反口縫蓋	5	反		17.9	にぶい縫	縫隙 14.4	
55	遺	430	656	S001	B2	土師器	外反口縫蓋	10			17.2	浅縫	縫隙 14.4	
55	遺	431	788	S001	E3	土師器	外反口縫蓋	5	反		17.2	灰白	縫隙 12.5	
55	遺	432	548	S001	B3	土師器	外反口縫蓋	5	反		18.0	にぶい縫	縫隙 14.8	
55	遺	433	707	S001	C3	土師器	外反口縫蓋	5	反		19.1	灰白	縫隙 14.3, 内面黒斑	
55	遺	434	1918	S001	D3	土師器	外反口縫蓋	10	反		19.7	浅黄縫	縫隙 15.7	
55	遺	435	1298	S001	D3	土師器	外反口縫蓋	10	反		18.8	黄縫	縫隙 16.1, 外面黒斑	
55	遺	436	757	S001	D3	土師器	外反口縫蓋	20	反			灰黄縫	底縫 11.8, 黒斑	
55	遺	437	1245	S001	D2	土師器	縫	40		7.0	2.8	にぶい黄縫 黒斑		
55	遺	438	792	S001	E3	土師器	縫	20	反	7.2	3.3	にぶい縫		
55	遺	439	464	S001	A3	土師器	縫	20	反	7.0	2.9	縫		
55	遺	440	772	S001	E3	土師器	縫	60		7.4	3.5	7.1	にぶい黄縫 底縫 4.0	
55	遺	441	793	S001	E3	土師器	縫	80		7.5	3.5	7.0	灰黄	
55	遺	442	766	S001	D3	土師器	縫	30	反	8.5	3.5	灰白		
55	遺	443	755	S001	C3	土師器	縫	10	反	8.8		浅縫		
55	遺	444	752	S001	E3	土師器	縫	20	反	9.1	4.1	8.8	浅縫	
55	遺	445	800	S001	D2	土師器	縫	80		9.2	4.9		にぶい黄縫 底縫 4.0	
55	遺	446	1069	S001	C2	土師器	縫	100		9.8	3.7		にぶい縫	底縫 4.5
55	遺	447	1245	S001	D2	土師器	縫	30		10.2		にぶい黄縫		

出土遺物観察表

Fig.	部位	番号	取上番号	遺構	グリット	種別	縦幅	反転	側性	高さ	口径	色調	備考
59	土師器	446	1293	S001	D3	土師器	縦	30	反	10.6	4.8	10.4	にぶい緑底径4.8、全面赤面、内面底部静止付
59	土師器	449	1233	S001	C2	土師器	縦	40	反	10.4	4.5	10.1	真黄底径2.3
59	土師器	450	701	S001	B2	土師器	縦	60		11.0			にぶい緑色
59	土師器	451	709	S001	C2	土師器	縦	50	反	11.2		10.0	浅灰白
59	土師器	452	655	S001	E2	土師器	縦	10	反	17.0			浅黄
59	土師器	453	709	S001	C3	土師器	縦	10		17.9			灰
59	土師器	454	782	S001	D3	土師器	縦	70	7.6	7.0			にぶい緑
59	土師器	455	1262	S001	D2	土師器	縦	30	反	9.0	4.9		にぶい緑底径7.9
59	土師器	456	475	S001	B2	土師器	縦	70		9.0	5.0		灰白底径3.8
59	土師器	457	1535	S001	B2	土師器	縦	70		9.2			浅黄褐
59	土師器	458	1261	S001	D2	土師器	縦	60	9.6	5.8			にぶい黄緑底径4.6
59	土師器	459	809	S001	D3	土師器	く字縫	30	反	10.2	5.9		浅黄褐
59	土師器	460	1927	S001	D3	土師器	く字縫	10	反			10.3	灰黄
59	土師器	461	766	S001	D3	土師器	く字縫	10	反	12.8			浅黄褐
59	土師器	462	769	S001	E3	土師器	く字縫	5	反	13.8			灰黄 内面灰
59	土師器	463	497	S001	B2	土師器	彫形	100		4.4	3.5	3.0	にぶい黄緑 縱径3.2
59	土師器	464	496	S001	B3	土師器	彫形	50		6.0	5.3	5.0	にぶい黄緑 彫
59	土師器	465	1421	S001	D3	土師器	彫形	20	反	7.0			灰白
59	土師器	466	790	S001	E3	土師器	彫形	50	反	7.9	5.3	7.2	にぶい黄緑
59	土製品	467	707	S001	G3	土製品	革袋形	30					灰白
60	土師器	468	812	S001	D3	土師器	片	30	反	12.8			明褐色 雜文
60	土師器	469	818	S001	D3	土師器	片	40	反	12.4	3.2		にぶい黄緑 片文、能内、飛鳥IV期
60	土師器	470	818	S001	D3	土師器	片	10	反	12.0			明褐色 片文
60	土師器	471	1247	S001	D3	土師器	片	20	反	13.2			明褐色 片文
60	土師器	472	809	S001	D3	土師器	片	50	反	14.4	3.1		明褐色 片文、全面赤彩
60	土師器	473	804	S001	D2	土師器	片	10	反	15.0			赤褐 片文、全面赤彩
60	土師器	474	817	S001	D3	土師器	片	30	反	16.0			褐 片文、全面赤彩、外蓋保付
60	土師器	475	1247	S001	D3	土師器	片	10	反	16.0			にぶい赤褐 片文、内面赤彩
60	土師器	476	711	S001	C2	土師器	片	30	反	16.8	3.7		橙 片文
60	土師器	477	428	S001	D3	土師器	片	10	反	15.0			灰黄褐 片文
60	土師器	478	430	S001	D3	土師器	片	10	反	16.0			にぶい緑 片文
60	土師器	479	667	S001	C2	土師器	片	40	反	14.8	2.7		褐 片文
60	土師器	480	701	S001	D2	土師器	片	30	反	14.6	2.3		褐 片文、全面赤彩
60	土師器	481	818	S001	D3	土師器	片	5	反	16.4	2.2		にぶい緑 片文、全面赤彩
60	土師器	482	1279	S001	D3	土師器	片	10	反	17.0			明褐色 片文、全面赤彩
60	土師器	483	700	S001	B2	土師器	彫形	50	反	19.3	5.1		棕色 片文
60	土師器	484	792	S001	E3	土師器	彫形	10	反				灰白 片文
60	土師器	485	294	S001	B3	土師器	彫形	30	反	22.6			にぶい緑 赤文、赤彩
61	土師器	486	603	S001	E3	土師器	彫形	60	反	19.6	25.0	19.0	にぶい黄緑 丹青保付、底部灰
61	土師器	487	646	S001	B3	土師器	彫形	40	25.5				にぶい黄緑 丹青保付、底部灰
61	土師器	488	483-476	S001	B3	土師器	彫形	20					にぶい黄緑 丹青保付、外蓋保付、伊勢、尾張系
61	土師器	489	737	S001	C3	土師器	彫形	5					16.0 8.0 (鉢底) 丹青保付、外蓋保付、伊勢、尾張系
61	土師器	490	1535	S001	B2	土師器	彫形	20	反	10.6			明褐色 外蓋保付
61	土師器	491	215	S001	A3	土師器	彫形	10	反	12.8			13.0 明灰
61	土師器	492	813	S001	D3	土師器	彫形	20					13.6 底黄
61	土師器	493	698	S001	C3	土師器	彫形	10	反	13.8	14.4		にぶい黄緑
61	土師器	494	1266	S001	D2	土師器	彫形	10	反	16.2			14.8 浅黄褐
61	土師器	495	650	S001	B3	土師器	彫形	10	反				15.0 橙
61	土師器	496	476	S001	B3	土師器	彫形	5	反				15.0 にぶい黄緑
61	土師器	497	1293	S001	D3	土師器	彫形	10	反				15.7 にぶい黄緑
61	土師器	498	1208	S001	B2	土師器	彫形	20	反	15.2			16.0 底
61	土師器	499	478	S001	B3	土師器	彫形	20	反				16.0 にぶい緑
61	土師器	500	1813	S001	E3	土師器	彫形	5	反				16.4 にぶい黄緑
61	土師器	501	1204	S001	C3	土師器	彫形	5	反				16.2 にぶい緑
61	土師器	502	719	S001	C3	土師器	彫形	10	反				16.4 明灰
61	土師器	503	419	S001	A3	土師器	彫形	10	反				16.4 底黄
61	土師器	504	22	S001	B2-D3	土師器	彫形	10	反	15.7			16.7 白
62	土師器	505	767	S001	D3	土師器	彫形	10	反				16.8 浅黄褐 縱径14.3
62	土師器	506	37	S001	B2	土師器	彫形	20	反	15.8			17.0 浅黄褐 縱径14.0
62	土師器	507	656	S001	B2	土師器	彫形	5	反				17.0 浅黄褐 縱径14.0、外蓋保付
62	土師器	508	420	S001	A3	土師器	彫形	5	反				17.4 浅黄 縱径14.0
62	土師器	509	1928	S001	D3	土師器	彫形	5	反				17.4 にぶい黄緑 縱径14.6、外蓋保付
62	土師器	510	294	S001	B3	土師器	彫形	20					18.0 浅黄褐 縱径14.8、外蓋保付
62	土師器	511	1843	S001	D3	土師器	彫形	10	反				18.0 底黄
62	土師器	512	662	S001	B3	土師器	彫形	10	反				18.6 底黄
62	土師器	513	719	S001	C3	土師器	彫形	10	反				18.6 にぶい緑
62	土師器	514	687	S001	B3	土師器	彫形	10	反				19.0 にぶい黄緑
62	土師器	515	702	S001	C2	土師器	彫形	10	反				19.2 うすい黄緑
62	土師器	516	418	S001	A3	土師器	彫形	5	反				19.2 浅黄
62	土師器	517	697	S001	C3	土師器	彫形	5	反				19.3 底白
62	土師器	518	20	S001	A3-B3	土師器	彫形	20	反	18.4			19.4 灰白
62	土師器	519	666	S001	B3	土師器	彫形	10	反				19.6 にぶい緑
62	土師器	520	1264	S001	D2	土師器	彫形	10	反				19.8 にぶい黄緑
62	土師器	521	1813	S001	E3	土師器	彫形	5	反				20.0 にぶい黄緑
62	土師器	522	461	S001	A3	土師器	彫形	5	反				20.2 底黄 (黒)
62	土師器	523	446	S001	A2	土師器	彫形	5	反				20.2 にぶい黄緑
62	土師器	524	784	S001	D3	土師器	彫形	10	反				20.4 白
62	土師器	525	1179	S001	C3	土師器	彫形	5	反				20.4 浅黄
62	土師器	526	738	S001	C3	土師器	彫形	5	反				21.4 底白
63	土師器	527	697	S001	C3	土師器	彫形	5	反				21.5 浅黄
63	土師器	528	590	S001	B2	土師器	彫形	10	反				22.0 白
63	土師器	529	794	S001	E3	土師器	彫形	5	反				23.0 にぶい緑
63	土師器	530	414	S001	A2	土師器	彫形	50		20.9			24.6 にぶい黄緑
63	土師器	531	701	S001	D2	土師器	彫形	5	反				24.4 にぶい黄緑

Fig.	層位	番号	取扱番号	遺構	グリット	種別	縦幅	反転	標高	口径	色調	備考
62	貯	532	406	S001	A2	土師器	縫	5	反	23.6	灰	縫径 20.5
62	貯	533	308	S001	B2	土師器	縫	10	反	25.2	淡黄緑	縫径 18.5, 外面煤付帯
63	貯	534	719	S001	C3	土師器	縫	10	反	25.6	明褐緑	縫径 23.0
63	貯	535	756	S001	C3	土師器	縫	5	反	26.0	淡黄緑	縫径 22.4, 外面一部黒帯
63	貯	536	698	S001	C3	土師器	縫	20	反	26.5	灰白	縫径 23.0, 全面煤付帯
63	貯	537	792	S001	E3	土師器	縫	5	反	27.0	にぶい黄緑	縫径 23.2, 保形器
63	貯	538	645	S001	E3	土師器	縫	5	反	29.0	にぶい黄緑	縫径 24.4
63	貯	539	807	S001	D2	土師器	縫	10	反	30.6	灰緑	縫径 27.1, 外面煤付帯
63	貯	540	719	S001	C3	土師器	縫	5	反	30.9	灰白	縫径 27.4, 帯
63	貯	541	813	S001	D3	土師器	縫	10	反	31.0	にぶい黄緑	縫径 24.4, 全面煤付帯
63	貯	542	702	S001	C2	土師器	縫	5	反	32.8	灰	縫径 29.5, 煤付帯
63	貯	543	463	S001	A3	土師器	縫	5	反	33.2	灰黄	縫径 35.5, 黄緑
63	貯	544	424	S001	B3	土師器	縫	5	反	33.6	棕	縫径 28.3
64	貯	545	478	S001	B3	土師器	大型縫	5	反	36.0	灰黄	縫径 33.4
64	貯	546	736	S001	C3	土師器	大型縫	10	反	39.4	淡黄緑	縫径 37.8, 外面煤付帯
64	貯	547	294	S001	B3	土師器	大型縫	5	反	40.0	灰黄	縫径 37.0
64	貯	548	665	S001	B3	土師器	大型縫	20	反	40.0	にぶい黄緑	縫径 37.8, 全面煤付帯
64	貯	549	478	S001	B3	土師器	大型縫	50	反	34.0	にぶい黄緑	縫径 31.8, 外面煤付帯
64	貯	550	649	S001	B3	土師器	大型縫	10	反	38.0	にぶい黄緑	縫径 31.6, 外面煤付帯
64	貯	551	777	S001	E3	土師器	縫	50	反	16.2	灰黄	縫径 13.9, 口部無剥離 - 3コテ
64	貯	552	450	S001	A2	土師器	縫	40			にぶい黄緑	縫径 6.8, 滲径 12.4
64	貯	553	1905	S001	E3	土師器	縫	10			にぶい黄緑	縫径 7.2, 滲径 14.4
64	貯	554	1208	S001	B2	土師器	縫	20	反		淡黄緑	御裂付 8.6, 滲径 8.6, 外面煤付帯
64	貯	555	1918	S001	B3	土師器	縫	10	反		灰黄	御裂付 6.2
64	貯	556	786	S001	B3	土師器	縫	10	反		灰黄	滲径 12.2
64	貯	557	799	S001	B3	土師器	縫	20			灰白	御裂付 8.0, 滲径 14.4, 外面煤付帯
65	貯	558	818	S001	D2	土師器	板	10	反	20.4	明褐灰	
65	貯	559	447	S001	A2	土師器	板	5	反	24.6	にぶい縛	
65	貯	560	737	S001	C3	土師器	板	5	反	29.5	灰白	
65	貯	561	447	S001	A2	土師器	板	5	反	34.0	にぶい縛	
65	貯	562	1918	S001	D3	土師器	板	10	反		板	滲径 10.0
65	貯	563	1921	S001	D3	土師器	板	10	反		淡黄緑	滲径 11.0
65	貯	564	730	S001	E3	土師器	板	10	反		淡黄緑	滲径 12.0
65	貯	565	817	S001	D3	土師器	板	10	反		淡黄緑	滲径 17.4, 外面煤付帯
65	貯	566	1814	S001	B3	土師器	板	10			黄白	
65	貯	567	752	S001	E3	土師器	板	5			丸穿	
65	貯	568	1262	S001	B2	土師器	板	5			にぶい黄緑	
65	貯	569	1293	S001	D3	土師器	板	20			丸穿	
65	貯	570	703	S001	C3	土師器	板	60		19.8	3.1	内面漆溜まり、断面漆付看
65	貯	571	1152	S001	C3	漆器皿	耳環	100		3.3	2.9	0.8
65	貯	572	1201	S001	C3	漆器皿	耳環	100		3.2	2.8	0.8
65	貯	573	1292	S001	D3	漆器皿	有孔円錐	61		5.8	0.9	3.7g, 2 × 4, 中央方孔孔1
65	貯	574	776	S001	E3	漆器皿	粘附漆	100		5.3	2.2	明褐灰 48.2g
65	貯	575	796	S001	B2	漆器皿	土漆	100		4.4	9.6	4.6
65	貯	576	713	S001	B2	漆器皿	土漆	40		3.5	4.8	にぶい黄緑 50.5g
65	貯	577	440	S001	A2	漆器皿	福口羽				にぶい縛	
65	貯	578	1295	S001	D2	漆器皿	福口羽				地、灰	肉塊 2.3
66	貯	579	1179	S001	C3	石製品	磨石			3.8	6.6	2.2
66	貯	580	606	S001	C3	石製品	磨石			5.4	6.6	3.1
66	貯	581	1912	S001	D2	石製品	磨石			7.9	6.2	2.7
66	貯	582	1298	S001	D3	石製品	磨石			8.5	8.3	3.1
66	貯	583	921	S001	D3	石製品	磨石			4.6	10.9	2.5
66	貯	584	1203	S001	C2	石製品	磨石			5.1	11.4	4.5
66	貯	585	311	S001	B2	石製品	磨石			4.7	12.5	2.5
66	貯	586	654	S001	B2	石製品	磨石			10.6	9.0	7.0
66	貯	587	707	S001	C3	石製品	磨石			7.8	9.0	5.9
66	貯	588	780	S001	D2	石製品	磨石			8.5	13.2	3.2
66	貯	589	1927	S001	D2	石製品	磨石			9.2	15.9	2.8
66	貯	590	501	S001	B2	石製品	磨石			9.9	20.5	8.3
66	貯	591	500	S001	B2	石製品	磨石			12.8	16.3	8.4
74	V	1	25	S001	E3	漆器皿	筒蓋	60		15.6	3.3	灰
74	V	2	373	S001	E3	漆器皿	無台盤	10		13.2		灰
74	V	3	371	S001	E3	漆器皿	無台盤	30		13.4	4.1	維灰
74	V	4	373	S001	E3	漆器皿	無台盤	10		15.0		維灰
74	V	5	317	S002	E3	漆器皿	筒蓋	50		15	3.1	維灰
74	V	6	1535	S002	E3	漆器皿	有台盤身	30		反		縫み 2.8, 灰「S」方向左
74	V	7	315	S002	E3	漆器皿	有台盤身	20		4.4	14.0	灰縛
74	V	8	315	S002	E3	漆器皿	有台盤身	10		14.6	3.9	縫み 10.6, 灰「S」方向右
74	V	9	317	S002	E3	漆器皿	有台盤身	20		14.5	4.0	灰縛
74	V	10	315	S002	E3	漆器皿	有台盤身	50		15.4	4.1	灰白
74	V	11	315	S002	E3	漆器皿	有台盤身	50		12.4	4.2	灰
74	V	12	317	S002	E3	漆器皿	無台盤	10		14.4		維灰
74	V	13	213	S002	E3	漆器皿	無台盤	20		14.8		灰
74	V	14	317	S002	E3	漆器皿	無台盤	70		14.0	4.4	灰白
74	V	15	315	S002	E3	漆器皿	無台盤	40		14.0	4.0	維灰
74	V	16	372	S002	E3	漆器皿	無台盤	20		16.2		明白白
74	V	17	315	S002	E3	漆器皿	無台盤	10		15.8		灰白
74	V	18	374	S002	E3	漆器皿	縫	20		20	4.4	オリーブ黒
74	V	19	374	S002	E3	土師器	縫	20		17.6		薄茶
74	V	20	374	S002	E3	土師器	縫	10		17.8		墨綠, 全面色彩(内面褐色)
74	V	21	213	S002	E3	土師器	縫	5				にぶい黄緑
74	V	22	374	S002	E3	土師器	縫	20		17.7	15.4	にぶい黄緑
74	V	23	317	S002	E3	土師器	縫	10		20.0		薄茶
74	V	24	374	S002	E3	土師器	縫	10		31.0		薄茶

出土遺物観察表

Fig.	層位	番号	取上番号	遺構	グリット	種別	高さ	反転	側面	端部	口径	色調	備考		
74	V	25	213	5502	E3	土師器	鉢形	20	反	17.1	底	黒緑 15.4、底緑 9.0、把手付き			
74	V	26	213	5502	E3	土師器	鉢形	10		14.8	底	黒緑 14.0			
74	V	27	317	5502	E3	土師器	鉢形	10	反	17.1	底	黒緑 16.2、把手付き			
74	V	28	317	5502	E3	土師器	鉢形	50	反	2.1	2.6	2.4	黒緑 15.8		
74	V	29	399	5502	E3	土師器	鉢形	10	反	7.2	底	黒緑 14.8			
74	V	30	317	5502	E3	土師器	鉢形	30		7.8	赤灰	黒良助土・須惠質燒成			
74	V	31	181	5502	E3	土師器	鉢形	10	反	7.4	底	黒良助土			
74	V	32	317	5502	E3	土師器	鉢形	30		7.9	底	黒良助土			
74	V	33	317	5502	E3	土師器	鉢形	20	反	8.0	底	黒良助土			
74	V	34	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		8.0	底	黒良助土、口縁部工具のけり			
74	V	35	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		8.0	底	黒良助土			
74	V	36	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		8.3	底	黒良助土			
74	V	37	374	5502	E3	土師器	鉢形	10	反	8.2	底	黒良助土			
74	V	38	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		8.2	底	黒良助土			
74	V	39	317	5502	E3	土師器	鉢形	20	反	8.2	底	黒良助土			
74	V	40	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		8.2	底	黒良助土			
74	V	41	317	5502	E3	土師器	鉢形	20	反	8.2	底	黒良助土			
74	V	42	792	5502	E3	土師器	鉢形	30		8.4	底	黒良助土			
74	V	43	792	5502	E3	土師器	鉢形	20		8.4	底	黒良助土			
74	V	44	213	5502	E3	土師器	鉢形	20	反	8.4	底	黒良助土			
74	V	45	317	5502	E3	土師器	鉢形	10		8.4	底	黒良助土			
74	V	46	315	5502	E3	土師器	鉢形	20		8.4	底	黒良助土			
74	V	47	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		8.6	底	黒良助土			
74	V	48	317	5502	E3	土師器	鉢形	40		8.6	底	黒良助土			
74	V	49	752	5502	E3	土師器	鉢形	20	反	8.8	底	黒良助土			
74	V	50	792	5502	E3	土師器	鉢形	10		9.0	底	黄緑色			
74	V	51	374	5502	E3	土師器	鉢形	30		9.0	底	黒良助土			
74	V	52	374	5502	E3	土師器	鉢形	20	反	9.4	底	黒良助土			
74	V	53	792	5502	E3	土師器	鉢形	30		9.6	底	黒良助土			
74	V	54	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		9.6	底	黒良助土			
74	V	55	315	5502	E3	土師器	鉢形	30		9.8	底	黒良助土			
74	V	56	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		9.8	底	黒良助土			
74	V	57	374	5502	E3	土師器	鉢形	20	反	9.8	底	黒良助土			
74	V	58	167	5502	E3	土師器	鉢形	10		9.8	底	黒良助土			
74	V	59	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		9.8	底	黒良助土			
74	V	60	167	5502	E3	土師器	鉢形	20		9.8	底	黒良助土			
74	V	61	317	5502	E3	土師器	鉢形	10	反	9.8	底	黒良助土			
74	V	62	317	5502	E3	土師器	鉢形	20		9.2	底	黒良助土			
75	V	63	820	5504	B2	陶瓦器	無蓋瓦舟	70	反	14.0	11.7	底	黒緑 3.5、底緑 10.0		
75	V	64	1208	5504	B2	陶瓦器	有台坪舟	30	反	13.4	3.8	底	白	底緑 10.3	
75	V	65	1588	5504	B1・B2	陶瓦器	有台坪舟	40		13.8	3.6	底	白	底緑 10.6、外画自然跡	
75	V	66	1535	5504	B2	陶瓦器	有台坪舟	30		14.0	3.8	底	白	底緑 10.6、14°方向左	
75	V	67	828	5504	B2	陶瓦器	有台坪舟	40	反	14.8	4.0	底	白	底緑 10.2、14°方向左	
75	V	68	1207	5504	B2	陶瓦器	有台坪舟	30	反	15.2	3.9	底	白	底緑 10.6、14°方向左	
75	V	69	1207・1588	5504	B1・B2	陶瓦器	有台坪舟	50		15.2	6.5	底	白	底緑 10.4、天平、湖西、14°方向右	
75	V	70	1207	5504	B2	陶瓦器	無台盤	20	反	13.8	3.8	底	白	14°方向左	
75	V	71	1203	5504	B2	陶瓦器	無台盤	40	反	15.0	5.0	底	白	底部木調整	
75	V	72	1207	5504	B2	陶瓦器	無台盤	10		15.0		底	白		
75	V	73	1207	5504	B2	陶瓦器	無台盤	30		15.4	4.6	底	14°方向右		
75	V	74	1207	5504	B2	陶瓦器	無台盤	40		17.0	4.7	底	白		
75	V	75	1207	5504	B2	陶瓦器	無台盤	10		14.0		底	白		
75	V	76	1207	5504	B2	陶瓦器	無台盤	10	反	15.0		底	白		
75	V	77	1588	5504	B1・B2	陶瓦器	短筒舟	10	反		16.0	底	白		
75	V	78	826	5504	B1	土師器	短筒舟	10	反		16.0	底	白		
75	V	79	1588	5504	B1・B2	土師器	片	10	反	16.0	2.6	底	明褐色		
75	V	80	1588	5504	B1・B2	土師器	片	10	反	17.8		底	白	縦文、内画赤彩	
75	V	81	835・1297	5504	B1・B2	土師器	片	30	反	16.4	2.0	底	白	縦文、全画うすい赤彩	
75	V	82	1678	5504	B1・B2	土師器	片	10	反		20.4	底	白	底部木調整	
75	V	83	1208	5504	B2	土師器	片	10	反		28.0	底	白	外画木付着	
75	V	84	121	5504	B1	土師器	片	10			8.2	底	白	14°方向右	
75	V	85	1588	5504	B1・B2	土師器	片	20			9.0	底	白	縦文、内画赤彩	
75	V	86	1588	5504	B1・B2	土師器	片	20	反		9.0	底	白	縦文、内画赤彩	
75	V	87	1588	5504	B1・B2	土師器	片	20	反		9.8	底	白	縦文、内画赤彩	
75	V	88	1208	5504	B2	石製品	砾石			6.7	8.7	3.5	底	白	264.6m、底反凹
75	V	89	836	5504上	C3	陶瓦器	拂垂	50	反	16.5	2.7		底	白	2.7、14°方向左
75	V	90	835	5504上	B1	陶瓦器	拂垂	10	反	15.0			底	白	
75	V	91	835	5504上	B1	土師器	片	10	反	12.0			底	白	縦文、内画赤彩
75	V	92	835	5504上	B1	土師器	片	10	反	14.2	2.1		底	白	縦文、全画赤彩
75	V	93	835	5504上	B1	土師器	片	10	反	16.0	2.6		底	白	明褐色
75	V	94	835	5504上	B1	土師器	片	20	反	16.0			底	白	縦文、内画赤彩
75	V	95	836	5504上	B1	土師器	蔓	10	反		16.2		底	白	底部木調整
77	V	99	396	5001	C3	土師器	片舟	50	反	11.1	9.4	底	白	14°方向右	
77	V	100	365	5001	C2	土師器	片舟	50	反	10.3	3.2	8.6	底	白	底部木調整
77	V	101	282	5001	A2	土師器	無台坪舟	40	反	10.2	3.6		底	白	底部木調整
77	V	102	394	5001	C3	土師器	無台坪舟	50	反	11.0	4.2		底	白	底部木調整
77	V	103	1098	5001	C3	土師器	無台坪舟	80	反	11.6	5.0		底	白	14°方向右、外画付に近い沈線
77	V	104	287	5001	A3	土師器	無台坪舟	70		13.0	4.1		底	白	14°方向右
77	V	105	365	5001	C2	土師器	無台坪舟	80	反	13.0	4.8		底	白	14°方向右
77	V	106	615	5001	B2	土師器	無台坪舟	40	反	18.8	4.4		底	白	底部木調整不平
77	V	107	2023	5001	A5	土師器	拂垂	80	反	15.0	3.1		底	白	拂垂 2.6、14°方向左
77	V	108	215	5001	A3	土師器	拂垂	30	反	15.6		15.2	底	白	14°方向左
77	V	109	213	5001	E1	土師器	拂垂	20	反	17.1	3.1		底	白	14°方向左
77	V	110	1061	5001	D2	土師器	拂垂	70		15.8	3.4		底	白	拂垂 3.0、14°方向左、自然顔
77	V	111	116	5001	C2	土師器	拂垂	90		15.6	2.9		底	白	

Fig.	部位	番号	取扱番号	遺構	グリット	種別	高さ	反転	傾き	基面	頂高	口径	色調	備考
77	V	112	790	S001	E3	須恵器	壺蓋	40	反	15.8	3.8	灰白	掘み 2.7、竹口方向左、外面自然釉	
77	V	113	212	S001	D2	須恵器	有台坪身	20	反	13.5	4.0	灰	底径 10.0、竹口方向左	
77	V	114	364	S001	C2	須恵器	有台坪身	50	反	14.8	4.3	灰	底径 10.0、竹口方向左	
77	V	115	392	S001	C2	須恵器	有台坪身	80	反	12.4	4.4	灰	底径 10.8	
77	V	116	399	S001	E3	須恵器	有台坪身	20	反	15.6	4.0	灰褐色	底径 10.8	
77	V	117	20	S001	A3 - B3	須恵器	有台坪身	20	反	13.4	4.1	灰白	底径 8.0	
77	V	118	363	S001	C2	須恵器	有台坪身	30	反	15.2	3.4	灰褐色	底径 10.8、竹口方向左	
77	V	119	391	S001	C2	須恵器	有台坪身	10	反	17.0	3.9	灰褐色	底径 12.6	
77	V	120	399	S001	E3	須恵器	有台坪身	10	反	14.6	3.4	灰褐色	底径 10.8	
77	V	121	829	S001	B2	須恵器	有台坪身	60	反	14.2	3.7	灰	底径 8.0、竹口方向左	
77	V	122	399	S001	E3	須恵器	無台盤	40	反	14.6	5.1	灰褐色	底都未調査	
77	V	123	397	S001	E2	須恵器	無台盤	50	反	14.6	6.0	灰	底都未調査	
77	V	124	391	S001	C2	須恵器	無台盤	30	反	14.6	4.2	暗灰	底都未調査、内面保付着	
77	V	125	10	S001	C2	須恵器	無台盤	60	反	14.9	4.2	灰	底都未調査	
77	V	126	284	S001	A3	須恵器	無台盤	20	反	14.8	3.5	灰褐色	底部半神社	
77	V	127	352	S001	B3	須恵器	無台盤	30	反	14.3	4.5	维	竹口方向左、傳ふくれ	
77	V	128	146	S001	E3	須恵器	無台盤	20	反	14.4	4.0	灰	竹口方向左、異?	
77	V	129	615	S001	B2	須恵器	無台盤	20	反	14.4	4.0	灰	竹口方向左	
77	V	130	1059	S001	D2	須恵器	無台盤	90	反	15.0	5.0	灰褐色	底都未調査	
77	V	131	87	S001	B1	須恵器	無台盤	10	反	15.0	6.0	灰白	竹口方向左	
77	V	132	283	S001	A2	須恵器	鉢	30	反	14.6	4.2	青灰	陶臼、穿孔 3 × 方向不明 + 1 × 未貫通	
77	V	133	307	S001	B3	須恵器	鉢	80	反	14.9	4.2	明灰	竹口方向左	
77	V	134	356	S001	E3	須恵器	壺蓋	30	反	10.7	3.7	8.4	灰	
77	V	135	117	S001	C2	須恵器	長圓瓶	40	反	12.4	4.0	灰	掘径 4.6	
77	V	136	362	S001	C2	須恵器	壺	10	反	22.2	2.2	灰	掘径 17.2	
77	V	137	368	S001	E3	須恵器	壺蓋	40	反	14.8	4.0	灰	掘 2.7、軸用縫、外面施釉	
77	V	138	10	S001	C2	須恵器	壺蓋	40	反	15.4	3.4	灰	掘 2.7、軸用縫、竹口方向左	
77	V	139	399	S001	E3	須恵器	有台坪身	20	反	14.6	4.0	暗灰	底径 10.6、軸用縫	
77	V	140	357	S001	B2	須恵器	円筒壺	5	反	14.6	4.0	灰白	中空把手円筒壺、円形凹凸	
78	V	141	187	S001	E3	土師器	壺	30	反	14.3	2.8	灰褐色		
78	V	142	1962	S001	E3	土師器	壺	20	反	15.6	6.0	灰	にぶい壁 全面施釉、暗文	
78	V	143	399	S001	E3	土師器	壺	20	反	15.7	5.4	灰白	全面施釉	
78	V	144	166	S001	E3	土師器	壺	10	反	12.6	6.0	灰	にぶい黄緑 逆張り調査	
78	V	145	230	S001	E3	土師器	壺	10	反	14.4	4.0	灰	にぶい壁 全面施釉	
78	V	146	229	S001	E3	土師器	壺	40	反	14.6	4.0	灰	全面施釉	
78	V	147	427	S001	D2	土師器	壺	50	反	14.6	2.9	灰	にぶい壁 全面施釉 裂縫	
78	V	148	230	S001	E3	土師器	壺	20	反	17.4	4.0	灰	全面施釉	
78	V	149	69	S001	A3	土師器	壺	5	反	19.4	4.0	灰	全面施釉	
78	V	150	361	S001	C2	土師器	壺	20	反	15.0	5.0	灰	全面施釉	
78	V	151	224	S001	A2	土師器	壺	10	反	18.6	4.0	灰	にぶい壁	
78	V	152	365	S001	C2	土師器	壺	5	反	29.4	4.0	灰	全面施釉	
78	V	153	139	S001	C2	土師器	壺	5	反	37.6	4.0	灰	全面施釉	
78	V	154	1959	S001	A3	土師器	壺	5	反	16.0	4.0	灰	全面施釉	
78	V	155	314	S001	D2	土師器	壺	10	反	16.6	4.0	灰	全面施釉	
78	V	156	390	S001	C2	土師器	小壺	40	反	7.2	2.9	灰白	にぶい壁	
78	V	157	399	S001	E3	土師器	小壺	20	反	7.2	2.6	灰	にぶい壁	
78	V	158	390	S001	C2	土師器	小壺	30	反	7.2	2.6	灰	にぶい壁	
78	V	159	1053	S001	E3	土師器	小壺	90	反	7.2	4.5	灰白	にぶい壁	
78	V	160	1207	S001	B2	土師器	小壺	90	反	7.2	3.7	灰白	にぶい壁	
78	V	161	361	S001	C2	土師器	小壺	50	反	7.3	2.8	にぶい壁		
78	V	162	128	S001	C2	土師器	小壺	70	反	7.4	2.6	にぶい壁		
78	V	163	1031	S001	E3	土師器	小壺	100	反	7.5	3.0	にぶい壁		
78	V	164	615	S001	B2	土師器	小壺	50	反	7.6	4.2	にぶい壁		
78	V	165	215	S001	A3	土師器	小壺	30	反	7.6	4.2	にぶい壁		
78	V	166	1083	S001	D2	土師器	小壺	20	反	8.0	6.0	灰白	全面施釉	
78	V	167	615	S001	B2	土師器	小壺	20	反	8.6	6.0	灰白	全面施釉	
78	V	168	1150	S001	C2 - C3	土師器	小壺	40	反	9.0	3.7	灰	全面施釉	
78	V	169	226	S001	A2	土師器	小壺	70	反	10.6	6.0	灰白	全面施釉	
78	V	170	224	S001	A2	土師器	小壺	20	反	13.4	6.0	灰	全面施釉	
78	V	171	142	S001	D2	土師器	瓶形	30	反	7.5	4.6	灰	全面施釉	
78	V	172	1959	S001	A3	土師器	瓶形	40	反	9.2	8.6	灰	全面施釉	
78	V	173	212	S001	D3	土師器	瓶形	20	反	12.4	7.0	灰	全面施釉	
78	V	174	464	S001	A3	土師器	瓶形	20	反	17.2	7.0	灰	全面施釉 内面一部赤鉄、保付裏	
78	V	175	1058	S001	D2	土師器	高盤形	60	反	3.0	6.5	5.2	にぶい壁	
78	V	176	1062	S001	D2	土師器	高盤形	40	反	3.3	7.2	5.1	にぶい壁	
78	V	177	296	S001	B3	土製品	土馬	3	反	3.1	17.7	0.2	取耳付付箋	
78	V	178	269	S001	B3	土製品	土馬	3	反	3.3	7.2	5.1	十字形火打痕	
78	V	179	1942	S001	A3	骨角製品	卜骨	3	反	3.0	6.0	5.6	30.7g、凝灰岩、櫛模	
78	V	180	141	S001	C2	石製品	石鏡	3	反	3.3	4.7	1.5	56.3g、鶴石	
78	V	181	365	S001	C2	石製品	石鏡	6	反	6.0	4.8	4.7	2 号墨書「田代」	
88	N' b	1	216	SE01	E3	須恵器	壺蓋	5	反	15.4	4.0	灰白色		
88	N' b	2	216	SE01	A3	須恵器	壺蓋	10	反	15.6	5.0	灰白		
88	N' b	3	216	SE01	A3	須恵器	壺蓋	10	反	15.6	5.0	灰白	底径 11.8、竹口方向左、黒斑	
88	N' b	4	313	SE01	A3	須恵器	壺蓋	40	反	7.4	4.8	灰	自然釉露着	
88	N' b	5	57 - 216	SE01	A3	須恵器	長圓瓶	50	反	16.0	20.0	7.6	底白 6.4、竹口方向左、竹口方向右、外面自然釉	
88	N' b	6	388	SE01	A3	土師器	鉢	10	反	15.6	6.0	灰	底白 14.0	
88	N' b	7	216	SE01	A3	土師器	鉢形	20	反	19.0	6.0	灰	底白 15.8	
88	N' b	8	313	SE01	A3	土師器	小盤	10	反	7.0	5.6	灰		
88	N' b	9	313	SE01	A3	土師器	小盤	90	反	3.7	3.2	灰		
88	N' b	10	313	SE01	A3	石製品	石鏡	5	反	5.6	7.8	1.8	89.4g、粘石岩	
88	N' b	21	191	SE02	E3	須恵器	壺蓋	50	反	15.6	3.6	灰	底白 2.4、竹口方向左、縫合跡	
88	N' b	22	265	SE02	E3	須恵器	無台盤	90	反	14.6	4.7	灰白	底都未調査	
88	N' b	23	188 - 262	SE02	E3	須恵器	長頸瓶	90	反	24.6	26.7	9.0	竹口方向左、外面自然釉、底部裏面付着、縫合跡?	
88	N' b	24	186 - 203	SE02	E3	須恵器	長頸瓶	80	反	14.8	6.0	灰	竹口方向左、自然釉	

出土遺物観察表

Fig.	部位	番号	取上番号	遺跡	グリット	種別	高さ	反転	側面	裏面	口径	色調	備考	
90	N' b	25	262	S302	E3	土師器	身	20	反	14.6	灰			
90	N' b	26	188	S302	E3	土師器	身	30		16.0	灰白	全面赤彩、繪文		
90	N' b	27	269	S302	E3	土師器	小破	70		5.8 3.4	橙			
90	N' b	28	259	S302	E3	土師器	小破	50	反	6.4 2.5	灰白			
90	N' b	29	260	S302	E3	土師器	小破	70		7.0 3.4	灰白			
90	N' b	30	261	S302	E3	土師器	小破	100		7.0 3.6	灰白			
90	N' b	31	269	S302	E3	土師器	小破	10	反	7.0 3.5	灰	淡青裡		
90	N' b	32	259	S302	E3	土師器	小破	30	反	7.4	灰	淡青裡		
90	N' b	33	264	S302	E3	土師器	小破	60		8.0	灰	淡青裡		
90	N' b	34	271	S302	E3	土師器	小破	10	反	8.1	灰	淡青裡		
90	N' b	35	257	S302	E3	土師器	小破	90		7.5 4.0	灰白	にじみ黄橙 外面粘土層を上げる痕跡明確		
92	N' b	37	155	S303	D2	須志器	壺蓋	80		14.2 2.9	灰白	3号書「萬古」、墨1.1、竹1方向左、小要号		
92	N' b	38	179	S303	D2	須志器	壺蓋	80		14.0 2.6	灰白	4号書「萬古」、墨1.1、竹1方向左、小要号		
92	N' b	39	142	S303	D2	須志器	壺蓋	70		13.2 2.7	灰	5号書「萬古」、墨1.1、竹1方向左、小要号		
92	N' b	40	133	S303	D3	須志器	壺蓋	60			灰白	6号書「萬古」、墨1.1、竹1方向左、小要号		
92	N' b	41	189	S303	A3	須志器	壺蓋	40	反	13.6	灰	7号書「萬古」、竹1方向左		
92	N' b	42	177	S303	D3	須志器	平頂壺	95		17.9 2.2	灰白	8号書「萬古」、墨1.1、竹1方向左		
92	N' b	43	1051	S303	C2	須志器	壺环	90		12.4 3.8	灰白	9号書「萬古」、墨1.1、竹1方向左		
92	N' b	44	1057	S303	D2	須志器	壺环	40			灰	10号書「萬古」、墨1.1、竹1方向左		
92	N' b	45	130	S303	D2	須志器	壺环	40	反	10.4 4.0	灰	11号書「上絵」、墨1.5、竹1方向左		
92	N' b	46	160	S303	D2	須志器	耳环	60	反	13.8 5.2 10.3	灰	12号書「福良」、墨1.1、竹1方向左		
92	N' b	47	25	S303	E3	須志器	耳环	10	反		灰	13号書「福良」、墨1.1、竹1方向左		
92	N' b	48	171	S303	D3	須志器	高茎	60		12.8	灰白	14号書「福良」、墨1.1、竹1方向左		
92	N' b	49	188	S303	E3	須志器	壺蓋	5			灰白	15号書「廣」、外腹黒斑皮1~2色		
92	N' b	50	43	S303	四 / 壺	5						16号書「福良」		
92	N' b	51	129	S303	D2	須志器	壺蓋	20	反	16.6	灰	にじみ黄橙		
92	N' b	52	133	S303	D3	須志器	有台坏身	60		15.8 4.0	灰	迷透10.9、竹1方向左		
92	N' b	53	168 ~ 134	S303	E3	須志器	破形台坏身	40		14.2 4.4	灰白	迷透6.6、竹1方向右		
92	N' b	54	130	S303	D2	須志器	壺环	60		14.7 3.7	灰白	迷透8.8、竹1方向左		
92	N' b	55	174	S303	D3	須志器	壺环	10	反	17.4	迷透	竹1方向左		
92	N' b	56	200	S303	D3	須志器	壺环	50		10.7	迷透	朱墨绘(朱墨绘)、竹1方向左		
92	N' b	57	172	S303	D1	須志器	広口壺	90		16.4	灰	迷透10.9、竹1方向左		
92	N' b	58	10 ~ 89	S303	B1 C2	須志器	広口壺	90		25.0	5.1	灰	迷透16.6、竹1方向左	
92	N' b	59	163	S303	D2	須志器	広口壺	30	反	23.2	迷透	外腹黒部引子形、外面彫文自然隠		
92	N' b	60	166	S303	D2	須志器	壺蓋	80		31.7	20.7	迷透	16.6、竹1方向左、外腹黒部自然隠	
92	N' b	61	158	S303	D2	土師器	壺蓋	50		12.8 3.6	迷透	迷透竹1、内腹赤彩、外腹黒部繩維		
92	N' b	62	169	S303	D2	土師器	壺蓋	50		12.8 3.8	迷透	迷透竹2、迷透7.1、内腹赤彩		
92	N' b	63	133	S303	D2	土師器	壺蓋	5	反		迷透	迷透竹3、迷透7.1、内腹赤彩		
92	N' b	64	129	S303	D3	土所器	小型壺	70		15.8 13.8	迷透	迷透14.4、人面書		
92	N' b	65	159	S303	D2	骨	不明					象鼻、加工痕		
95	N' b	79	187	S304	E3	須志器	無台盤	30		13.5 4.0	灰白			
95	N' b	80	187	S304	E3	須志器	無台盤	30		14.0 4.0	迷透	迷透1.2、底部未調整		
95	N' b	81	187	S304	E3	須志器	無台盤	50	反	14.6	迷透	迷透1.2、調整、内腹底部形状の変編		
95	N' b	82	212	S304	D3	須志器	無台盤	40	反	15.0 4.2	迷透	迷透1.5、迷透未調整		
95	N' b	83	134	S304	E3	須志器	無台盤	90		14.3 4.7	迷透	迷透1.0、底部未調整		
95	N' b	84	187	S304	E3	須志器	無台盤	90		14.2 4.1	迷透	竹1方向左		
95	N' b	85	187	S304	E3	須志器	壺	40	反	20.0 2.0 19.8	迷透	迷透竹1、迷透2、底部未調整		
95	N' b	86	315	S304	E3	須志器	高茎	10	反	20.6	迷透	17号書「廣」、竹1方向左		
95	N' b	87	187	S304	E3	土師器	壺环	20	反	16.4 3.7	迷透	迷透竹1、外腹赤彩		
95	N' b	88	187	S304	E3	土師器	壺环	30	反	14.0 3.0	迷透	迷透竹2.2、外腹赤彩		
95	N' b	89	187	S304	E3	土師器	壺环	30	反	15.0	迷透	全面赤彩		
95	N' b	90	188	S304	E3	土師器	小破	30		8.0	迷透			
95	N' b	91	198	S304	E3	土師器	小破	80		9.5 3.5	迷透	底透2.0		
95	N' b	92	109	S301 A2 A3	須志器	壺蓋	40		15.2 3.6 14.8	迷透	迷透2.3、竹1方向左			
95	N' b	93	110	S301 C2	須志器	壺蓋	40		16.3 3.0 16.2	迷透	迷透2.3.2、竹1方向左			
95	N' b	94	111	S301	A2	須志器	壺蓋	40		16.0 3.3	迷透	迷透2.3.2、竹1方向左		
95	N' b	95	122	S301	C2	須志器	壺蓋	40		15.8 3.7	迷透	迷透2.3.7、竹1方向左、供奉、黑彩		
95	N' b	96	113	S301	D3	須志器	壺蓋	20	反	14.8 2.8 14.5	迷透	迷透2.3.7.2、竹1方向左、口縁部外腹黒彩		
95	N' b	97	114	S301	C3	須志器	壺蓋	30	反	14.0 3.0	迷透	迷透2.3.7.2、竹1方向左		
95	N' b	98	115	S301	C2	須志器	壺蓋	30	反	14.0 3.7	迷透	迷透2.3.7.2、竹1方向左		
95	N' b	99	119	S301	C2	須志器	壺蓋	70		13.6 3.8	迷透	迷透10.7		
95	N' b	100	177	S301	E3	須志器	壺蓋	30	反	14.2 4.1	迷透	迷透10.2		
95	N' b	101	119	S301	E3	須志器	壺蓋	10	反	14.6 4.8	迷透	迷透11.2		
95	N' b	102	110	S301	A3	須志器	壺蓋	40	反	15.2 3.8	迷透	迷透10.6、竹1方向左		
95	N' b	103	121	S301	C2	須志器	壺蓋	40	反	15.2 3.8	迷透	迷透12.4、竹1方向左		
95	N' b	104	122	S301	C2	須志器	壺蓋	50	反	15.4 4.4	迷透	迷透11.4、竹1方向左		
95	N' b	105	123	S301	C2	須志器	壺蓋	40	反		迷透	迷透10.4、竹1方向左		
95	N' b	106	124	S301	A3	須志器	壺蓋	20	反		迷透	迷透14.3		
95	N' b	107	125	S301	D3	須志器	壺蓋	40	反		迷透	迷透7.3、竹1方向左		
95	N' b	108	126	S301	D3	須志器	壺蓋	70			迷透	迷透9.2、竹1方向左		
95	N' b	109	119	S301	E3	須志器	壺蓋	30	反	14.2 4.1	迷透	迷透10.7		
95	N' b	110	204	S301	E3	須志器	壺蓋	10	反	14.6 4.8	迷透	迷透11.2		
95	N' b	111	115	S301	C2	須志器	壺蓋	40	反	15.2 3.8	迷透	迷透10.6、竹1方向左		
95	N' b	112	112	S301	C2	須志器	壺蓋	10	反	15.2 3.8	迷透	迷透12.4、竹1方向左		
95	N' b	113	122	S301	C2	須志器	壺蓋	50	反	15.4 4.4	迷透	迷透11.4、竹1方向左		
95	N' b	114	124	S301	C2	須志器	壺蓋	40	反		迷透	迷透10.4、竹1方向左		
95	N' b	115	123	S301	D3	須志器	壺蓋	10	反		迷透	迷透14.3		
95	N' b	116	119	S301	C2	須志器	壺蓋	70			迷透	迷透7.3、竹1方向左		
95	N' b	117	117	S301	A3	須志器	壺蓋	30	反	14.2 4.1	迷透	迷透10.2		
95	N' b	118	204	S301	E3	須志器	壺蓋	10	反	14.6 4.8	迷透	迷透11.2		
95	N' b	119	115	S301	C2	須志器	壺蓋	40	反	15.2 3.8	迷透	迷透10.6、竹1方向左		
95	N' b	120	105	S301	C2	須志器	壺蓋	10	反	15.2 3.8	迷透	迷透12.4、竹1方向左		
95	N' b	121	112	S301	C2	須志器	壺蓋	50	反	15.4 4.4	迷透	迷透11.4、竹1方向左		
95	N' b	122	114	S301	C2	須志器	壺蓋	40	反		迷透	迷透10.4、竹1方向左		
95	N' b	123	109	S301	A3	須志器	壺蓋	10	反		迷透	迷透14.3		
95	N' b	124	266	S301	A3	須志器	壺蓋	20	反	13.0 3.2	迷透	迷透7.3、竹1方向左		
95	N' b	125	71	S301	A3	須志器	壺蓋	40	反	13.0 3.3	迷透	迷透8.0、竹1方向左、口縁部全黒化色斑		
95	N' b	126	1959	S301 A3	A3	須志器	壺蓋	40	反	13.2 3.6	迷透	迷透10.5、竹1方向左		
95	N' b	127	8	S301 A2 A3	A2 A3	須志器	壺蓋	40	反	14.0 3.4	迷透	迷透11.0、竹1方向左。全面赤彩		
95	N' b	128	15	S301 D2	D2	須志器	壺蓋	20	反	13.5	明透	迷透11.6		
95	N' b	129	70	S301 A3	A3	須志器	壺蓋	10	反		迷透	迷透12.5、竹1方向左		
95	N' b	130	196	S301 E3	E3	須志器	無台盤	10	反		迷透	迷透12.5.2、竹1方向左		
95	N' b	131	196	S301 E3	E3	須志器	無台盤	60		12.8 3.9	迷透	迷透12.6、竹1方向左		
95	N' b	132	57	S301 A3	A3	須志器	無台盤	10	反		迷透	迷透13.5		
95	N' b	133	184	S301 D3	D3	須志器	無台盤	80		14.1 4.3	迷透	迷透14.4、竹1方向左		
95	N' b	134	60	S301 A3	A3	須志器	無台盤	30	反	14.8 4.2	迷透	迷透14.5、竹1方向左		
95	N' b	135	205	S301 E3	E3	須志器	無台盤	70		15.0 4.8	迷透	迷透15.0、竹1方向左		
95	N' b	136	188	S301 E3	E3	須志器	壺蓋	60		15.6 3.6	迷透	迷透15.6、竹1方向左		
95	N' b	137	187	S301 E3	E3	須志器	壺蓋	95		15.8 3.8 15.5	迷透	迷透15.8、竹1方向左		
95	N' b	138	90	S301 C3	C3	須志器	壺蓋	20		27.0 5.9 26.8	迷透	迷透15.8、竹1方向左		
95	N' b	139	57	S301 A3	A3	須志器	壺蓋	20			迷透	迷透15.8、竹1方向左。全面赤彩		

Fig.	部位	番号	取扱番号	遺構	グリット	種別	高さ	反転	側面	端部	口径	色調	備考			
													高さ	幅		
97	N' b	140	68	S001	A3	須恵器	縦	10	反	28.7	灰白	ナマニ方向左				
98	N' b	141	90	S001	B2	須恵器	広口壺	100	15.0	12.3	11.4	灰	ナマニ方向右、自然崩、底部手持ち形状			
99	N' b	142	27	S001	E3	須恵器	広口壺	90	14.8	16.3	12.0	灰白	端付 8.8、底付 8.6、ナマニ方向右			
100	N' b	143	92	S001	C2	須恵器	広口壺	10			12.4	明灰		端付 10.7		
101	N' b	144	77	S001	E3	須恵器	広口壺	100	16.8	16.1	13.1	灰	端付 10.5、底付 4.5、ナマニ方向左、自然崩			
102	N' b	145	188	S001	E3	須恵器	広口壺	10	反		12.4	灰白	端付 11.7			
103	N' b	146	49	S001	C2	須恵器	縦	10	反	15.6	灰青	陶臼				
104	N' b	147	369	S001	E3	須恵器	壺蓋	95	9.2	3.5	7.0	灰	自然崩、ナマニ方向右			
105	N' b	148	57-58	S001	A2 + A3	須恵器	長颈壺	70	13.2			灰白	素地 6.2、ナマニ方向左、外面部縫から剥離自然崩			
106	N' b	149	175	S001	D3	須恵器	長颈壺	50	17.2			灰白	底付 7.9、ナマニ方向左、外面部自然崩			
107	N' b	150	91	S001	A2	須恵器	横瓶	95	16.2	14.3	6.5	灰	外面部 4.1、自然崩			
108	N' b	151	188	S001	E3	須恵器	壺蓋	10	反		21.6	灰白	端付 14.8 自然崩			
109	N' b	152	78	S001	A3	須恵器	壺蓋	20	反		35.0	明灰	端付 22.0			
110	N' b	153	130	S001	D3	土師器	壺	70	12.9	3.6		浅黄	全面赤彩			
111	N' b	154	93	S001	C3	土師器	壺	20	反	13.6		薄茶	全面赤彩、透文？			
112	N' b	155	119	S001	C2	土師器	壺	20	反	14.4	3.5	明灰	全面赤彩			
113	N' b	156	184-187	S001	D3 + E3	須恵器	壺	30	反	14.0	3.2	灰白	底付 11.0、全面赤彩			
114	N' b	157	44	S001	D3	土師器	壺	90	12.6	3.3		浅黄				
115	N' b	158	133	S001	D3	土師器	壺	30	反	10.4	3.9	灰白	10号筆書き「口」、透達 6.5、全面赤彩			
116	N' b	159	108	S001	C2	土師器	有台坪	80	13.8	4.9		にじる黄	透達 5.5、赤彩			
117	N' b	160	106	S001	C3	土師器	有台坪	60	反	14.8	5.1	灰白	底付 2.2、全面赤彩			
118	N' b	161	53	S001	D2	土師器	壺	130	13.9	1.7		淡绿	全面赤彩（外面部崩れ）			
119	N' b	162	120	S001	C2	土師器	壺	20	反	14.5	2.3	明灰	全面赤彩			
120	N' b	163	208	S001	C3	土師器	壺	20	反	14.6	2.0	明灰	全面赤彩			
121	N' b	164	93	S001	C3	土師器	壺蓋	10	反			薄茶	全面赤彩、透文？			
122	N' b	165	191	S001	E3	土師器	壺蓋	30				薄茶	全面赤彩			
123	N' b	166	121	S001	B1	土師器	縫	10	反	10.7		根付	素地 6.1、全面赤彩			
124	N' b	167	185	S001	D3	土師器	縫	80	16.0	9.4		根付	透達 5.5、全面赤彩			
125	N' b	168	89	S001	B2	土師器	縫	20	反	16.2		明灰	全面赤彩			
126	N' b	169	188	S001	E3	土師器	縫	10	反	17.4		淡绿	全面赤彩			
127	N' b	170	133	S001	D3	土師器	縫	10	反	15.4		薄黄色	透達 13.4			
128	N' b	171	1061	S001	D2 + D3	土師器	縫	5	反	14.5		22.3	灰白	透達 17.0		
129	N' b	172	157	S001	D2	土師器	縫	5	反			21.3	にじる黄	透達 17.0		
130	N' b	173	126	S001	C2	土師器	縫	20	反	28.4			明灰	透達 24.0、外面部保付着		
131	N' b	174	130	S001	D3	土師器	縫	5			33.6	33.6	灰白	透達 31.0、煤付着		
132	N' b	175	75	S001	A3	土師器	縫	10	反	35.9			反白	透達 7.4、全面赤彩、外面部保付着		
133	N' b	176	185	S001	D3	土師器	縫	90	14.2	6.0			薄茶	透達 31.0、煤付着		
134	N' b	177	188	S001	E3	土師器	縫	50	7.0	5.7			根付	底付 2.5、全面保付着、肩部強け		
135	N' b	178	192	S001	E3	土師器	小破	30	反	6.0	3.7	薄茶	底付 2.1、底部有孔			
136	N' b	179	185	S001	D3	土師器	小破	50	7.4	3.0			灰白	底付 2.1、底部有孔		
137	N' b	180	188	S001	E3	土師器	小破	10	反	6.4	4.1	薄茶	底付 2.5、全面保付着、肩部強け			
138	N' b	181	201	S001	E3	土師器	小破	80	3.6	2.5	2.5	薄茶	底付 2.5、全面保付着、肩部強け			
139	N' b	182	49	S001	C2	土師器	後	20	反	11.6		明灰	人面彫、全面赤彩			
140	N' b	183	113	S001	C2	土師器	後	10	反	12.0		明灰	人面彫、全面赤彩			
141	N' b	184	110	S001	C2	土師器	後	10				にじる黄	底付			
142	N' a	1	32	S001	E3	反対陶器	縫	60	反	14.0	3.8	灰白	無鉛、須恵器のような構成			
143	N' a	2	856	S001	E3	反対陶器	縫	60	反	15.5	5.1	灰白	底付 6.6			
144	N' a	3	46	S001	D3	反対陶器	縫	60	反	15.0	5.1	灰白	底部付着			
145	N' a	4	21	S001	D3	反対陶器	縫	20	反	17.0	4.4	暗灰	底付 8.1			
146	N' a	5	30	S001	A	反対陶器	縫	80	16.9	6.0		灰				
147	N' a	6	187	S001	E3	反対陶器	縫	45	反	15.0	4.2	灰黄	内面部膨らむ痕痕			
148	N' a	7	48	S001	E3	反対陶器	縫	60	反	14.4	4.2	灰白	底付 7.6			
149	N' a	8	187	S001	E3	反対陶器	縫	30	反	14.0	4.3	灰白	底付 8.3、無鉛			
150	N' a	9	28	S001	C2	反対陶器	縫	20	反	13.1	4.5	灰白	底付 8.2			
151	N' a	10	21	S001	D3	反対陶器	縫	20	反	14.0	4.4	灰白	底付 8.4、無鉛、土師質			
152	N' a	11	45	S001	E3	反対陶器	縫	10	反	12.8	4.0	浅黄綠	底付 5.6、土師質			
153	N' a	12	21	S001	D3	反対陶器	縫	10	反			明灰色	底付 7.2			
154	N' a	13	45	S001	E3	反対陶器	縫	20	反			灰白色	底付 4.3			
155	N' a	14	9	S001	C2 + C3	反対陶器	縫	20	反			灰白	底付 5.2			
156	N' a	15	34	S001	E3	反対陶器	縫	20	反			灰白	底付 7.0			
157	N' a	16	29	S001	E2	反対陶器	深碗	70	反	15.2	6.7	灰白	底付 6.0、輪花			
158	N' a	17	21	S001	D3	反対陶器	平底	80	11.2			明灰	K90、底付 6.8、上部施錆			
159	N' a	18	12	S001	E3	土師器	壺	10	反		35.0	灰白	溝網彫、底付 33.6、平安時代			
160	N' a	19	2026	S001	D5	石製品	砾石	5	7.7	2.6			にじる黄	底付 15.7、外面部保付着		
161	N' a	20	2026	S001	D5	石製品	砾石	8	9.1	4.4			根付	165.8g、基底灰		
162	N' a	21	26	S001	E3	石製品	砾石	30	4.7	13.3	4.2		465.8g、基底灰			
163	N' a	2	2029	SX111	E3	須恵器	印押	60	反	12.5	5.1		313.5g、基底灰、石質？			
164	N' a	3	2029	SX111	C5	土師器	後	20								
165	N' a	3	1971	包含層	G6	土師器	後	20	12.8	5.0			にじる黄	底付 5.8		
166	N' a	4	2029	SX111	C5	土師器	後	20	反		19.8					
167	N' a	5	1993	包含層	G6	土師器	後	40	反	14.2	4.5		にじる黄	底付 9.0		
168	N' a	6	2030	SX112	C5	土師器	壺	90	28.8	35.0	18.8		にじる黄	底付 15.7、外面部保付着		
169	N' a	7	2176	SE102	E5	須恵器	擦蓋	80	15.4	3.2	14.8		反	拂手 2.2, ナマニ方向左		
170	N' a	2	2368	SE102	D5 + E5	須恵器	擦蓋	30	15.4	3.4	15.0			拂手 2.3, ナマニ方向左		
171	N' a	3	2349	SE102	E5	須恵器	有台坪	20	反	15.0	4.0			拂手 11.0, ナマニ方向右		
172	N' a	4	2351	SE102	E5	須恵器	轟	60	反	11.0	3.3			拂手 4.7, ナマニ方向左		
173	N' a	5	2180	SE102	D5	須恵器	輪台鏡	70	反	13.0	4.2			拂手 4.7, ナマニ方向左		
174	N' a	6	2345	SE102	E5	須恵器	輪台鏡	60	反	14.0	4.2			拂手 5.4, ナマニ方向左、火打すぎ痕		
175	N' a	7	2179	SE102	D5	須恵器	輪台鏡	40	反	14.2	4.5			拂手 6.0, 未調査		
176	N' a	8	2368	SE102	D5 - E5	須恵器	輪台鏡	20	反	14.6				灰白		
177	N' a	9	2368	SE102	D5	土師器	縫	10	反	24.2			にじる黄			
178	N' a	10	2368	SE102	D5 - E5	土師器	縫	20	反	20.0			浅黄	底付 3.0		
179	N' a	11	2368	SE102	D5 - E5	土師器	小破	60	6.8	6.4			浅黄	底付 3.0		
180	N' a	12	2368	SE102	D5 - E5	土師器	小破	50	7.0	3.0	6.4		浅黄	底付 5.0		

出土遺物觀察表

Fig.	層位	通号	取上番号	遺構	グリット	種別	縦幅	反転	器径	高さ	口径	色調	備考
110	B区大溝	12	2347	SE102	E5	土師器	小罐	20	反	7.4	6.6	浅黄裡	
110	B区大溝	14	2346	SE102	E5	土師器	小罐	20	反	7.2	3.5	黄裡	底径 4.0 にぶい裡 植徳 3.1
110	B区大溝	15	2348	SE102	E5	土師器	小罐	100		7.3	3.0		
110	B区大溝	16	2368	SE102	D5・E5	土師器	小罐	20		7.4	6.8	浅黄裡	
110	B区大溝	17	2559	SE102	D5・E5	土師器	鋸形	80		8.3	3.5	7.8	灰黄
111	B区大溝	21	2018	SD102	E5	須恵器	瓦り蓋	40	反	12.4	3.5	灰白	底径 2.2 焼 2.9
111	B区大溝	22	2157	SD102	E5	須恵器	有台坏身	30	反	16.0	3.8	灰	底径 10.8
111	B区大溝	23	2145	SD102	D5	須恵器	有台坏身	30	反	16.6	4.9	灰白	底径 10.4
111	B区大溝	24	2145	SD102	D5	須恵器	箱坏	40	反	13.4	4.9	灰	底径 8.6
111	B区大溝	25	2145	SD102	D5	須恵器	無台破	40	反	14.2	4.8	灰白	底径 6.4、底部未調整
111	B区大溝	26	2157	SD102	E5	須恵器	無台破	40	反	20.0	6.4	灰	底径 7.0
111	B区大溝	27	1987	SD102	D5	須恵器	蓋	10			53.0	灰白	
111	B区大溝	28	1984	SD102	E5	灰陶陶器	破	20	反	16.8			にぶい黄裡 内外鉛釉、内面重ね燒底？
111	B区大溝	29	2018	SD102	E5	灰陶陶器	破	5	反		8.7		にぶい黄裡 全面釉
111	B区大溝	30	1987	SD102	B5・D5	灰陶陶器	破	20				灰白	19号全書「本」、底径 6.5、左「H」方向左
111	B区大溝	31	2018	SD102	E5	灰陶陶器	破	20				灰白	底径 5.8、一部垂墜？
111	B区大溝	32	1987	SD102	D5	灰陶陶器	破	30				灰	底径 7.6
111	B区大溝	33	1984	SD102	E5	土師器	蓋	90		13.4	3.5	被	底径 6.5、内面赤彩
111	B区大溝	34	2016	SD102	E5	土師器	蓋	20	反		14.0	19.6	にぶい黄裡 植徳 12.2、外蓋保付蓋 黄裡 植徳 16.4、外蓋保付蓋
111	B区大溝	35	2018	SD102	E5	土師器	蓋	10	反				
111	B区大溝	36	2175	SD102	E5	土師器	小罐	50	反	7.3	3.0	灰白	底径 4.4
111	B区大溝	37	1987	SD102	D5	土師器	小罐	100		7.2	3.3	浅黄裡	底径 3.0、底部穿孔
111	B区大溝	38	2157	SD102	E5	土師器	小罐	95		6.6	3.8	6.1	浅黄裡
111	B区大溝	39	2372	SD102	E5	土師器	小罐	40	反	6.5	3.2	6.0	にぶい黄裡 底径 2.6、外蓋保付蓋
113	B区	1	2142	SE101	B5	中世陶器	山茶碗	40		15.6	8.2	灰	底部角切り
113	B区	2	2049	SE101	B5	中世陶器	山茶碗	10	反	15.0		灰黄	
113	B区	3	2049	SE101	B5	中世陶器	山茶碗	10	反				
113	B区	4	2049	SE101	B5	中世陶器	山茶	20	反	8.2		反	底径 10.9、底部系切り
113	B区	5	2049	SE101	B5	中世陶器	広口型	5	反		15.0	赤灰	全面白黒輪
115	B区	1	3385	SB001	B6	土師器	蓋	5	反		17.0	にぶい黄裡	圓径 15.0
115	B区	2	3306	SB001	B6	土師器	蓋	5	反		17.3	にぶい黄裡	圓径 14.5
115	B区	3	3302	包含層	B6	土師器	蓋	10	反		21.2	明赤褐	圓径 18.0
115	B区	4	3304	包含層	B6	土師器	蓋坏	20				棕	圓徑 2.6、黒斑

Fig	用件	番号	種別番号	遺構	様式	詳細	形・様	處理	座標	大きさ	幅	厚み	備考	
22	錠	122	W164	S305	不明显	先端加工棒		乾燥	17.9	1.7	1.0			
43	錠	671	W190	S301	錠	錠柄平削	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	29.3	18.4	1.5			
43	錠	672	W168	S301	錠	錠柄平削	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	34.0	15.5	2.2			
43	錠	673	W173	S301	錠	錠柄又削	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	36.7	11.5	1.2			
43	錠	674	W179	S301	錠	錠柄平削	ブナ科コナラ属アカガシ面属	乾燥	6.5	6.2	1.4			
43	錠	675	W187	S301	錠	木鍔	ヒノキ科アヌロ属	含浸	100	10.2	8.2	7.5		
43	錠	676	W191	S301	錠	木鍔	マツ科モミ属	含浸	90	16.5	7.5	6.0		
43	錠	677	W165	S301	錠	木鍔	ヒノキ科アヌロ属	含浸	100	15.6	6.5	5.5		
44	錠	678	W192	S301	錠	木鍔	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	54.3	9.7	1.7			
44	錠	679	W183	S301	錠	アカ取り（推定）		乾燥	50	30.1	8.5	3.0		
44	錠	680	W177	S301	不明显	先端加工棒		乾燥	15.6	2.0	0.7			
44	錠	681	W178	S301	不明显	挿入り棒		乾燥	29.1	1.1	0.6			
44	錠	682	W166	S301	不明显	削除棒		乾燥	100	17.7	17.5	6.0	側面木釘或7ヶ所	
44	錠	683	W194	S301	不明显	把手付棒		乾燥	12.9	7.4	4.2			
44	錠	684	W181	S301	不明显	木鍔	ヒノキ科アヌロ属	含浸	20.7	8.5	4.3			
44	錠	685	W205	S301	錠	木鍔	ツゲ科ツヅギ属	含浸	3.9	3.2	0.8	到達式横樋		
67	錠	592	W149	S301	錠	木鍔	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	80	12.4	8.8	7.9	錐部欠損	
67	錠	593	W157	S301	錠	木鍔	マツ科トウヒ属	含浸	100	15.1	8.3	3.6		
67	錠	594	W122	S301	錠	片	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	22.8	3.7	3.4	面端欠損		
67	錠	595	W135	S301	不明显	有孔棒	ヒノキ科アヌロ属	含浸	80	19.3	2.9	2.7	細孔？	
67	錠	596	W155	S301	不明显	有孔棒	乾燥	18.7	2.4	1.9				
67	錠	597	W150	S301	不明显	有孔棒	乾燥	100	22.8	3.0	2.1	方斜孔2ヶ		
67	錠	598	W140	S301	不明显	有孔棒	乾燥	19.3	3.3	2.2	圓端欠損			
67	錠	599	W195	S301	不明显	加工板	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	41.3	9.8	1.5			
67	錠	600	W164	S301	錠	加工板	乾燥	80	21.8	2.9	1.2	アカ取り？		
67	錠	601	W168	S301	不明显	加工板	乾燥	13.9	2.6	1.3				
67	錠	602	W138	S301	不明显	加工板	乾燥	18.9	5.5	1.2				
67	錠	603	W182	S301	不明显	加工板	乾燥	90	15.4	4.7	1.3	組み物？		
67	錠	604	W142	S301	不明显	先端加工棒	乾燥	19.6	1.8	0.9				
67	錠	605	W158	S301	不明显	先端加工棒	ヒノキ科アヌロ属	含浸	95	10.6	1.2	0.6		
67	錠	606	W147	S301	錠	面奉	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	95	24.1	1.1	0.4		
67	錠	607	W189	S301	錠	面奉	ヒノキ科ヒヌロ属	含浸	8.3	2.3	0.6			
66	錠	608	W189	S301	錠	面奉	乾燥	8.7	1.5	0.2				
66	錠	609	W145	S301	錠	面奉	乾燥	7.1	2.2	0.5				
66	錠	610	W137	S301	錠	面奉	ヒノキ科アヌロ属	含浸	100	10.6	2.5	0.5		
66	錠	611	W167	S301	錠	面奉	ヒノキ科アヌロ属	含浸	95	19.5	4.0	0.6		
66	錠	612	W72	S301	錠	面奉	面端根	含浸	4.3	2.3	0.8	剥離式横樋		
66	錠	613	W160	S301	錠	柱	ヒノキ科アヌロ属	含浸	100	3.8	1.9	0.9		
66	錠	614	W161	S301	不明显	マツ科マツ属〔二葉松類〕	含浸	10.6	4.4	1.2				
66	錠	615	W162	S301	容器	弯曲物底板	マツ科マツ属〔二葉松類〕	乾燥	70	16.3	11.0	0.9	有段	
66	錠	616	W165	S301	容器	弯曲物底板	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	95	17.1	17.1	0.7	有段	
66	錠	617	W153	S301	容器	弯曲物底板	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	95	17.4	16.7	0.8	有段	
66	錠	618	W148	S301	容器	弯曲物底板	乾燥	45.4	3.4	1.2	有段			
66	錠	619	W139-1	S301	容器	弯曲物侧板	乾燥	35.1	25.5	0.2				
66	錠	620	W139-2	S301	容器	弯曲物侧板	乾燥	25.0	17.8	0.2				
66	錠	621	W139-4	S301	容器	弯曲物侧板	乾燥	17.9	9	0.2				
66	錠	622	W139-3	S301	容器	弯曲物侧板	乾燥	26.0	8.4	0.2				
66	V	96	W171	S304	不明显	弯曲物底板	乾燥	64.9	3.7	3.3				
76	V	97	W190	S304	弯曲物材	有孔棒	乾燥	95	10.5	5	5.5	扇形状裂隙に使用		
V	V	98	W197	S304	不明显	有孔棒	乾燥	5.5	7.5	3.3	穿孔			
79	V	182	W60	S301	文書	1号文書	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	9.0	1.9	0.4			
79	V	183	W62	S301	文書	2号文書	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	14.4	3.0	0.6	曲物軸用		
79	V	184	W61	S301	文書	3号文書	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	70	40.7	6.5	0.7	724年紀年	
V	V	185	W66	S301	文書	4号文書	ヒノキ科アヌロ属	含浸	10.2	1.3	0.4			
V	V	186	W125	S301	文書	5号文書	ヒノキ科アヌロ属	含浸	20.3	5.4	0.5	709年紀年		
V	V	187	W57	S301	文書	6号文書	乾燥	100	31.1	2.2	0.8			
V	V	188	W108	S301	祭器	人形	ヒノキ科アヌロ属	含浸	90	15.7	2.8	0.7		
V	V	189	W99	S301	祭器	人形	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	10.6	2.4	0.4			
V	V	190	W105	S301	祭器	人形	ヒノキ科アヌロ属	含浸	8.4	2.4	0.5			
V	V	191	W118	S301	祭器	人形	ヒノキ科アヌロ属	含浸	10.6	1.9	0.3			
V	V	192	W117	S301	祭器	人形	乾燥	6.8	2.6	0.4				
V	V	193	W107	S301	祭器	人形	乾燥	12.9	1.9	0.6				
V	V	194	W109	S301	祭器	人形	乾燥	11.5	1.8	0.3				
V	V	195	W114	S301	祭器	人形	乾燥	12.2	2.1	0.6				
V	V	196	W116	S301	祭器	人形	乾燥	95	36.8	2.2	0.7			
V	V	197	W112	S301	祭器	人形	ヒノキ科アヌロ属	含浸	100	38.3	2.6	0.6		
V	V	198	W115	S301	祭器	人形	ヒノキ科アヌロ属	乾燥	42.6	2.1	0.8			
V	V	199	W120	S301	容器	弯曲物底板	コヤザケ科カキツモ属	含浸	62.2	2.0	0.9			
V	V	200	W124	S301	容器	弯曲物底板	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	70	12.2	2.1	0.4	腹部切り込み	
V	V	201	W134	S301	容器	弯曲物底板	ヒノキ科アヌロ属	含浸	95	11.6	3.5	0.4	腹部切り込み	
V	V	202	W101	S301	容器	弯曲物底板	ヒノキ科ヒノキ属	含浸	8.4	3.2	0.5	腹部切り込み		
V	V	203	W11	S301	容器	舟形	乾燥	90	20.1	6.2	2.5			
V	V	204	W12	S301	容器	弯曲物底板	乾燥	95	18.0	18.0	0.9	有段		
V	V	205	W120	S301	容器	弯曲物底板	乾燥	40	18.0	18.0	0.9			
V	V	206	W120	S301	容器	弯曲物底板	乾燥	20	27.6	5.7	1.0	有段、再加工痕		
V	V	207	W163	S301	容器	弯曲物底板	乾燥	30	69.0	19.0	1.3	有段、突起付椭円軸曲物		
V	V	208	W110	S301	容器	弯曲物底板	ヒノキ科アヌロ属	含浸	20	41.0	9.9	1.0	有段、椭円軸曲物	
V	V	209	W119	S301	通運具	青貞子	マツ科マツ属〔二葉松類〕	含浸	100	39.2	21.9	5.1	Y字軸木製品	
V	V	210	W136	S301	通運具	青貞子	マツ科マツ属〔二葉松類〕	含浸	90	42.4	8.8	4.6	Y字軸木製品	
V	V	211	W166	S301	通運具	青貞子	マツ科マツ属〔二葉松類〕	含浸	50	27.0	4.8	4.8	Y字軸木製品	
V	V	212	R05	S301	錠	錠柄平削	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	31.5	14.3	1.4			
V	V	213	R24	S301	錠	錠柄平削	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	22.4	8.2	1.8	鍛製鋸失張		
V	V	214	W7	S301	錠	錠柄	ブナ科コナラ属アカガシ面属	含浸	46.3	8.4	8.4			
V	V	215	W176	S301	錠	錠柄	ヒノキ科アヌロ属	含浸	100	91.6	5.1	2.9	抜き部使用痕跡	
V	V	216	W130	S301	錠	錠柄	ヒノキ科アヌロ属	含浸	90	12.3	7.1	3.8	柄型田下駄の種類（大足）	
V	V	217	W85	S301	不明显	加工板	乾燥	23.2	9.3	5.6				
V	V	218	W94	S301	不明显	加工板	乾燥	10.9	5.5	3.5				

出土遺物（木製品）観察表

Fig.	部位	番号	種別番号	遺構	様式	詳細	形・様	処理	測定値	大きさ	幅	厚み	備考		
84	V	219	W95	S001	不明品	加工板	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	10.6	2.4	0.6				
84	V	220	W98	S001	不明品	加工板	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	7.6	3.5	1.4				
84	V	221	W66	S001	不明品	先端加工棒	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	39.4	2.4	1.7				
84	V	222	W93	S001	不明品	先端加工棒	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	34.2	2.1	1.4				
84	V	223	W131	S001	不明品	後り入り板	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	31.1	4.4	1.3				
84	V	224	W111	S001	不明品	加工棒	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	31.9	4.1	1.8	板状部穿孔3			
84	V	225	W102	S001	不明品	先端加工棒	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	100	24.8	1.8	1.2			
84	V	226	W103	S001	不明品	先端加工棒	ヒノキ料アヌカ口属	乾燥	13.2	1.2	0.8				
84	V	227	W90	S001	不明品	先端加工棒	ヒノキ料アヌカ口属	乾燥	9.6	1.3	1.0				
88	N	b	11	W129	S001	容器	曲物底板	乾燥	40	44.8	16.7	1.2			
88	N	b	12	W126	S001	容器	曲物底板	乾燥	20	61.2	10.6	1.1	有段		
88	N	b	13	W127	S001	容器	曲物底板	合漆	100	53.1	46.1	0.3	有段、並丸方形		
90	N	b	14	W45	S001	人形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	22.7	3.3	0.3	人面型			
90	N	b	15	W40	S001	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	100	14.6	2.7	0.2	人面型		
90	N	b	16	W43	S001	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	95	14.7	2.1	0.3	人面型		
90	N	b	17	W41	S001	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	95	14.9	2.1	0.3			
90	N	b	18	W49	S001	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	12.0	3.1	0.3				
90	N	b	19	W48	S001	人形	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	23.0	1.7	0.8				
90	N	b	20	W44	S001	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	12.2	2.6	0.3				
90	N	b	21	W113	S002	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	6.6	1.5	0.4				
93	N	b	66	W175	S001	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	6.3	1.8	0.3				
93	N	b	67	W47	S003	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	95	17.1	1.6	0.4			
93	N	b	68	W71	S003	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	12.6	1.8	0.4				
93	N	b	69	W50	S003	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	12.8	2.0	0.4				
93	N	b	70	W70	S003	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	11.6	2.3	0.4				
93	N	b	71	W48	S003	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	20.3	2.2	0.5				
93	N	b	72	W53	S003	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	95	43.8	2.8	0.8			
94	N	b	73	W6	S003	容器	曲物底板	乾燥	70	16.4	15.1	1.0	有段		
94	N	b	74	W51	S003	容器	曲物底板	乾燥	30	17.5	6.9	0.7	有段		
94	N	b	75	W49	S003	容器	曲物底板	乾燥	25	26.6	7.4	0.6	有段		
94	N	b	76	W57	S003	容器	曲物底板	乾燥	25	17.7	14.1	1.4	有段、圓内形		
94	N	b	77	W74	S003	容器	曲物底板	乾燥	16.8	2.4	0.3				
94	N	b	78	W74	S003	容器	曲物底板	乾燥	10.8	2.0	0.4				
96	N	b	92	W66	S004	脚形	人形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	70	16.7	3.8	0.4		
96	N	b	93	W61	S004	脚形	人形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	13.8	3.2	0.4			
96	N	b	94	W3	S004	脚形	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	80	15.9	2.6	0.4		
96	N	b	95	W55	S004	脚形	人形	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	2.2	0.4				
96	N	b	96	W78	S004	脚形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	8.0	1.9	0.3				
96	N	b	97	W63	S004	脚形	ヒノキ料アヌカ口属	乾燥	10.3	1.8	0.6				
96	N	b	98	W64	S004	脚形	ヒノキ料アヌカ口属	乾燥	12.6	1.7	0.6				
96	N	b	99	W77	S004	脚形	ヒノキ料アヌカ口属	乾燥	14.7	1.2	0.5				
96	N	b	100	W75	S004	脚形	ヒノキ料アヌカ口属	乾燥	16.7	2.1	0.6				
96	N	b	101	W58	S004	脚形	ヒノキ料アヌカ口属	乾燥	36.1	3.2	0.5				
96	N	b	102	W76	S004	脚形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	40	14.0	2.1	2.9			
96	N	b	103	W62	S004	脚形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	100	42.1	1.8	1.4			
96	N	b	104	W59	S004	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	23.3	2.7	0.9	有段			
96	N	b	105	W63	S004	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	20	25.6	5.1	0.9	無段		
96	N	b	106	W67	S004	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	50	14.2	7.8	0.7			
96	N	b	107	W69	S004	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	23.0	2.3	1.5				
96	N	b	108	W54	S004	脚形	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	11.1	1.1	0.7				
100	N	b	185	W18	S001	容器	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	27.2	3.4	1.4				
100	N	b	186	W28	S001	容器	曲物底板	乾燥	40	17.8	7.9	0.6	有段		
100	N	b	187	W15	S001	容器	曲物底板	乾燥	20	20.0	4.5	0.9	無段		
100	N	b	188	W20	S001	容器	曲物底板	乾燥	25	28.1	7.7	0.9	無段		
100	N	b	189	W21	S001	容器	曲物底板	乾燥	20	30.5	8.2	0.8	無段		
100	N	b	190	W89	S001	容器	曲物底板	乾燥	30	21.8	7.5	1.3	有段		
100	N	b	191	W22	S001	容器	高台付脚	乾燥	47.2	13.5	1.5				
100	N	b	192	W30	S001	不明品	△状木製品	乾燥	24.5	3.2	0.9				
100	N	b	193	W52	S001	不明品	△状木製品	乾燥	17.3	1.6	1.0				
100	N	b	194	W16-1	S001	不明品	△状木製品	乾燥	7.5	1.5	1.3				
100	N	b	195	W17-1	S001	不明品	△状木製品	乾燥	7.3	1.4	1.1				
100	N	b	196	W17-2	S001	不明品	△状木製品	乾燥	8.3	1.3	1.0				
100	N	b	197	W16-2	S001	不明品	△状木製品	乾燥	6.7	1.4	1.2				
100	N	b	198	W34	S001	不明品	加工板	乾燥	10.5	6.6	1.3				
101	N	b	199	W26	S001	整骨具	人形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	90	15.0	3.0	0.8		
101	N	b	200	W27	S001	整骨具	人形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	40	11.0	3.2	0.5		
101	N	b	201	W31	S001	整骨具	人形	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	20.2	3.5	0.8			
101	N	b	202	W10	S001	整骨具	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	29.7	2.7	0.5			
101	N	b	203	W23	S001	整骨具	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	8.4	2.6	0.7			
101	N	b	204	W13	S001	整骨具	人形	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	13.0	2.0	0.6			
101	N	b	205	W36	S001	整骨具	人形	ヒノキ料ヒノキ属	乾燥	20.7	2.7	0.5			
101	N	b	206	W2	S001	整骨具	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	30.5	2.4	0.8			
101	N	b	207	W19	S001	整骨具	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	29.8	2.2	2.1			
101	N	b	208	W31	S001	整骨具	人形	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	19.0	5.0	0.6	新宿・朱彩		
101	N	b	209	W32	S001	整骨具	加工板	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	12.4	2.8	0.7	新宿・朱彩		
101	N	b	210	W29	S001	整骨具	加工板	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	22.2	6.1	2.0	新宿招待牌在痕		
101	N	b	211	W12	S001	整骨具	加工板	ヒノキ料ヒノキ属	合漆	90	17.4	3.2	1.3		
101	N	b	212	W25	S001	整骨具	加工板	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	95	17.5	3.1	1.5		
101	N	b	213	W14	S001	不明品	加工板	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	4.1	2.8	0.8	状況実記		
105	III	22	W1	S001	容器	曲物底板	ヒノキ料アヌカ口属	合漆	100	57.2	48.5	1.6	有段、並丸形		
105	III	23	W16	S001	容器	槽	ヒノキ料アヌカ口属	乾燥	36.2	9.1	1.2				
110	B	古代	18	W02	SE102	農具	臼	スギ料スギ属	合漆	老屋文様	55.8	51.3	23.3	井戸幹軸用	
110	B	古代	19	W199	SE102	整骨具	柵	スギ料スギ属	乾燥	8.0	1.4	0.4			
110	B	古代	20	W196	SE102	整骨具	柵	スギ料スギ属	乾燥	10.7	1.3	0.3			

図 版

PLATE



SX05 調査風景



黒層 完掘状況（西から）



VIIb 層 SX05 遺物出土状態（北東から）



VIIb 層 SX05 遺物出土状態（北西から）



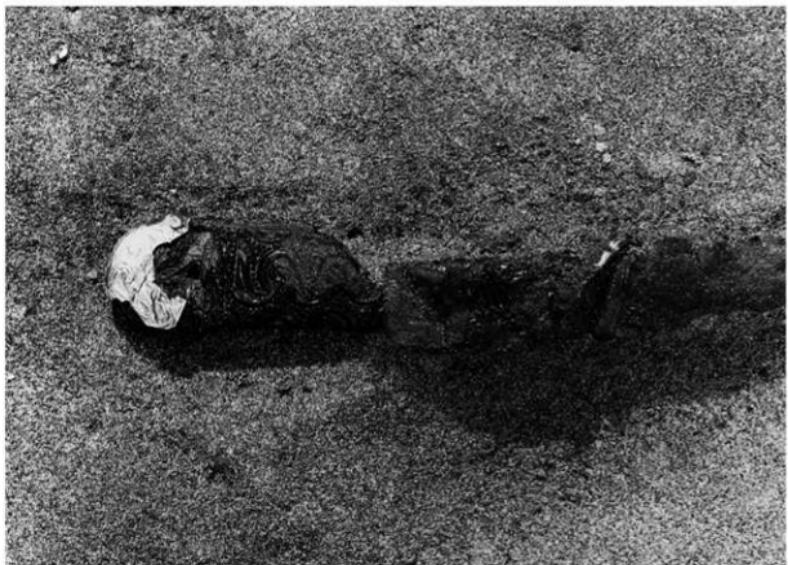
1 VIIb 層 SX05 遺物出土状態（東から）



2 VIIb 層 遺物出土状態（C2 区、南西から）



1 VIIb 層 円頭大刀出土状態（南東から）



2 VIIb 層 円頭大刀出土状態（東から）



VIIa層 完掘状況（東から）



V層 貝塚 SS01・02 (北東から)



1 V層 馬頭骨（B11）出土状態（南西から）



2 V層 馬骨（B8・B9）出土状態（北から）



3 V層 3号木簡出土状態（北東から）



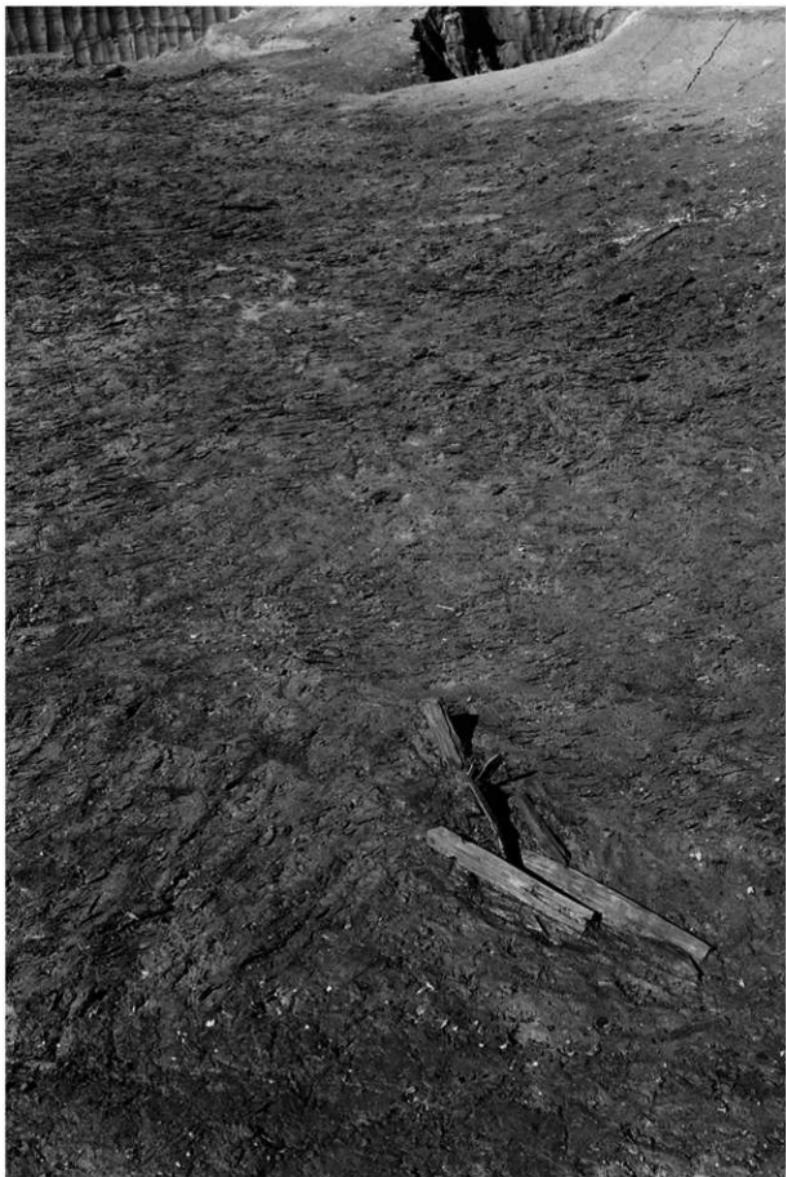
1 V層 貝塚 SS04 (南から)



2 V層 貝塚 SS02 (東から)



3 V層 貝塚 SS02 断面 (西から)



IVb層 SX01 遺物出土状態（南東から）



1 IVb 層 SE01 (南から)



2 IVb 層 B 区 SE102 (西から)



1 IVb 層 SX03 遺物出土状態（北西から）



2 IVb 層 SX03 遺物出土状態（南東から）



3 IVb 層 SX03 遺物出土状態（南東から）



4 IVb 層 斎串（201）出土状態（南西から）



III層 完掘状況（西から）



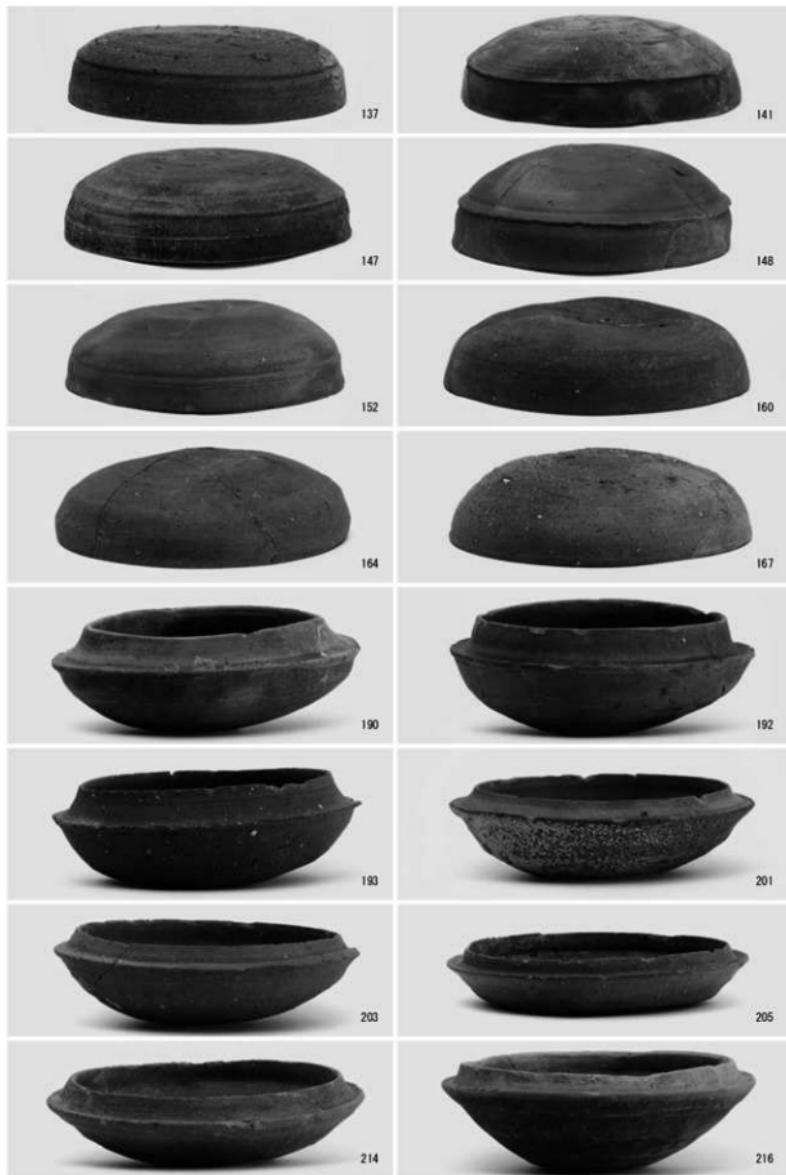
B区 最上層遺構（東から）



VIIb 層 出土主要遺物



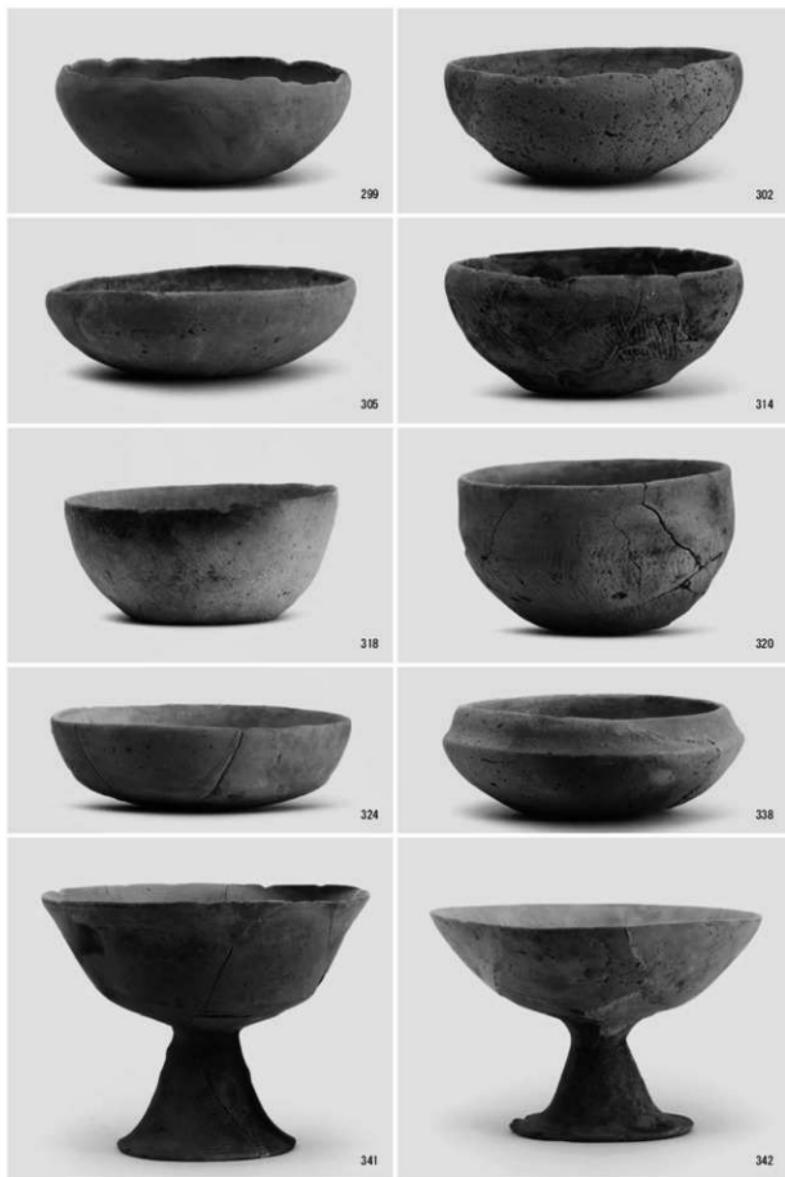
VII层 SX05 出土遗物



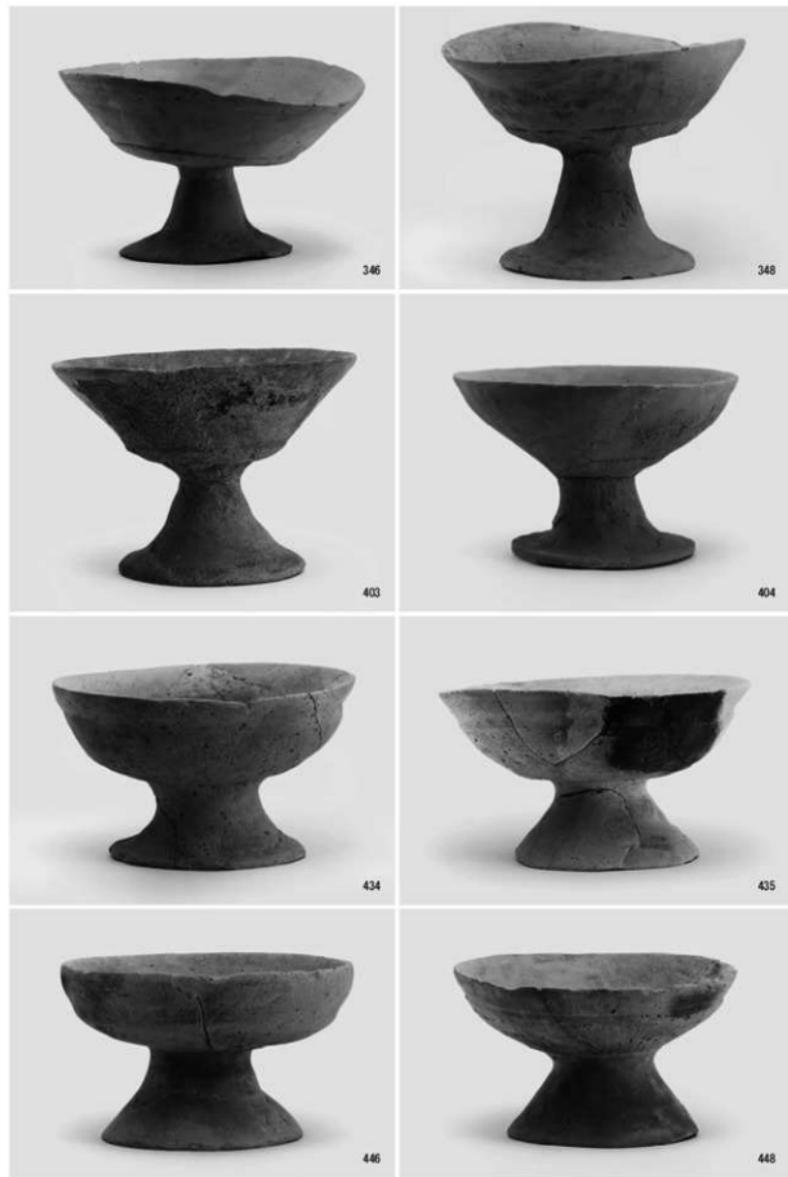
VIIb 層 出土遺物 (1)



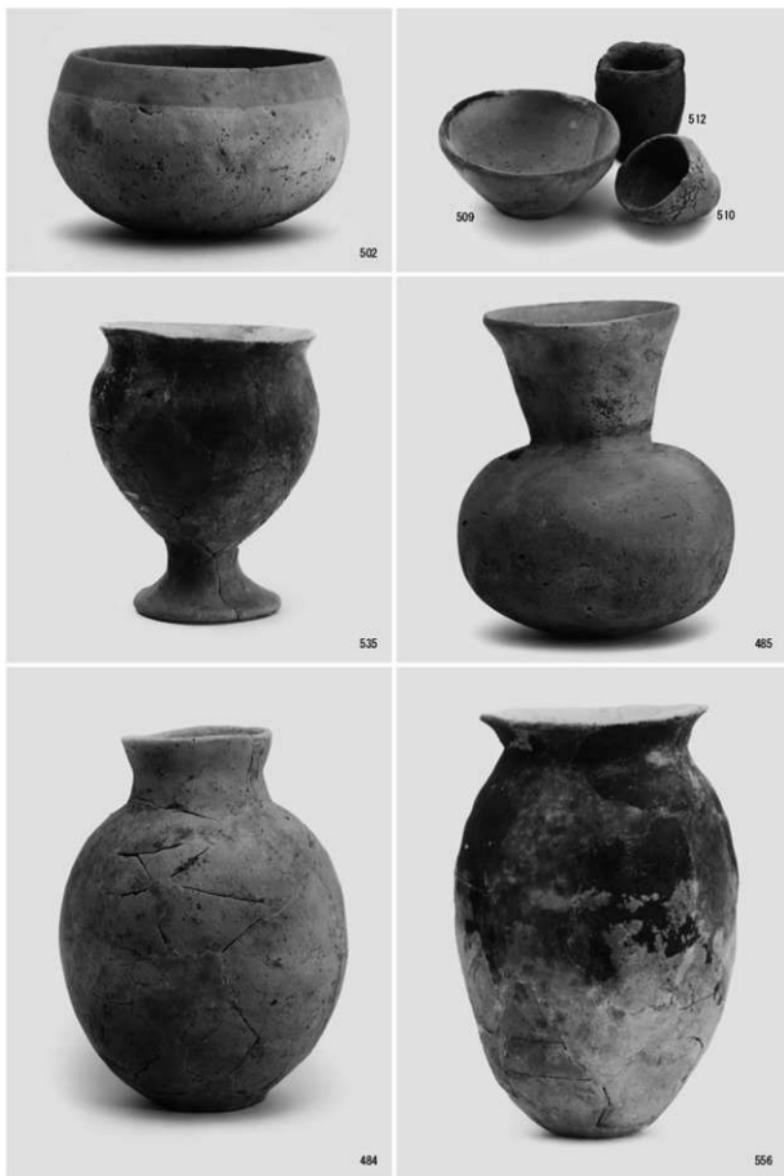
VIIb 層 出土遺物 (2)



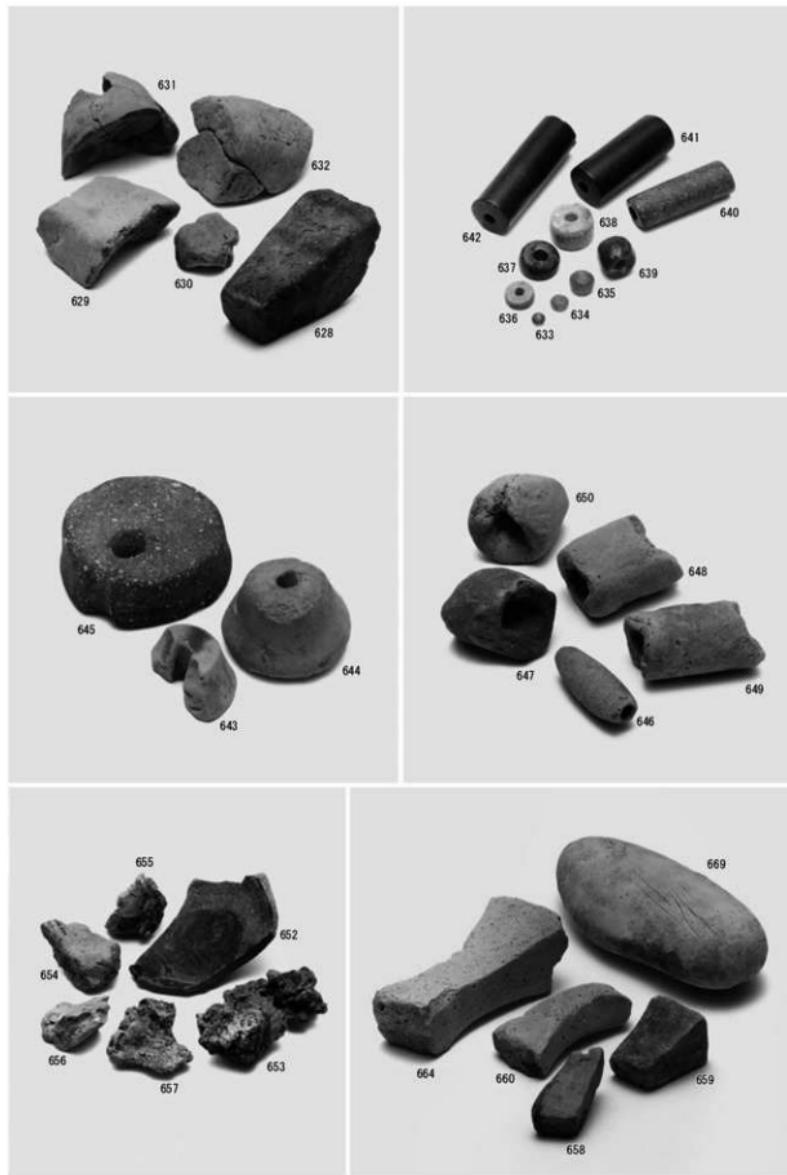
VIIb 層 出土遺物 (3)



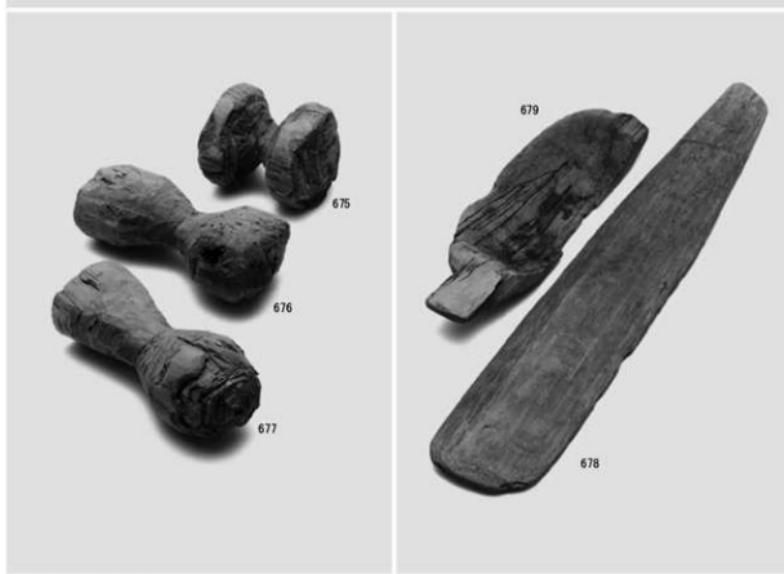
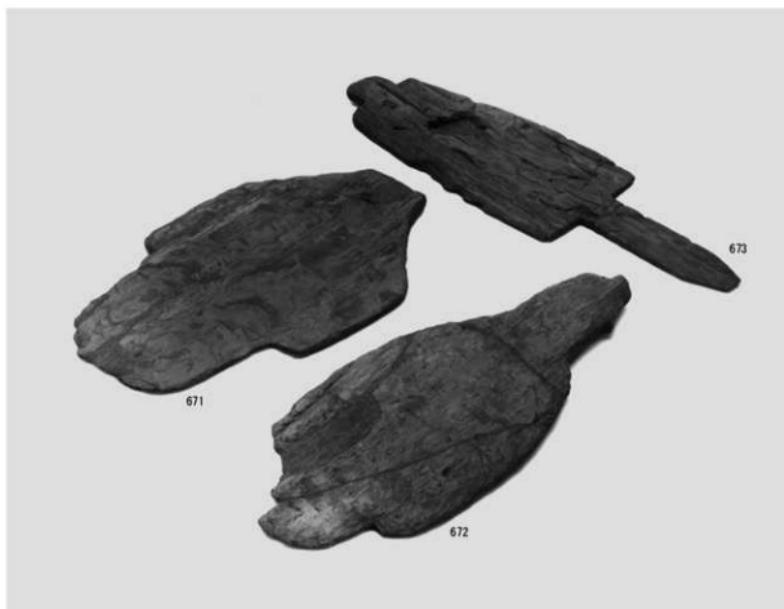
VIIb 層 出土遺物 (4)



VIIb 層 出土遺物 (5)



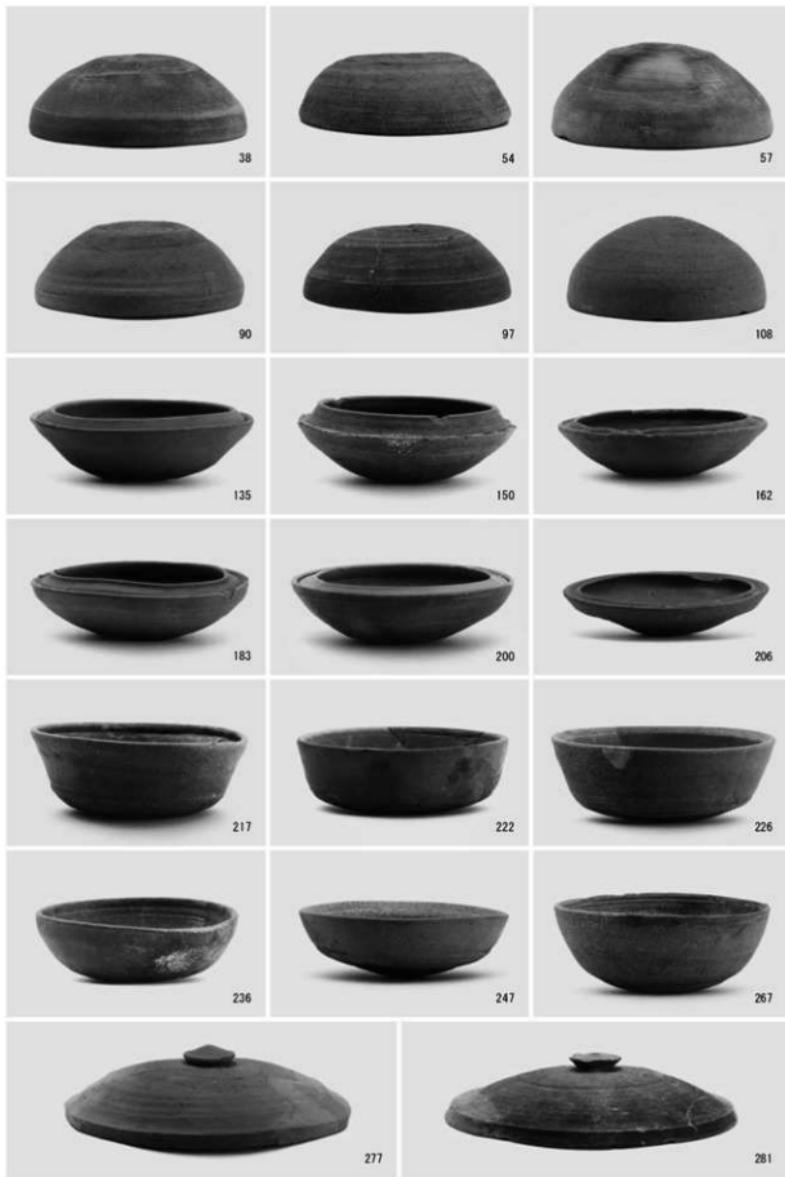
VIIb 層 出土遺物 (6)



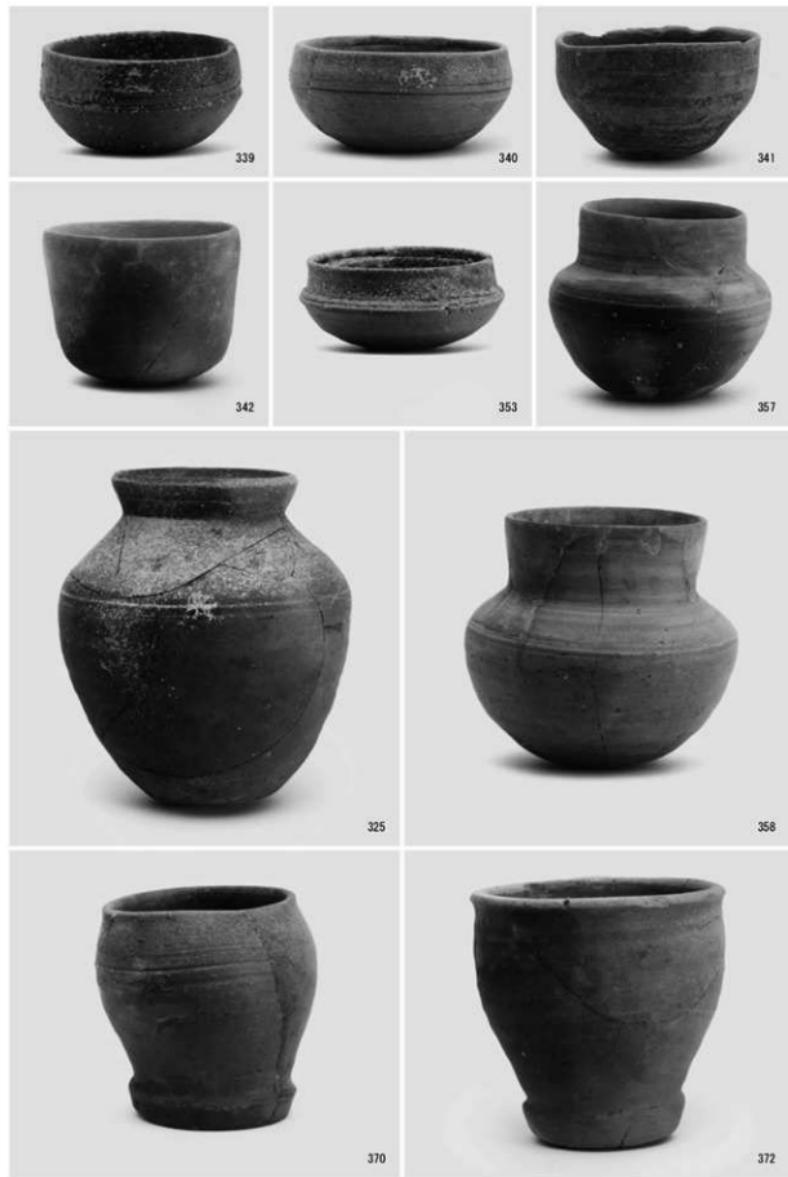
VIIb 层 出土遗物 (7)



VIIa 層 出土主要遺物



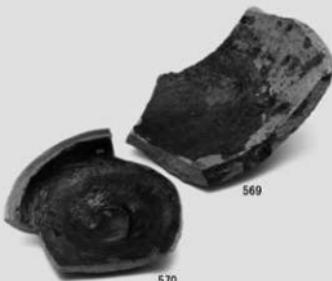
VIIa 層 出土遺物 (1)



VIIa 層 出土遺物 (2)



VIIa 層 出土遺物 (3)





VIIa 層 出土遺物 (5)

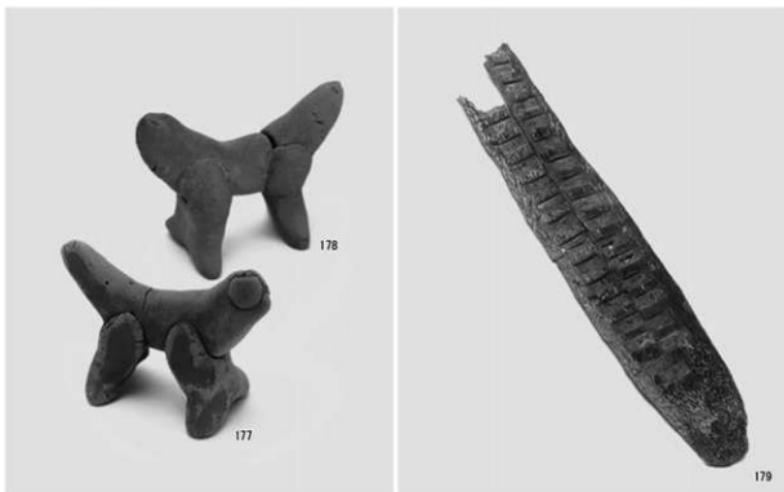


V層 出土主要遺物



29 ~ 62

1 V層 SS02 出土製塙土器



178

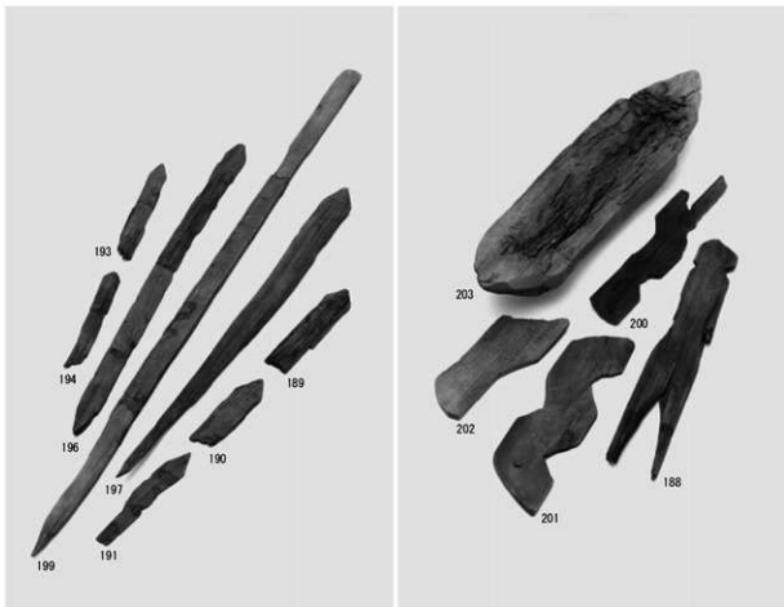
177

179

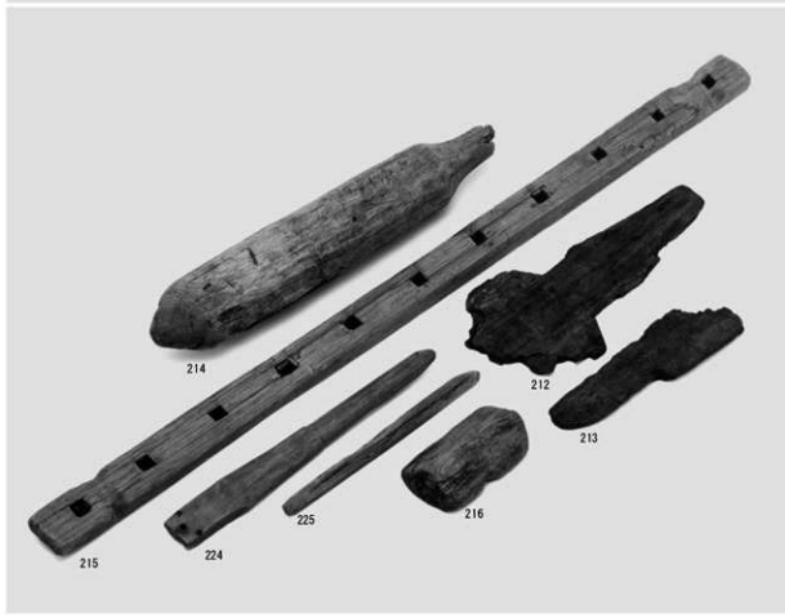
2 V層 出土祭祀遺物



V層 出土遺物 (1)



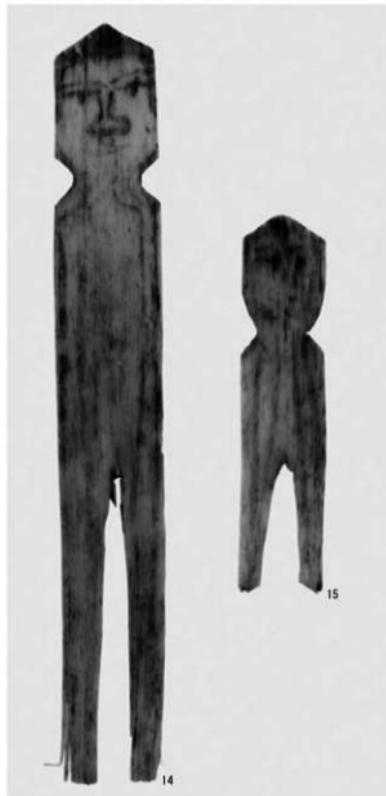
V層 出土遺物 (2)



V層 出土遺物 (3)



IVb 層 出土主要遺物



1 IV^b 层 SX01 出土遗物

2 IV^b 层 SX02 出土遗物



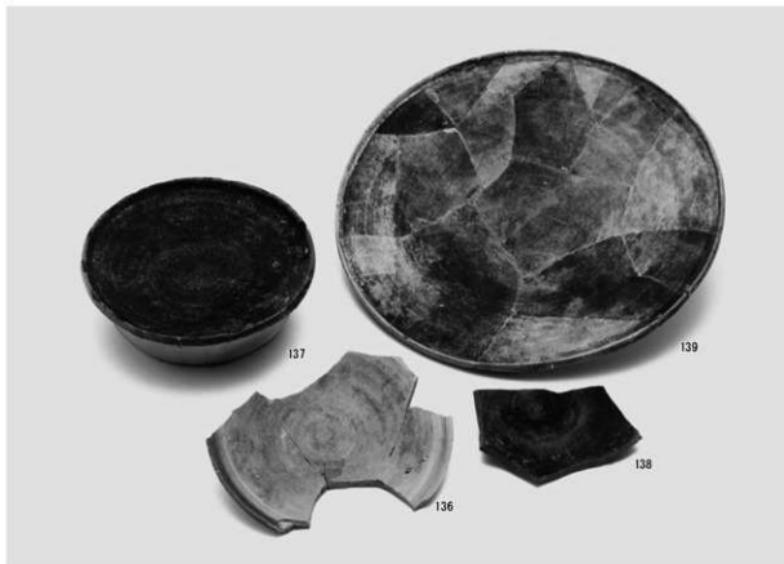
IVb 層出土「稻万呂」墨書土器



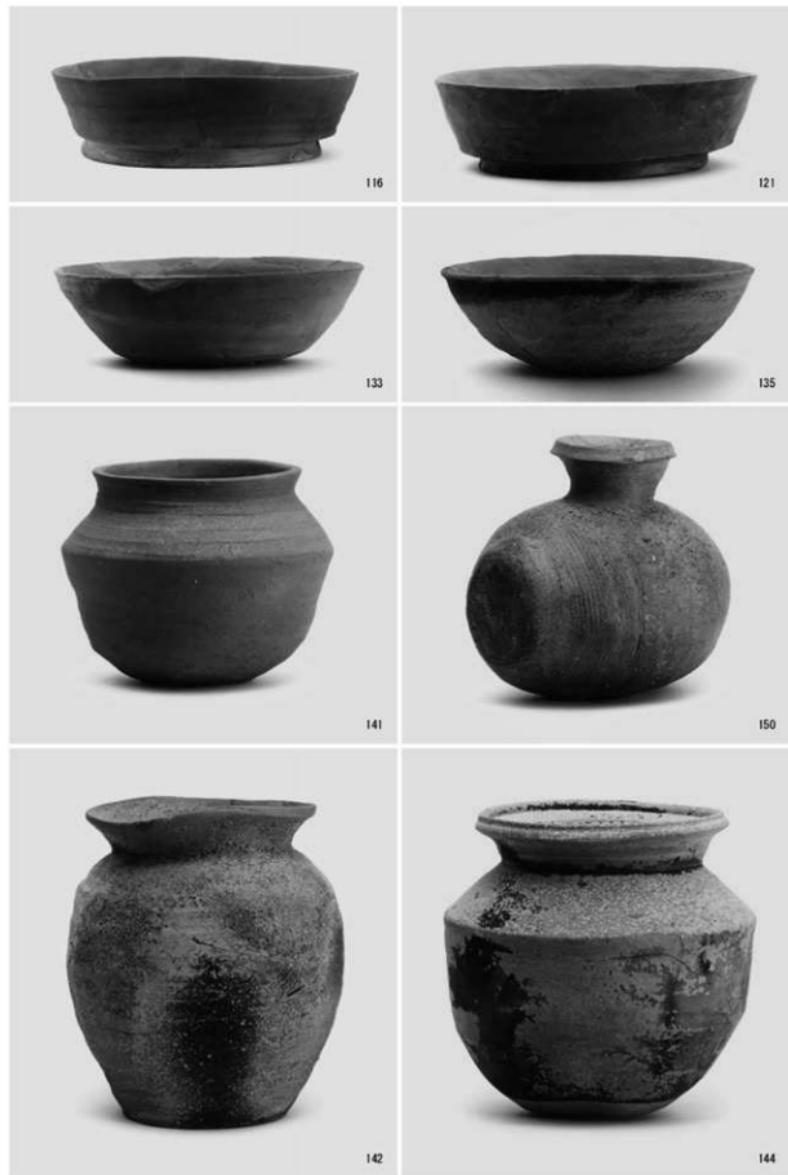
IVb 層 SX03 出土遺物



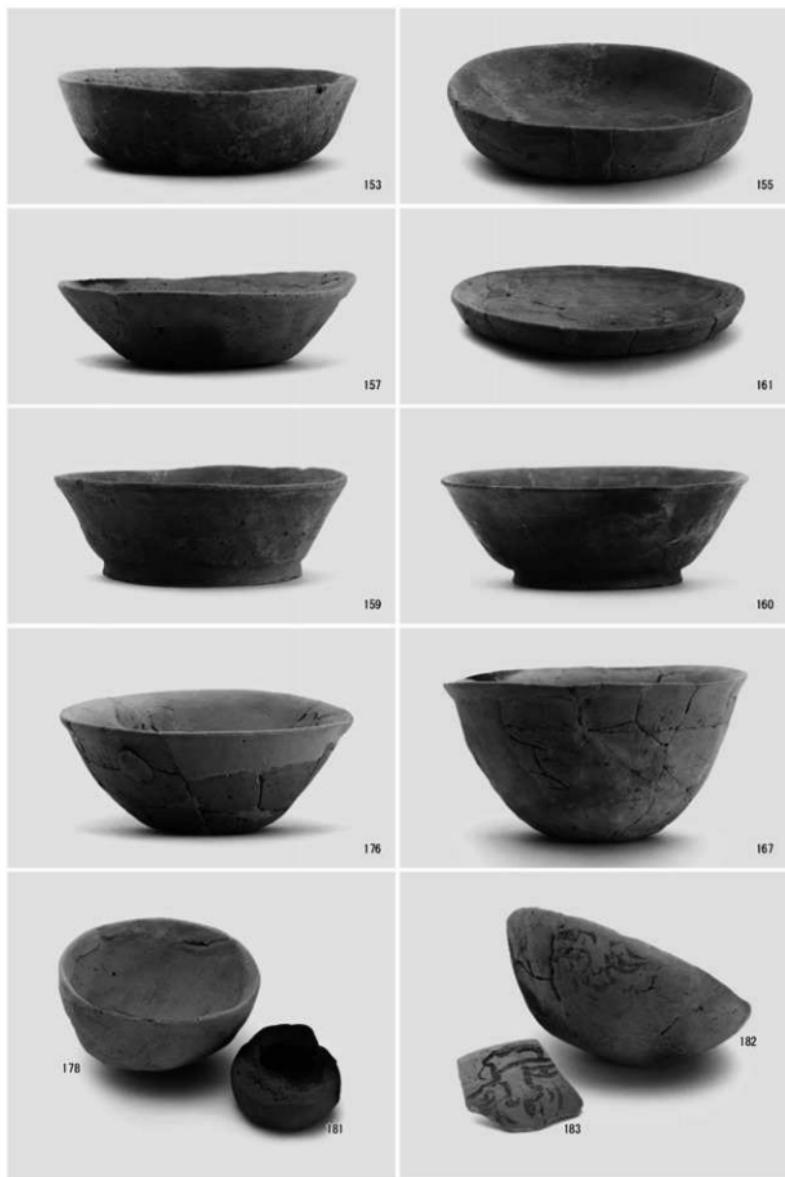
1 IVb 層 SX04 出土遺物



2 IVb 層 出土転用器



IVb 層 出土遺物 (1)



IVb 層 出土遺物 (2)



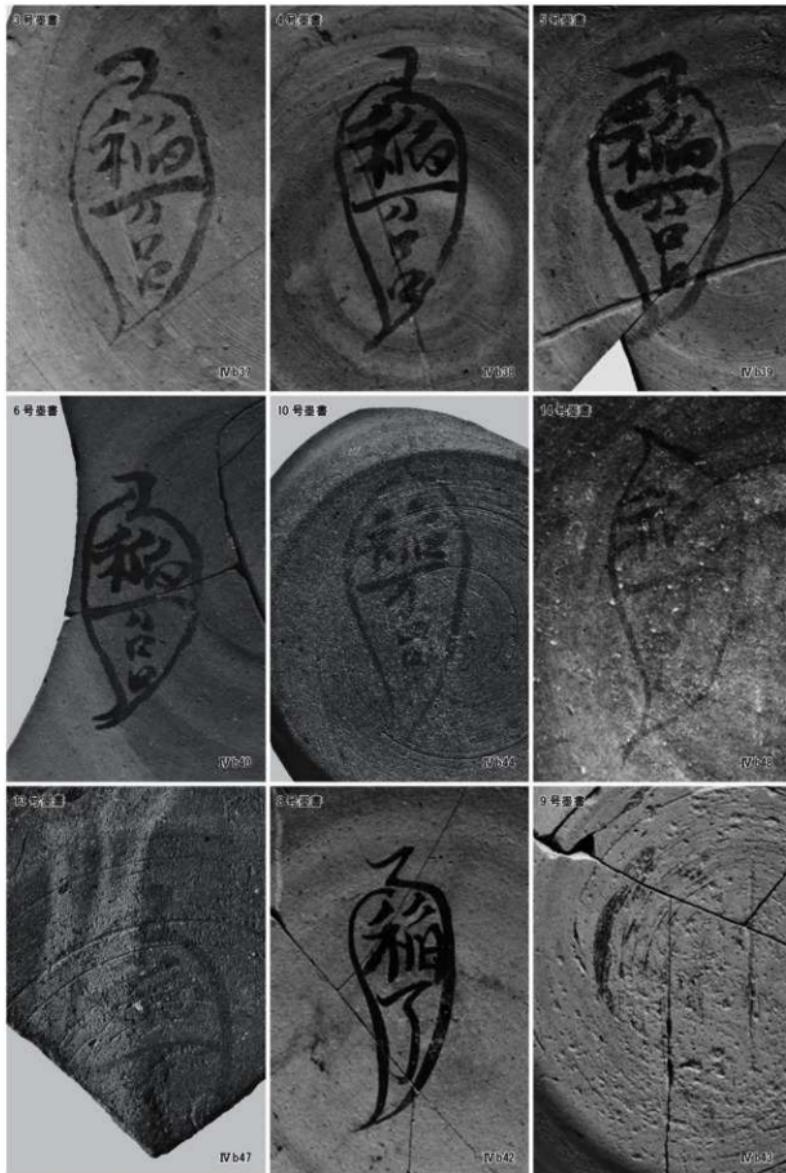
IVb 層 出土遺物 (3)



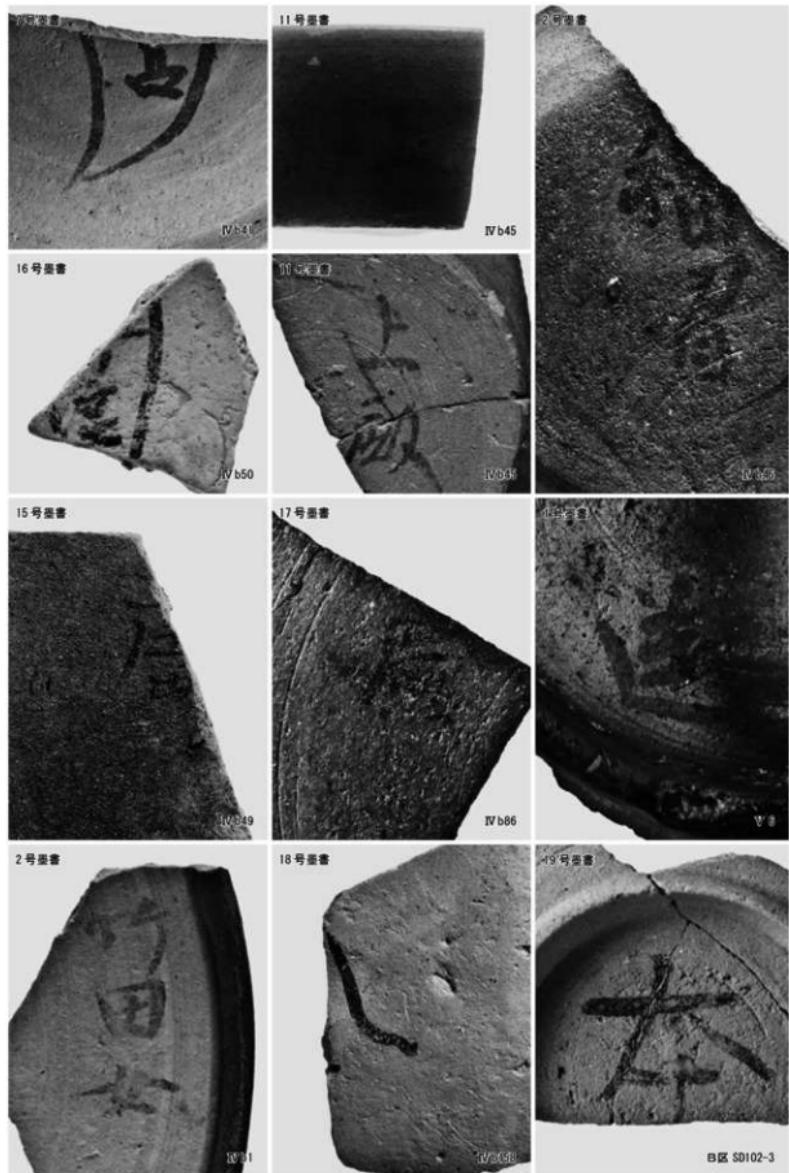
IVa 層・III層出土遺物



木 简 1~5号木简：赤外线照射写真 6号木简：斜光写真



墨书土器 (1) (赤外线照射写真)



墨书土器 (2) (赤外線照射写真)

報告書抄録

書名（ふりがな）	鳥居松遺跡 5 次 伊場大溝編（とりいまついせき 5じ いばおおみぞへん）
編著者名	鈴木一有（編）、金原正明、菊地大樹、古山真波、松原彰子、山本 崇、渡辺晃宏、パリノサーヴェイ株式会社、古環境研究所
編集機関	<p>浜松市教育委員会 ☎ 430-0929 浜松市中区中央 1-2-1 イーステージ浜松オフィス棟 浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当（浜松市教育委員会の補助執行機関） ☎ 430-0946 浜松市中区元城町 103-2 TEL (053) 457-2466 FAX (053) 457-2563</p>
発行機関	（財）浜松市文化振興財団
発行年月日	2009 年 12 月 25 日

遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鳥居松遺跡	静岡県 浜松市中区 森田町	22202	01 1 04 1 28	34 度 41 分 35 秒	137 度 43 分 11 秒	2008 年 ~ 2008 年 6 月 16 日	1200 m ²	宅地造成に先立つ事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
鳥居松遺跡	河川跡	古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代	自然河川 (伊場大溝) 土器・遺物集積 貝塚・祭祀遺構 井戸		土師器・須恵器 円頭大刀 木簡(6点) 墨書き器(19点) 木製祭祀具 製塙土器		幅 20m、深さ 2.5m 以上の自然河川(伊場大溝)を総延長 25m にわたって全面調査した。 豊富な文字資料の出土から、古代敷智郡家の一部とみられる。	

北緯、東経は世界測地系の数値である

鳥居松遺跡 5 次

伊場大溝編

2009 年 12 月 25 日

編集機関 浜松市教育委員会

浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当

(教育委員会の補助執行機関)

〒 430-0946 浜松市中区元城町 103-2

発行機関 財團法人 浜松市文化振興財團

印 刷 松本印刷株式会社
